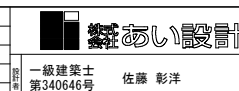


備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
000	表紙・図面目録	A-043	【庁舎棟】1階展開図(1)	A-101	【主訓練塔・副訓練塔・公用車庫】仕上表	S-001	特記仕様書(構造関係1)	S-126	【庁舎棟】スリーブ図(2)
A-001	特記仕様書(1)	A-044	【庁舎棟】1階展開図(2)	A-102	【主訓練塔】平面図	S-002	特記仕様書(構造関係2)	S-127	【庁舎棟】スリーブ図(3)
A-002	特記仕様書(2)	A-045	【庁舎棟】1階展開図(3)	A-103	【副訓練塔】平面図	S-003	構造関係共通事項(1)		
A-003	特記仕様書(3)	A-046	【庁舎棟】1階展開図(4)	A-104	【主訓練塔】立面図	S-004	構造関係共通事項(2)	S-201	【主訓練塔】伏図
A-004	特記仕様書(4)	A-047	【庁舎棟】1階展開図(5)	A-105	【副訓練塔】立面図	S-005	構造関係共通事項(3)	S-202	【主訓練塔】軸組図
A-005	特記仕様書(5)	A-048	【庁舎棟】1階展開図(6)	A-106	【主訓練塔・副訓練塔】断面図	S-006	構造関係共通事項(4)	S-203	【主訓練塔】基礎リスト、基礎梁リスト、基礎小梁リスト
A-006	特記仕様書(6)	A-049	【庁舎棟】2階展開図(1)	A-107	【主訓練塔】断面詳細図	S-007	構造関係共通事項(5)	S-204	【主訓練塔】柱リスト、大梁リスト
A-007	特記仕様書(7)	A-050	【庁舎棟】2階展開図(2)	A-108	【副訓練塔】断面詳細図	S-008	構造関係共通事項(6)	S-205	【主訓練塔】小梁リスト、壁リスト、スラブリスト
A-008	特記仕様書(8)	A-051	【庁舎棟】2階展開図(3)	A-109	【主訓練塔・副訓練塔】階段詳細図	S-009	【庁舎棟】深層混合処理工法特記仕様書	S-206	【主訓練塔】架構詳細図
A-009	特記仕様書(9)	A-052	【庁舎棟】便所展開図	A-110	【主訓練塔】平面詳細図(1)	S-010	【副訓練塔】深層混合処理工法特記仕様書	S-207	【主訓練塔】雑詳細図
A-010	特記仕様書(10)	A-053	【庁舎棟】天井伏図	A-111	【主訓練塔】平面詳細図(2)	S-011	ハイベースNE0工法設計施工標準(1)		
A-011	工事区分表	A-054	【庁舎棟】1階 建具・家具・サイン配置図	A-112	【副訓練塔】平面詳細図(1)	S-012	ハイベースNE0工法設計施工標準(2)	S-301	【副訓練塔】伏図
A-012	配置図	A-055	【庁舎棟】2階 建具・家具・サイン配置図	A-113	【副訓練塔】平面詳細図(2)	S-013	JF75・JF75W 設計・施工標準	S-302	【副訓練塔】軸組図
A-013	敷地求積図	A-056	【庁舎棟】建具表(1)(共通事項)	A-114	【主訓練塔】展開図(1)	S-014	ボーリング柱状図(1)	S-303	【副訓練塔】基礎リスト、基礎梁リスト
A-014	【庁舎棟】建物求積図・面積算定表	A-057	【庁舎棟】建具表(2)	A-115	【主訓練塔】展開図(2)	S-015	ボーリング柱状図(2)	S-304	【副訓練塔】柱リスト、大梁リスト
A-015	【庁舎棟】室面積求積図・面積算定表	A-058	【庁舎棟】建具表(3)	A-116	【副訓練塔】展開図	S-016	ボーリング柱状図(3)	S-305	【副訓練塔】小梁リスト、壁リスト、スラブリスト
A-016	【主訓練塔・副訓練塔・公用車庫】面積表	A-059	【庁舎棟】建具表(4)	A-117	【主訓練塔・副訓練塔】建具表	S-017	地層断面図	S-306	【副訓練塔】鉄骨部材リスト
A-017	【庁舎棟】凡例・外部仕上表	A-060	【庁舎棟】部分詳細図(1)	A-118	【主訓練塔】部分詳細図(1)			S-307	【副訓練塔】架構詳細図
A-018	【庁舎棟】内部仕上表(1)	A-061	【庁舎棟】部分詳細図(2)	A-119	【主訓練塔】部分詳細図(2)	S-101	【庁舎棟】地盤改良伏図	S-308	【副訓練塔】雑詳細図
A-019	【庁舎棟】内部仕上表(2)	A-062	【庁舎棟】部分詳細図(3)	A-120	【主訓練塔】部分詳細図(3)	S-102	【庁舎棟】基礎・ピット伏図		
A-020	【庁舎棟】ピット平面図	A-063	【庁舎棟】部分詳細図(4)	A-121	【副訓練塔】部分詳細図	S-103	【庁舎棟】基礎リスト	S-401	【公用車庫】伏図、軸組図
A-021	【庁舎棟】1階平面図	A-064	【庁舎棟】部分詳細図(5)	A-122	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(1)	S-104	【庁舎棟】1階床梁伏図	S-402	【公用車庫】RC部材リスト
A-022	【庁舎棟】2階平面図	A-065	【庁舎棟】部分詳細図(6)	A-123	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(2)	S-105	【庁舎棟】基礎梁リスト	S-403	【公用車庫】鉄骨部材リスト、鉄骨詳細図
A-023	【庁舎棟】R階平面図	A-066	【庁舎棟】部分詳細図(7)	A-124	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(3)	S-106	【庁舎棟】2階床梁伏図		
A-024	【庁舎棟】立面図	A-067	【庁舎棟】部分詳細図(8)	A-125	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(4)	S-107	【庁舎棟】屋根伏図(1)		
A-025	【庁舎棟】断面図(1)	A-068	【庁舎棟】部分詳細図(9)	A-126	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(5)	S-108	【庁舎棟】屋根伏図(2)		
A-026	【庁舎棟】断面図(2)	A-069	【庁舎棟】部分詳細図(10)	A-127	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(6)	S-109	【庁舎棟】軸組図(1)		
A-027	【庁舎棟】断面詳細図(1)	A-070	【庁舎棟】サッシ詳細図(1)	A-128	【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(7)	S-110	【庁舎棟】軸組図(2)		
A-028	【庁舎棟】断面詳細図(2)	A-071	【庁舎棟】サッシ詳細図(2)	A-129	【公用車庫】平面図・立面図・断面図・詳細図	S-111	【庁舎棟】軸組図(3)		
A-029	【庁舎棟】断面詳細図(3)	A-072	【庁舎棟】サッシ詳細図(3)	A-130	【ポンペ庫】平面図・立面図・断面図	S-112	【庁舎棟】軸組図(4)		
A-030	【庁舎棟】断面詳細図(4)	A-073	【庁舎棟】家具詳細図(1)			S-113	【庁舎棟】軸組図(5)		
A-031	【庁舎棟】屋内階段詳細図(1)	A-074	【庁舎棟】家具詳細図(2)	A-151	敷地造成工平面図	S-114	【庁舎棟】柱リスト		
A-032	【庁舎棟】屋内階段詳細図(2)	A-075	【庁舎棟】家具詳細図(3)	A-152	敷地横断面(1)	S-115	【庁舎棟】大梁リスト(1)		
A-033	【庁舎棟】屋外階段詳細図(1)	A-076	【庁舎棟】サイン詳細図	A-153	敷地横断面(2)	S-116	【庁舎棟】大梁リスト(2)		
A-034	【庁舎棟】屋外階段詳細図(2)	A-077	【庁舎棟】昇降機設備図(1)	A-154	敷地横断面(3)	S-117	【庁舎棟】小梁リスト、壁リスト		
A-035	【庁舎棟】1階平面詳細図(1)	A-078	【庁舎棟】昇降機設備図(2)	A-155	擁壁工平面図	S-118	【庁舎棟】スラブリスト		
A-036	【庁舎棟】1階平面詳細図(2)	A-079	【庁舎棟】昇降機設備図(3)	A-156	擁壁工詳細図(1)	S-119	【庁舎棟】鉄骨部材リスト		
A-037	【庁舎棟】1階平面詳細図(3)			A-157	擁壁工詳細図(2)	S-120	【庁舎棟】架構詳細図		
A-038	【庁舎棟】1階平面詳細図(4)			A-158	擁壁工詳細図(3)	S-121	【庁舎棟】雑詳細図(1)		
A-039	【庁舎棟】2階平面詳細図(1)					S-122	【庁舎棟】雑詳細図(2)		
A-040	【庁舎棟】2階平面詳細図(2)					S-123	【庁舎棟】階段詳細図(1)		
A-041	【庁舎棟】2階平面詳細図(3)					S-124	【庁舎棟】階段詳細図(2)		
A-042	【庁舎棟】2階平面詳細図(4)					S-125	【庁舎棟】スリーブ図(1)		

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

DWG No.

表紙・図面目録

SCALE A1:-
A3:-

A
000

3 土工 ① 埋戻し及び盛土 ② 建設発生土の処理 4 地盤工事 5 鉄筋工事 6 コンクリート工事 7 鉄骨工事 8 コンクリートブロック・ALCパネル 9 防水工事 ① アスファルト防水

屋根保護防水 防水層の種類 断熱材 絶縁用シート 立上り部の保護方法

屋根露出防水 防水層の種類 断熱材 仕上塗料 高日射反射率防水

③ 合成高分子系ルーフィングシート防水 ④ 塗膜防水 ⑤ ケイ酸質系塗布防水 ⑥ シーリング

10 土工	① 施工	石材の割付け ※ 図示 (10.1.3)
	② 石材等	天然石 (10.2.1.3) (表10.2.1.2) 施工箇所 岩石の種類 等級 形状及び寸法 (mm) 厚さ (mm) 表面仕上げの種類 備考 ※ 床 割肌仕上げ ※ 2等品 ※ 正方形に近い矩形 (1枚の面積0.8m2以下) 11 割肌仕上げ エントランス ○ 300×300 ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無 ・ あり ・ なし テラゾブロック 施工箇所 種石の種類 種石の大きさ (mm) 形状による区分 仕上げ面による区分 寸法 (mm) 表面仕上げの種類 備考 ※ 大理石 ※ 1.5~12 ※ 平もの ※ 片面 ・ 花こう岩 ・ ・ ・ ・ ・ 両面 テラゾタイル 施工箇所 種石の種類 種石の大きさ (mm) 寸法による区分 表面仕上げの種類 備考 ※ 大理石 ※ 1.5~12 ・ 300型 ・ 花こう岩 ・ ・ 400型 取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・ アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質及び寸法等 () ドレンパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ 洗し筋工法 ・ あと施工アンカー工法 ・ あと施工アンカー・横筋洗し工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 標準仕様書表11.1.11による ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
3	外壁湿式工法	受金物 材質 ※ SUS304 (10.2.2.3) (10.3.2.3) 形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質、寸法等 () 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ あと施工アンカー・横筋洗し工法 ・ あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 6mm程度ごと ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
4	内壁空積工法	受金物 材質 ※ SUS304 (10.2.2) (10.4.2.3) 形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質、寸法等 () 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ あと施工アンカー・横筋洗し工法 ・ あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 6mm程度ごと ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
5	外壁乾式工法	(10.2.2) (10.5.2.3) (表10.2.4) 金物の種類、形状、寸法等 ※ 標準仕様書表10.2.4による (方式： ・ スライド方式 ・ ロッキング方式) アンカーの材質及び寸法 ※ ステンレス (SUS304) M10 あと施工アンカーの材質、寸法等 () だぼ用の穴の位置 ※ 標準仕様書10.5.2(2)(7)による ・ 図示 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 工法 1章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 目地 目地幅 ※ 8mm以上 シーリング材 ※ 標準仕様書9.7.11による ・ 図示
6	床及び階段の石張り	床石張りの透水性吸水防水剤 ※ 適用する ・ 適用しない (10.6.2.3) 床石張りの石裏面処理 ※ 適用する ・ 適用しない 床石張りの裏打ち処理 ※ 適用する ・ 適用しない 階段張りの石裏面処理 ※ 適用する ・ 適用しない シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 床面積30m2程度ごと、総長い通路の場合6m程度ごと及び他の部材と取り合う箇所 ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
7	笠木、甲板等の石張り	(10.2.2) (10.7.1.3) 取付け工法 ・ 湿式工法 ・ 乾式工法 特殊部位用金物 材質 ※ SUS304 寸法等 引金物、だぼ及びかすがい ※ 標準仕様書10.2.3による 受金物 ※ 標準仕様書10.2.2(1)(4)による ファスナー ※ 標準仕様書表10.2.4のスライド方式に準ずる ・ ロッキング方式 あと施工アンカーの材質、寸法 ・ 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 乾式工法の場合の取付け代 ※ 標準仕様書10.5.3(2)による 石材の裏面の補強用モルタル ・ 適用する ・ 適用しない 目地 外壁湿式工法の場合 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 標準仕様書表11.1.11による ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示 乾式工法の場合 目地幅 ※ 8mm以上 シーリング材 ※ 標準仕様書9.7.11による ・ 図示

11 タイル 工事	① 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	位置 ※ 標準仕様書表11.1.11による ・ 図示 (11.1.3) (表11.1.1)
	② 見本抜き試験施工	見本抜き ・ 行う ※ 行わない 試験張り ・ 行う ※ 行わない ③ セメントモルタルによるタイル張り タイルの形状、寸法等 (11.2.2.7) 施工 種類 形状/寸法 再生材料 吸水率による区分 うわぐすり 役物 色 耐凍害性 耐滑性 備考 箇所 (mm) の適用 1類 2類 3類 4類 5類 6類 7類 8類 9類 10類 11類 12類 13類 14類 15類 16類 17類 18類 19類 20類 耐滑り性：JISA1509-12 (セラミックタイル試験方法-第12部：耐滑り性試験方法) で規定する C.S.R値は0.4~1.0とする。 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 下地モルタル塗りを行うコンクリート表地面の下地処理の方法 ※ 目荒し工法 (高圧水洗処理) ・ MCR工法 壁タイル張りの工法 内外装タイル ・ 密着張り ・ 改良接着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り 既調合モルタル 既調合モルタルの製造所の仕様による (品質・性能) 項目 品質・性能 項目 品質・性能 保水率 70.0%以上 長さ変化率 0.20%以下 単位容積質量 1.80k/L以上 曲げ強さ 4.0N/mm2以上 接着強さ 標準時 0.60N/mm2以上 温冷繰返し後 0.40N/mm2以上 (試験方法) (1) 試料の調整 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 (2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径11cm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調整した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率 = 50 / 平均値 × 100 (注) 50：リング型わくの径 mm (3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 (4) 接着強さ (標準時) の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研削した後、水湿しを行い直ちに(1) で調整した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「50角ユニットタイル (外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、歯歯側接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエボキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm2以上を確保していること) また、試験後の部材破断面位置の表示を下記の中から選び明記する。 T : タイルの母材破断 TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断 M : 既調合モルタルの母材破断 MG : 既調合モルタルと下地板に界面破断 G : 下地板の母材破断 ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研削した後、水湿しを行い直ちに(1) で調整した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「小口タイル 105mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 (5) 接着強さ (温冷繰返し後) の試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。 (温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること) (6) 長さ変化率の試験方法 JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化成形剤」9.9 長さ変化率に準ずる。 (7) 曲げ強さの試験方法 JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

12 木工 工事	① 製材	(12.1.4) (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) ホルムアルデヒド放射量 ※ F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(9)(b)による ・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 等級 形状 含水率 保存処理 間伐材等の適用 ※ 2級 ※ A種・B種 ※ 2級 ※ A種・B種 ・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 等級 形状 含水率 保存処理 間伐材等の適用 見え掛り面 ※ 上小節 ※ A種・B種 見え掛り面以外 ※ 小節以上 ※ A種・B種 ・ JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 等級 形状 含水率 保存処理 間伐材等の適用 ※ 1等 ※ 10%以下・A種・B種 ※ 1等 ※ 10%以下・A種・B種 ・ JAS 1083 (製材) 以外の製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 材面の品質 防虫処理 含水率 間伐材等の適用 壁 杉 12 (上小節) 適用する ※ A種・B種 造作材の場合 ・ 適用しない (※ A種・B種) ※使用する木材は可能な限り広葉樹産材 (可能な部分は三次産材) を使用すること
----------------	------	--

20 土工	① 施工	石材の割付け ※ 図示 (10.1.3)
	② 石材等	天然石 (10.2.1.3) (表10.2.1.2) 施工箇所 岩石の種類 等級 形状及び寸法 (mm) 厚さ (mm) 表面仕上げの種類 備考 ※ 床 割肌仕上げ ※ 2等品 ※ 正方形に近い矩形 (1枚の面積0.8m2以下) 11 割肌仕上げ エントランス ○ 300×300 ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無 ・ あり ・ なし テラゾブロック 施工箇所 種石の種類 種石の大きさ (mm) 形状による区分 仕上げ面による区分 寸法 (mm) 表面仕上げの種類 備考 ※ 大理石 ※ 1.5~12 ※ 平もの ※ 片面 ・ 花こう岩 ・ ・ ・ ・ ・ 両面 テラゾタイル 施工箇所 種石の種類 種石の大きさ (mm) 寸法による区分 表面仕上げの種類 備考 ※ 大理石 ※ 1.5~12 ・ 300型 ・ 花こう岩 ・ ・ 400型 取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・ アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質及び寸法等 () ドレンパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ 洗し筋工法 ・ あと施工アンカー工法 ・ あと施工アンカー・横筋洗し工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 標準仕様書表11.1.11による ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
3	外壁湿式工法	受金物 材質 ※ SUS304 (10.2.2.3) (10.3.2.3) 形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質、寸法等 () 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ 洗し筋工法 ・ あと施工アンカー工法 ・ あと施工アンカー・横筋洗し工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 6mm程度ごと ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
4	内壁空積工法	受金物 材質 ※ SUS304 (10.2.2) (10.4.2.3) 形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm ・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm アンカーの材質及び寸法 ※ S5400 M12 ・ あと施工アンカーの材質、寸法等 () 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 下地ごしらえ ※ あと施工アンカー・横筋洗し工法 ・ あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 6mm程度ごと ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
5	外壁乾式工法	(10.2.2) (10.5.2.3) (表10.2.4) 金物の種類、形状、寸法等 ※ 標準仕様書表10.2.4による (方式： ・ スライド方式 ・ ロッキング方式) アンカーの材質及び寸法 ※ ステンレス (SUS304) M10 あと施工アンカーの材質、寸法等 () だぼ用の穴の位置 ※ 標準仕様書10.5.2(2)(7)による ・ 図示 裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない 工法 1章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 目地 目地幅 ※ 8mm以上 シーリング材 ※ 標準仕様書9.7.11による ・ 図示
6	床及び階段の石張り	床石張りの透水性吸水防水剤 ※ 適用する ・ 適用しない (10.6.2.3) 床石張りの石裏面処理 ※ 適用する ・ 適用しない 床石張りの裏打ち処理 ※ 適用する ・ 適用しない 階段張りの石裏面処理 ※ 適用する ・ 適用しない シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 床面積30m2程度ごと、総長い通路の場合6m程度ごと及び他の部材と取り合う箇所 ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示
7	笠木、甲板等の石張り	(10.2.2) (10.7.1.3) 取付け工法 ・ 湿式工法 ・ 乾式工法 特殊部位用金物 材質 ※ SUS304 寸法等 引金物、だぼ及びかすがい ※ 標準仕様書10.2.3による 受金物 ※ 標準仕様書10.2.2(1)(4)による ファスナー ※ 標準仕様書表10.2.4のスライド方式に準ずる ・ ロッキング方式 あと施工アンカーの材質、寸法 ・ 石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない 乾式工法の場合の取付け代 ※ 標準仕様書10.5.3(2)による 石材の裏面の補強用モルタル ・ 適用する ・ 適用しない 目地 外壁湿式工法の場合 一般目地 目地幅 ※ 6mm以上 シーリング材 ・ 適用する ・ 適用しない 伸縮調整目地 位置 ※ 標準仕様書表11.1.11による ・ 図示 シーリング材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(9)による ・ 図示 乾式工法の場合 目地幅 ※ 8mm以上 シーリング材 ※ 標準仕様書9.7.11による ・ 図示

Table with 3 columns: Item No., Item Name, and Specification. Includes sections for 3 造作用車板積層材, 4 合板等, 5 接合具等, 6 接着剤, 7 防蟻・防蟻処理, 8 内部間仕切軸及び床組み, 9 窓、出入口その他, 10 床板張り, 11 壁及び天井下地.

Table with 3 columns: Item No., Item Name, and Specification. Includes sections for 1.3 屋根及び土間工事, 1.4 金属工, 1.5 左官工事.

Table with 3 columns: Item No., Item Name, and Specification. Includes sections for 1.3.2.2.3 長尺金属瓦葺, 1.3.2.2.3 折板葺, 1.3.4.2.3 粘土瓦葺, 1.3.5.2.3 とい, 1.4.2.1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理, 1.4.2.2 鉄鋼の亜鉛めっき, 1.4.4.2~4 軽量鉄骨天井下地.

Table with 3 columns: Item No., Item Name, and Specification. Includes sections for 4 軽量鉄骨天井下地, 5 金属成形板張り, 6 アルミニウム製笠木, 1.5.3.2.5 モルタル塗り, 2 ラス系下地, 3 床コンクリート直均し仕上げ, 4 セルフレベリング材塗り, 5 仕上塗材仕上げ, 6 マスチック塗材塗り, 7 ロックウール吹付け.

Table with 3 columns: Item No., Item Name, and Specification. Includes sections for 8 しっくい塗り, 9 こまい壁塗り, 1.6 建築工事, 5 網戸等, 6 樹脂製建具.

7	鋼製建具	(16.2.2)(16.4.2~4.6)(表16.4.2) 性能値等(建具符号:○) 建具表による 簡易気密型ドアセット 気密性の等級 () A-3 水密性の等級 () W-1 外部に面する建具の耐風圧性 () S-4・S-5・S-6 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 () 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 () 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1又はSUS443J1 くつずりの仕上げ ステンレス鋼板を用いる場合 ※ HL以上 形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※ 標準仕様書表16.4.2による 標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による
8	鋼製軽量建具	(16.2.2)(16.5.2~4.6)(表16.5.1) 性能値等(建具符号:○) 建具表による 簡易気密型ドアセット ・ 適用する 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 () 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 () 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による 鋼板の材料 ※ 垂れめつき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1又はSUS443J1 くつずりの仕上げ ステンレス鋼板を用いる場合 ※ HL以上 形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※ 標準仕様書表16.5.1による 吻合せ、縦小包包み材の材質 ※ 鋼板 標準型鋼製軽量建具の形状及び寸法 ※ 建具表による
9	ステンレス製建具	(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2~5) 性能値等(建具符号:○) 建具表による 簡易気密型ドアセット ・ 適用する 外部に面する建具の耐風圧性 () S-4・S-5・S-6 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 () 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 () 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1又はSUS443J1 くつずりの仕上げ ステンレス製鋼板を用いる場合 ※ HL以上 形状及び仕上げ 表面仕上げ ※ HL ・ 鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ(・a角 ・ b角 ・ c角) (16.7.2~4)
10	木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※ A種 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ・ フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※ 標準仕様書16.7.2(2)(4)(a)による 表面材の品質等
11	建具用金物	(16.8.2、3)(表16.8.1~5) 金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※ 標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.2による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.3による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.4による 木製建具に使用する戸車及びレール ※ 標準仕様書表16.8.5による 握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ※ 建具表による 錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】 (品質) デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。 (性能) <使用頻度による性能> 1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。 2) キーによるデッドボルトの施錠解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠解錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施錠解錠繰り返し試験は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。 3) キーによる施錠機構の施錠解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠解錠操作に支障がない。 4) キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする)

<外力に対する性能>
1) デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
2) デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行なった後、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3) デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8mm未満)にならないこと。
4) デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.5J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。
5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の形錠錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロコケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。

<使用頻度による性能(シリンダ箱錠のみ)>
1) ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2) レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
3) 握り玉のねじり強度試験(3KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
4) ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
5) ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。

<鍵>
1) かぎ(鍵)数は、1.5以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ(鍵)違い数とみなさないものとする。
2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1(建築物一般-第1部:試験方法)による。

【レバーハンドル】
(性能)
<ねじり強度>
レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。
<引張り強度>
ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。
<垂直荷重強度>
ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1(建築物一般-第1部:試験方法)による。

区分		① ドアクローザー	② ヒンジクローザー	③ フロアヒンジ
性能試験項目	閉じモーメント(N・m)	30以上	30以上	30以上
	閉じモーメント効率(%)	50以上	50以上	50以上
	閉じモーメント(N・m)	10以上	10以上	10以上
	閉じモーメント効率(%)	50以上	50以上	50以上
	閉じモーメント(N・m)	30以上	30以上	30以上
	閉じモーメント効率(%)	50以上	50以上	50以上
	閉じモーメント(N・m)	40以上	40以上	40以上
閉じモーメント効率(%)	50以上	50以上	50以上	
閉じモーメント(N・m)	45以上	45以上	45以上	
閉じモーメント効率(%)	50以上	50以上	50以上	
閉じ速度(秒)	常温(5~35℃)無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5~8秒に調整できること。			
温度依存性(℃)	揮発油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品雲り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。			
ストロップ入力トルク	60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下	100N・m以下	100N・m以下	
ストロップ解錠力	8N・m以上	3N・m以上	10N・m以上	
バックチェック性能(秒)	ドア開扉方向に荷重60N/m ² を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度(70~85°)から更に20°まで開閉の時間は0.8秒以上としていること。			
ディレードアクション性能(秒)	開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。			
ディレードアクション解除角度(60~75°)(ディレードアクション機能の有する機種のみ適用)				
戸の閉鎖位置(中心吊り込み間自由のみに適用)			±3mm以内	
繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
繰返し開閉後の効率(%)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
繰返し開閉後の閉じ速度(秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。			
繰返し開閉後のバックチェック性能(秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。			
繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。			
繰返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)			耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数(繰返し開閉回数)	Grade2 20万回	10万回	30万回	

注1. バラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注2. コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
(試験方法)
1) 性能試験は、JIS A 1510-3(建築物用ドア金物の試験方法-第3部:フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ)に規定する試験方法による。
2) 試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

12	鍵	(16.8.4) マスターキー ※ 製作する(組) ・ 製作しない ・ 既存に組込む 鍵の製作本数 ※ 各室3本1組(室名札付き) 鍵箱 ○ 設ける(100個用2組) ・ 設けない
13	自動ドア開閉装置	(表16.9.1)(表16.9.2)(16.9.2、3) 引き戸用駆動装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.1による 種類 ○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ 車椅子使用者用扉出入り口引き戸用駆動装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.2による 引き戸用検出装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.3による 種類 ○ 光線(反射)センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ ○ フットスイッチ ・ 車椅子使用者用扉スイッチの種類 ・ 大型(開・閉)押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ
14	自閉式上吊り引戸装置	(16.10.3) 性能等 ※ 標準仕様書表16.10.1による (試験方法) (1) 耐久性(開閉繰り返し)試験 閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開閉位置から閉鎖位置までの動作を確認できる試験を行う。同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性試験成績書において2万回以上の耐久性を確認すること、試験に代えることができるものとする。 (2) 耐衝撃性試験 落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。 耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅300mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 (3) 気密性能試験 JIS A 1516「建具の気密性能試験方法」による。
15	重量シャッター	(16.11.2、3) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター ○ 屋内用防火シャッター ・ 防護シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度(2,000)Pa 開閉方式の種類 ※ 電動式(手動併用) ・ 手動式 安全装置 急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 ○ 全て 障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 ○ 全て 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所 ※ 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの ・ 管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ※ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ○ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯) めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチ ボックス類の材質 ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1又はSUS443J1
16	軽量シャッター	(16.12.2~4) 開閉方式の種類 ※ 手動式 ・ 電動式(手動併用) 耐風圧強度(2,000)N/m ² 安全装置 障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 ○ 全て スラットの材質の種類 ※ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※ Z06又はF06を満足するもの ○ JIS G 3312(塗装溶融5%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※ A290を満足するもの スラットの種類 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 シャッターケース ・ 設けない ガイドレール(中柱共)の材質 ※ ステンレス鋼板(SUS304) 厚さ1.0mm 座板の材質(屋外の場合) ※ ステンレス製既製品
17	オーバーヘッドドア	(16.13.2、3) セクション材料による区分 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ・ ファイバーガラスタイプ 風圧力による強さの区分 ・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50 開閉方式による区分 ※ バランス式 ○ チェーン式 ・ 電動式 収納方式による区分 ○ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイルフト形 ・ パーチカル形 ガイドレールの材料 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所 ※ 図示

18	ガラス	(9.7)(16.14.2~4)(図16.14.1) 下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等 ※ 建具表による 合わせガラスの材料ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスの種類、組合せ ・ フロート板、フロート板合わせガラス ・ 浮きガラス、浮き合わせガラス ・ 浮き合わせガラス ・ 浮き合わせガラス ・ 浮き合わせガラス ・ 浮き合わせガラス 強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる名称 ・ フロート強化ガラス ・ フロート板ガラス ・ 1類 ・ 2類 ・ 1類 ・ 2類 ・ 1類 ・ 2類 熱線吸収ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 熱線吸収入り磨きガラス ・ グリーン 複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※ 下記以外は建具表による 断熱性による区分 ○ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6 乾燥気体の種類 ○ 空気 ・ アルゴン 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・ G ○ S 熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類 ・ 熱線反射ガラス ・ 熱線反射ガラス ・ 熱線反射ガラス 色調(・ブルー ・ グレー ・) ・ 1類 ・ 2類 ・ 3類 ・ A類 ・ B類 ・ A類 ・ B類 ・ B類 反射膜面 ・ 内面 ・ 外面 ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7) 建具の種類 アルミニウム製 ※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレージングチャンネル形 ・ グレージングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ※ シーリング材 ・ ガスケット ステンレス製 ※ シーリング材 ・ ガスケット 樹脂製 ※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレージングチャンネル形 ※ 建具の製造所の仕様による ※ 建具の製造所の仕様による ※ 建具の製造所の仕様による ※ 建具の製造所の仕様による
19	ガラスブロック積み	(16.14.5) 表面形状 ・ 正方形 ・ 160×160 ・ 200×200 ・ 320×320 ・ 250×125 ・ 320×160 呼び寸法(mm) ・ 125×125 ・ 160×160 ・ 200×200 ・ 320×320 厚さ(mm) 80 95 95 95 80 95 色調 クリア 乳白 平積み ※ 8~15 ・ 15~25 ・ 25 目地幅(mm) ※ 8~15 ・ 15~25 ・ 25 伸縮調整目地位置(mm) ※ 6mm以下 ・ 10~25 防火性能 ※ 無し ・ 有り 壁用金属枠及び補強材の材質・形状 ※ 図示 力骨 材質 ※ ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※ 径5.5mm 形状 ※ はしこ形状橋筋及び単筋 化粧目地モルタルの色() シーリングの種類() 金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ※ 図示 形状 ※ 図示 木下地の場合のアンカー等の取付け間隔 ・ 図示による 工法 1章 適用区分による風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 目地部の横力骨の納まり ※ ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示
20	ガラス用フィルム	種類 ・ 日射調整フィルム ・ 低放射フィルム ・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム ・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム ・ ガラス貫通防止フィルム 内張り用 ・ SC-1 ・ LE ・ GI-1 ・ GD-1 ・ SF 外張り用 ・ SC-2 ・ GI-2 ・ GD-2 その他性能等 日射還元性能による区分 ・ A ・ B ・ C ・ D ・ E 熱伝流率による区分 ・ A ・ B ・ C ・ D ガラスの貫通防止性能による区分 ・ A ・ B 品質 JIS A 5759による

17 カテナウォール工事

1 取付方法、性能等 (17.1.3)

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
				・ 30分 ・ 1時間	・ 80 ・ 70 ・ 60

耐風圧性
1層 適用区分による風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)
支点間距離(h) 耐風圧性能
4m以下 ・ たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること
4mを超える ・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料により、監督職員の承諾を受ける

2 メタルカーテンウォール (17.2.2、3、5、6)

シーリング材
下表以外は標準仕様書表 9.7.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種類	
記号		記号	主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・適用する(施工箇所・図示)
材質 ・ クロロレン系 ・ EPDM系 ・ シリコン系
形状 ・ H型 ・ Y型 ・ O型
寸法(mm) ガラス板厚()、支持枠の厚さ()、ウェブの寸法()
・適用しない

断熱材
種類()
厚さ(mm)()
施工箇所・図示
製品の見え掛り部分の仕上げ
製品の見え掛り部分の仕上げ
・ JIS H 8601 (陽極酸化皮膜)
・ JIS H 8602 (陽極酸化皮膜被膜)
・ 塗装(・ アクリル系 ・ ウレタン系 ・ ふっ素系)

ガラス溝の寸法、形状等
※カーテンウォールの製造所の仕様

耐火材料

施工部位	種類	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

カーテンウォールの材料

金属系材料の種類	規格等	表面処理	映像調整
※アルミニウム材	※標準仕様書 16.2.3による	種類()種 色合等 ・ 標準色() ・ 特注色()	・行わない ・行う

製品及び取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.1~3による
ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様による

3 PCカーテンウォール (17.3.2~6) (表17.3.1、2)

カーテンウォールの材料
コンクリート ※標準仕様書17.3.2(1)~(9)による
鉄筋 ※SD295A(・D13・D10)
補強鉄線の径(mm) ※3.2・4.0・5.0・6.0
配筋 ※図示
先付けの材料 ・ 建具枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上材 ・ タイル
・ 石材(・ 花こう岩 ・ 大理石)

ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・深さ(h)=1~2、溝幅及び底幅(W1及びW2)=±1
製品及び取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.1~2による

19 内装工事

4 塗料 (18.4.1~18.12.2)

塗装	種別	塗料の種類	高日射反射率塗料
○合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外 ※A種・B種 木部屋内 ※B種・A種 鉄鋼面 ※B種・A種 亜鉛めっき鋼面 ※1種・2種・適用	※1種・2種 ※1種・2種 ※1種・2種 ※1種・2種・適用	
○アクリラッカー塗り(CL)	※B種・A種	○透明 ・ 不透明	
○耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面 コンクリート面及び 押出成形セメント板面	※B種・A種 上塗り等級(2)級・適用 上塗り等級(2)級 ・A種 上塗り等級1級 ・B種 上塗り等級2級 ・C種 上塗り等級3級	
○つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面その他 ボード面等	※B種・A種	
○合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	屋内の鉄鋼面	※B種・A種	
○合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り(EP-T)		※B種・A種	
○ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種・A種	・透明 ・ 不透明
・ステイン塗り		・ビグメント ・ステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	
○木材保護塗料塗り(WP)		※B種・A種	○透明 ・ 不透明

高日射反射率塗料を適用する場合は屋上、屋根面の金属面とする
クリアラー塗りA種の工程2の着色
・適用しない ・適用する(着色剤：・溶剤形着色剤 ・ 油性染色着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色
・適用しない ・適用する(着色剤：・油性顔料着色剤 ・ 溶剤形顔料着色剤)
オイルステイン塗りの工程等

1 接着剤 (19.2.2)

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
接着剤は可塑剤(難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていないものとする
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類
・図示

2 下地の工法 (19.2.3)

標準仕様書19.2.3(1)~(9)以外の下地の工法
・図示による

3 ビニル床シート (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
・FS	○無地 ○マーブル柄 ○柄物	※2.0	

※目地処理(工法 ※熱溶接工法) ・ 突付け(施工箇所)

4 ビニル床タイル (19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ(mm)	備考
※KT ・TT・FT ・FOA・FOB	・無地 ・柄物	※300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0	

5 特殊機能床材 (19.2.2)

シート種別	厚さ、形状、寸法	種類
・帯電防止床シート	(mm)	
・帯電防止床タイル	(mm)	
・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による
・耐動荷重性床シート	(mm)	
・防滑性床シート	(mm)	
・防滑性床タイル	(mm)	

6 ビニル幅木 (19.2.2)

材質の種類 ※軟質 ・ 硬質
高さ(mm) ※60・75・100
厚さ(mm) ※1.5以上

7 ゴム床タイル (19.2.2)

種類 ・ 単層品 ・ 複層品
色柄()
厚さ(mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0
寸法(mm)()

8 カーペット敷き (19.3.2、3) (表19.3.1)

・織じゅうたん

織り方	バイルの形状	帯電性	備考
・ウルトンカーペット	・カットバイル	・適用する	
・ダブルフェースカーペット	・ループバイル	・適用しない	
・アキスマンターカーペット	・カット、ループ併用		

色柄
※模様のない無地
バイル系の種類等
※標準仕様書表19.3.1による種別(・A種・B種・C種)
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法 ・ つづり縫い

・タフテッドカーペット

バイルの形状	バイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットバイル	・5~7	※全面接着工法	・適用する	
・ループバイル	・4~6	・グリッパー工法	・適用しない	
・カット、ループ併用				

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

9 合成樹脂塗料

○タイルカーペット (19.4.2、3) (表19.4.4、5)

バイルの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループバイル	※第一種 ・第二種	仕上表による	※500×500	※6.5	
・カットバイル	・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方 平 場 ※市松敷き ・ 模様流し ・ 階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き

下敷き材 ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm
見切り、押え金物の材質、種類及び形状 ※図示

(19.4.2、3) (表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗料材			※平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・弾性ウレタン樹脂系塗料材			
・厚膜型塗料材			・薄膜流しのべ工法 ・ 平滑仕上げ ・厚膜流しのべ工法 ・ 防滑仕上げ
・薄膜型塗料材			※平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

10 フローリング張り (19.5.2~5) (表19.5.1~6)

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	間伐材等の適用
・フローリング	・釘留め工法(根太張り)	・なら	15	
・ボード1等	・釘留め工法(直張り)	・なら	・12	
	・接着工法	・なら	・8	
・フローリング	・接着工法	・なら	15	
・ブロック1等				

フローリングボードの大きさ ※標準仕様書表19.5.1、3、5による

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ(mm)	間伐材等の適用
○天然木化粧複合フローリング	・釘留め工法(根太張り)	・なら	・A種	15	
	・釘留め工法(直張り)		・B種	12	
			・C種	12	
	○接着工法	○アフリカ	・A種	12	
			・B種	12	
			・C種	12・15	

フローリングの大きさ ※標準仕様書表19.5.2、4、6による
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※標準仕様書19.5.2(2)による
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート

11 畳敷き (19.6.2) (表19.6.1)

種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※D種(畳床：・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N)
下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロロ)
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
・衝撃緩和型畳 畳表 ・ C1 ・ C2

12 せっこうボードその他のボード及び合板張り (19.7.2、3) (表19.7.1)

MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(2)~(4)の(a)~(d)のいずれか

種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15・20・25
・中質木毛セメント板	MW	・15・20・25
・普通木毛セメント板	NW	・15・20・25
・硬質木片セメント板	HF	・12・15・18・21
・普通木片セメント板	NF	・30
○けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2(無石棉) 6・8・12
○化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2(無石棉) 6・8 表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付
○ロックウール化粧吸音板	DR	○フラットタイプ(9(不燃)・12(不燃)・凹凸タイプ(12(不燃)・15(不燃))
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・25(ガラスクロス包)
○せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃) ・ 15(不燃)
○不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) 化粧無(下地張り用) 化粧有(トラバーチン模様)
○シーリングせっこうボード	GB-S	12.5(※不燃) ・ 準不燃
○強化せっこうボード	GB-F	12.5(不燃) ・ 15(不燃)
○せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード(トラバーチン模様)	GB-D	9.5(準不燃)

普通合板

表板の種類名
生地、透明塗料塗り(※ラワン程度)
不透明塗料塗り(※シナ程度)
板面の品質()
厚さ(mm)()
接着の程度(・1種・2種)
防虫処理(・行う ・ 行わない)

・天然木化粧合板

樹種名()
接着の程度(・1種・2種)
厚さ(mm)()
化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装)
防虫処理(・行う ・ 行わない)

・特殊加工化粧合板

表面性能()タイプ
接着の程度(・1種・2種)
厚さ(mm)()
防虫処理(・行う ・ 行わない)

○メラミン樹脂化粧板
・ポリエステル樹脂化粧板
・メディアムデンシティファイバーボード

・単板張り
・パーティクルボード
・化粧パーティクルボード

・無研磨板 VN ・ 研磨板 VS
・10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・単板オーバーレイ DV
・プラスチックオーバーレイ DO
・塗装 DC
・10(難燃) ・ 12(難燃)

・ハードボード(表地) HB
・無研磨板(・スタンダード・テンパード RN)
・研磨板(・スタンダード・テンパード RS)

・ハードボード(化粧)
・内装用DI ・ 外装用DE
・2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7

・インシュレーションボード IB
A級(・天井仕上げ ・ 内装仕上げ)
・9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による
合板の張付け ・ A種 ・ B種
せっこうボードの目地工法 ※仕上表による

13 壁紙張り (19.8.2、3)

ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類			防火性能	備考
	紙	繊維強化プラスチックビニルチック	無機質その他		
仕上表による	・	○	・	○不燃 ・ 準不燃	
	・	・	・	○不燃 ・ 準不燃	
	・	・	・	○不燃 ・ 準不燃	
	・	・	・	○不燃 ・ 準不燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・ A種
コンクリート面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・ A種
せっこうボード面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・ A種

(19.9.2、3)

フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

○断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)		施工箇所
	種類	厚さ(mm)	
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・25	
○押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキャンナシ)	※2種 b A	※25	※外壁
		○3種 b A	○25
		○50	○屋根
・硬質ウレタンフォーム断熱材		・25	
・フェノールフォーム断熱材		・25	

断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ※A種1 ・ A種1H
吹付け厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・ 50 ・ 100
施工箇所 ○窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとならなければならない箇所
○図示 ○外壁 ○見学デッキスラブ下

20	①	現場発泡断熱材 (品質・性能)	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>難燃性</td> <td>下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。</td> </tr> <tr> <td>発熱性</td> <td>準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m²以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m²を超えないこと。</td> </tr> </table>	項目	品質・性能	難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。	発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。
		項目	品質・性能						
難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。								
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。								
フリーアクセスフロア (20.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>難燃性</td> <td>下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。</td> </tr> <tr> <td>発熱性</td> <td>準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m²以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m²を超えないこと。</td> </tr> </table>	項目	品質・性能	難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。	発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。		
項目	品質・性能								
難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカローリヤ試験)に適合していること。								
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。								

20	②	可動間仕切	<p>②試験方法-1 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。</p> <p>③試験方法-2 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重1,900N(3,000N/1m²相当)を1箇所掛け、試験体数は、1セットとする。</p> <p>④常点矯正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を常点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。</p> <p>3) 共通事項 試験に使用する表面仕上げ材 種類: タイルカーベット パイル携帯: ルーフパイル パイル長: 3.0mm~4.0mm 全厚: 6.0mm~7.0mm 人体耐電圧: 2KV以下</p>
----	---	-------	---

20	③	移動間仕切	<p>②試験方法-1 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。</p> <p>③試験方法-2 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重1,900N(3,000N/1m²相当)を1箇所掛け、試験体数は、1セットとする。</p> <p>④常点矯正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を常点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。</p> <p>3) 共通事項 試験に使用する表面仕上げ材 種類: タイルカーベット パイル携帯: ルーフパイル パイル長: 3.0mm~4.0mm 全厚: 6.0mm~7.0mm 人体耐電圧: 2KV以下</p>
----	---	-------	---

20	④	トイレブース	<p>②試験方法-1 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。</p> <p>③試験方法-2 イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重1,900N(3,000N/1m²相当)を1箇所掛け、試験体数は、1セットとする。</p> <p>④常点矯正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を常点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。</p> <p>3) 共通事項 試験に使用する表面仕上げ材 種類: タイルカーベット パイル携帯: ルーフパイル パイル長: 3.0mm~4.0mm 全厚: 6.0mm~7.0mm 人体耐電圧: 2KV以下</p>
----	---	--------	---

20	⑤	手すり	<p>(2) 構造金物 項目: 品質・性能 脚部: JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、(脚具、幅木) SUS443J1とし、仕上げはR程度とする。</p> <p>(3) 付属金物 項目: 品質・性能 ヒンジ: 耐蝕性のあるものとする。 ラッチセット: 腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り: 腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。</p> <p>(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」05.1による。</p> <p>(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性 項目: 耐薬品性及び耐汚染性 耐ひっかき性 メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材: JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性 低圧メラミン樹脂系化粧板: ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MD F、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。 ポリエステル樹脂系加工化粧板: JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性試験項目に適合していること。 パーティクルボード: JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。</p> <p>(試験方法) (1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部: ドア用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p> <p>材料の種類及び仕上げ (20.2.6) ・ SUS304 (表面処理 ※ H L 程度) ・ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書 14.2.2による種別(B 種)) ・ アルミニウム 表面処理 標準仕様書 表14.2.1による種別 () 種 色合等・標準色 () ・ 特注色 () 手すりの握り部分</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>仕上</th> <th>直径 (mm)</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 鋼製</td> <td>・ クリアラッカー</td> <td>・ 3.5程度 ・ 4.5程度</td> <td>・ 屋内階段</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ビニル製</td> <td>・ クリアラッカー</td> <td>・ 3.5程度 ・ 4.5程度</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(20.2.7) 種類: 幅 (mm) 取付け方法 端部フラットエンド ※ ステンレス製 (SUS304) ※ 約35 ※ 溶接工法 ※ あり ※ ビニル製 ※ ステンレス製 ビニルタイヤ入り ※ 埋込み工法 ※ なし</p> <p>(20.2.9) 種類: 寸法 (mm) 色彩 形式 ・ 鋼製黒板 ※ 焼付け ※ 緑 ・ 平面 ・ スクリーン付き引分け ・ ほうろろ黒板 ・ 白 ・ 黒 ・ 曲面 ・ ホワイトボード ・ ほうろろ ※ スクリーン付き引分け</p> <p>(20.2.10) 取付箇所: 図示 寸法 (mm): 図示 厚さ (mm): 5</p> <p>(20.2.11) 衝突防止表示 設置する形状・寸法 (・ 30φ (図示)) 材質 (・ ステンレス製 (図示)) 設置しない</p> <p>案内用図記号はJIS Z 8210による。 誘導標識、非常用進入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 ※ 図示</p> <p>(20.2.12) タラップ 材料及び仕上げ ・ ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※ 研磨なし) ・ 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別 C 種)</p> <p>(20.2.13) 衝突ライニング 適用安全使用温度 ・ 400℃まで ・ 650℃まで 工法 ・ 衝突用成形ライニング材 (品質・性能) 種類: 適用安全使用温度 (上限温度) 適用安全使用温度 (下限温度) 加熱線収縮率 2.0%以下 曲げ強度 0.8N/mm²以上 圧縮強度 1.0N/mm²以上 スポーリング性 試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。 透水性 試験体表面に水滴が生じないものとする。 耐蝕性 試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。 石蝕 使用不可。 ライニング材とコンクリートの境界温度 100℃以下とする。 加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることができる。</p>	材種	仕上	直径 (mm)	取付箇所	備考	・ 鋼製	・ クリアラッカー	・ 3.5程度 ・ 4.5程度	・ 屋内階段		・ ビニル製	・ クリアラッカー	・ 3.5程度 ・ 4.5程度		
材種	仕上	直径 (mm)	取付箇所	備考														
・ 鋼製	・ クリアラッカー	・ 3.5程度 ・ 4.5程度	・ 屋内階段															
・ ビニル製	・ クリアラッカー	・ 3.5程度 ・ 4.5程度																

20	⑥	ブラインド	<p>(試験方法) (1) スポーリング性試験 適用安全使用温度 (300℃) から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返す。各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。 (試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。)</p> <p>(2) 透水性試験 JIS A 5430「繊維強化セメント板」9.6透水性試験による。</p> <p>(3) 耐蝕性試験 1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を調べる。 試験は、試験体を温度20℃、湿度60%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間(168時間)浸せきする。(ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。)その後、48時間以上温度20℃、湿度60%の試験室に静置した後に外観観察を行う。(試験体のサイズは、100mm×50mmとする。)</p> <p>(4) 熱伝導率測定 JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。 試験設定温度は100℃、150℃、300℃、450℃、600℃とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>操作方法</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラット幅 (mm)</th> <th>ボックスレールの材質</th> <th>幅・高さ取付箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 彫形</td> <td>※ 手動</td> <td>※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式</td> <td>※ アルミニウム合金製</td> <td>※ 25</td> <td>※ 鋼製</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 彫形</td> <td>※ 手動</td> <td>※ 2本操作コード式 ・ 1本操作コード式</td> <td>※ アルミスラット ・ クロススラット</td> <td>・ 80 ・ 100</td> <td>アルミニウム合金製</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 彫形</td> <td>※ 手動</td> <td>※ 2本操作コード式</td> <td>※ アルミスラット ・ クロススラット</td> <td>・ 80 ・ 100</td> <td>アルミニウム合金製</td> <td>※ 図示</td> </tr> </table> <p>アルミスラットの材質 焼付け塗装仕上げ クロススラットの材質 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工</p> <p>(20.2.14) 形式: 操作方法 種類: スラットの材質: スラット幅 (mm): ボックスレールの材質: 幅・高さ取付箇所</p> <p>(20.2.15) 材料: 操作方式 透光性能 寸法 (mm) 取付箇所 備考 ・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製 ・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チューン式 ・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・ 図示 ・ 図示 ・ 図示</p> <p>巻取りパイプ、ウェルトパイプ、操作コード又は操作チェーンその他の材料 ※ 製造所の仕様</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>ひだの種類</th> <th>生地の種類、品質、特殊加工等</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ シングル</td> <td>・ 片引き</td> <td>・ 手引き</td> <td>・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ)</td> <td>ポリエステル</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ ダブル</td> <td>・ 引分け</td> <td>・ ひも引き ・ 電動</td> <td>・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ</td> <td></td> <td>(端幕)</td> </tr> </table> <p>端幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※ 300mm以上 カーテン用付属金物 フック (ひるかん) ※ 鋼製 ・ 樹脂性</p> <p>(20.2.16) 材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し成型材 ・ ステンレス製 強さによる区分 ※ 10-90 仕上げ ※ アルマイト 形状 ※ 角形</p> <p>溝幅×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 (図示) 材質 (鋼製) 鋼製 (樹脂等は12歳木工事による 仕上げは、仕上表又は図示による) ※ アルミニウム製 押し成型材 (市販品) 表面処理 ・ BC-1種 ・ BC-2種 (※ 標準色 () ・ 特注色 ()) ・ 鋼製 (仕上げは、仕上表又は図示による)</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> <tr> <td>※ アルミニウム製</td> <td>450×450 600×600</td> <td>※ 一般形</td> <td>・ 屋内外用 ※ 目地タイプ</td> <td>・ 縁付タイプ ・ 縁付タイプ ・ 目地タイプ</td> </tr> </table> <p>(品質・性能) 内外枠の材質 アルミニウム製 JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの 表面処理 陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの (外枠に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの)</p> <p>内枠及び外枠のコーナース 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 外枠の取付け金物 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 内枠の仕上げ材留付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの 耐久性能 (繰り返し開閉試験) (1) 50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。 (2) 開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。 枠の寸法許容差 ±0.5mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 内蓋 (内枠) の繰り返し開閉試験 (1) 試験体は、特見込み40mm程度のものとする。 吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付方式 (天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式) とする。標準仕様書14章4節より製作した試験体固定天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野線の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm (JIS A 6901「せっこうボード製品」の6B-Rの難燃2級又は発熱性2級以上) 二重張りとする。 (2) 試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。 (3) 測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がりを測定する。</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ・ 600×600</td> <td>・ 一般形 ・ 密閉形</td> <td>・ 縁付き ・ 防風 ・ 防臭</td> </tr> </table> <p>密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものを指す。 ① 充填用化粧タイプ 適用箇所: エントランス ② 張物用タイプ 適用箇所: エントランス以外</p>	形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ取付箇所	・ 彫形	※ 手動	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※ 鋼製	※ 図示	・ 彫形	※ 手動	※ 2本操作コード式 ・ 1本操作コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示	・ 彫形	※ 手動	※ 2本操作コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示	形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考	・ シングル	・ 片引き	・ 手引き	・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ)	ポリエステル	※ 図示	・ ダブル	・ 引分け	・ ひも引き ・ 電動	・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ		(端幕)	材種	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠	※ アルミニウム製	450×450 600×600	※ 一般形	・ 屋内外用 ※ 目地タイプ	・ 縁付タイプ ・ 縁付タイプ ・ 目地タイプ	材種	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 縁付き ・ 防風 ・ 防臭
形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ取付箇所																																																													
・ 彫形	※ 手動	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※ 鋼製	※ 図示																																																													
・ 彫形	※ 手動	※ 2本操作コード式 ・ 1本操作コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示																																																													
・ 彫形	※ 手動	※ 2本操作コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示																																																													
形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考																																																														
・ シングル	・ 片引き	・ 手引き	・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ)	ポリエステル	※ 図示																																																														
・ ダブル	・ 引分け	・ ひも引き ・ 電動	・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ		(端幕)																																																														
材種	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠																																																															
※ アルミニウム製	450×450 600×600	※ 一般形	・ 屋内外用 ※ 目地タイプ	・ 縁付タイプ ・ 縁付タイプ ・ 目地タイプ																																																															
材種	寸法 (mm)	形式	備考																																																																
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 縁付き ・ 防風 ・ 防臭																																																																

Table with columns for material name, material, and application. Includes sections for fire performance, durability, and safety. Lists various materials like aluminum, stainless steel, and concrete with their respective specifications and standards.

Table detailing construction specifications for various components. Includes sections for wall types (interior, exterior), floor coverings, and drainage systems. Lists materials like concrete, brick, and metal with their dimensions and installation methods.

Table detailing construction specifications for exterior water drainage and gutter systems. Includes sections for material selection, installation methods, and performance requirements. Lists materials like galvanized steel and aluminum with their specifications.

Table detailing construction specifications for roadbed, pavement, and drainage systems. Includes sections for material selection, layer thickness, and performance requirements. Lists materials like gravel, concrete, and asphalt with their specifications.

7	ブロック系舗装	<p>・ コンクリート平板舗装 (2.2.8.2.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ 普通平板 (N)</td> <td>※ 300角</td> <td>※ 60</td> <td>※ 砂</td> <td>表面加工</td> </tr> <tr> <td>・ 透水平板 (P)</td> <td></td> <td></td> <td>・ モルタル</td> <td>・ 研ぎ出し</td> </tr> <tr> <td>・ 保水性平板 (M)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ 洗い出し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ たたき出し</td> </tr> </table> <p>仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</p> <p>○ インターロッキングブロック舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>形状寸法</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>曲げ強度 (N/mm²)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ 普通ブロック (N)</td> <td>車路</td> <td>・ 図示</td> <td>※ 80</td> <td>※ 5.0</td> <td>表面加工</td> </tr> <tr> <td>・ 透水性ブロック (P)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 標準品</td> </tr> <tr> <td>・ 保水性ブロック (M)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 普通ブロック (N)</td> <td>歩行者用通路</td> <td>・ 図示</td> <td>※ 60</td> <td>※ 3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 透水性ブロック (P)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 保水性ブロック (M)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>クッション材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂 ・ 空練りモルタル <p>仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・ 鋪石舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工方法</th> <th>基層</th> <th>基層の厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>※ 花こう岩</td> <td>・ 割石</td> <td>・</td> <td>・ うろこ張り</td> <td>・ コンクリート版</td> <td>※ 70</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示</td> <td></td> <td></td> <td>・ アスファルト混合物</td> <td>※ 50</td> </tr> </table> <p>仕上り面の平坦性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、鋪石間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・ ジオテキスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位面積質量 ・ 60g/m²以上 ・ 厚さ (mm) ・ 0.5~1.0 ・ 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水係数 ・ 1.5×10⁻³cm/sec 以上 <p>種類 (2.2.9.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ A種 (施工範囲: 図示 通路) ○ B種 (施工範囲: 図示 建物周囲その他) <p>路面標示用塗料はJIS K 5665による。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>施工</th> <th>適用</th> <th>色</th> <th>幅 (mm)</th> <th>塗布厚さ (mm)</th> <th>適用部位</th> </tr> <tr> <td>※ 3種1号</td> <td>溶融</td> <td>粉体状</td> <td>○ 白</td> <td>※ 150</td> <td>・ 1.0</td> <td>○ 白線</td> </tr> <tr> <td>・ 1種</td> <td>常温</td> <td>液状</td> <td>○ 緑</td> <td>・ 100</td> <td></td> <td>○ 車椅子駐車場ライン、マーク</td> </tr> <tr> <td>・ 2種</td> <td>加熱</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ オイルタンク上部トラマーク</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 訓練用ライン</td> </tr> </table> <p>低揮発性有機溶剤系の路面標示用水性塗料</p>	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考	※ 普通平板 (N)	※ 300角	※ 60	※ 砂	表面加工	・ 透水平板 (P)			・ モルタル	・ 研ぎ出し	・ 保水性平板 (M)				・ 洗い出し					・ たたき出し	種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考	※ 普通ブロック (N)	車路	・ 図示	※ 80	※ 5.0	表面加工	・ 透水性ブロック (P)					○ 標準品	・ 保水性ブロック (M)						※ 普通ブロック (N)	歩行者用通路	・ 図示	※ 60	※ 3.0		・ 透水性ブロック (P)						・ 保水性ブロック (M)						種類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層	基層の厚さ (mm)	※ 花こう岩	・ 割石	・	・ うろこ張り	・ コンクリート版	※ 70	・	・ 図示			・ アスファルト混合物	※ 50	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	適用部位	※ 3種1号	溶融	粉体状	○ 白	※ 150	・ 1.0	○ 白線	・ 1種	常温	液状	○ 緑	・ 100		○ 車椅子駐車場ライン、マーク	・ 2種	加熱					○ オイルタンク上部トラマーク							○ 訓練用ライン
	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考																																																																																																																					
	※ 普通平板 (N)	※ 300角	※ 60	※ 砂	表面加工																																																																																																																					
	・ 透水平板 (P)			・ モルタル	・ 研ぎ出し																																																																																																																					
	・ 保水性平板 (M)				・ 洗い出し																																																																																																																					
					・ たたき出し																																																																																																																					
	種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考																																																																																																																				
	※ 普通ブロック (N)	車路	・ 図示	※ 80	※ 5.0	表面加工																																																																																																																				
	・ 透水性ブロック (P)					○ 標準品																																																																																																																				
	・ 保水性ブロック (M)																																																																																																																									
※ 普通ブロック (N)	歩行者用通路	・ 図示	※ 60	※ 3.0																																																																																																																						
・ 透水性ブロック (P)																																																																																																																										
・ 保水性ブロック (M)																																																																																																																										
種類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層	基層の厚さ (mm)																																																																																																																					
※ 花こう岩	・ 割石	・	・ うろこ張り	・ コンクリート版	※ 70																																																																																																																					
・	・ 図示			・ アスファルト混合物	※ 50																																																																																																																					
種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	適用部位																																																																																																																				
※ 3種1号	溶融	粉体状	○ 白	※ 150	・ 1.0	○ 白線																																																																																																																				
・ 1種	常温	液状	○ 緑	・ 100		○ 車椅子駐車場ライン、マーク																																																																																																																				
・ 2種	加熱					○ オイルタンク上部トラマーク																																																																																																																				
						○ 訓練用ライン																																																																																																																				
8	砂利敷き																																																																																																																									
	路面標示用塗料																																																																																																																									
	2.3 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等	<p>土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・ 行う ・ 行わない (2.3.1.3)</p> <p>電気伝導度 (EC) の試験 ・ 行う ・ 行わない</p>																																																																																																																							
		2 植栽基盤の整備	<p>(2.3.2.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>植栽</th> <th>工法</th> <th>有効土層の厚さ (cm)</th> <th>整備範囲</th> <th>土壌改良材</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">樹木</td> <td>※ A種</td> <td>樹高12m以上</td> <td>・ 築儀部分</td> <td>・ 適用する</td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td>(※ 100 ~ 120 ~ 150)</td> <td>・ 植栽部分</td> <td>・ 適用しない</td> </tr> <tr> <td>・ C種</td> <td>樹高7m以上~12m未満</td> <td>・ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ D種</td> <td>(※ 80 ~ 100)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>樹高3m以上~7m未満 (※ 60 ~ 80)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>樹高3m未満 (※ 50 ~ 60)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>芝、地被類 ※ B種 ※20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽部分 ○ 図示 ○ 適用する ○ 適用しない <p>植栽基盤の排水設備 ・ 設ける (※ 図示) ・ 設けない</p>	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材	樹木	※ A種	樹高12m以上	・ 築儀部分	・ 適用する	・ B種	(※ 100 ~ 120 ~ 150)	・ 植栽部分	・ 適用しない	・ C種	樹高7m以上~12m未満	・ 図示		・ D種	(※ 80 ~ 100)					樹高3m以上~7m未満 (※ 60 ~ 80)					樹高3m未満 (※ 50 ~ 60)																																																																																									
		植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材																																																																																																																				
		樹木	※ A種	樹高12m以上	・ 築儀部分	・ 適用する																																																																																																																				
			・ B種	(※ 100 ~ 120 ~ 150)	・ 植栽部分	・ 適用しない																																																																																																																				
			・ C種	樹高7m以上~12m未満	・ 図示																																																																																																																					
			・ D種	(※ 80 ~ 100)																																																																																																																						
				樹高3m以上~7m未満 (※ 60 ~ 80)																																																																																																																						
			樹高3m未満 (※ 50 ~ 60)																																																																																																																							
3 植込み用土		<p>・ 現場発生土の良質土 ・ 寄土 (2.3.2.3)</p>																																																																																																																								
4 土壌改良材	<p>種類及び指定量等 (2.3.2.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーク堆肥 ・ 施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示 ・ 使用量 植栽基盤面積1m²あたり (・ 50L ・) ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) ・ 施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示 ・ 使用量 植栽基盤面積1m²あたり (・ 10L ・) <p>材料</p> <p>「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の結果、害が認められないものとする</p>																																																																																																																									
5 樹木	<p>樹種、寸法、株立数等 ※ 図示 (2.3.3.2)</p>																																																																																																																									
6 支柱	<p>支柱材 ※ 丸太 (間伐材) ・ 真竹 (2.3.3.2.3)</p> <p>防蟻処理方法 ※ 加圧式防蟻処理丸太材</p> <p>形式 ・ 図示</p>																																																																																																																									
7 幹巻き用材料	<p>材料 (2.3.3.2)</p> <p>※ 幹巻き用テープ ・ わら及びこも</p>																																																																																																																									
8 芝	<p>種類 ※ コウライシバ ・ ノシバ (2.3.4.2.3)</p> <p>芝張りの工法</p> <p>平地 ※ 目地張り ・ べた張り</p> <p>法面 ・ 目地張り ※ べた張り</p>																																																																																																																									
9 吹付けは種	<p>(2.3.4.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種子の種類</th> <th>発芽率</th> <th>種子の量 (g/m²)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ 洋芝類 (採取後2年以内)</td> <td>※ 発芽率90%以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m ²)	備考	※ 洋芝類 (採取後2年以内)	※ 発芽率90%以上																																																																																																																			
種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m ²)	備考																																																																																																																							
※ 洋芝類 (採取後2年以内)	※ 発芽率90%以上																																																																																																																									
10 地被類	<p>(2.3.4.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>樹種</th> <th>コンテナ径</th> <th>単位面積当たりのコンテナ数</th> <th>芽立数</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table>	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・	・	・	・																																																																																																																	
樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数																																																																																																																							
・	・	・	・																																																																																																																							

11	新植、芝等の植栽	<p>(2.3.3.4.6) (2.3.4.7) (2.3.5.3)</p> <p>新植樹木 (芝張り、吹付けは種及び地被類を含む) の植栽期間</p> <p>※ 引渡しの日から1年 ・ 無し</p>																																
	12 移植樹木の植栽処置	<p>(2.3.3.6)</p> <p>移植樹木の植栽処置を行う期間</p> <p>※ 引渡しの日から1年 ・ 無し</p>																																
	13 屋上緑化	<p>(2.3.5.2~4)</p> <p>植栽基盤及び材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上緑化システム ・ 土壌層の厚さ ・ 図示 ・ 排水層 ・ 軽量骨材 (層の厚さ:) ・ 板状成形品 ・ 植込み用土 ※ 改良土 ・ 人工軽量土 ・ 樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※ 図示 ・ 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示 <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>透水フィルター</td> <td>材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能はその選の数が直前の選の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。</td> </tr> <tr> <td>透水、排水層等構成材の主要材質</td> <td>合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)</td> </tr> <tr> <td>排水層</td> <td>植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。</td> </tr> <tr> <td>排水層の鉛直方向の排水性能</td> <td>240L/m²・h 以上</td> </tr> <tr> <td>耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)</td> <td>最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10⁴N/m²の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)</td> </tr> <tr> <td>耐根層</td> <td>重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。</td> </tr> <tr> <td>耐根層保護層</td> <td>材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。</td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 透水フィルタの透水性能</p> <p>(イ) JIS A 1218 「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水試験装置の下部に試験体 (透水フィルタ) をセットし、その上に砂 (JIS A5308 「レディミクストコンクリート」付属書Aに規定する砂) 及びシルト #250を容積比9:1の割合で混合し、高さ80mmの試験容器に圧入せずに均一に充填する。(試験体1体)</p> <p>(ロ) 常温で1日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水サイクルを繰り返す。週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差10mmを保持したまま、1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾燥工程の試験室は室温20±3℃湿度60±5%とする。</p> <p>(ハ) 水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。</p> <p>(ニ) 各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその選の数値が直前の選の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。</p> <p>(ホ) 試験開始後6週間、流水時間合計が30日を超えた時点で透水係数がまだ上昇しにくい場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。</p> <p>(2) 排水層の耐荷重性能</p> <p>(イ) 最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3×10⁴N/m²の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み (%) を測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)</p> <p>(ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上緑化軽量システム ・ 樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※ 図示 ・ 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示 <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>透水、排水層等構成材の主要材質</td> <td>合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)</td> </tr> <tr> <td>透水層</td> <td>目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植込み用土を流出させない構造であること。</td> </tr> <tr> <td>排水層</td> <td>植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。</td> </tr> <tr> <td>排水層の鉛直方向の排水性能</td> <td>240L/m²・h 以上</td> </tr> <tr> <td>耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)</td> <td>一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10⁴N/m²以上の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)</td> </tr> <tr> <td>耐根層</td> <td>重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。</td> </tr> <tr> <td>耐根層保護層</td> <td>材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。</td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 排水基盤の耐荷重性能</p> <p>(イ) 3×10⁴N/m²の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み (%) を測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。)</p> <p>(ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。</p> <p>工法</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>支柱 ・ 設置する (形式 ・ 図示 ・)</p> <p>かん水装置 ・ 設置する (種類 ・)</p>	項目	品質・性能	透水フィルター	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能はその選の数が直前の選の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。	透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)	排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。	排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m ² ・h 以上	耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)	最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10 ⁴ N/m ² の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)	耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。	耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。	項目	品質・性能	透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)	透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植込み用土を流出させない構造であること。	排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。	排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m ² ・h 以上	耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10 ⁴ N/m ² 以上の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)	耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。	耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。
	項目	品質・性能																																
	透水フィルター	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能はその選の数が直前の選の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。																																
	透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)																																
	排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。																																
	排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m ² ・h 以上																																
	耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)	最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10 ⁴ N/m ² の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)																																
	耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。																																
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。																																	
項目	品質・性能																																	
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。(保水層を有する場合は、保水層共)																																	
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植込み用土を流出させない構造であること。																																	
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。																																	
排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m ² ・h 以上																																	
耐荷重性能 (排水層の許容圧縮強度)	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10 ⁴ N/m ² 以上の載荷重で破壊・有害なひずみなど異常のないこと。(保水層を有する場合は保水層共)																																	
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。																																	
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。																																	

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項			扉	特定天井及び避難経路の扉	RC壁に設置する特定窓等及び避難経路の扉	その他の建築非構造部材	フリーアクセスフロア	20章 フリーアクセスフロアの特記事項による
建築設計基準	項目	特記事項		AD SD LD SSD	RC壁に設置する特定窓等及び避難経路の扉 ○耐震ドア 面内変形追従性の等級() (建具符号: ※建具表による)	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	
外壁	横壁 CW (メタルPCa)	CW工事 取付方法、性能等						
		地震力に対する安全性						
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
A L Cパネル	外壁パネル	地震力に対する安全性						
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。						
押出成形パネル (ECP)	外壁パネル	地震力に対する安全性						
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。						
外壁	仕上げ	石工事						
天井	特定天井 地下 (特定天井)	軽量鉄骨天井	範囲 ※図示 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示 (平成25年国土交通省告示第771号) による特定天井の設計用震度 換証ルート ()					
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	範囲 ※図示 標準仕様書 14. 4. 1~14. 4. 4 に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の1)~4) のとおりとする。 1) 野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。 2) 野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、互いに1m以上離し、千鳥状に配置。 3) 野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置 (剛止め) を講じる。 4) 野縁受けと野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示 (平成25年国土交通省告示第771号) 第3項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度を「新たな特定天井の技術基準 (天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様) の解説 (平成28年7月版)」 (国土交通省国土技術政策総合研究所) の「付録1クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、JISA6517によらなくてもよいものとする。					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。						
天井	在来工法 の吊り 天井	軽量鉄骨天井	—					
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	—					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。						
天井	システム 天井	システム天井	※グリッドタイプ ・システム天井 範囲 ※図示 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5 構造体の層間変形角 ・ 1/100 ・ 1/200 ・ /					
		設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	以下の設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。					
		構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと					
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。						
間仕切り	間仕切り	A L Cパネル	間仕切りパネルの耐震性					
			地震力に対する安全性					
			設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。				
			構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと				
間仕切り	間仕切り	A L Cパネル	間仕切りパネルの耐震性					
			地震力に対する安全性					
			設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。				
			構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと				
押出成形パネル (ECP)	押出成形パネル (ECP)	A L Cパネル	間仕切りパネルの耐震性					
			地震力に対する安全性					
			設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。				
			構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと				
軽量鉄骨壁 下地	—	—	間仕切りパネルの耐震性					
			地震力に対する安全性					
			設計用震度 設計用水平震度 (KH) ※ 1.0 設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5	横壁 (仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材) の性能 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値とする。				
			構造体の層間変形に対する追従性	層間変形角 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと				

材質	階区分	建築物間のクリアランス (mm)	変位追従量 (mm)	耐火性能	断熱性能	備考
・アルミ ・ニウム製 ・ステン ・レス製	() 階 ~ () 階	・ 50 ・ 100 ・ 150	(避難経路の床等) ・ 以上 (その他) ・ 以上	・ 有り () ・ 無し	・ 有り () ・ 無し	
・アルミ ・ニウム製 ・ステン ・レス製	() 階 ~ () 階	・ 50 ・ 100 ・ 150	(避難経路の床等) ・ 以上 (その他) ・ 以上	・ 有り () ・ 無し	・ 有り () ・ 無し	

外部に設置するものは、防水型とする。
エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講じる。

固定方法
・ 壁固定 (図示)
・ 床固定 (図示)

以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準 (製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。) が定める値による。

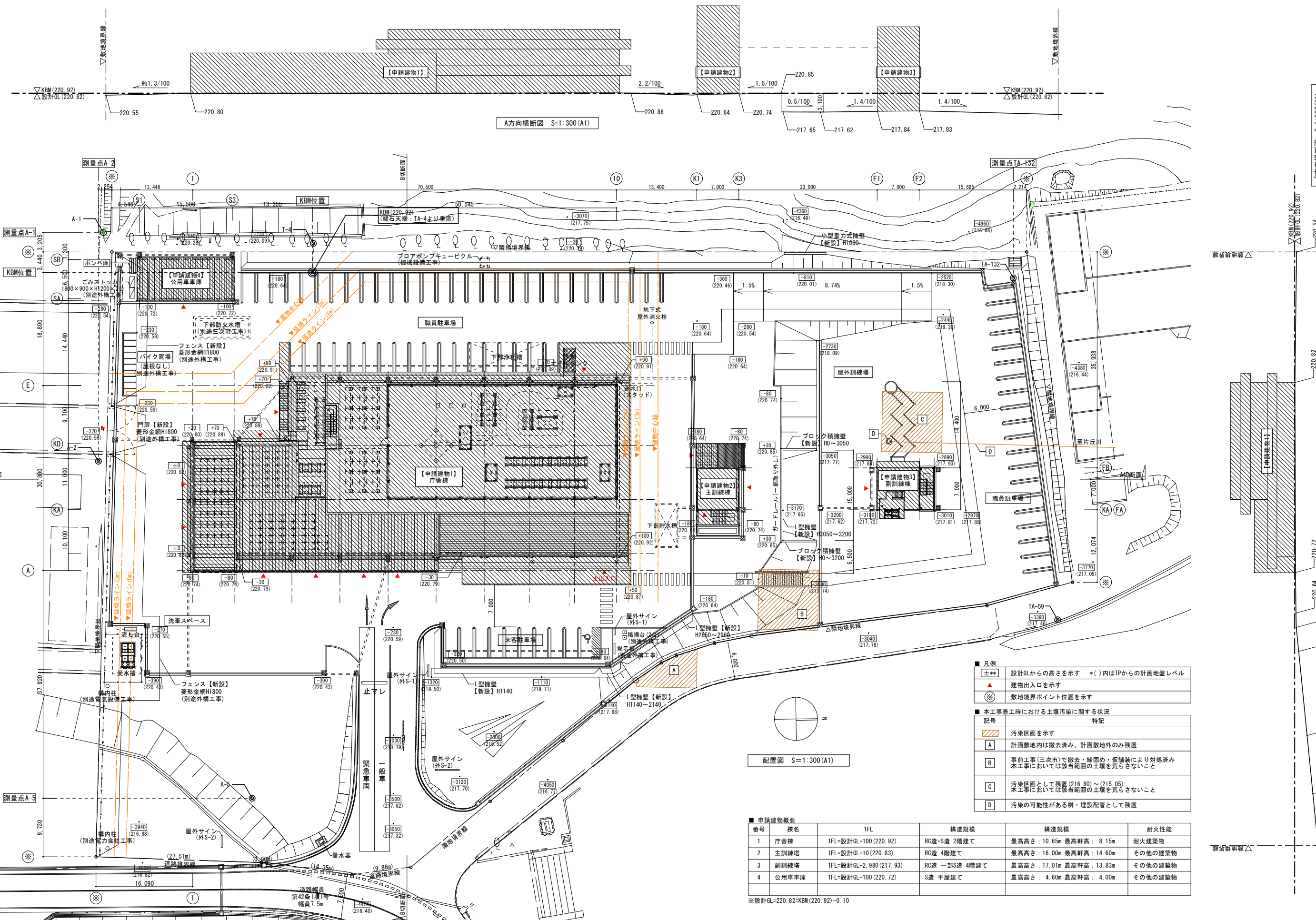
家具名称	設置場所	備考
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・

設計用水平震度 (KH) ※ 1.0
設計用鉛直震度 (KV) ※ 0.5

・ 軽量鉄骨壁下地等への補強 (※図示)
※ 収納物の散乱防止措置 (ラッチ機構、ロック機構等) を講ずる。

工事区分表 表中 A：建築工事、E：電気設備工事、M：機械設備工事、外：外構工事、EV：エレベーター設備工事 を示す

Table with columns: Item (項目), Content (内容), and checkboxes for building (A), electrical (E), mechanical (M), and exterior (外) work. It includes categories like 'Construction Work' (完成工事), 'Equipment Basis' (設備機器の基礎), and 'Elevator Related' (昇降機関連).

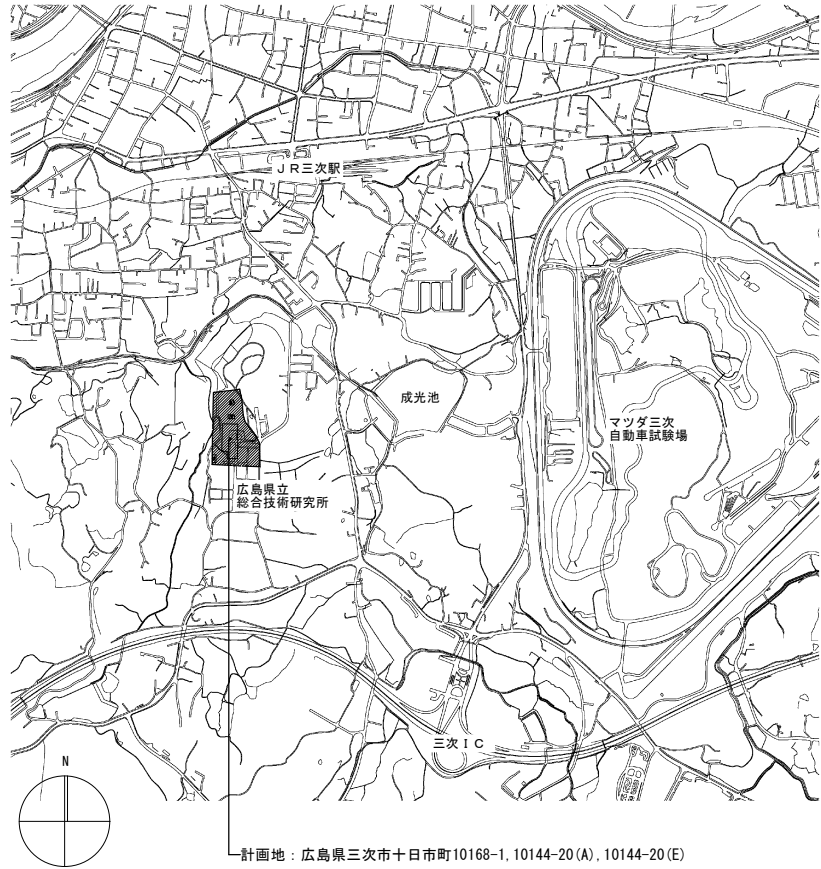
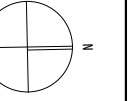


- 凡例
- ±** 設計GLからの高さを示す * () 内はTPからの計画地盤レベル
 - ▲ 建物出入口を示す
 - ⊗ 敷地境界ポイント位置を示す
- 本工事着工時における土壌汚染に関する状況
- | 記号 | 特記 |
|----|--|
| 斜線 | 汚染区面を示す |
| A | 計画敷地内は撤去済み、計画敷地外のみ残置 |
| B | 事前工事(三次市)で撤去・締固め・仮舗装により対処済み
本工事においては該当範囲の土壌を荒らさないこと |
| C | 汚染区面として残置(216.80)~(215.05)
本工事においては該当範囲の土壌を荒らさないこと |
| D | 汚染の可能性のある樹・埋設配管として残置 |

■ 申請建物概要

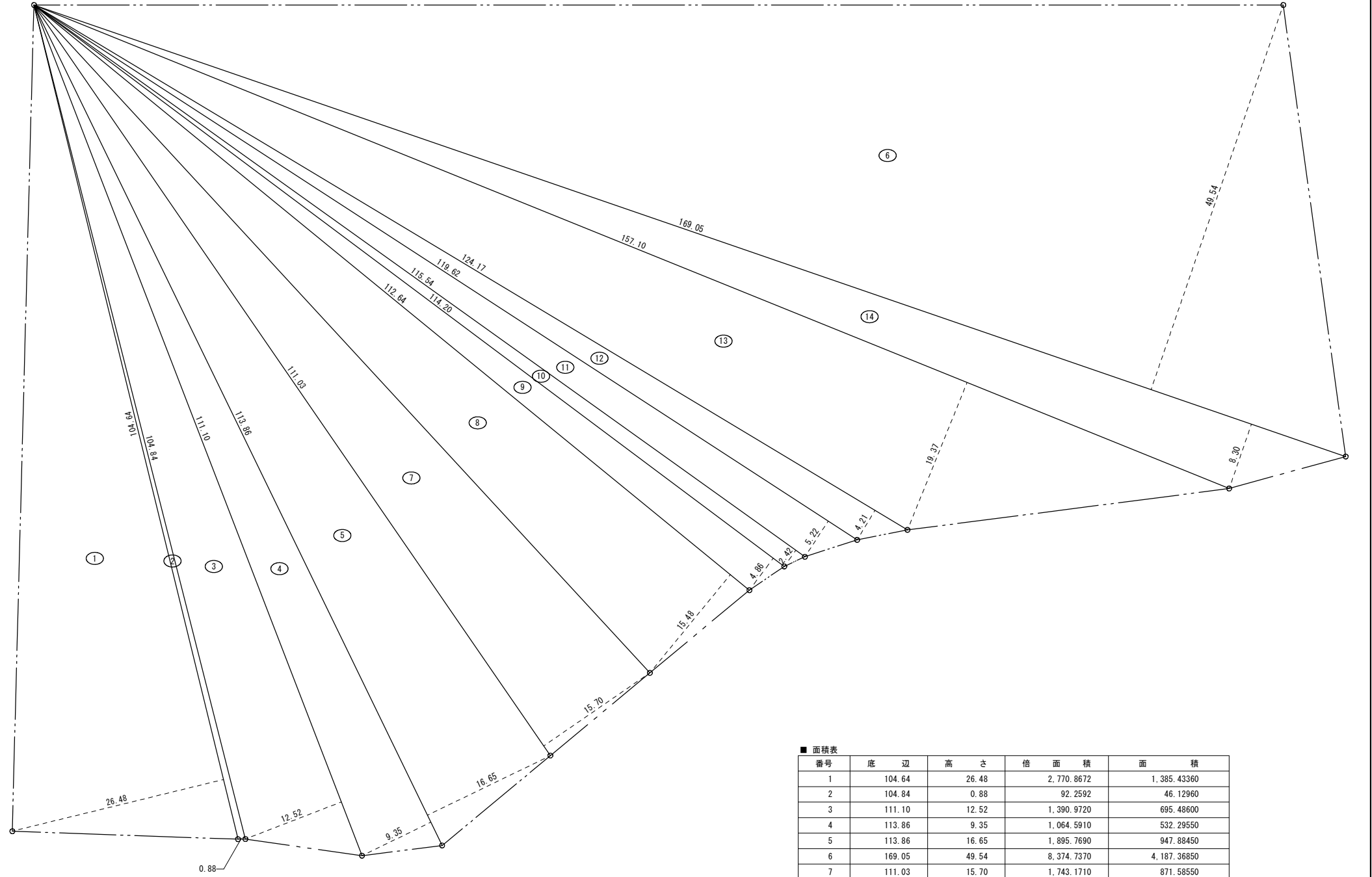
番号	棟名	IFL	構造規模	構造規模	耐火性能
1	庁舎棟	IFL=設計GL+100(220.92)	RC造+S造 2階建て	最高高さ: 10.65m 最高軒高: 8.15m	耐火建築物
2	主訓練棟	IFL=設計GL+10(220.83)	RC造 4階建て	最高高さ: 16.00m 最高軒高: 14.60m	その他の建築物
3	副訓練棟	IFL=設計GL-2,980(217.93)	RC造 一部S造 4階建て	最高高さ: 17.01m 最高軒高: 13.83m	その他の建築物
4	公用車庫	IFL=設計GL-100(220.72)	S造 平屋建て	最高高さ: 4.60m 最高軒高: 4.00m	その他の建築物

※設計GL=220.82=KBM(220.92)-0.10



計画地：広島県三次市十日市町10168-1, 10144-20(A), 10144-20(E)

付近見取り図 S=1:8000



■面積表

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	104.64	26.48	2,770.8672	1,385.43360
2	104.84	0.88	92.2592	46.12960
3	111.10	12.52	1,390.9720	695.48600
4	113.86	9.35	1,064.5910	532.29550
5	113.86	16.65	1,895.7690	947.88450
6	169.05	49.54	8,374.7370	4,187.36850
7	111.03	15.70	1,743.1710	871.58550
8	112.64	15.48	1,743.6672	871.83360
9	114.20	4.86	555.0120	277.50600
10	115.54	2.42	279.6068	139.80340
11	119.62	5.22	624.4164	312.20820
12	124.17	4.21	522.7557	261.37785
13	157.10	19.37	3,043.0270	1,521.51350
14	169.05	8.30	1,403.1150	701.55750
合計				12,751.98325
敷地面積				12,751.98 m ²

NOTE



一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

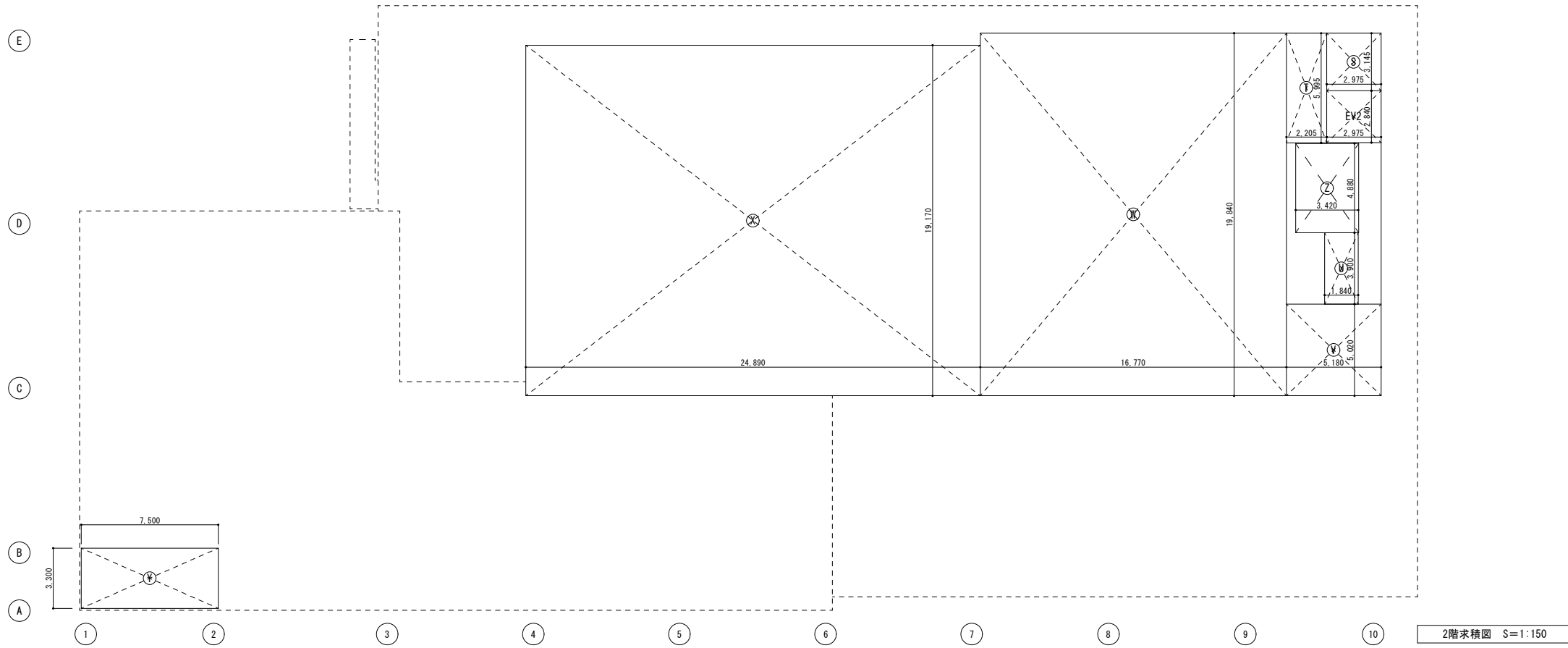
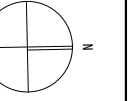
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

付近見取り図・敷地求積図

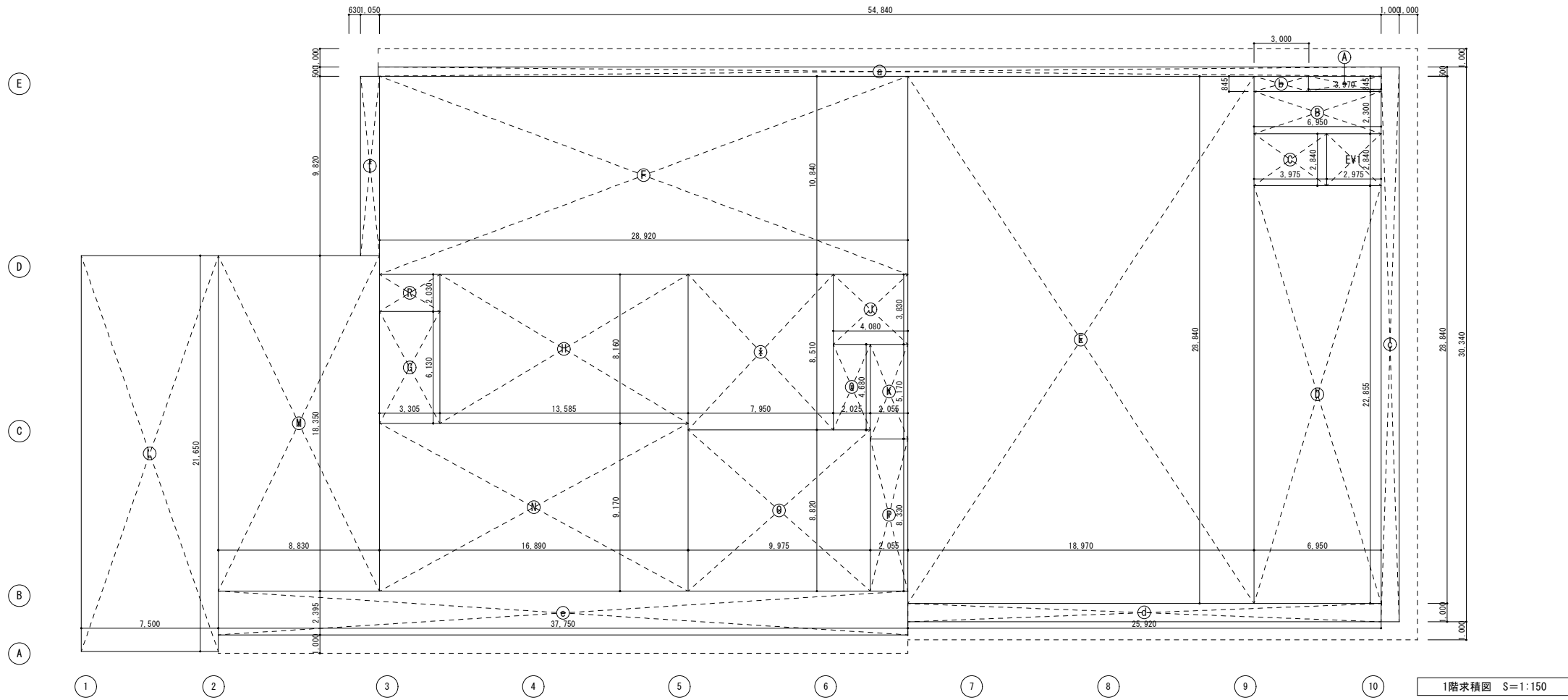
SCALE A1: 1/300
A3: 1/600

DWG No.

A
013



2階求積図 S=1:150



1階求積図 S=1:150

■面積表

符号	計算式		
A	3.970 × 0.845 =	3.35465	
B	6.950 × 2.300 =	15.9850	
C	3.975 × 2.840 =	11.2890	
D	6.950 × 22.855 =	158.8422	
E	18.970 × 28.840 =	547.0948	
F	28.920 × 10.840 =	313.4928	
G	3.305 × 6.130 =	20.2597	
H	13.585 × 8.160 =	110.8536	
I	7.950 × 8.510 =	67.6545	
J	4.080 × 3.830 =	15.6264	
K	2.055 × 5.170 =	10.6244	
L	7.500 × 21.650 =	162.3750	
EV1	2.975 × 2.840 =	8.4490	
小計		1,445.9011	
小計(小数点第3位切捨て)		1,445.90	m ²
M	8.830 × 18.350 =	162.0305	
N	16.890 × 9.170 =	154.8813	
O	9.975 × 8.820 =	87.9795	
P	2.055 × 8.330 =	17.1182	
Q	2.025 × 4.680 =	9.4770	
R	3.305 × 2.030 =	6.7092	
小計		438.1957	
小計(小数点第3位切捨て)		438.19	m ²
1階床面積小計		1,884.09	m ²
2階			
S	2.975 × 3.145 =	9.3563	
T	2.205 × 5.995 =	13.2189	
U	1.840 × 3.900 =	7.1760	
V	5.180 × 5.020 =	26.0036	
W	16.770 × 19.840 =	332.7168	
X	24.890 × 19.170 =	477.1413	
Y	7.500 × 3.300 =	24.7500	
Z	3.420 × 4.880 =	16.6896	
EV2	2.975 × 2.840 =	8.4490	
小計		915.5015	
小計(小数点第3位切捨て)		915.50	m ²
延床面積 (A)+(B)		2,799.59	m ²
3階			
a	58.840 × 0.500 =	29.4200	
b	3.000 × 0.845 =	2.5350	
c	1.000 × 29.340 =	29.3400	
d	25.920 × 1.000 =	25.9200	
e	37.750 × 2.395 =	90.4112	
f	1.050 × 9.820 =	10.3110	
小計		187.9372	
小計(小数点第3位切捨て)		187.93	m ²
建築面積 (A)+(D)		2,072.02	m ²

■棟別集計

棟名	建築面積	延床面積
庁舎棟	2,072.02	2,799.59
主副機械塔	85.60	204.30
副副機械塔	69.92	192.00
公用車庫	113.16	113.16
ポンベ庫	2.50	2.50
受水槽機械室	4.15	4.15
合計	2,347.35	3,315.70

NOTE

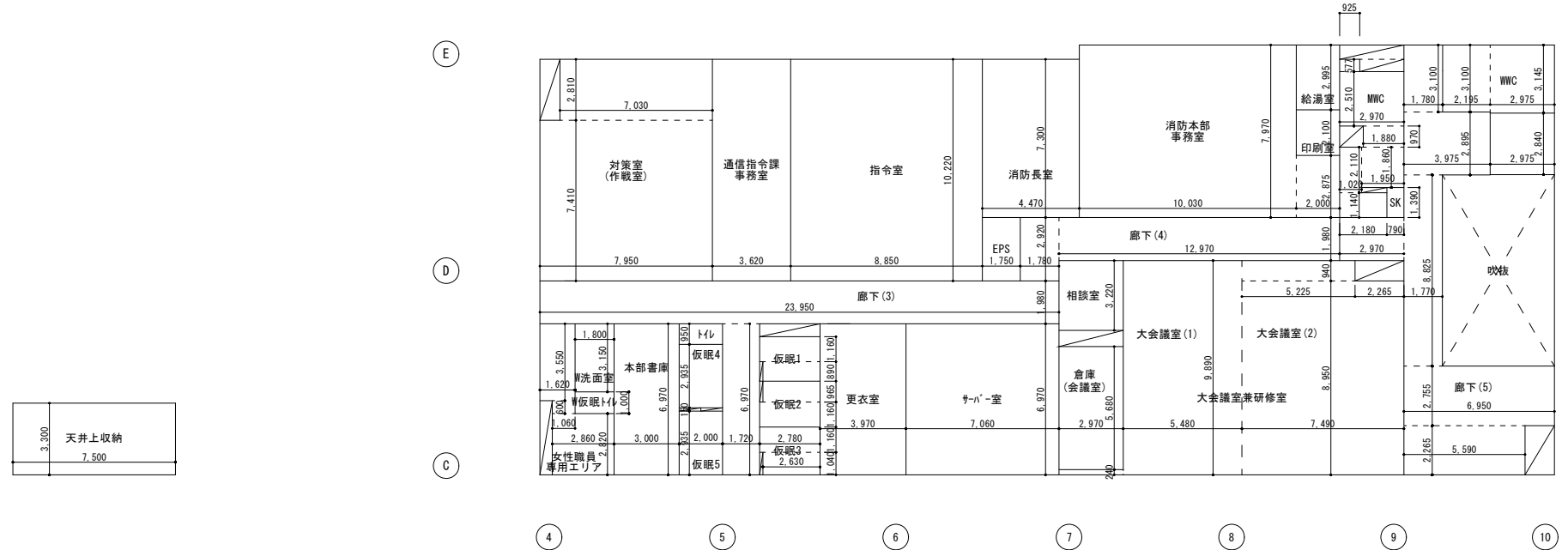
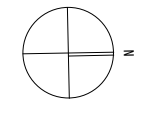
株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

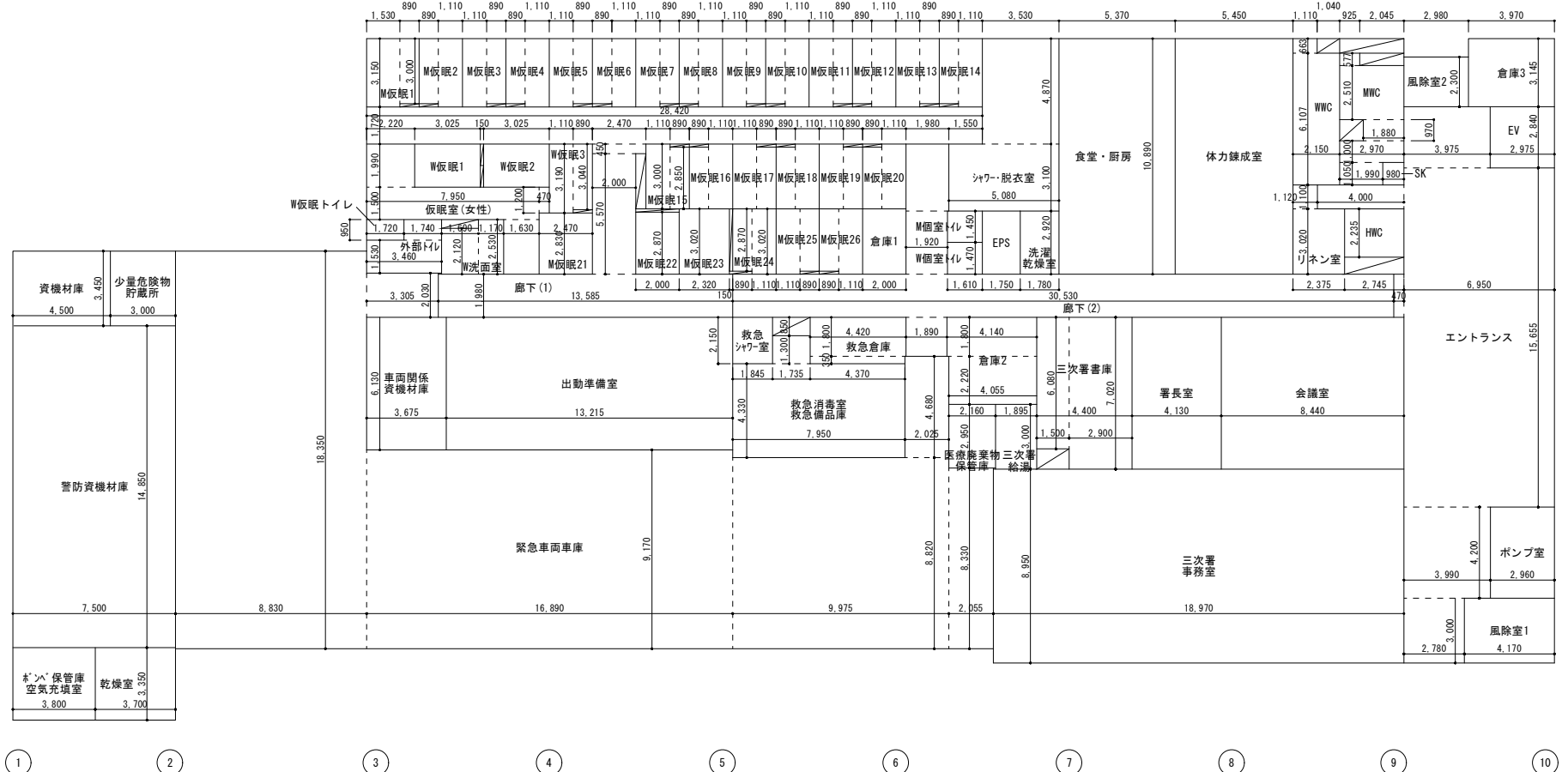
【庁舎棟】建物面積表・求積図

SCALE A1: 1/150
A3: 1/300

DWG No. A
014



2階 室面積積算図 S=1:150



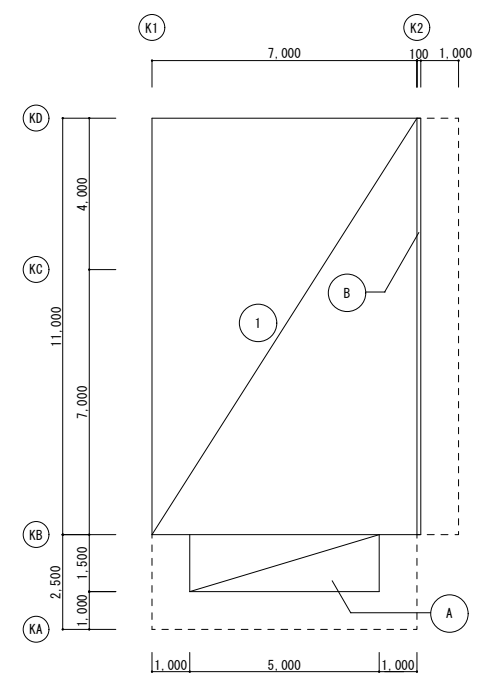
1階 室面積積算図 S=1:150

■共用部	X × Y	小計	合計	少数第3位切捨て	室数	合計面積
風除室1	4.170 × 3.000 = 2.980 × 2.300 =	12.5100 6.8540	19.3640	12.51	1	12.51
風除室2	2.960 × 4.200 = 3.975 × 2.840 = 6.950 × 15.655 = 0.470 × 1.980 = 3.990 × 4.200 = 2.780 × 3.000 = 4.000 × 1.100 =	12.4320 11.2890 108.8023 0.9306 16.7580 8.3400 4.4000	150.5199	150.51	1	150.51
エントランス	1.780 × 3.100 = 3.975 × 2.885 = 1.770 × 8.930 = 6.950 × 2.755 = 5.590 × 2.265 = 2.970 × 1.980 =	5.5180 11.5076 15.8061 19.1472 12.6614 5.8806	70.5209	70.52	1	70.52
廊下(3)	23.950 × 1.980 = 1.720 × 6.970 =	47.4210 11.9884	59.4094	59.40	1	59.40

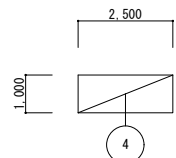
■消防本部	X × Y	小計	合計	少数第3位切捨て	室数	合計面積
WWC	2.195 × 3.100 = 2.975 × 3.145 = 2.180 × 1.140 = 2.970 × 2.510 = 1.880 × 0.970 = 1.950 × 1.860 = 2.110 × 1.020 = 0.925 × 0.577 = 0.790 × 1.390 =	6.8045 9.3564 2.4852 7.4547 1.8236 3.6270 2.1522 0.5337 1.0981	16.1609	16.16	1	16.16
MWC	1.880 × 0.970 = 0.890 × 3.000 = 2.110 × 1.020 = 0.925 × 0.577 = 0.790 × 1.390 =	1.8236 2.6700 2.1522 0.5337 1.0981	18.0764	18.07	1	18.07
SK	2.000 × 2.875 = 10.030 × 7.970 = 2.000 × 2.995 = 2.000 × 2.100 =	5.7500 79.9391 5.9900 4.2000	85.6891	85.68	1	85.68
本部給湯室	2.000 × 2.100 =	4.2000	4.2000	4.20	1	4.20
廊下(4)	12.970 × 1.980 = 1.780 × 2.920 = 5.480 × 9.890 = 2.970 × 0.240 = 5.225 × 0.940 = 7.490 × 8.950 = 2.970 × 5.680 =	25.6806 5.1776 54.1972 0.7128 4.9115 67.0355 16.8696	30.8782	30.87	1	30.87
大会議室(1)	2.970 × 0.240 = 5.225 × 0.940 = 7.490 × 8.950 = 2.970 × 5.680 =	0.7128 4.9115 67.0355 16.8696	54.9100	54.91	1	54.91
大会議室(2)	5.225 × 0.940 = 7.490 × 8.950 = 2.970 × 5.680 =	4.9115 67.0355 16.8696	71.9470	71.94	1	71.94
倉庫(大会議室)	2.970 × 5.680 =	16.8696	16.8696	16.86	1	16.86
消防長室	4.470 × 7.300 =	32.6310	32.6310	32.63	1	32.63
相談室	2.970 × 3.220 =	9.5634	9.5634	9.56	1	9.56
指令室	8.850 × 10.220 =	90.4470	90.4470	90.44	1	90.44
通信指令課事務室	3.620 × 10.220 =	36.9964	36.9964	36.99	1	36.99
対策室(作戦室)	7.030 × 2.810 = 7.950 × 7.410 = 7.060 × 6.970 =	19.7543 58.9095 49.2082	78.6638	78.66	1	78.66
サーバー室	7.060 × 6.970 =	49.2082	49.2082	49.20	1	49.20
更衣室	3.970 × 6.970 =	27.6709	27.6709	27.67	1	27.67
仮眠1・2	2.780 × 1.160 = 2.630 × 0.890 = 2.780 × 1.160 = 2.630 × 0.890 = 2.000 × 0.950 =	3.2248 2.3407 3.2248 2.3407 1.9000	5.6555	5.66	2	11.12
仮眠3	2.780 × 1.160 = 2.630 × 0.890 =	3.2248 2.3407	5.9600	5.96	1	5.96
仮眠4・5	2.000 × 0.950 =	1.9000	5.8700	5.87	2	11.74
備室トイレ	2.000 × 0.950 =	1.9000	1.9000	1.90	1	1.90
本部書庫	3.000 × 6.970 =	20.9100	20.9100	20.91	1	20.91
女性職員専用エリア	1.620 × 3.550 = 1.060 × 0.600 = 2.860 × 2.820 =	5.7510 0.6360 8.0652	14.4522	14.45	1	14.45
W仮眠1トイレ	1.800 × 1.000 =	1.8000	1.8000	1.80	1	1.80
W洗面室	1.800 × 3.150 =	5.6700	5.6700	5.67	1	5.67
消防本部 専有面積				704.47 m ²	①	
面積按分割合						29.3%

■三次署	X × Y	小計	合計	少数第3位切捨て	室数	合計面積
三次署事務室	18.970 × 8.950 = 1.895 × 3.000 = x =	169.7815 5.6850 x	169.7815	169.78	1	169.78
三次署給湯室	1.895 × 3.000 =	5.6850	5.6850	5.68	1	5.68
会議室	8.440 × 7.020 = x =	59.2488 x	59.2488	59.24	1	59.24
書長室	4.130 × 7.020 = x =	28.9926 x	28.9926	28.99	1	28.99
三次署書庫	1.500 × 6.080 = 2.900 × 7.020 = 0.925 × 0.577 = 2.970 × 2.510 = 1.880 × 0.970 = 2.970 × 1.000 = 1.990 × 1.050 =	9.1200 20.3580 0.5337 7.4547 1.8236 2.9700 2.0895	29.4780	29.47	1	29.47
MWC	1.500 × 6.080 = 2.900 × 7.020 = 0.925 × 0.577 = 2.970 × 2.510 = 1.880 × 0.970 = 2.970 × 1.000 = 1.990 × 1.050 =	9.1200 20.3580 0.5337 7.4547 1.8236 2.9700 2.0895	14.8715	14.87	1	14.87
WWC	1.110 × 0.663 = 2.150 × 6.107 = 0.980 × 1.050 =	0.7359 13.1301 1.0290	13.8660	13.86	1	13.86
SK	x =	x	1.0290	1.02	1	1.02
HWC	2.745 × 2.235 = x =	6.1351 x	6.1351	6.13	1	6.13
リネン室	2.375 × 3.020 = 1.120 × 1.100 =	7.1725 1.2320	8.4045	8.40	1	8.40
体力練成室	5.450 × 10.890 =	59.3505	59.3505	59.35	1	59.35
食堂・厨房	5.370 × 10.890 =	58.4793	58.4793	58.47	1	58.47
シャワー・脱衣室	3.530 × 4.870 = 5.080 × 3.100 = 1.780 × 2.920 =	17.1911 15.7480 5.1976	32.9391	32.93	1	32.93
洗濯・乾燥室	x =	x	5.1976	5.19	1	5.19
M備室トイレ	1.610 × 1.450 =	2.3345	2.3345	2.33	1	2.33
W備室トイレ	1.610 × 1.470 =	2.3667	2.3667	2.36	1	2.36
M仮眠室1	1.530 × 3.150 =	4.8195	7.4895	7.48	1	7.48
M仮眠室2~14	0.890 × 3.000 =	2.6700	6.1665	6.16	13	80.08
M仮眠室15~20	1.110 × 3.150 = 1.110 × 3.000 = 0.890 × 2.850 =	3.4965 3.3300 2.5385	5.8665	5.86	6	35.16
M仮眠室21	2.470 × 2.830 =	6.9901	6.9901	6.99	1	6.99
M仮眠室22	2.000 × 2.870 =	5.7400	5.7400	5.74	1	5.74
M仮眠室23	x =	x	7.0064	7.00	1	7.00
M仮眠室24~26	0.890 × 2.870 = 1.110 × 3.020 = 2.000 × 3.020 =	2.5543 3.3522 6.0400	5.9065	5.90	3	17.70
倉庫1	2.220 × 1.990 =	4.4178	6.0400	6.04	1	6.04
仮眠室(女性)	7.950 × 1.500 = 0.470 × 1.200 = 1.630 × 2.530 = 1.720 × 0.950 =	11.9250 0.5640 4.1239 1.6340	21.0307	21.03	1	21.03
W仮眠1トイレ	1.720 × 0.950 =	1.6340	1.6340	1.63	1	1.63
W洗面室	1.690 × 2.120 = 1.170 × 2.530 = 3.025 × 1.990 =	3.5828 2.9601 6.0198	6.5429	6.54	1	6.54
M仮眠1・2	x =	x	6.0198	6.01	2	12.02
M仮眠3	1.110 × 3.190 = 0.890 × 3.040 =	3.5409 2.7056	6.2465	6.24	1	6.24
倉庫2	4.140 × 1.800 = 4.055 × 2.220 = 2.160 × 2.950 =	7.4520 9.0021 6.3720	16.4541	16.45	1	16.45
医療機材保管庫	x =	x	6.3720	6.37	1	6.37
救急消毒室	7.950 × 4.330 =	34.4235	36.6790	36.67	1	36.67
救急備品庫	1.735 × 1.300 = 4.420 × 1.800 = 4.370 × 0.350 =	2.2555 7.9560 1.5295	9.4855	9.48	1	9.48
救急シャワー室	1.845 × 2.150 =	3.9668	3.9668	3.96	1	3.96
出動準備室	13.215 × 6.130 =	81.0080	81.0080	81.00	1	81.00
車両関係資機材庫	3.675 × 6.130 =	22.5278	22.5278	22.52	1	22.52
外部トイレ	3.460 × 1.530 = 1.740 × 0.950 =	5.2938 1.6530	6.9468	6.94	1	6.94
資機材庫	4.500 × 3.450 =	15.5250	15.5250	15.52	1	15.52
少量危険物貯蔵庫	3.000 × 3.450 =	10.3500	10.3500	10.35	1	10.35
警防資機材庫	7.500 × 14.850 =	111.3750	111.3750	111.37	1	111.37
ポンプ保管庫	3.800 × 3.350 =	12.7300	12.7300	12.73	1	12.73
空気充填室	3.700 × 3.350 =	12.3950	12.3950	12.39	1	12.39
乾燥室	x =	x	12.3950	12.39	1	12.39
緊急車両庫	3.305 × 2.030 = 8.830 × 18.350 = 16.890 × 9.170 = 2.025 × 4.680 = 9.975 × 8.820 = 2.055 × 8.330 = 28.420 × 1.720 = 2.470 × 0.450 =	6.7092 162.0305 154.8813 9.4770 87.9795 17.1182 41.8824 1.1115	438.1956	438.19	1	438.19
廊下(1)	2.000 × 5.570 = 13.585 × 1.980 = 1.980 × 3.100 = 1.920 × 2.920 = 30.530 × 1.980 = 1.890 × 1.800 = 7.500 × 3.300 =	11.1400 26.9983 6.1380 5.6064 60.4494 3.4020 24.7500	75.5958	75.59	1	75.59
廊下(2)	1.890 × 3.100 = 1.920 × 2.920 = 30.530 × 1.980 = 1.890 × 1.800 = 7.500 × 3.300 =	5.8580 5.6064 60.4494 3.4020 24.7500	75.5958	75.59	1	75.59
天井上収納	3.970 × 3.145 =	12.4857	12.4857	12.48	1	12.48
倉庫3	x =	x	12.4857	12.48	1	12.48
三次署 専有面積				1,696.51 m ²	②	
面積按分割合						70.6%

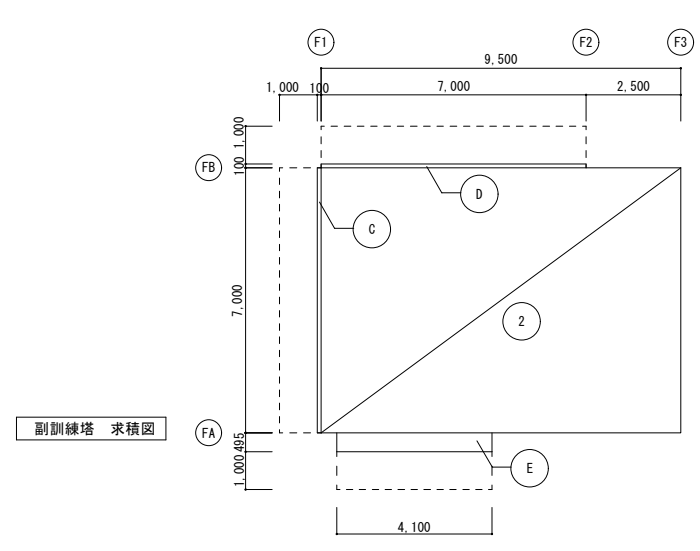
建築面積



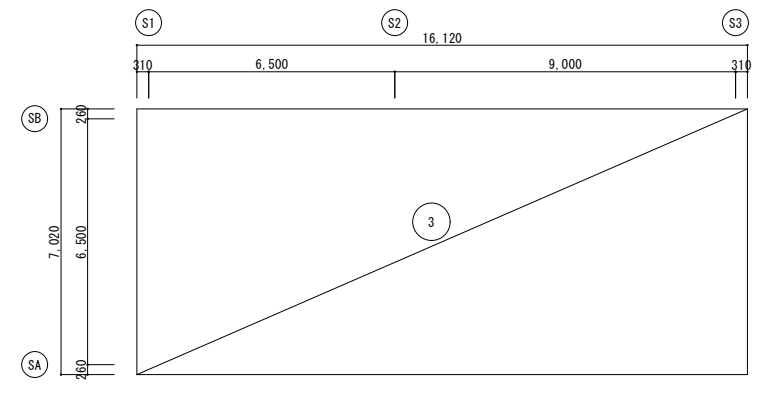
主訓練塔 求積図



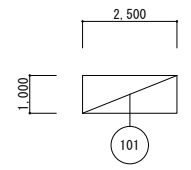
公用車庫 求積図



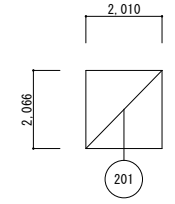
副訓練塔 求積図



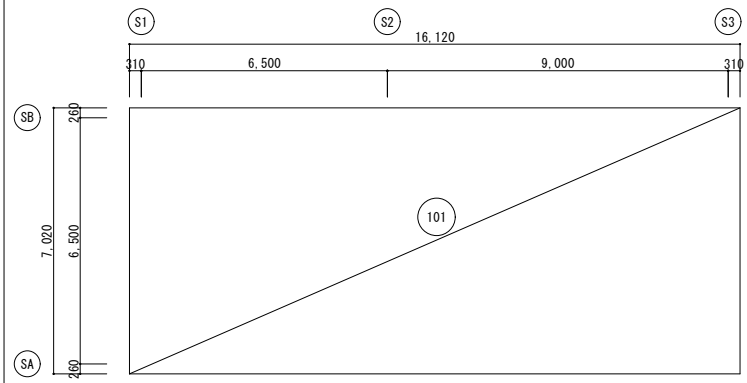
ポンベ庫 1/100



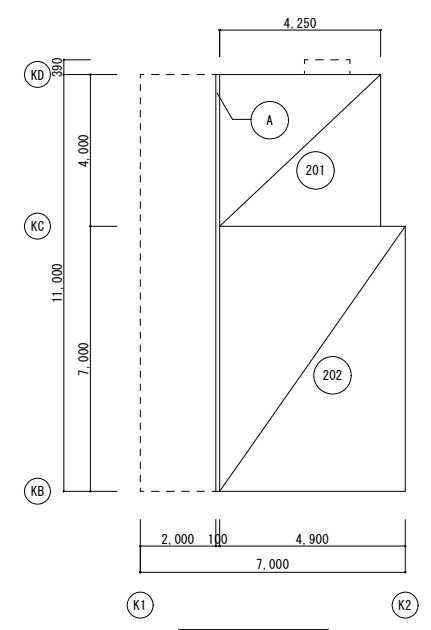
受水槽機械室 1/100



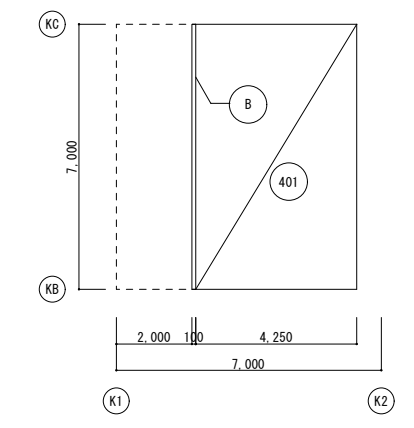
公用車庫庫 床面積 1/100



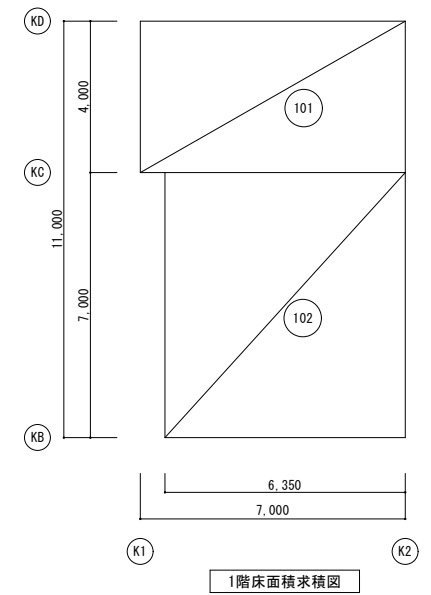
主訓練塔 床面積 1/100



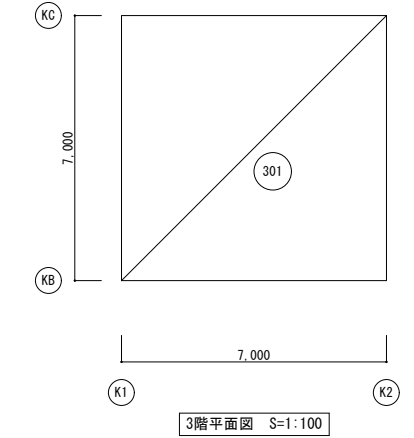
2階床面積求積図



4階床面積求積図 S=1:100

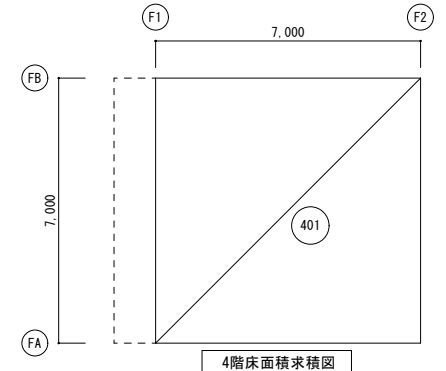


1階床面積求積図

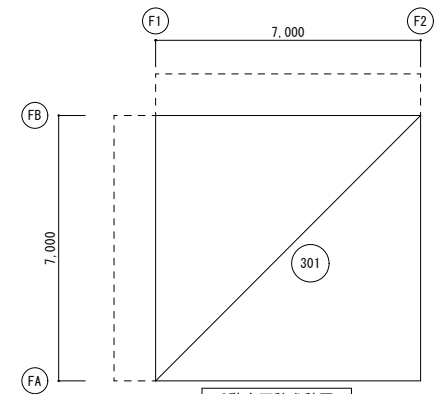


3階床面積求積図 S=1:100

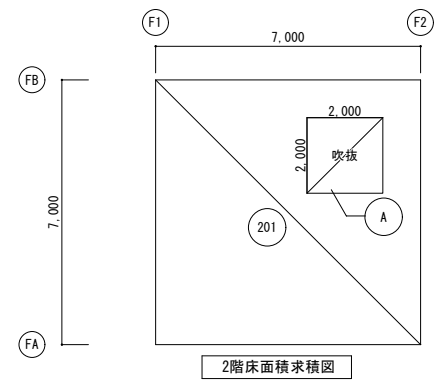
副訓練塔 床面積 1/100



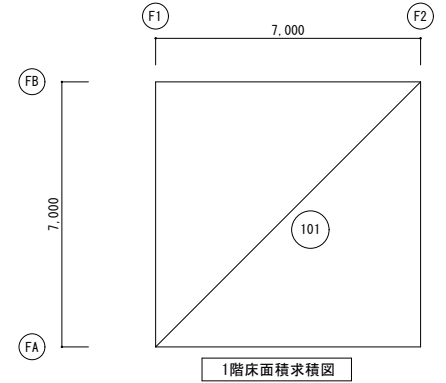
4階床面積求積図



3階床面積求積図



2階床面積求積図



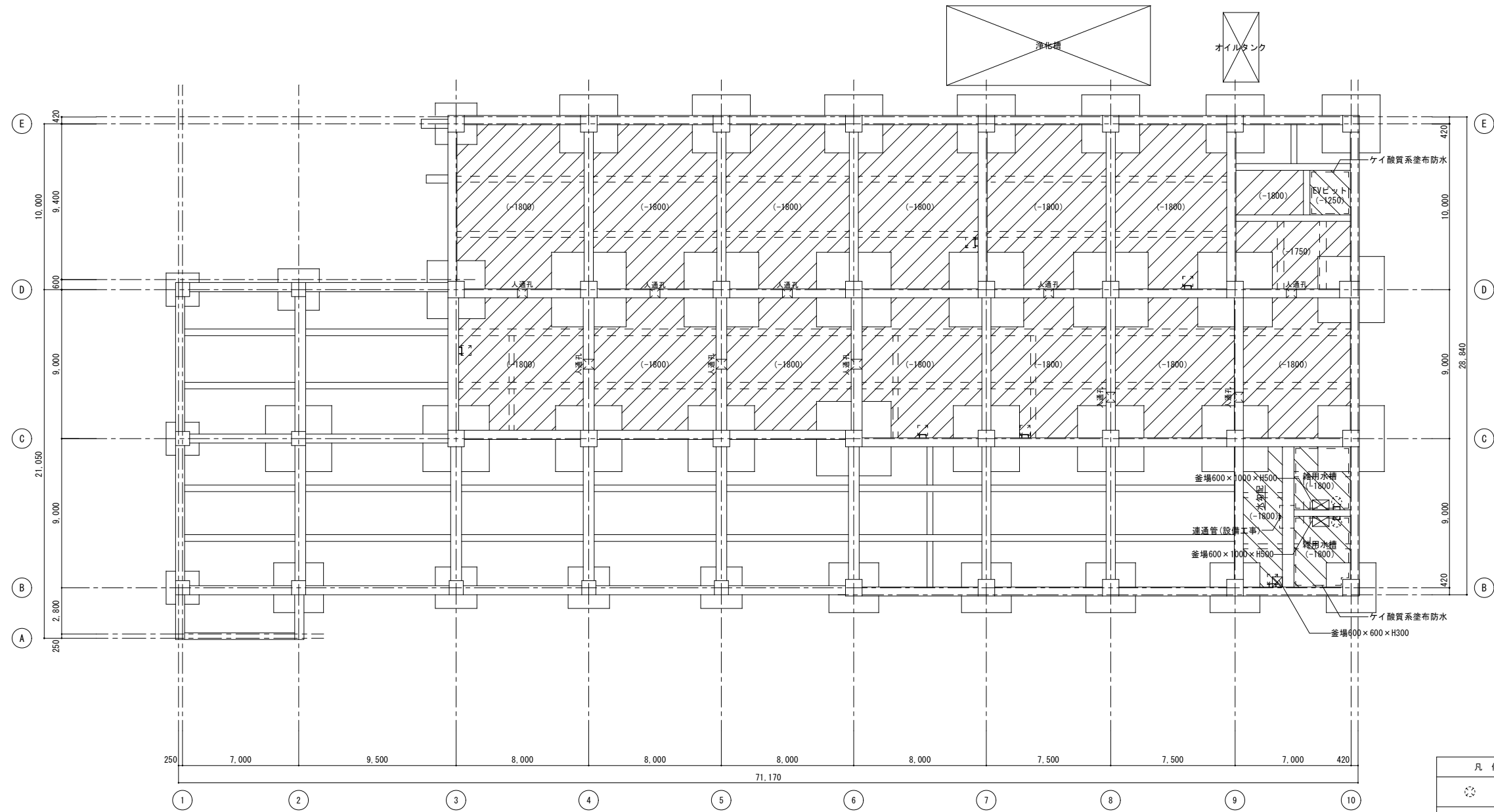
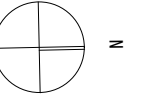
1階床面積求積図

主訓練塔 建築面積 計算式		副訓練塔 建築面積 計算式		公用車庫庫 建築面積 計算式		受水槽機械室 建築面積 計算式		公用車庫庫 延床面積 計算式		主訓練塔 延床面積 計算式		副訓練塔 延床面積 計算式	
①	7.00 × 11.00 = 77.000	②	9.50 × 7.00 = 66.500	③	16.12 × 7.02 = 113.1624	1F (201)	2.01 × 2.066 = 4.1526	1F (101)	16.12 × 7.02 = 113.1624	4F (401)	4.25 × 7.00 = 29.750	4F (401)	7.00 × 7.00 = 49.00
④	5.00 × 1.50 = 7.500	⑤	0.10 × 7.00 = 0.700							⑥	0.10 × 7.00 = 0.700	3F (301)	7.00 × 7.00 = 49.00
⑦	0.10 × 11.00 = 1.100	⑧	7.00 × 0.10 = 0.700							3F (301)	7.00 × 7.00 = 49.000	2F (201)	7.00 × 7.00 = 49.00
		⑨	4.10 × 0.495 = 2.0295	合計	113.16	合計	4.15	合計	113.16	2F (201)	4.25 × 4.00 = 17.000	1F (101)	7.00 × 7.00 = 49.00
										⑩	4.90 × 7.00 = 34.300		
										⑪	0.10 × 11.00 = 1.100	52.400	
										1F (101)	7.00 × 4.00 = 28.000		
										⑫	6.35 × 7.00 = 44.450	72.450	
合計	85.60	合計	69.92	合計	2.50	合計	4.15	合計	2.50	合計	204.30	合計	192.00

■ 内部仕上表																																	
1 【VOC ○箇所】：化学物質の濃度測定の対象室及び測定箇所数を示す。																																	
階	室名	居室	内装制限	排煙設備	床仕上高	床				天井				備考	階	室名	居室	内装制限	排煙設備	床仕上高	床				天井				備考				
						スラブ高	下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	下地								仕上	廻縁	天井高	スラブ高	下地	仕上	仕上	高さ		下地	仕上	下地	仕上
1階	風除室(1)		準	-	±0 -30	F1	剥脱石t11 AL製靴ふきマット	SUS	60	W1 W2	RC打放し(杉板型枠)+クリア塗装 壁紙張り	C1	アルミパネルt3.0	Ⓐ	2.750	自動ドア防護柵 点字紙(SUS製) 館名サイン (電気設備工事：自立式インターホン)	医療産業廃棄物保管庫		-	-	±0 -10	F3	VS(4)t2.0	VB	60	W2-W3	素地	C3	スラブ表し 硬質ウレタンフォーム吹付	-	直天 (3.700)	床下点検口	
	風除室(2)		準	-	±0 -30 -80	F1	剥脱石t11 AL製靴ふきマット	AL 入幅木 VB	60	W2-W3 W9	壁紙張り	C1	アルミパネルt3.0	Ⓐ	2.900		救急倉庫		-	-	±0 -10	F3	VS(4)t2.0	C VB	300 60	W2-W3 W7 W10	素地 (RC巾木部)素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3.900)		
	エントランス		準	-	±0 -30	F1	剥脱石t11	AL 入幅木 VB	60	W1 W2-W3 W9	RC打放し(杉板型枠)+クリア塗装 磁器質タイル張り EP	C2	DRt9.0	Ⓐ	2.900	総合案内サイン 床下点検口(化粧蓋タイプ) 窓口カウンター 点字紙(SUS製) ビクチャーレール	救急シャワー室		-	-	±0 -150	F7	VS(2)t2.0	C VB	300 60	W5-W7 W10	壁紙張り (RC巾木部)EP-G	C1	FKt6.0+EP-G	Ⓥ	2.500	ユニットシャワー0812 鏡、タオルハンガー	
	三次事務室 【VOC 2箇所】		○	難	自	±0 -50	F2	Tct6.5	VB	60	W2-W3	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.450 2.700	ビクチャーレール 窓口カウンター	出勤準備室		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W5	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.700	鏡 床下点検口 防火服ロッカー
	三次署給湯室		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W3	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	システムキッチンW1200(IHなし)	車両関係資機材庫		-	-	±0 -10	F3	無機系塗床(1)	VB	60	W3	素地	C3	スラブ表し 硬質ウレタンフォーム吹付	-	直天 (3.900)	床下点検口	
	会議室 【VOC 2箇所】		Ⓥ	Ⓡ	告へ5	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.700		外部トイレ		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W6-W7	EP-G	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	ライニング、鏡 トイレブース、汚垂タイル
	署長室		Ⓥ	Ⓡ	告へ5	±0 -50	F2	Tct6.5	VB	60	W2-W3	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.700	ビクチャーレール 鏡	緊急車両車庫		-	-	±0 -150 -10 -160	F3	無機系塗床(2) (水勾配)	-	-	W4 W10	EP 複層塗材E	C1 C4	GB-NC(T)t9.5 折板屋根表し (鉄部SIP塗装)	Ⓥ	2.500 直天	ライニング、鏡
	三次署書庫		-	-	±0 -30	F3	VS(2)t2.0	VB	60	W2-W3	素地	C3	スラブ表し	-	直天	可動書架(レール床埋込) 床下点検口	少量危険物貯蔵所		不	-	±0 -10	F3	無機系塗床(1)	VB	60	W4	素地	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	溜槽	
	体力錬成室 【VOC 2箇所】		○	難	自	±0 -10	F3	VS(2)t2.0 VS(3)t4.5	VB	60	W2-W3	壁紙張り 鏡張りt5(H2000まで)	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.500 2.700	鏡	資機材庫		-	-	±0 -10	F3	無機系塗床(1)	VB	60	W4	素地	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	
	食堂・厨房		○	不	自	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3	壁紙張り(不燃) キッチンパネル(不燃)	C2	DRt9.0 FKt6.0+EP-G	Ⓥ	2.500 2.700	厨房(流し台、コンロ台) 畳スペース キッチンカウンター	乾燥室		-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0	VB	60	W4	素地	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	物干しパイプ
	シャワー・脱衣室		-	-	±0 -10 -250	F3 F7	VS(1)t2.0	VB	60	W6 W8	FK-Dt6.0	C1	FKt6.0+EP-G	Ⓥ	2.500	ユニットシャワー0812 鏡、床下点検口 洗面カウンター、ライニング 洗面小物入れ	ボンベ保管庫		-	-	±0 -10	F3	無機系塗床(1)	VB	60	W4	素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3.200)	ボンベ棚	
	リネン室		-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0	VB	60	W3	素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3.850)	床下点検口	警防資機材庫		-	-	±0 -120 -10 -130	F3	無機系塗床(1) (水勾配)	VB	60	W4	素地	C4	折板屋根表し (鉄部SIP塗装)	-	直天		
	洗濯・乾燥室		-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0	VB	60	W2-W3	素地	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	ライニング	廊下(1) 廊下(2)		準	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W3-W5	壁紙張り (掲示板)化粧フィルム張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.500	掲示板 コーナーミラー	
	M飯服1~14 【VOC 1箇所】		○	難	自	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り	C2	壁紙張り	Ⓥ	2.500		ポンプ室		-	-	±0 -30	F3	防塵塗装	-	-	W10	素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3.900) (3.870)	ライニング 床下点検口
M飯服15~26		Ⓥ	Ⓡ	告へ5	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り(不燃)	C2	壁紙張り(不燃)	Ⓥ	2.500		廊下(5)		準	-	±0 -30	F3	複合フローリングt15 (土足仕様)	VB	60	W1 W2-W3	磁器質タイル張り 壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.650		
M個室トイレ W個室トイレ		-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0	VB	60	W3	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	レストルームドレッサー 鏡	大会議室兼研修室		○	難	自	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W5	壁紙張り 杉板張りt12+WP	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.800	移動間仕切	
仮眠室(女性)		○	難	自	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3	壁紙張り	C2	壁紙張り	Ⓥ	2.500		倉庫(大会議室)		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W4-W5	素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3.900)		
W洗面室		-	-	±0 -10 -250	F3 F7	VS(1)t2.0	VB	60	W3 W8	壁紙張り	C2	FK-Dt6.0	Ⓥ	2.500	タオルハンガー ライニング ユニットシャワー0812	消防本部事務室		○	難	自	±0 -50	F2	Tct6.5	VB	60	W2-W3	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.700		
W飯服トイレ		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3	壁紙張り	C2	壁紙張り	Ⓥ	2.500	レストルームドレッサー 鏡	廊下(4)		準	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W5	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.500			
W飯服1~3		Ⓥ	Ⓡ	告へ5	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W3-W4	壁紙張り(不燃)	C2	壁紙張り(不燃)	Ⓥ	2.500		印刷室		-	-	±0 -50	F3	Tct6.5	VB	60	W3-W5	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ	2.500		
救急消毒室・救急備品庫		-	-	±0 -150	F4	無機系塗床(1) (水勾配) 屋内用防水層	C	300	W6-W8 W5-W10	FK-Dt6.0 巾木部:防水立上り+モルタル+ 床仕上材立上り	C3	スラブ表し	-	直天 (3.900)	排水溝 流し台、地流し ライニング	本部給湯室		-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0	VB	60	W2-W3 W5	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ	2.500	システムキッチンW1500(IH1口)		

■ 内部仕上表																																			
1 【VOC 〇箇所】：化学物質の濃度測定の対象室及び測定箇所数を示す。																																			
階	室名	居室	内装制限	排煙設備	床仕上高	床				天井				備考	階	室名	居室	内装制限	排煙設備	床仕上高	床				天井				備考						
						スラブ高	下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	仕上								高さ	下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	仕上		高さ	下地	仕上	仕上	高さ	
2階	消防長室	○	難	自	±0 -50 -200	F2 F5	Tct6.5		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ2	2,700	ビクチャーレール			-	-	-1250	F6	(ビット部のみ)ケイ酸質系塗布防水 (ビット部以外)素地	-	-	W10	ケイ酸質系塗布防水(ビット部のみ) 素地(ビット部以外)	C3	スラブ表し	-	直天			
	相談室	Ⓧ	Ⓧ	告へ5	±0 -10	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W2-W3 W4-W5	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ2	2,500						ビット図による ビット図による	F6	ケイ酸質系塗布防水	-	-	W10	ケイ酸質系塗布防水	C3	断熱材表し	-	直天			
	廊下(3)	-	-	-	±0 -10 -200	F3 F5	VS(1)t2.0 VS(1)t2.0		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り	C2	DRt9.0	Ⓥ2	2,500	コーナーミラー						ビット図による ビット図による	-	-	W10	素地	C3	断熱材表し	-	直天				
	指令室	Ⓧ	Ⓧ	告へ5	±0 -200	F5	Tct6.5		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ2	3,000																			
	通信指令課事務室 【VOC 1箇所】	○	Ⓧ	告へ5	±0 -200	F5	Tct6.5		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ2	3,000	システムキッチンW1500(IH1口)																		
	対策室(作戦室)	○	Ⓧ	告へ5	±0 -200	F5	Tct6.5		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り(不燃)	C2	DRt9.0	Ⓥ2	3,000																			
	サーバー室	-	-	-	±0 -200	F5	Tct6.5		VB	60	W2-W3 W5	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ2	3,000	スラブ下R吹付t25																		
	更衣室	-	-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W2-W3	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ2	2,500	洗面カウンター 鏡																		
	本部書庫	-	-	-	±0 -30	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W2-W3	壁紙張り	C3	スラブ表し	-	直天	可動書架(レール床埋込)																		
	仮眠室1~5	Ⓧ	Ⓧ	告へ5	±0 -10	F3	VS(1)t2.0		VB	60	W2-W3 W4	壁紙張り(不燃)	C2	壁紙張り(不燃)	Ⓥ2	2,500																			
	女性職員専用エリア	○	難	自	±0 -10	F3	VS(1)t2.0		VB	60	W2-W3	壁紙張り	C2	壁紙張り	Ⓥ2	2,500																			
	W仮眠トイレ	-	-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0		VB	60	W3	壁紙張り	C2	壁紙張り	Ⓥ2	2,500	レストルームドレッサー 鏡																		
	W洗面室	-	-	-	±0 -10 -250	F3	VS(1)t2.0		VB	60	W3	壁紙張り	C2	FK-Dt6.0	Ⓥ2	2,500	タオルハンガー ユニットシャワー0812																		
	個室トイレ	-	-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W3	壁紙張り	C1	GB-NC(T)t9.5	Ⓥ2	2,500	レストルームドレッサー タオルハンガー 鏡																		
共通	倉庫(1) 倉庫(3)	-	-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W2-W3 W4	素地	C3	スラブ表し	-	直天 (3,900)																			
	倉庫(2)	-	-	-	±0 -10	F3	VS(2)t2.0		VB	60	W2-W3	素地	C3	一部硬質ウレタンフォーム吹付	-	直天 (3,700)																			
	屋内階段	-	-	-	±0 -30	F3	タモ集成材t20		-	-	-	鉄製手すり+SOP	C2	DRt9.0	Ⓥ2	6,550	点字板(SUS)																		
	MWC WMC HWC	-	-	-	±0 -10	F3	VS(1)t2.0 汚重タイル		VB	60	W2-W3 W5-W7 W8	FK-Dt6.0 杉板張りt12+WP	C2	DRt9.0	Ⓥ2	2,500	洗面カウンター、ライニング、手すり トイレアース、鏡、鉄板上げ手すり 【以下設備工事】大便器、手洗器、オストメイト ペーパーエリア、フィットリングボード、 ペーパーベッド【下地補強は建築工事】																		
	PS	-	-	-	±0 -10	F3	防塵塗装		-	-	-	LGS表し	-	スラブ表し	-	直天 (3,900)																			
	EPS	-	-	-	±0 -10 -200	F3	防塵塗装		-	-	W8	素地	-	スラブ表し	-	直天 (3,900)																			

NOTE



ピット平面図 S=1:150

凡例	
	上部マンホール 600φ
	上部床下点検口 600×600
	ステンレスタラップ付 22φ W400@300
	人通孔 600φ
	(上部ステンレス製つかみ金物)
	砂利敷きを示す (ピット床)
	スラブを示す (ピット床)
(***)	FLからのピット床スラブを示す。
※特記なき限りは埋戻しとする	

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

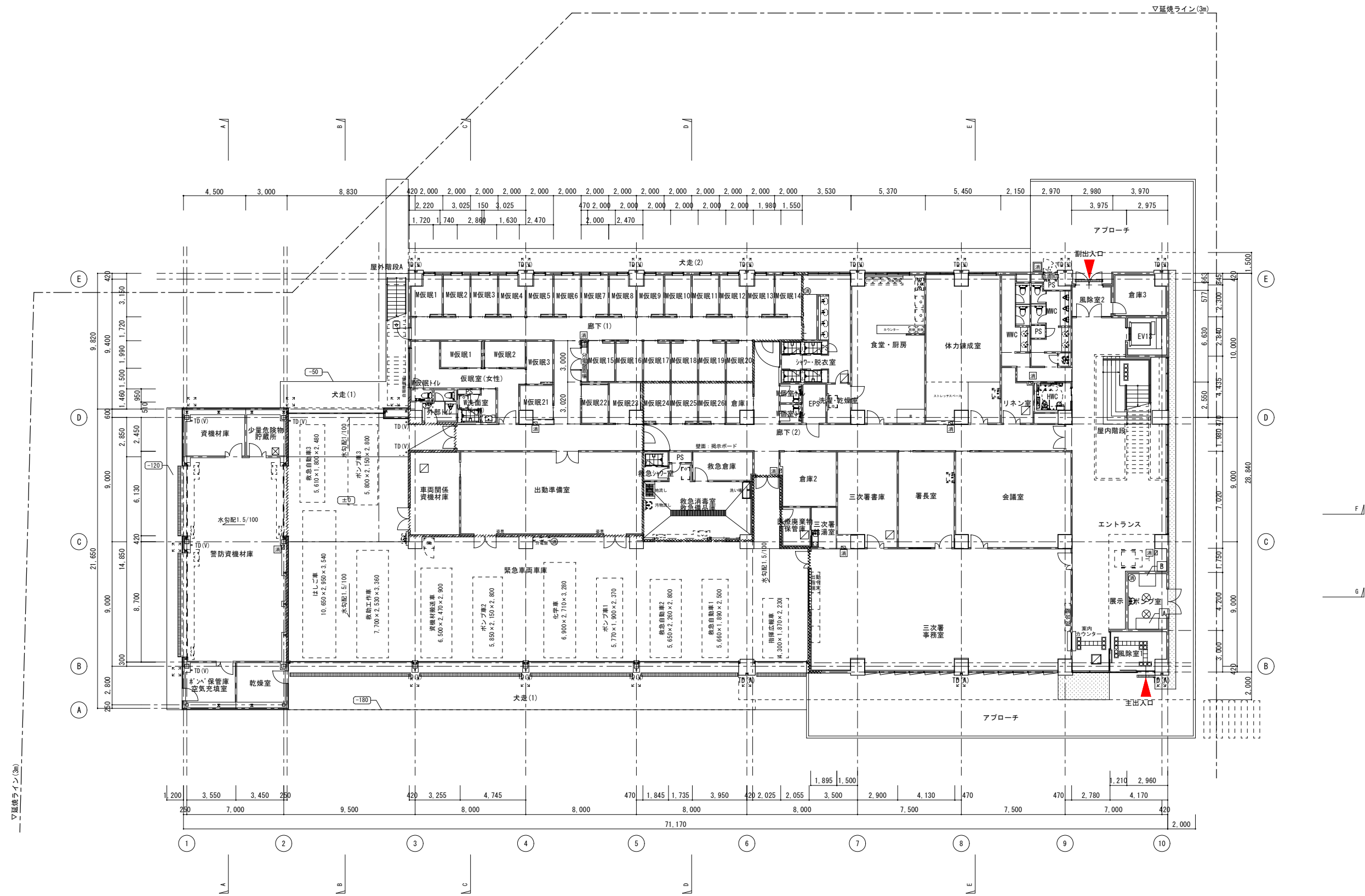
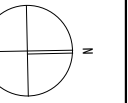
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】ピット図

SCALE A1: 1/150
A3: 1/300

DWG No.

A
020



1階平面図 S=1:150 (A1)

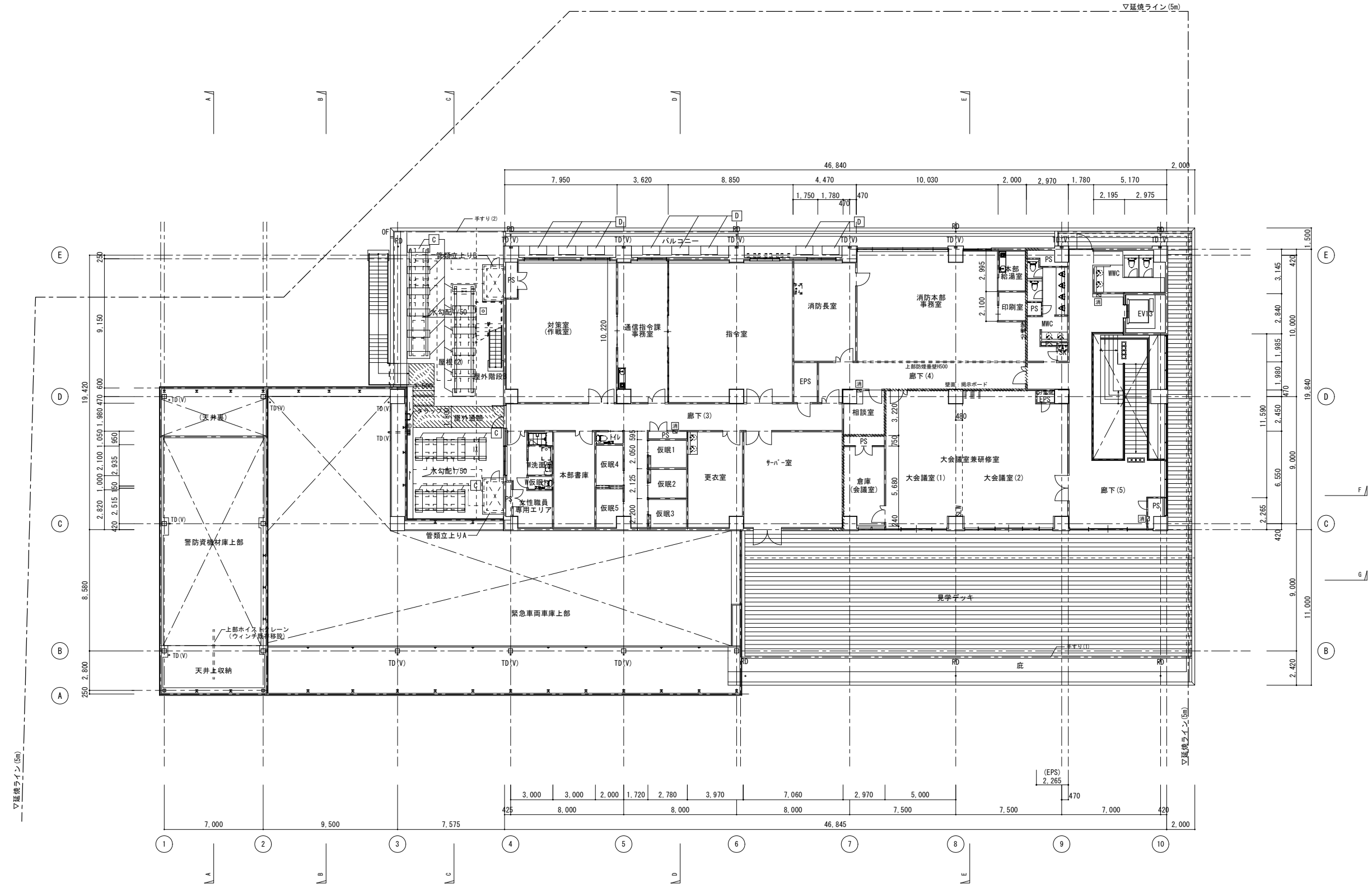
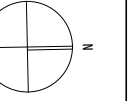
■凡例

TD (A)	アルミ製 100角(角型)	消	消火器ボックス(埋込型)	消	消火器ボックス2本用(壁掛け式)	⊗	マンホール蓋600φ	////	面積区分
TD (V)	カラー塩ビ製100φ	消	消火器ボックス(床置型)	⊕	FLからの床レベルを示す(特記なき限りFL±0)	⊗	ためます 300×300×H300	////	異種用途区分
RD	ルーフトレ	⊕	床下点検口(600角)	⊕	ためます 300×300×H300	⊗	面積区分兼異種用途区分	⊗	面積区分兼異種用途区分
HD	横引きドレ	⊕	床下点検口 化粧蓋タイプ(600角)	⊕	設備基礎(記号判別は部分詳細図参照)				

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【庁舎棟】1階平面図
 SCALE A1: 1/150
 A3: 1/300
 DWG No. A 021

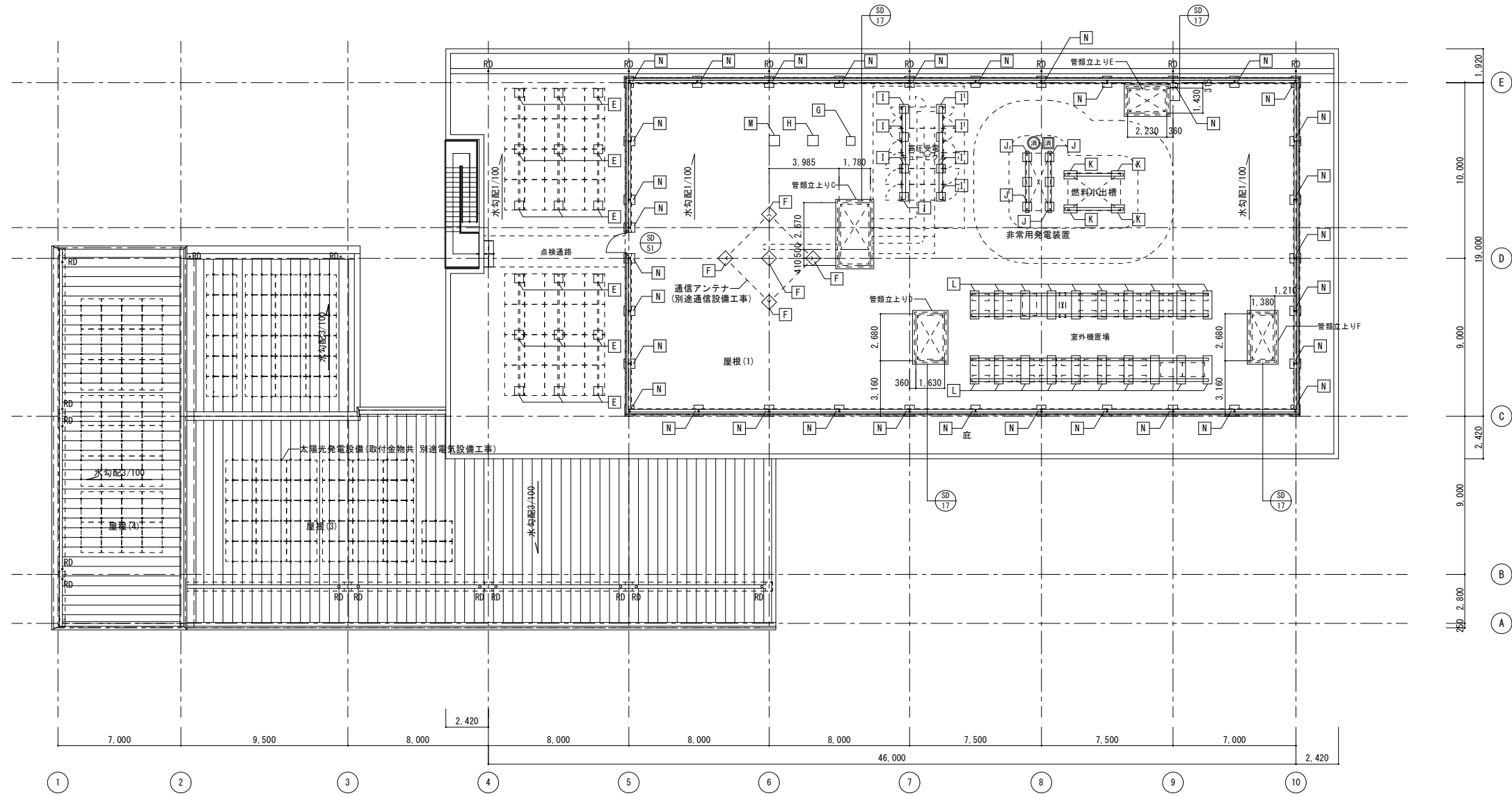
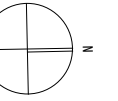


2階平面図 S=1:150(A1)

■凡例

TD (A)	アルミ製 100角(角型)	消	消火器ボックス (埋込型)	////	番付区画
TD (V)	カラー塩ビ製100φ	消	消火器ボックス (床置型)	OF	オーバーフロー管 SUS製 60φ
RD	ルーフトレン	床	床下点検口 (600角)		
HD	横引きドレン	床	床下点検口 化粧蓋タイプ (600角)		

NOTE



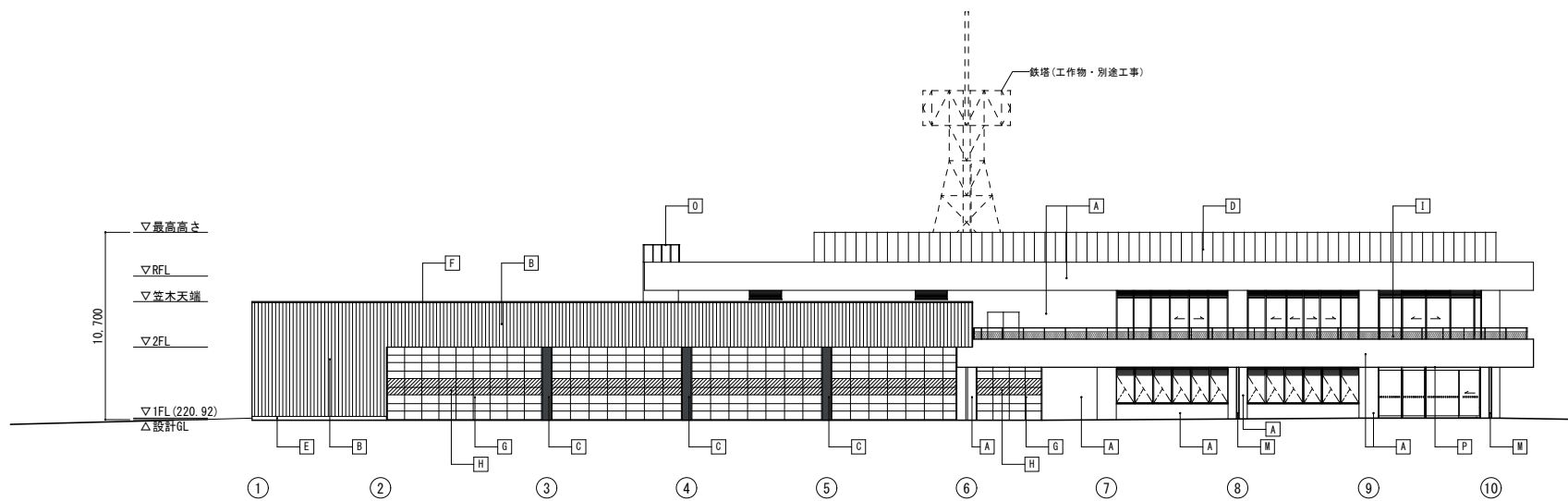
屋根伏図 S=1:150 (A1)

■凡例

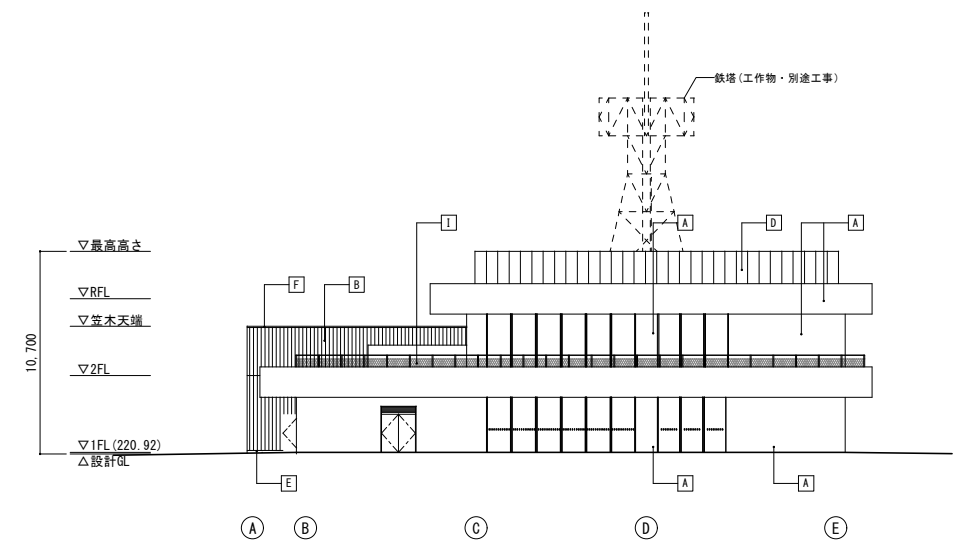
TD (A)	アルミ製 100角(角型)	消	消火器ボックス (埋込型)	消	消火器ボックス2本用(壁掛け式)	⊙	建具符号を示す
TD (V)	カラー塩ビ製100φ	消	消火器ボックス (床置型)	消	大型消火器(電気設備工事)		
RD	ルーフトレン						
HD	横引きドレン	■	設備基礎 (記号判別は部分詳細図参照)				

NOTE

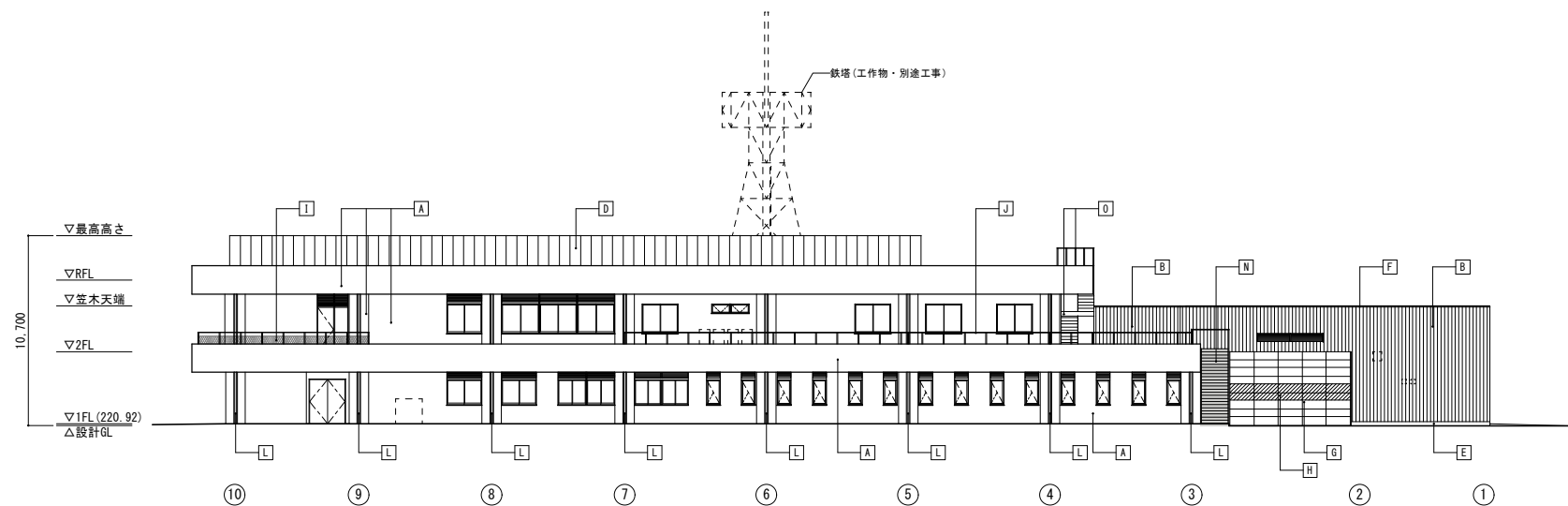
一級建築士 第340646号	株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	DWG No.
一級建築士 第340646号	佐藤 彰洋	【庁舎棟】R階平面図	A 023



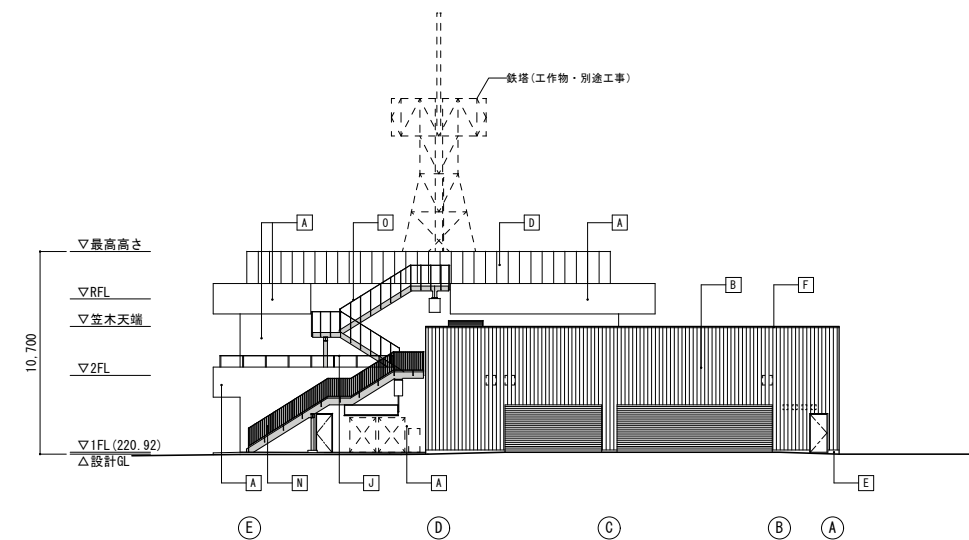
東側立面図 S=1:200 (A1)



北側立面図 S=1:200 (A1)



西側立面図 S=1:200 (A1)



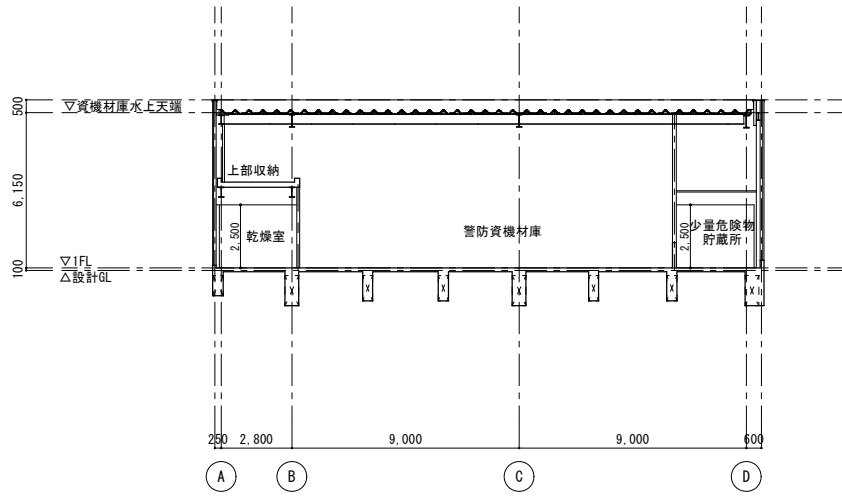
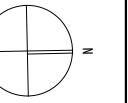
南側立面図 S=1:200 (A1)

■凡例

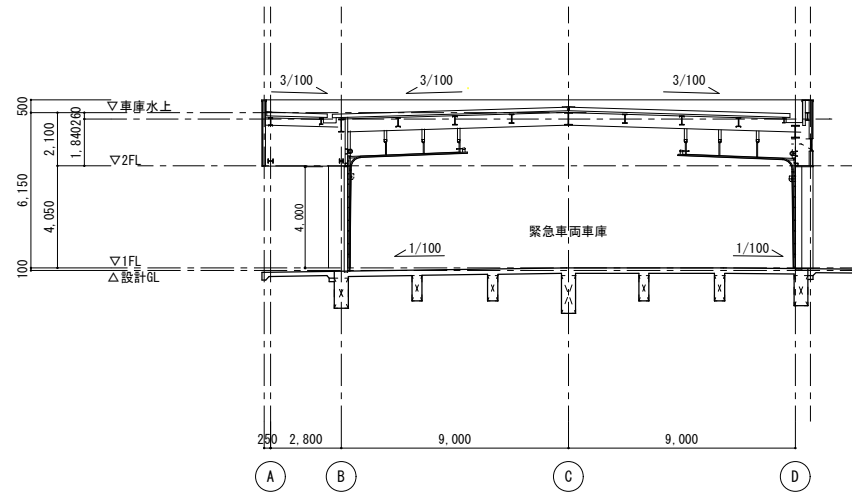
A	外壁・幕板: RC(A)aの上、低汚染型高耐水性フッ素樹脂クリア	E	根廻: RC(A)aの上、撥水材塗布	I	手すり(1) ワイヤーネット
B	外壁: 金属系サイディング	F	笠木: アルミ製既製品	J	手すり(2)
C	外壁: アルミ曲げ加工	G	オーバースライダー: カラーアルミ	K	手すり(3)
D	目隠し壁: ECP(研削素地吸水防止仕様)	H	オーバースライダー: ガラス繊維強化プラスチック (FRP)	L	たてとい: 塩ビ製

NOTE

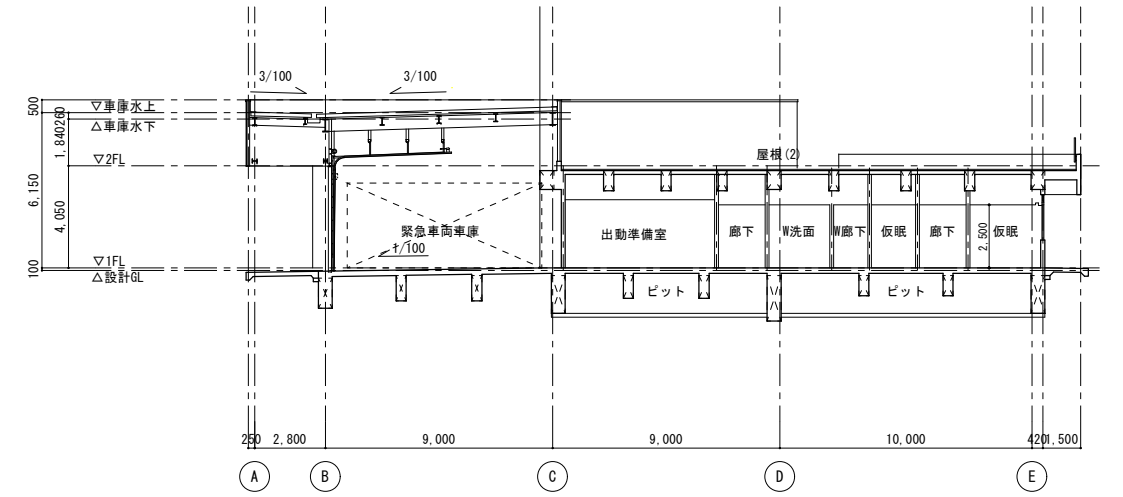
<p>株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号</p>	<p>備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)</p>	<p>【庁舎棟】立面図</p>	<p>SCALE A1: 1/200 A3: 1/400</p>	<p>DWG. No. A 024</p>



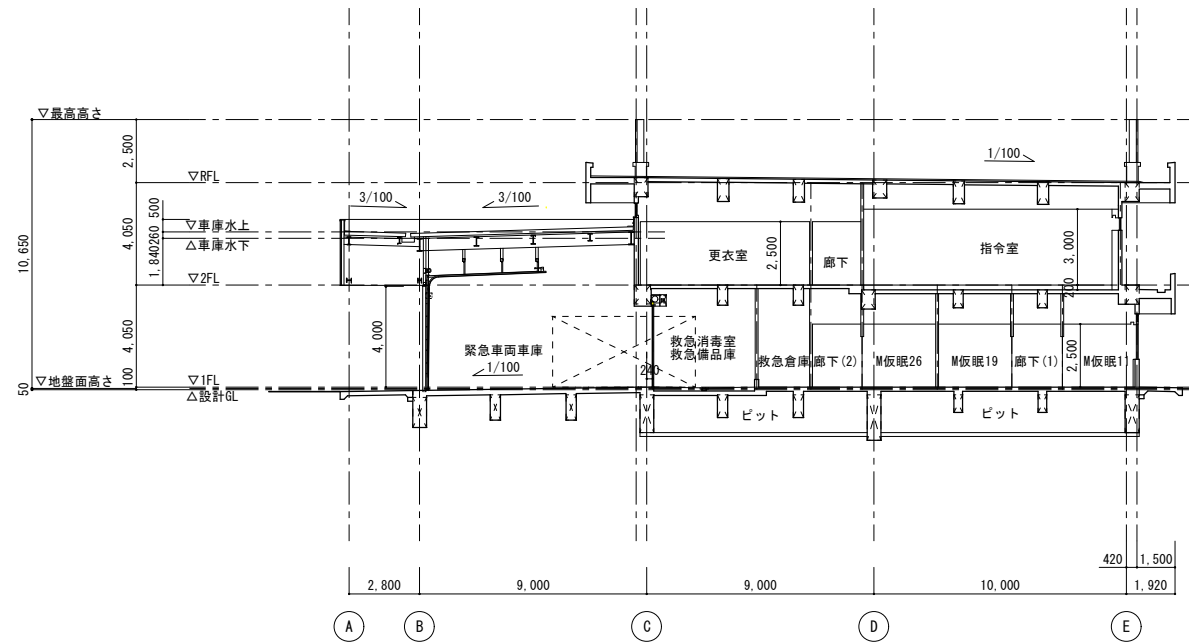
A断面図 S=1:150(A1)



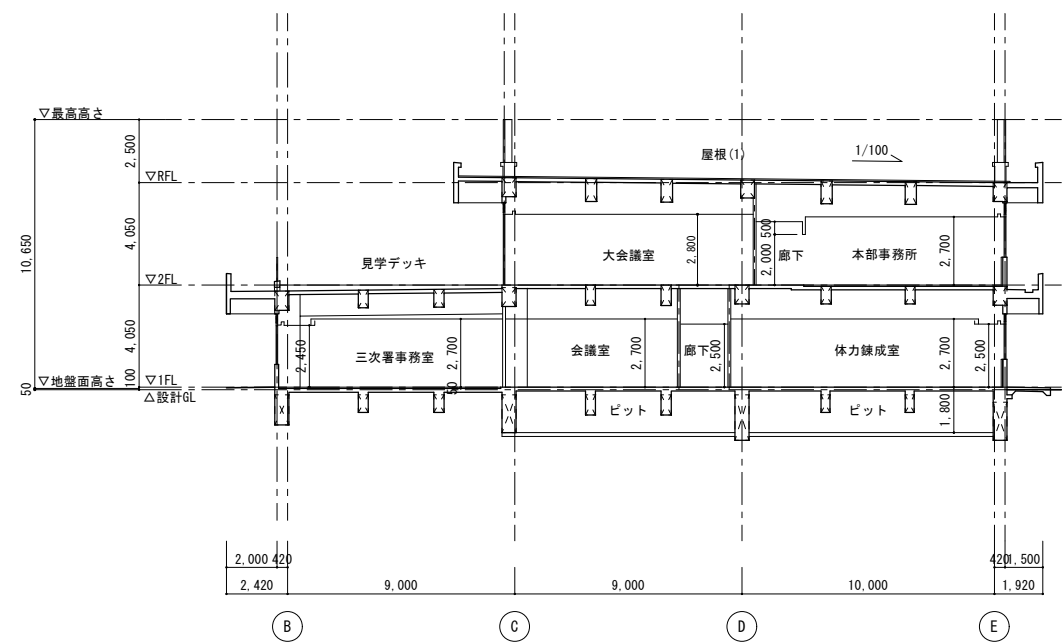
B断面図 S=1:150(A1)



C断面図 S=1:150(A1)



D断面図 S=1:150(A1)

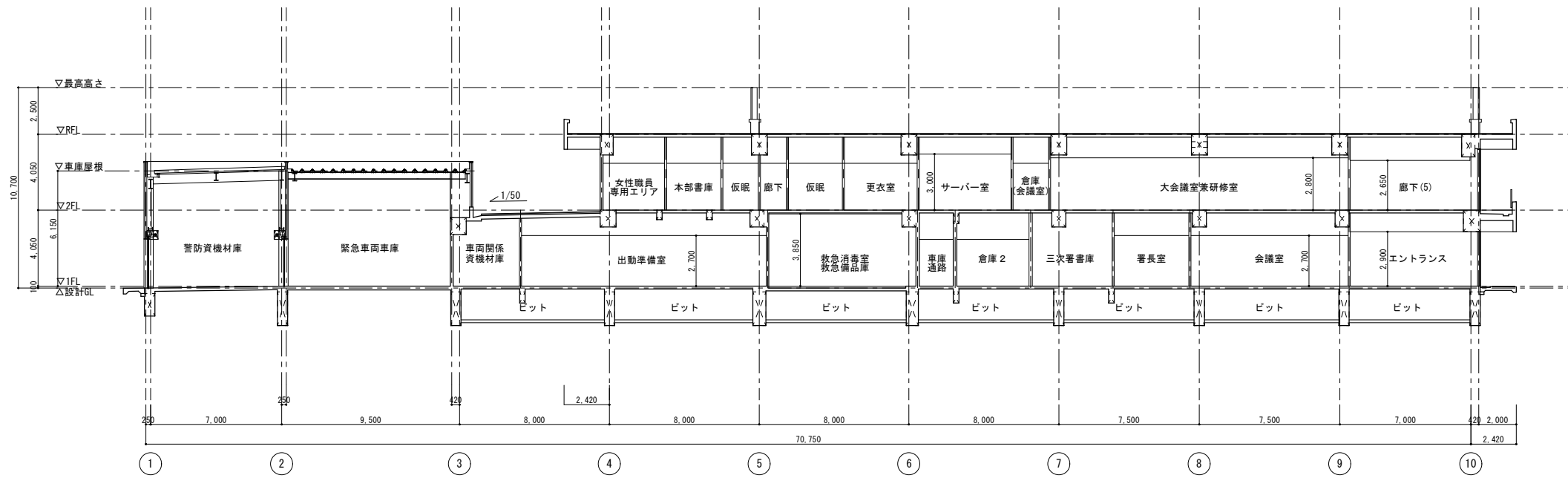
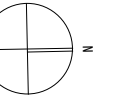


E断面図 S=1:150(A1)

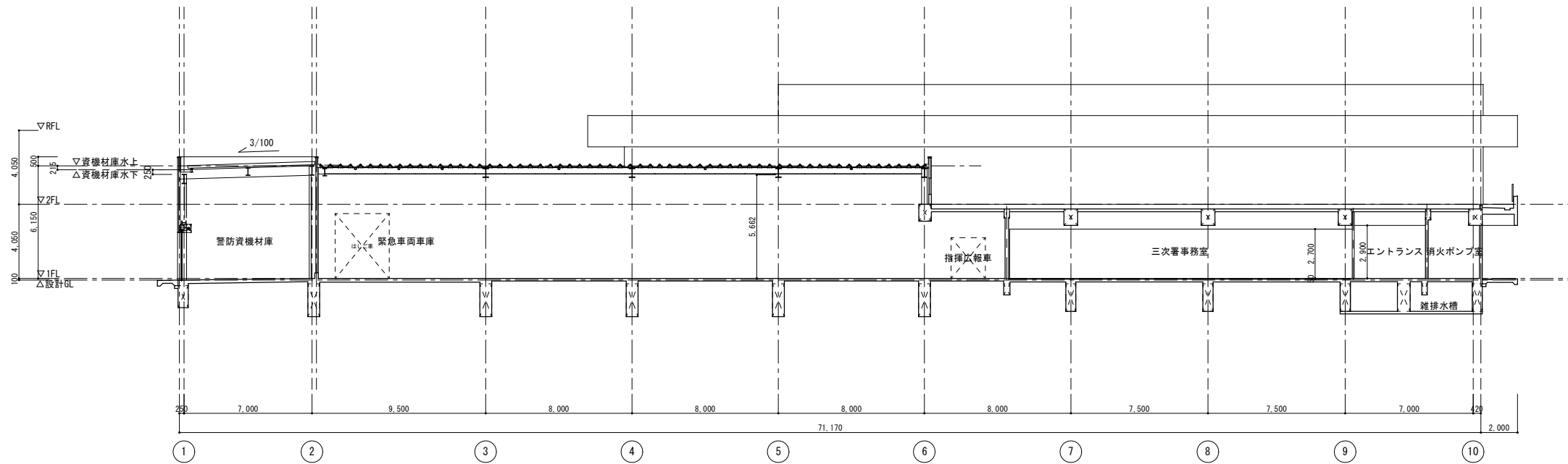
■凡例

TD (A)	アルミ製 100角(角型)	消	消火器ボックス(埋込型)	⊗	マンホール蓋600φ
TD (V)	カラー塩ビ製100φ	消	消火器ボックス(床置型)		
RD	ルーフトレン	☑	床下点検口(600角)		
HD	横引きドレン	☑	床下点検口 化粧蓋タイプ(600角)		

NOTE			株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	DWG No.
			一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋	【庁舎棟】断面図(1)	SCALE A1: 1/150 A3: 1/300



F断面図 S=1:150 (A1)

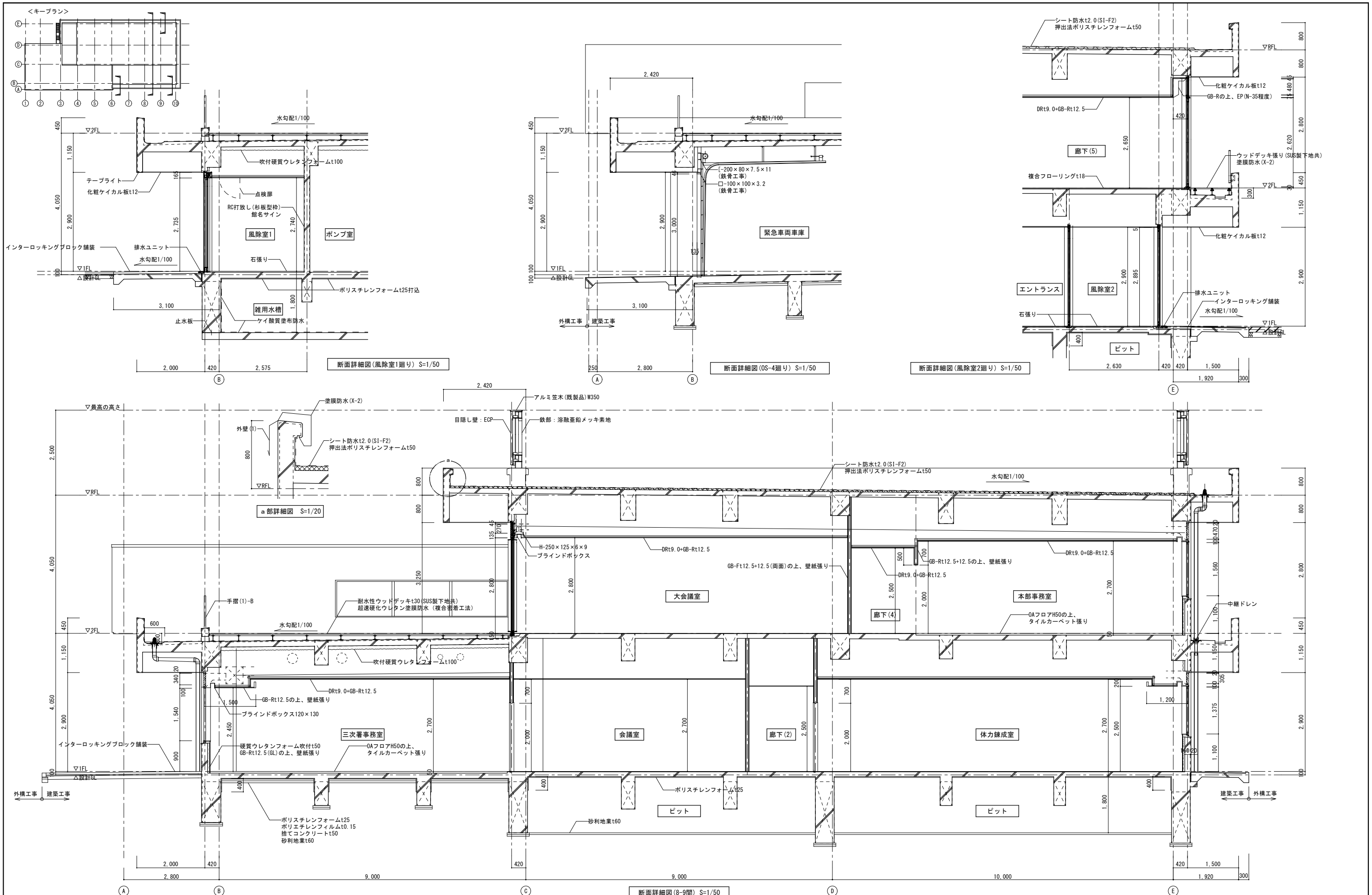


G断面図 S=1:150 (A1)

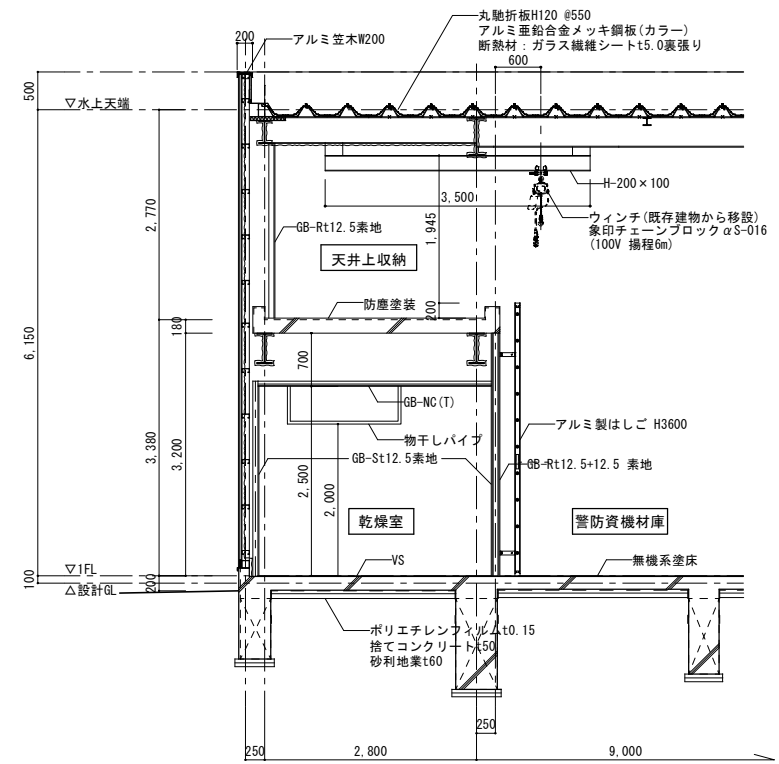
■凡例

TD (A)	アルミ製 100角(角型)	消	消火器ボックス(埋込型)	⊗	マンホール蓋600φ
TD (V)	カラー塩ビ製100φ	消	消火器ボックス(床置型)		
RD	ルーフトレン	☑	床下点検口(600角)		
HD	横引きドレン	☑	床下点検口 化粧蓋タイプ(600角)		

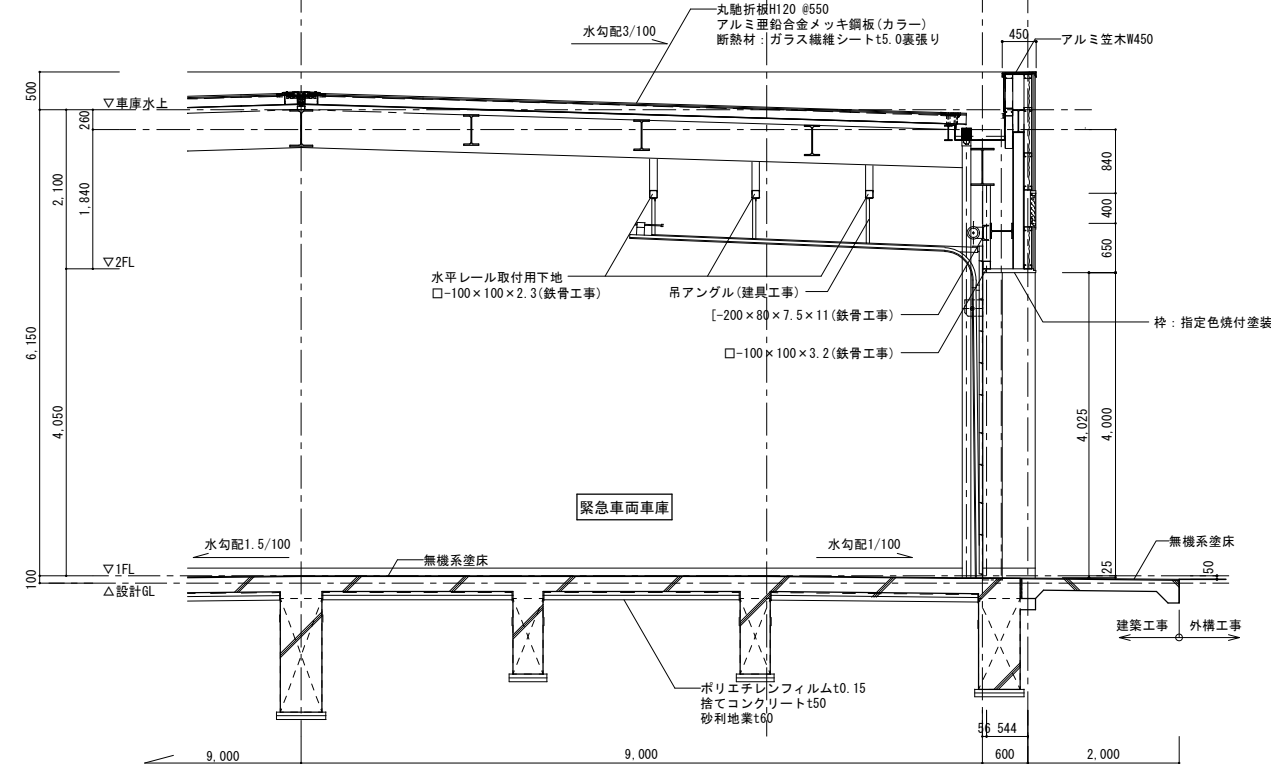
NOTE



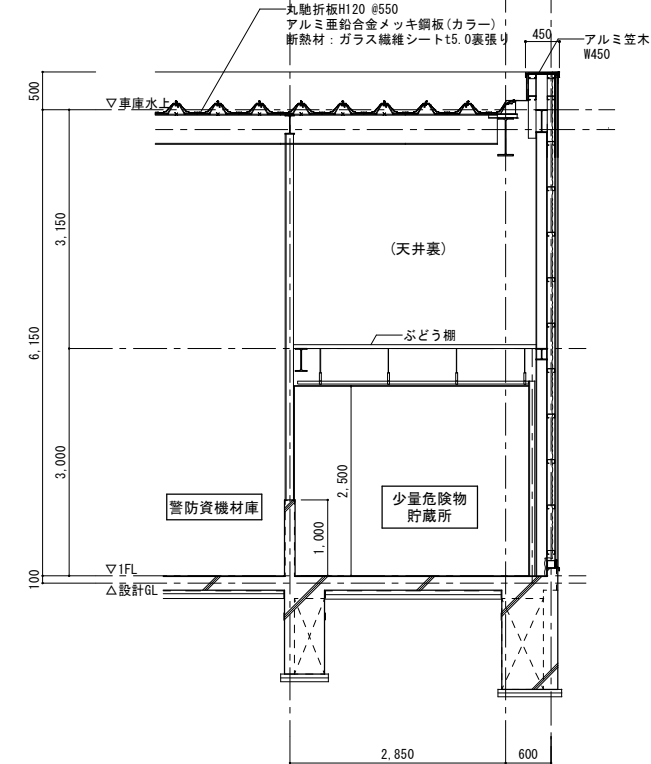
NOTE	株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築) 【庁舎棟】断面詳細図(1)	SCALE A1 : 1/50 A3 : 1/100	DWG No. A 027



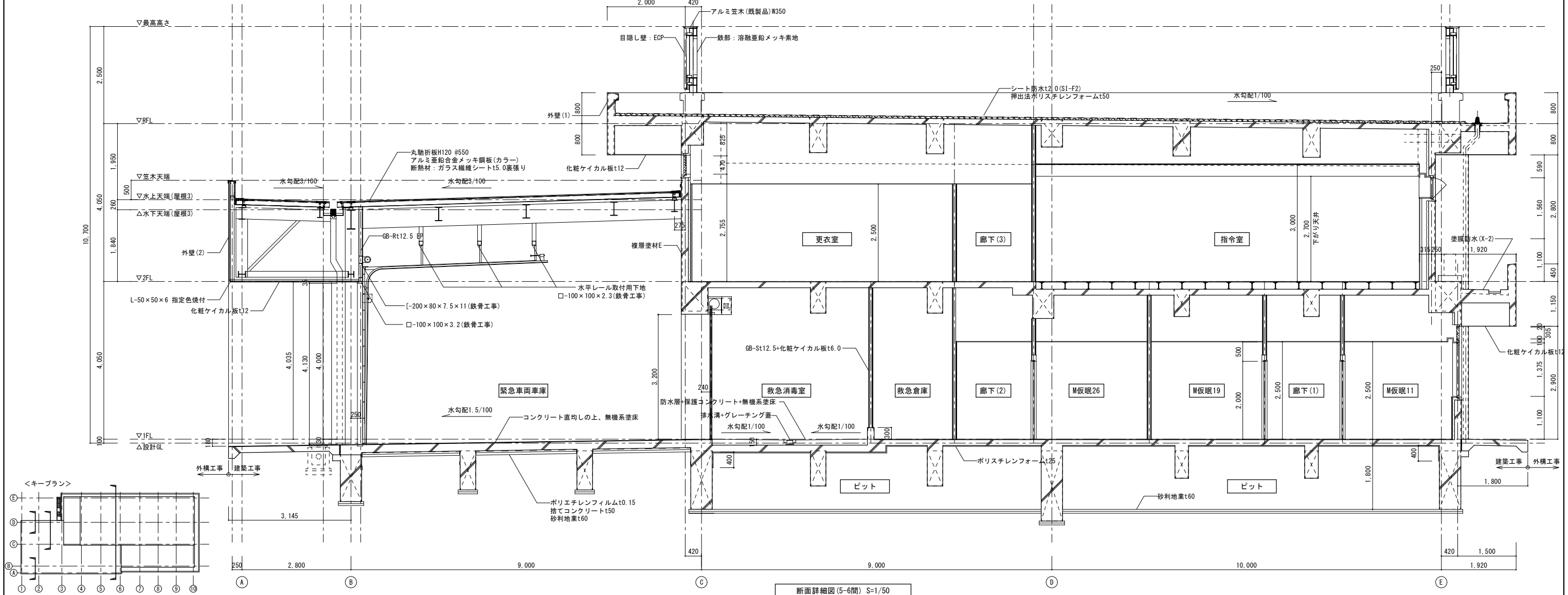
断面詳細図(1-2間) S=1/50



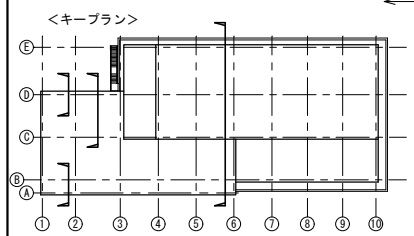
断面詳細図(2-3間) S=1/50

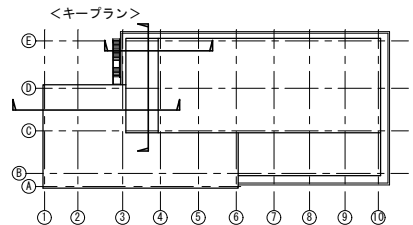
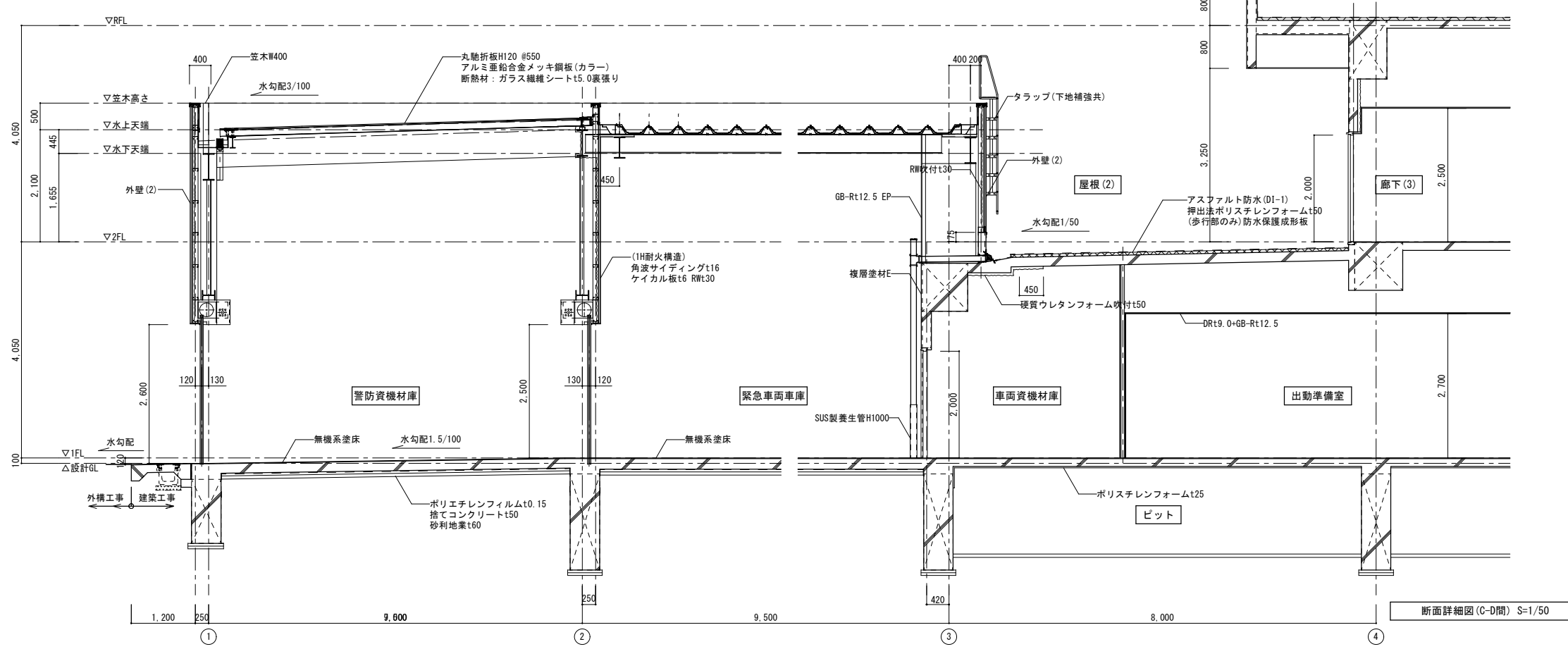
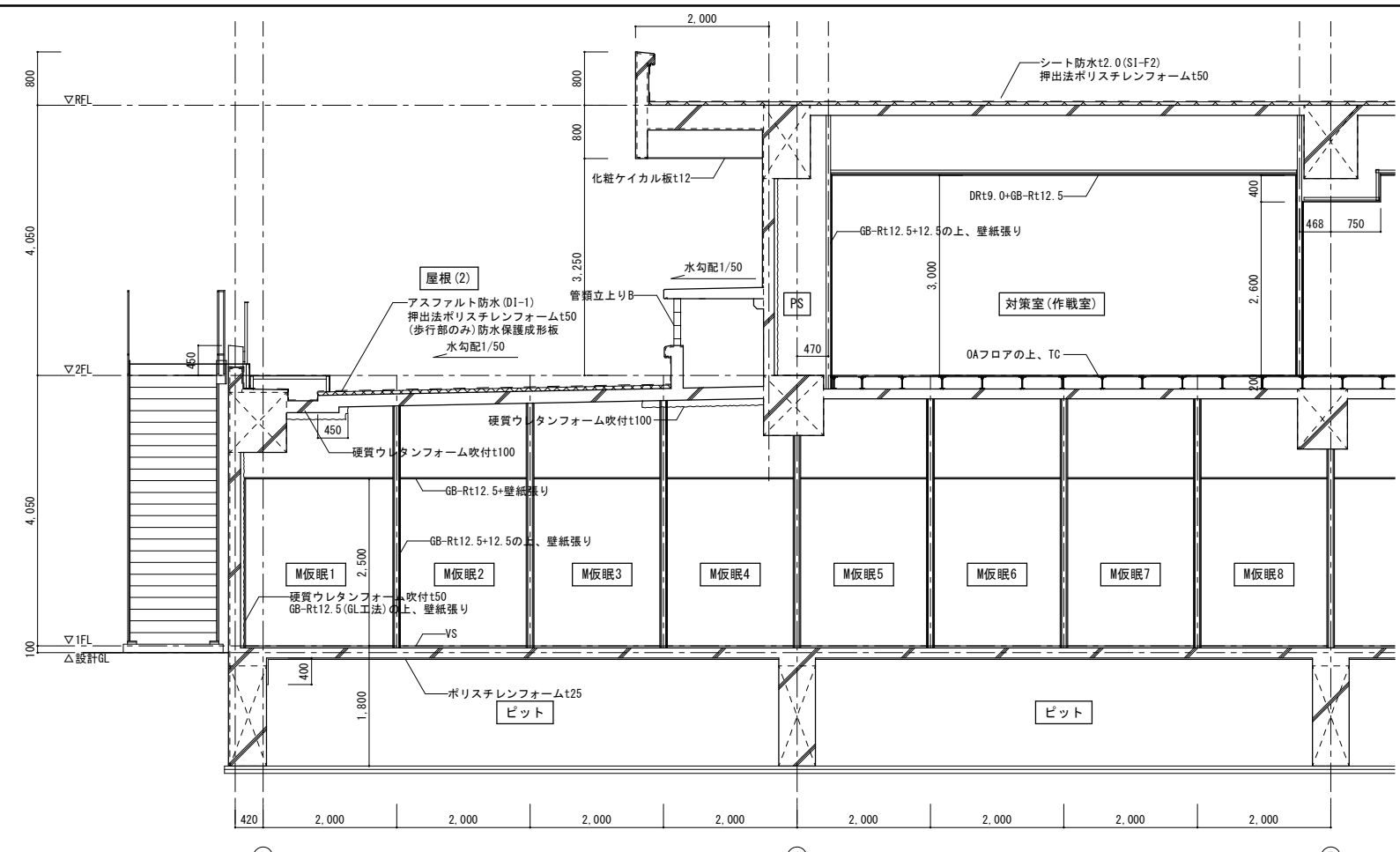
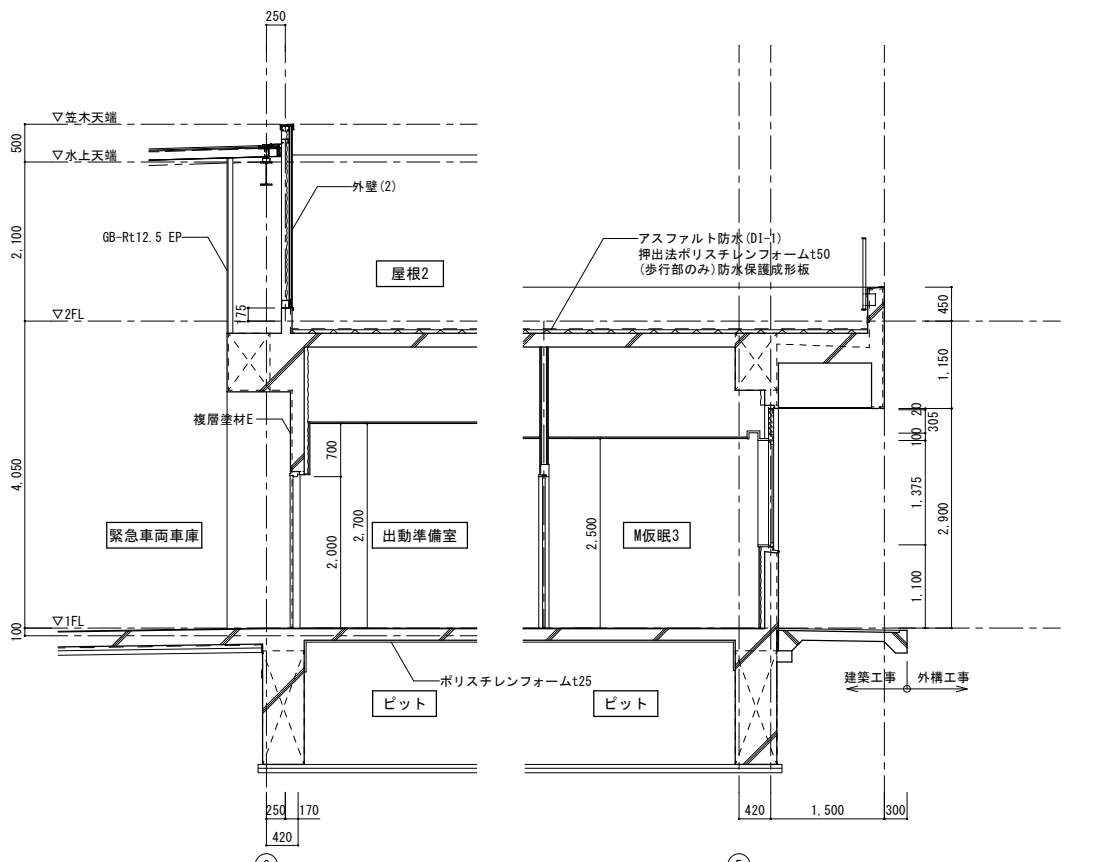


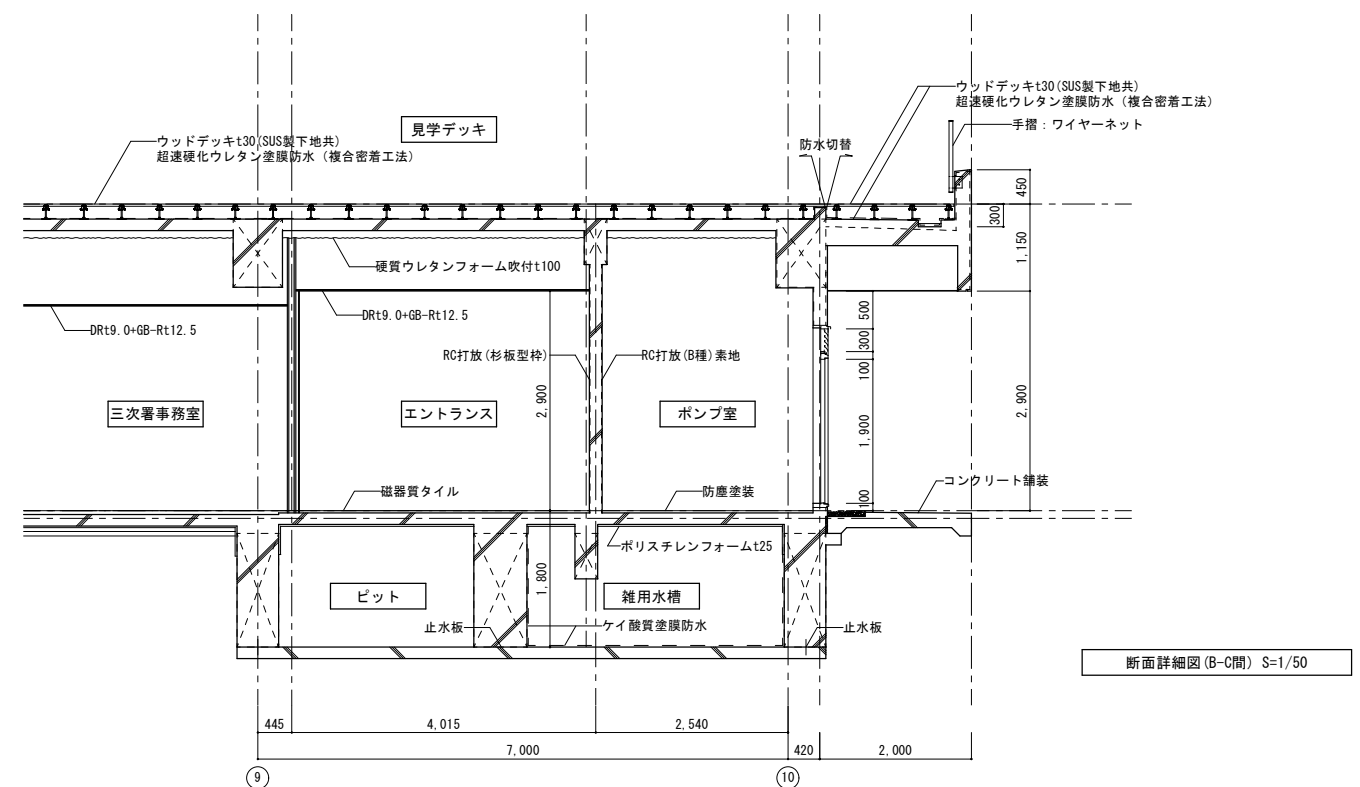
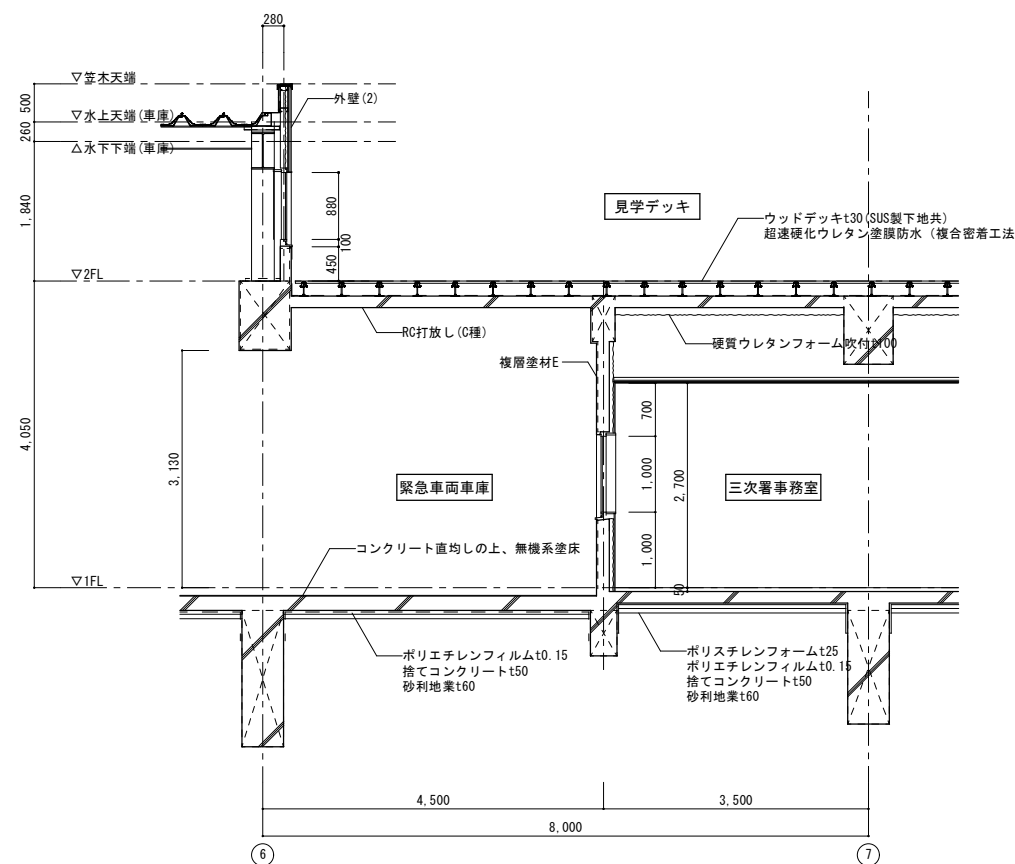
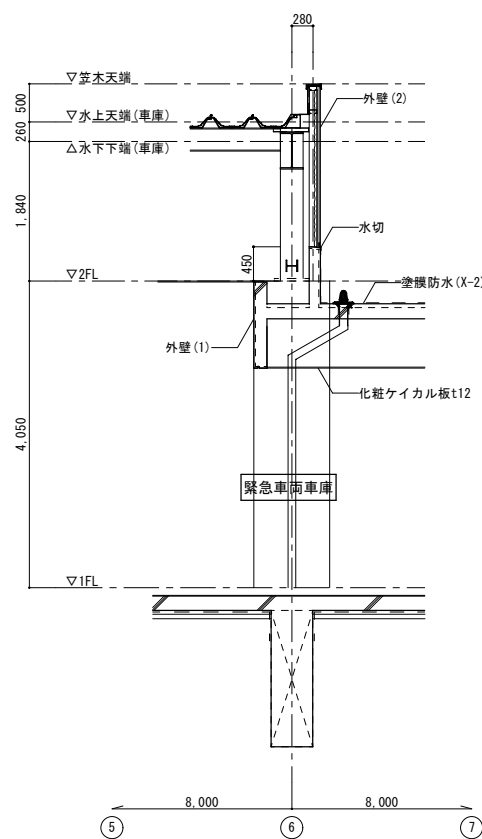
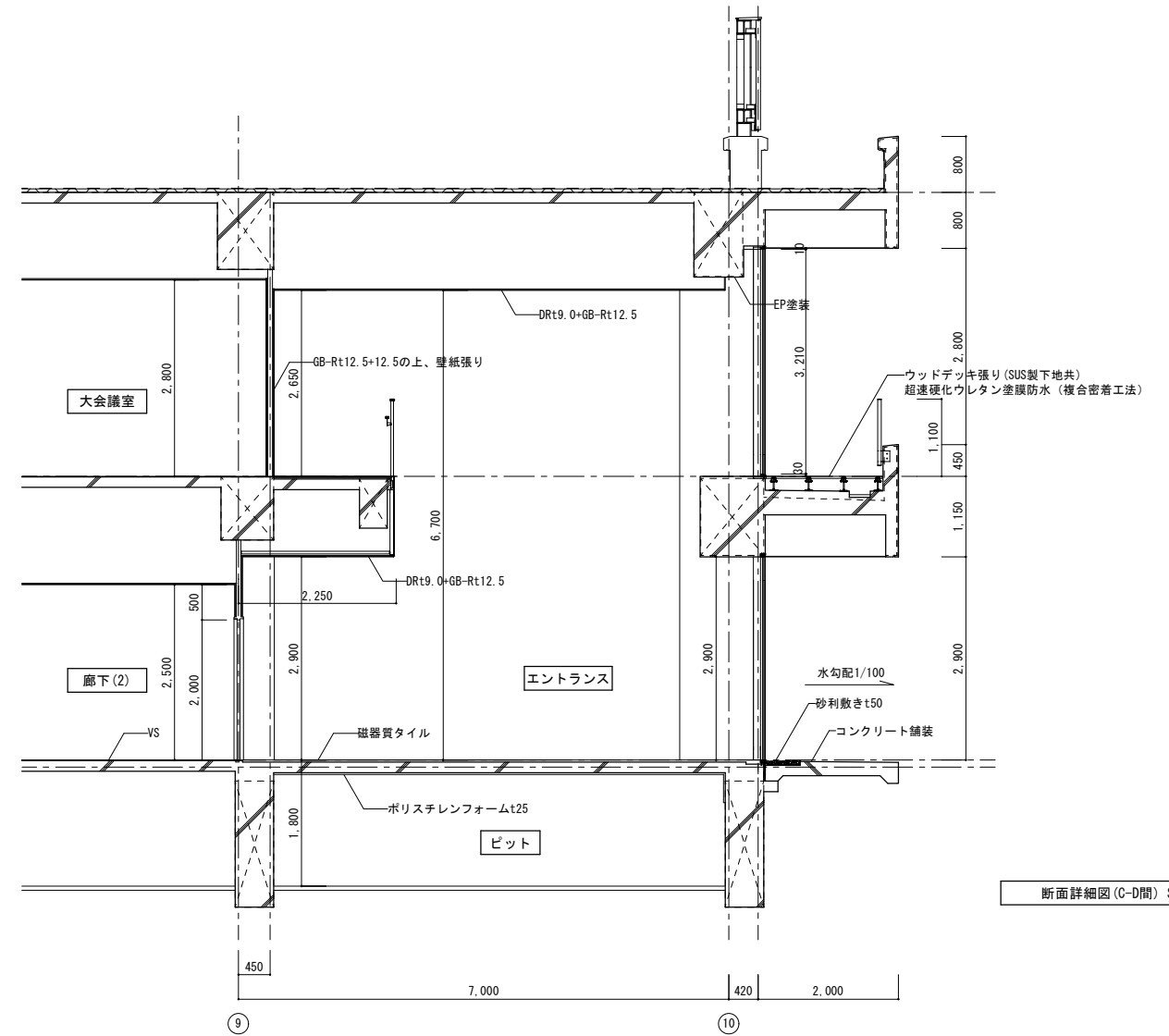
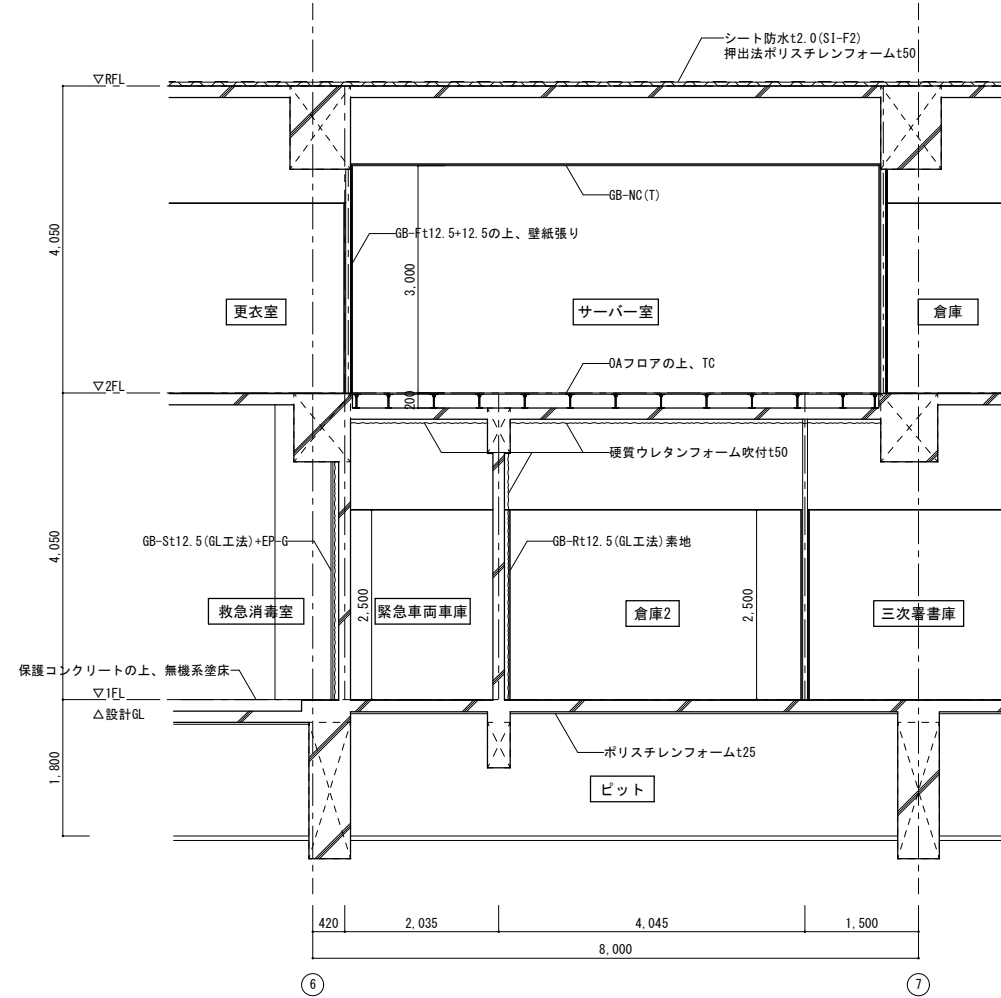
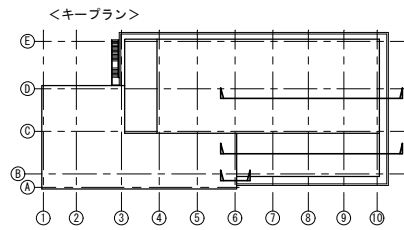
断面詳細図(1-2間) S=1/50



断面詳細図(5-6間) S=1/50

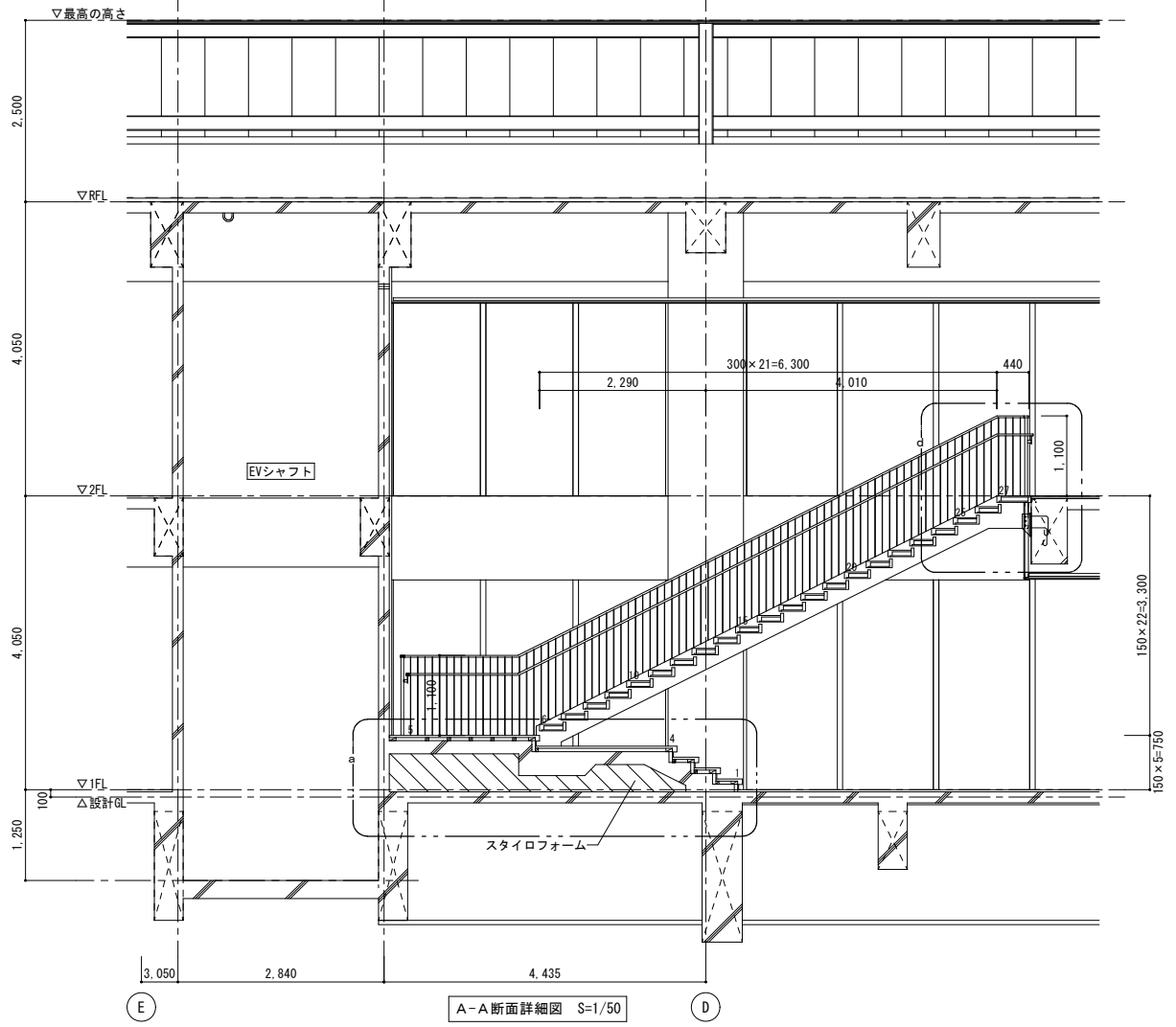




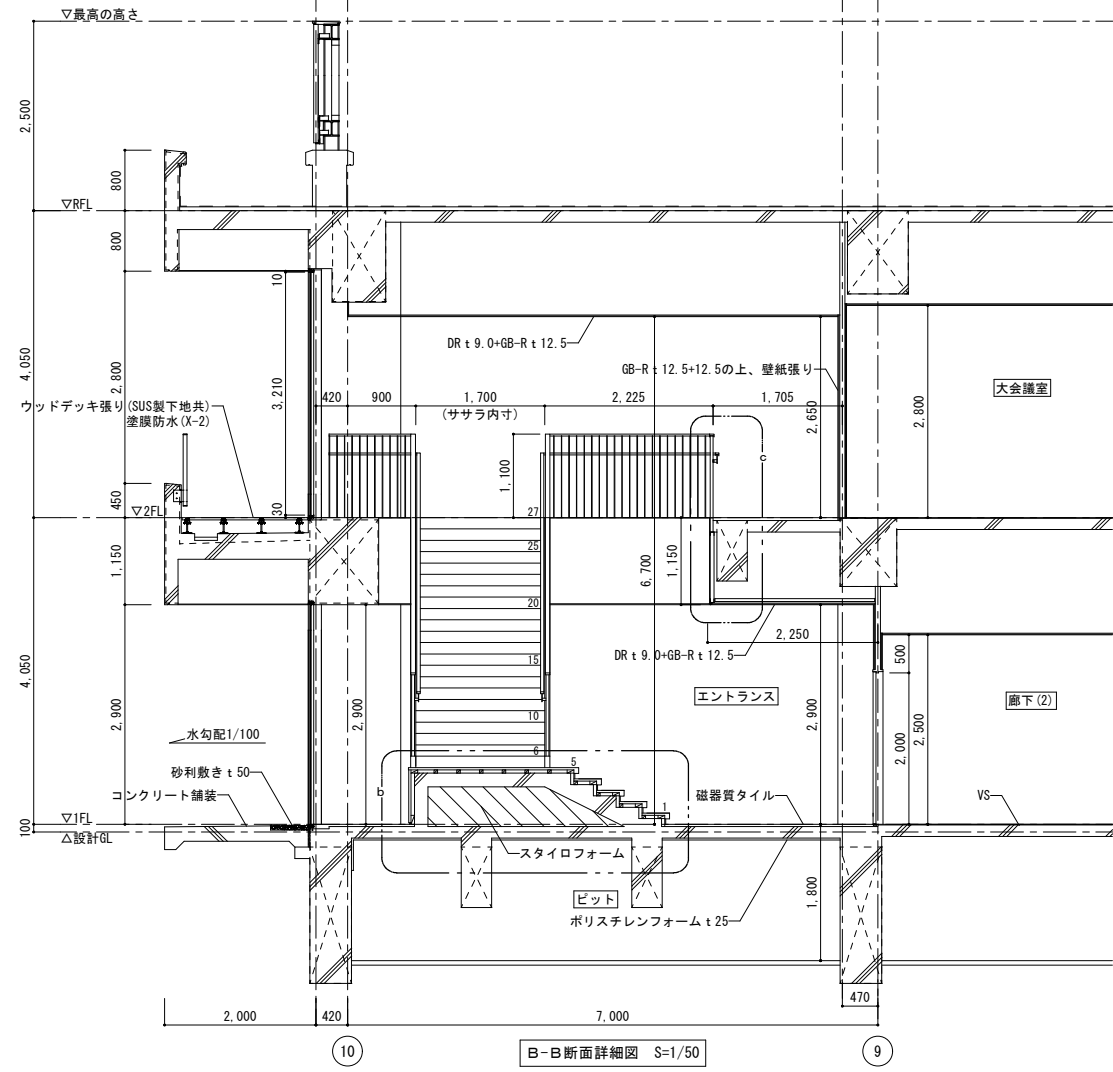


NOTE	

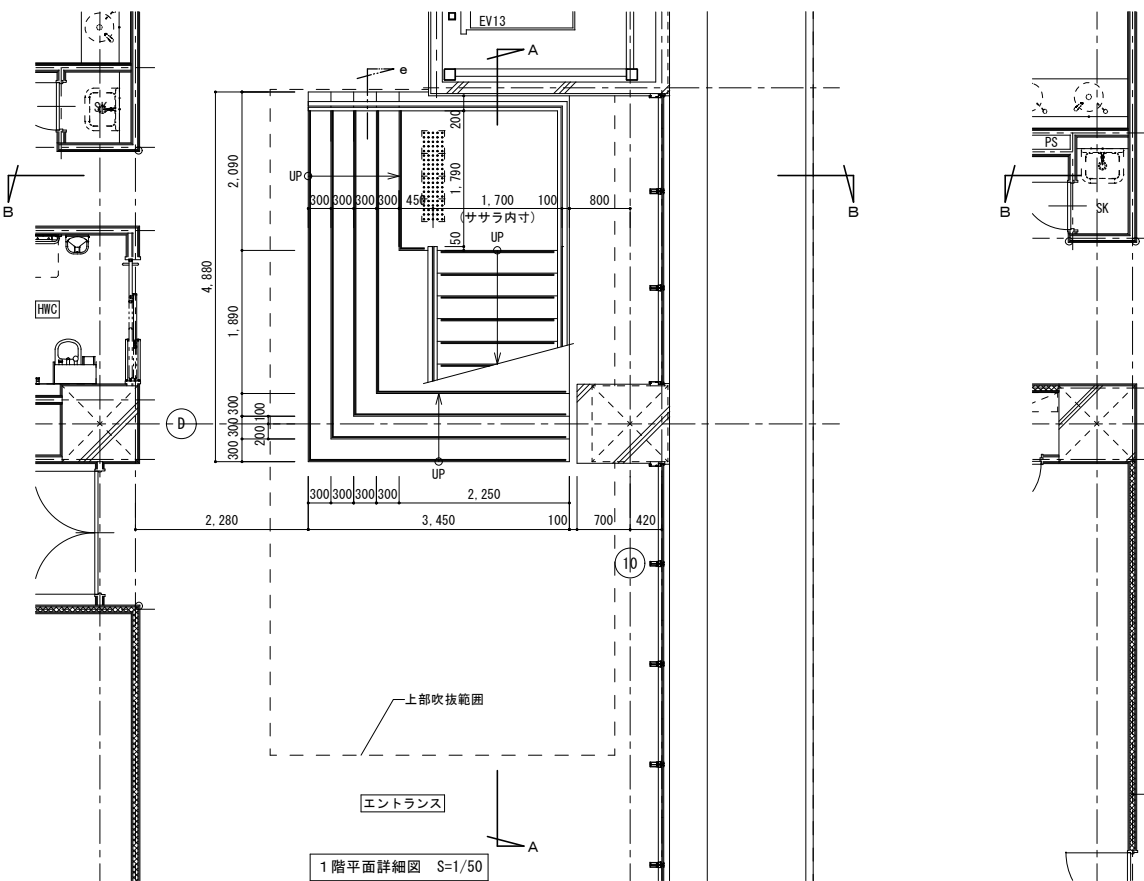
	株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	DWG No. A 030
	一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋		



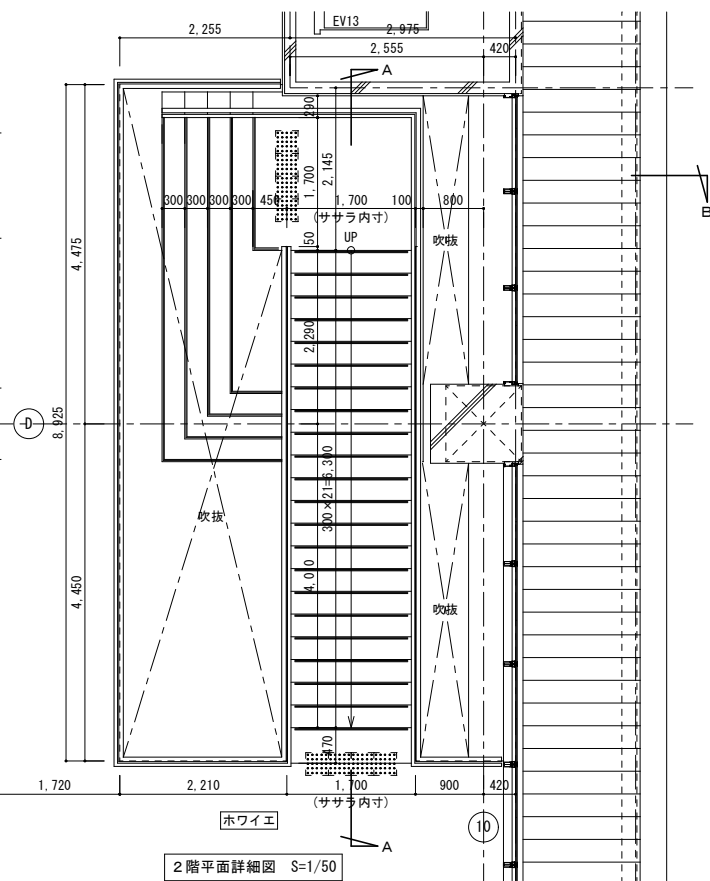
A-A断面詳細図 S=1/50



B-B断面詳細図 S=1/50

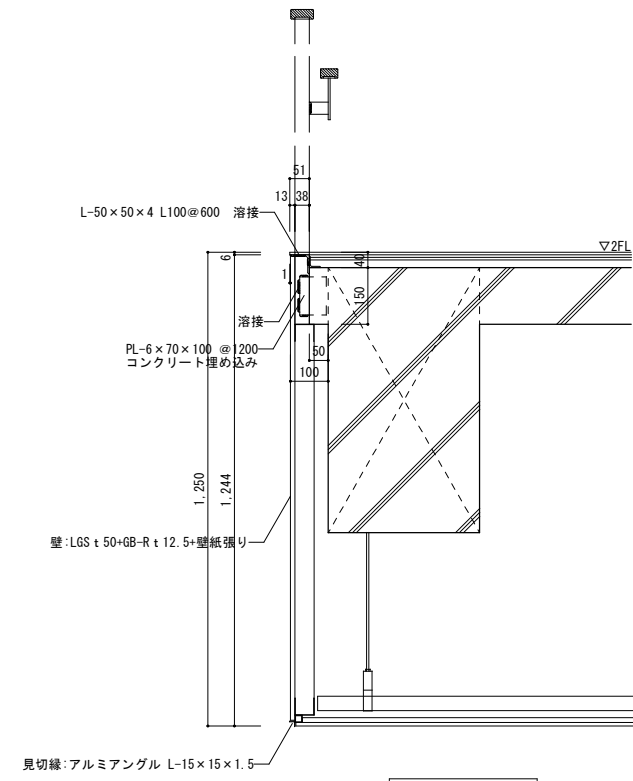


1階平面詳細図 S=1/50

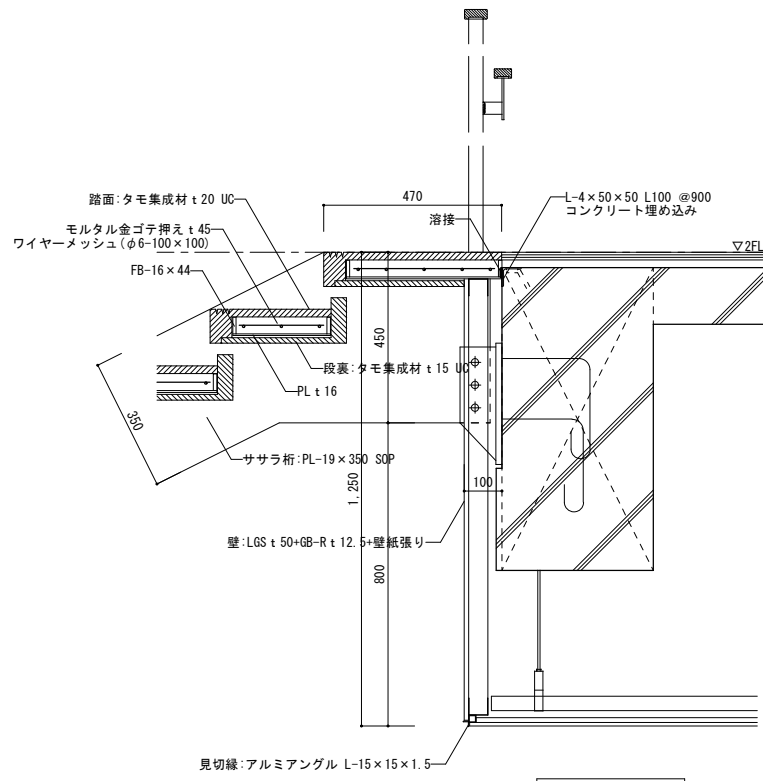


2階平面詳細図 S=1/50

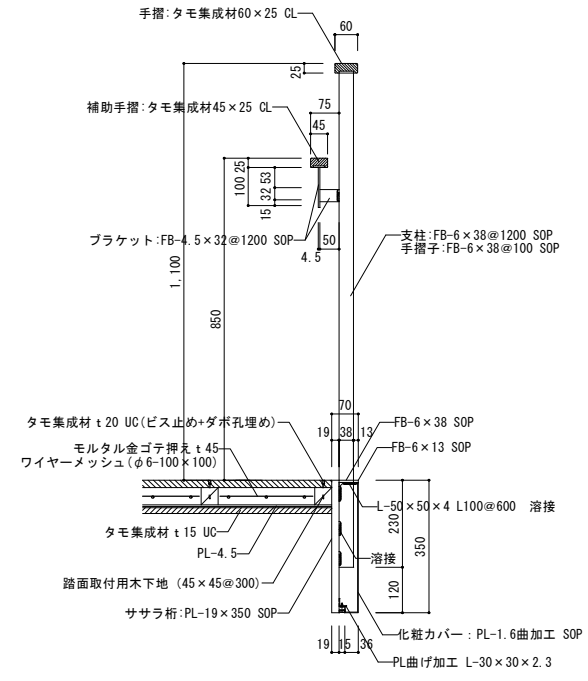
NOTE



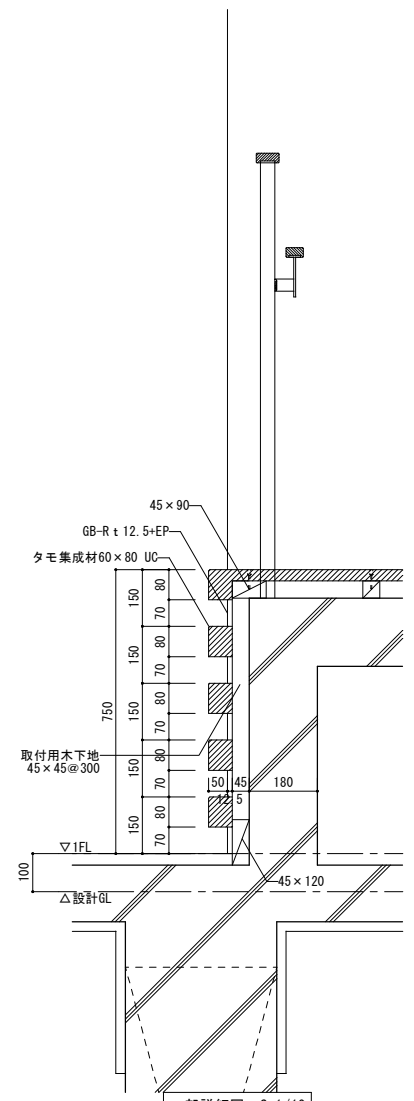
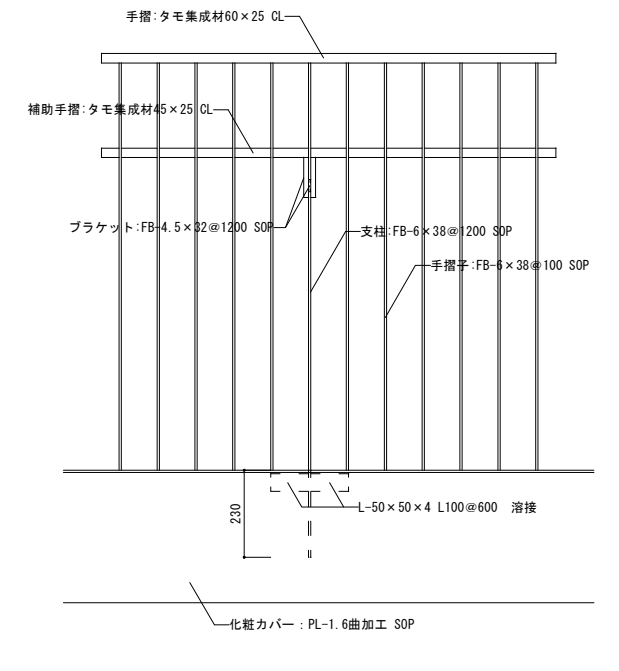
c 部詳細図 S=1/10



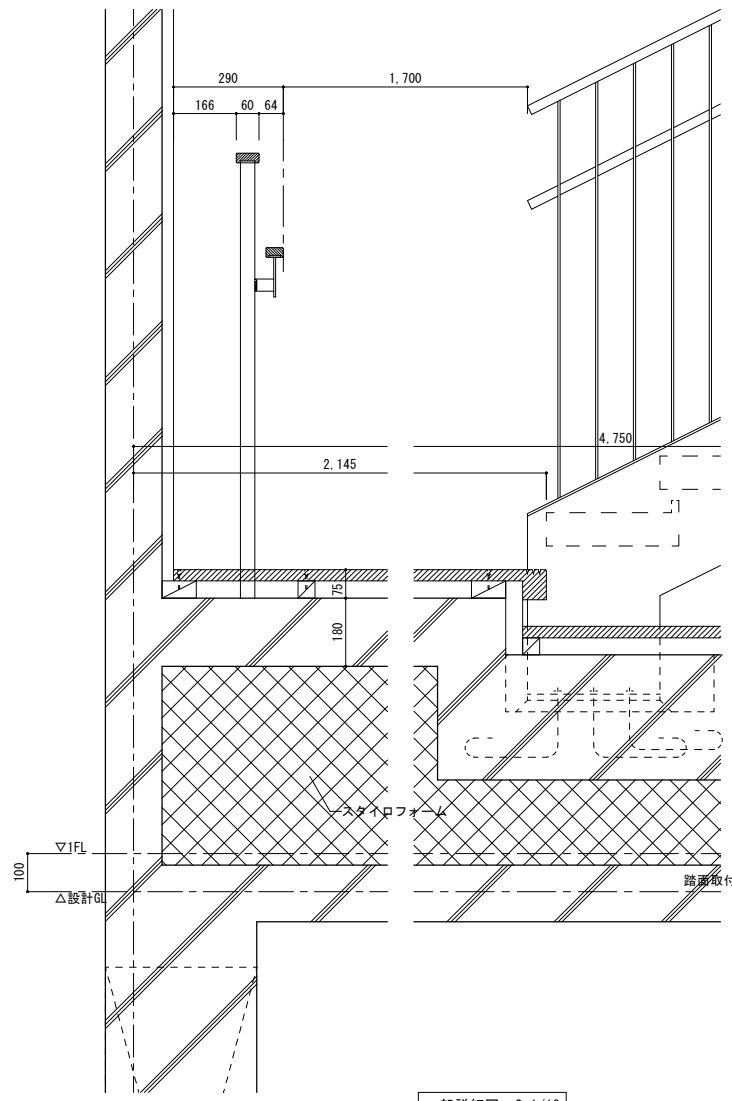
d 部詳細図 S=1/10



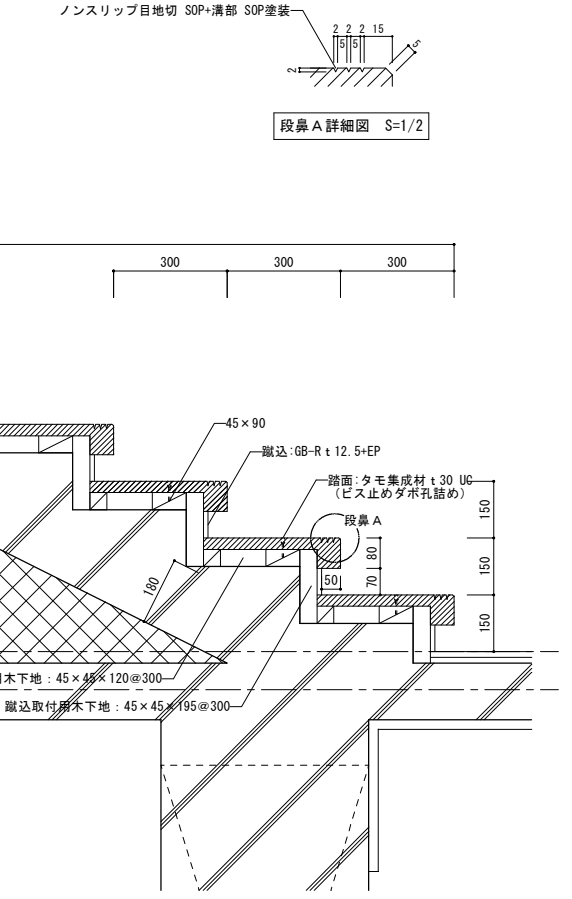
手摺詳細図 S=1/10



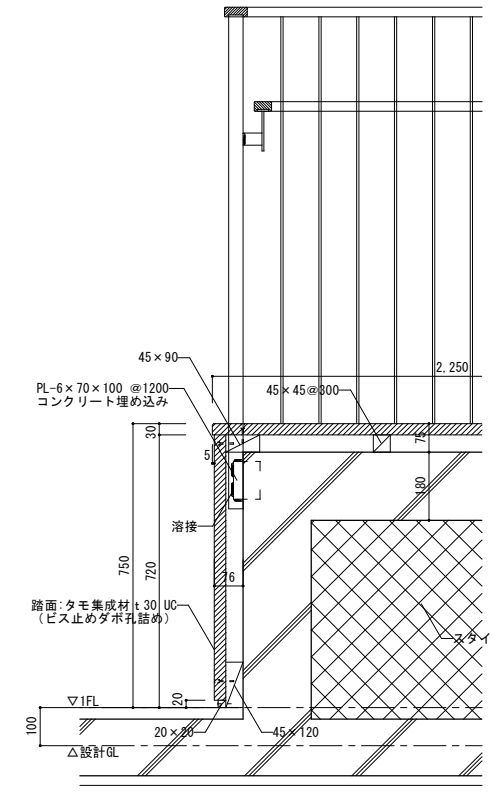
e 部詳細図 S=1/10



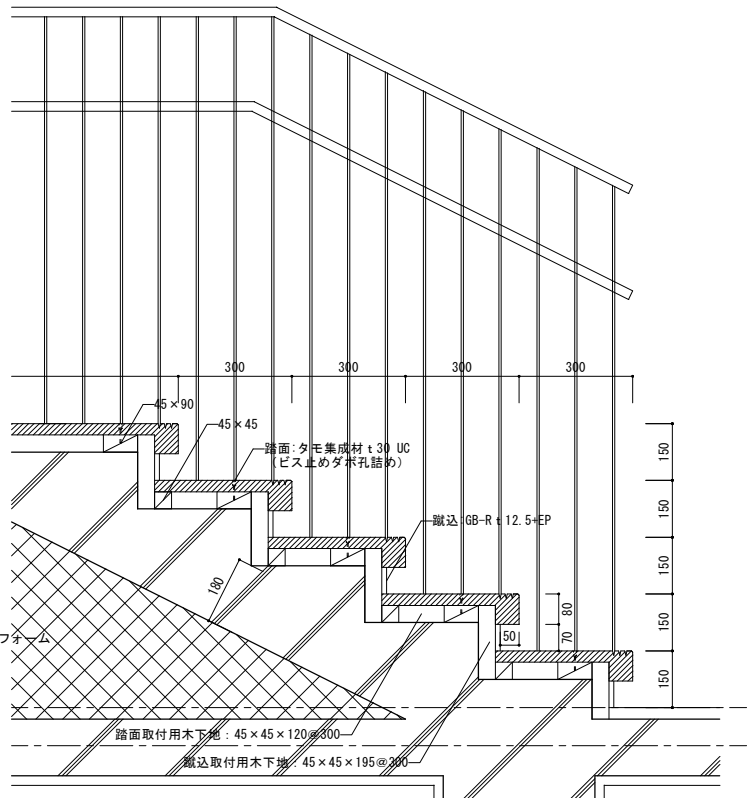
a 部詳細図 S=1/10

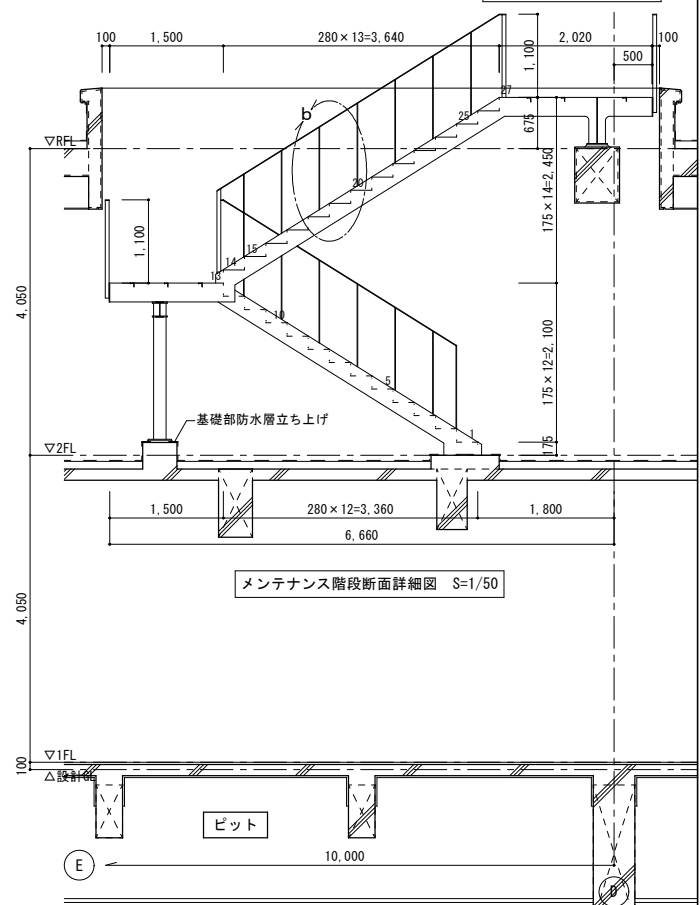
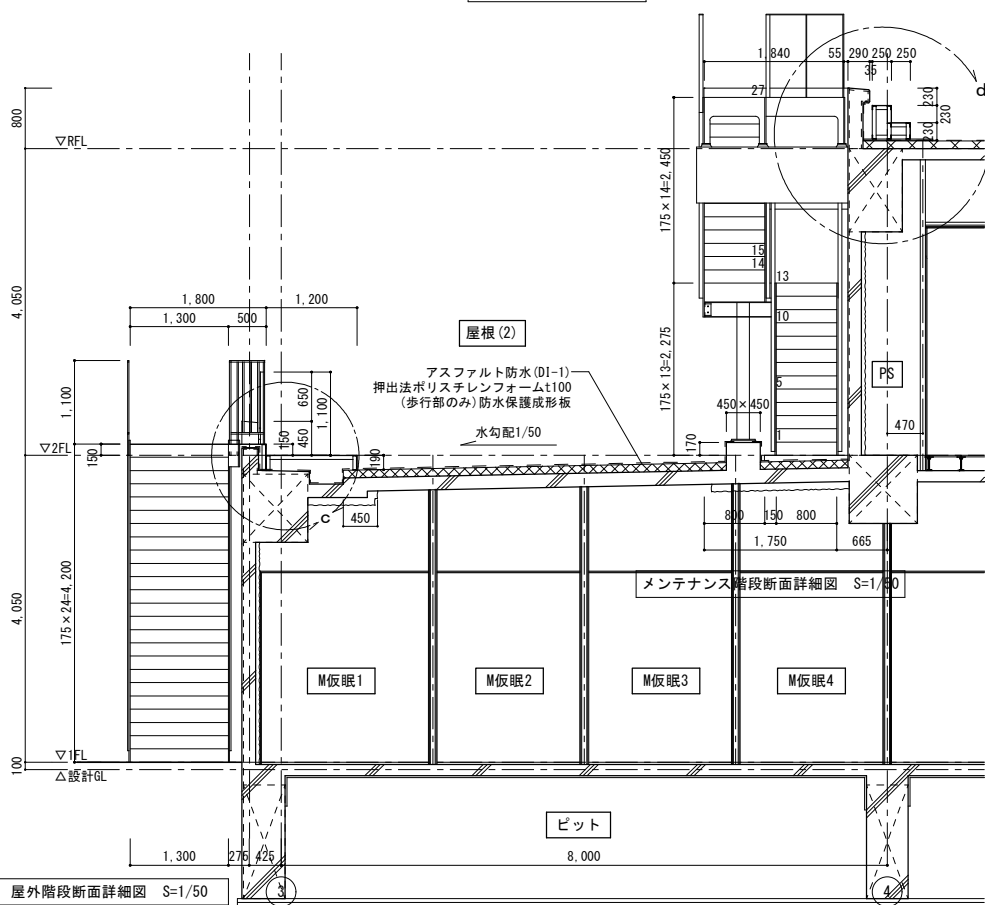
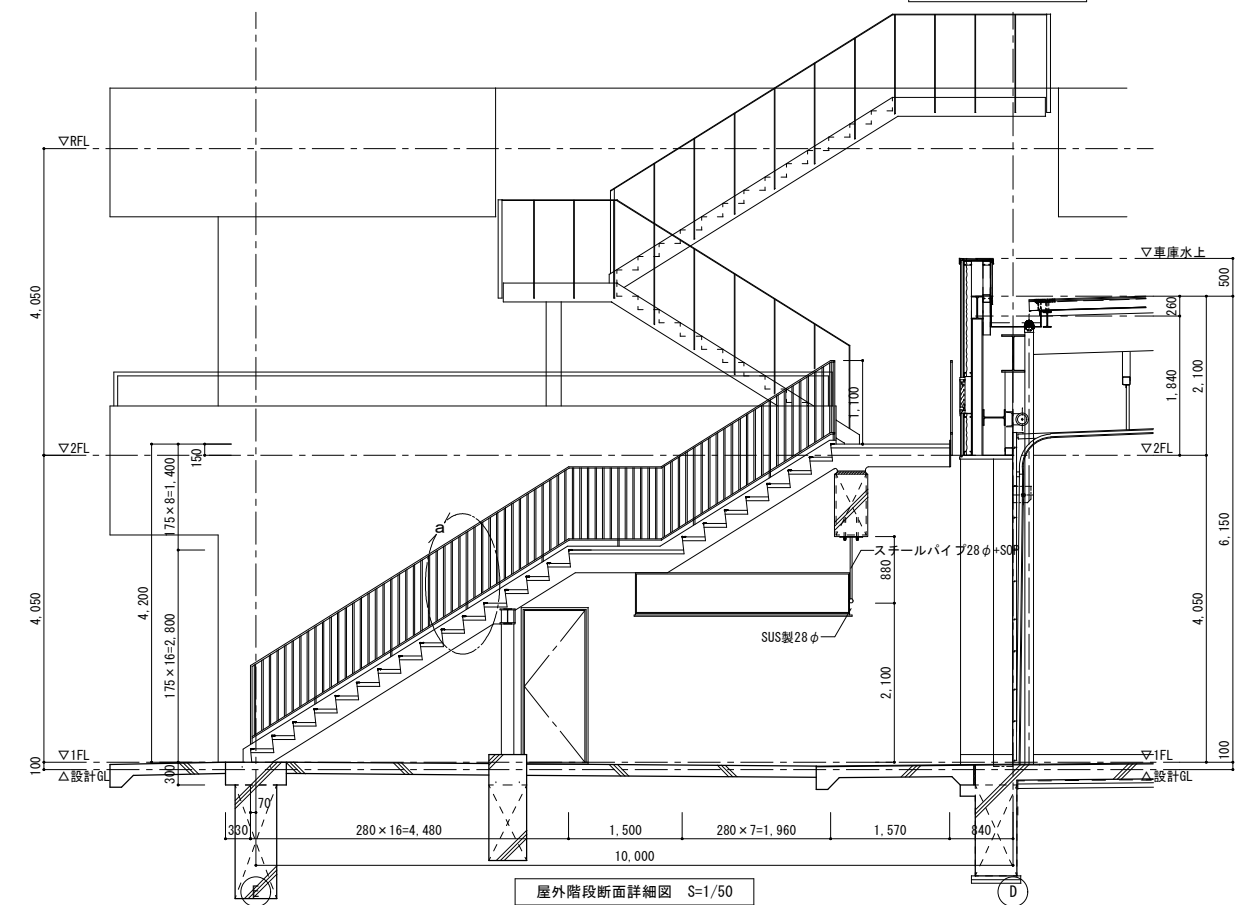
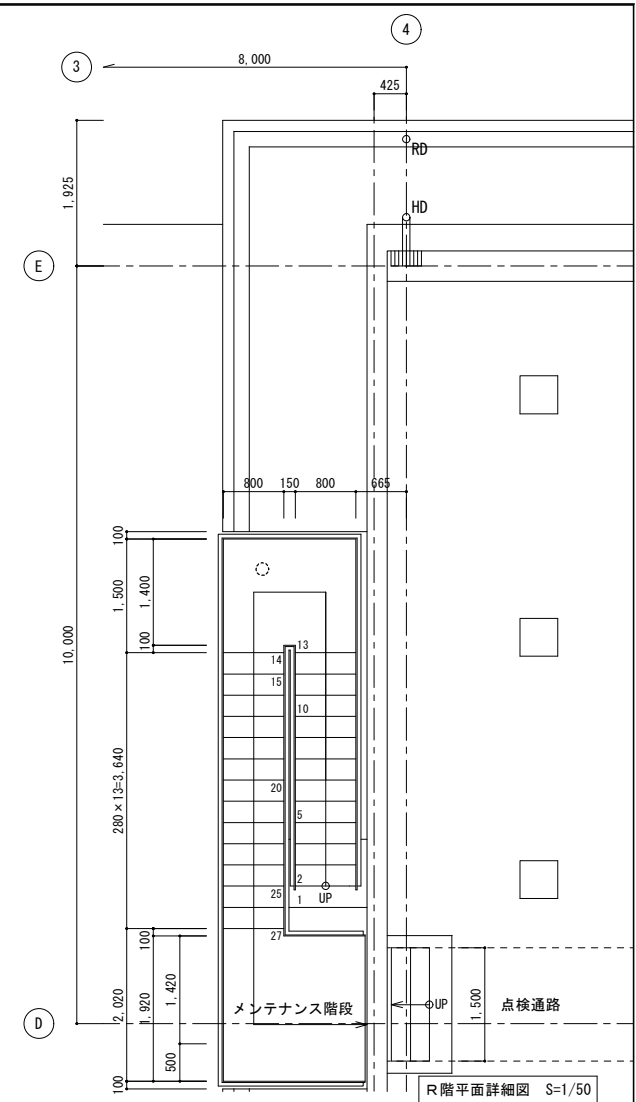
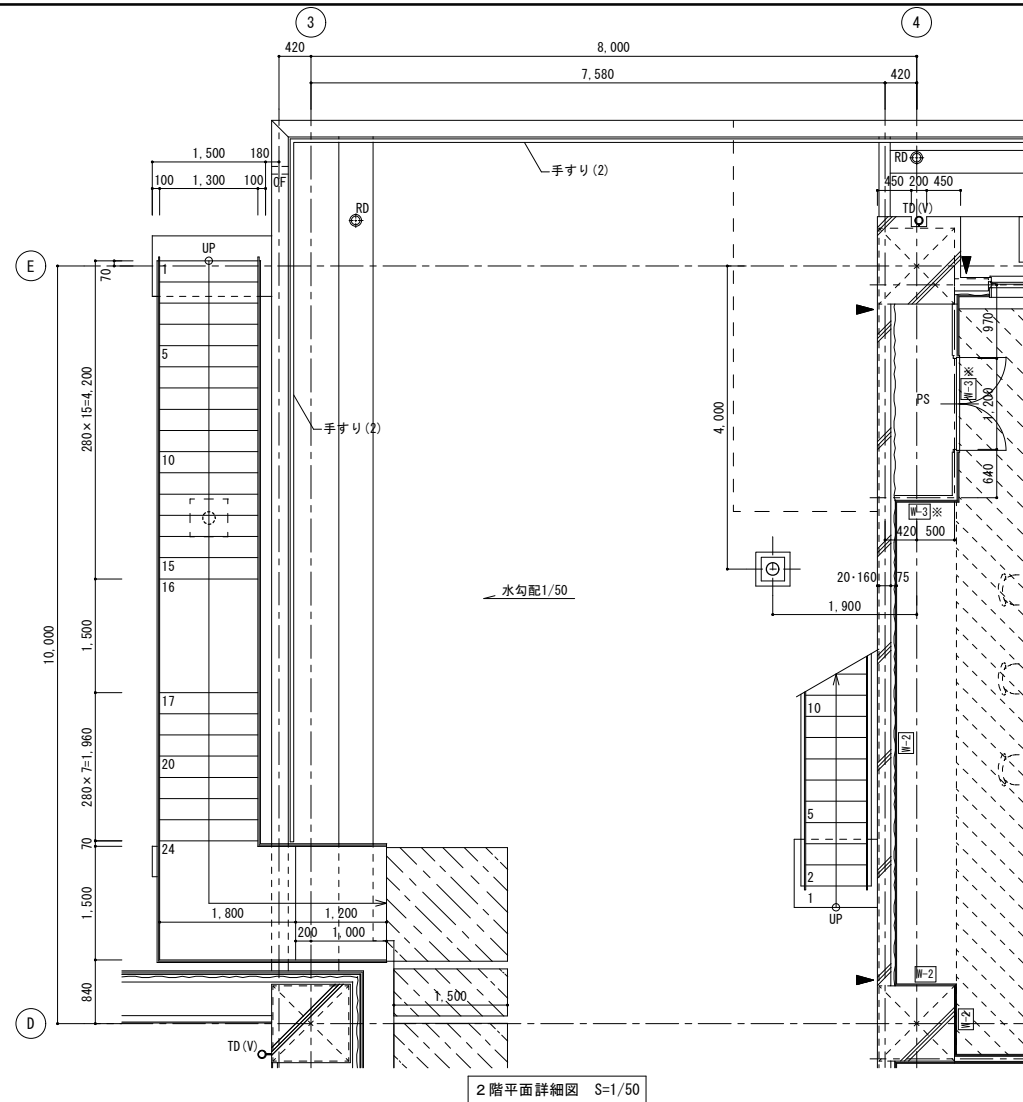
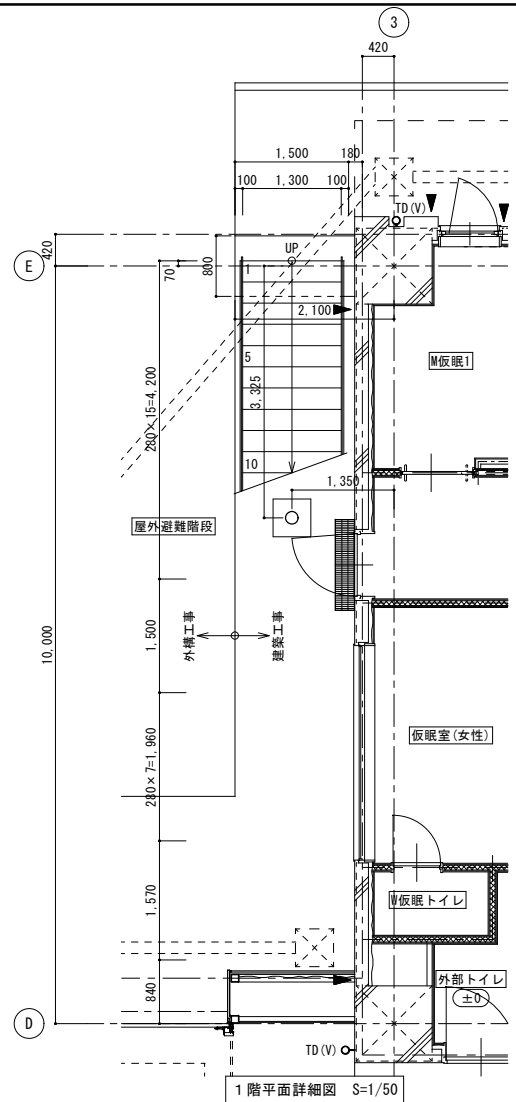


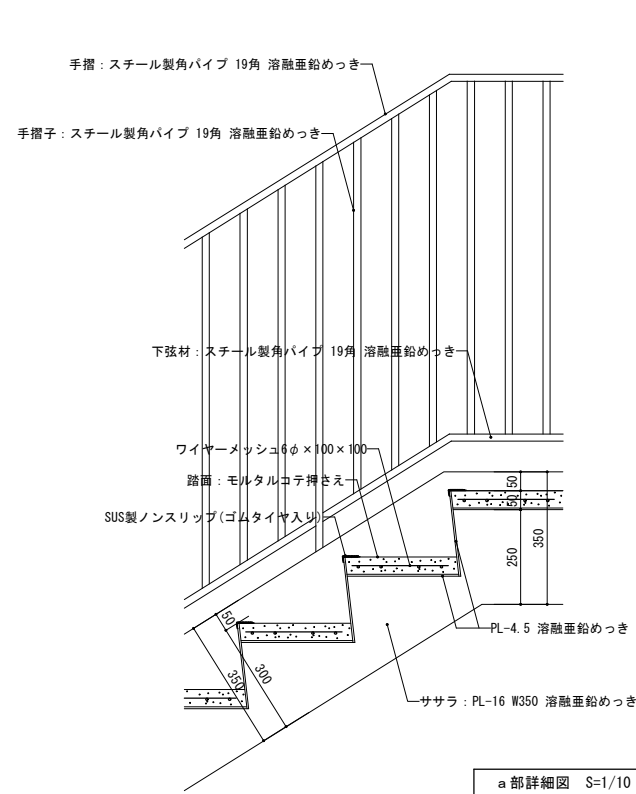
段鼻A 詳細図 S=1/2



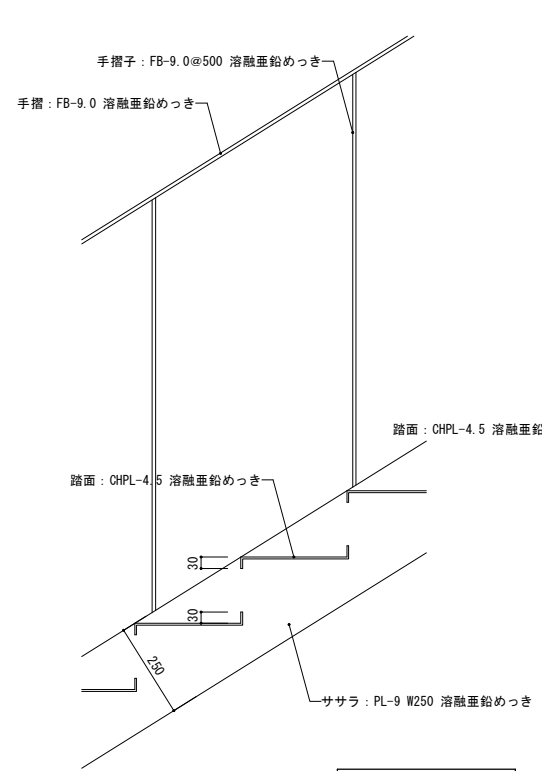
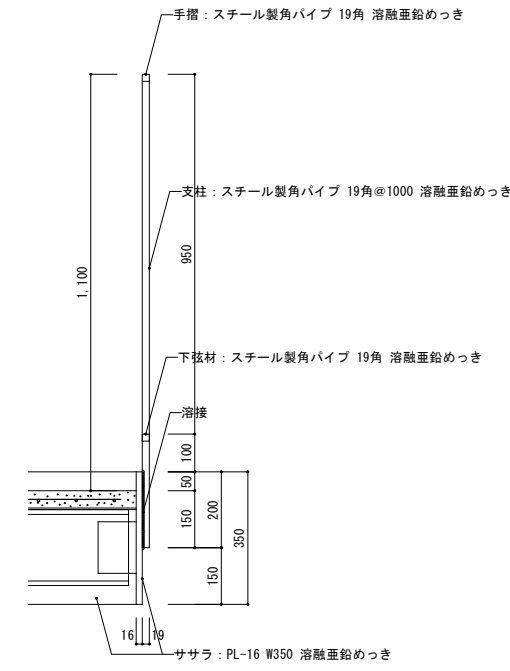
b 部詳細図 S=1/10



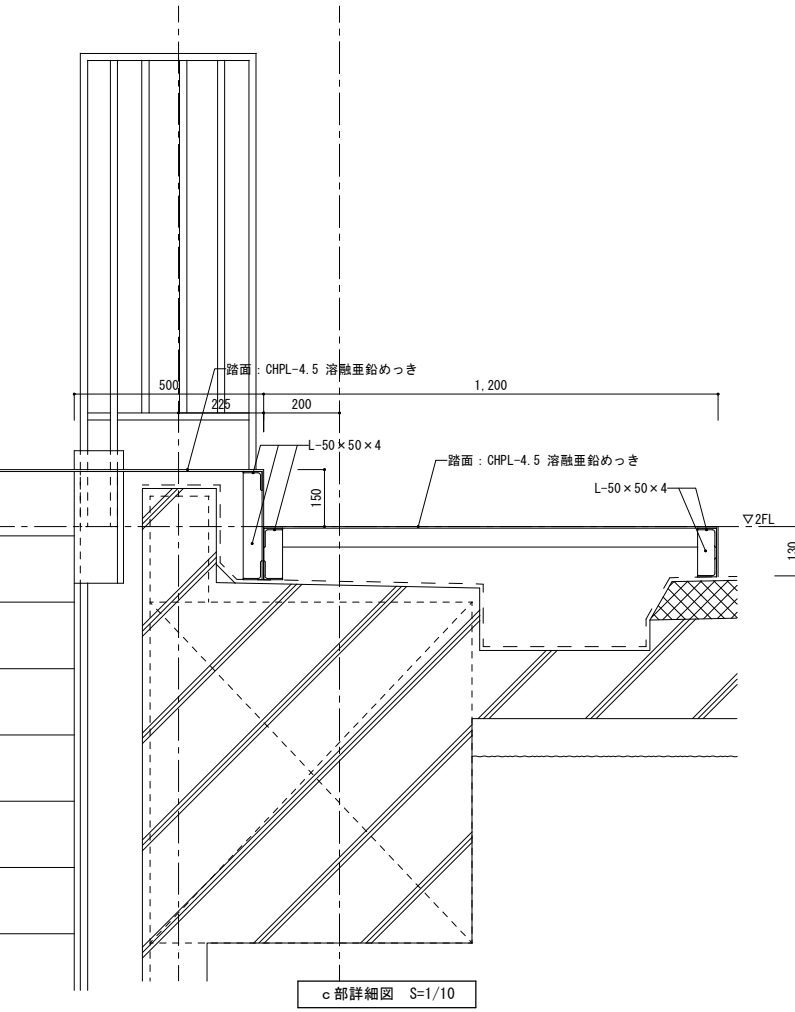




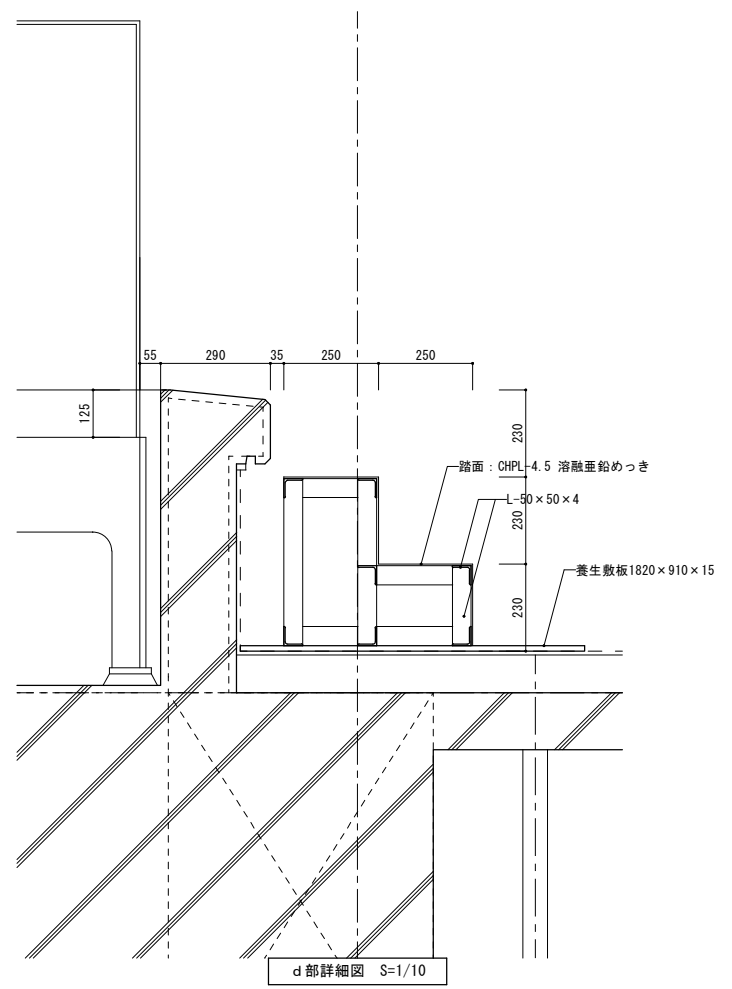
a 部詳細図 S=1/10



b 部詳細図 S=1/10



c 部詳細図 S=1/10



d 部詳細図 S=1/10

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

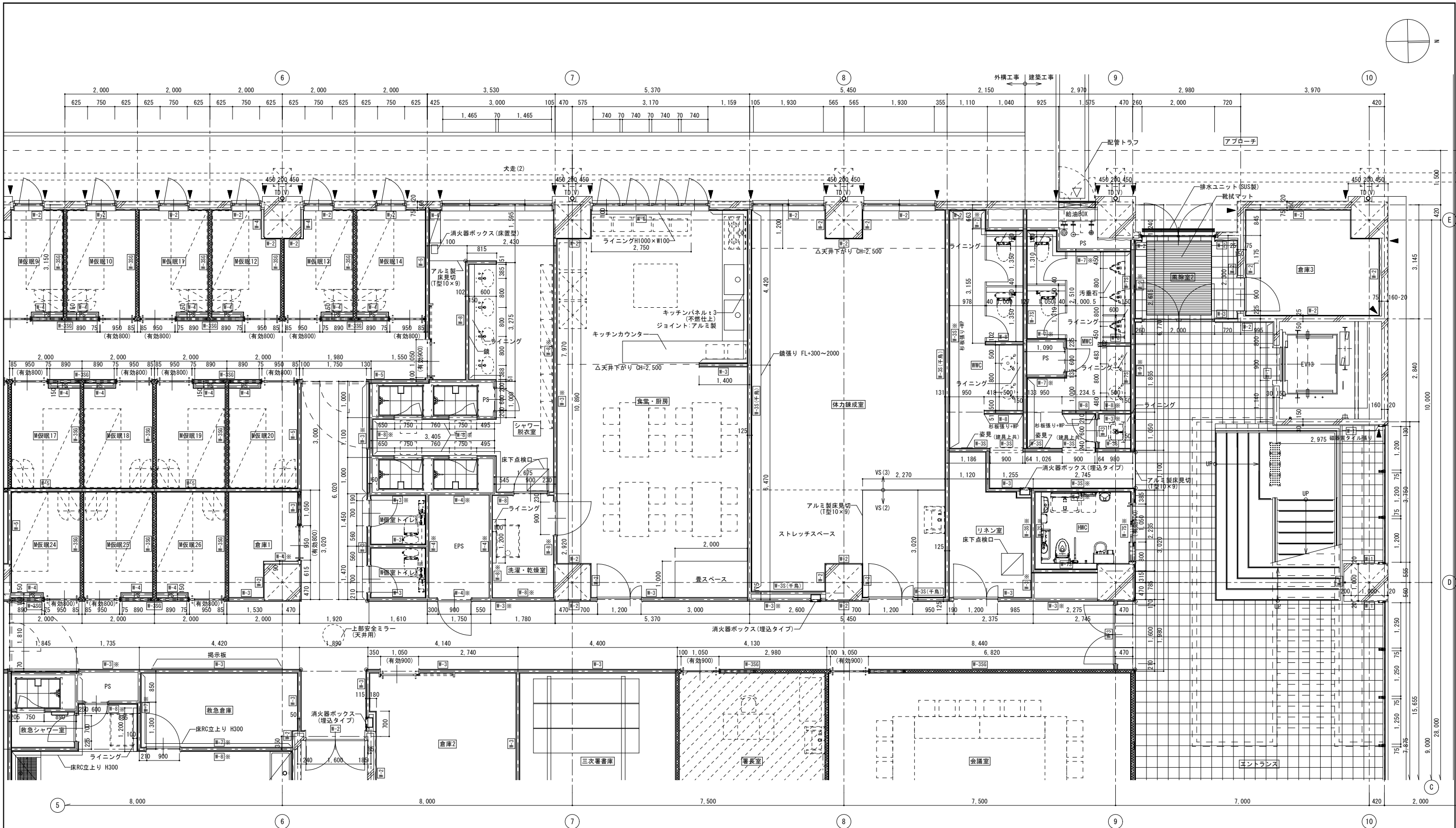
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】屋外階段詳細図(2)

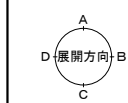
SCALE A1 : 1/50
 A3 : 1/100

DWG No.

A
 034



1階平面詳細図(1) S=1/50

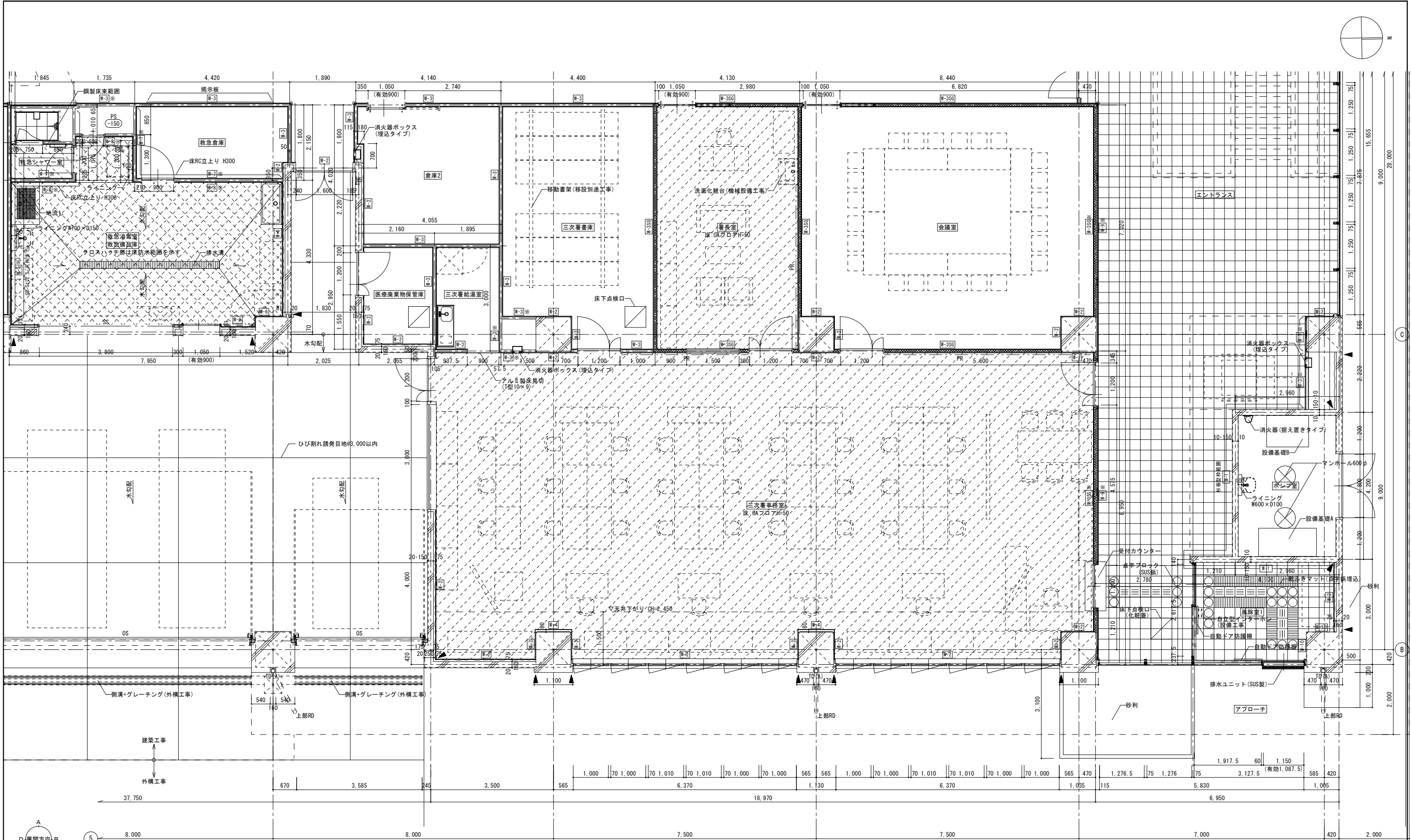
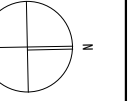


■壁凡例

W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-2	[一般壁 風工法] C(C)-b + GB-Rt12.5 (GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 スラブまで
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5 (GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地 天井まで

■凡例

(**)	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)	~~~~~	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで	TD (A)	アルミ製 100角(角型)	OF	オーバーフロー管
▲	構造スリット	○	誘導表示 (SUS製)	TD (V)	カラー塩ビ製100φ		
△	コーナガード	○	誘導表示 (SUS製)	HD	横引きドレイン		
PR	ピクチャーレール			RD	ルーフトレイン		



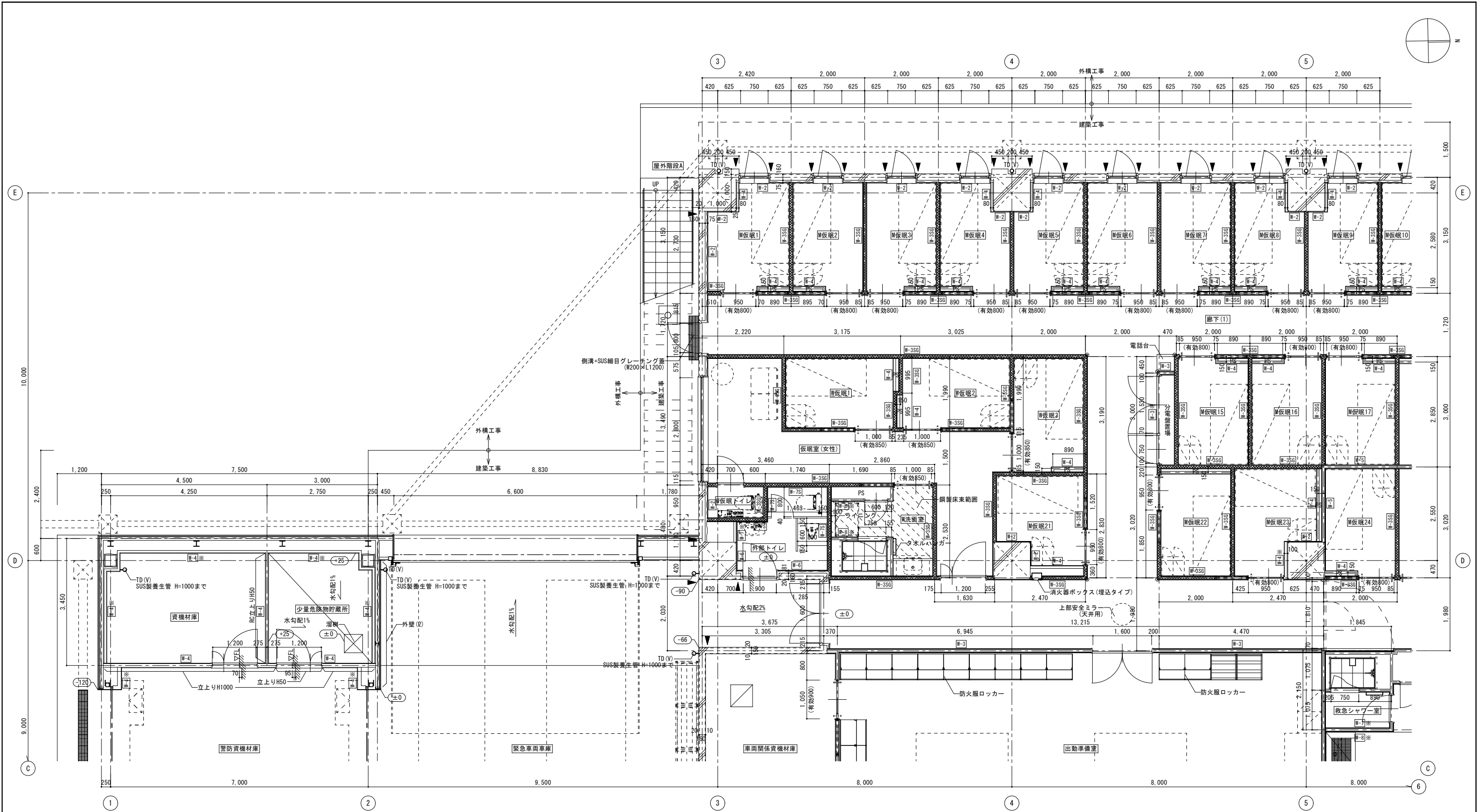
1階平面詳細図(2) S=1/50

■壁凡例

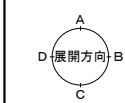
W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-2	[一般壁 Ⅰ工法]C(C)-b + GB-Rt12.5(GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 天井まで
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 Ⅰ工法]LGS + GB-St12.5(GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地 天井まで

■凡例

FL	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)	XXXXXX	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで	TD(A)	アルミ製 100角(角型)	OF	オーバーフロー管
▲	構造スリット	○	コーナード	TD(V)	カラー塩ビ製100φ	HD	横引きドレイン
○※	ボード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)	○	誘導表示(SUS製)	RD	ルーフトレイン		
PR	ピクチャーレール						



1階平面詳細図(3) S=1/50

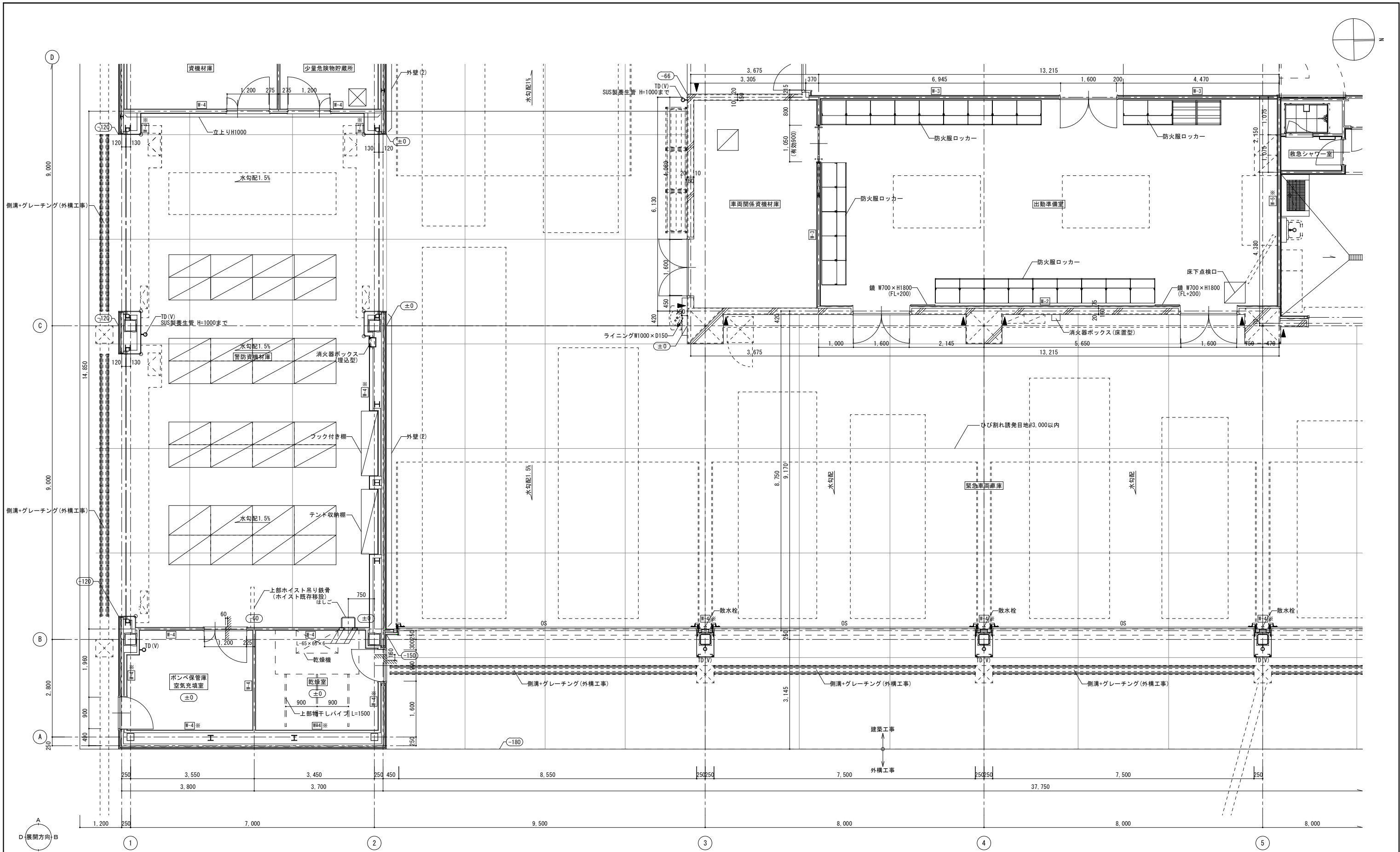


■壁凡例

W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	W-10	C(B)-b
W-2	[一般壁 Ⅰ工法] C(C)-b + GB-Rt12.5 (GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5		
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで				□※
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5 (GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地共 天井まで		○※

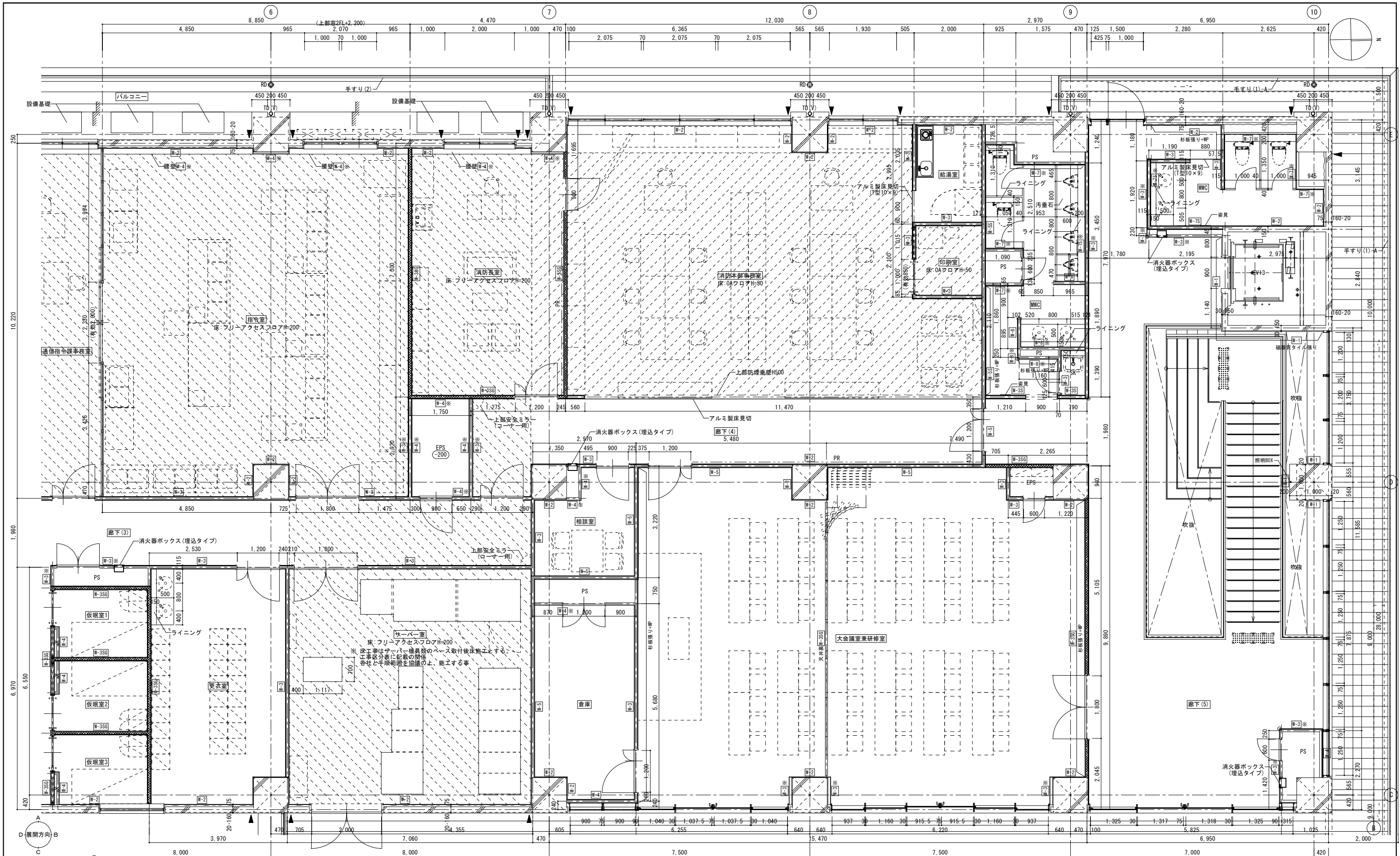
■凡例

○*	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)	XXXXXX	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで	TD(A)	アルミ製 100角(角型)	OF	オーバーフロー管
▲	構造スリット	○	誘導表示 (SUS製)	TD(V)	カラー塩ビ製100φ	HD	横引きドレイン
△	コーナード	○	誘導表示 (SUS製)	RD	ルーフドレイン		
PR	ピクチャーレール						

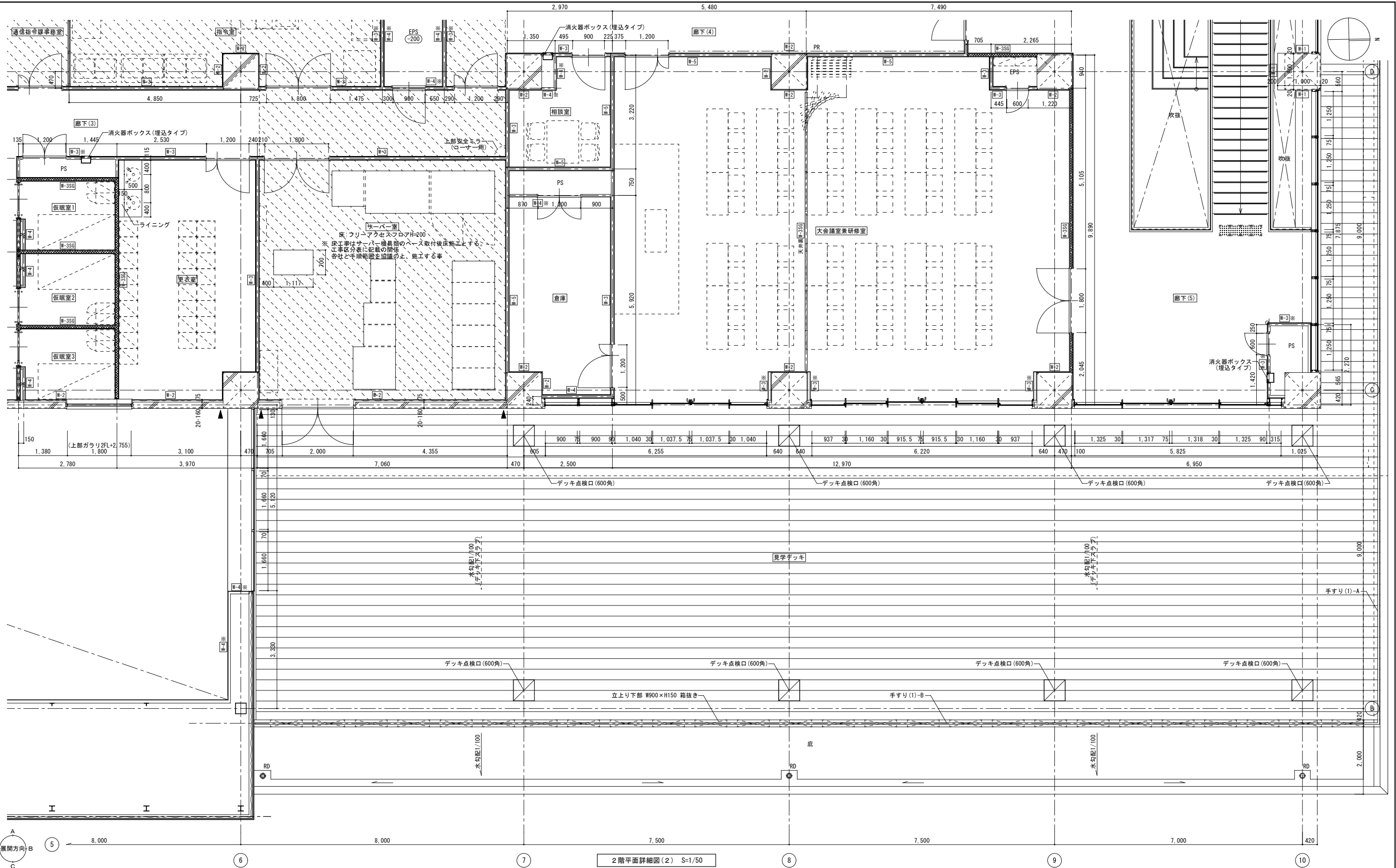


1階平面詳細図(4) S=1/50

■壁凡例				■凡例			
W-1	C(A)-a	W-35G	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	○*	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)
W-2	[一般壁 Ⅰ工法]C(C)-b + GB-Rt12.5 (GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	▲	構造スリット
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 天井まで	△	コーナガード
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5 (GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地 天井まで	□*	ボード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)
NOTE				PR			
				ピクチャーレール			
				W(24kg/m ²)充填、スラブまで			
				TD (A) アルミ製 100角(角型)			
				TD (V) カラー塩ビ製100φ			
				HD 横引きドレイン			
				RD ルーフドレイン			
				OF オーバーフロー管			

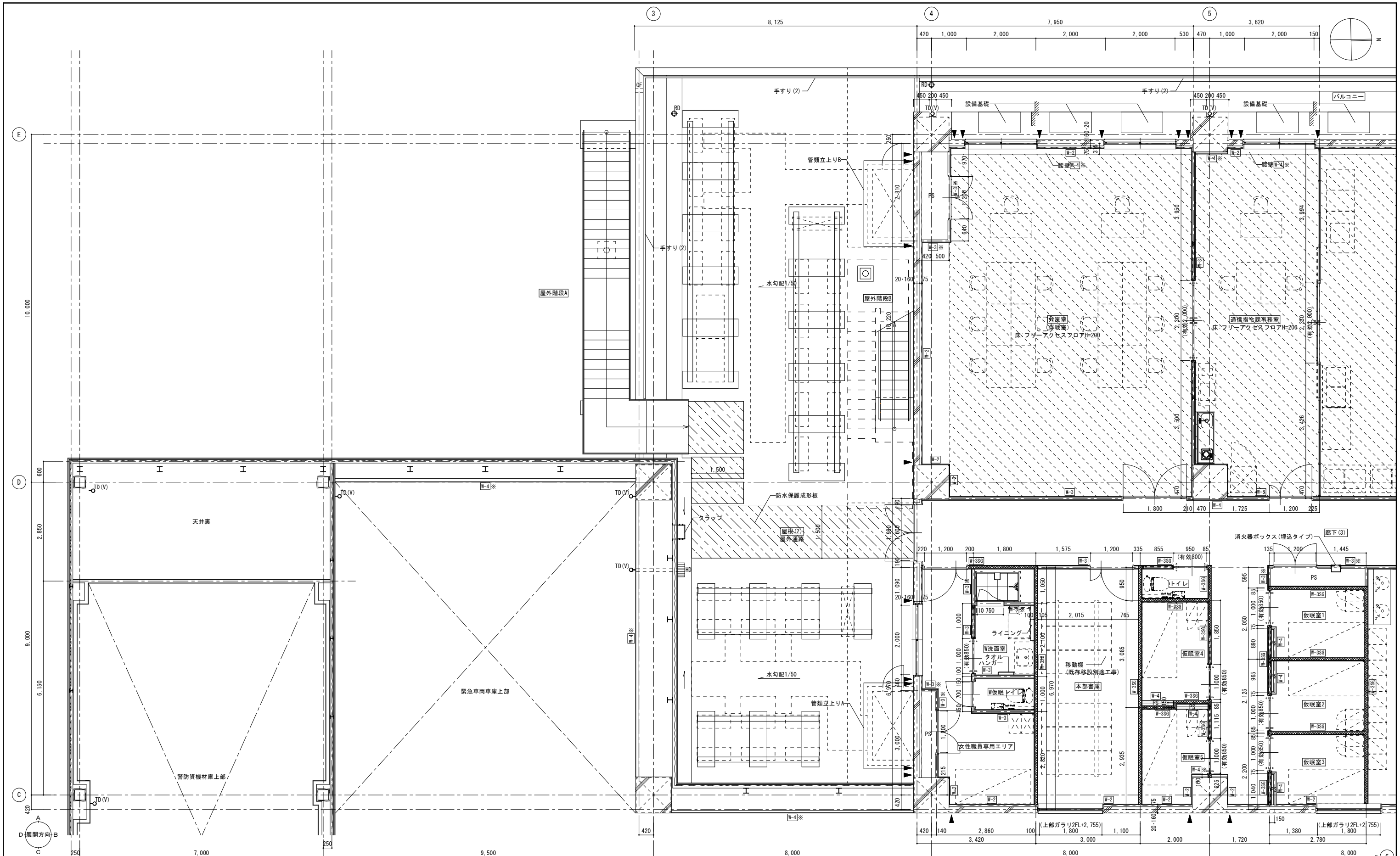


■ 壁凡例				■ 凡例			
W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	*****	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで
W-2	[一般壁 Ⅰ工法]C(C)-b + GB-Rt12.5(GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	△	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 天井まで	○	構造スリット
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5(GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地 天井まで	□※	ボード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)
NOTE				PR			
				ピクチャーレール			
				TD(A)			
				アルミ製 100角(角型)			
				TD(V)			
				カラー塩ビ製100φ			
				HD			
				横引きドレイン			
				RD			
				ルーフトレイン			



2階平面詳細図(2) S=1/50

■ 壁凡例				■ 凡例			
W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	*****	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで
W-2	[一般壁 Ⅰ工法] C(C)-b + GB-Rt12.5(GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	TD(A)	アルミ製 100角(角型)
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	TD(V)	カラー塩ビ製100φ
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 Ⅰ工法]LGS + GB-St12.5(GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地 天井まで	HD	横引きドレイン
				W-10	C(B)-b	RD	ルーフトレイン
						○*	誘導表示(SUS製)
						▲	構造スリット
						○	コーナガード
						PR	ビクチャーレール
						□*	ボード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)



■壁凡例

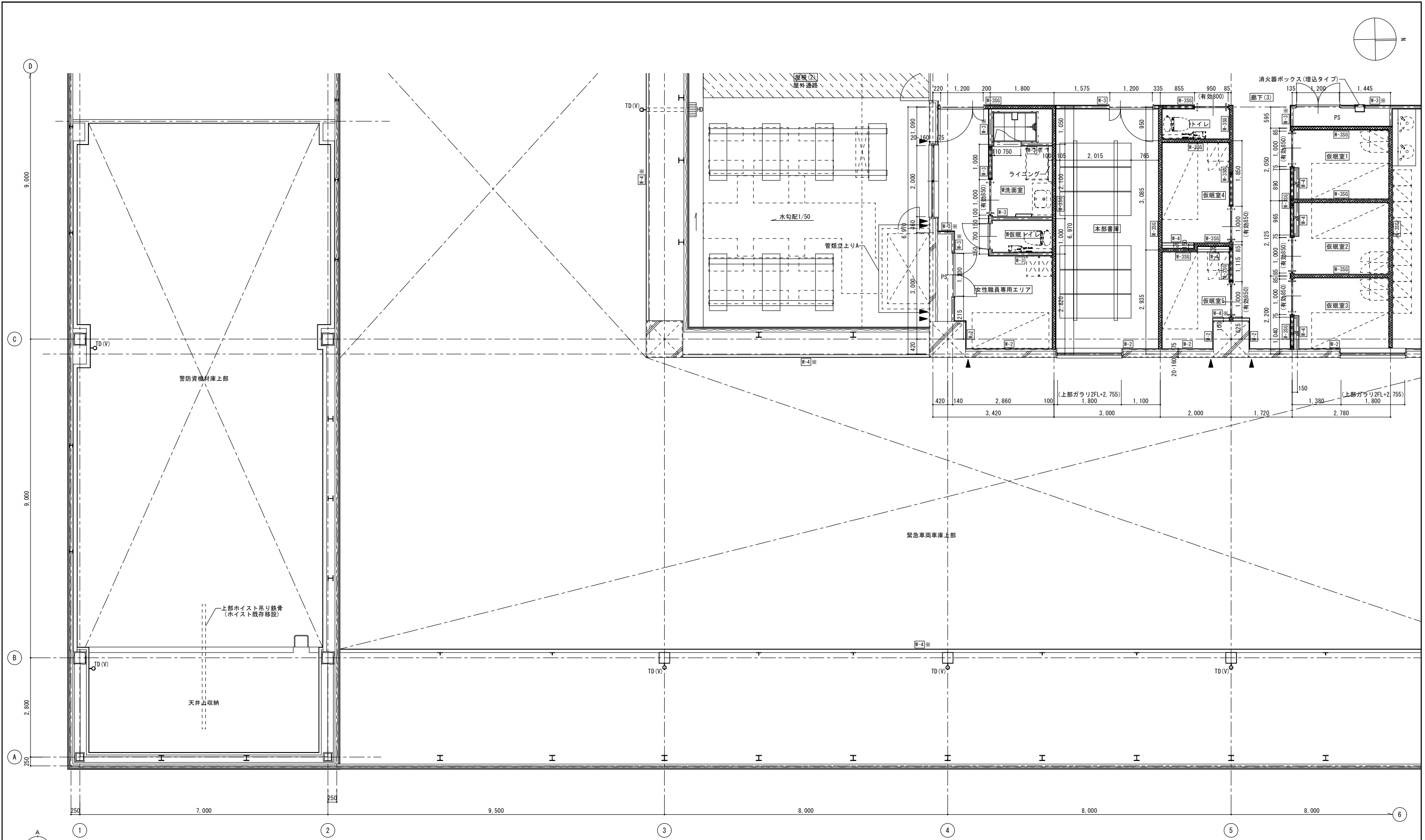
W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-2	[一般壁 Ⅰ工法] C(C)-b + GB-Rt12.5 (GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 天井まで
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5 (GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地共 天井まで

2階平面詳細図(3) S=1/50

W-10	C(B)-b	PR	ポード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)
------	--------	----	----------------------------

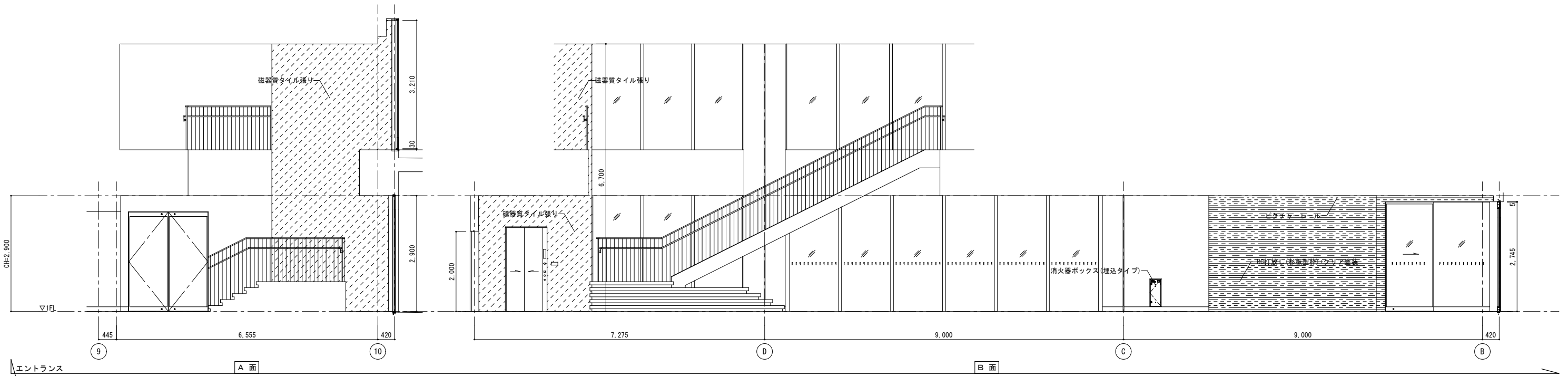
■凡例

○*	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)	〰〰〰〰	GW(24kg/m ³)充填、スラブまで	TD(A)	アルミ製 100角(角型)	OF	オーバードレーン
▲	構造スリット	○	誘導表示 (SUS製)	TD(V)	カラー塩ビ製100φ	HD	横引きドレイン
△	コーナガード	○	誘導表示 (SUS製)	RD	ルーフトレイン		
PR	ピクチャーレール						

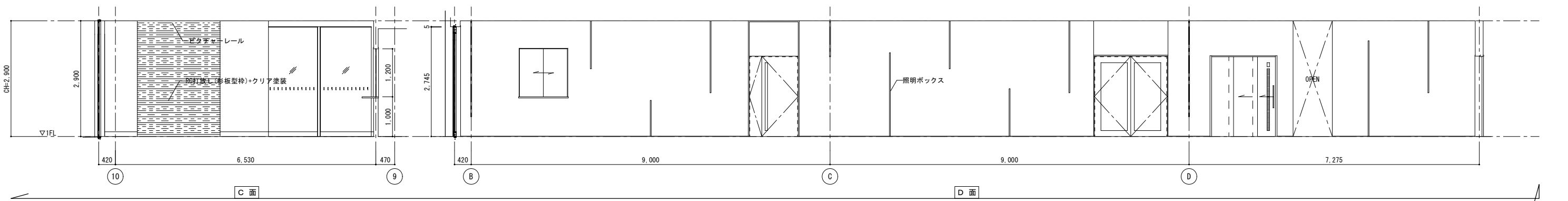


2階平面詳細図(4) S=1/50

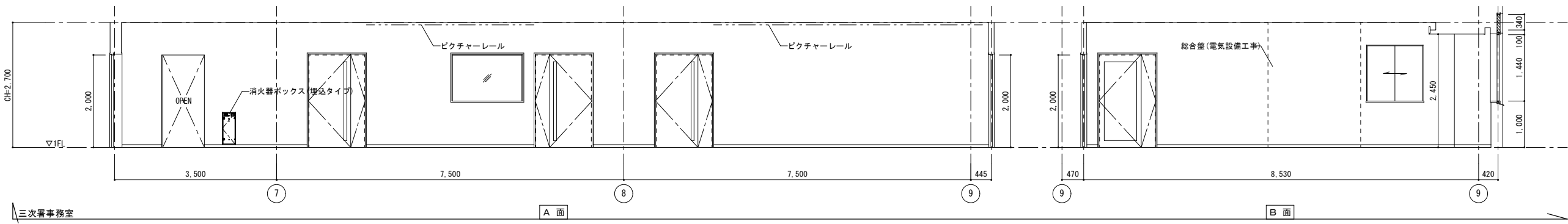
■壁凡例				■凡例				
W-1	C(A)-a	W-3SG	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 GW充填 スラブまで	W-7	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	***	FLからの高さを示す (特記なき限りFL±0とする)	
W-2	[一般壁 Ⅰ工法] C(C)-b + GB-Rt12.5 (GL)	W-4	[一般壁 一枚張り]LGS + GB-Rt12.5 天井まで	W-7S	[防水壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-St12.5	▲	構造スリット	
W-3	[一般壁 二枚張り]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 天井まで	W-5	[防火区画壁]LGS + GB-Ft12.5 + GB-Ft12.5 スラブまで	W-8	[防水壁 一枚張り]LGS + GB-St12.5 天井まで	○	コーナガード	
W-3S	[遮音壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 スラブまで	W-6	[防水壁 GL工法]LGS + GB-St12.5 (GL)	W-9	[化粧壁]LGS + GB-Rt12.5 + GB-Rt12.5 木下地共 天井まで	□※	ボード片面張りを示す。(特記なき限り両面張りとする)	
NOTE				PR				ピクチャーレール



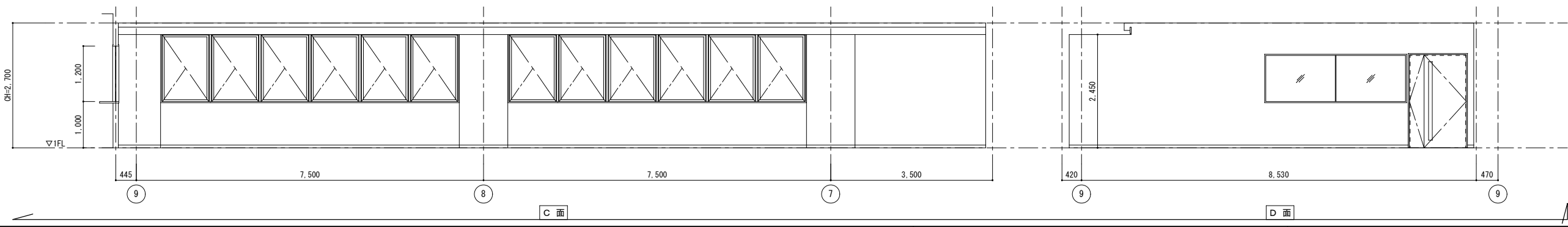
エントランス A面 B面



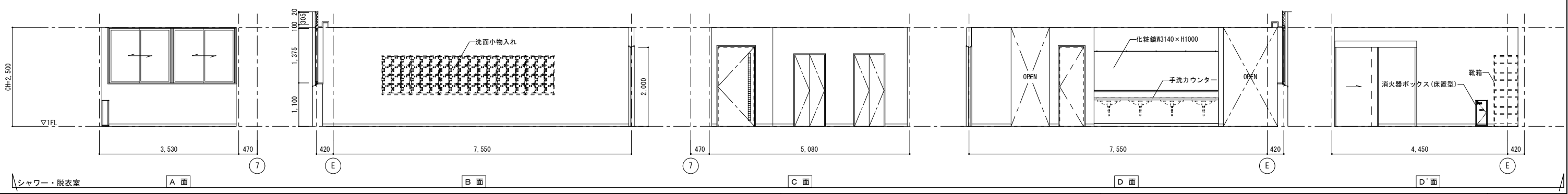
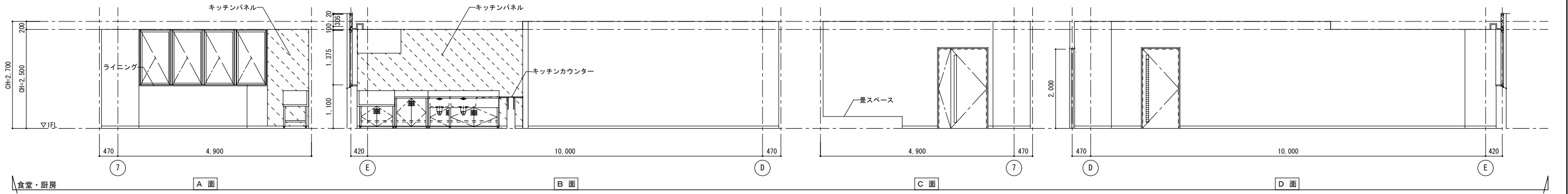
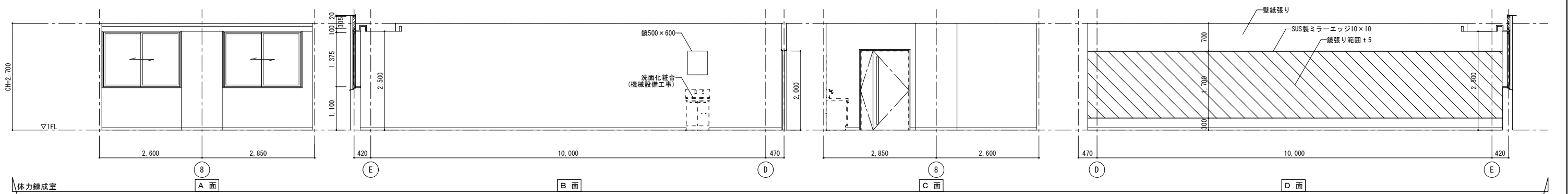
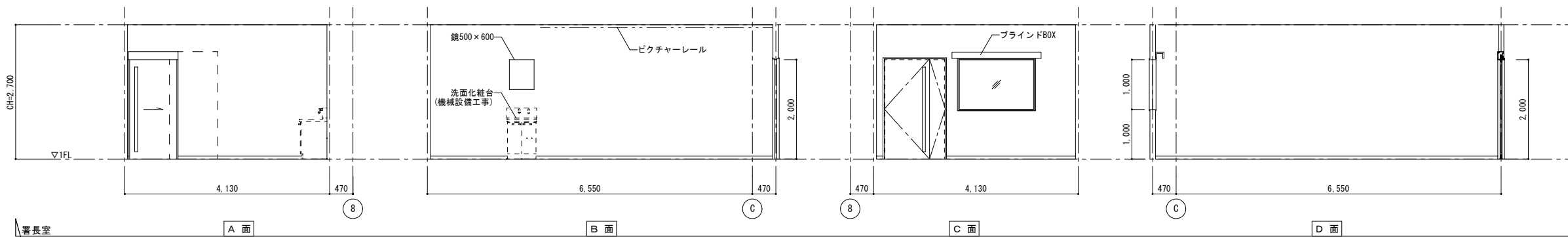
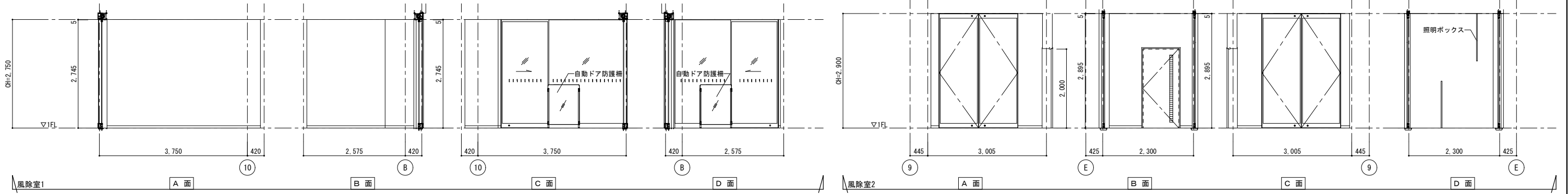
C面 D面

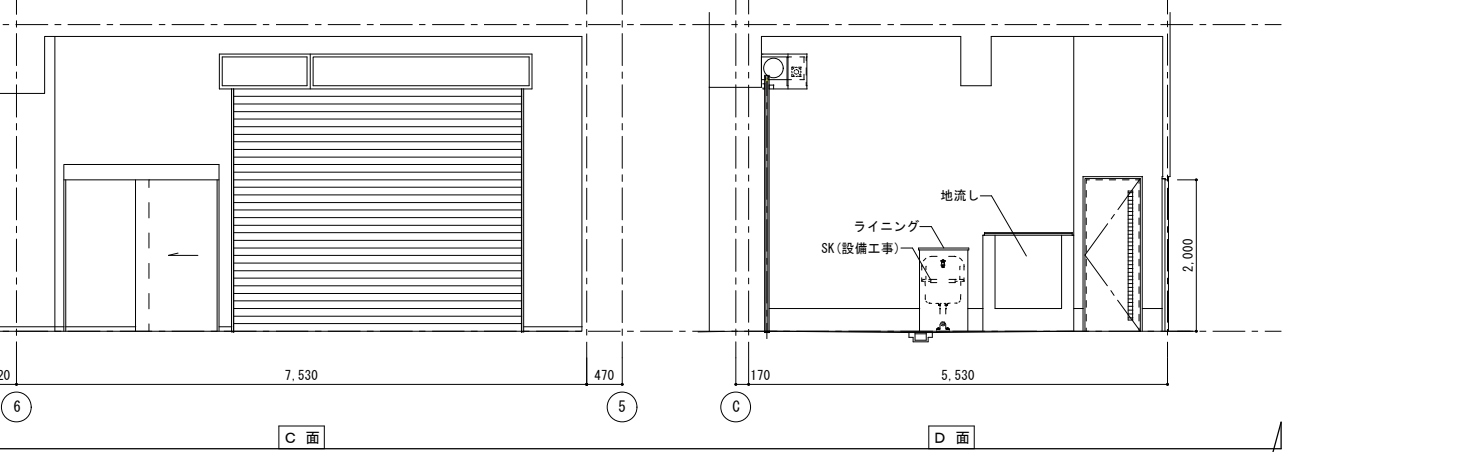
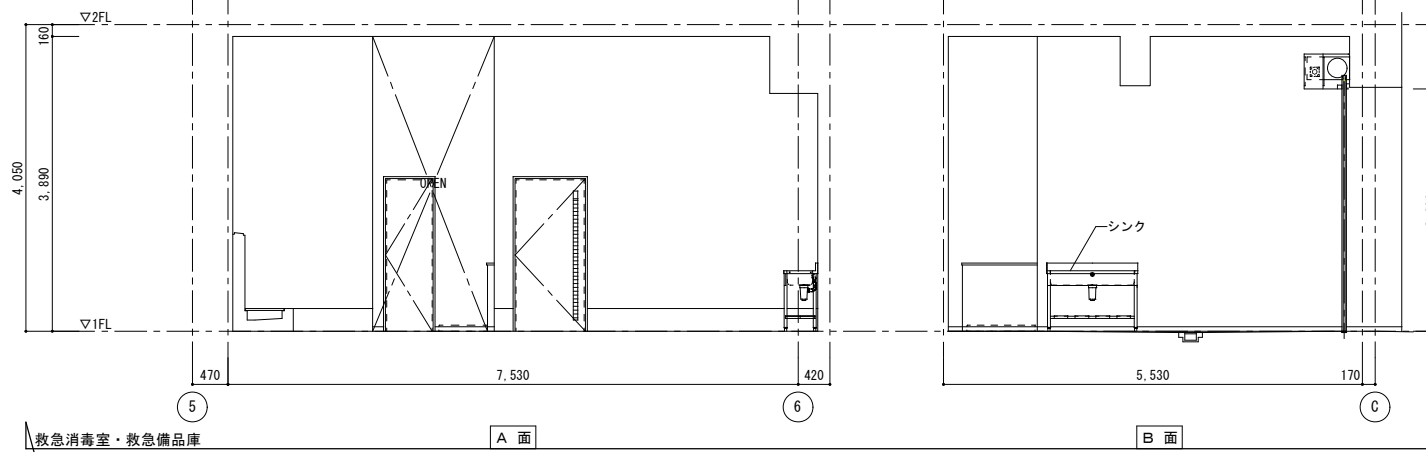
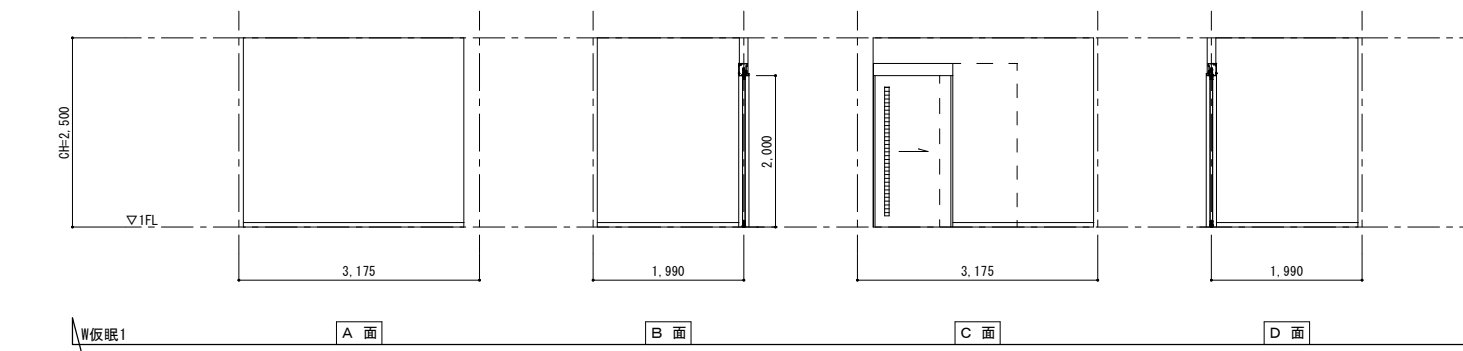
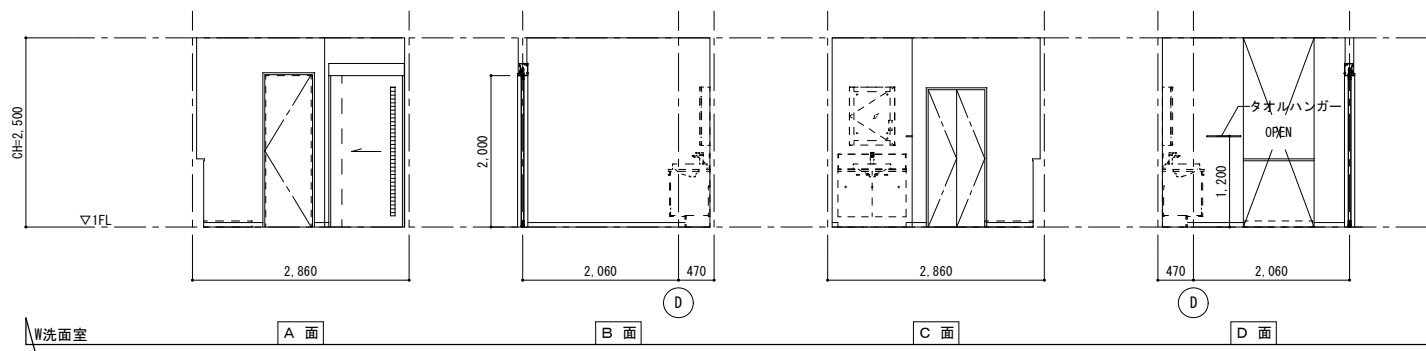
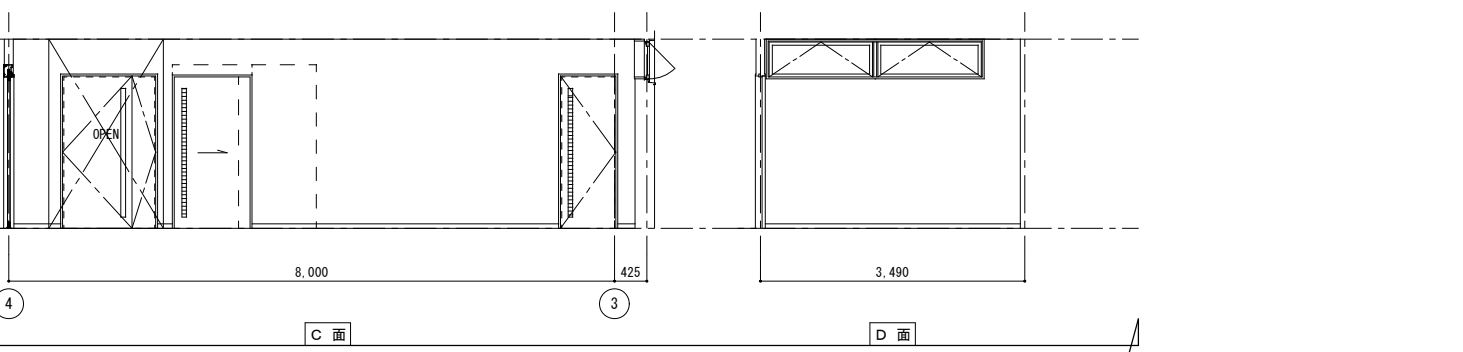
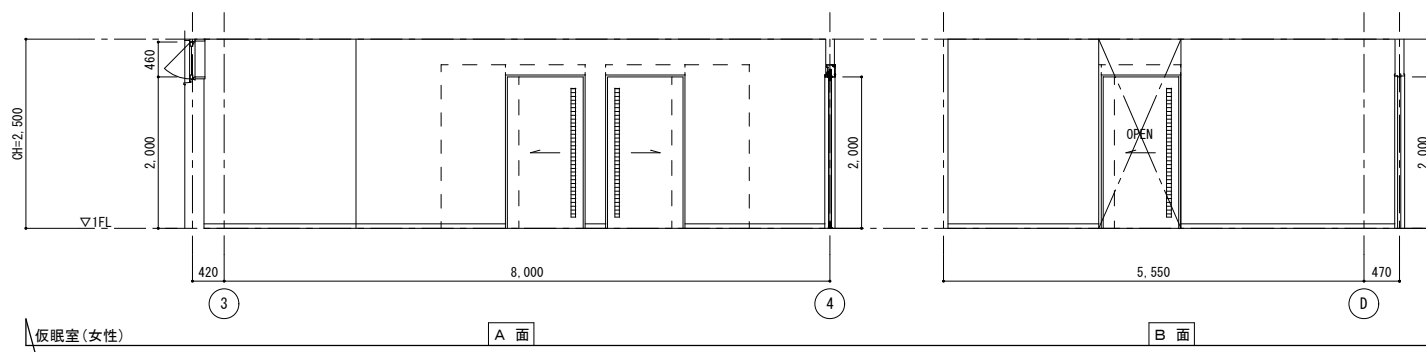
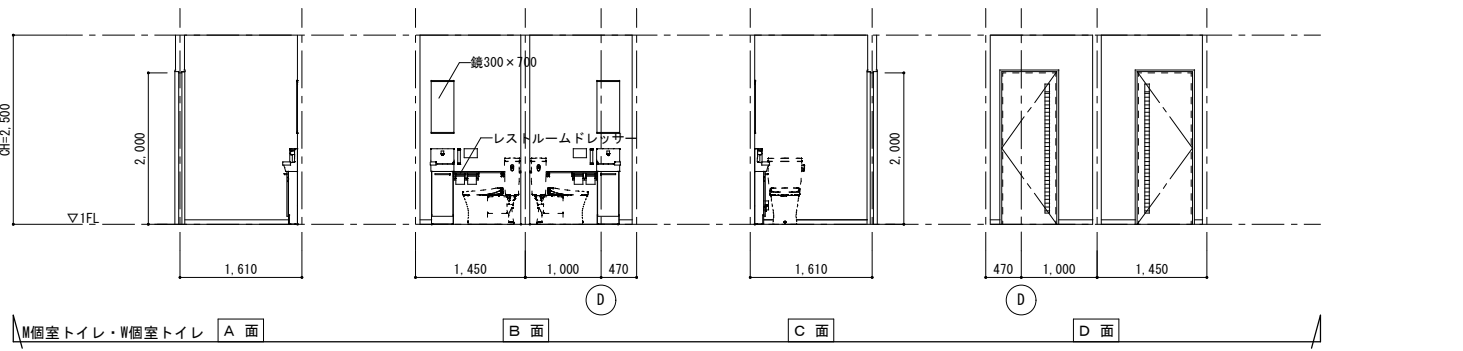
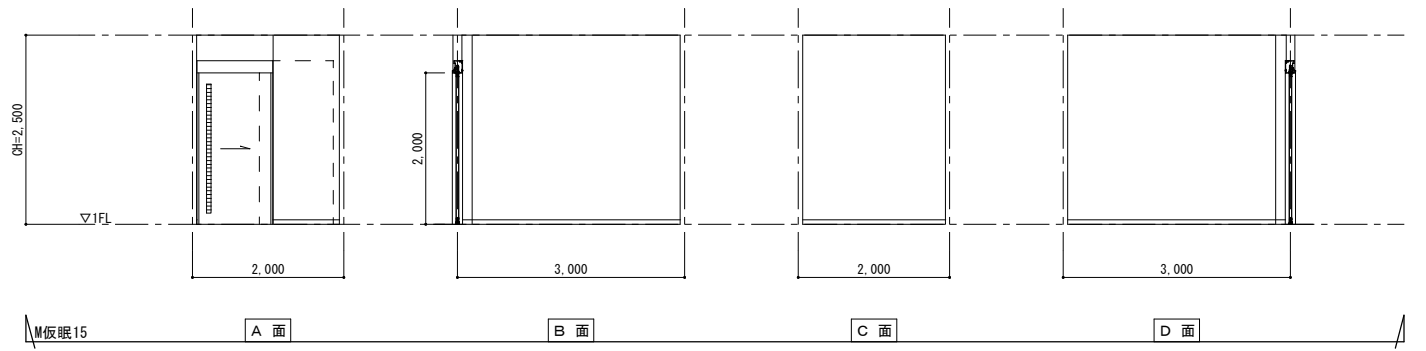
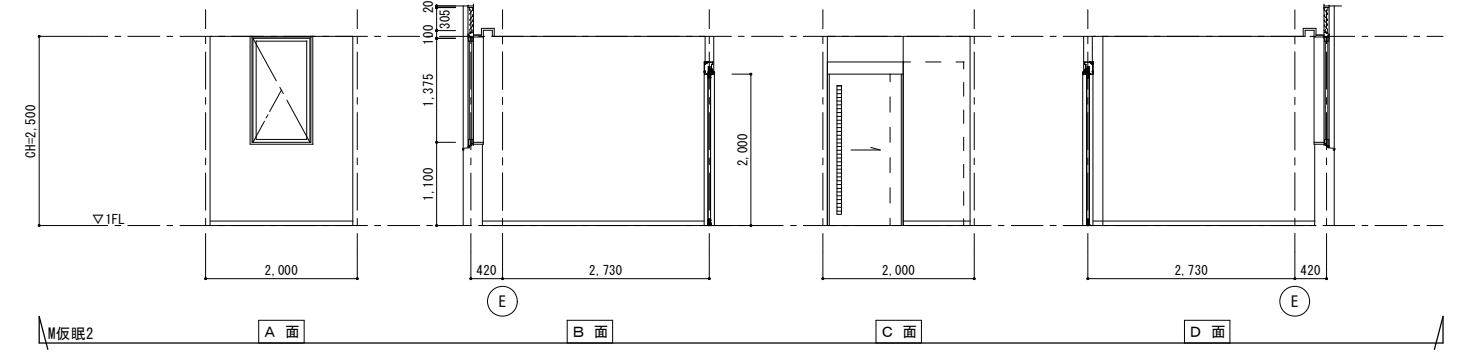
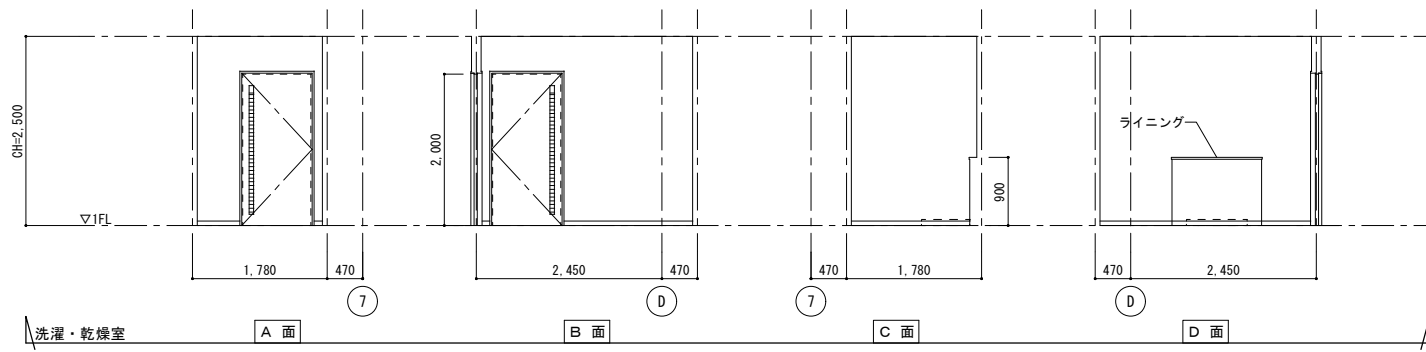


三次書事務室 A面 B面



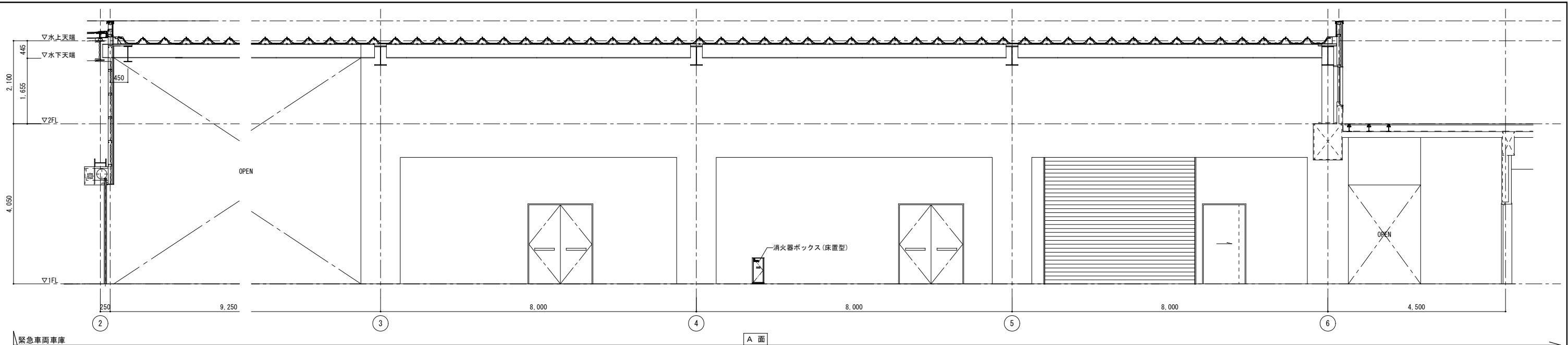
C面 D面





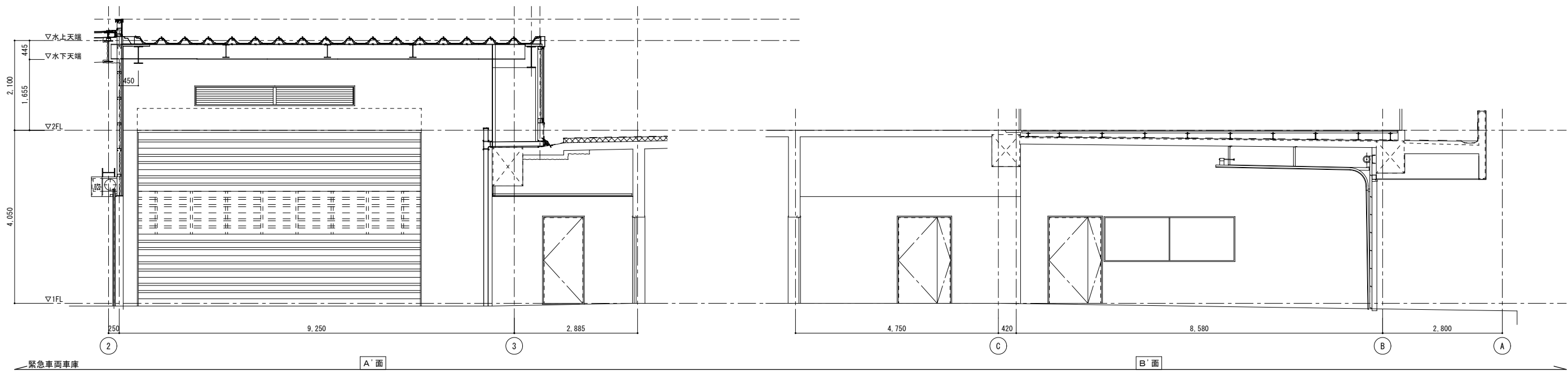
NOTE	

	株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築) 【庁舎棟】1階展開図(3)	SCALE A1: 1/50 A3: 1/100	DWG No. A 045
	一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋			



緊急車両車庫

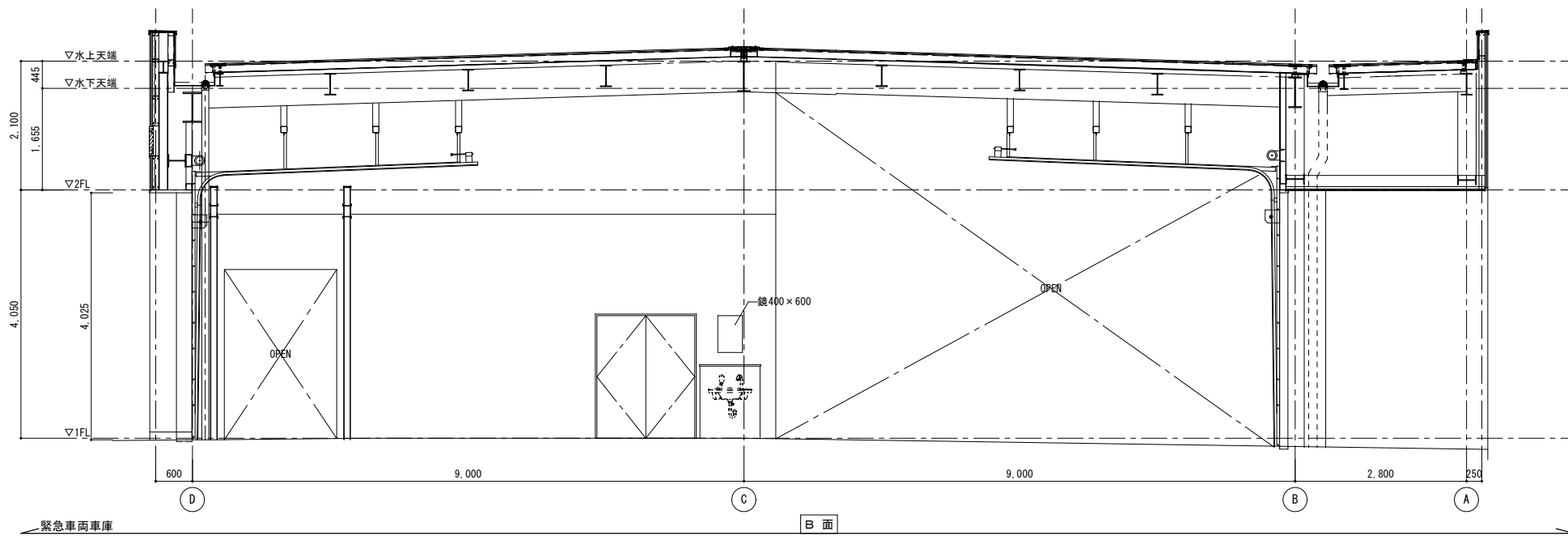
A 面



緊急車両車庫

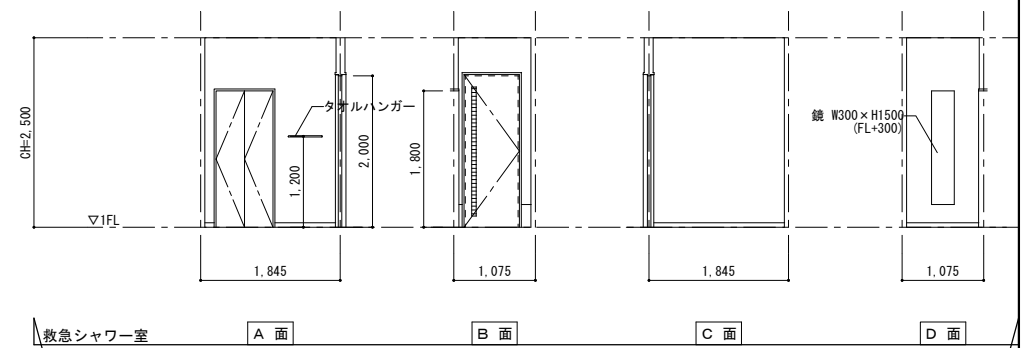
A' 面

B' 面



緊急車両車庫

B 面



救急シャワー室


A 面

B 面

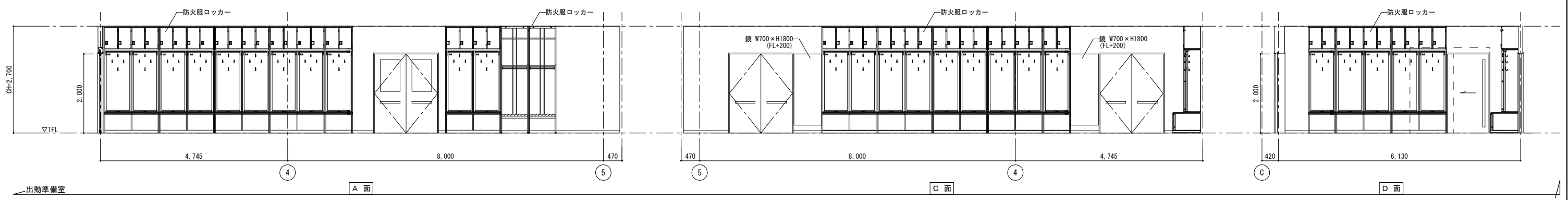
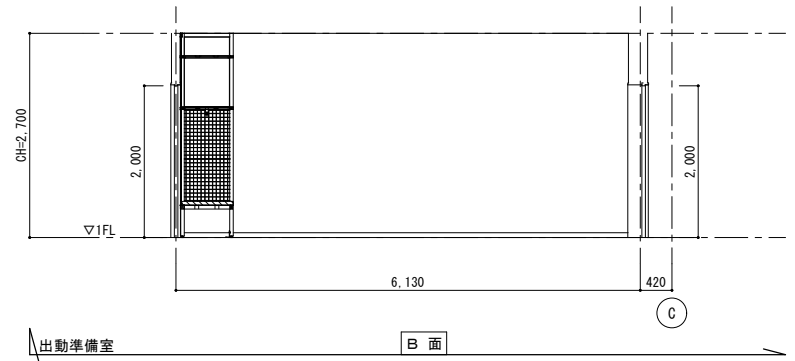
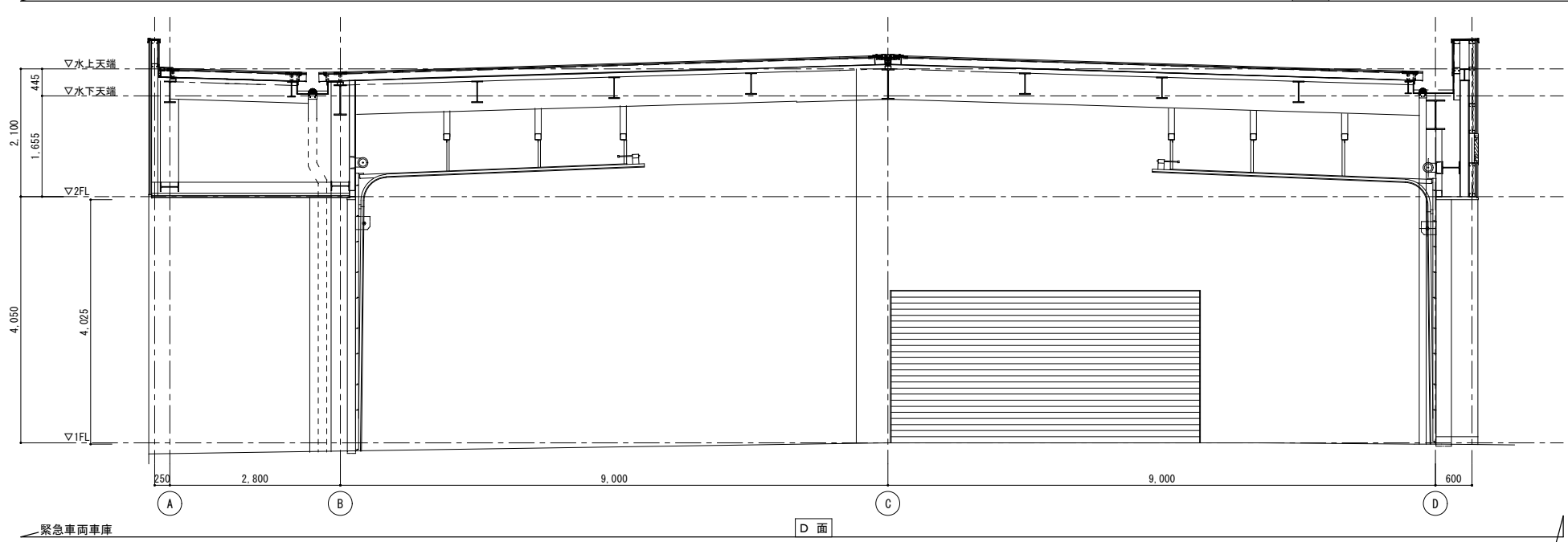
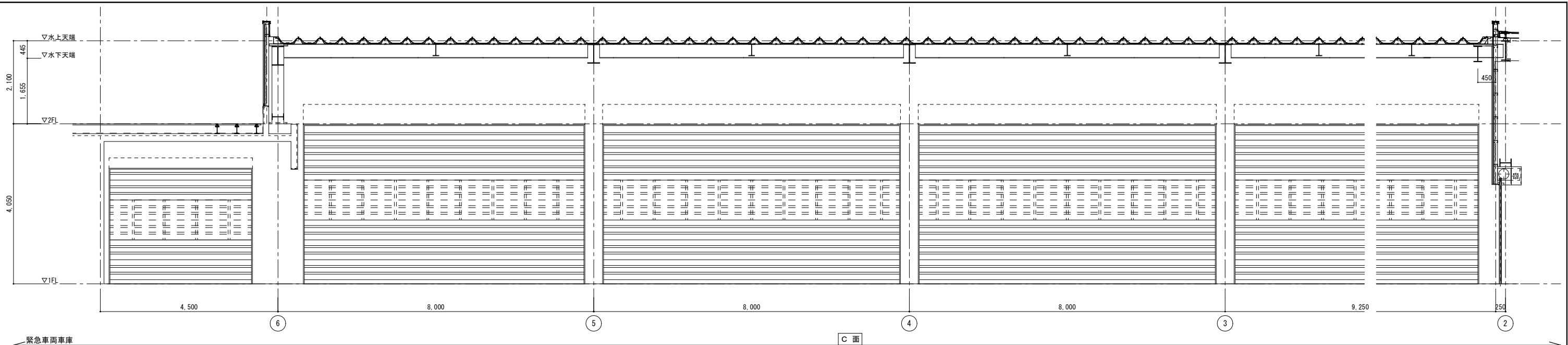
C 面

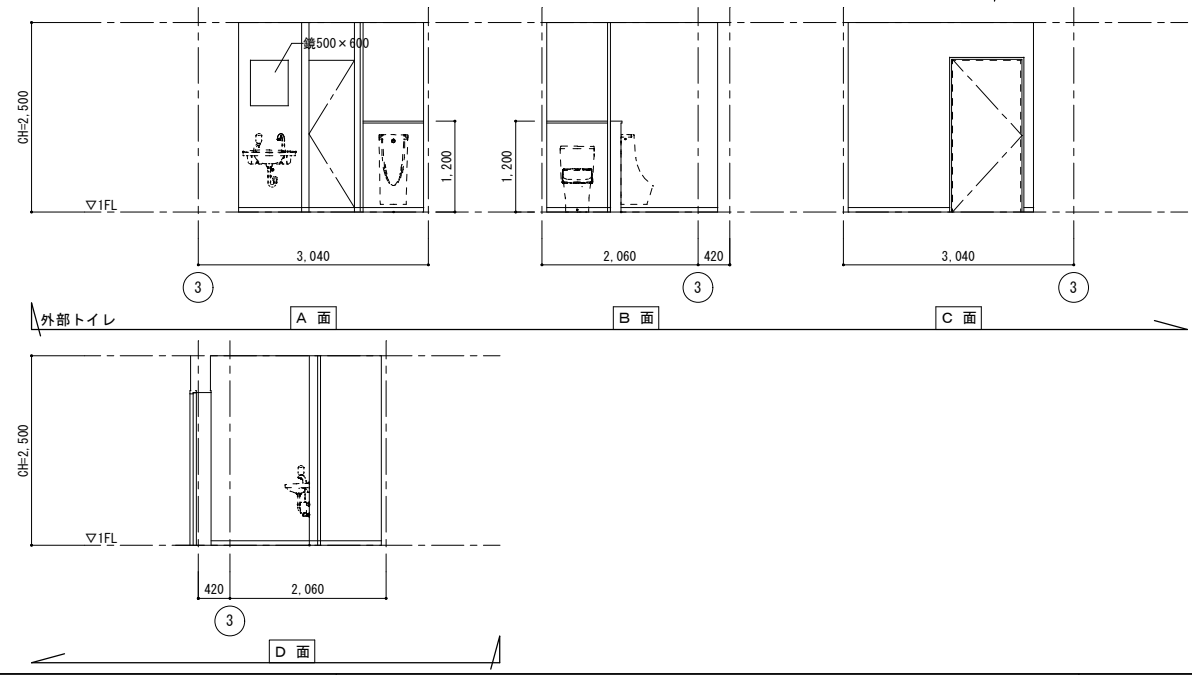
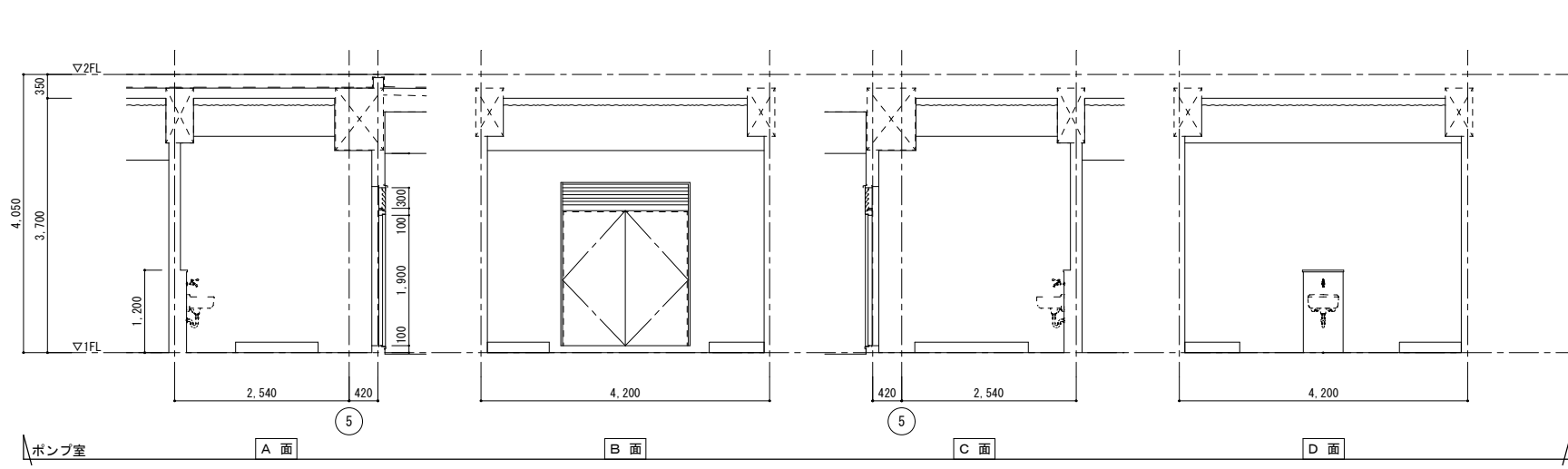
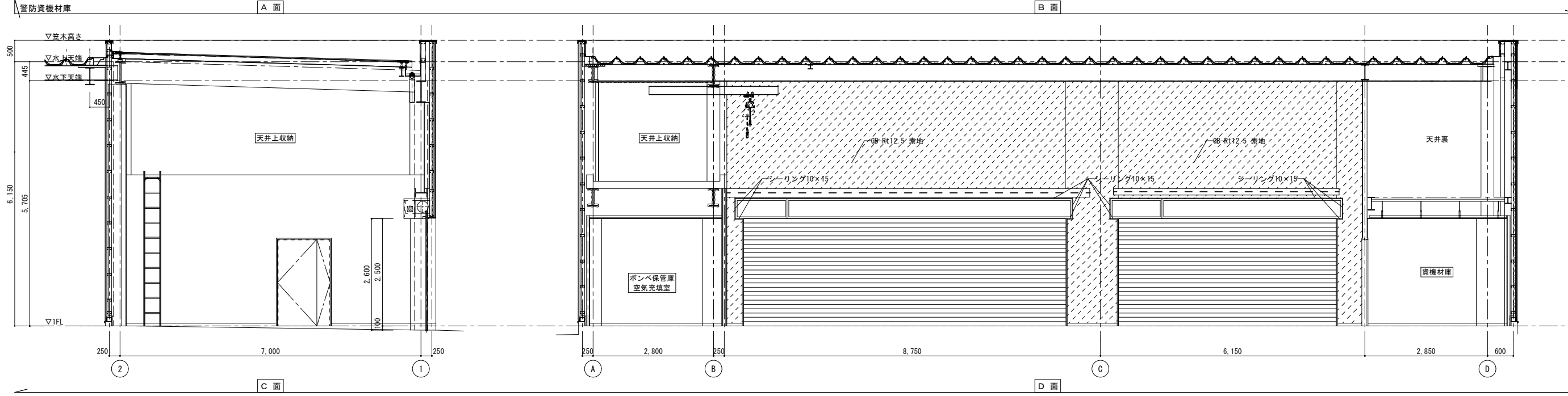
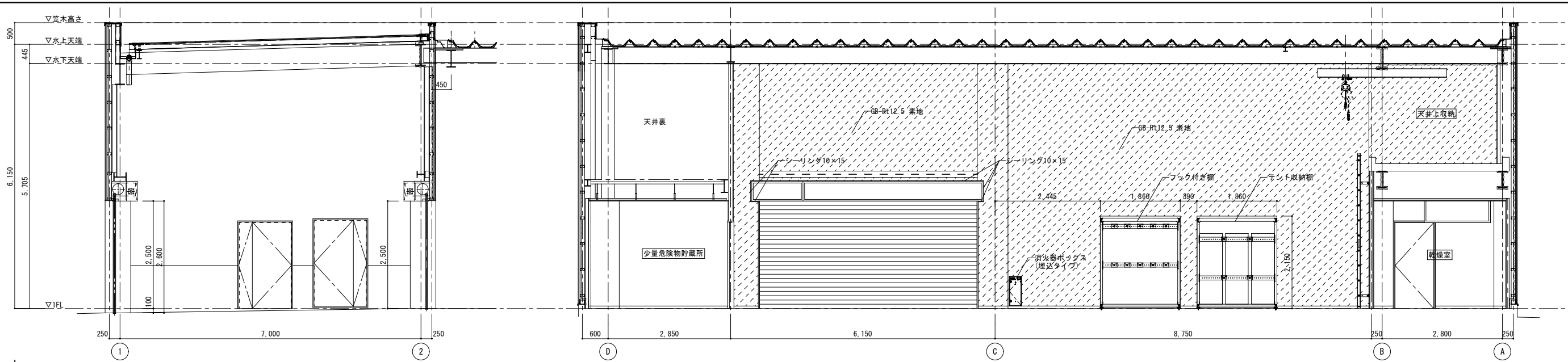
D 面

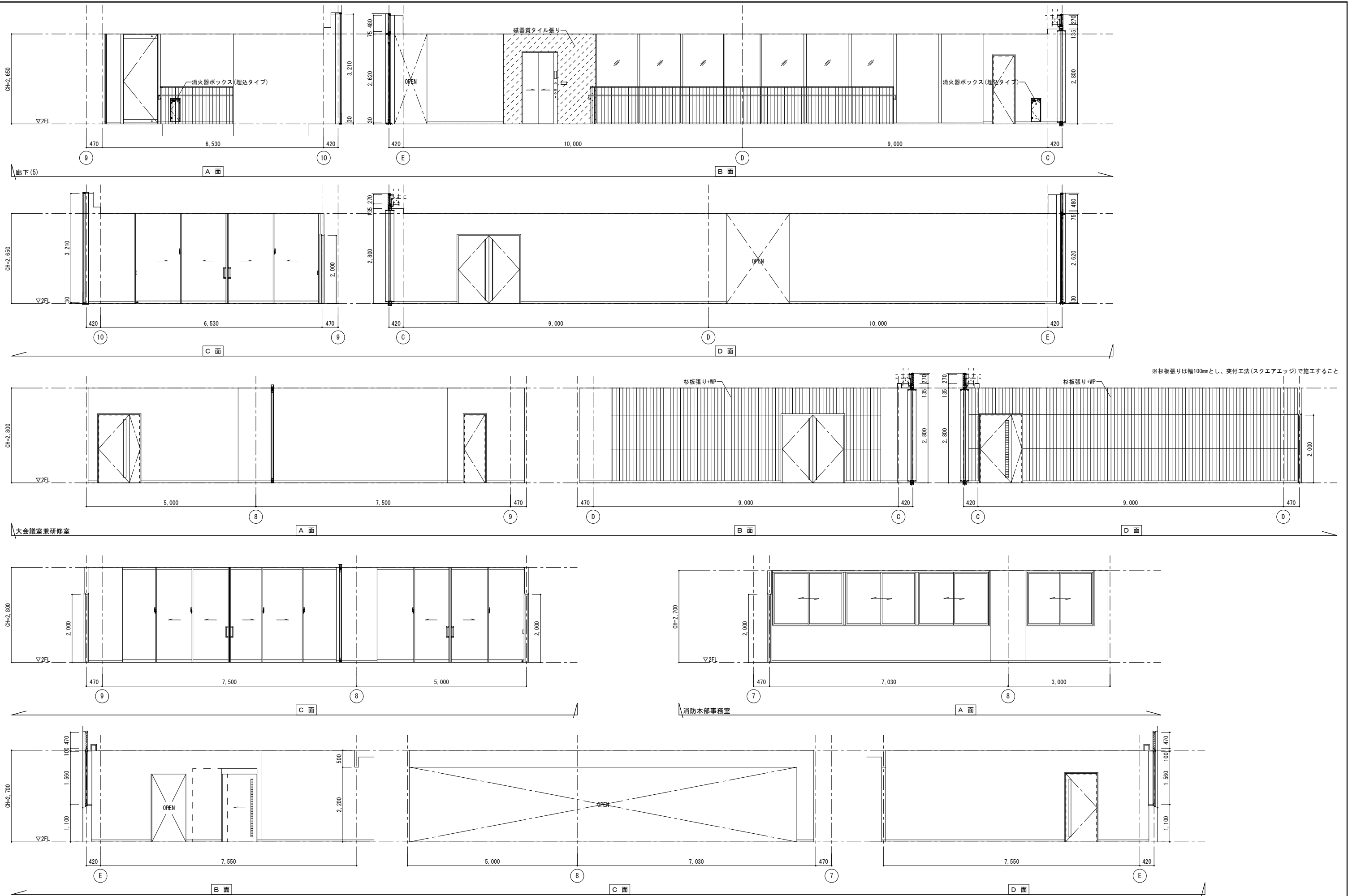
NOTE	

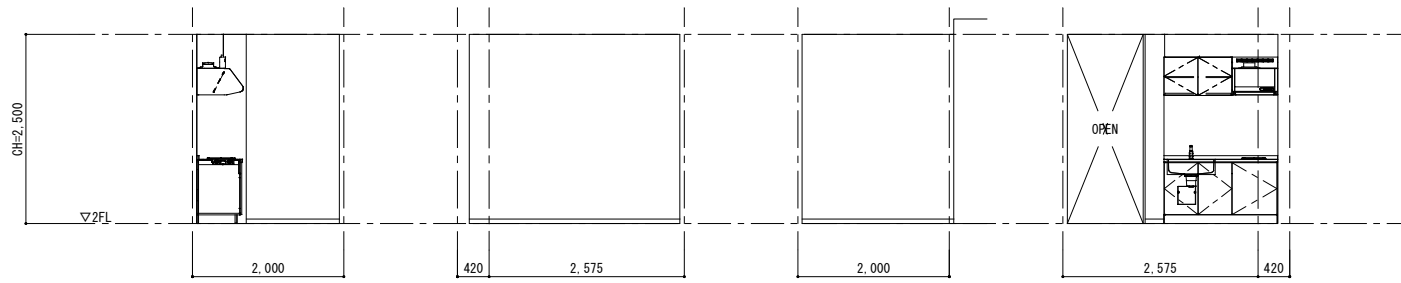

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【庁舎棟】1階展開図(4)
 SCALE A1: 1/50
 A3: 1/100
 DWG No. A
 046

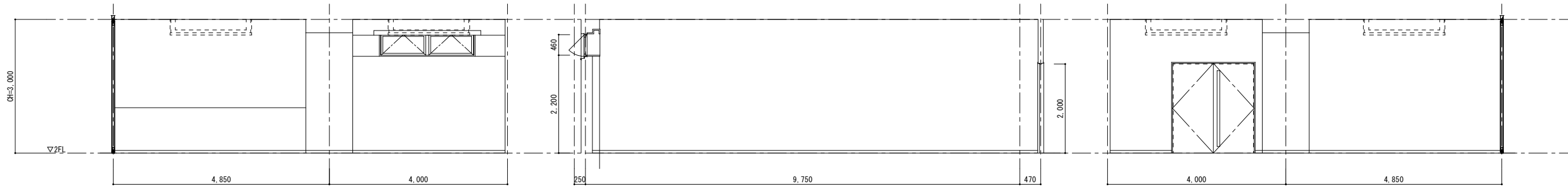




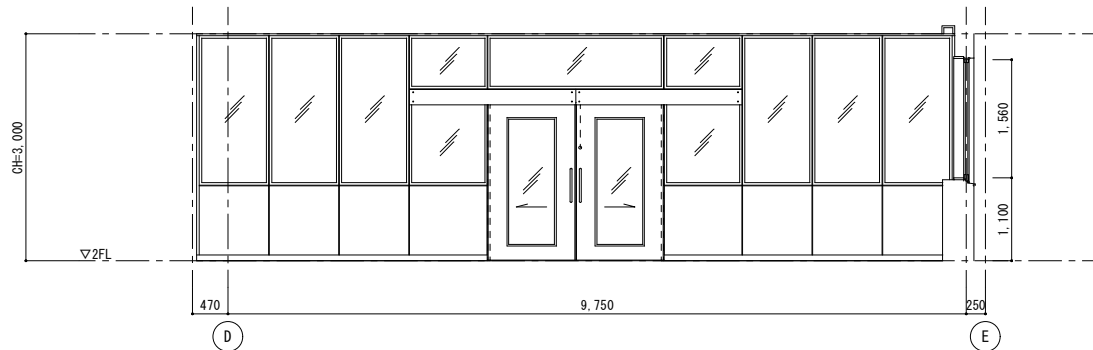




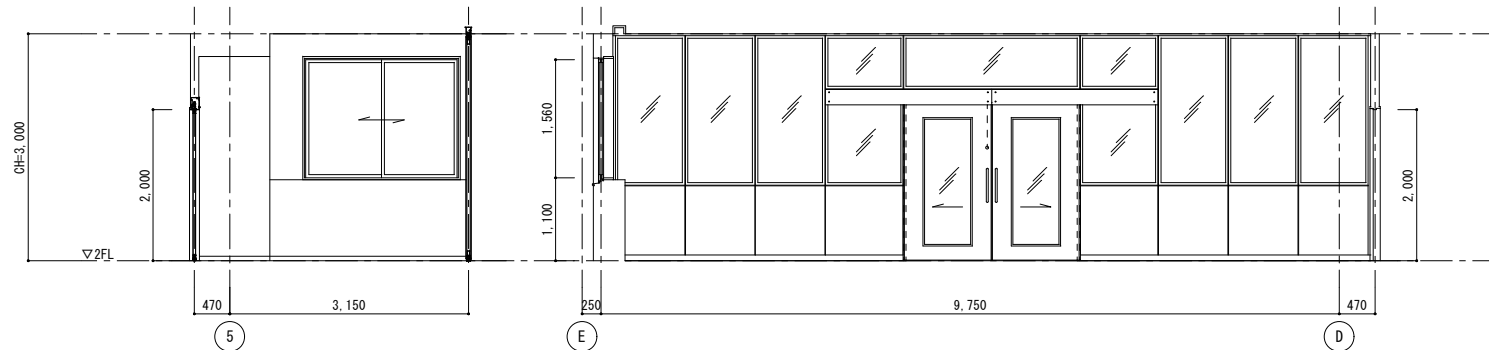
給湯室 A面 B面 C面 D面



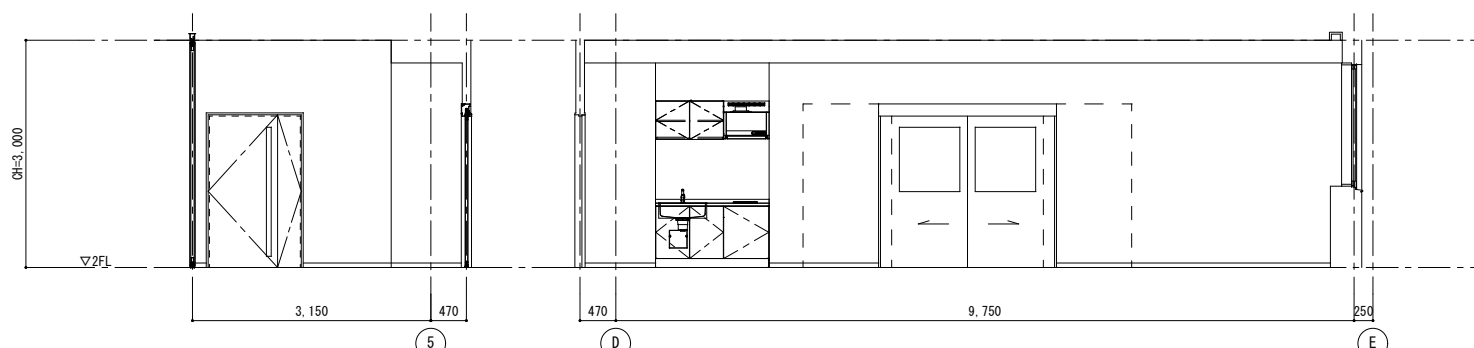
指令室 A面 B面 C面



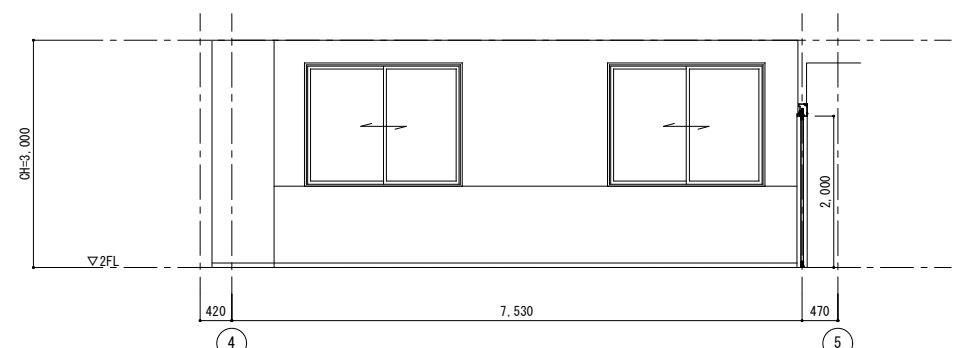
D面



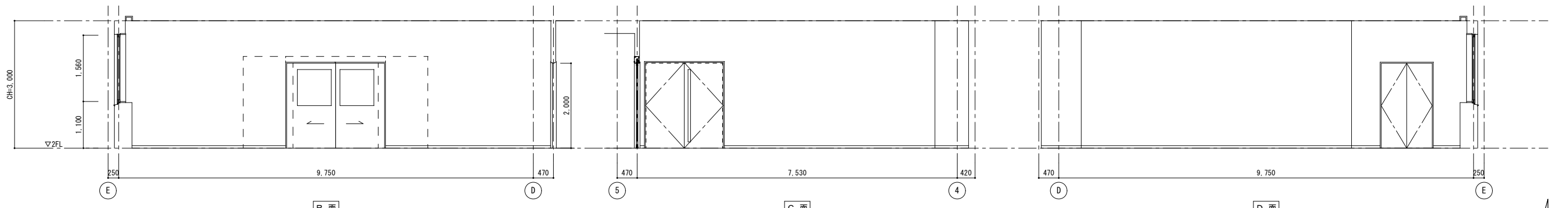
通信指令課事務室 A面 B面



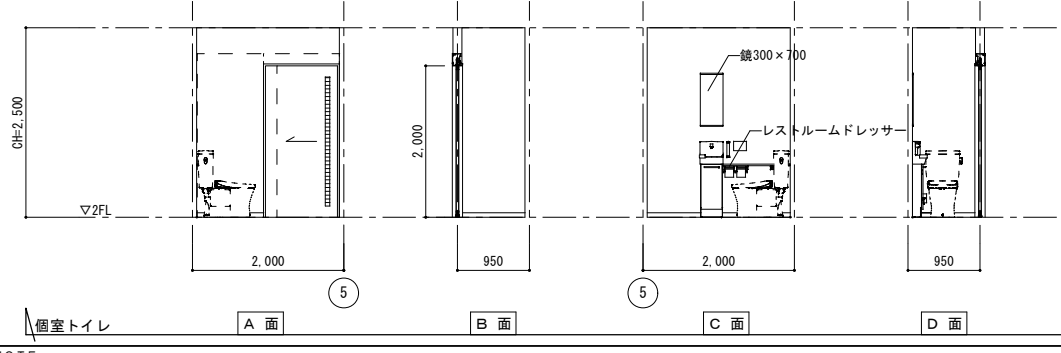
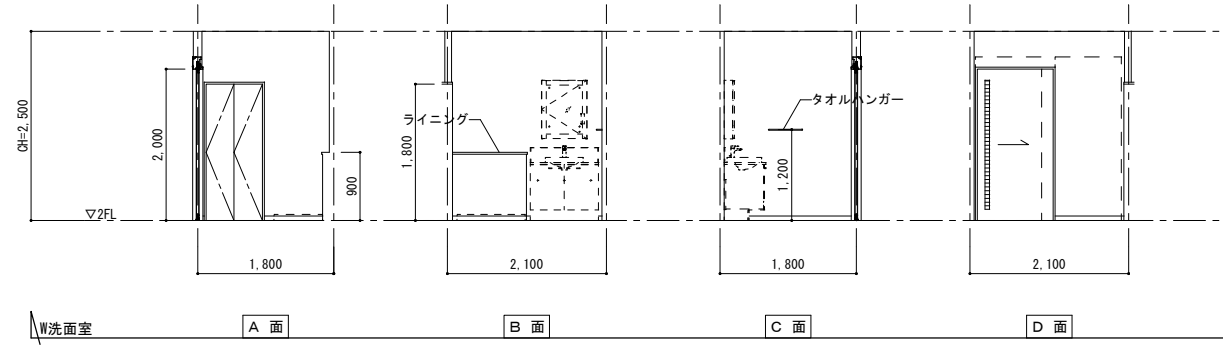
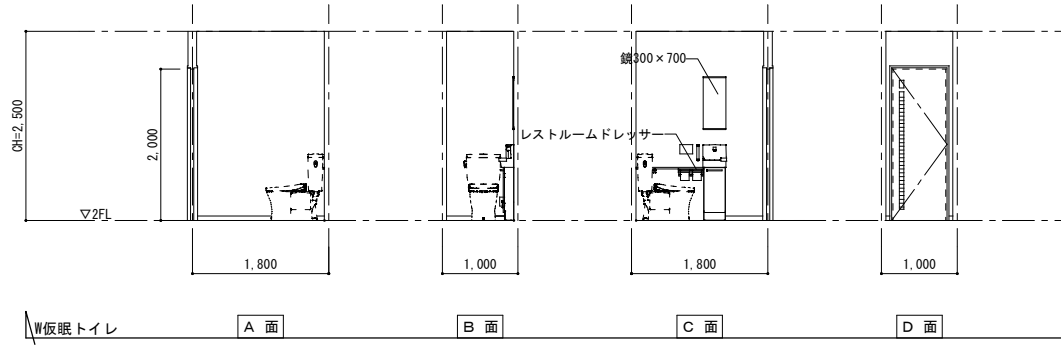
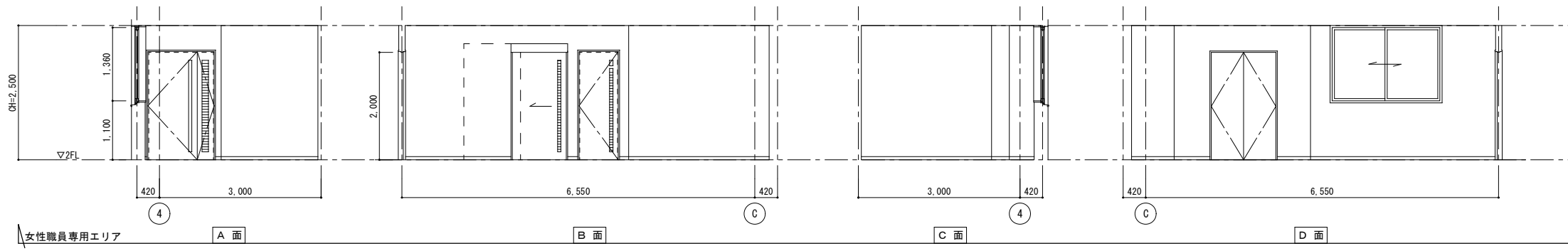
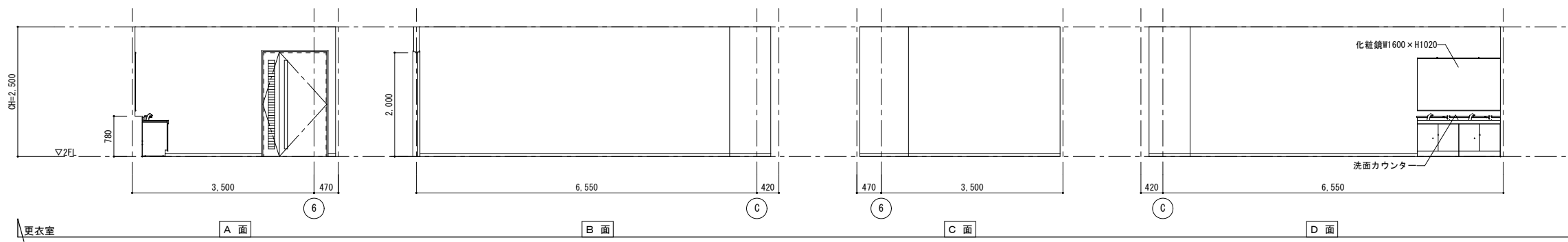
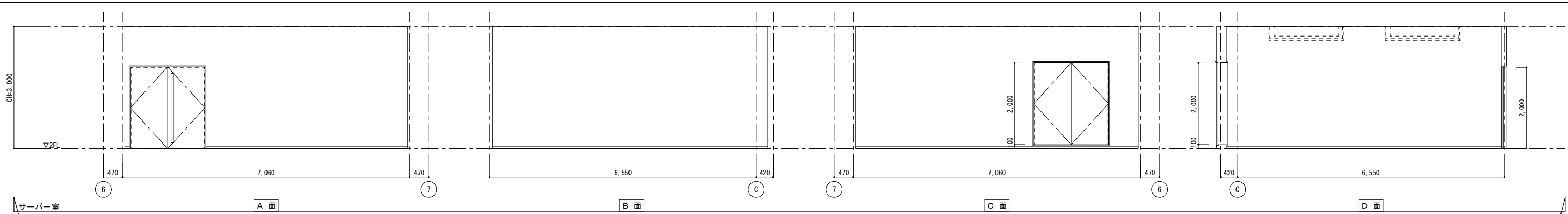
C面 D面



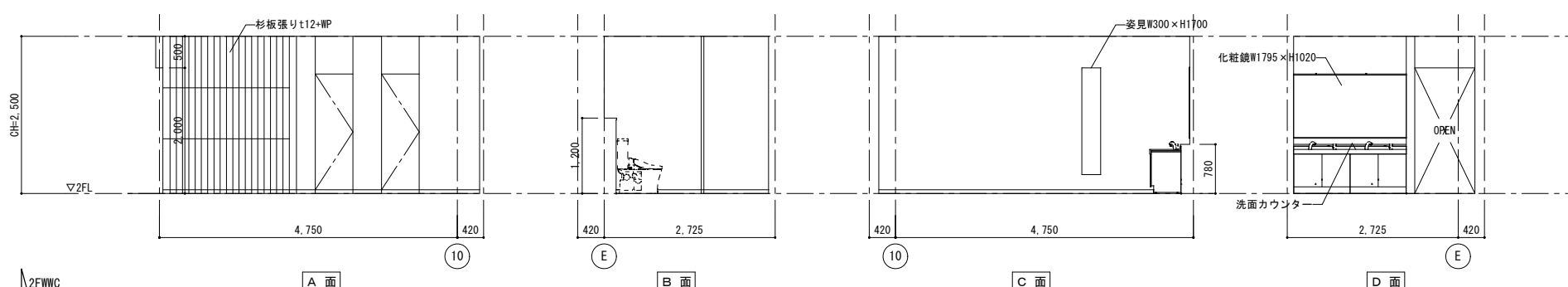
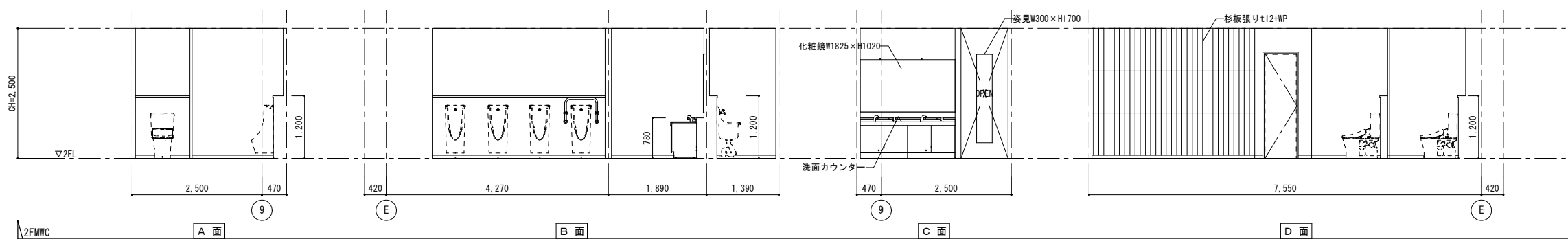
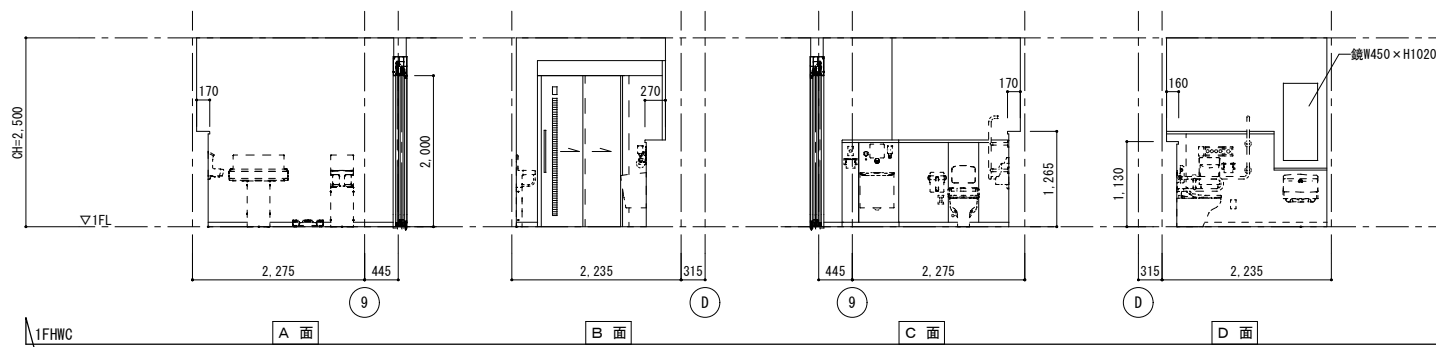
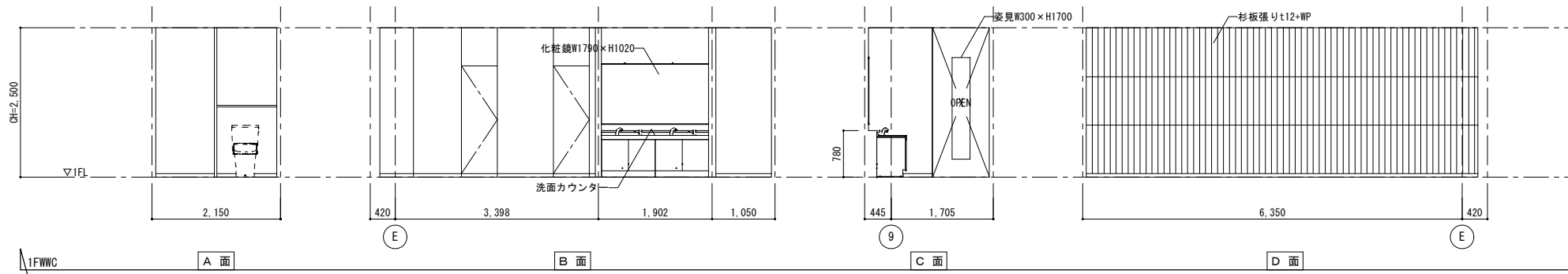
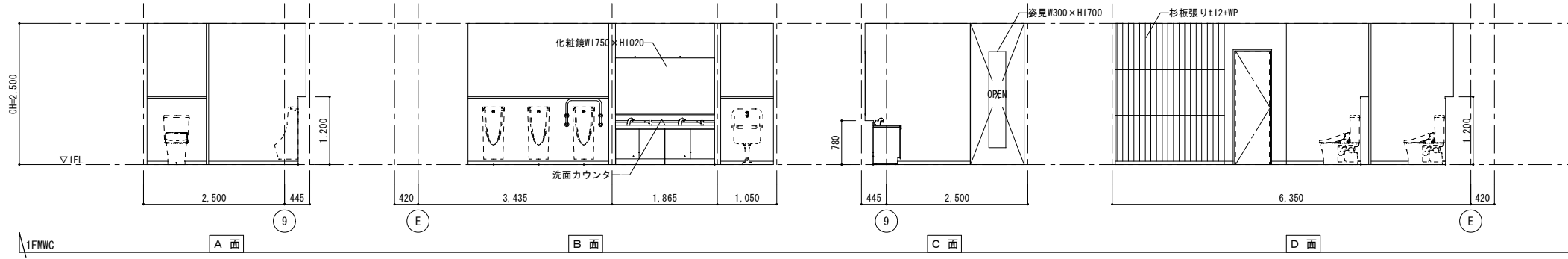
対策室 A面



B面 C面 D面



NOTE

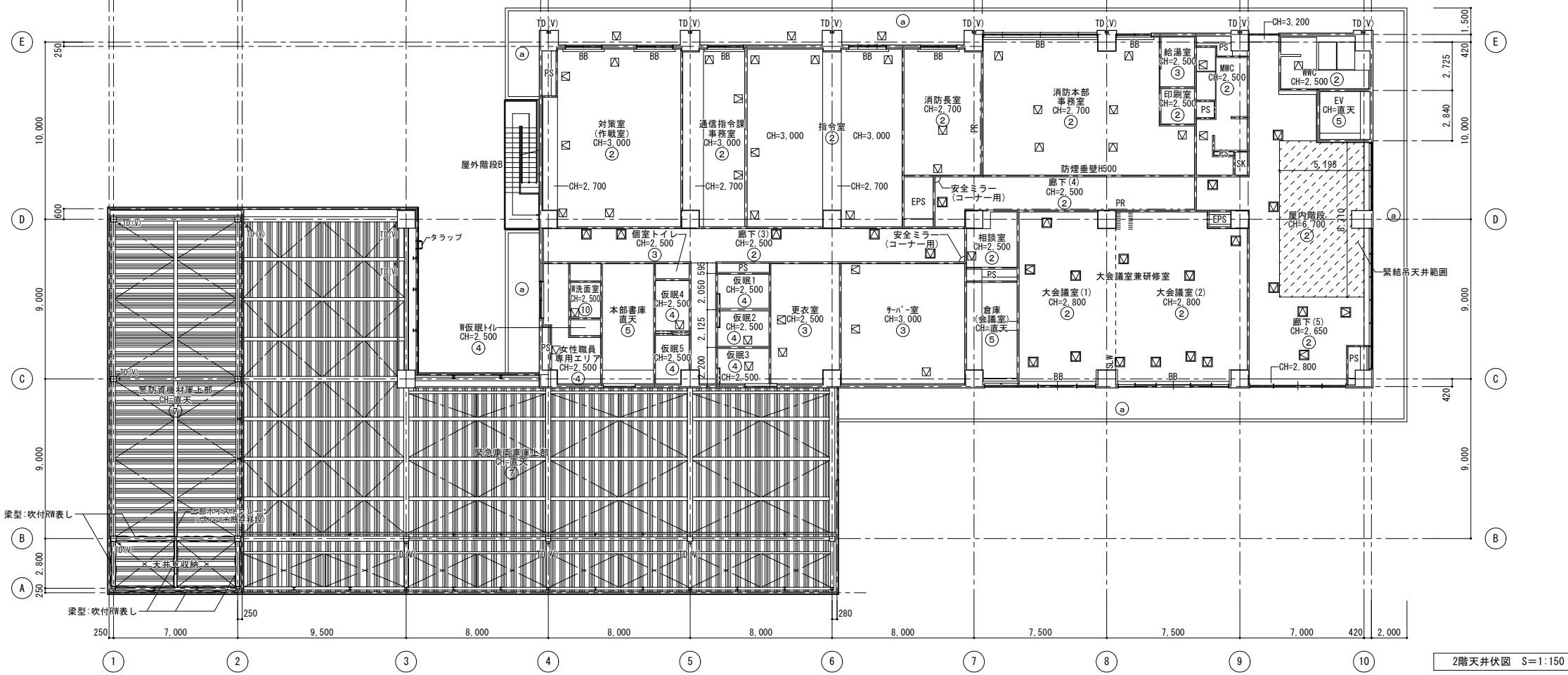


NOTE	

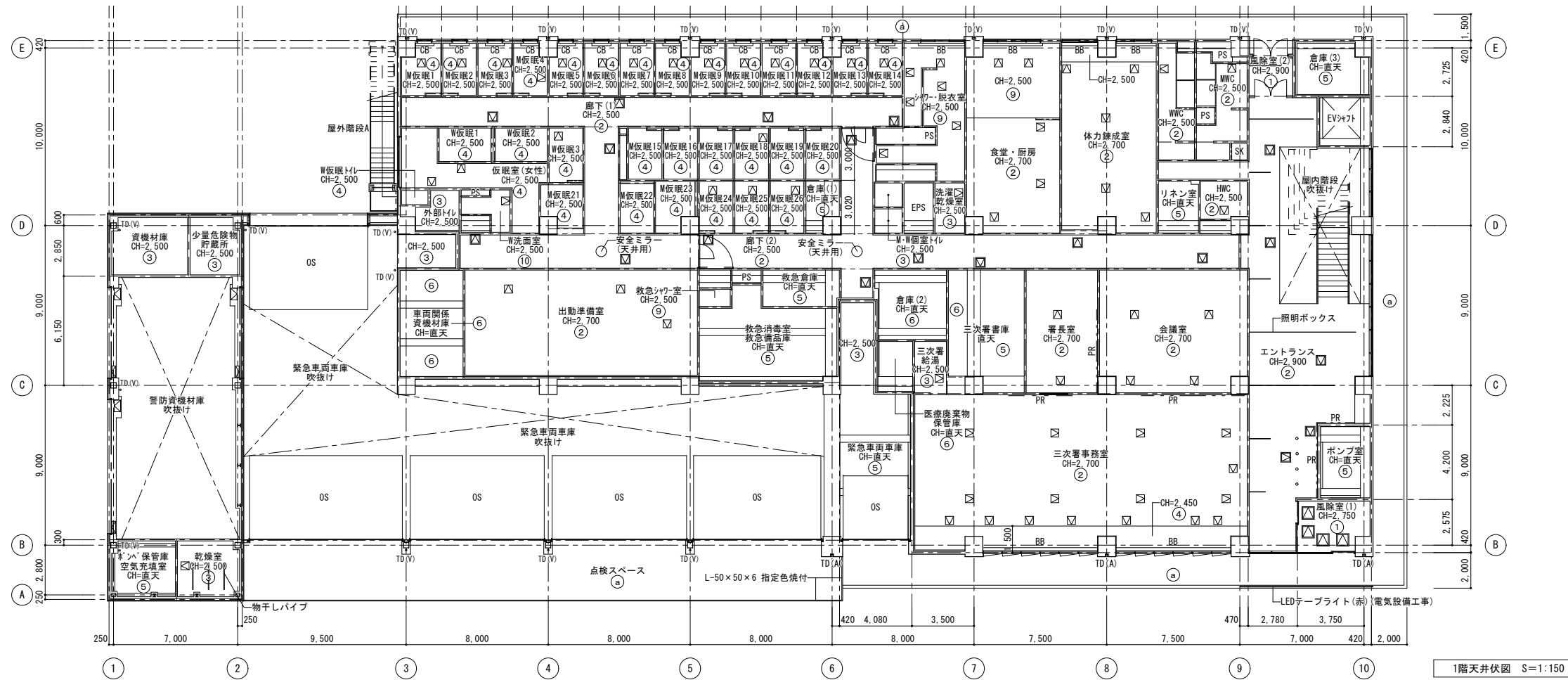
株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【庁舎棟】便所展開図

SCALE	A1 : 1/50 A3 : 1/100	DWG. No.	A 052
-------	-------------------------	----------	----------



2階天井伏図 S=1:150



1階天井伏図 S=1:150

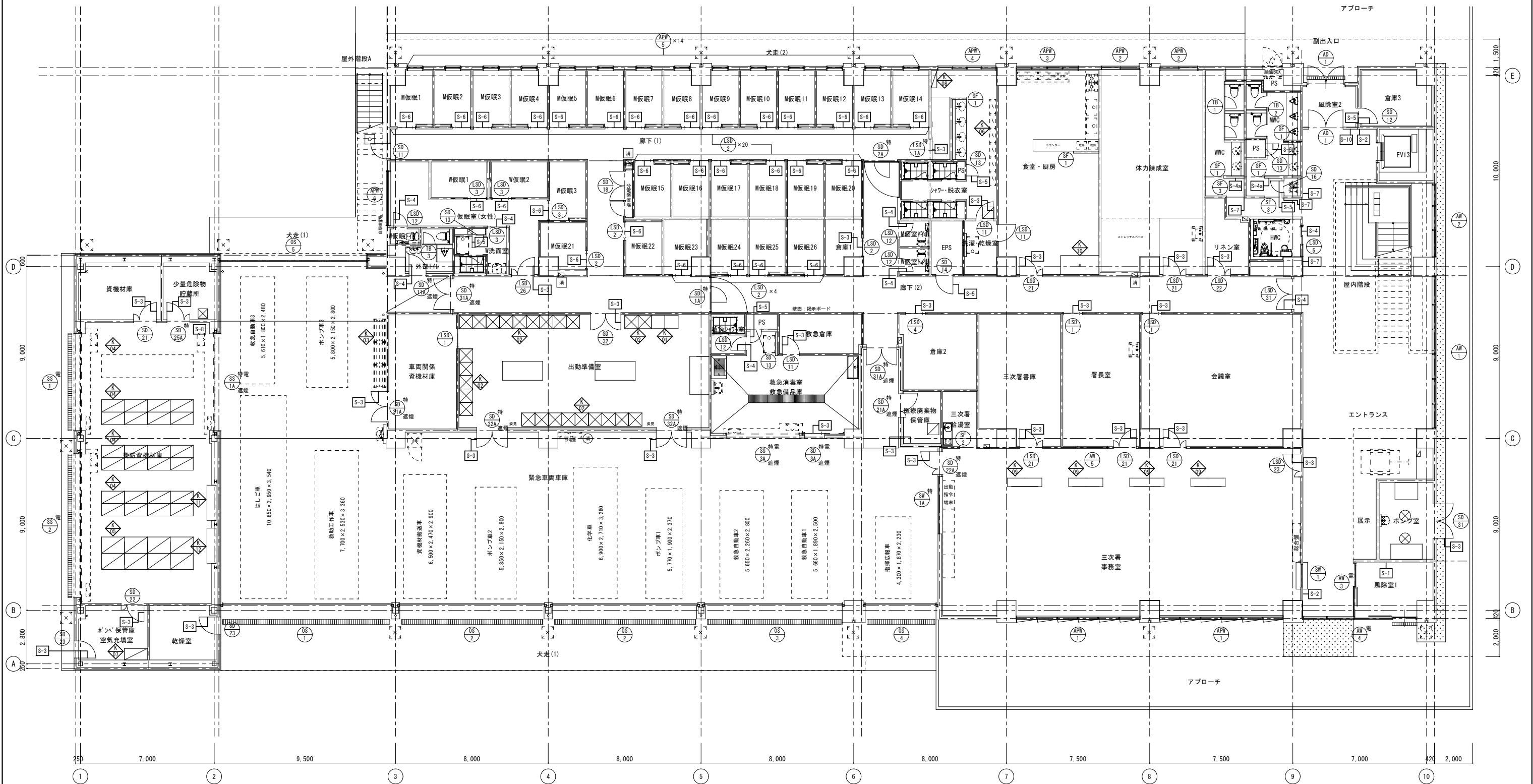
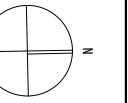
■天井開口補強

	天井開口形状	庁舎棟		
		1F (ヶ所)	2F (ヶ所)	計 (ヶ所)
PAC2方向	1100 × 700	1	3	4
PAC2方向	1800 × 700	4	1	5
PAC4方向	950 × 950	17	13	30
HEU-1	700 × 700	2	4	6
HEU-2	800 × 800	9	10	19
天井扇-1	250 × 250	33	8	41
天井扇-2	350 × 350	2	5	7
天井扇-3	400 × 400	3	3	3
天井扇-4	500 × 500	2	1	3
制気口	170 × 170	1	1	2
制気口	200 × 200	12	5	17
制気口	250 × 250	4	2	6
制気口	300 × 300	1	2	3
制気口	350 × 350	13	4	17
制気口	550 × 550	1	1	1
制気口	300 × 800	1	1	1
フード	800 × 1100	1	1	1
照明器具	450 × 450	23	6	29
照明器具	150 × 1235	30	30	60
照明器具	220 × 1235	28	34	62
スピーカ	200φ	51	24	75

■天井点検口リスト

	450×450		600×600	
	縦線タイプ	目地タイプ	縦線タイプ	目地タイプ
三次書	69	14		
本部	40	13		
共用部	17		4	

- 凡例
- ① アルミパネル t 3.0
 - ② DR t 9.0
 - ③ GB-NC(T) t 9.5
 - ④ 壁紙張り
 - ⑤ スラブ表し
 - ⑥ スラブ裏し
硬質ウレタンフォーム吹付
 - ⑦ 折板屋根表し
(特記なき限り 鉄部は溶融垂鉛メッキとする SOP塗装)
 - ⑧ 断熱材表し
 - ⑨ FKt6.0+EP-G
 - ⑩ FK-Dt6.0
 - Ⓐ FK t 12.0(目透かし張り フラット無塗装品)+EP-G
 - ▽ 天井点検口450×450(縦線タイプ)
 - ◻ 天井点検口600×600(縦線タイプ)
 - ◻ 天井点検口450×450(目地タイプ)
 - ◻ 天井点検口600×600(目地タイプ)
 - CB カーテンボックス(カーテン共)
 - BB ブラインドボックス120×130(ブラインド共)
 - PR ビクチャーレール



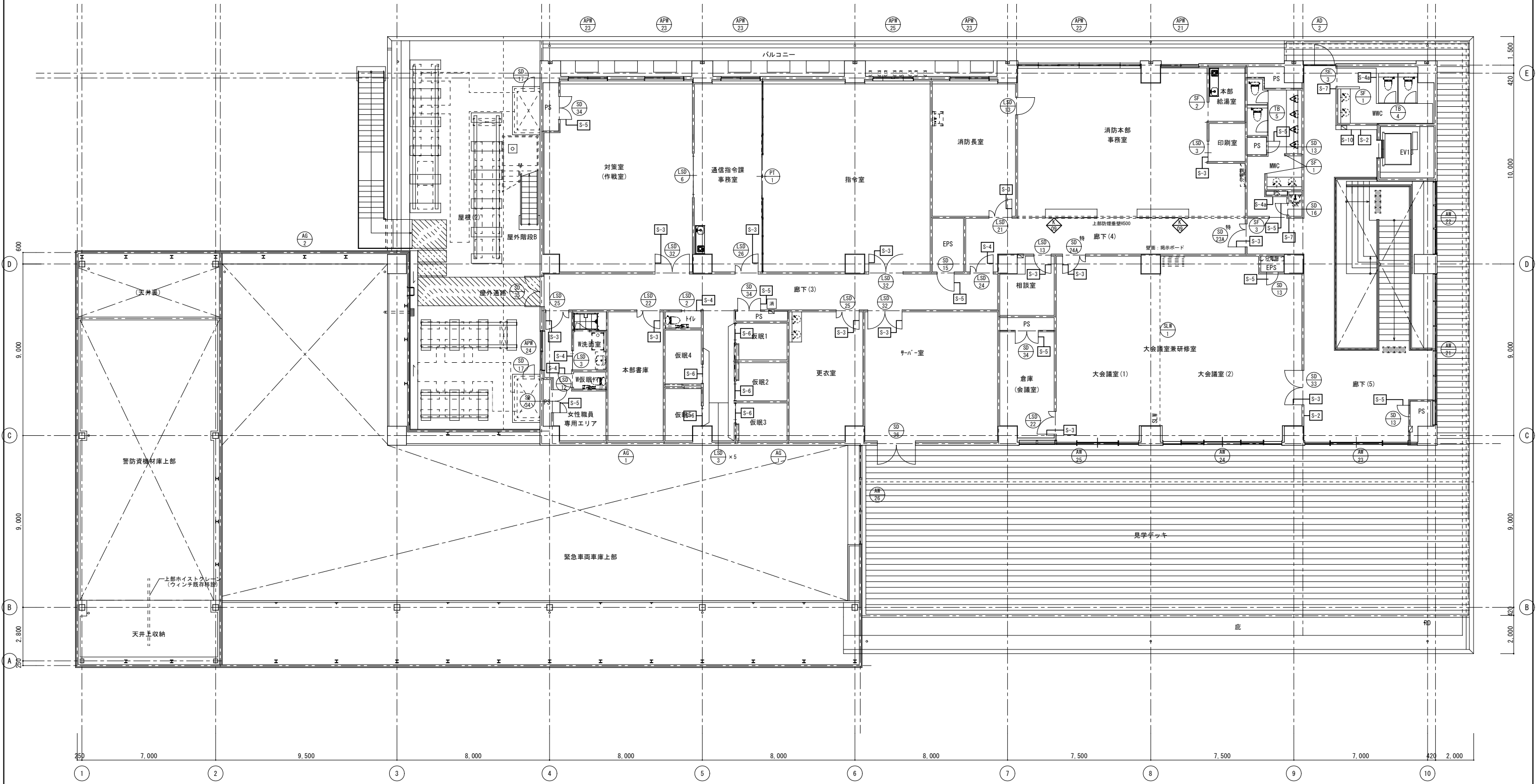
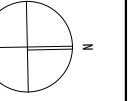
2階 建具・家具・サイン配置図 S=1:100(A1)

- 凡例
- 建具符号を示す
 - 家具符号を示す
 - サイン符号を示す

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【庁舎棟】1階建具・家具・サイン配置図
 SCALE A1: 1/100
 A3: 1/200
 DWG No. A
 054



2階 建具・家具・サイン配置図 S=1:100(A1)

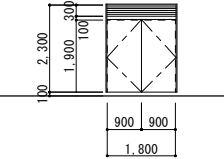
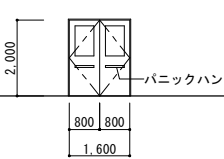
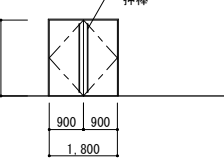
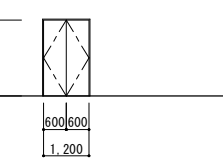
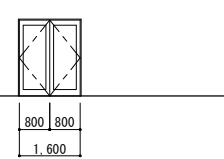
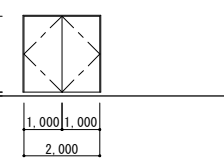
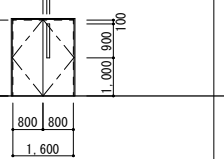
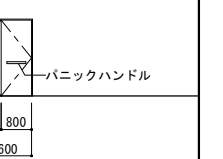
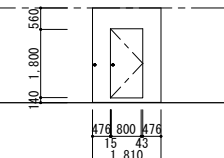
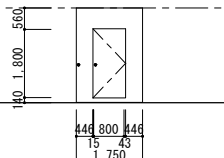
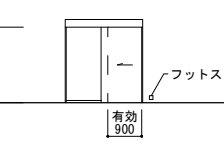
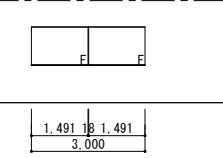
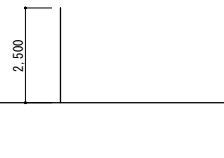
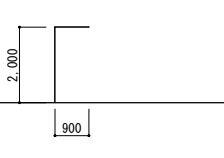
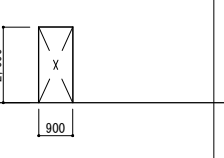
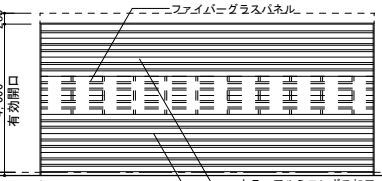
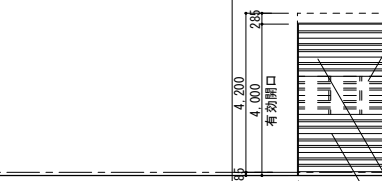
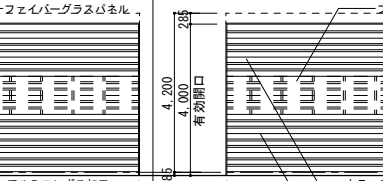
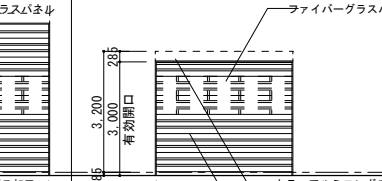
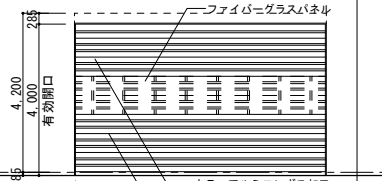
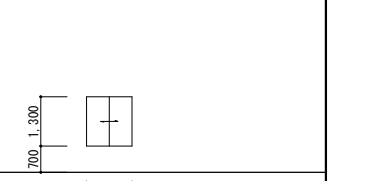
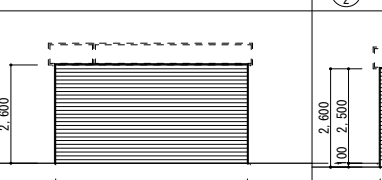
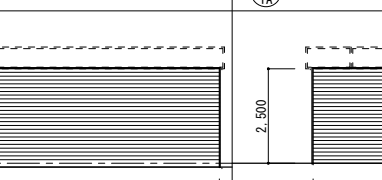
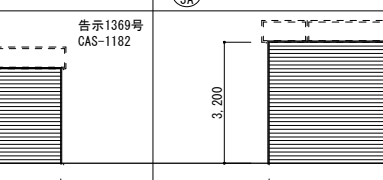
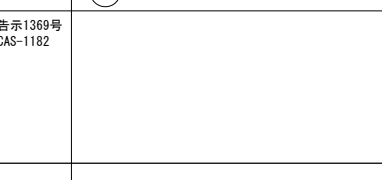
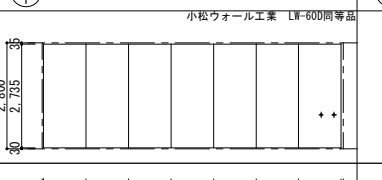
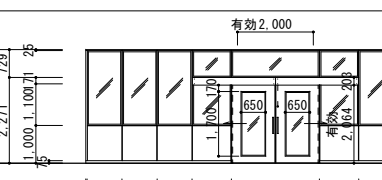
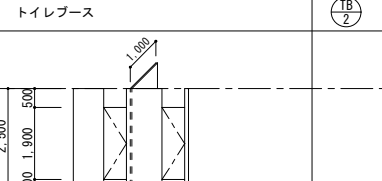
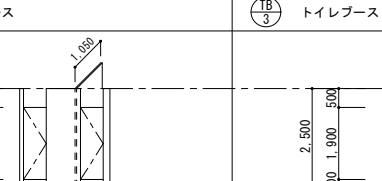

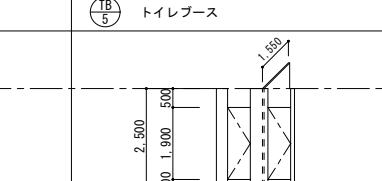
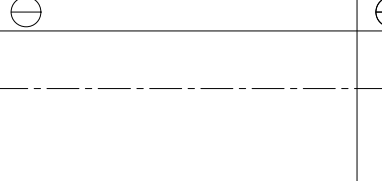
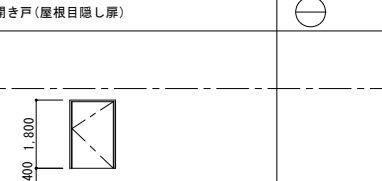
■凡例

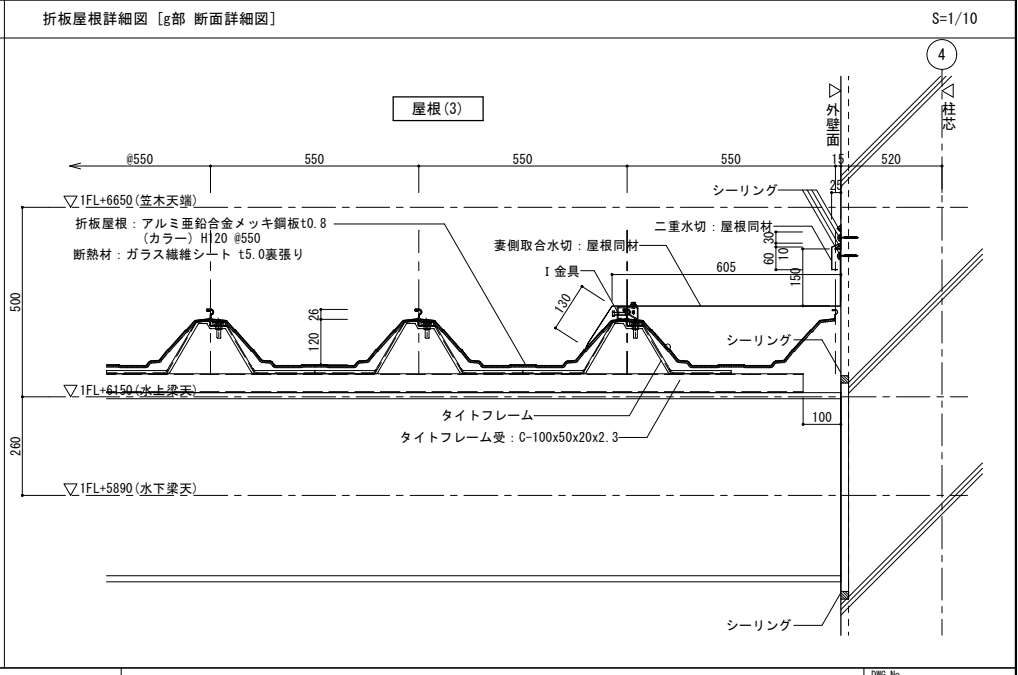
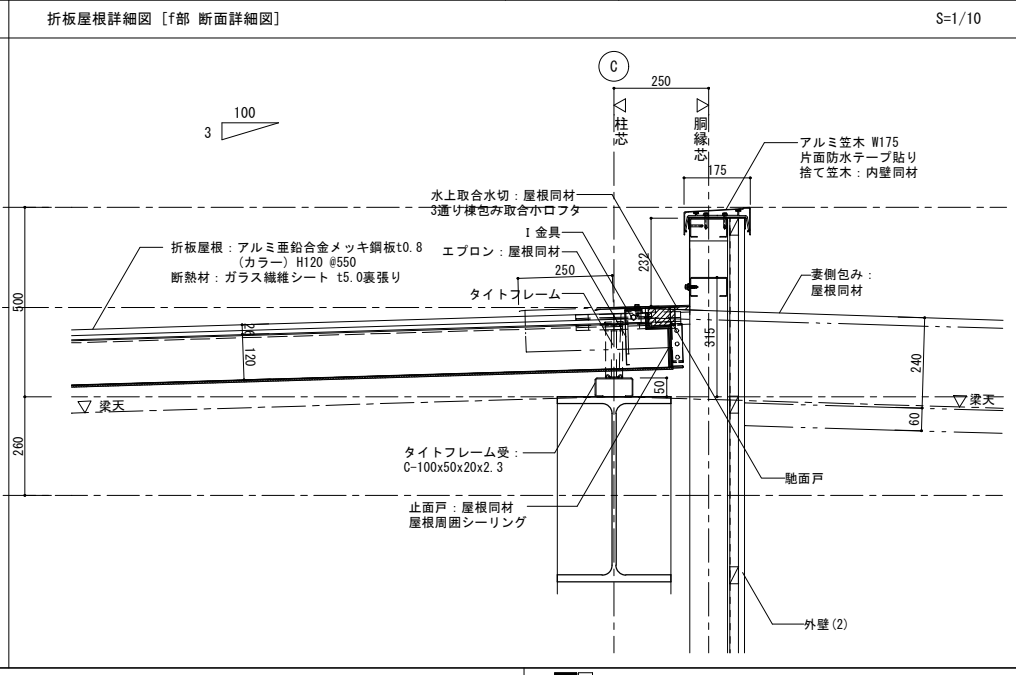
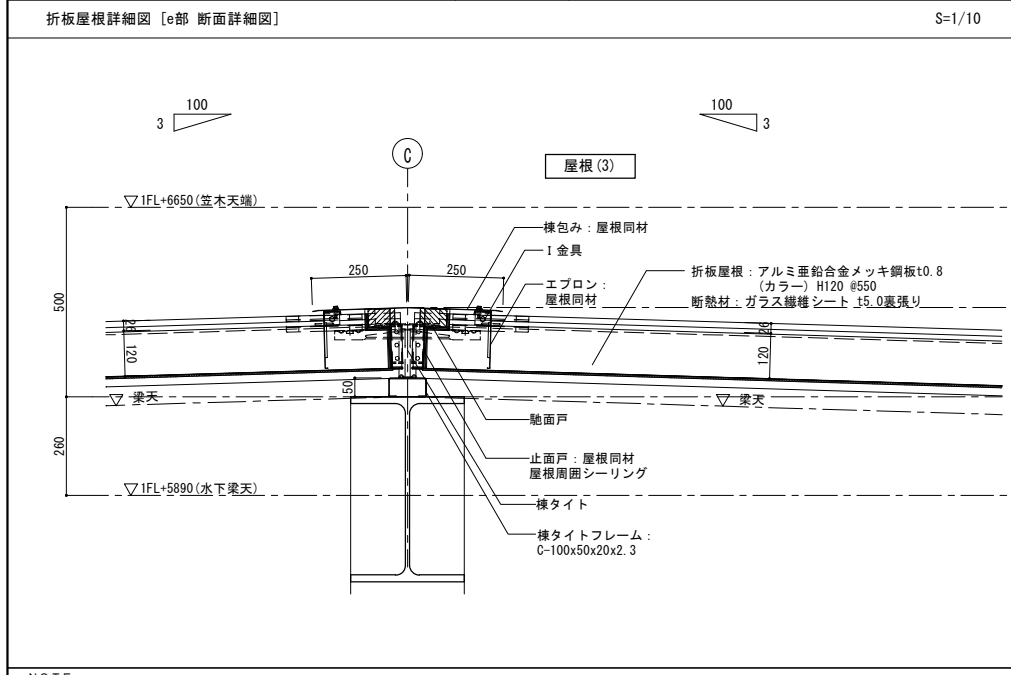
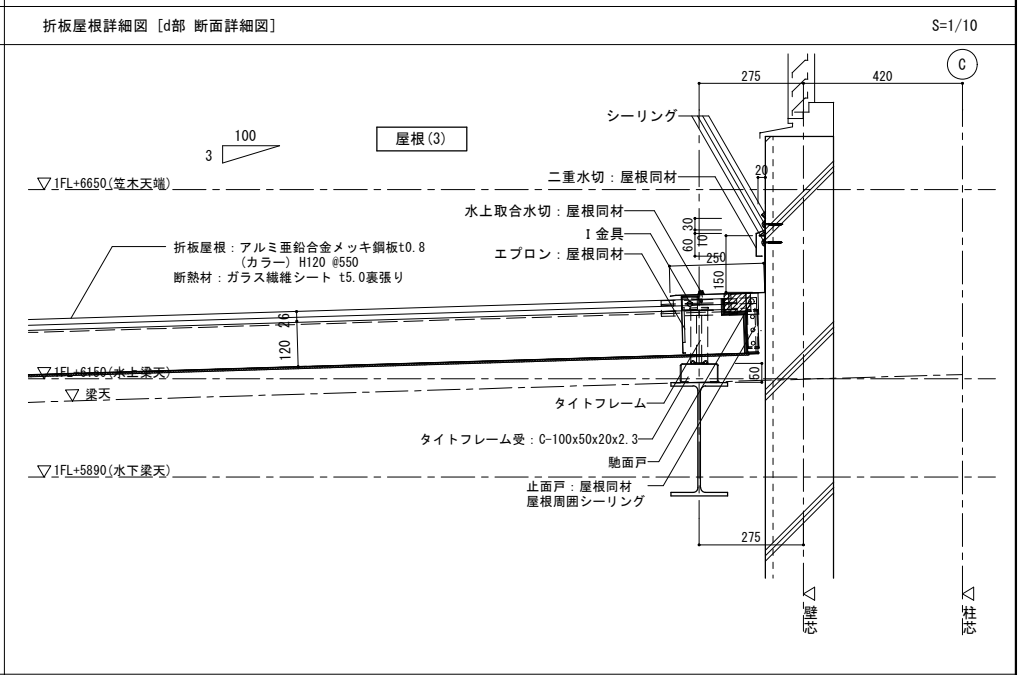
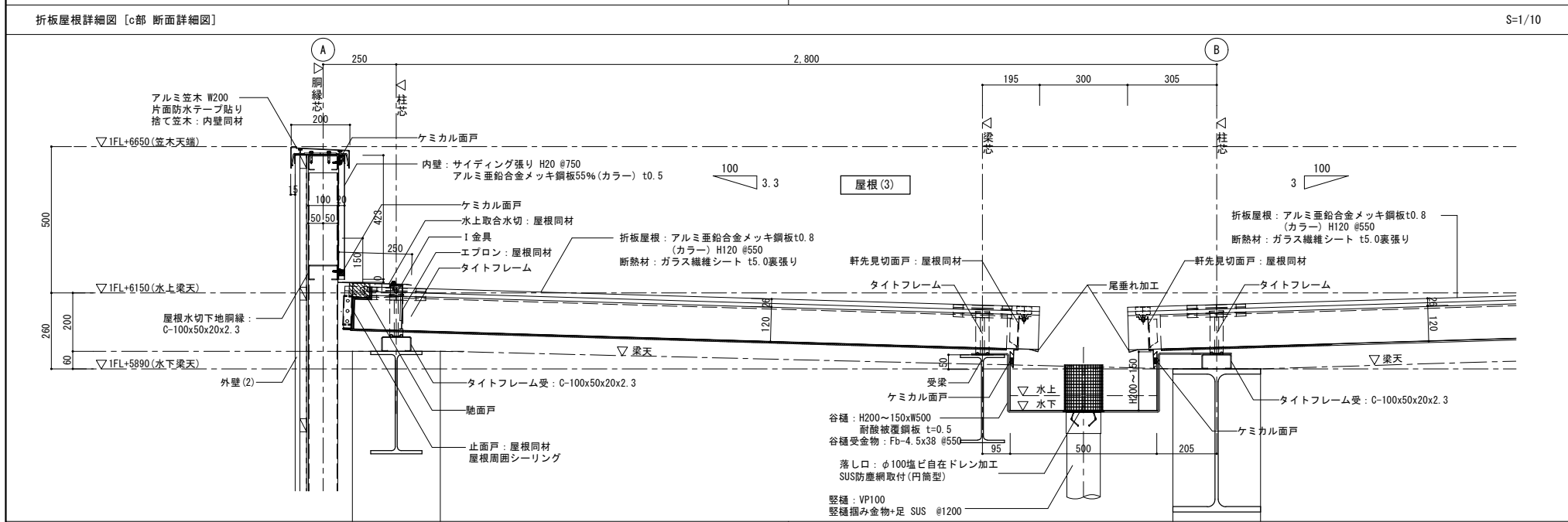
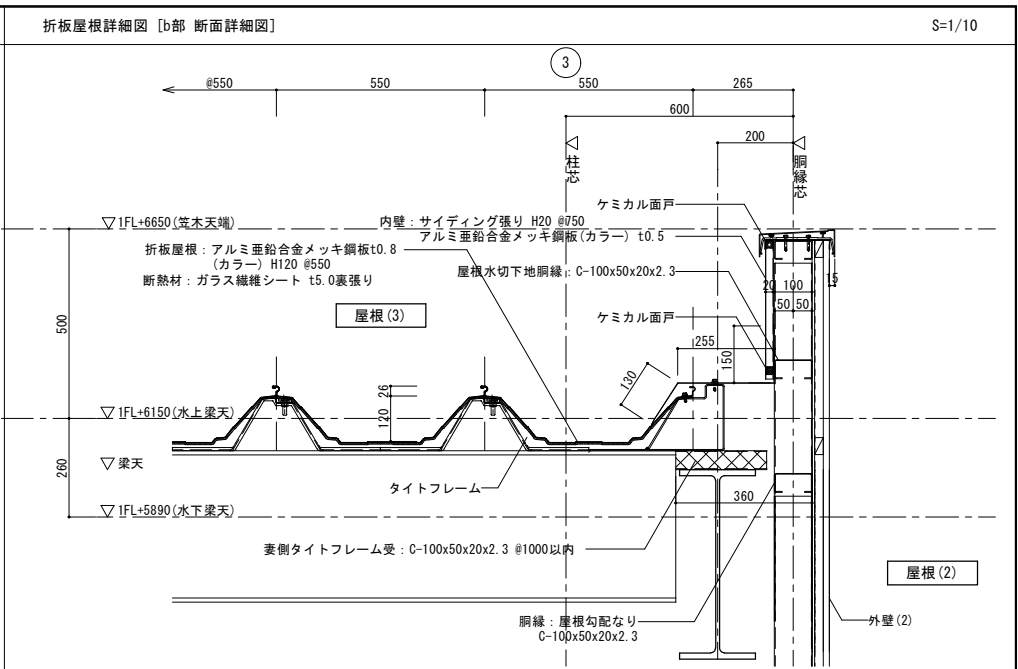
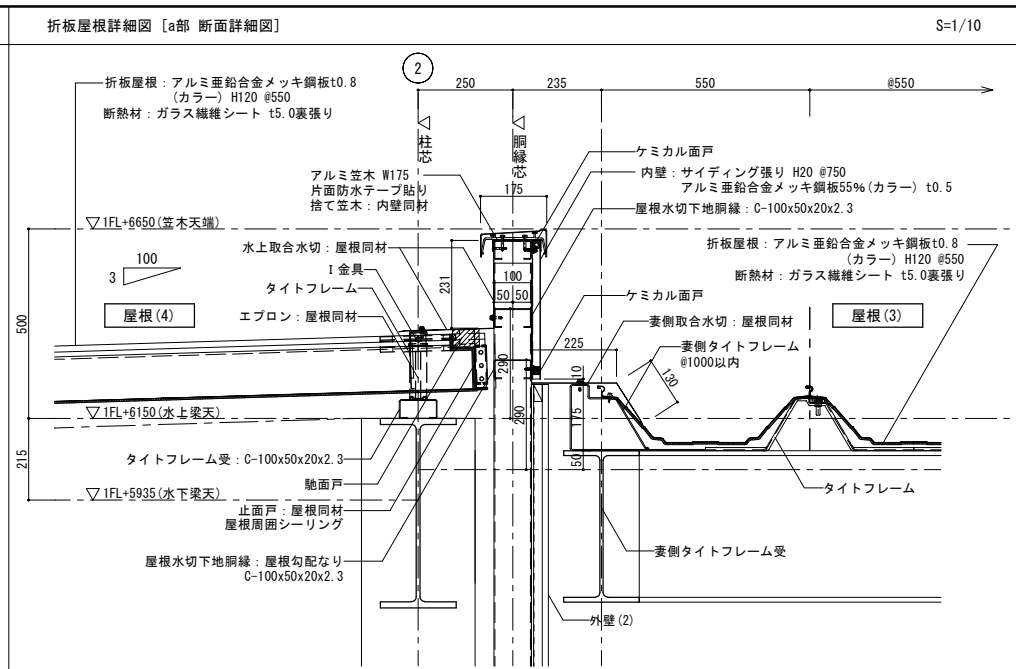
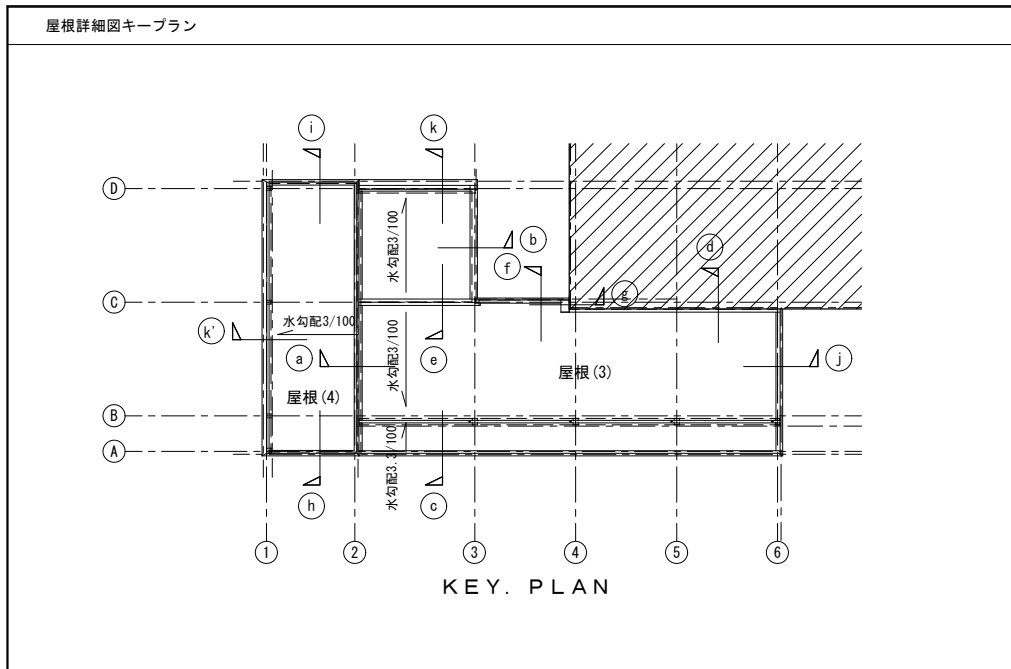
	建具符号を示す
	家具符号を示す
	サイン符号を示す

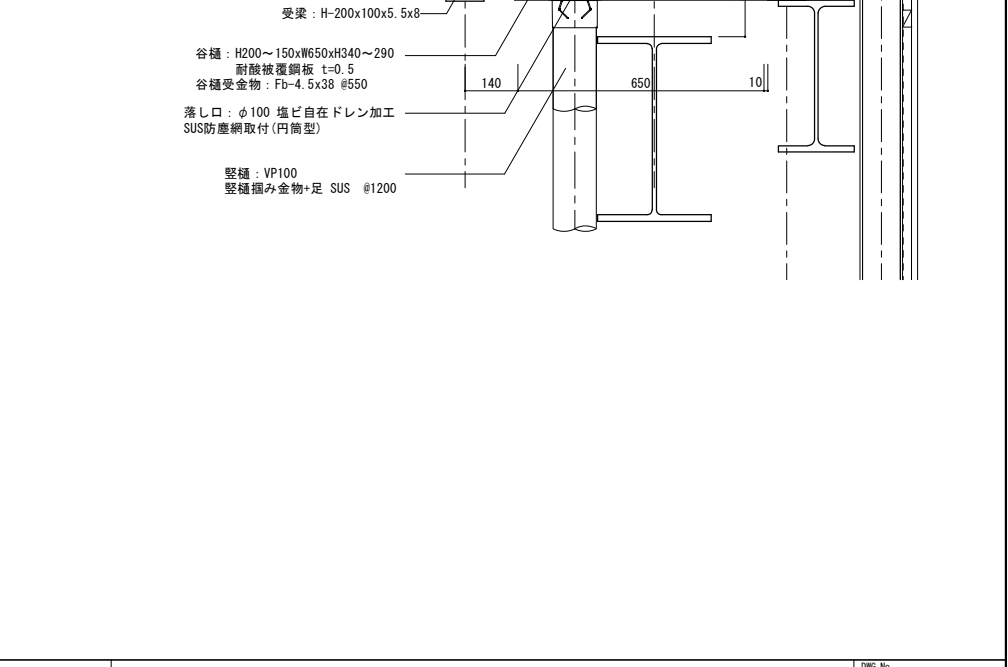
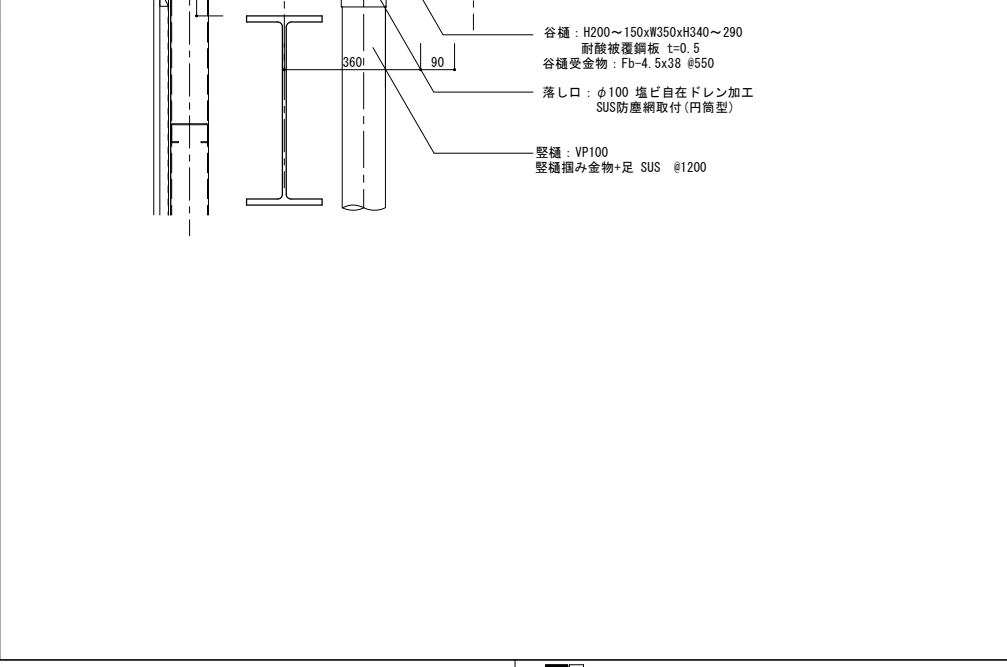
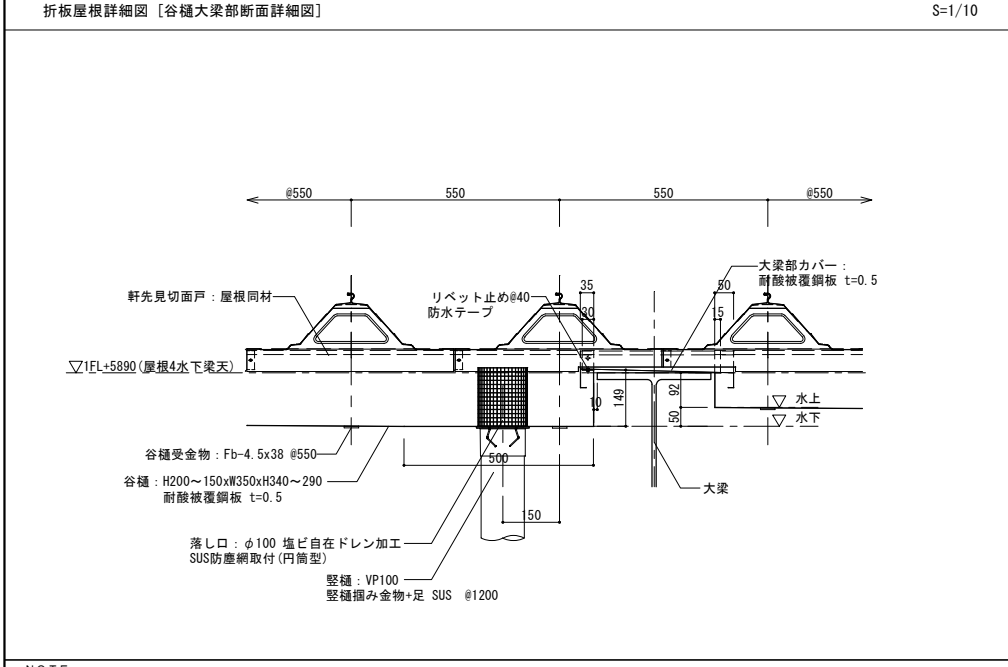
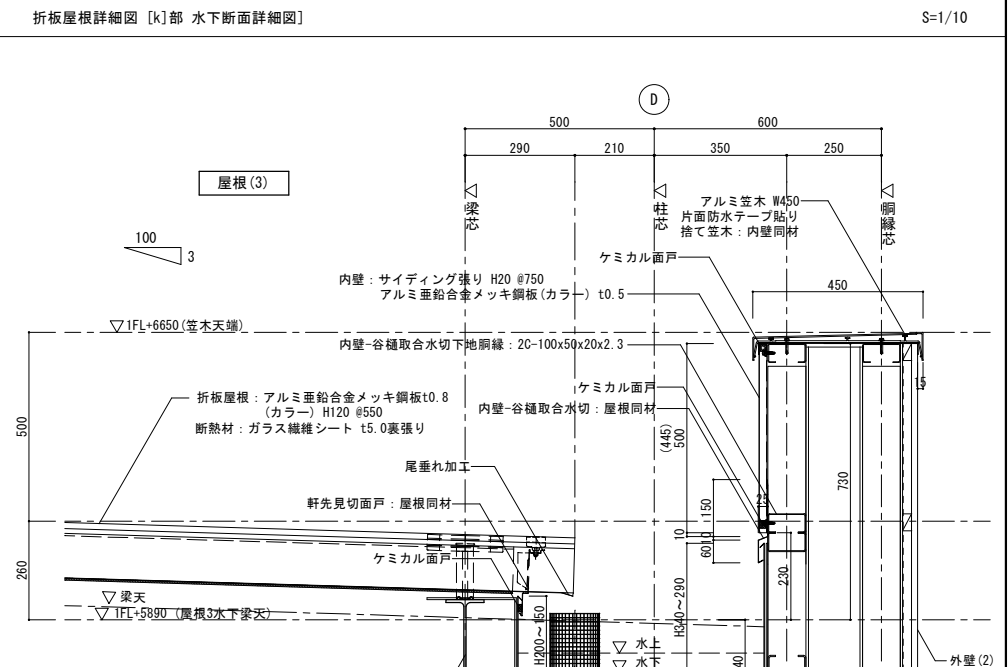
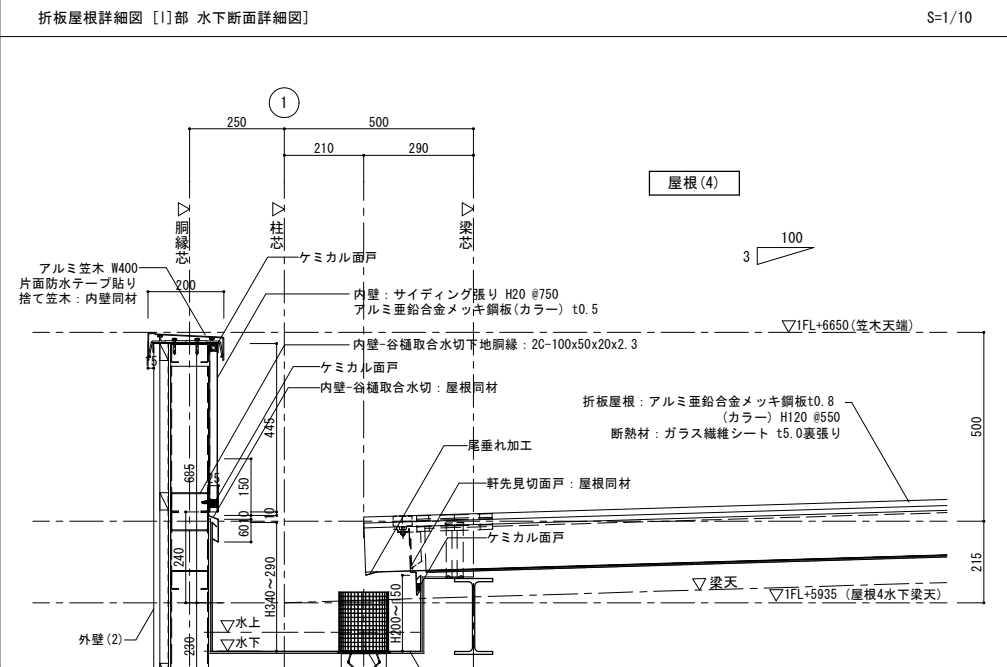
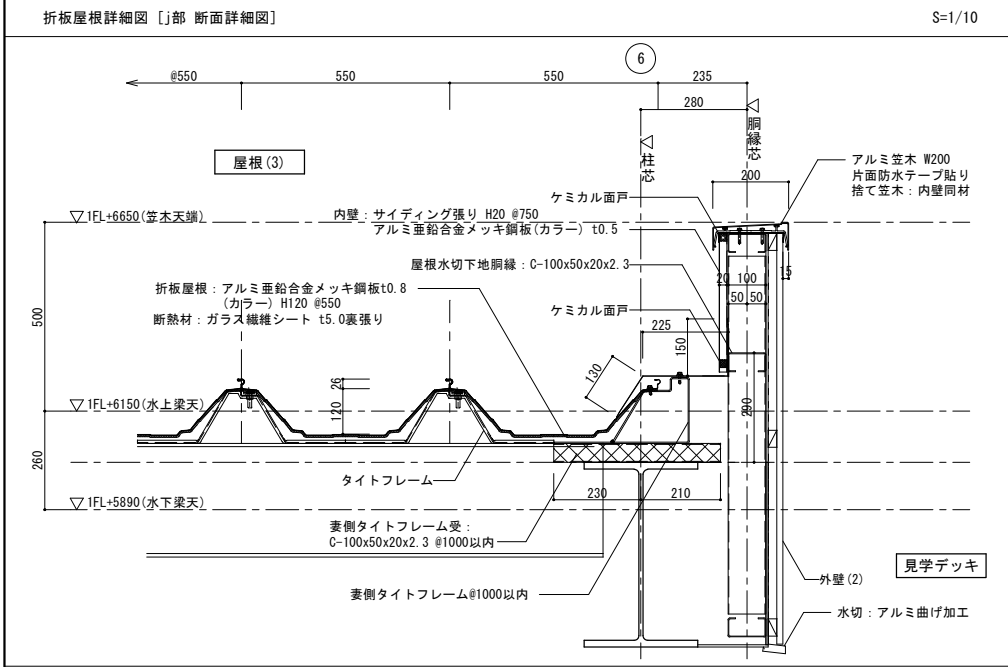
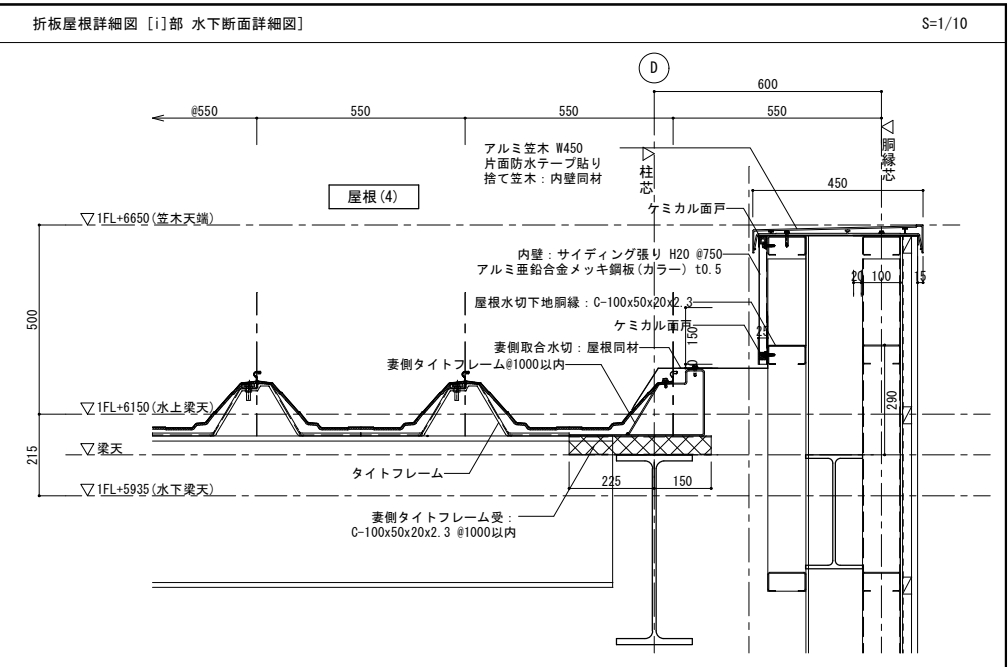
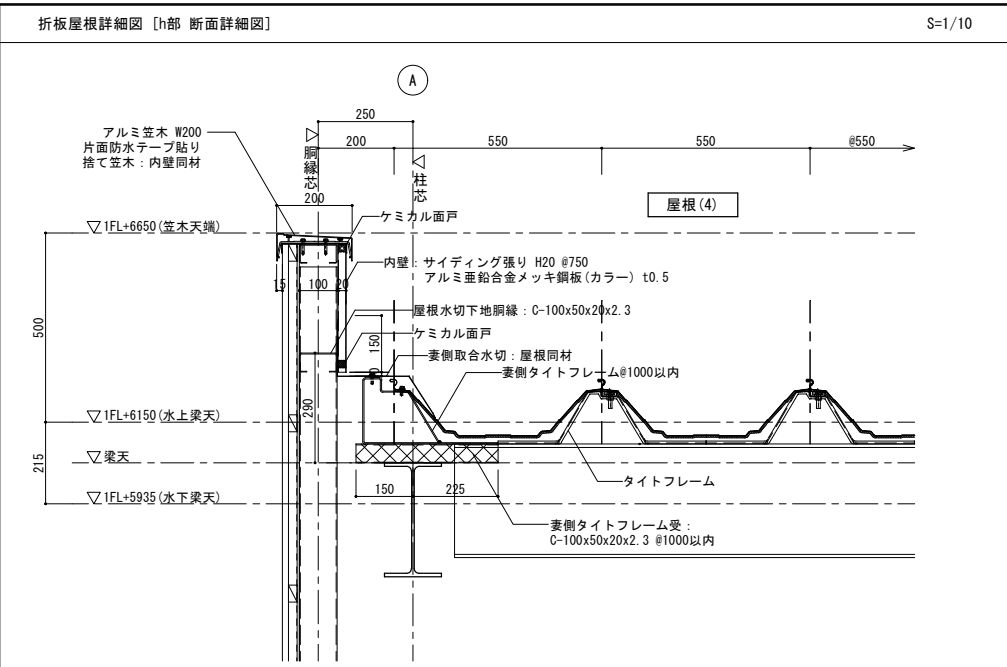
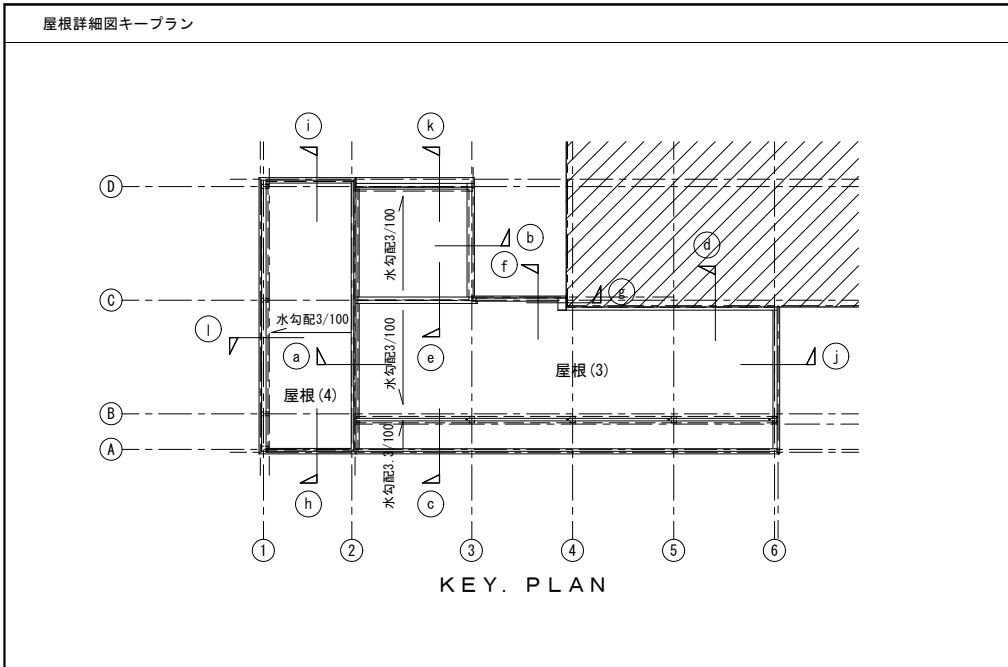
<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓+自動ドア</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓+自動ドア</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>大開口窓+FIX窓+上部ガラリ</p>
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>
<p>符号・名称</p> <p>大開口窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>大開口窓+FIX窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>FIX窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>両開き戸</p>	<p>符号・名称</p> <p>片開き戸+FIX窓</p>	
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	
<p>符号・名称</p> <p>縦にり窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>引違い窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>縦にり窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>2連引違い窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>縦にり窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>突出し窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>引違い窓+上部ガラリ</p>	<p>符号・名称</p> <p>3連引違い窓+上部ガラリ</p>
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	
<p>符号・名称</p> <p>引違い窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>引違い窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>外倒し窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>外倒し窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>外倒し窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>外倒し窓</p>	<p>符号・名称</p> <p>外倒し窓</p>	
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ガラス</p> <p>金物など</p>	

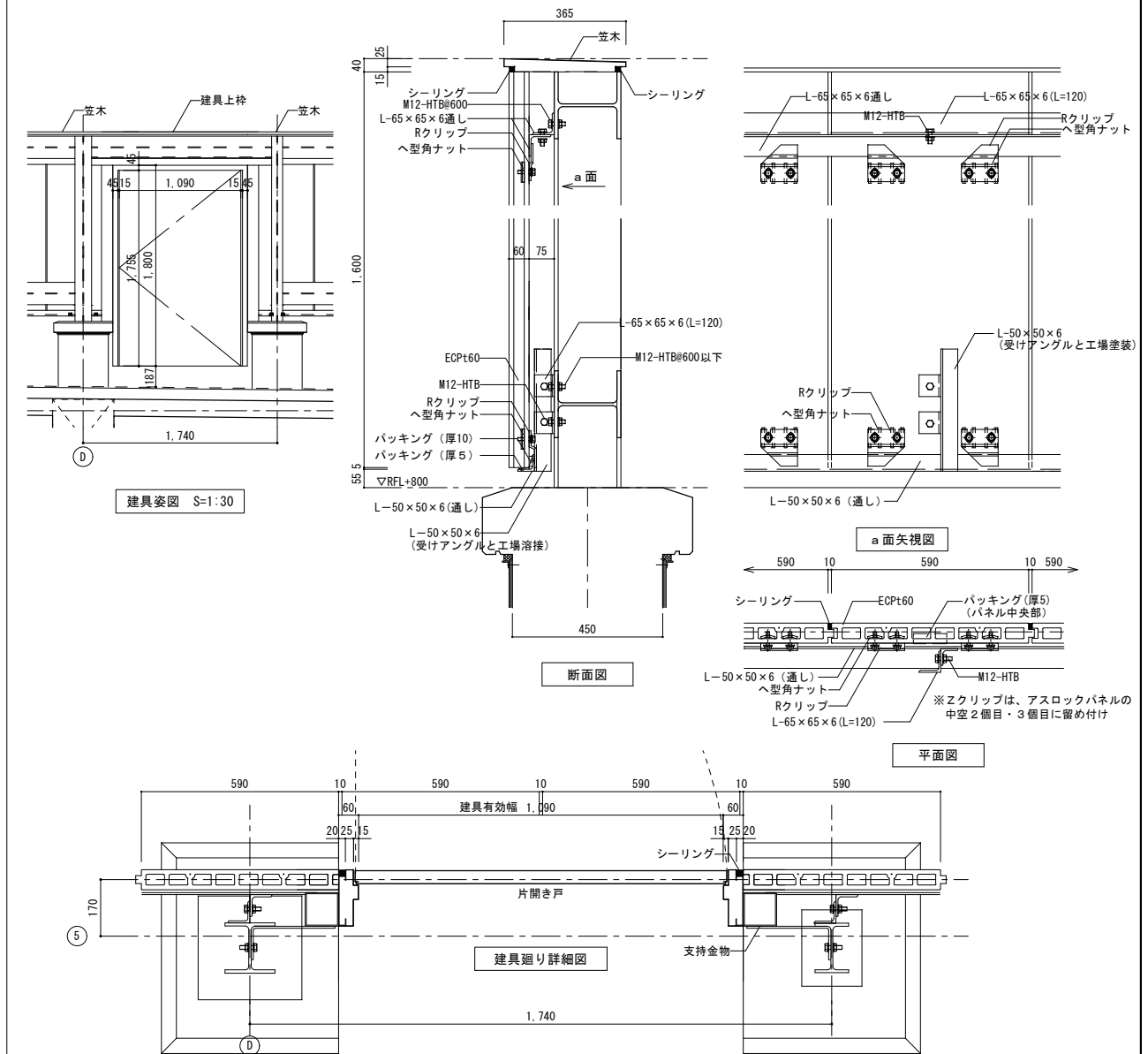
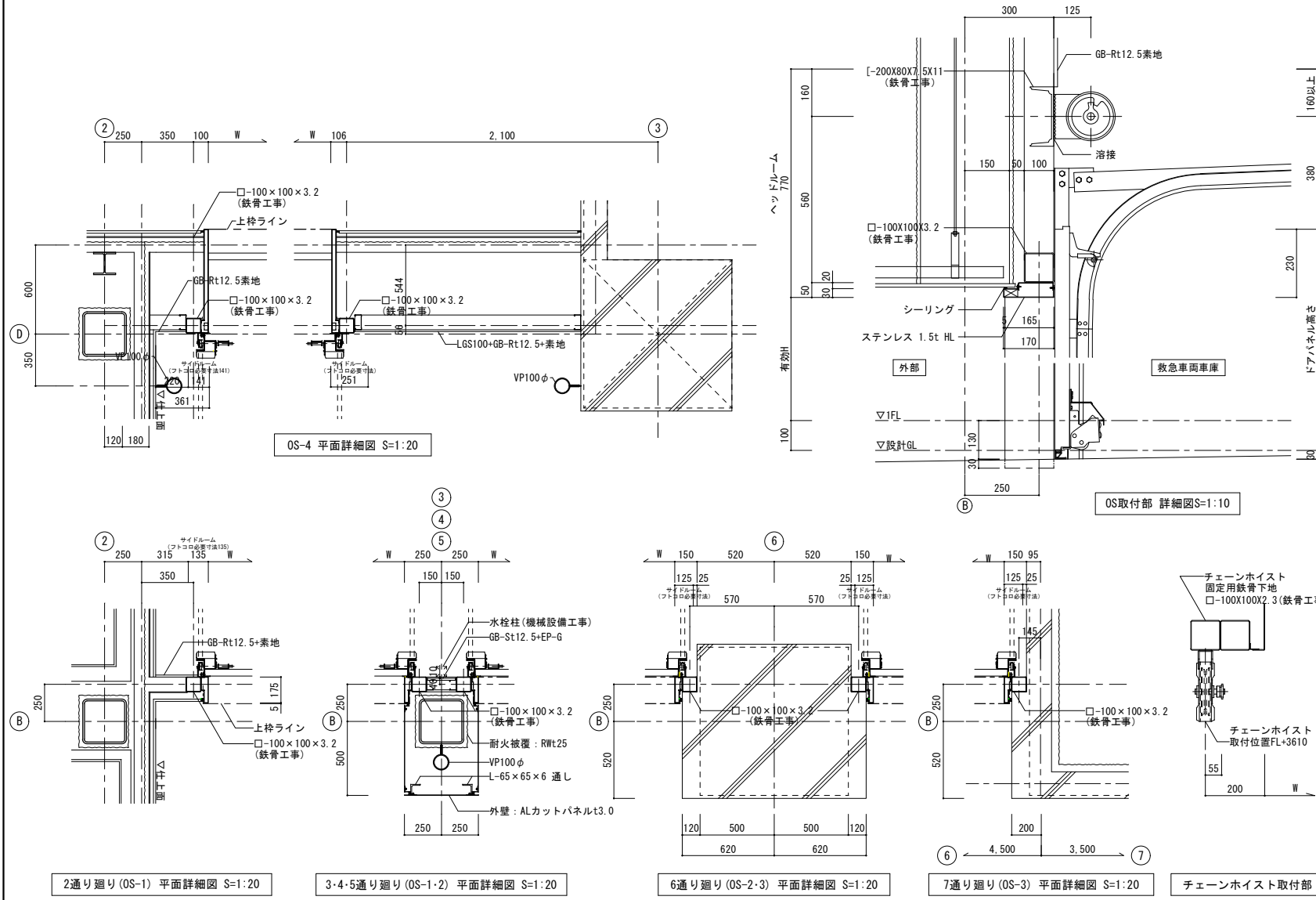
NOTE

符号・名称	(LSD) 片引込み戸	(LSD) 片引込み戸	(LSD) 片引込み戸	(LSD) 片引込み戸	(LSD) 2連片引き戸	(LSD) 引分け戸	(LSD) 片引き戸	【特定防火設備】	○								
図								告示1369号									
取付場所	会議室、審長室、出勤準備室	M飯1~26、倉庫1、2Fトイレ	1F:27 2F:1	W飯1~3、洗面室(1・2F)、印刷室、仮眠室(2F)	1F:4 2F:7	倉庫2	HWC	S31-K2	1F:1	通信指令課事務室	1F:1	シャワー・脱衣室	1F:1				
数量	S32-K2	-	-	-	G2	S32-K2	-	-	-	G2	S32-K2	-	-	-			
ガラス	P6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
金物など	引棒、上吊式自閉装置、CL-サムターン、付属金物一式	引棒、上吊式自閉装置、CL-サムターン、付属金物一式	-	引棒、上吊式自閉装置、CL-サムターン、付属金物一式	-	引棒、上吊式自閉装置、CL-サムターン、付属金物一式	引棒、上吊式自閉装置(ストップ付)、表示錠 付属金物一式	引棒、上吊式自閉装置(ストップ付)、付属金物一式	-	引棒、上吊式自閉装置(ストップ付)、付属金物一式	引棒、上吊式自閉装置(ストップ付)、付属金物一式	引棒、上吊式自閉装置、CL-サムターン、付属金物一式	-				
符号・名称	(LSD) 片開き戸	(LSD) 片開き戸	(LSD) 片開き戸	○	○	(LSD) 親子扉	(LSD) 親子扉	(LSD) 親子扉	(LSD) 親子扉								
図																	
取付場所	洗濯室、食堂・厨房、救急倉庫	1F:3	W・M個室トイレ、W飯トイレ、救急シャワー室	1F:4 2F:1	相談室、本部事務室	2F:2	体力検査室、倉庫、厨房、三次署倉庫、会議室 審長室、消防倉庫	1F:5 2F:1	リネン庫、大会議室倉庫、2階書庫	1F:1 2F:2	三次署事務室	1F:1					
数量	S19-K2	-	-	-	G2	S19-K2	-	-	-	G2	S19-K2	-	-				
ガラス	P6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
金物など	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、表示錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	-	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	-	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC(S)、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式						
符号・名称	(LSD) 親子扉	(LSD) 親子扉	(LSD) 親子扉	(LSD) 両開き扉	(LSD) 両開き扉	○	○	(SD) 片開き扉	(SD) 片開き扉								
図																	
取付場所	廊下(3)	2F:1	更衣室、女性職員専用エリア	2F:2	仮眠室(女性)、通信指令課事務室	1F:1 2F:1	エントランス	1F:1	指令室、対策室、サーバー室	2F:3	廊下(1)	1F:1					
数量	S19-K2	-	-	-	D3	G2	S19-K2	-	-	D3	-	-					
ガラス	P6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
金物など	押棒(H1500程度)、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	押棒(H1200程度)、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、順位調整器、フランス落とし、付属金物一式								
符号・名称	(SD) 片開き扉	(SD) 点検扉	(SD) 点検扉	(SD) 点検扉	(SD) 点検扉	(SD) 片開扉	(SD) 点検扉	(SD) 点検扉	(SD) 点検扉								
図																	
取付場所	エントランス	1F:1	PS	1F:4 2F:3	EPS	1F:1	EPS	2F:1	SK	1F:1 2F:1	管類立上り	2F:2 RF:4	分電盤置場	1F:1	外部トイレ	1F:1	
数量	S16-K2	-	-	-	G2	S16-K2	-	-	-	S16-K5	-	-	-	S16-K5	-	-	-
ガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
金物など	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、 床付戸当たり、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	CH、H、付属金物一式	CH、H、付属金物一式	CH、H、付属金物一式	CH、PH、付属金物一式	レバーハンドル、PH、表示錠、DC、床付戸当たり 付属金物一式				
符号・名称	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	(SD) 親子扉	
図																	
取付場所	資機材庫	1F:1	ボンベ保管庫	1F:1	乾燥室、6'x6'保管庫	1F:2	医療廃棄物保管庫	1F:1	三次署事務室	1F:1	廊下(4)	2F:1	大会議室	2F:1	少量危険物貯蔵所	1F:1	
数量	S1-K1	-	-	-	D3	S1-K1	-	-	D2	S1-K1	-	-	D3	S1-K1	-	-	
ガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
金物など	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式	レバーハンドル、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器 床付戸当たり、付属金物一式		
NOTE	<p>株式会社 あい設計 備北地区消防組合消防本部・三次消防署建設工事(建築)</p> <p>一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号</p> <p>一級建築士 佐藤 彰洋</p> <p>【庁舎棟】 建具表(3)</p> <p>SCALE</p> <p>DWG No. A</p> <p>058</p>																

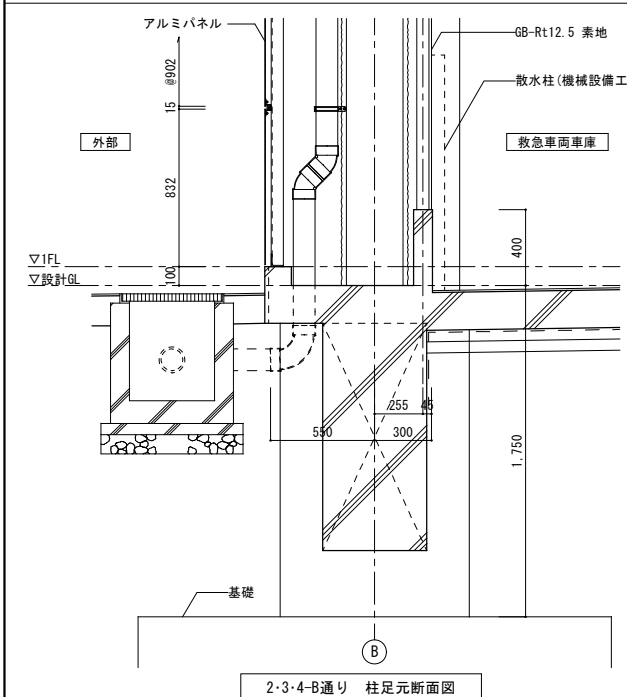
<p>符号・名称</p> <p>SD 31 両開き扉</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 32 両開き扉</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 33 両開き扉</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 34 両開き点検扉</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 35 両開き扉</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 36 両開き扉</p> <p>※断熱性能H-3程度</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 31A 特 両開き扉</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>EA-0169 CAS-0290</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 32A 特 両開き扉</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号 告示2564号</p> 
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>ポンプ室</p> <p>S7 - K9</p> <p>40</p> <p>SOP塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>出動準備室</p> <p>S19 - K2</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>大会議室</p> <p>S19 - K2</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>PS</p> <p>S19 - K2</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>廊下(3)</p> <p>S4 - K9</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>サーバー室</p> <p>S4 - K9</p> <p>40</p> <p>SOP塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>車両関係資機材庫、廊下(1)、廊下(2)</p> <p>S19 - K2</p> <p>40</p> <p>SOP塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>出動準備室</p> <p>S19 - K2</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>
<p>ガラス</p> <p>CH、丁番、CL-サムターン錠、DC、順位調整器</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>F6</p> <p>PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器</p> <p>床付戸当り、パニックハンドル、付属金物一式</p> <p>※出動準備室の扉・枠は赤色とする</p>	<p>ガラス</p> <p>押棒(H1800)、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>CH、PH、CL-サムターン錠、付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>F6</p> <p>レバーハンドル、丁番、CL-サムターン錠、順位調整器、付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>CH、丁番、CL-サムターン錠、順位調整器、付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>HT68</p> <p>LH、PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>PH、CL-サムターン錠、DC、順位調整器</p> <p>床付戸当り、パニックハンドル、付属金物一式</p> <p>※出動準備室の扉・枠は赤色とする</p>
<p>符号・名称</p> <p>SD 1A 特 防火戸</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 2A 特 防火戸</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 3A 特 防火戸</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号 告示2564号</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SD 1A 特 FIX窓</p> <p>【特定防火設備 EA-0120】</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SF 1 一方枠</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SF 2 二方枠</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SF 3 三方枠</p> 	<p>符号・名称</p> <p>○</p>
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>廊下(1)</p> <p>135</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>廊下(2)</p> <p>135</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>救急消毒室</p> <p>190</p> <p>40</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>三次警務室</p> <p>170</p> <p>40</p> <p>SOP塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>WVC、MVC、食堂・厨房、シャワー・脱衣室</p> <p>S52 -</p> <p>135</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>本部給湯室、三次警給湯室</p> <p>S52 -</p> <p>135</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>MVC、WVC</p> <p>S52 -</p> <p>135</p> <p>焼付塗装</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>三次警務室</p> <p>180</p> <p>120</p> <p>SOP</p>
<p>ガラス</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>付属金物一式</p> <p>フットスイッチ、自動ドア機構、CL-サムターン錠、付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>HT68</p> <p>付属金物一式</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>
<p>符号・名称</p> <p>OS 1 オーバースライダー</p> 	<p>符号・名称</p> <p>OS 2 オーバースライダー</p> 	<p>符号・名称</p> <p>OS 3 オーバースライダー</p> 	<p>符号・名称</p> <p>OS 4 オーバースライダー</p> 	<p>符号・名称</p> <p>OS 5 オーバースライダー</p> 	<p>符号・名称</p> <p>○</p>	<p>符号・名称</p> <p>SW 1 引違い窓(窓口カウンター)</p> 	
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>2</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>緊急車両車庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>三次警務室</p> <p>1</p>	
<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>ファイバーグラスパネル</p>	<p>ガラス</p> <p>P6</p>	
<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>SUS製 HLガイドレール、シフト錠、付属金物一式</p> <p>急降下停止装置、開閉カウンター</p>	<p>金物など</p> <p>戸車、SUS製レール、ブッシュ錠、付属金物一式</p> <p>※部分詳細参照</p>	
<p>符号・名称</p> <p>SS 1 重量シャッター(電動)</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SS 2 重量シャッター(電動)</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SS 1A 特 重量シャッター(電動)</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号 CAS-1182</p> 	<p>符号・名称</p> <p>SS 3A 特 重量シャッター(電動)</p> <p>【特定防火設備】</p> <p>告示1369号 CAS-1182</p> 	<p>符号・名称</p> <p>○</p>	<p>符号・名称</p> <p>SLB 1 移動間仕切り</p> <p>小松ワール工業 LW-600同等品</p> 	<p>符号・名称</p> <p>PT 1 可動間仕切り</p> 	
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>警防資機材庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>警防資機材庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>警防資機材庫</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>救急消毒室</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>大会議室</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>通信指令室事務室</p> <p>1</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>通信指令室事務室</p> <p>1</p>	
<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>鋼板(焼付塗装)</p>	<p>ガラス</p> <p>鋼板(焼付塗装)</p>	
<p>金物など</p> <p>スラット:スチール、産板・ガイドレール・まぐさ:SUS製</p> <p>付属金物一式</p> <p>三相200V 0.25kw</p>	<p>金物など</p> <p>スラット:スチール、産板・ガイドレール・まぐさ:SUS製</p> <p>付属金物一式</p> <p>三相200V 0.5kw</p>	<p>金物など</p> <p>スラット:スチール、産板・ガイドレール・まぐさ:SUS製</p> <p>付属金物一式</p> <p>三相200V 0.25kw</p>	<p>金物など</p> <p>スラット:スチール、産板・ガイドレール・まぐさ:SUS製</p> <p>付属金物一式</p> <p>三相200V 0.5kw</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式</p>	<p>金物など</p> <p>レバーハンドル、クレセント錠、付属金物一式</p>	<p>金物など</p> <p>レバーハンドル、クレセント錠、付属金物一式</p>	
<p>符号・名称</p> <p>TB 1 トイレブース</p> 	<p>符号・名称</p> <p>TB 2 トイレブース</p> 	<p>符号・名称</p> <p>TB 3 トイレブース</p> 	<p>符号・名称</p> <p>TB 4 トイレブース</p> 	<p>符号・名称</p> <p>TB 5 トイレブース</p> 	<p>符号・名称</p> <p>○</p>	<p>符号・名称</p> <p>SD 51 片開き戸(屋根目隠し扉)</p> 	
<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>WVC(1F)</p> <p>40</p> <p>40</p> <p>SUS HL</p> <p>メラミン</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>MVC(1F)</p> <p>40</p> <p>40</p> <p>SUS HL</p> <p>メラミン</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>外部WC</p> <p>40</p> <p>40</p> <p>SUS HL</p> <p>メラミン</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>MVC(2F)</p> <p>40</p> <p>40</p> <p>SUS HL</p> <p>メラミン</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>WVC(2F)</p> <p>40</p> <p>40</p> <p>SUS HL</p> <p>メラミン</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>屋根1</p> <p>S2</p> <p>340</p> <p>40</p> <p>DP-2</p> <p>DP-2</p>	<p>取付場所</p> <p>数量</p> <p>屋根1</p> <p>S2</p> <p>340</p> <p>40</p> <p>DP-2</p> <p>DP-2</p>	
<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	<p>ガラス</p> <p>-</p>	
<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>付属金物一式、SUS巾木(HL)、GH、スライドラッチ</p> <p>帽子掛付戸当り、小口パネル、壁面レール、エンドカバー:アルミ製焼き付け塗装</p>	<p>金物など</p> <p>丁番、レバーハンドル、クレセント錠</p>	
<p>NOTE</p>						<p>備北地区消防組合消防本部・三次消防署建設工事(建築)</p>	<p>DWG No.</p> <p>A</p> <p>059</p>
<p>株式会社 あい設計</p> <p>一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号</p> <p>〒730-0245 広島県広島市南区美咲1-1-1</p> <p>TEL:082-251-1111 FAX:082-251-1112</p> <p>www.aidesign.co.jp</p>						<p>【庁舎棟】建具表(4)</p>	<p>SCALE</p>



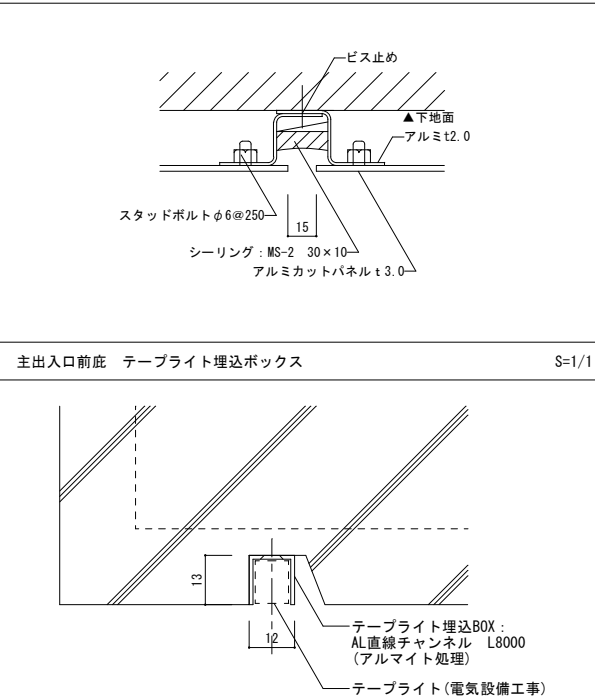




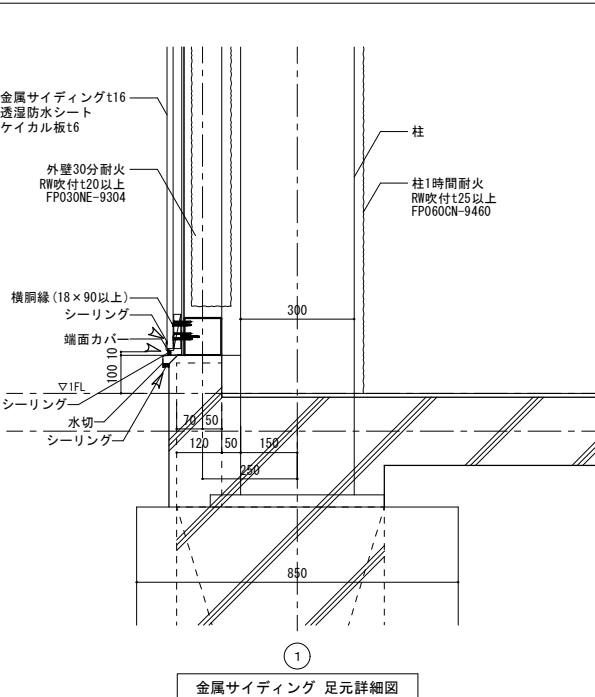
アルミパネル 柱廻り詳細図 S=1/20



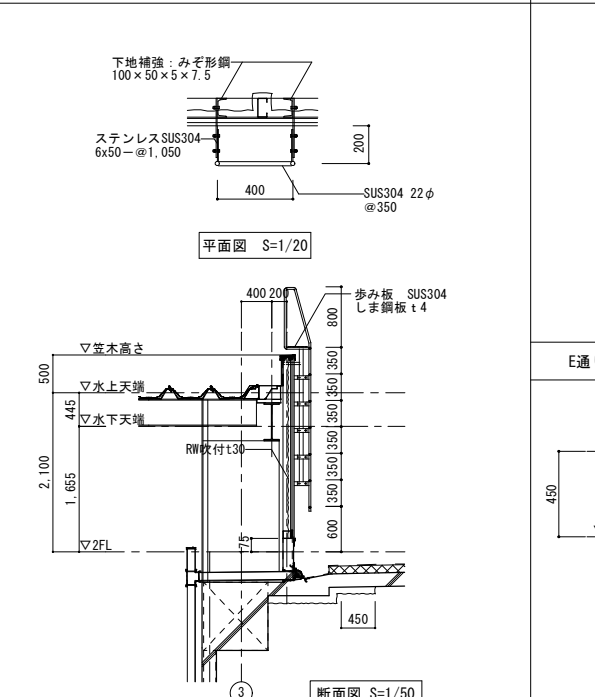
アルミカットパネル取付部詳細図 S=1/2



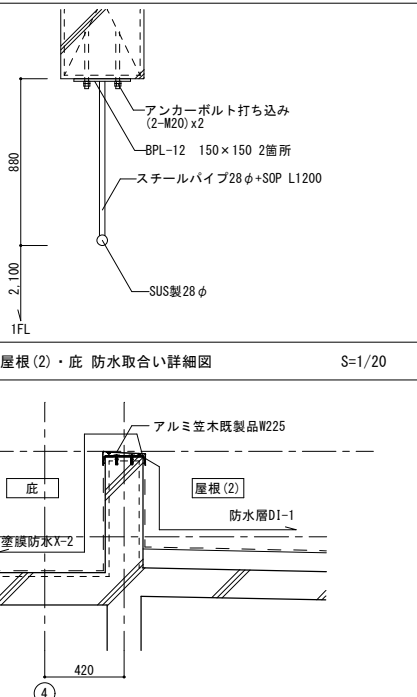
金属サイディング 足元詳細図 S=1/10

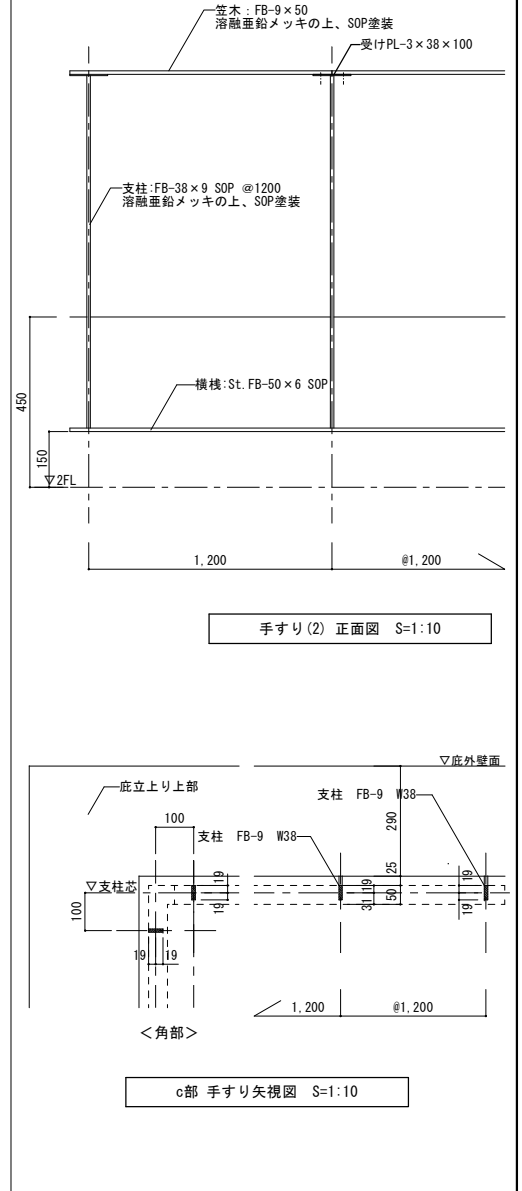
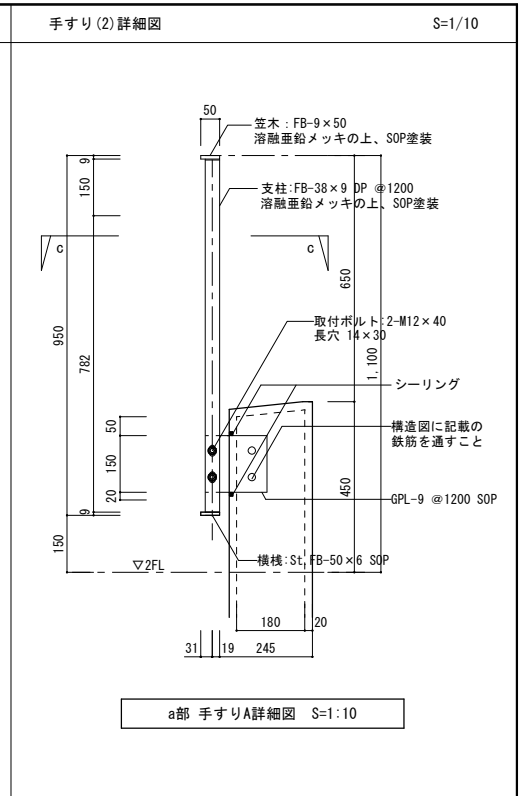
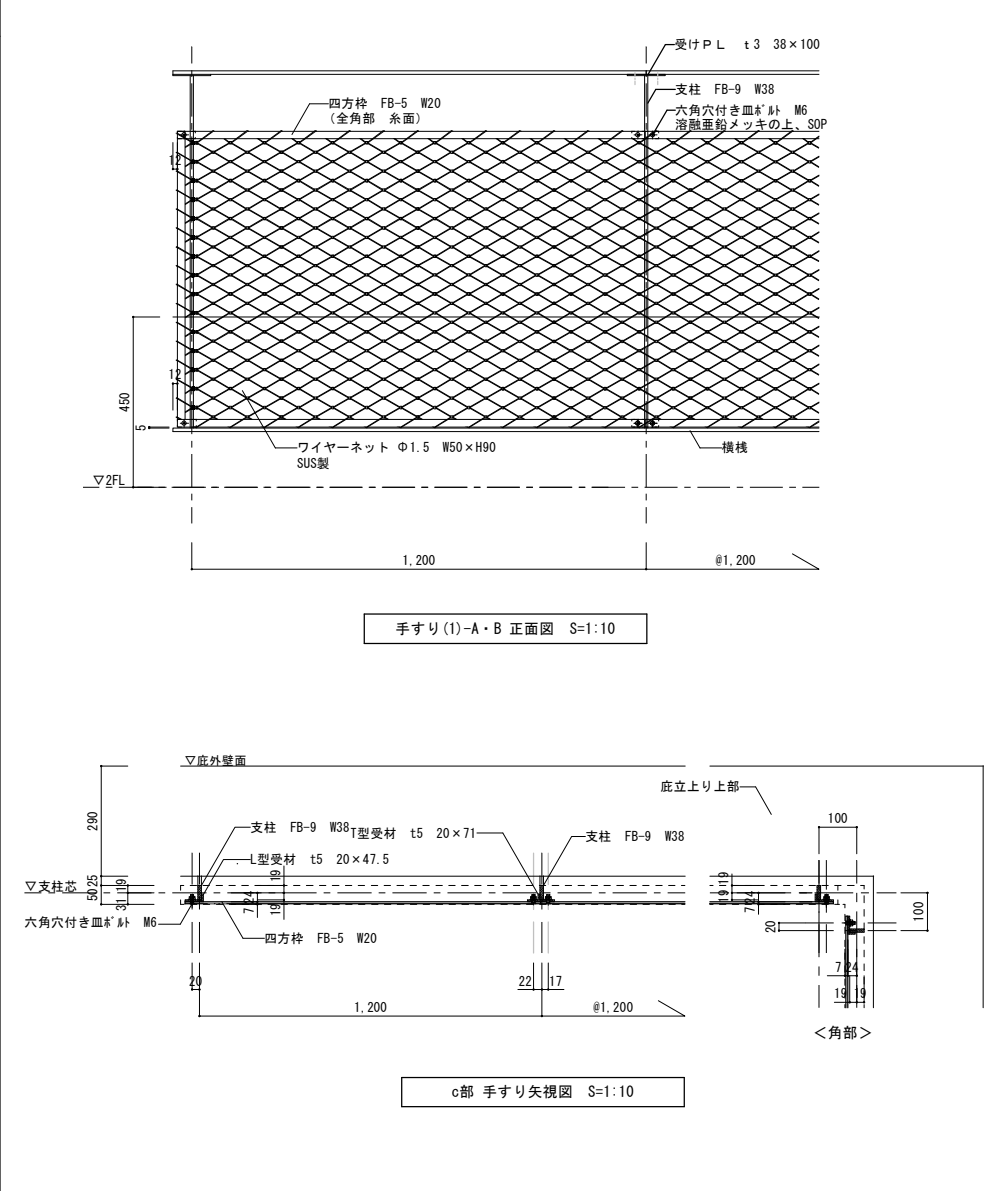
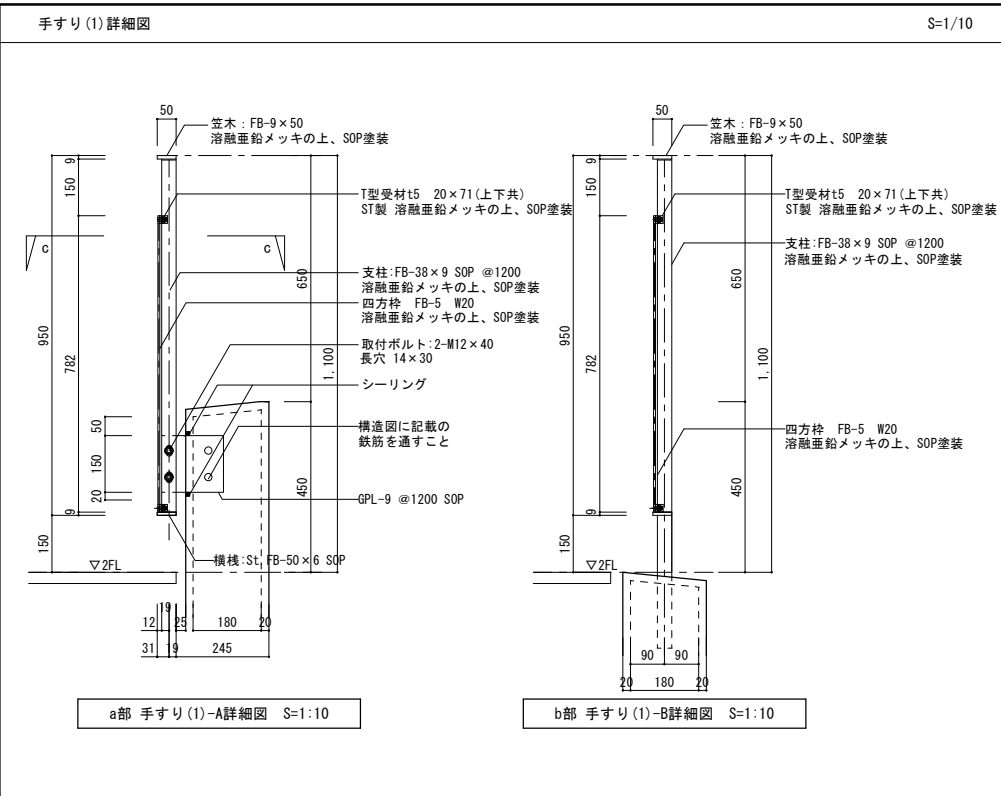
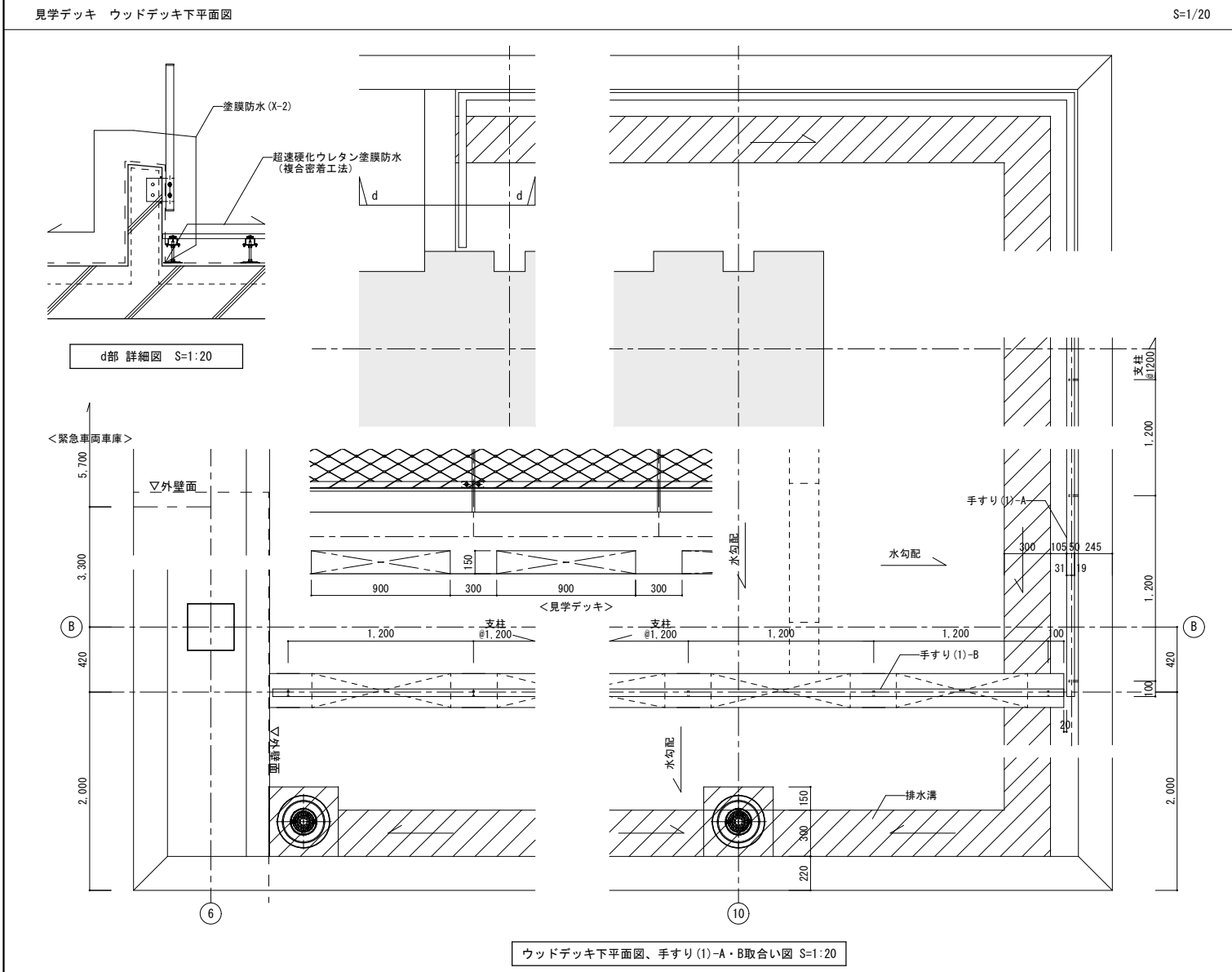
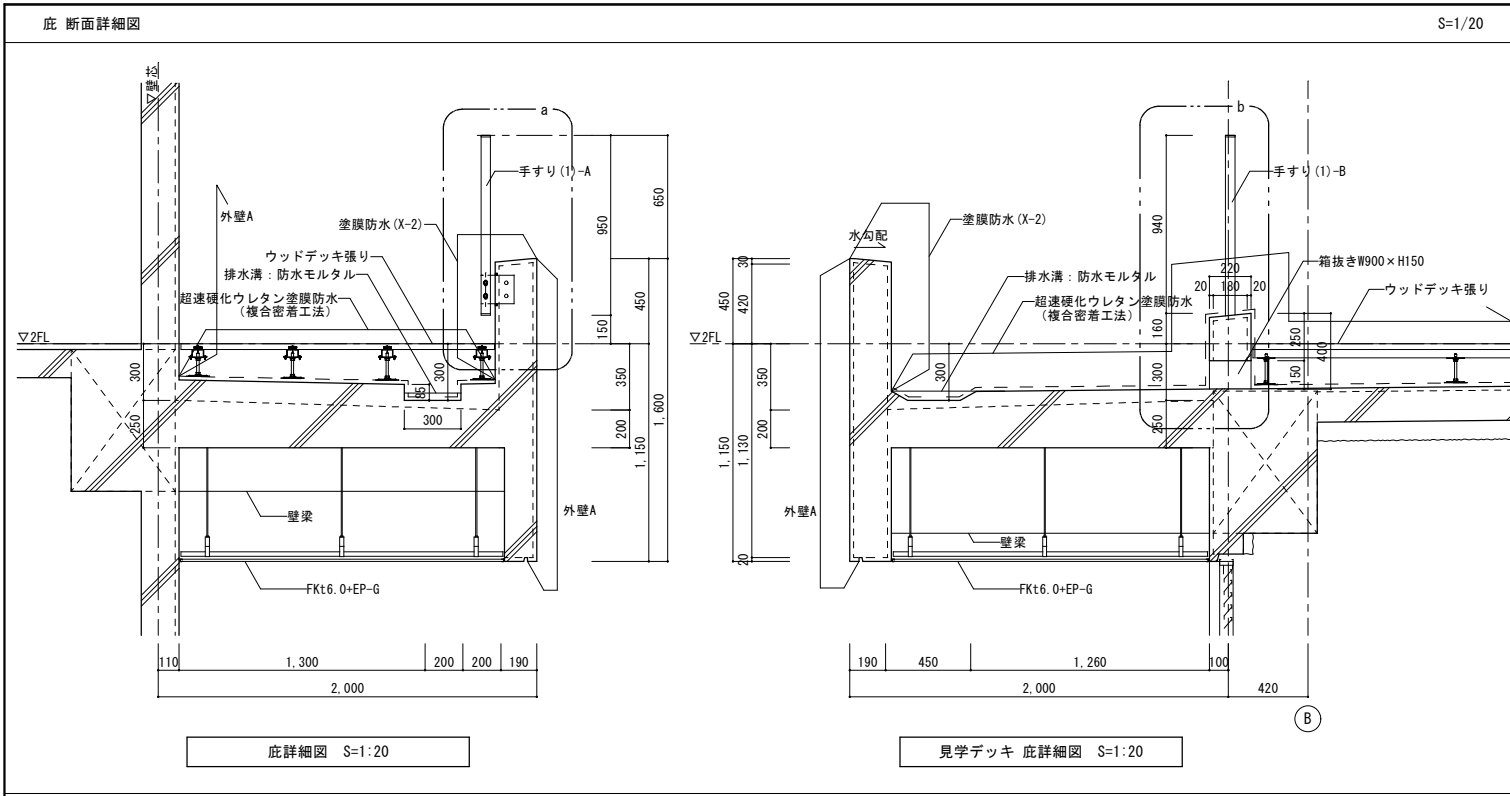


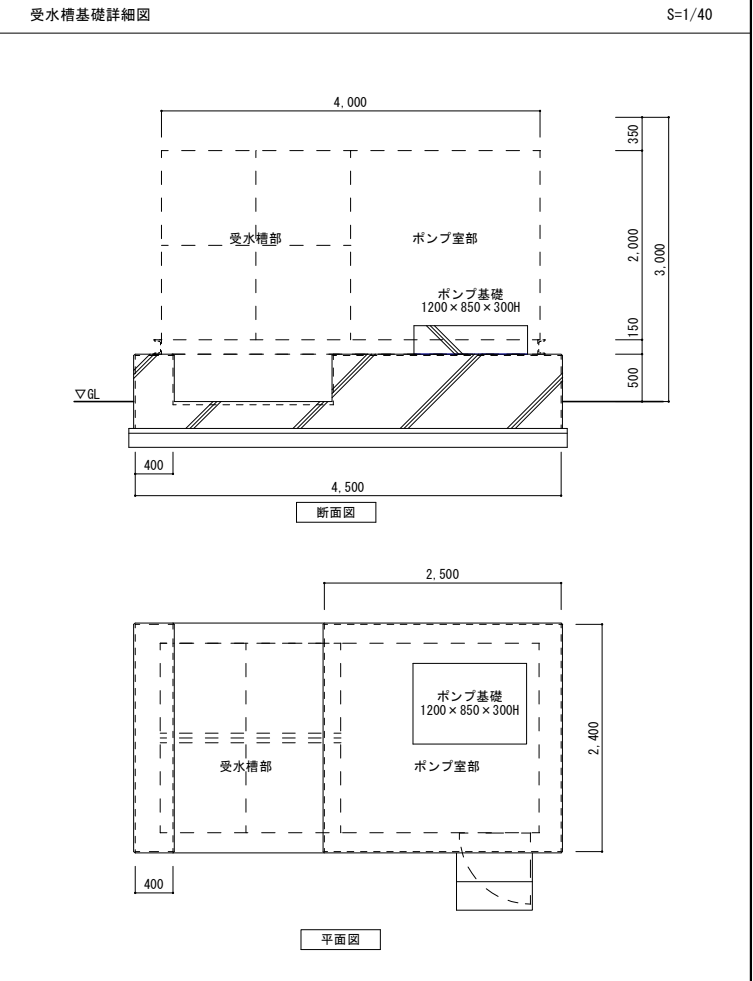
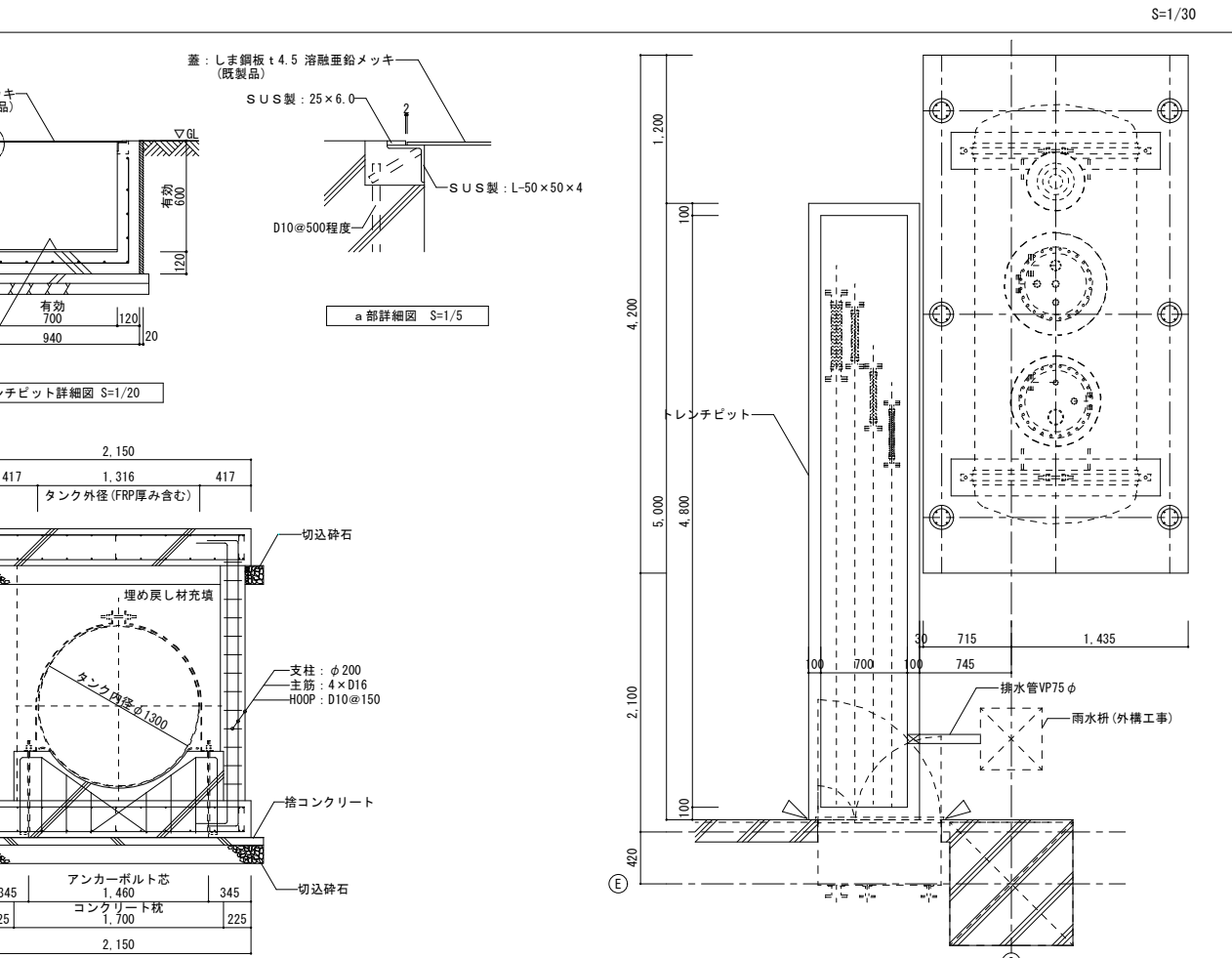
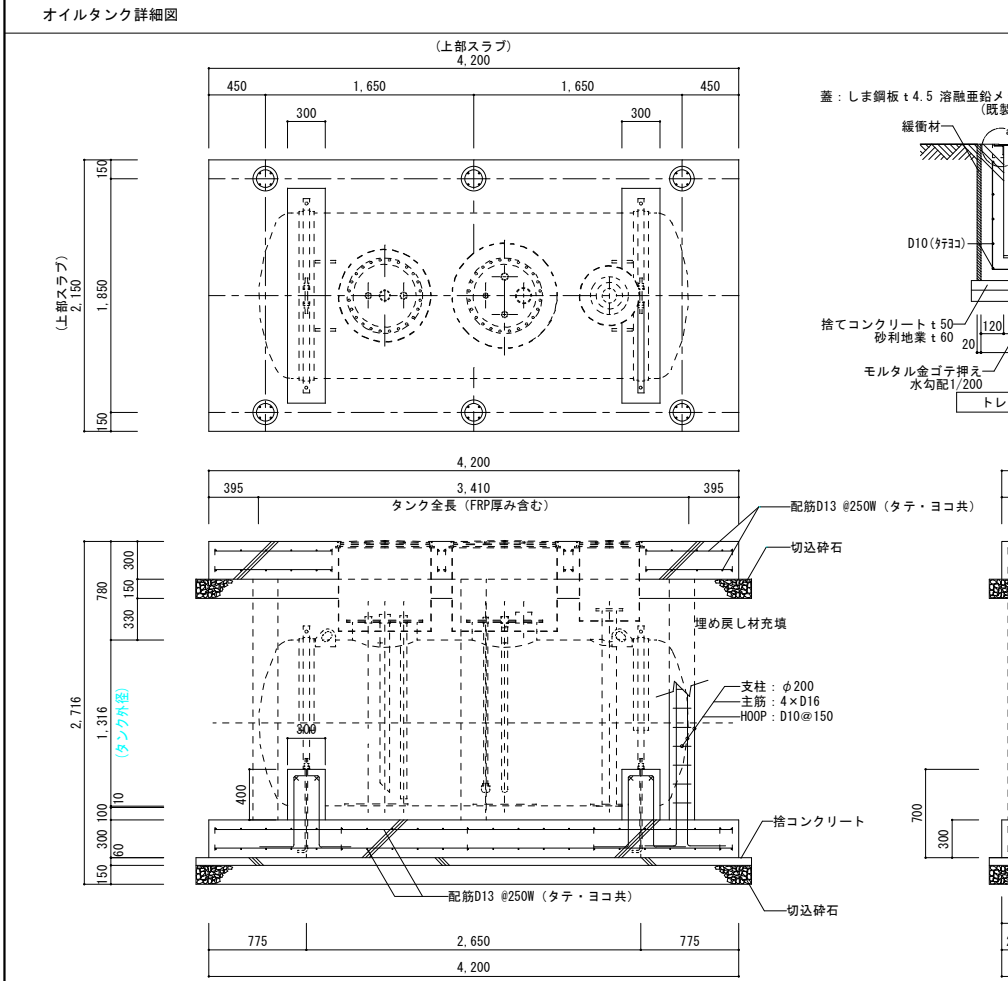
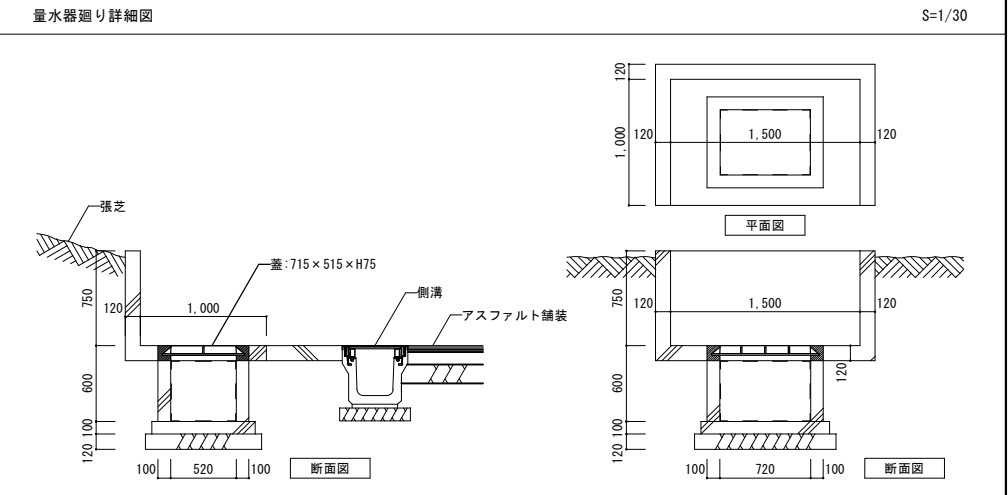
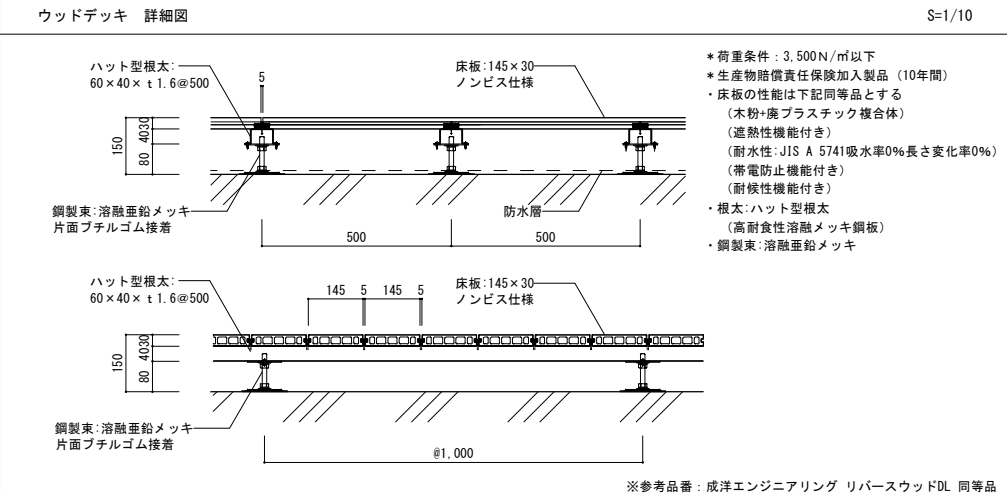
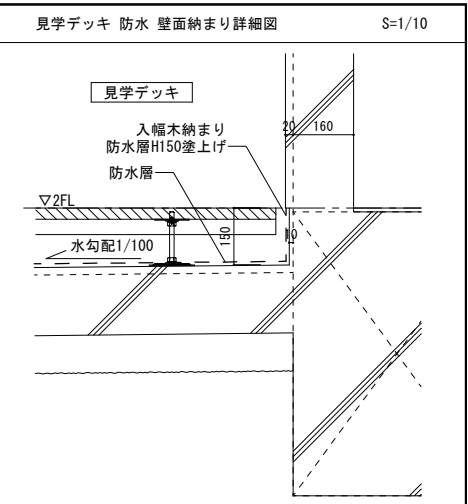
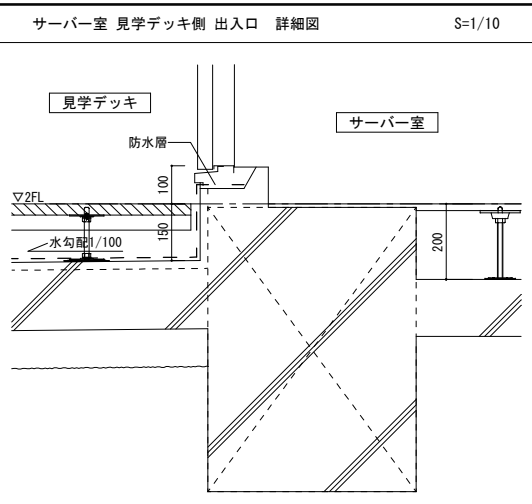
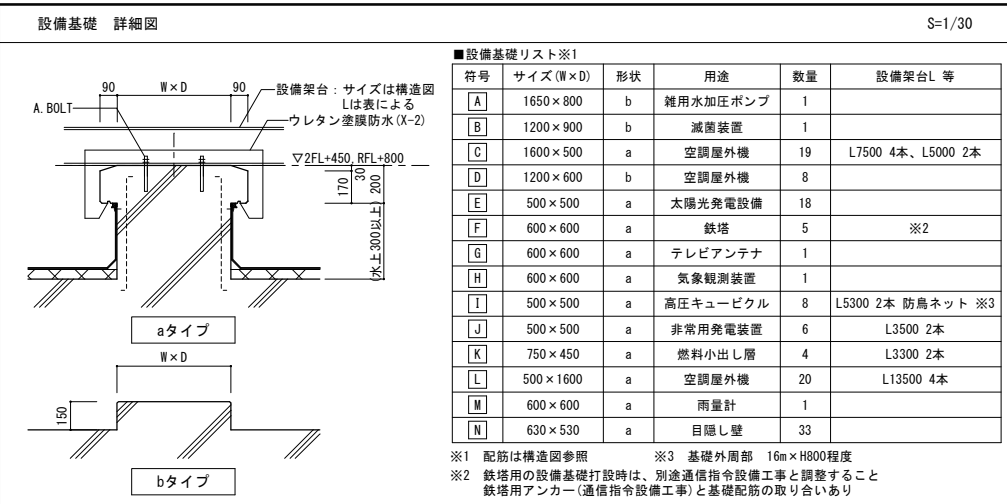
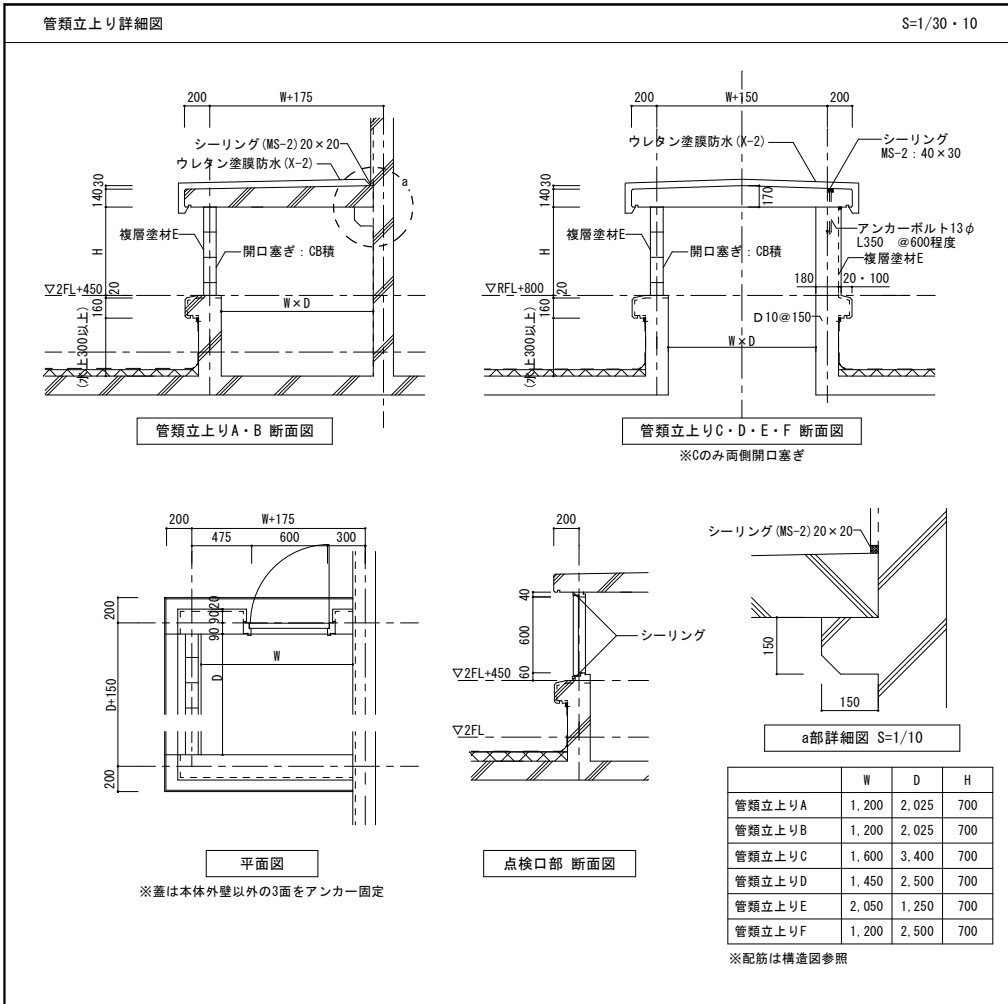
点検タラップ 詳細図 S=1/20・50

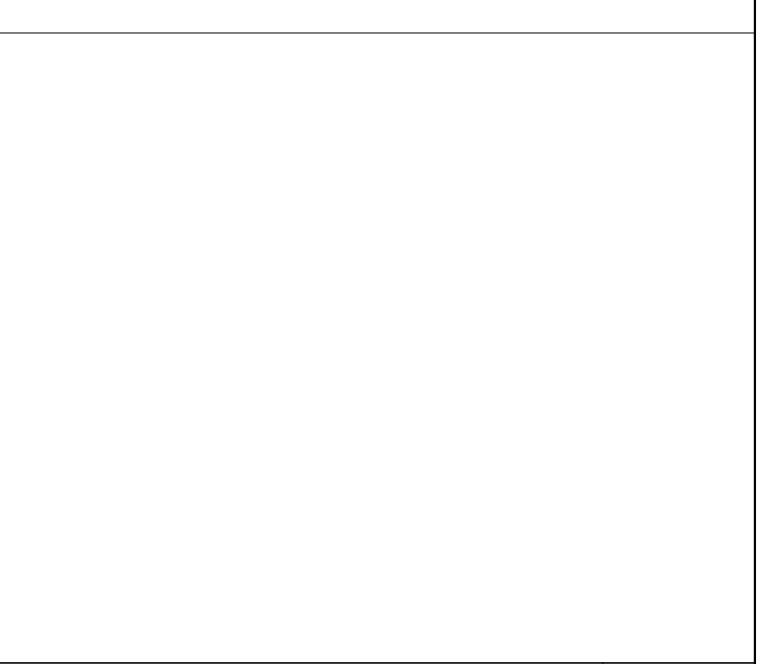
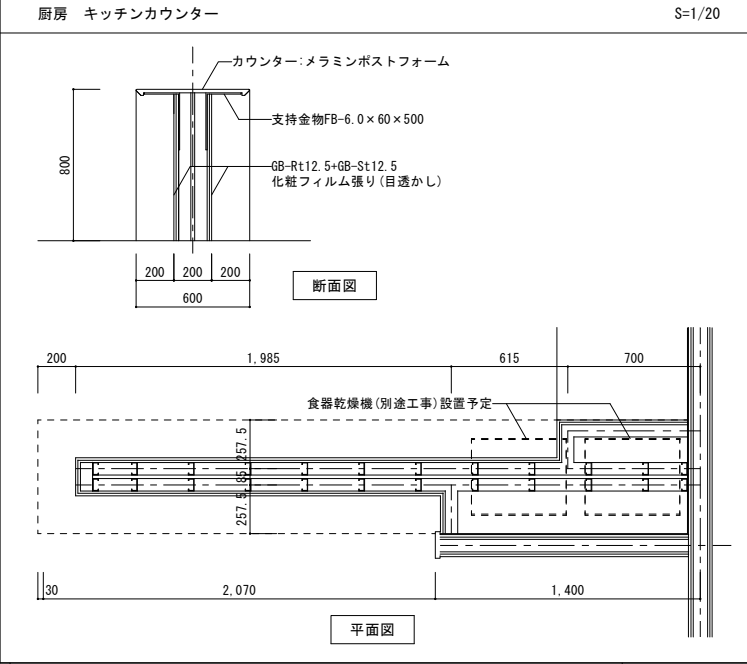
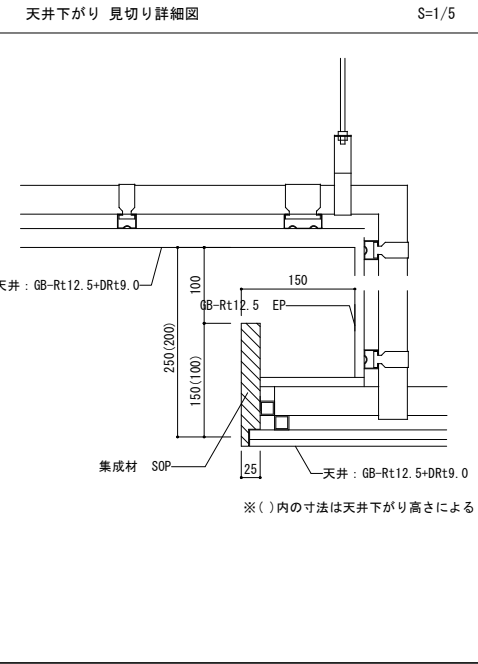
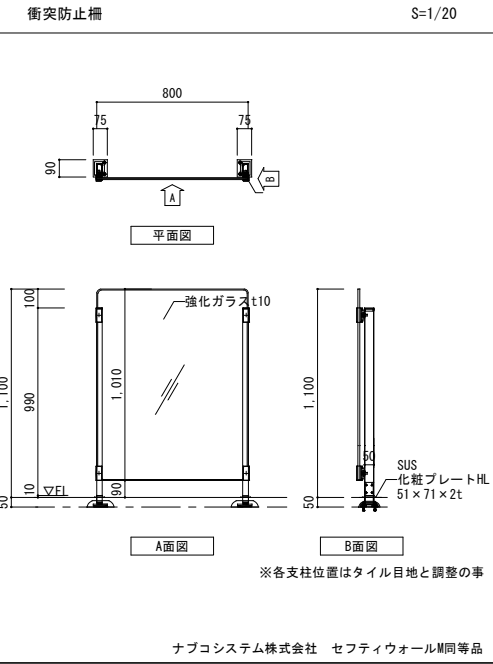
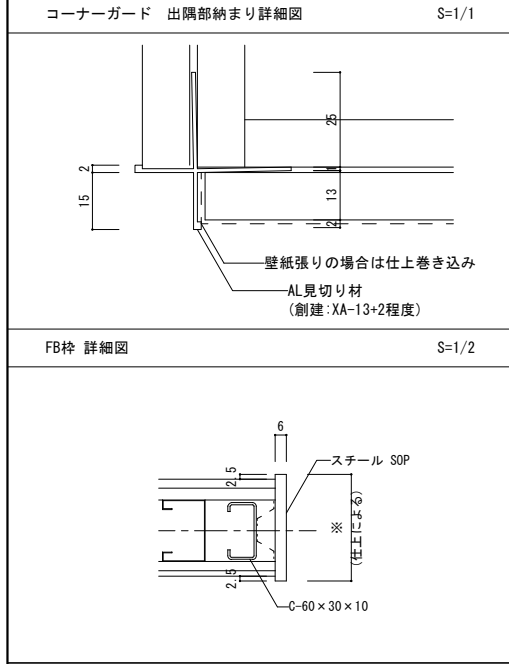
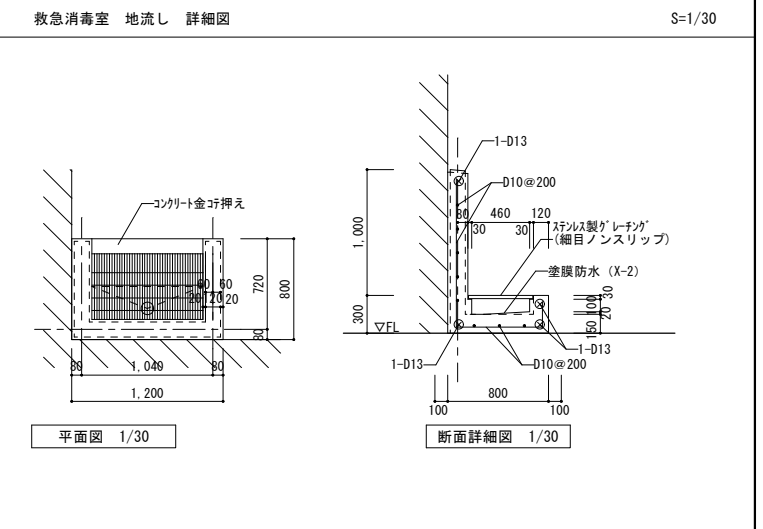
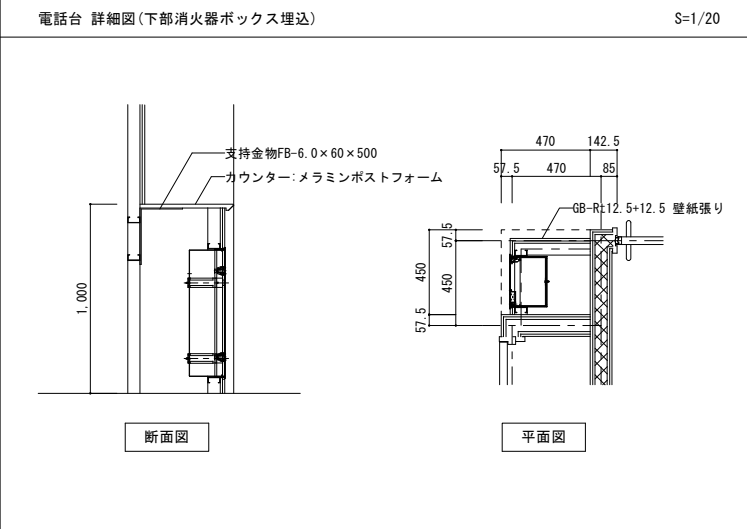
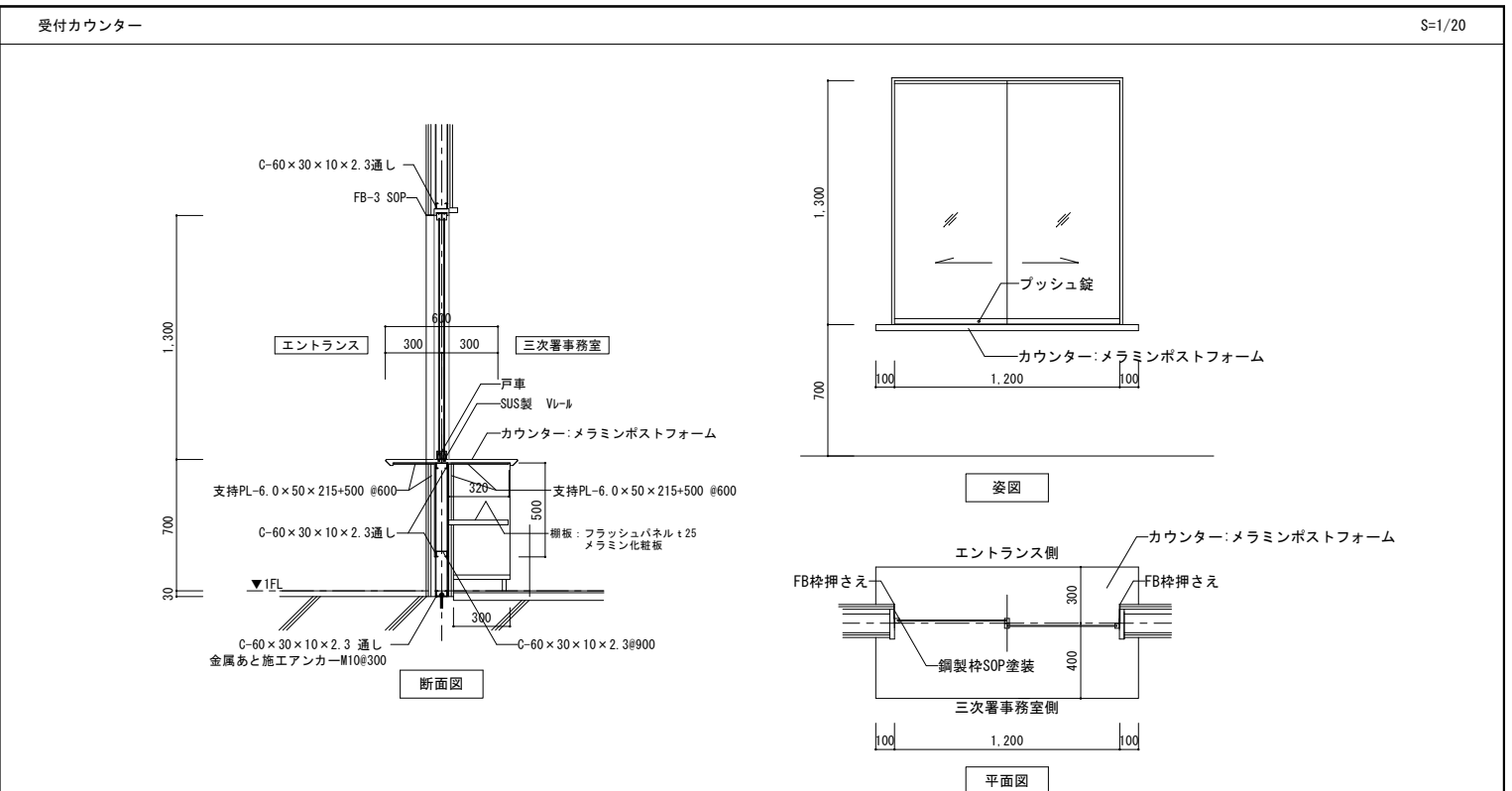
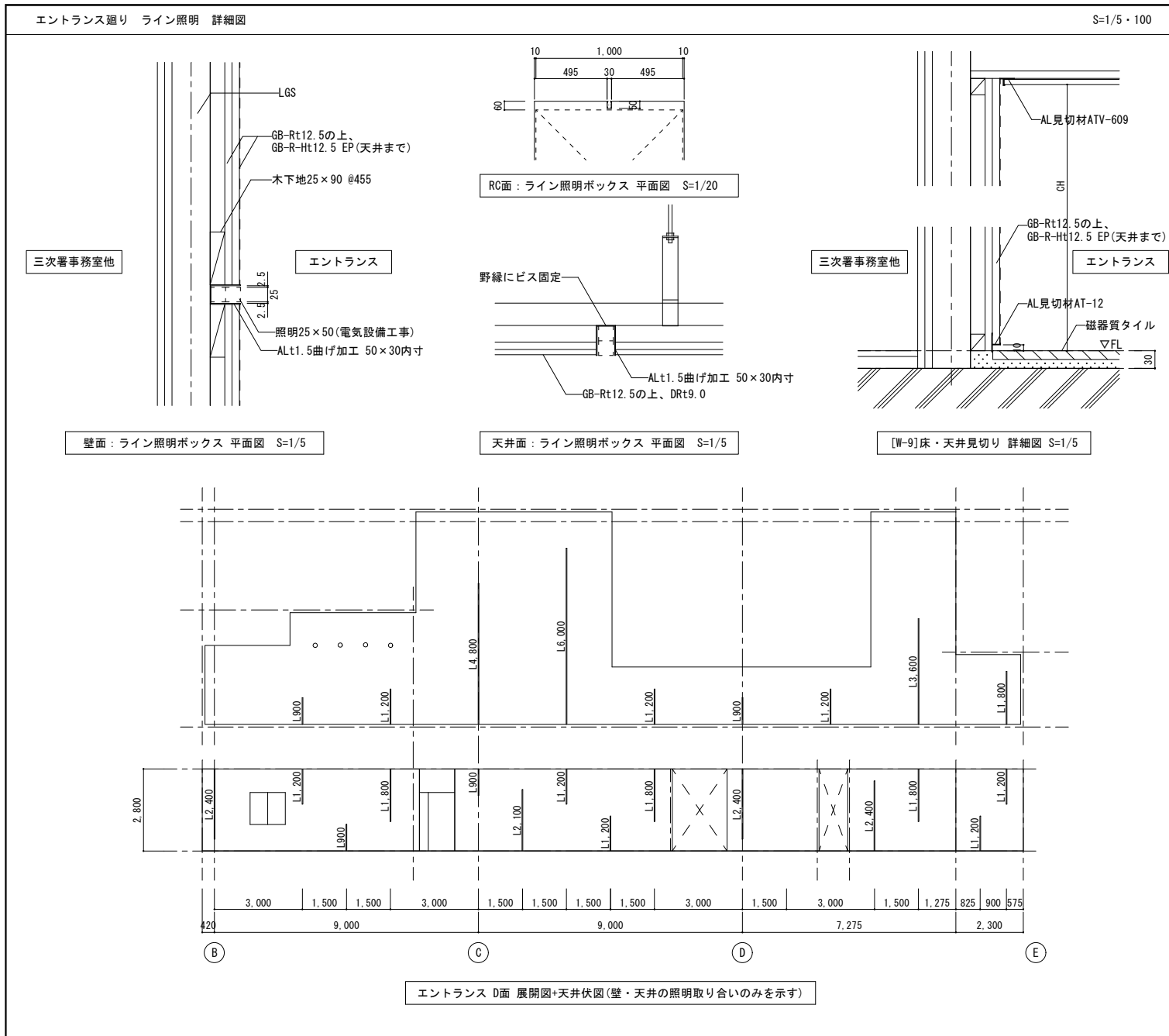


屋外階段 鉄棒 詳細図 S=1/20



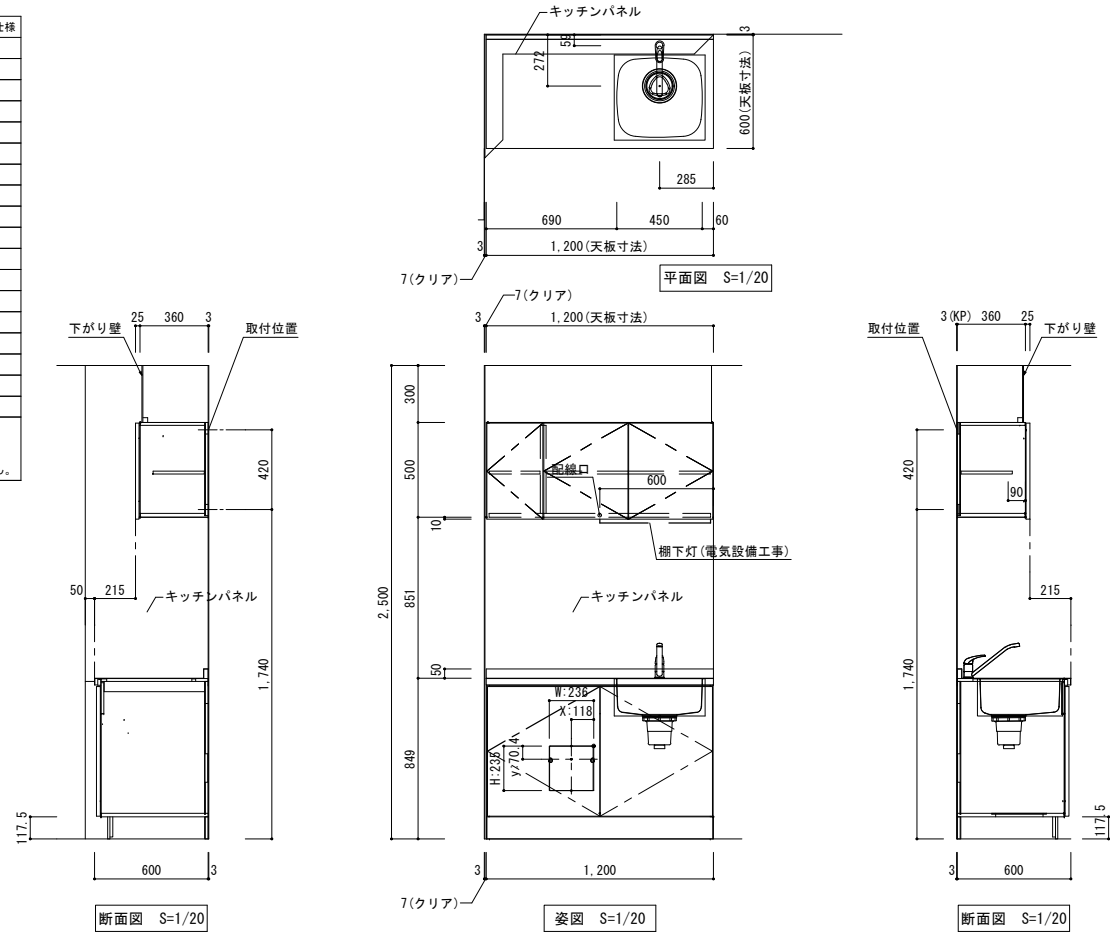






1階三次署給湯室 キッチン詳細図 (参考図)

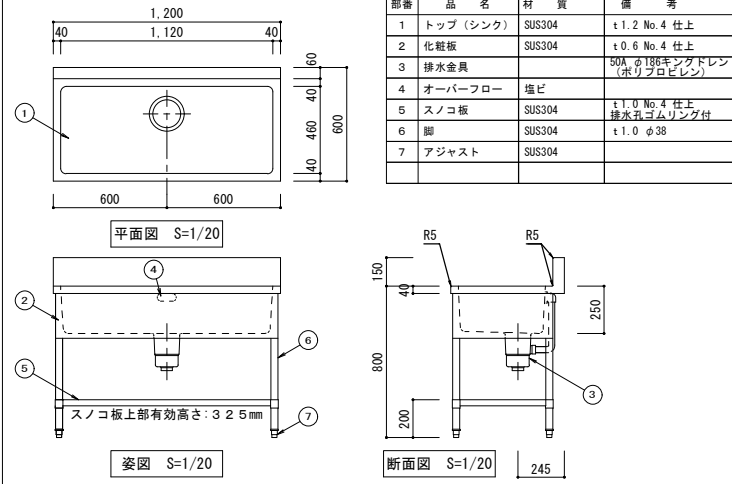
品名	仕様	F☆☆☆☆仕様
ワークトップ	天板材質 SUS430 楕円エンボス	
シンク種類	Fシンク	
扉	特殊化粧シート扉左右 1/4R	
丁番	スライド丁番 (標準品)	
本体	化粧合板、化粧ボード	
巾木	化粧シート巻材	
底板素材	化粧MDF	
網棚	網棚T	
包丁差し	DYN包丁差し	
扉	特殊化粧シート扉左右 1/4R 扉下がり 10mm	
丁番	スライド丁番 (標準品)	
本体	化粧合板、化粧ボード	
部品	棚板	
ラッチ種類	Hラッチ	
棚下灯	(電気設備工事)	
下がり壁	(建築工事/キッチン工事外)周囲の壁と同材とする	
水栓	(機械設備工事)	
シーリング	シーリング (建築工事/キッチン工事外)見切部等適宜施すこと	
キッチンパネル	ホーローキッチンパネル H型 レギュラークラス 見切り・エッジ:樹脂製 ※不燃材料で有効に仕上げをする場合の厚さには含まれません。	



S=1/20

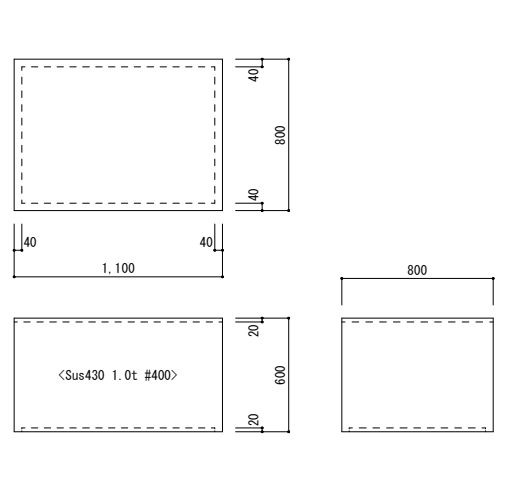
1階救急消毒室 1槽シンク詳細図 (参考図)

部番	品名	材質	備考
1	トップ (シンク)	SUS304	t 1.2 No.4 仕上
2	化粧板	SUS304	t 0.6 No.4 仕上
3	排水金具		50A φ186キングドレン (ポリプロピレン)
4	オーバーフロー	塩ビ	
5	スノコ板	SUS304	t 1.0 No.4 仕上 排水孔φ12mm付
6	脚	SUS304	t 1.0 φ38
7	アジャスト	SUS304	



S=1/20

1階食堂 フード詳細図

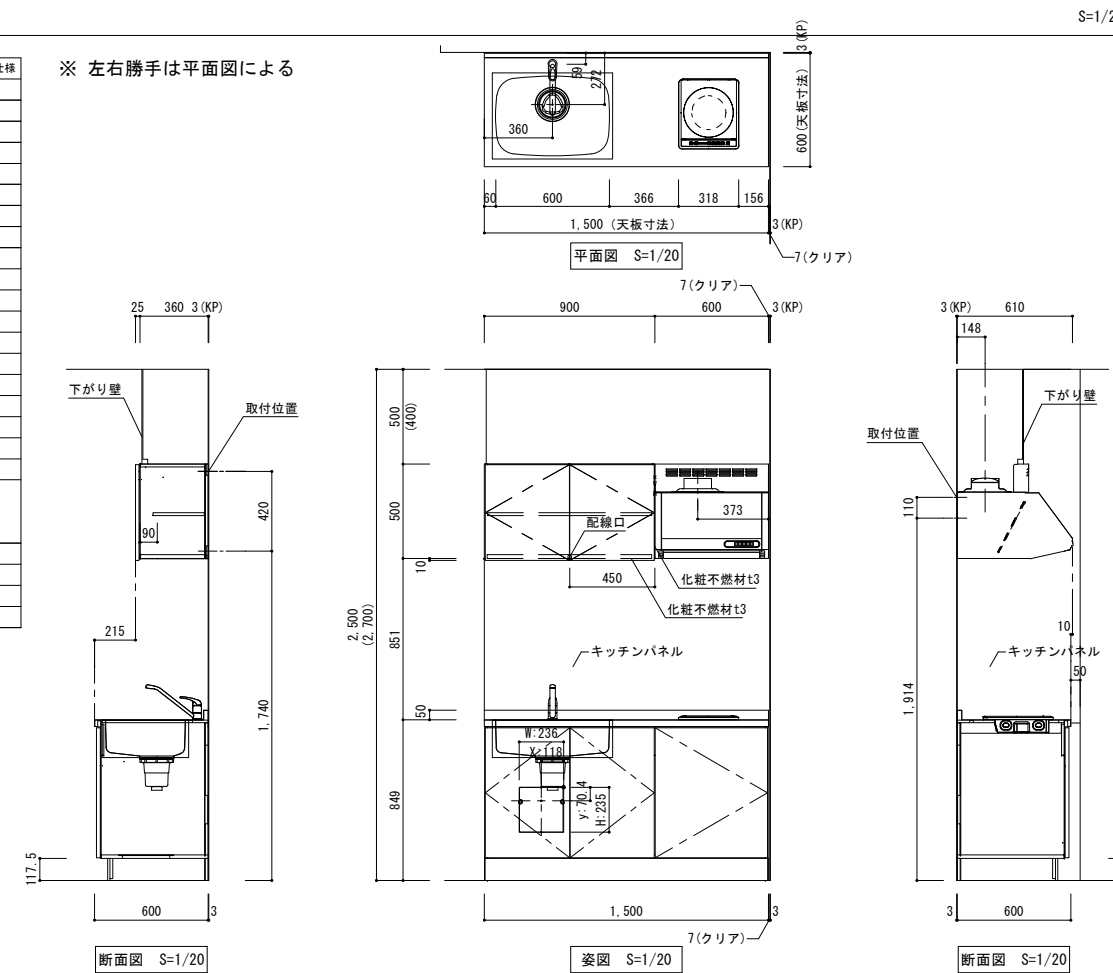


S=1/20

2階本部給湯室・通信指令課事務室 キッチン詳細図 (参考図)

品名	仕様	F☆☆☆☆仕様
ワークトップ	天板材質 SUS430 楕円エンボス	
シンク種類	Sシンク	
扉	特殊化粧シート扉左右 1/4R	
丁番	スライド丁番 (標準品)	
本体	化粧合板、化粧ボード	
巾木	化粧シート巻材	
底板素材	化粧MDF	
網棚	網棚T	
包丁差し	DYN包丁差し	
扉	特殊化粧シート扉左右 1/4R 扉下がり 10mm	
丁番	スライド丁番 (標準品)	
本体	化粧合板、化粧ボード	
部品	棚板	
ラッチ種類	Hラッチ	
棚下灯	(電気工事)	
下がり壁	(建築工事/キッチン工事外)周囲の壁と同材とする	
加熱器具	CH-11C (1口IH-100W)	
水栓	水栓種類 (機械設備工事)	
シーリング	シーリング (建築工事/キッチン工事外)見切部等適宜施すこと	
キッチンパネル	ホーローキッチンパネル H型 レギュラークラス 見切り・エッジ:樹脂製	
機種	VUS-605	
風量	標準947	
排気仕様	排気風圧	
プラグ形状	2極接地型	

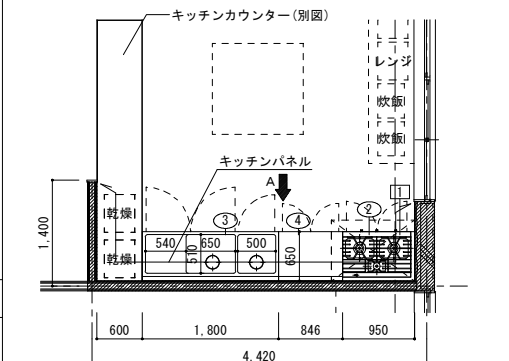
※ 左右勝手は平面図による



S=1/20

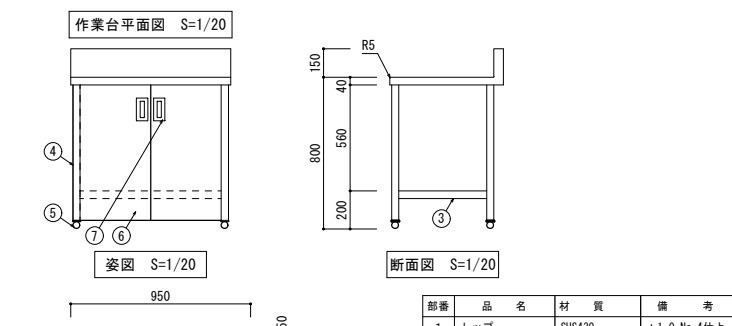
1階食堂・厨房 厨房廻り詳細図 (参考図)

区	部番	品名	型式	寸法	備考
1	1	ガステーブルコンロ		開口 (900) 奥行 (600) 高さ (200)	
2	2	コンロ台 (下部扉付・2方B付)		950 650 600 350	
3	3	水切付二槽親子シンク (下部扉付)		1800 650 800 150	
4	4	作業台 (下部扉付)		(846) 650 800 150	



1階食堂・厨房 厨房廻り詳細図 (参考図)

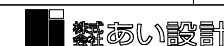
部番	品名	材質	備考
1	トップ	SUS430	t 1.0 No.4仕上
2	トップ補強	ボンデ	t 1.0
3	スノコ板	SUS430	t 1.0 No.4仕上
4	アングル脚	SUS304	L-40x40x3.0 t
5	ポールアジャスト	SUS304	
6	観音扉	SUS430	t 0.8 No.4仕上
7	扉取手	SUS304	



S=1/50・20

NOTE

()内の寸法は通信指令課事務室



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

DWG No.

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

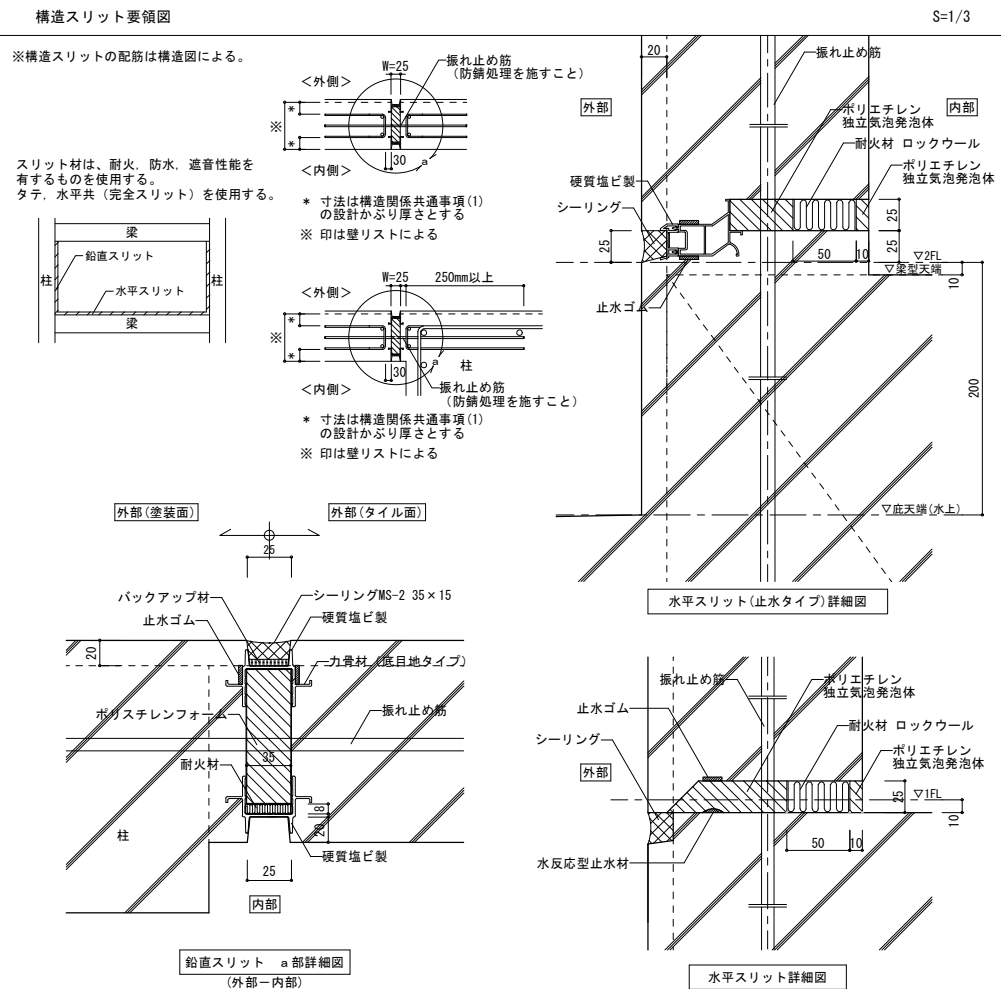
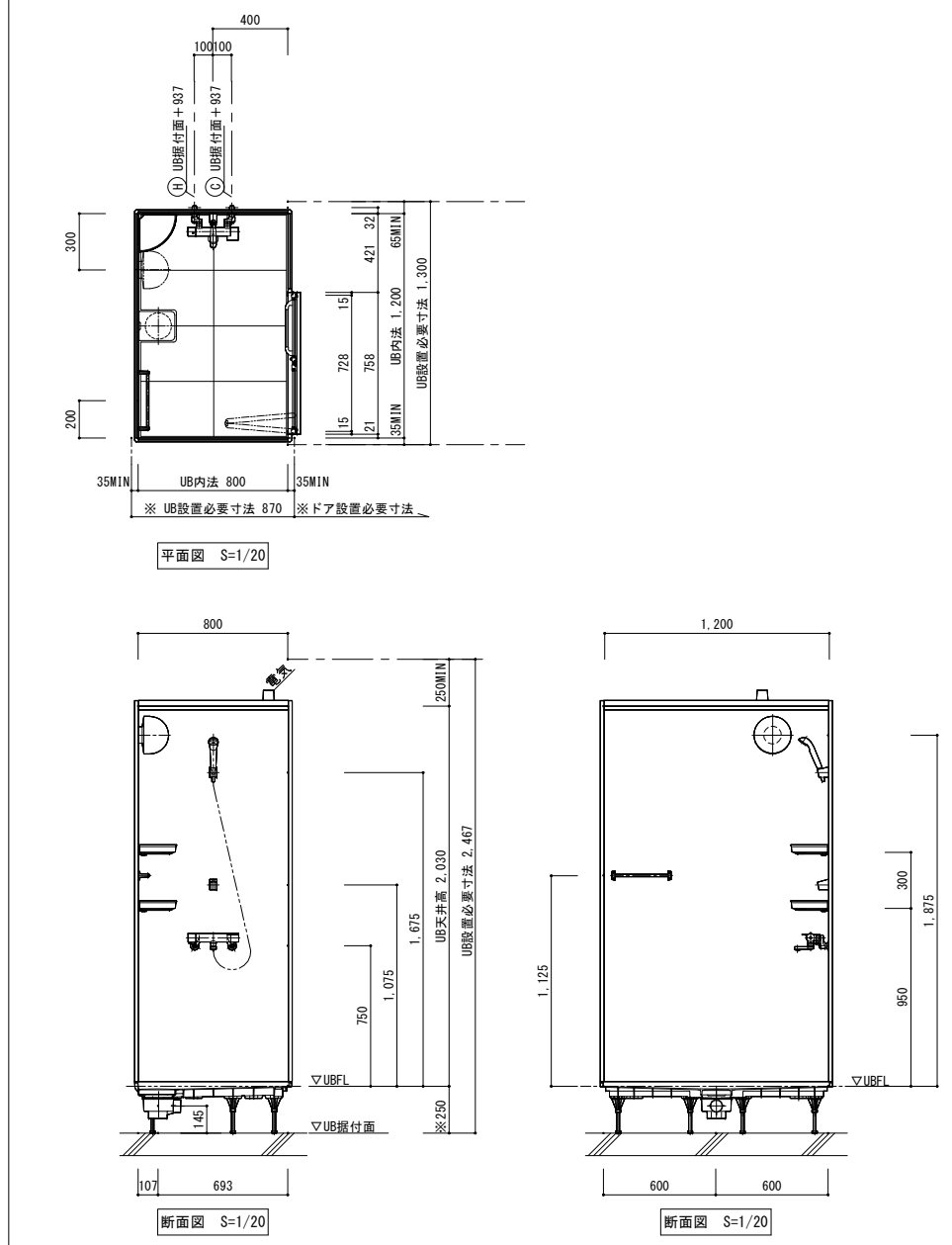
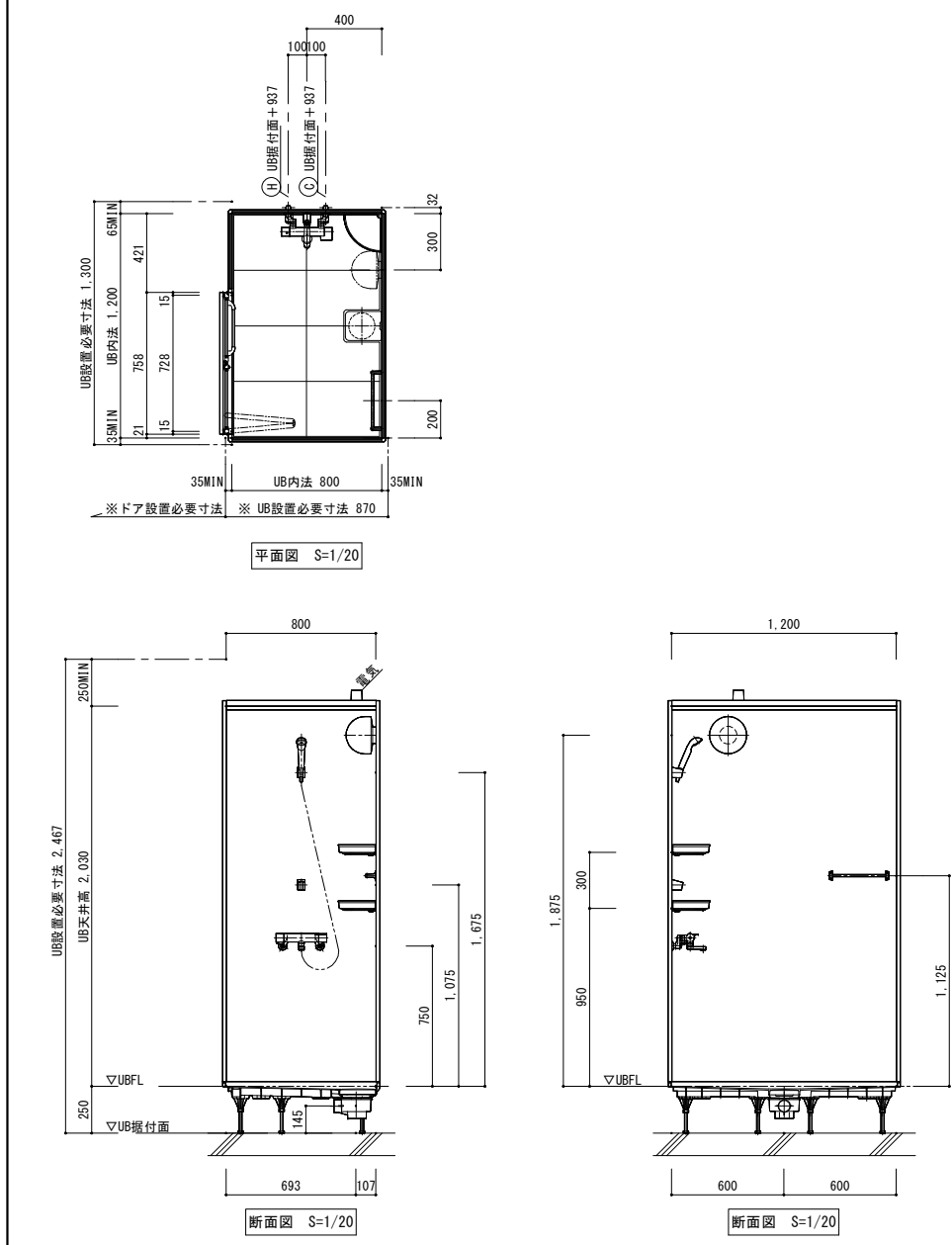
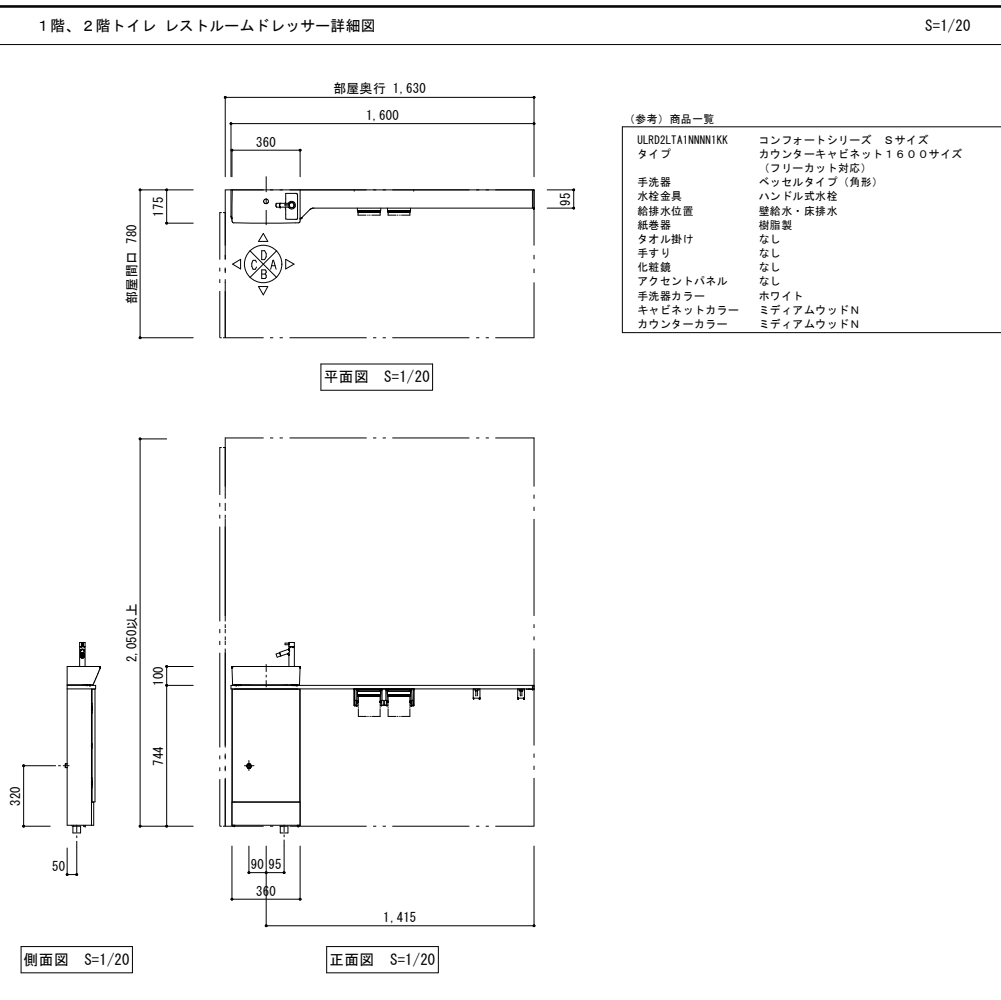
【庁舎棟】部分詳細図(7)

SCALE A1: 図示 A3: 図示×1/2

066

シャワーユニット(1)詳細図		S=1/20		
JVS0812UL		コロガシ ●は、基本仕様からの変更箇所		
名称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル(抗菌防カビ仕様・モール式) 点検口φ450(絞リ点検口・落下防止用紐付石膏ボード2枚貼り)	ホワイト		
壁パネル	HQパネル	ベースホワイト		
床パネル	FRP カラリ床(単色)	ホワイト(#NW1)		
ドア枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	(付特用取付ネジUB支給、ネジ取付および付特用)	
ドアパネル	折戸 ドア脱着機構付 素材:型板ステンレ板 W=800(有効開口幅 671mm)	アイボリー 素材:半透明		
●シャワー水栓	TBV03433J型 壁付サーモスタットシャワー金具(スパウトL=70)			SSGFS
●シャワーヘッド	スプレーシャワー ホース:L=1600	ヘッド:ホワイトグレー ホース:シルバー		SSGFS
シャワーハンガー	TH556F6	ホワイト		
照明	半球形照明(LEDランプ) 消費電力9W以下 60W相当 電球色 VVF1.6φ×2C L=2.0m付		(壁穴加工なし) (以降接続別途)	
ジョイントボックス	エコノミージョイント WJ3107相当品		(ジョイントボックスまでの配線及びジョイントボックス内の接続別途)	
換気グリル	ABS樹脂 接続部外径φ99	アイルホワイト	(以降接続別途)	
給水エルボ(シャワー用)	青銅鍍物製 接続口 Rc1/2		(以降接続別途)	
給湯エルボ(シャワー用)	青銅鍍物製 接続口 Rc1/2		(以降接続別途)	
排水トラップ	ABS樹脂 封水深50mm 接続口 VP50受口 ヘアーキャッチャー付 高圧洗浄対応		(以降接続別途)	
タオル掛け	ステンレスパイプ φ13 L=300	ホワイト(#NW1)		
●収納棚	コーナー収納棚2段	ストーンホワイト		ESAS1

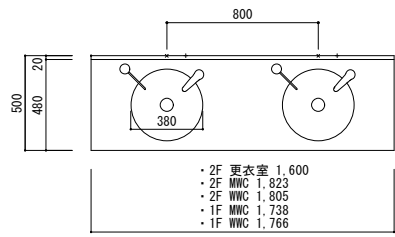
シャワーユニット(2)詳細図		S=1/20		
JVS0812UL		コロガシ ●は、基本仕様からの変更箇所		
名称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル(抗菌防カビ仕様・モール式) 点検口φ450(絞リ点検口・落下防止用紐付石膏ボード2枚貼り)	ホワイト		
壁パネル	HQパネル	ベースホワイト		
床パネル	FRP カラリ床(単色)	ホワイト(#NW1)		
ドア枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	(付特用取付ネジUB支給、ネジ取付および付特用)	
ドアパネル	折戸 ドア脱着機構付 素材:型板ステンレ板 W=800(有効開口幅 671mm)	アイボリー 素材:半透明		
●シャワー水栓	TBV03433J型 壁付サーモスタットシャワー金具(スパウトL=70)			SSGFS
●シャワーヘッド	スプレーシャワー ホース:L=1600	ヘッド:ホワイトグレー ホース:シルバー		SSGFS
シャワーハンガー	TH556F6	ホワイト		
照明	半球形照明(LEDランプ) 消費電力9W以下 60W相当 電球色 VVF1.6φ×2C L=2.0m付		(壁穴加工なし) (以降接続別途)	
ジョイントボックス	エコノミージョイント WJ3107相当品		(ジョイントボックスまでの配線及びジョイントボックス内の接続別途)	
換気グリル	ABS樹脂 接続部外径φ99		(以降接続別途)	
給水エルボ(シャワー用)	青銅鍍物製 接続口 Rc1/2	アイルホワイト	(以降接続別途)	
給湯エルボ(シャワー用)	青銅鍍物製 接続口 Rc1/2		(以降接続別途)	
排水トラップ	ABS樹脂 封水深50mm 接続口 VP50受口 ヘアーキャッチャー付 高圧洗浄対応		(以降接続別途)	
タオル掛け	ステンレスパイプ φ13 L=300	ホワイト(#NW1)		
●収納棚	コーナー収納棚2段	ストーンホワイト		ESAS1



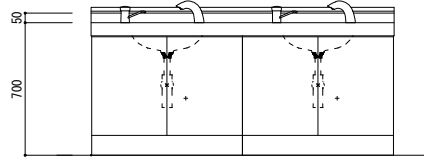
手洗いカウンター詳細図

S=1/20

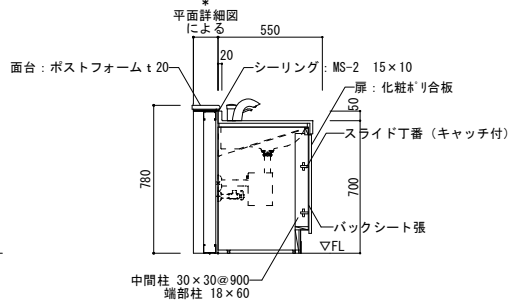
※水栓、洗面ボール、石鹸入れは設備工事



平面図 S=1/20



正面図 S=1/20

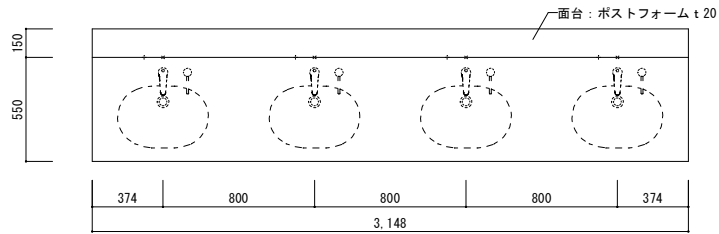


断面図 S=1/20

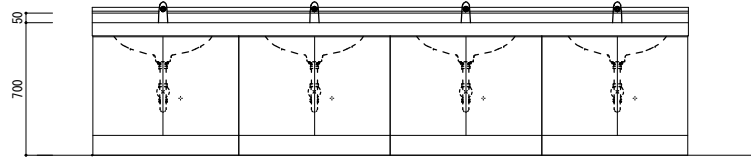
洗面カウンター詳細図

S=1/20

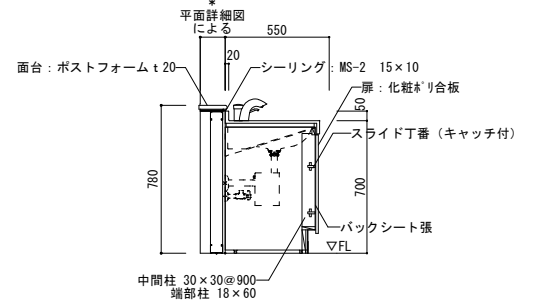
※水栓、洗面ボール、石鹸入れは設備工事



平面図 S=1/20



正面図 S=1/20



断面図 S=1/20

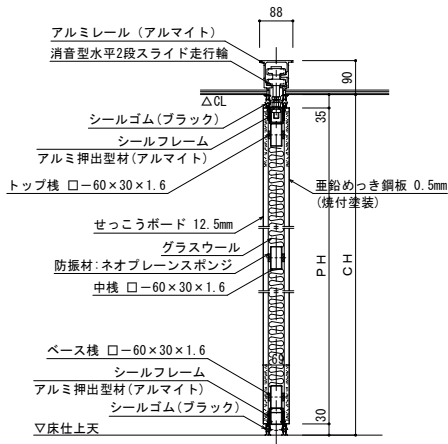
スライディングウォール詳細図

S=1/10・20

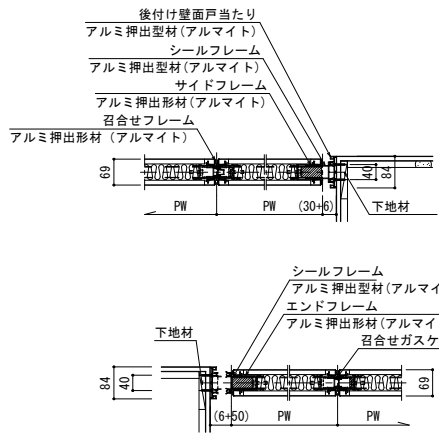
EPS断熱詳細図

S=1/5

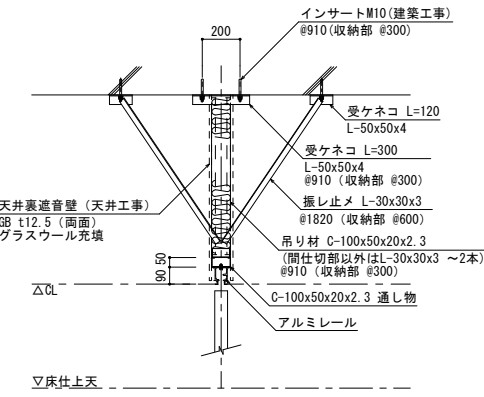
スライディングウォール 厚み69mm(LW-600)		
レール仕様	レール アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理) コーナー部 直角レール	
ランナー仕様	走行輪 水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵) 吊ボルト M 14	
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	亜鉛めっき鋼板 0.5mm (焼付塗装) 下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール
	骨組	アルミフレーム + 鉄骨造
	フレーム	アルミ押出型材 (アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
パネル分離型構造(廃棄時分別可能)・・・環境対応型		



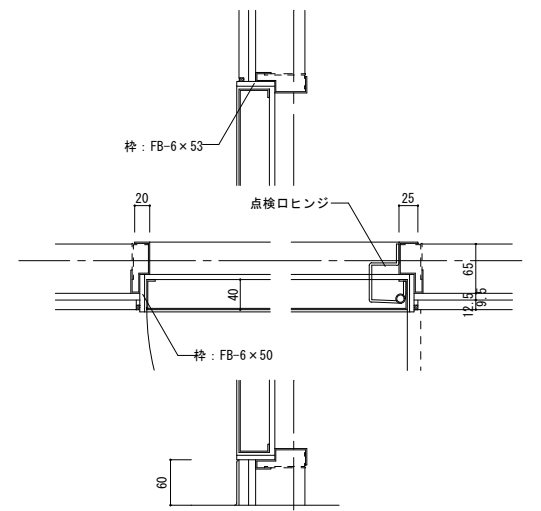
縦断面詳細図 S=1/10



横断面詳細図 S=1/10



レール取付断面図 S=1/20



ライニング、汚垂タイル詳細図

S=1/20

カーテンBOX(木製)詳細図

S=1/5

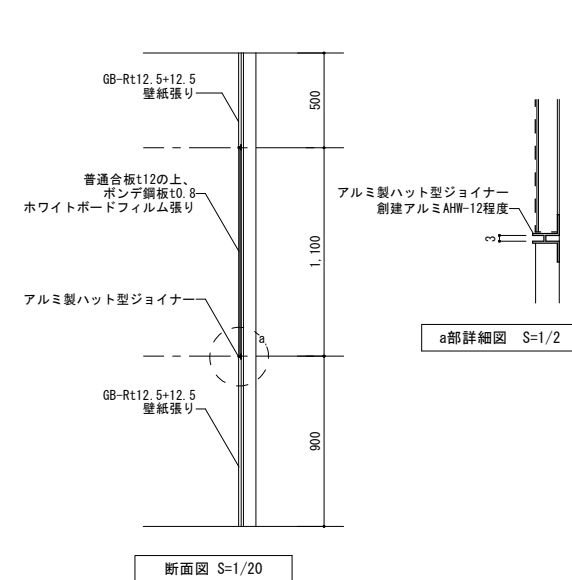
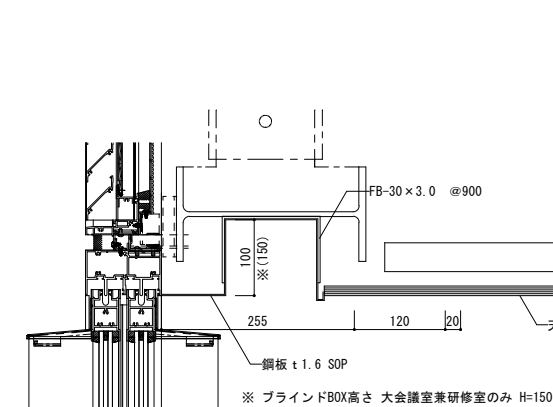
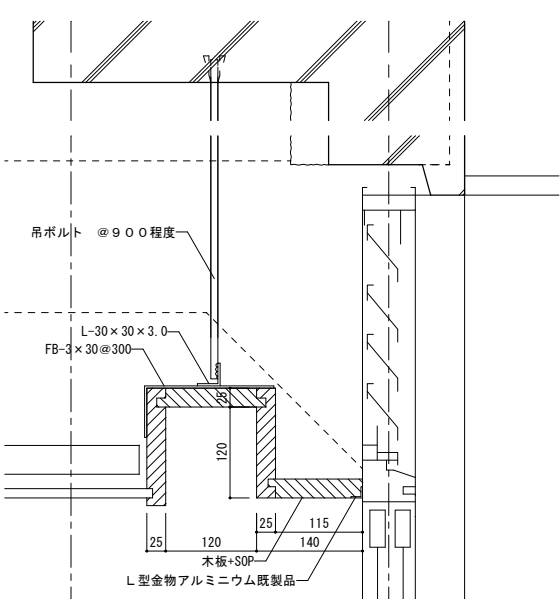
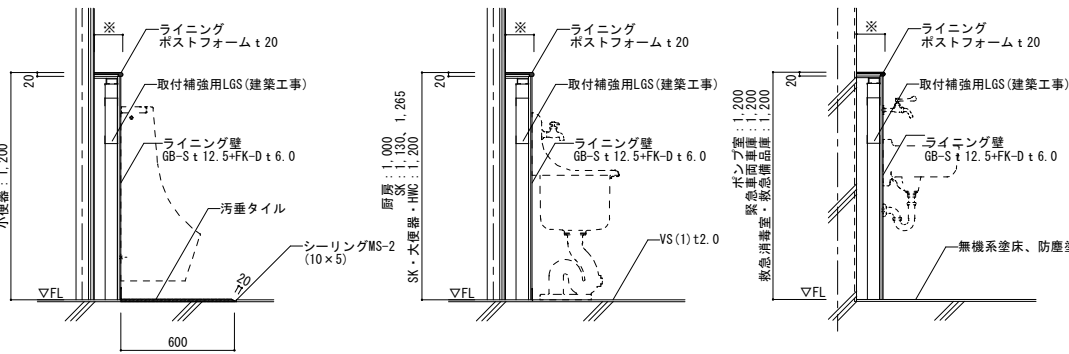
ブラインドBOX(鋼製)詳細図

S=1/5

掲示板

S=1/20・2

※寸法は平面詳細図による



NOTE

株式会社 あい設計

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

DWG No.

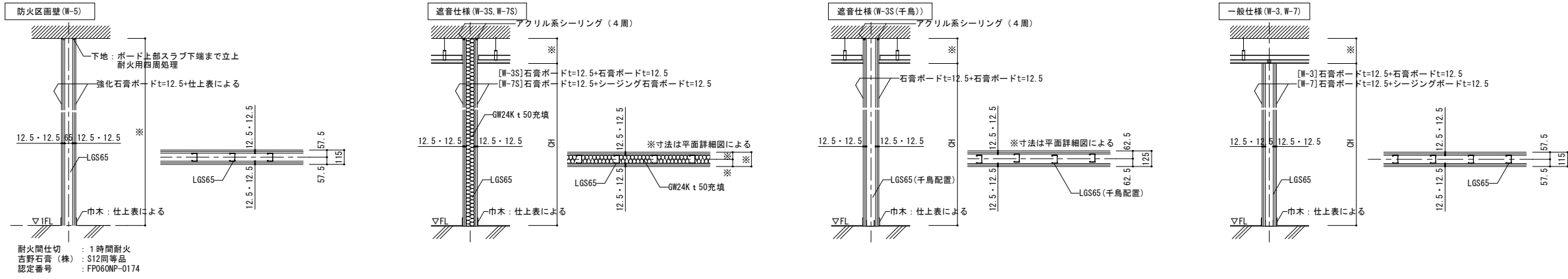
一級建築士
第340646号 佐藤 彰洋

【庁舎棟】部分詳細図(9)

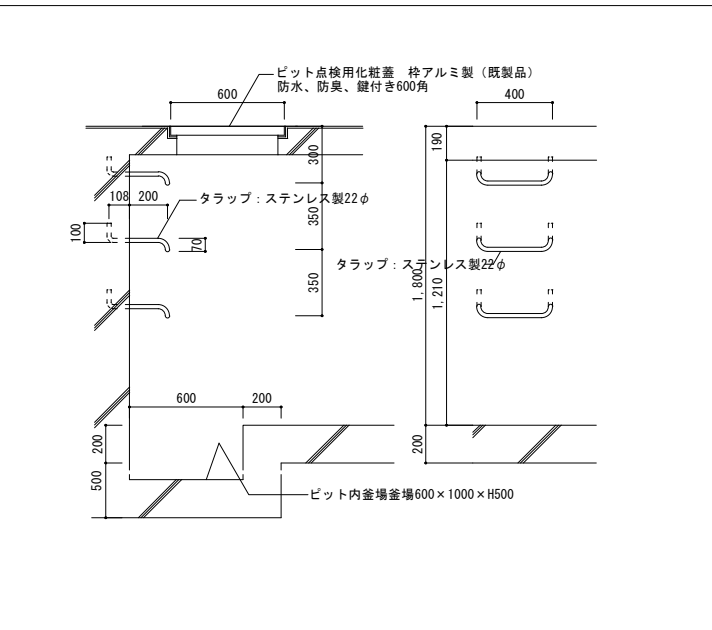
SCALE A1: 図示
A3: 図示×1/2

A

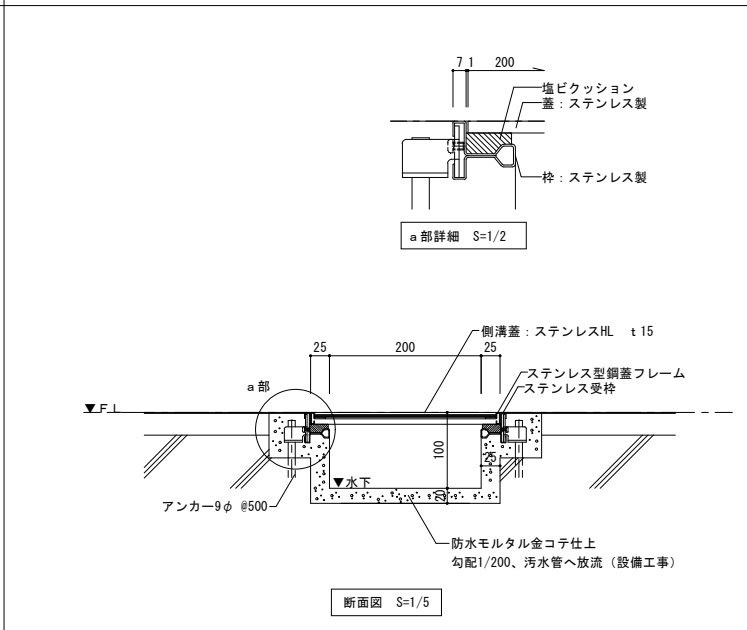
068



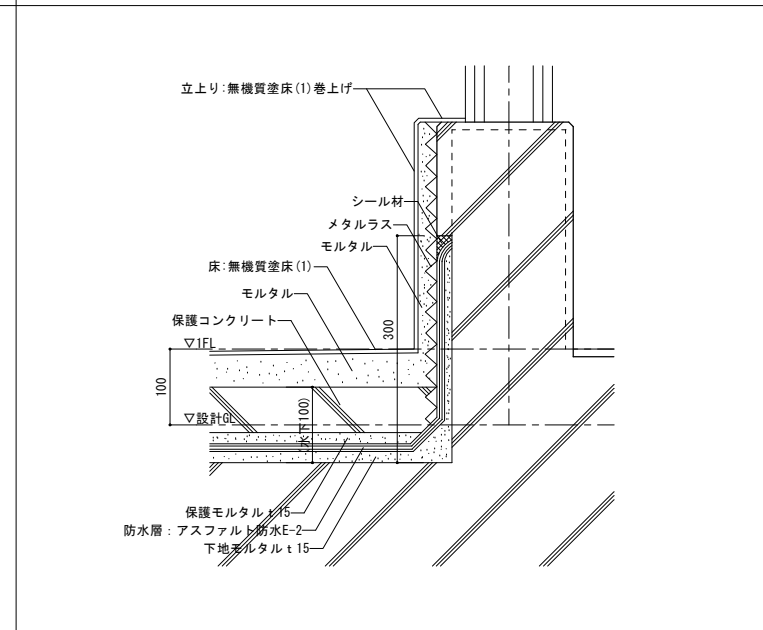
ビット内タラップ詳細図 S=1/20



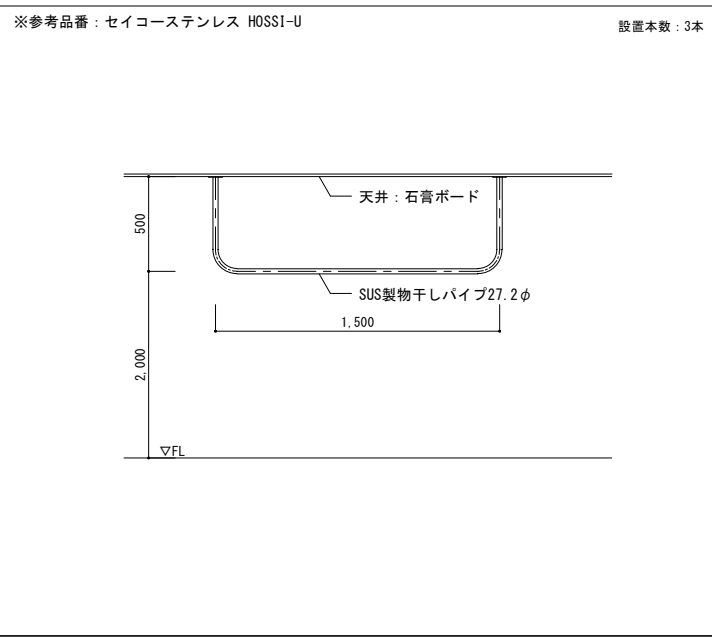
1階救急消毒室 排水詳細図 S=1/5・2



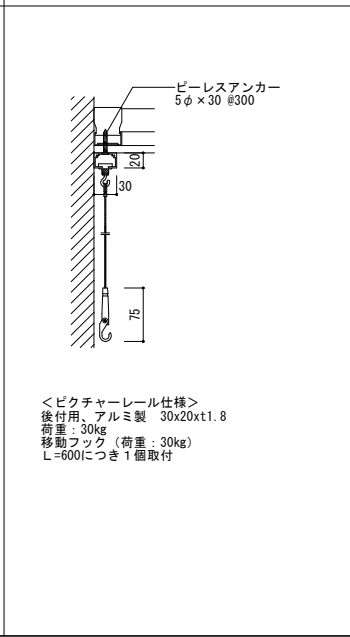
1階救急消毒室 屋内排水詳細図 S=1/5



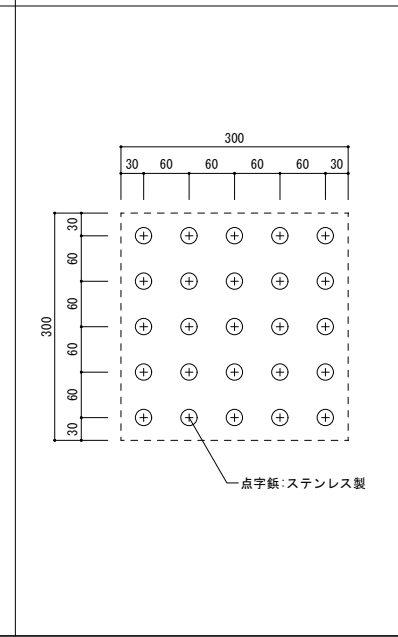
物干し金物 (乾燥室) 詳細図 S=1/20



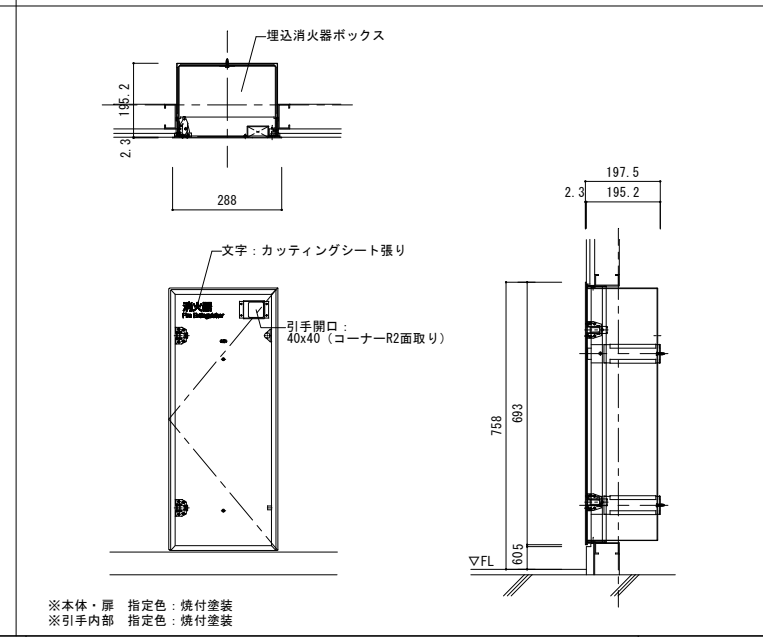
ピクチャーレール詳細図 (既製品) S=1/5



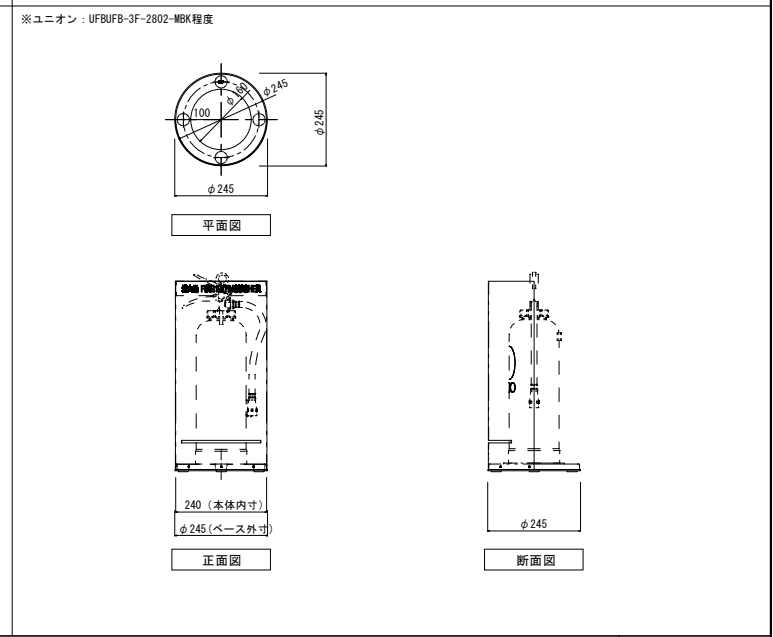
点字版詳細図 S=1/5

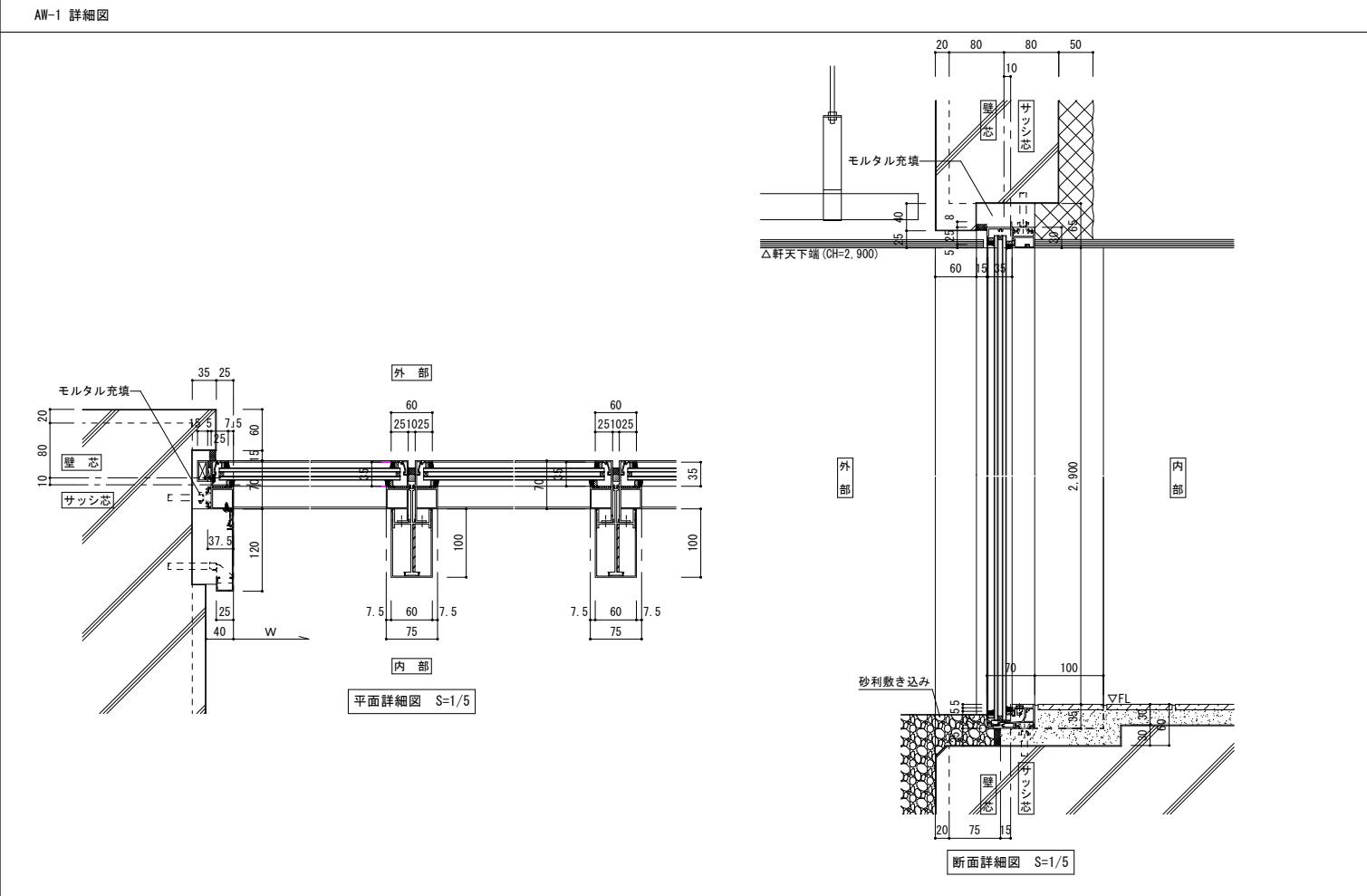
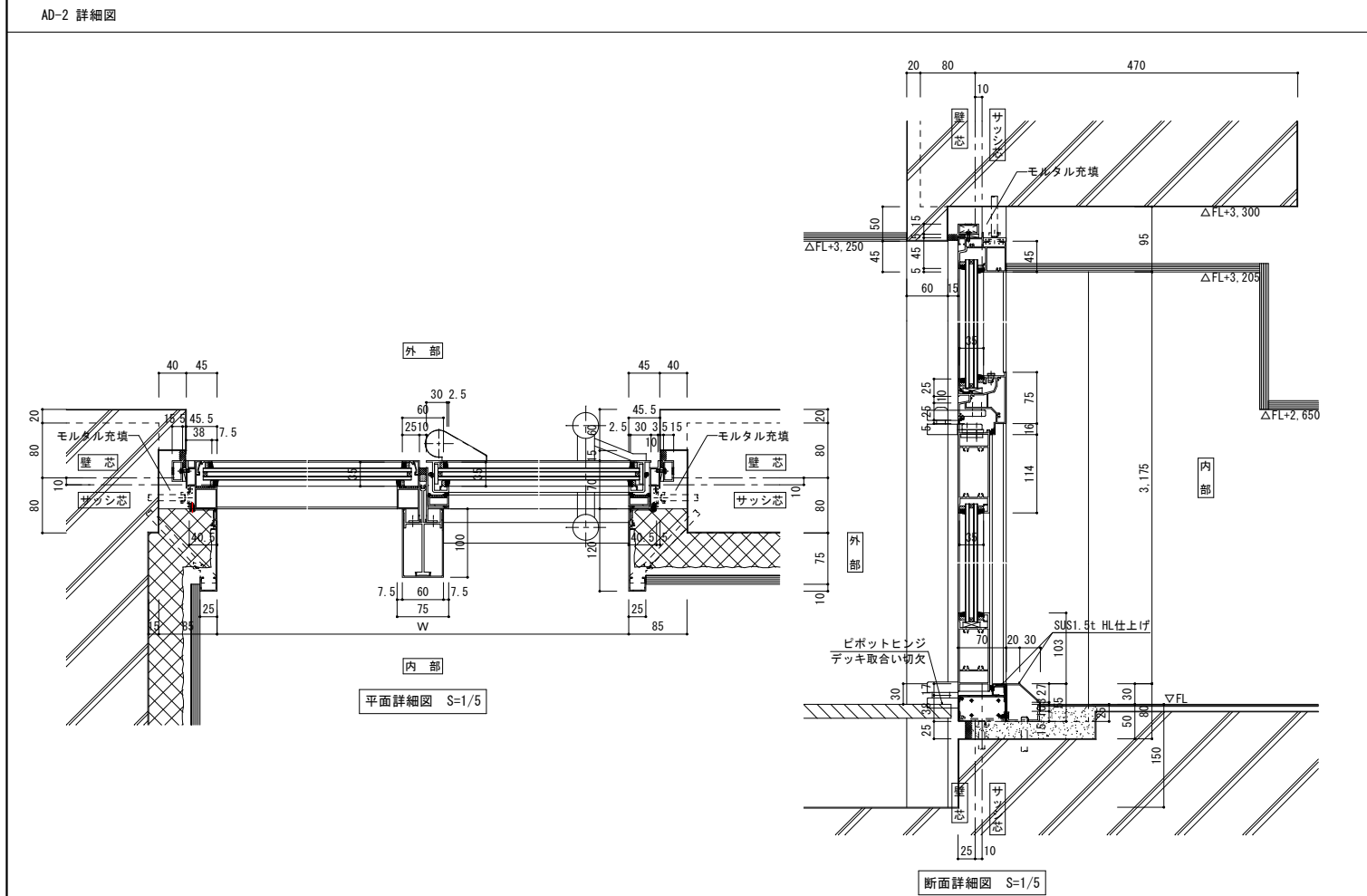
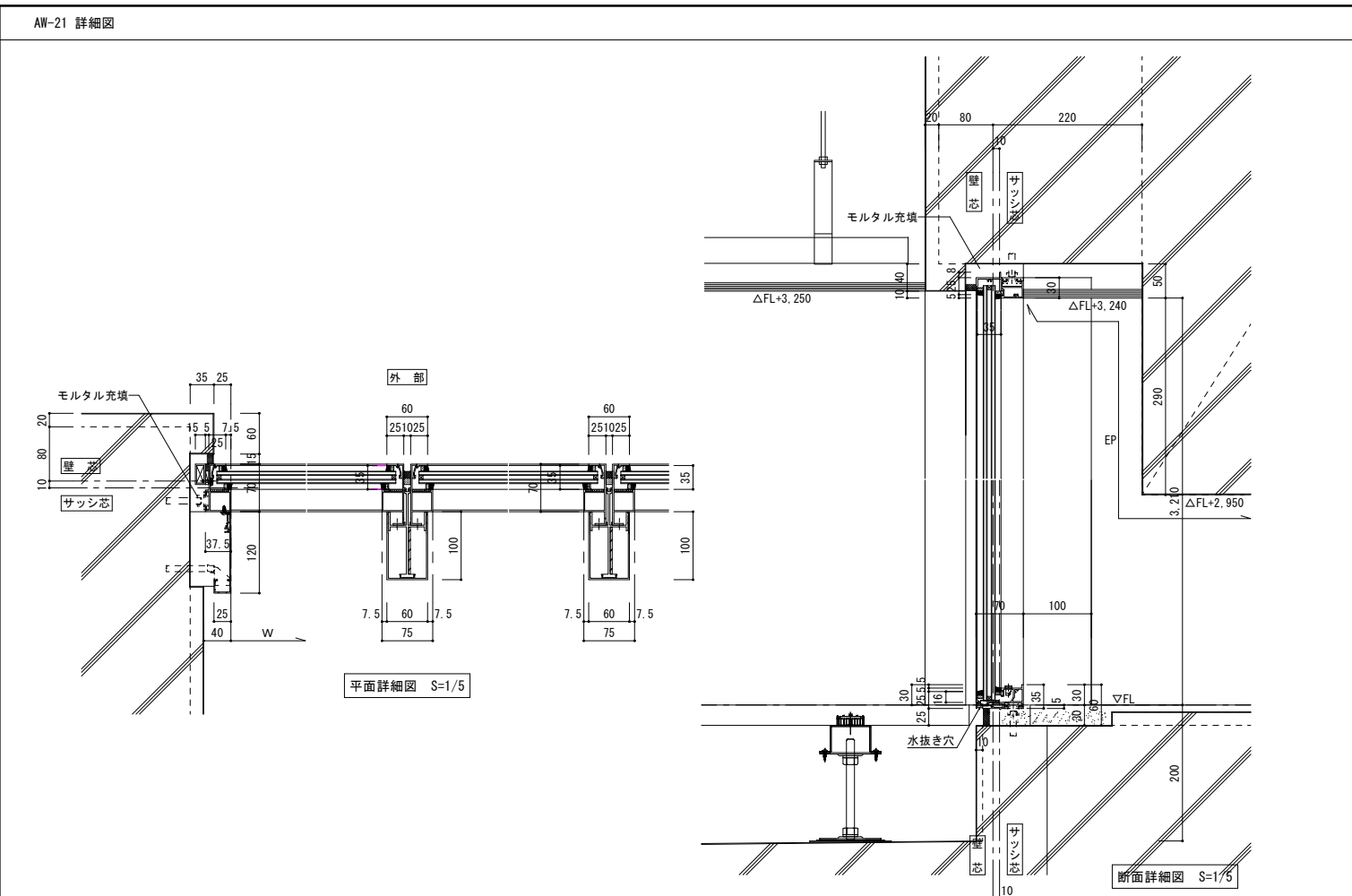
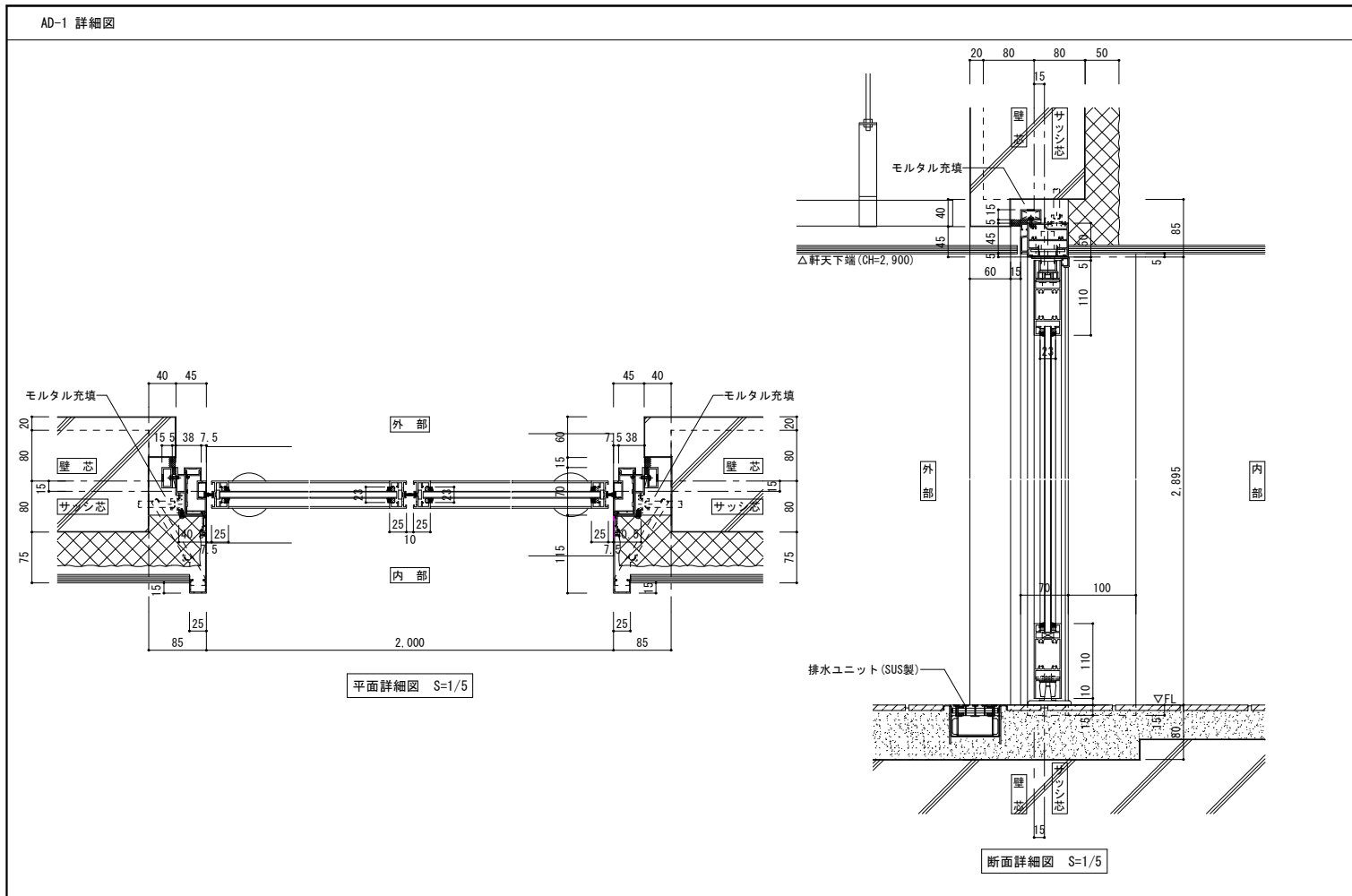


消火器BOX (埋込) (既製品参考図) 詳細図 S=1/10

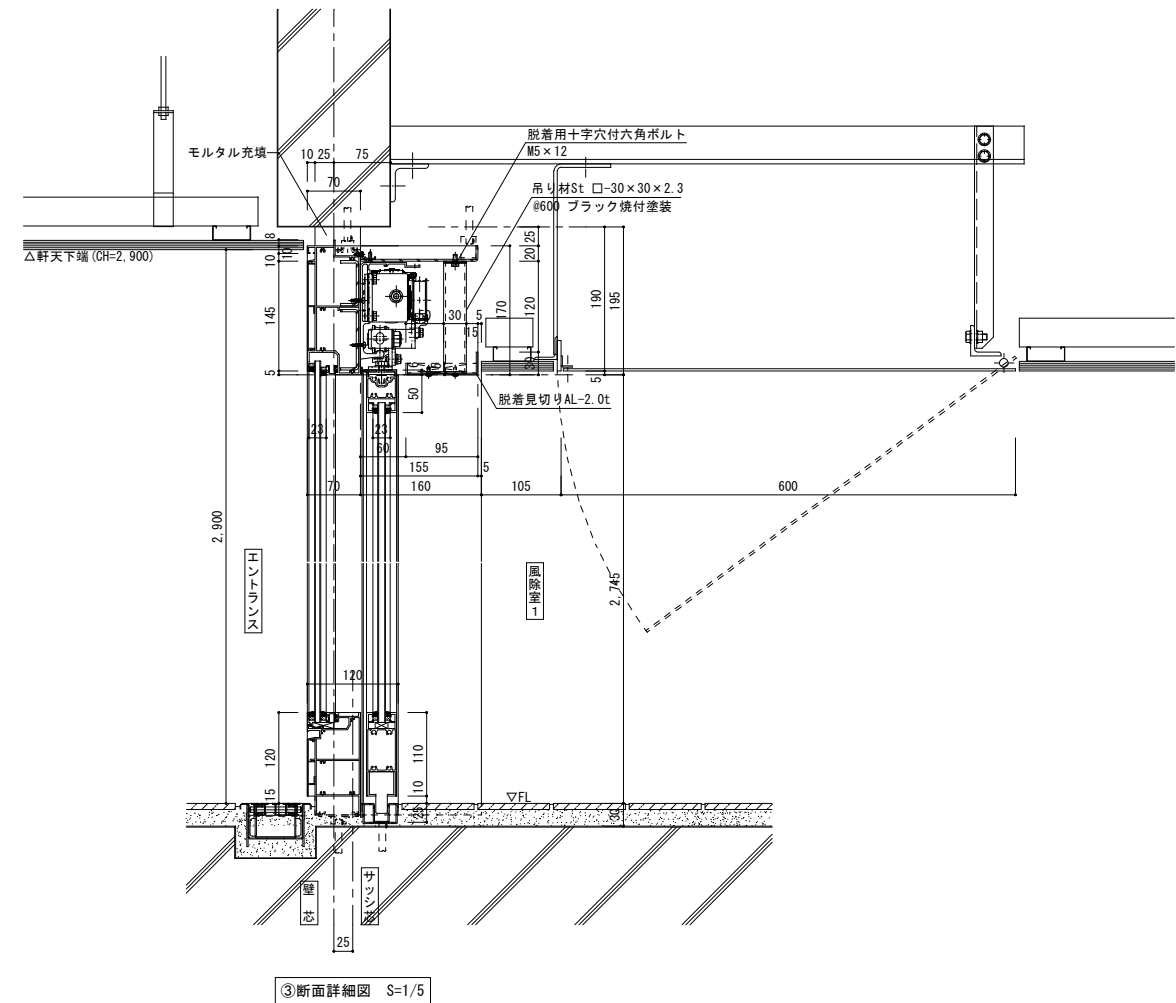
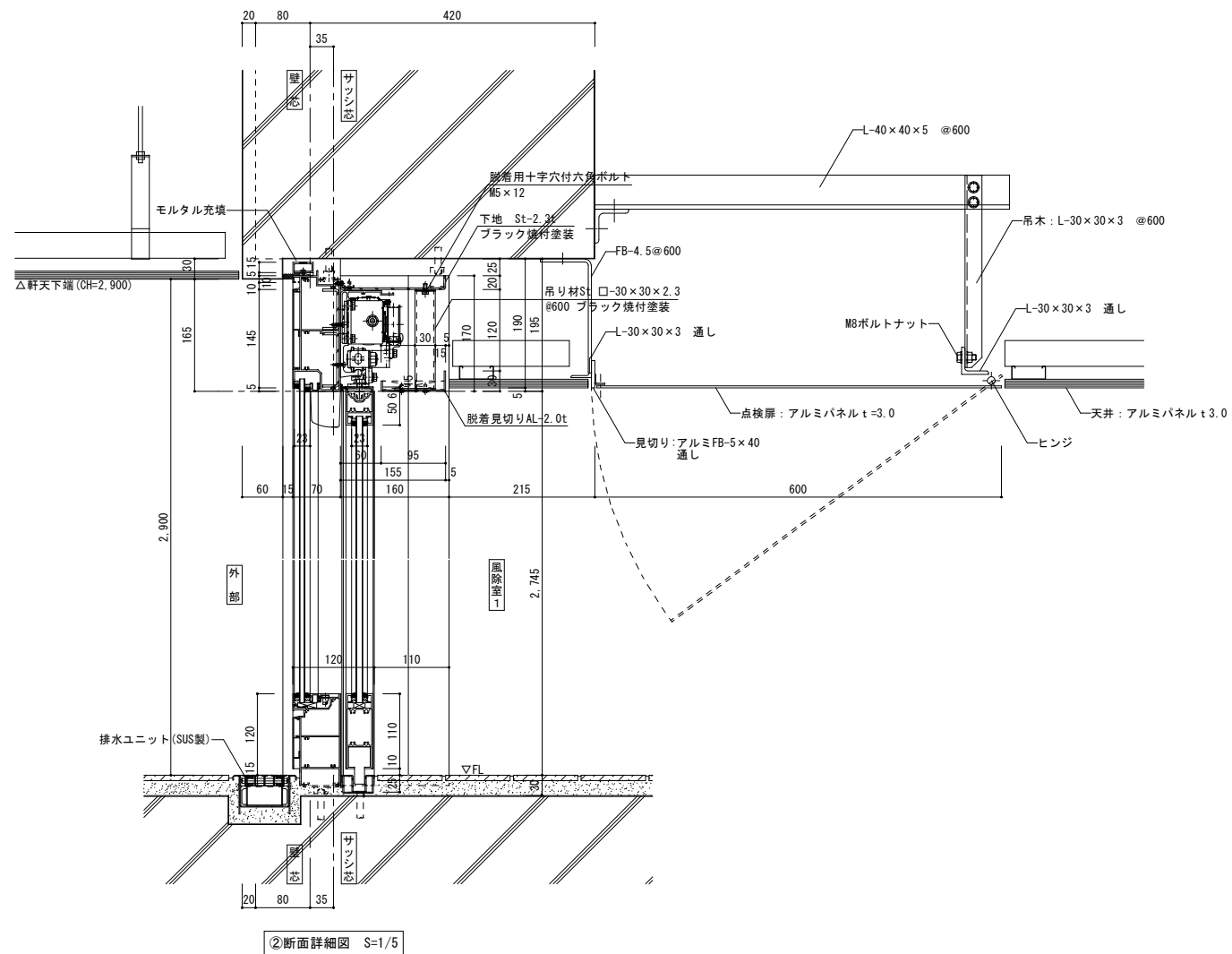
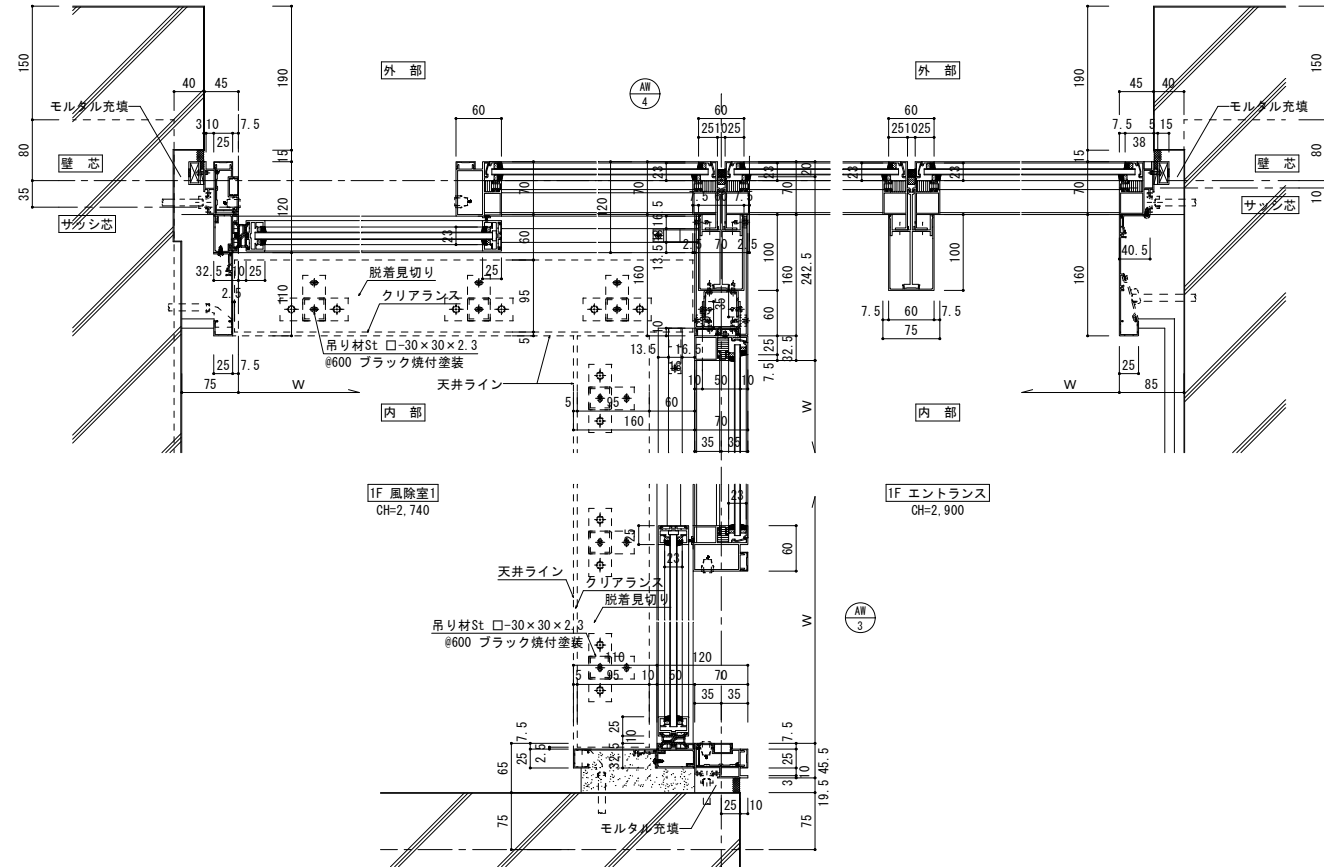
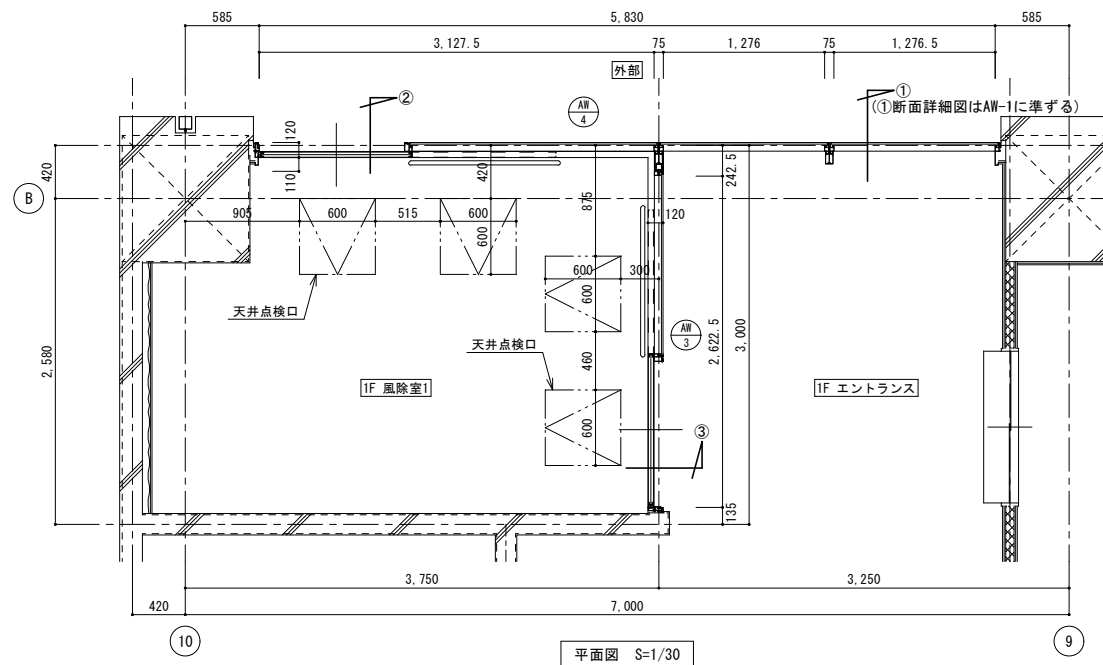


消火器BOX (床置き) (既製品参考図) 詳細図 S=1/10





NOTE



NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

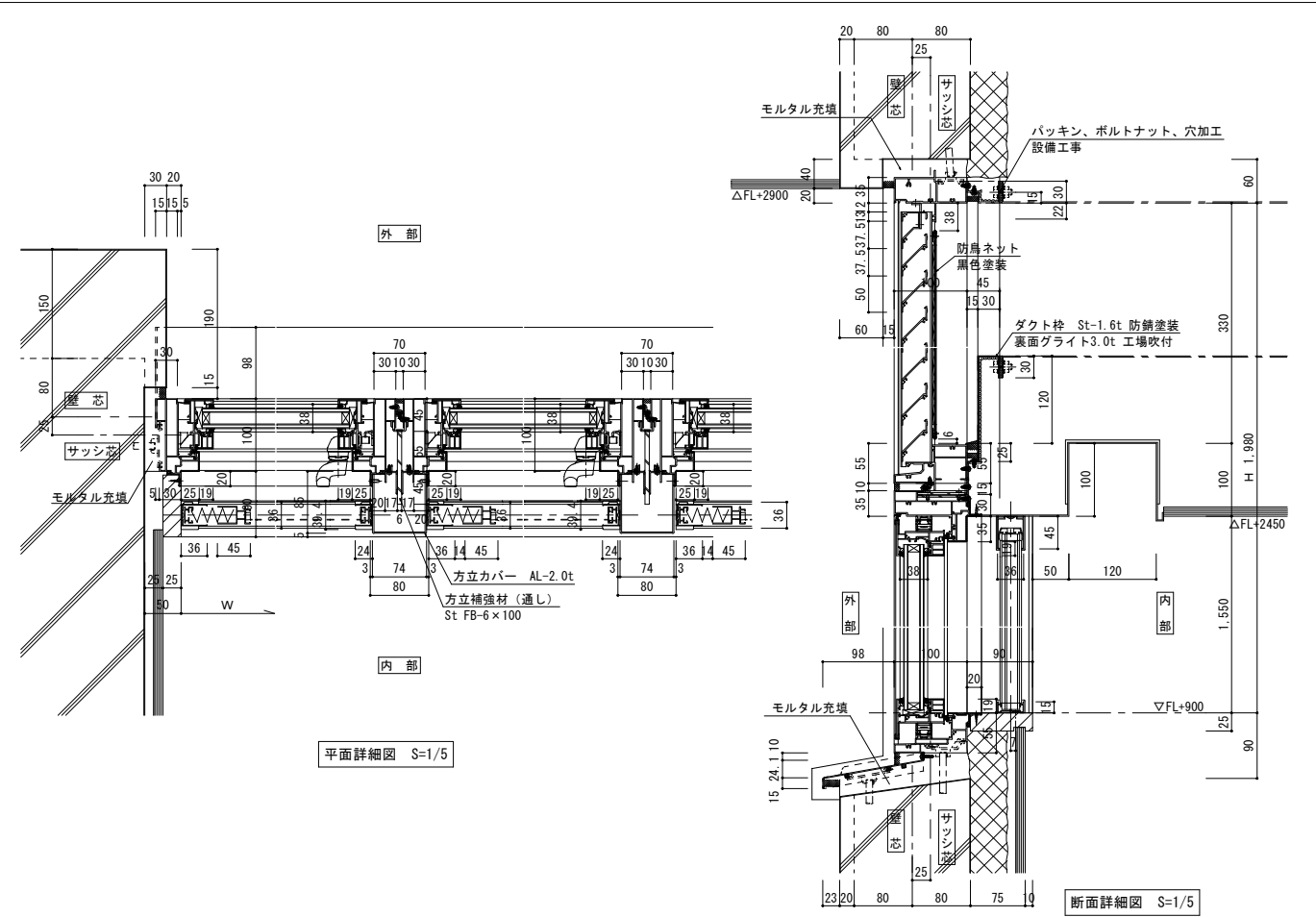
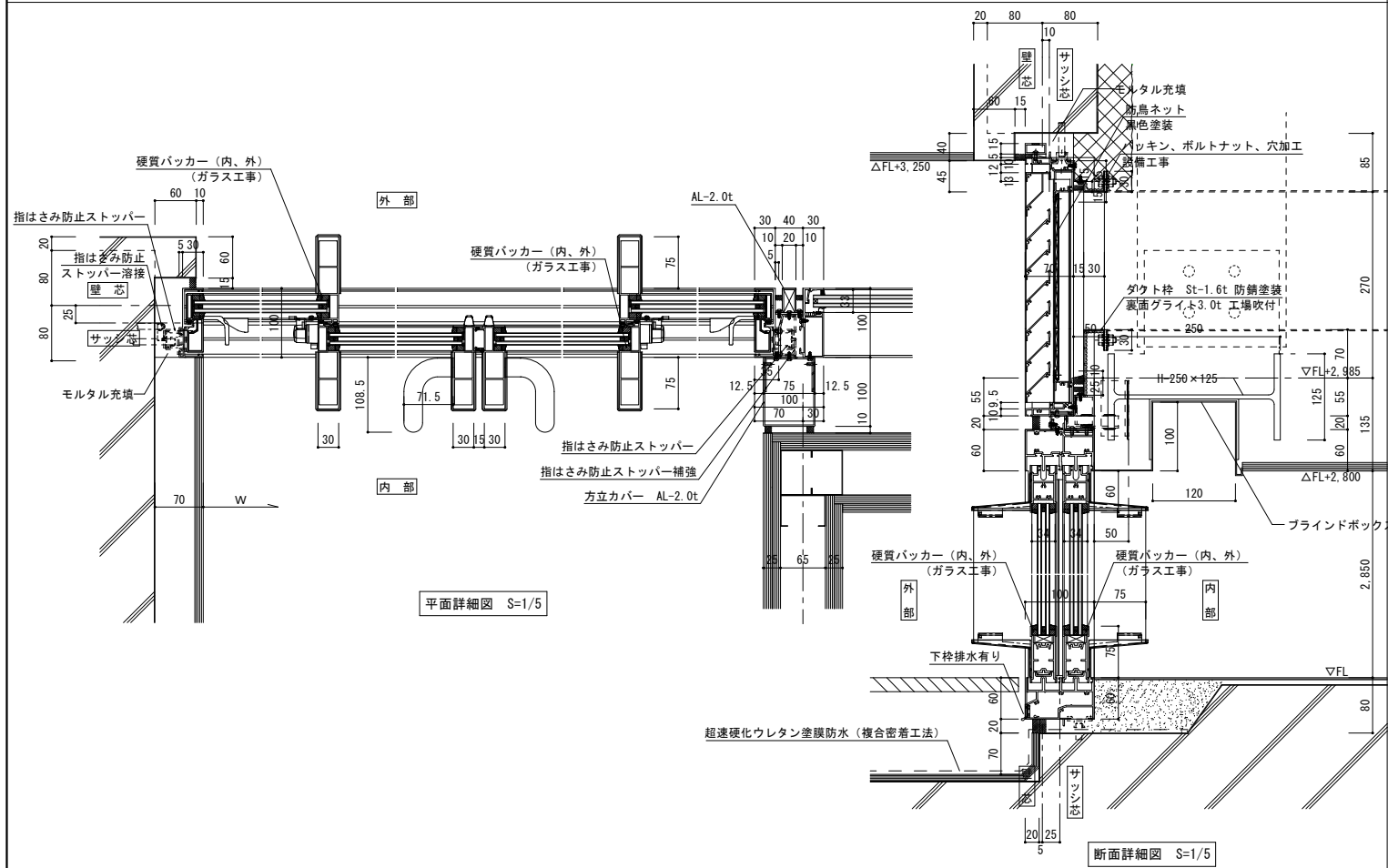
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】サッシ詳細図(2)

SCALE A1: 1/30・2
A3: 1/60・4

DWG No.

A
071



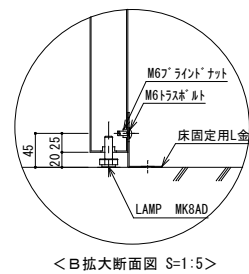
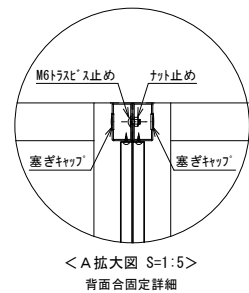
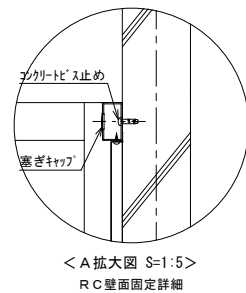
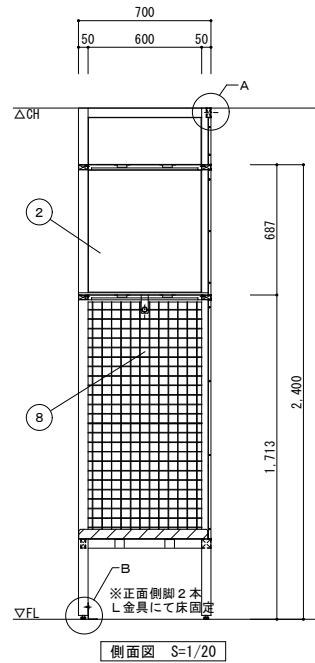
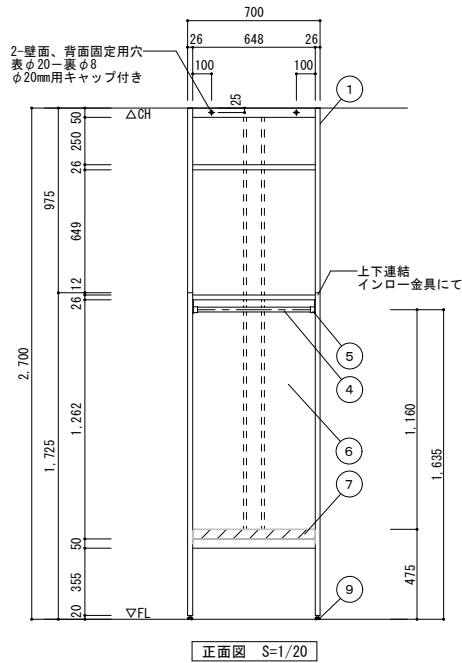
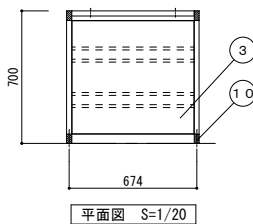
NOTE

出動準備室 防火服ロッカー(1人用・固定式) 上段棚板付き

S=1/5・20

台数：基本型2台
塗装：粉体焼付塗装/KC-908

番号	部品名	数量	材質	サイズ備考
1	側面フレーム	4	SS400・粉体焼付塗装	26×50×t1.6
2	上部側面パネル	4	SPCC・粉体焼付塗装	t0.8
3	棚板	2	SPCC・粉体焼付塗装	t0.8 補強付
4	ハンガーパイプ	1	スチール材巻き	φ25
5	ソケット	2	ZDC-カドメキ	
6	背面パネル	3	SPCC・粉体焼付塗装	t0.8
7	座面	1	ビニールレザーマット(ツツナギ)	レッド or ブルー
8	仕切り用格子(側面)	2	スチール・粉体焼付塗装	□50×φ3.0
9	アジャスター	4	スチール・めっき	ソフ・MK8AD(M10)
10	キャップ	4		ブラック

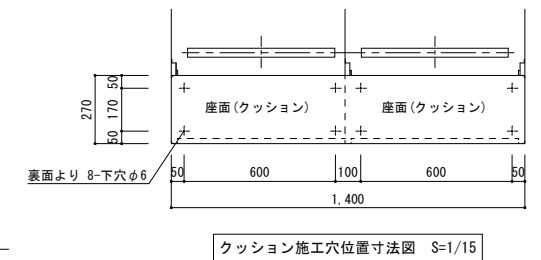
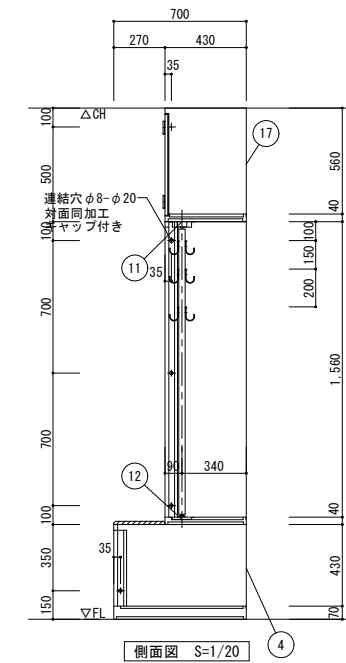
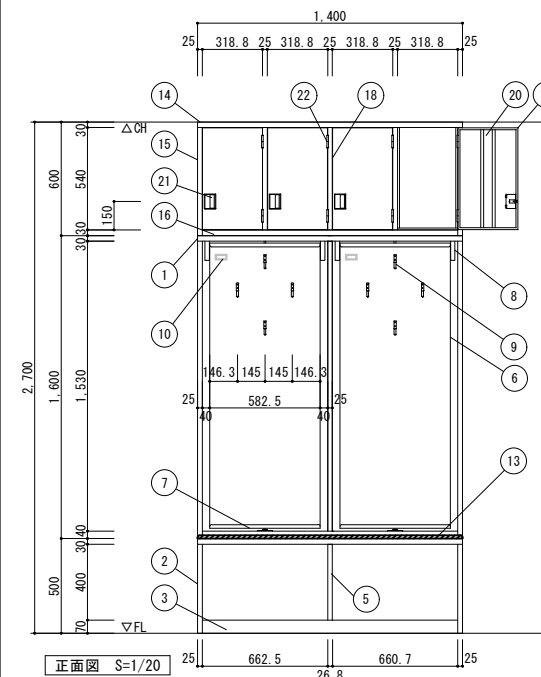
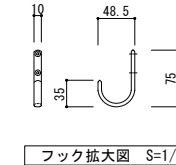
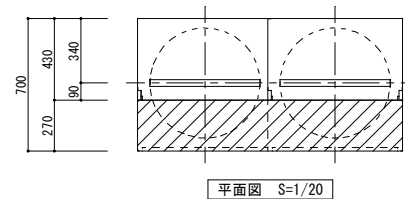


出動準備室 防火服ロッカー(2人用・回転式) 上段棚板付き

S=1/5・20

台数：25台
塗装：粉体焼付塗装/KC-908

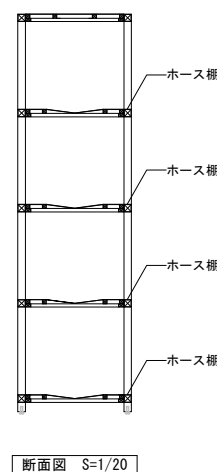
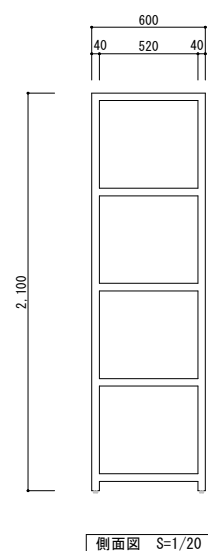
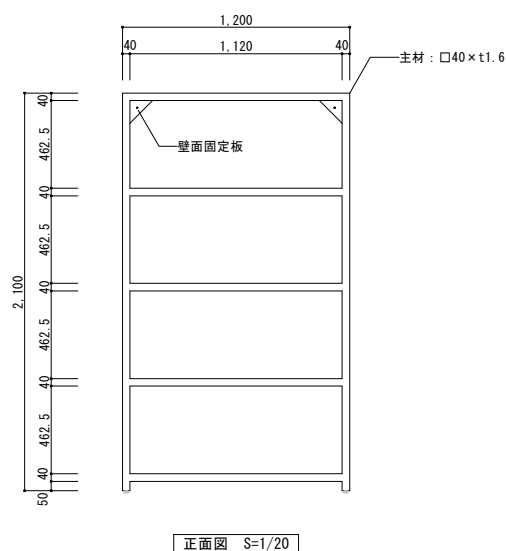
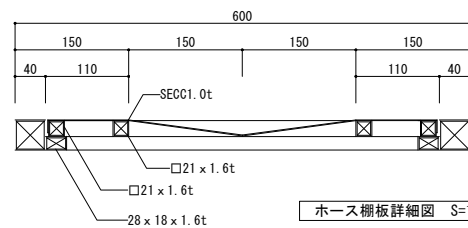
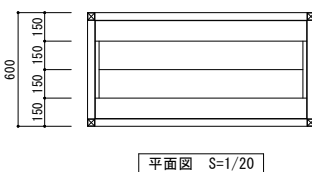
番号	部品名	数量	材質	サイズ備考
1	天板	2	SECC 1.0 t	
2	側板	4	SECC 1.0 t	
3	底板	2	SECC 1.0 t	
4	裏板	2	SECC 0.8 t	
5	縦中仕切板	2	SECC 0.8 t	
6	回転パネル	2	SECC 0.8 t	
7	上下パネル受け	4	SUS 1.5 t	H.L仕上
8	回転ストッパー	4	SUS 2.0 t	
9	フック	16	ステンレス	J2型
10	名札差	4	合成樹脂	φ8×6.0 P2リブ付
11	軸受補強	1	SECC 1.2 t	
12	補強	1	SECC 1.0 t	
13	クッション	1		ビニールレザー貼 木製合板
14	天板	1	SECC 0.8 t	上置きロッカー
15	側板	2	SECC 0.8 t	上置きロッカー
16	底板	1	SECC 0.8 t	上置きロッカー
17	裏板	1	SECC 0.8 t	上置きロッカー
18	縦中仕切板	3	SECC 0.8 t	上置きロッカー
19	扉	4	SECC 0.8 t	
20	扉補強	4	SECC 0.6 t	
21	取手	4	合成樹脂	DSK-909
22	蝶番	8	SPCC 1.6 t	



緊急車両車庫 ホース収納棚

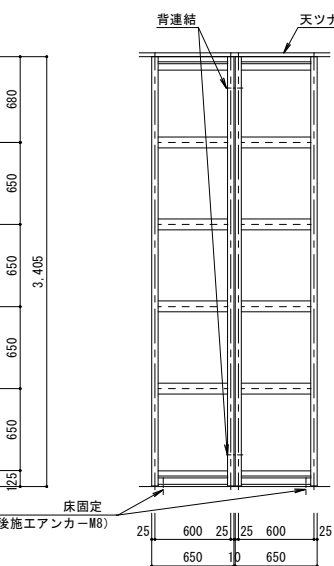
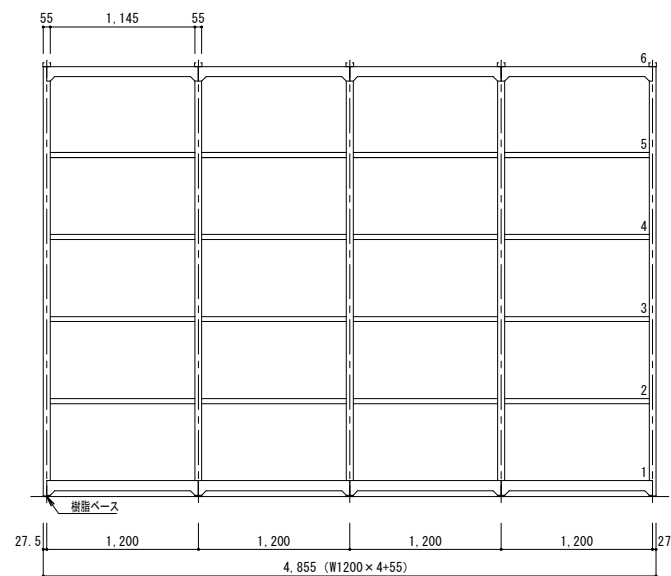
S=1/5・20

台数：3台
塗装：粉体焼付塗装・KC-908



警防資機材庫 中量ラック

S=1/30

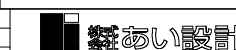


1階 警防資機材庫 中量ラック 数量表

型 式	台 数	延床数
単式 4連 有効5段 (W1200x4連) BLH 474-654SOR	6	24

- 備考
- 固定：床固定・天ツナギ・背連結
 - 棚構造：支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないボルトレスフレーム構造
 - 棚板可動ピッチ：50mm
 - 支柱：形状はC-55×50・複柱式とし、単式棚は2本柱
 - 最大積載質量：1段あたり450kg/段(等分布荷重)
 - 開口最大積載質量：単式1連あたり2000kg/連
 - 塗装色：ホワイト系(F☆☆☆☆相当)
 - 製作：ISO9001及びISO14001認証取得工場
 - 塗布材：棚には、消臭・抗菌・防カビ・抗ウイルスの効果を発揮する液体を塗布
 - 参考メーカー：金剛株式会社

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

DWG No.

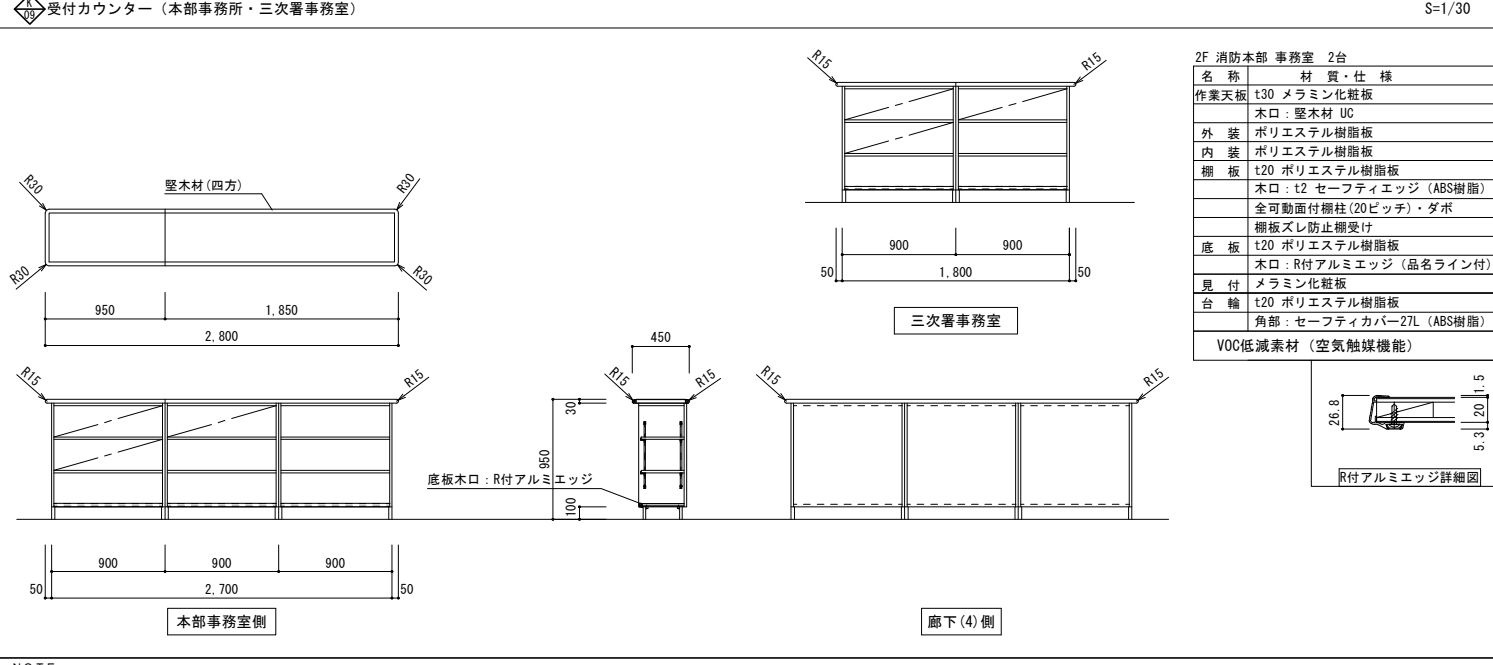
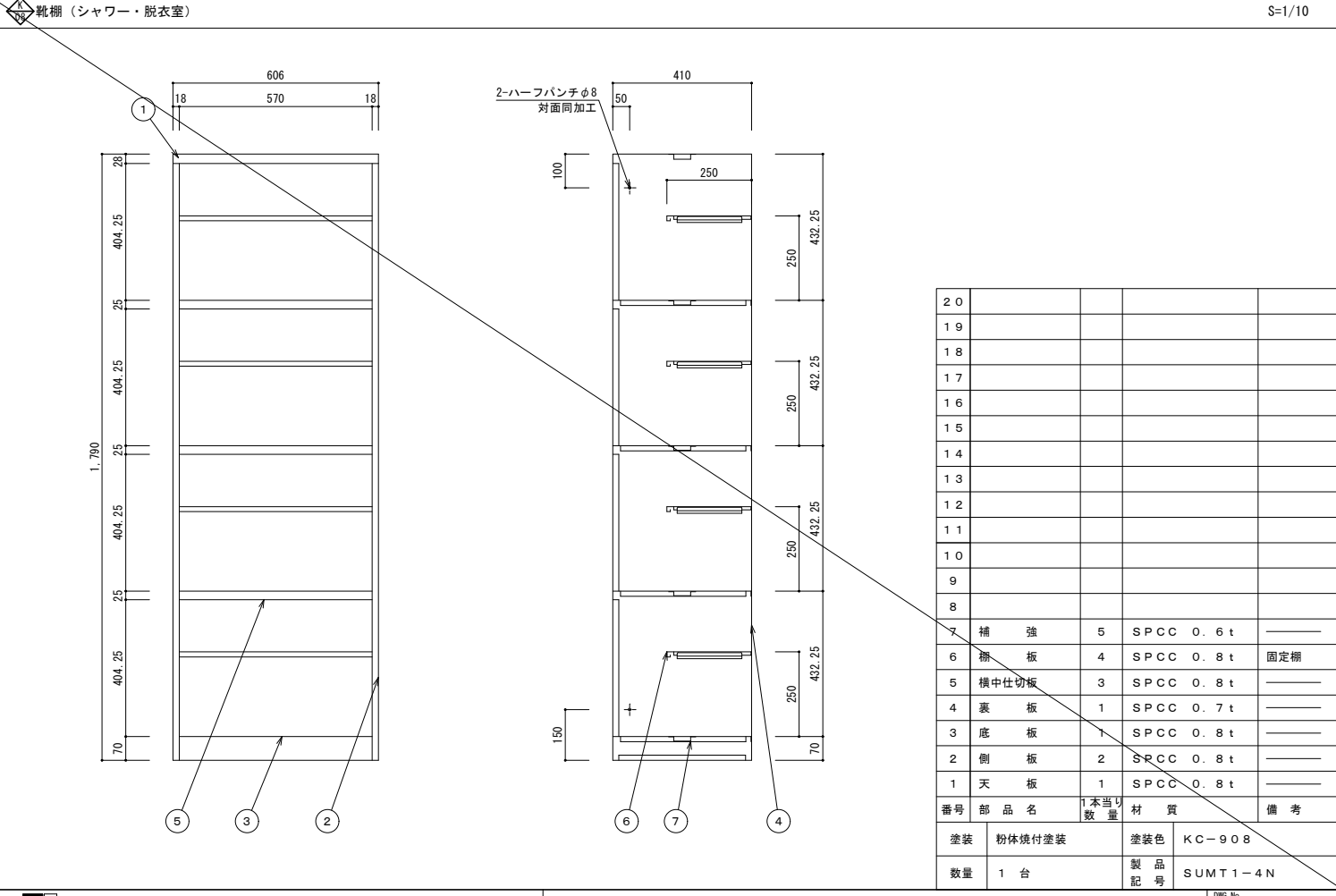
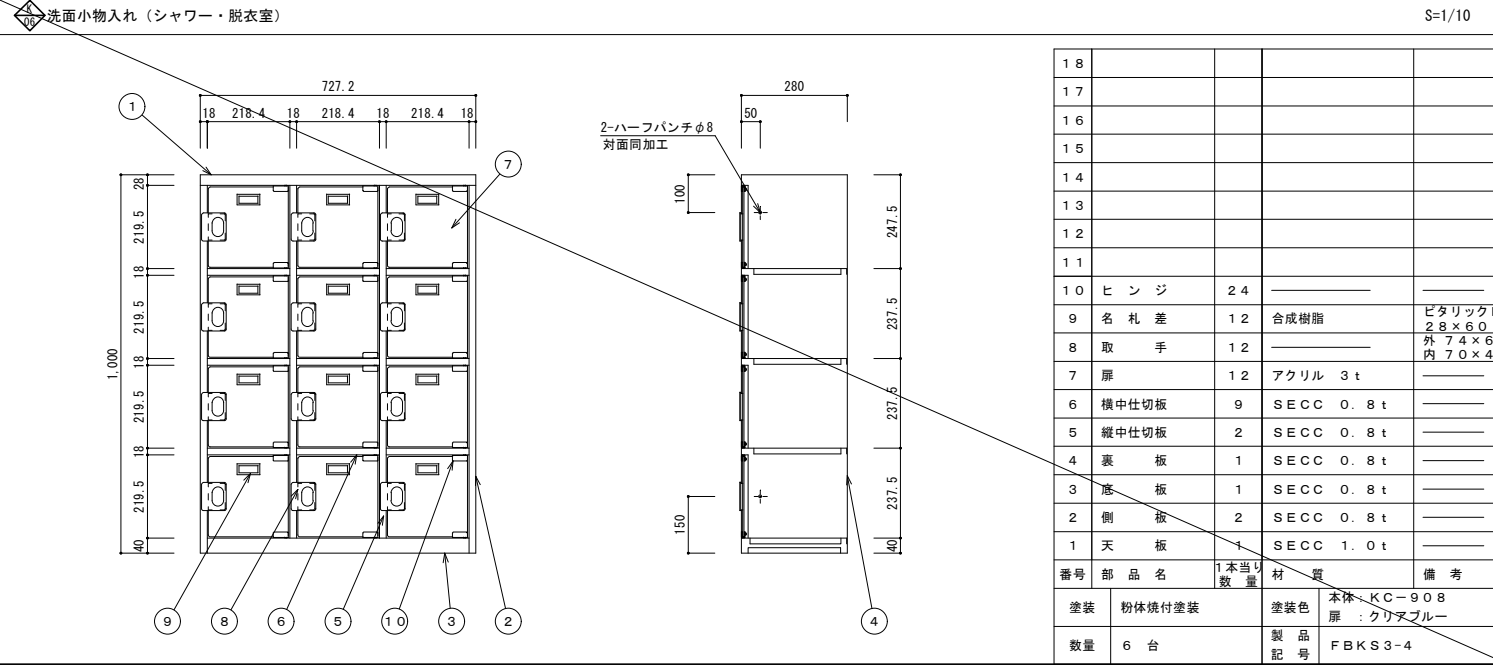
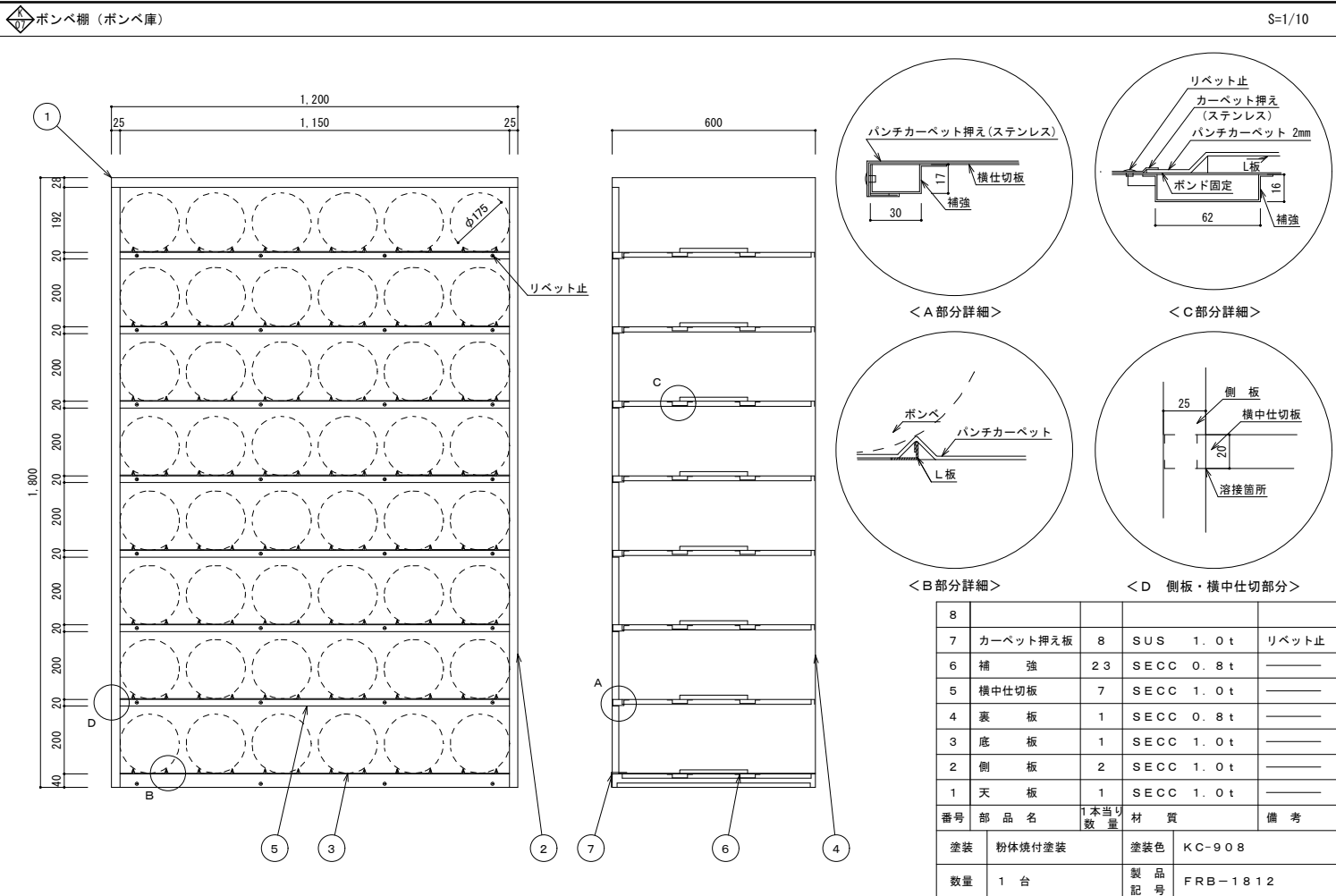
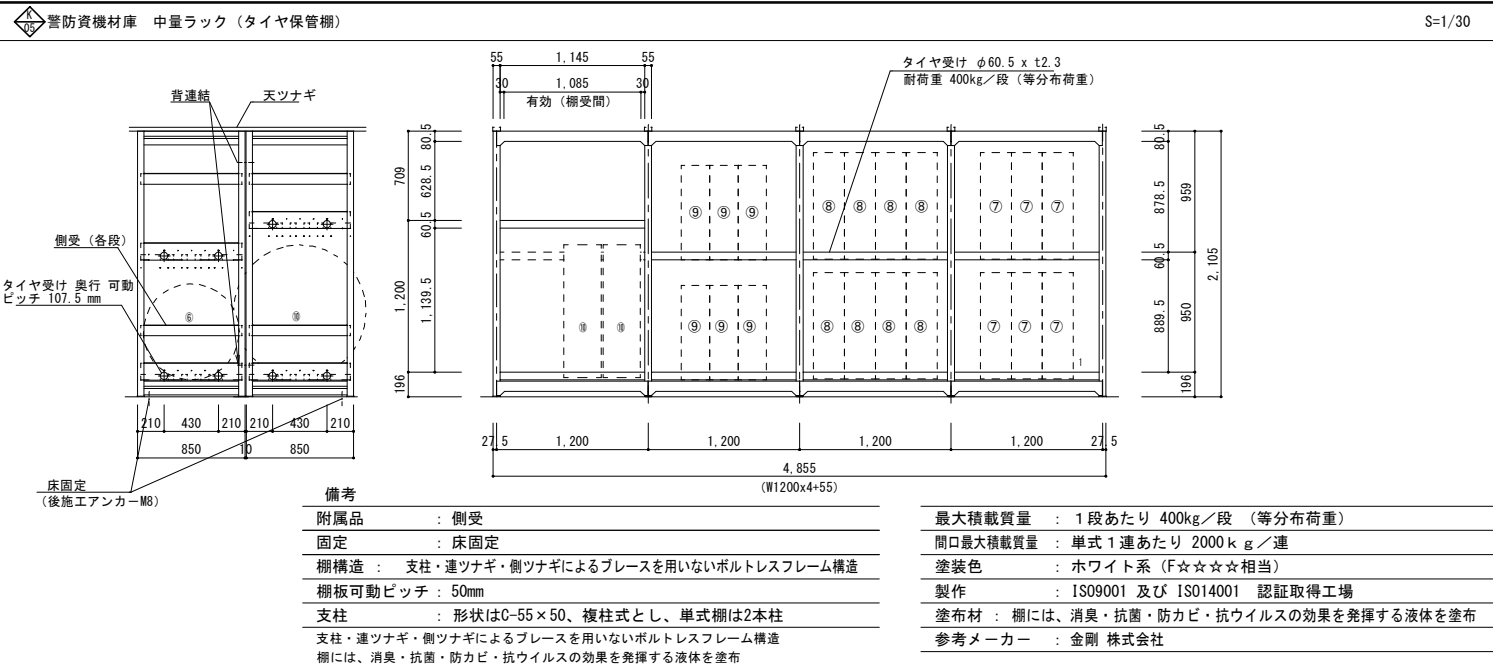
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

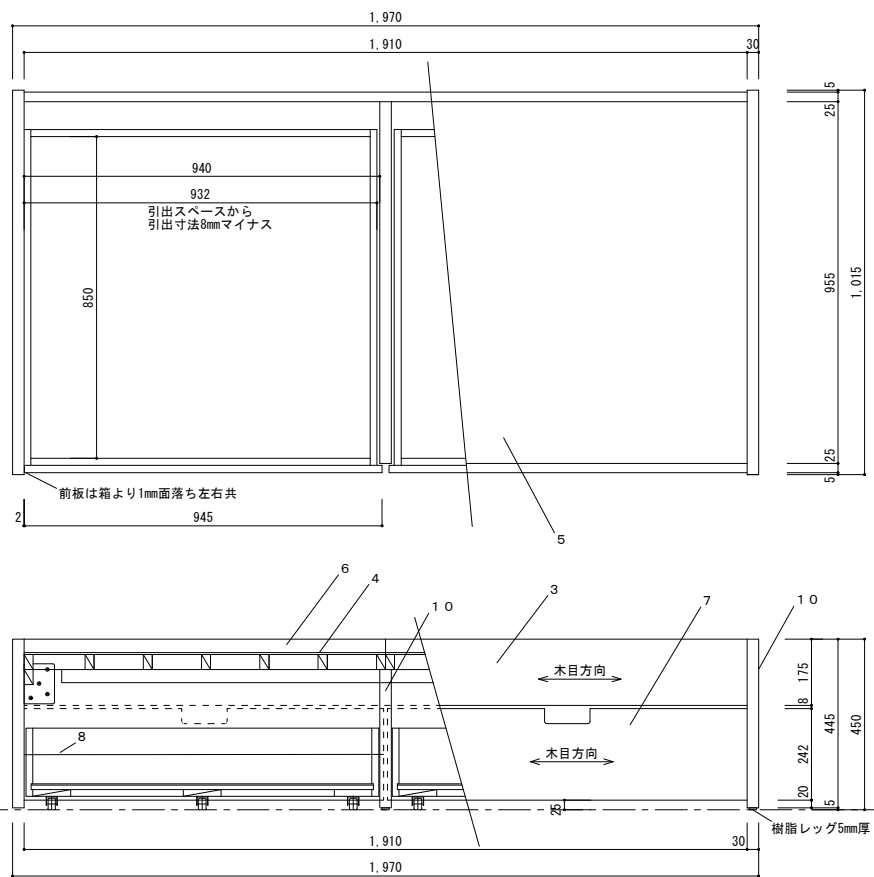
【庁舎棟】家具詳細図(1)

SCALE A1: 図示
A3: 図示×1/2

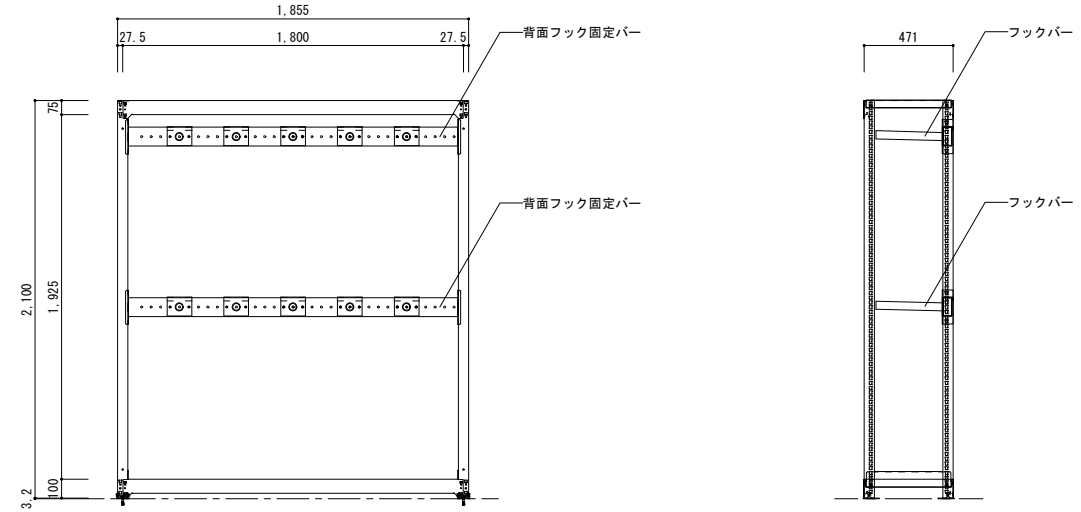
A

073

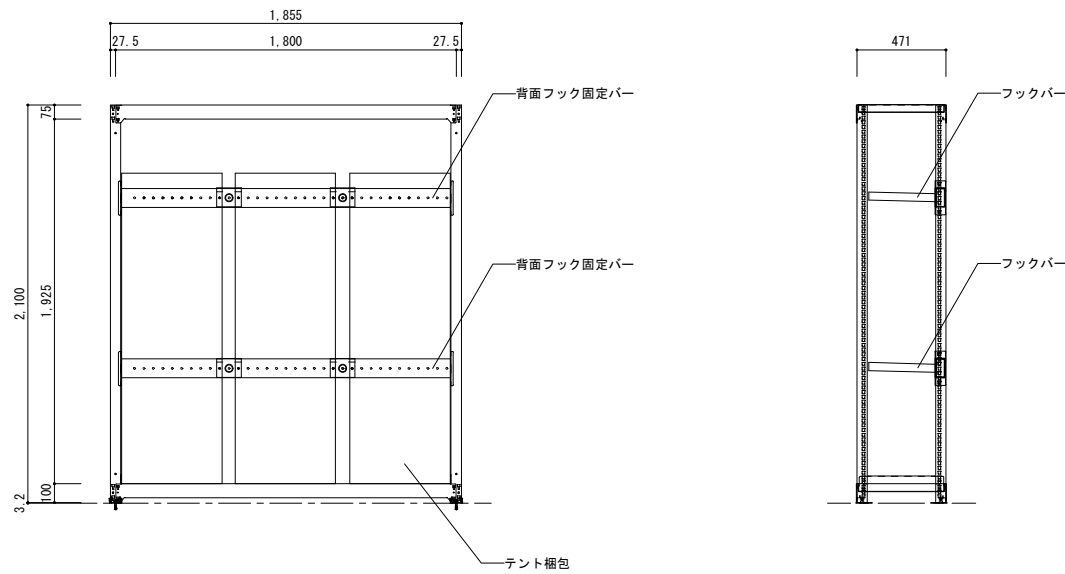




材質・仕様	
1.	ヘッド&フットボード：マレスボードBB02082
2.	ヘッド&フットボード：小口、同色テープ仕上げ
3.	フレーム：マレスボード、小口テープ仕上げ
4.	畳受け板：ハードボード5.5mm
5.	畳：厚み30mm ヘリ付き 2分割
6.	畳芯：スタイロフォーム
7.	引き出し：前板 マレスボードフラッシュ構造
8.	引出箱：リバー棒、底板12mm×24下地白木り合板×18×5個
9.	左右勝手：左右共通
10.	組立：キャップ付ボルトにてジョイント



材質・仕様	
サイズ	H2100×W1800×D471
製品記号	
台数	1台
段荷重	300kg/段
棚段数	有効2段(天地4段)
固定	壁・床M8アンカー固定
塗装色	SG色(サンブレイ色)



材質・仕様	
サイズ	H2100×W1800×D471
製品記号	
台数	1台
段荷重	300kg/段
棚段数	有効2段(天地4段)
固定	壁・床M8アンカー固定
塗装色	SG色(サンブレイ色)

その他、下記程度の既製家具を見込むこと		
<共用部>		
机	W1500×D800×H720 <ツブツブニヤ wood tilt 程度>	3
椅子	W525×D475×H768 <ツブツブニヤ hang like 程度>	12
<三次室>		
机	W2100×D1000×H720 <ツブツブニヤ JUT0 4本足 程度>	3

S-1 館名表示 (風除室) S=1/30・1/5

表示図 S=1/5

断面図 S=1/5

位置図 S=1/30

・表示: ステンレス切文字t5.0 焼付塗装 浮かし止め
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-2 館内案内板 S=1/10

姿図 S=1/10

断面図 S=1/10

・表示: インクジェット出力フィルム貼り(巻込)
 ・基盤: アクリル板t5.0 + 捨て板アクリル板t2.0
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-3 室名表示1 S=1/30・1/5

位置図 S=1/30

姿図 S=1/5

・表示: 塩ビカットティングシート切り文字張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

<表示内容>
 庁舎棟
 ・三次署事務室 ×2
 ・ポレン室
 ・リネン室
 ・体力錬成室
 ・食堂
 ・会議室 ×2
 ・番長室 ×2
 ・三次署倉庫
 ・医療廃棄物保管庫
 ・シャワー・更衣室
 ・乾燥・洗濯室
 ・女性エリア
 ・出勤準備室 ×3
 ・救急消毒室
 ・救急倉庫
 ・倉庫1
 ・倉庫2
 ・少量危険物貯蔵所
 ・資機材庫
 ・乾燥室
 ・ボンベ保管庫・空気充填室
 ・車両関係資機材庫
 ・大会議室1
 ・大会議室2

・倉庫
 ・消防本部事務室
 ・印刷室
 ・相談室
 ・消防長室
 ・サーバー室
 ・指令室
 ・通信指令課事務室
 ・対策室・作戦室
 ・更衣室
 ・本部書庫
 ・女性エリア

主訓練塔
 ・倉庫
 ・燃焼室 ×2
 ・訓練室1
 ・訓練室2
 ・安全ネット収納
 ・屋外通路 ×2
 ・ブリッジ救助訓練スペース

副訓練塔
 ・倉庫
 ・全天候型低所訓練

S-4, S-4a 室名表示2 (ピクトグラム) S=1/30・1/5

位置図 S=1/30

姿図 S=1/5

・表示: S-4=塩ビカットティングシート切り文字張り
 ・表示: S-4a=カラーアクリルプレートt3.0 切文字張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-5 室名表示3 (PS・EPS類) S=1/30・1/5

位置図 S=1/30

姿図 S=1/5

・表示: 塩ビカットティングシート切り文字張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-6 室名表示4 (仮眠室) S=1/30・1/5

位置図 S=1/30

姿図 S=1/5

・表示: 塩ビカットティングシート切り文字張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-7 突出し表示 S=1/30・1/5

位置図 S=1/5

姿図 S=1/5

・表示: カラーアクリルPL t5.0
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

外S-1 駐車場表示 S=1/20

・表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。 2ヶ所

・表示: SUS PL-1.5 箱体塗装仕上げ
 表示: 塩ビシート切り文字張り
 本体骨: SUS □-40×40

・表示: SUS □-40×40
 RPL: PL-6
 BPL: PL-9
 ケミカル
 基礎コンクリート
 D13φ200 タテ・ヨコ

A Bolt: M10

外S-2 屋外館名サイン S=1/20

・表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。 2ヶ所

・表示: 溶融亜鉛めっき鋼板 t1.5
 表示: SUS HL 箱文字

S-8 消防・危険物標識板 S=1/10

①少量危険物(貯蔵取扱所)の標識
 スチール製4-φ3.5穴 (T.O.4鋼板・組立山付け加工品) 白地に黒文字 (参考製式: 規格⇒K4-HT-32M)

②少量危険物の標識※
 スチール製4-φ3.5穴 (T.O.4鋼板・組立山付け加工品) 白地に黒文字 (参考製式: 規格⇒K4-HT-25M)

③火気厳禁の標識板
 スチール製4-φ3.5穴 (T.O.4鋼板・組立山付け加工品) 赤地に白文字 (参考製式: 規格⇒K4-HT-1M)

S-9 衝突防止サイン S=1/5

・表示: カラーアクリルPL t5.0 切り文字 接着張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

S-10 階数表示 S=1/5

・表示: カラーアクリルPL t5.0 切り文字 接着張り
 ・書体: BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

<表示内容>
 庁舎棟
 ・1
 ・2

主訓練塔
 ・1
 ・2
 ・3
 ・4

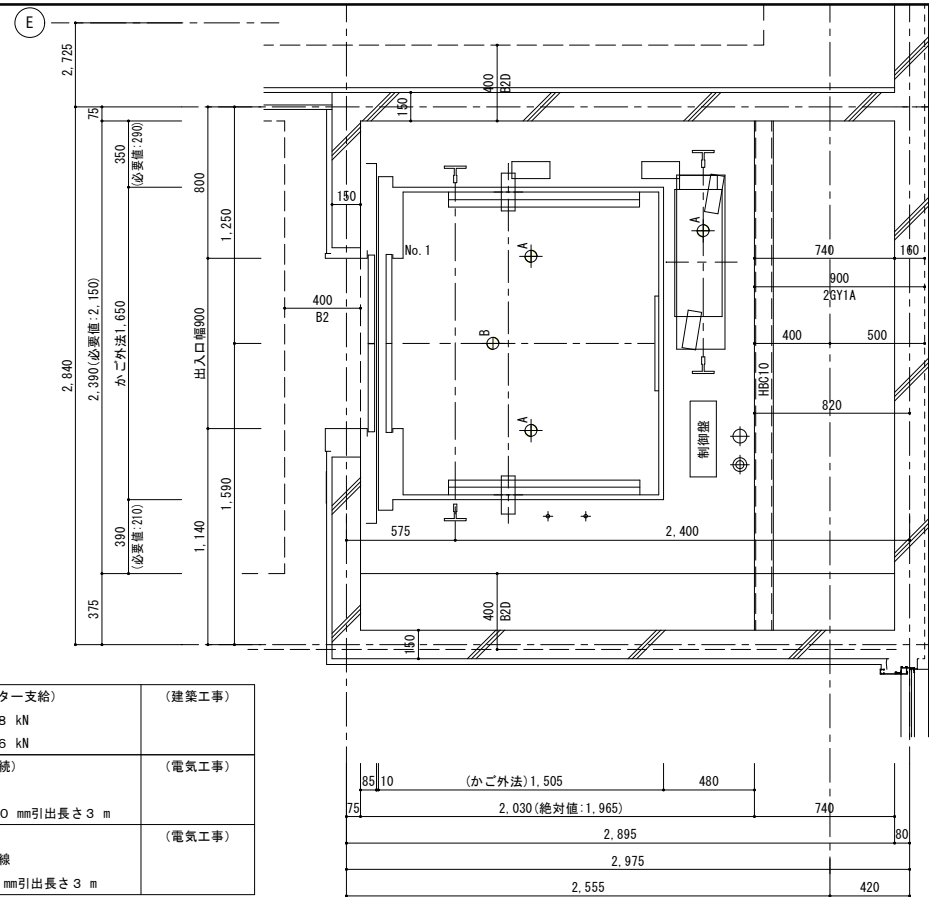
副訓練塔
 ・1
 ・2
 ・3
 ・4

注 意 事 項	
1	躯体と昇降機承諾図に相違がある場合はエレベーター着工までに躯体を是正すること
2	(1)昇降路の壁又は囲いは隙間無きものとする (2)昇降路の壁又は囲いは難燃材料（不燃材料・準不燃材料含む）とする (3)昇降路の壁又は囲いは50cm辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること (4)コンクリート厚さは150mm以上とすること (5)コンクリート基準圧縮強度は21N/mm ² 以上とすること (6)昇降路壁は後施工アンカーが可能な構造とすること
3	昇降路内にはエレベーターに関係のない配管・配線・ダクト・その他の機器を設置しないこと
4	昇降路壁には配管・消火栓等を埋め込まないこと
5	昇降路内には建築金物（ALCクリップ等）が突出しないこと
6	昇降路内に断熱材（ウレタン・スタイロフォーム等）を施工する場合は溶接火花による火災のおそれがあるため難燃材料とすること
7	断熱材はガイドレール支持用ファスナー及び乗場出入口廻りの取付材を避けて施工すること
8	断熱材の施工時期は協議すること
9	昇降路内の温度は5℃以上40℃以下、湿度は月平均90%以下、日平均95%以下とし、氷結・結露しないこと
10	昇降路内及び乗場には風雨・塵埃・塩分、有害ガス等が入らないこと
11	昇降路内に換気設備を設置する場合は外部より点検可能な配置とし、雨水対策を実施すること
12	昇降路内の騒音・振動が居室に伝播しない配置及び躯体構造（防音・防振工事等）とすること
13	エレベーターホールと風除室が近い場合はドラフトによりエレベーターの戸が開閉できなくなるおそれがあるため建物側で気密性を上げること
14	保守・点検・緊急対応のため、外部より最上階のエレベーターホールへアクセスできる通路を設けること また、借大宅や占有部、鍵が必要な場所を経由する必要がないこと
15	電源電圧の変動は動力用±10%以内、照明用±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率を5%以内とすること
16	高調波障害回避のため、以下の対応を推奨します (1)弱電機器の電源線・通信線はエレベーター動力線から1m以上分離すること (2)エレベーター動力用電源トランスは弱電機器のトランスと独立して設けること (3)弱電機器とのアース線共用は避けること (4)エレベーター動力線は弱電機器近くの床下や天井に設置しないこと (5)漏電遮断器・漏電継電器を設置する場合、不要動作防止のためインバータ対応のものを使用すること
17	搬入に支障のない経路を確保すること
18	据付工事用現場詰所及びエレベーター材料・据付工事用機材の保管場所は建築工事により
19	仮設揚重機・重機（ラフタークレーン、タワークレーン等）・搬入運搬用台車無償提供とする
20	据付工事用電源及び試運転調整時の動力電源無償提供とする（容量は別途打ち合わせ）
21	必要に応じてモルタル無償提供とする
22	エレベーターを工事用として使用する場合はこの使用に伴う検査費用・復旧（オーバーホール消耗部品の交換等）費用・定期保守費用・コールバック対応費用等が生じる
23	エレベーターを工事用として使用する場合、電力会社から供給される電源を使用します 工事用発電機による工事用使用は電源電圧が不安定なため、内部基板への悪影響を引き起こす可能性が高いことから使用しないこと
24	かご内へ一度に搬入可能な積載は4輪台車で250kg（台車含む）以下とすること

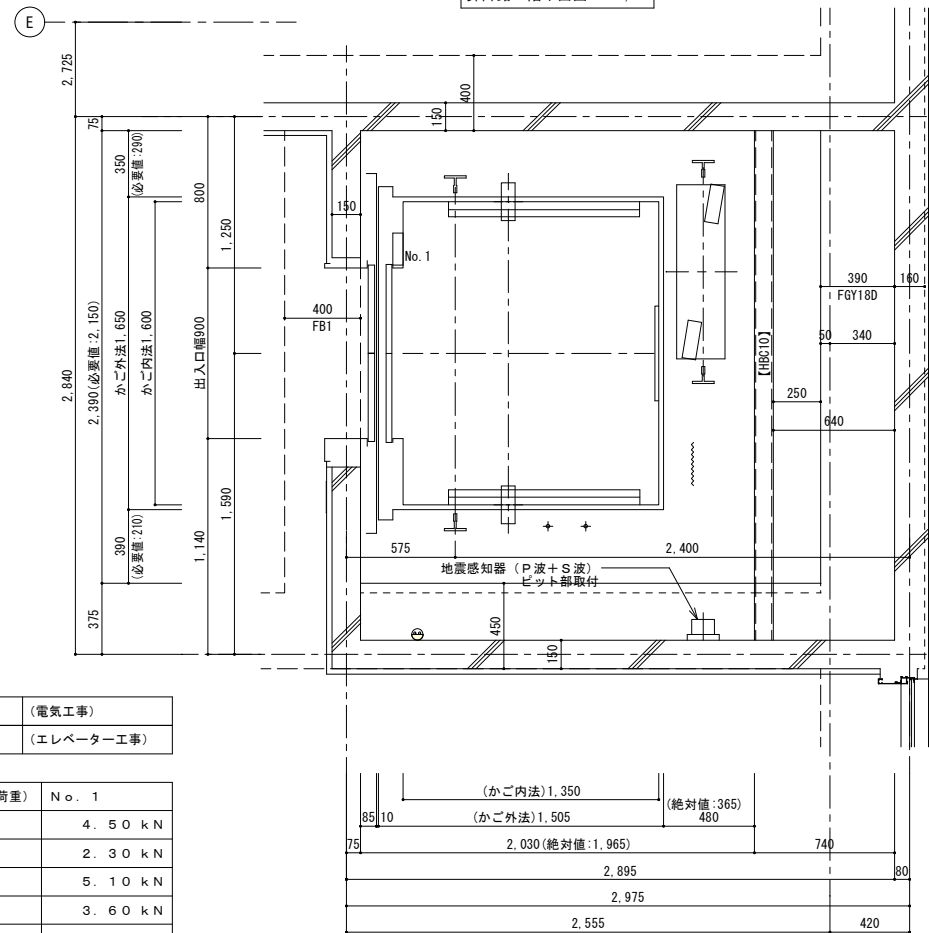
工 事 区 分 表								
分類	No.	工 事 項 目	昇降路構造			建築		
			RC	建築	電気	設備	昇降機	
昇 降 路	1	昇降路の築造工事及び躯体・オーバーヘッド・ビット寸法が昇降機承諾図と異なる場合の是正工事 オーバーヘッド：昇降機承諾図寸法に対し 20mm 以上低い場合 ビット：昇降機承諾図寸法に対し低い場合又は 30mm 以上深い場合 (防水面から確保のこと)	○	○				
	2	天井フック又はトロリービーム設置工事（荷重に対し安全率 5 を確保のこと） （オーバーヘッド高さが 4000mm を超える場合、トロリービーム設置は必須のこと）	○	○				
	3	中間ビーム・セパレータビーム設置・インサート埋め込み工事	○	○				
	4	ガイドレール支持用ファスナー及び立柱設置・インサート埋め込み工事	○	○				
	5	溶接レスの場合のガイドレール支持用ファスナー及び 立柱・三方枠取付用アンクルへの穴加工	○	○				
	6	フェッシャプレート取付材設置工事（フェッシャプレート本体は昇降機工事）		○				
	7	昇降路内鉄骨材の耐火処理工事		○				
	8	ビット内防水工事	○	○				
	9	ビット下を使用する場合の二重スラブ、釣合おもり側の直下部厚壁等の建築躯体処置工事	○	○				
	10	併設されたエレベーターのビットに段差がある場合の間仕切り工事	○	○				
	11	急行ゾーンがある場合の昇降路救出口設置工事	○	○				
	12	昇降路内建築工事仮設床用（水平養生）の金網、デッキプレート等の撤去工事	○	○				
	13	昇降機承諾図に記載のない突出物や不要物の撤去切断等工事	○	○				
	14	昇降路内温度が 40℃を超える場合の換気設備工事又は空調設備工事	○			○		
乗 場	1	乗場出入口の敷居取付用欠き込み・敷居受け持ち出し工事及び敷居取付後のモルタル充填工事	○	○				
	2	乗場出入口壁穴あけ・乗場出入口用品取付材設置工事及びインサート埋め込み工事 （三方枠・バックアンクル・ドア・敷居・押しボタン・インジケータ・モニター等）	○	○				
	3	乗場出入口用品取付後の壁並びに床・天井等の仕上工事	○	○				
	4	三方枠・インジケータ等と壁間のモルタル又はロックウール充填工事	○	○				
	5	三方枠・インジケータ等と壁間の差ぎ板による隙間差ぎ工事	○				○	
	6	開放廊下及び屋上等直接外気と接する乗場における雨水対策工事 （排水溝・水勾配・庇等）	○	○				
電 気	1	昇降路頂部の煙感知器設備の設置工事（外部より点検可能な点検口の設置を含む）	○		○			
	2	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事 （昇降機工事による押しボタン・警報装置等の配線工事は除く）	○		○			
	3	昇降路内受電端子までの動力用電源・照明用電源・接地線の引込・立上工事及び一次側端子への接続工事	○		○			
	4	昇降路内受電端子までのインターホン・その他機器の配管配線工事並びに引込・立上工事 （放送・遠隔監視・防犯カメラ・故障信号・非常呼信号・火災信号・セキュリティ連動信号・監視盤等）	○		○			
	5	連棟のりばドア適用時の建屋火災信号の供給	○		○			
	6	ビット内点検用コンセントの設置工事（単独回路）	○		○			
そ の 他	1	エレベーター工事着工前までの各階出入口開口部の養生作業	○	○				
	2	エレベーター工事着工後の昇降路内への浸水防止工事、出入口先行着工時の止水工事	○	○				
	3	居室側防音及び防振工事	○	○				
	4	搬入用仮設開口及び搬入経路の段差解消・搬入後の復旧工事	○	○				
	5	エレベーターを工事用として使用する場合の各種養生手配及び設置工事	○	○				
	6	その他建築・電気・設備に関する工事	○	○	○	○		

電 源 設 備			
(1台1回線)			
(低圧)			
号機名	No. 1		
電源設備容量	動力	210V	4kVA
	照明	100V	1.5kVA
最大電流	23.4A		
動力線サイズ (mm ²)	5.5	8	14
最大引込み距離 (m)	73	112	196
建屋側MCCB	40A		
接地線最小サイズ	3.5mm ²		
インターホン用配線	φ0.9×10本		
電話用配管・配線	φ19配管・電話線 1P		
ビットコンセント容量	1kVA/台		

エレベーター仕様				
概 略 仕 様	号機名(台数)	No. 1 (1台)		
	用途(形式)	乗用(SP13-CO45) 車いす仕様		
	積載量(定員)	900kg (13人)		
	速度	45m/min		
	制御方式	交流インバータ制御方式(回生無)		
	操作方式	乗合全自動方式		
	停止ヶ所・出入口方向	(1,2FL) 2ヶ所 1方向		
	かご内法(WxDxH)	1600mm × 1350mm × 2250mm		
	出入口寸法(WxH)	900mm × 2100mm		
	ドア方式	2枚戸中央開き(電動式)		
	電動機出力	AC-4.5kW(ギヤレス)		
	電源	動力	三相3線 210V 60Hz	
		照明	単相 100V 60Hz	
		管制運転	地震時	有(P波+S波センサー(3段検知)リスタート機能付)
火災時			有 全自動形	
自家発時	無			
	浸水時/冠水時	有 全自動形(ビット冠水時(最寄階))		
停電時自動着床装置	有			
耐震クラス	A14			
かご内連絡装置	24V同時通話インターホン			
基本仕様及び標準装備仕様	ローラーガイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動停止機能 2D多光軸(マルチビーム)ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 先行階取消し機能 気配リアナウンス機能(非常時4ヶ国語対応) イオン発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい開すきまレス 広角ミラー付操作盤			
乗 場 仕 様	三方枠	全階	大枠・直線 鋼板製単色塗装仕上	
	ドア	全階	鋼板製単色塗装仕上	
	敷居	全階	硬質アルミ製	
	乗場	ボタン	全階	抗菌凸字ボタン(S1AA認証)
インジケータ	インジケータ	全階	デジタル階床表示式	
	ボタン	フェースプレート	全階	縦枠組込
	天井照明	デラックスLED天井		
換気装置	ファン			
リターンパネル	ステンレス製ヘアライン仕上			
出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上			
ドア	化粧鋼板			
幕板	化粧鋼板			
側板	化粧鋼板			
幅木	化粧鋼板			
床	ビニタイル (t2)			
敷居	硬質アルミ製			
操 作 盤	ボタン	抗菌凸文字ボタン(S1AA認証)		
	インジケータ	液晶(カラーユニバーサルデザイン認証)		
	フェースプレート	標準(広角ミラー付) ステンレス製ヘアライン仕上		
特記事項				
戸開延長ボタン	車いす仕様			
非常呼びボタン応答灯	専用乗場ボタン			
非常呼びボタンカバー(樹脂製)	かご内専用(主・副)操作盤			
機械式ドアセフティ(両側)	かご側面手摺			
お知らせアビーム	(ステンレス製ユニバーサル手摺(φ38)、2方向)			
防犯カメラ(別途工事)(電源・配線対応)	かご内鏡(ステンレス製)			
BGMスピーカー				
磁石式保護マット(消臭・菌・ウイルス抑制タイプ)	視覚障がい者対策			
床マット	点字銘板(車いす用品を含む)			
国土交通省仕様	音声案内装置			
かご上フザー(タイマー付)	乗場点字銘板			
フェッシャプレート	(電気工事)			
外部インターホン--1階事務室に取付	・火報信号 無電圧a接点:φ1.2×3本			
パーキング機能(SW2)	・防犯カメラ用信号: S-5C-FB×1本			
高調波対策	・BGM放送用信号:φ1.2×3本			
4.0mレール	・故障接点信号:φ1.2×3本			
	(0194424) V.22.00 (FC)			
積込み荷重制限	荷重条件	250kg (4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む)		
		重量物の積込みは、一回り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。		



昇降路2階平面図 S=1/20



昇降路1階平面図 S=1/20

ビット点検用コンセント	(電気工事)
T. C保護金網	(エレベーター工事)

レール反力リスト (地震時作用荷重)		No. 1	
かご側	Px	4.50 kN	
一般階	Py	2.30 kN	
かご側	Px	5.10 kN	
最上階	Py	3.60 kN	
おもり側	Px	7.10 kN	
一般階	Py	3.60 kN	
おもり側	Px	10.60 kN	
最上階	Py	7.10 kN	

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

煙感知器詳細

施設設置付点検扉
1.5mm以上の鋼板製 (電気工事)

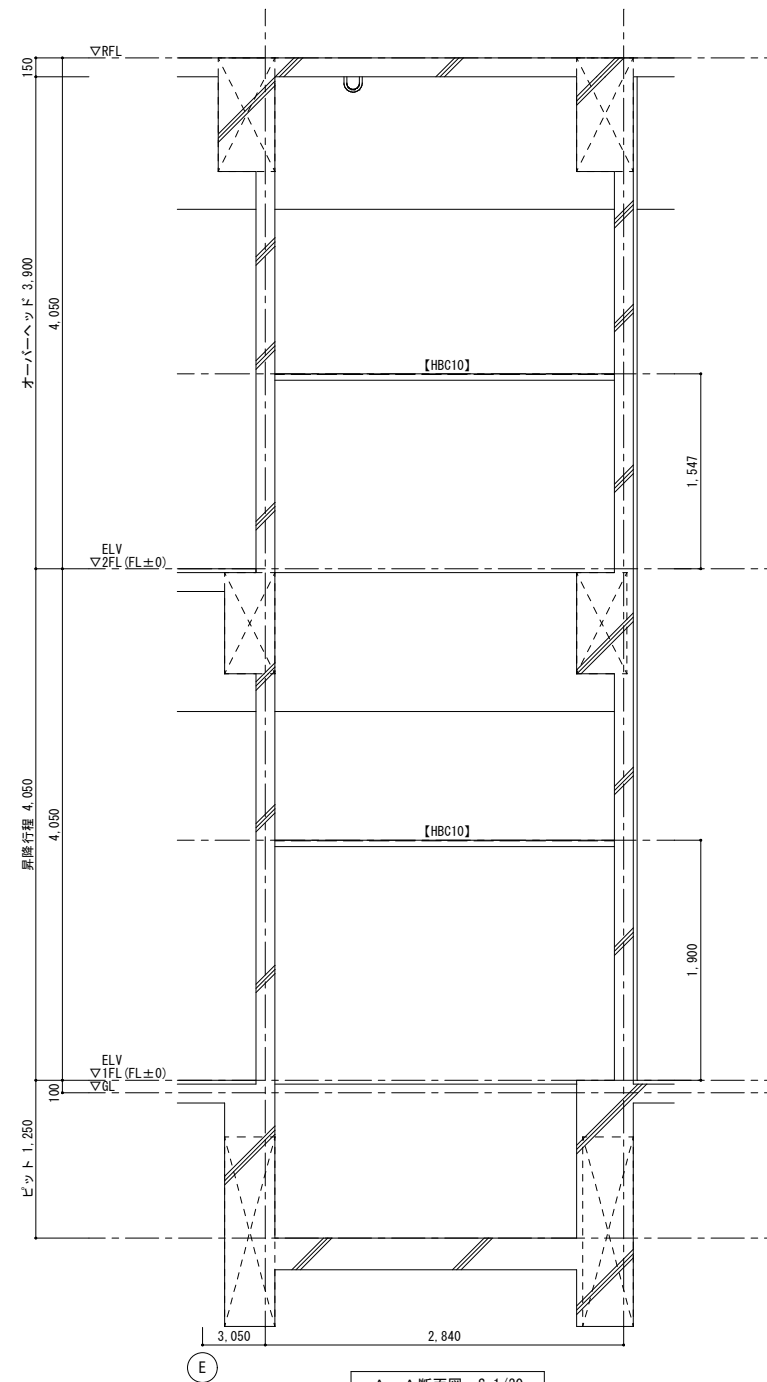
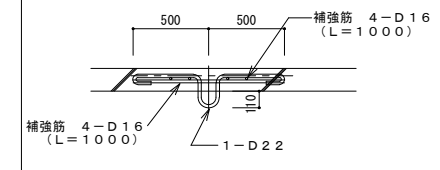
昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

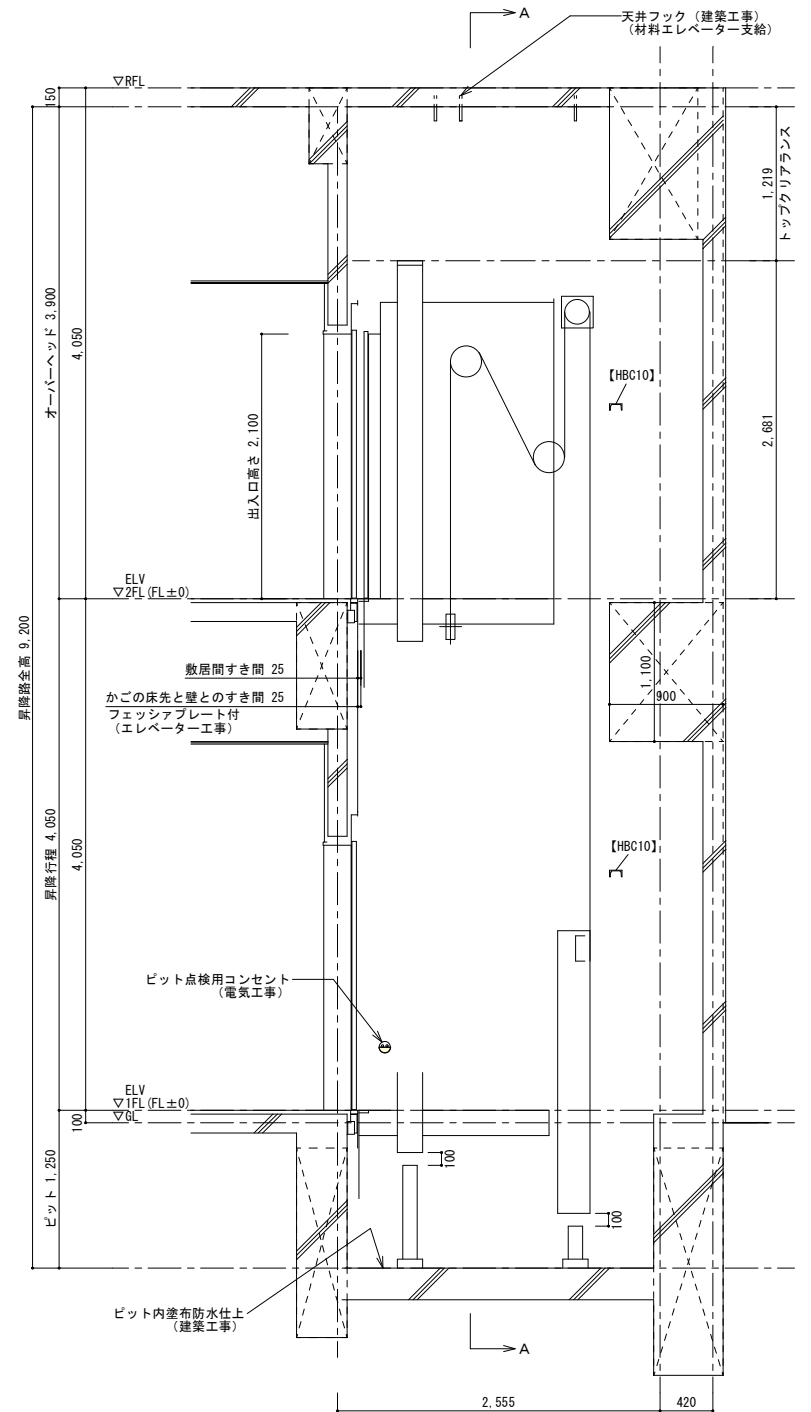
- ・ホーチキ (KUS-1C (W))
- ・能美防災 (FXS J001A-HU)
- ・ニッタン (NID-T-G)
- ・パナソニック (BV95351+BV95381H)

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

天井フック配筋要領参考図
(天井フック材料エレベーター支給)



A-A断面図 S=1/30



昇降路縦断面図 S=1/30

※点検用タラップはビットに保管

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
HBC10	中間ビーム	[-100x50x5x7.5]

No. 1	
ビット反力	81.60 kN
ビット衝撃荷重	かご側 69.40 kN C/W側 53.50 kN

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事

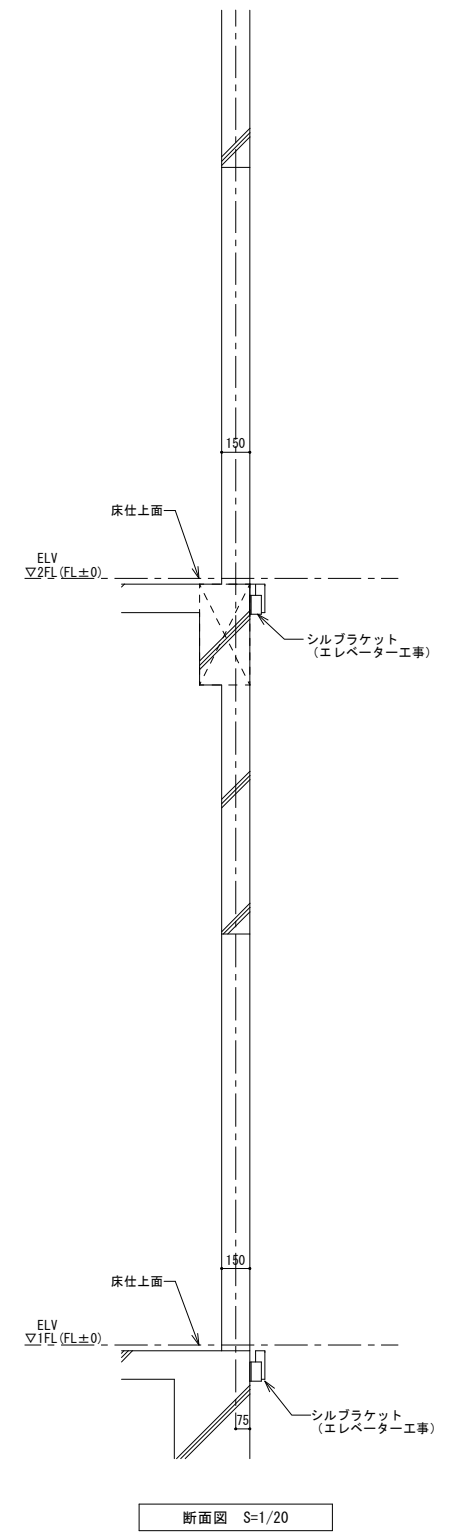
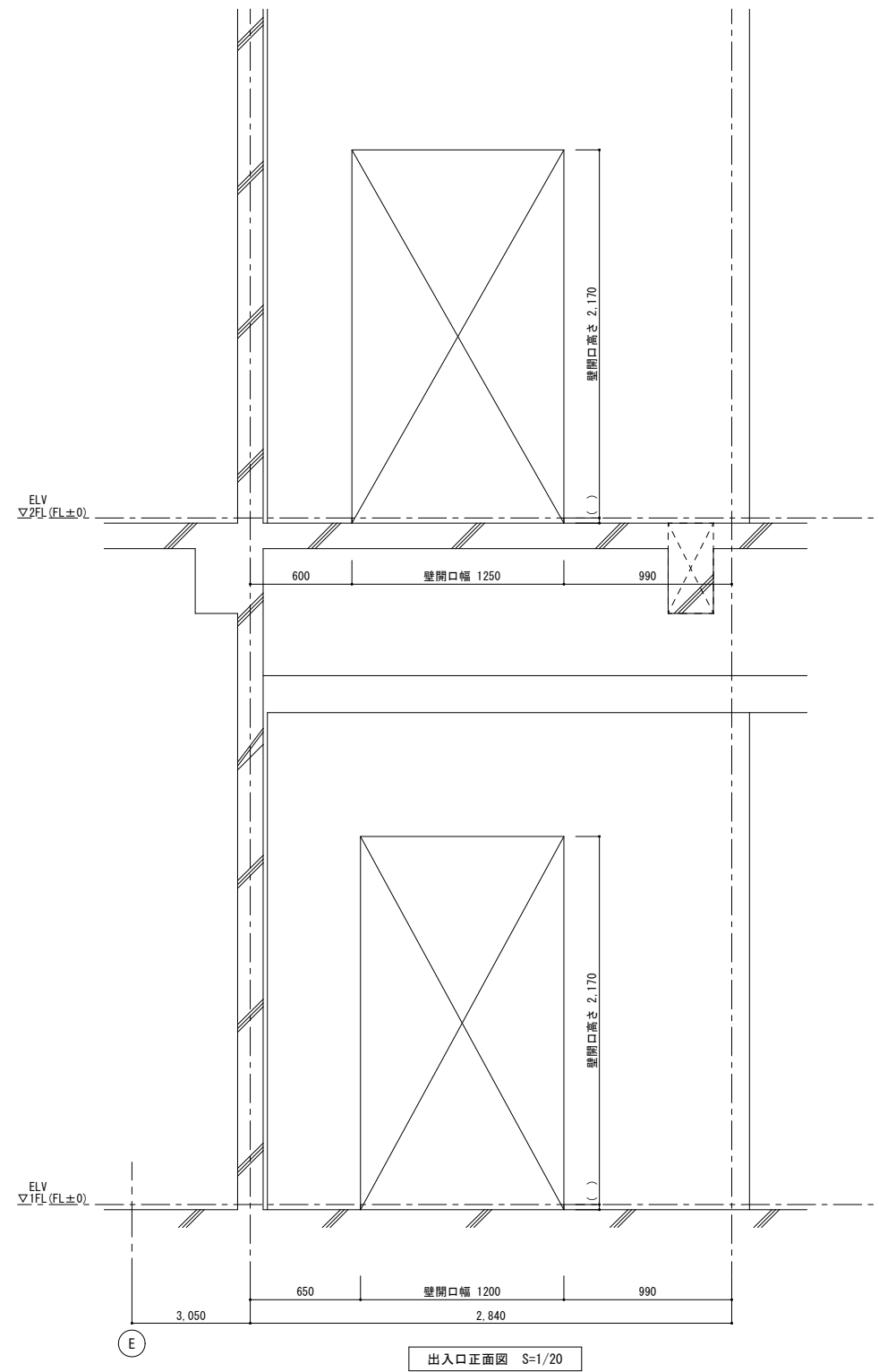
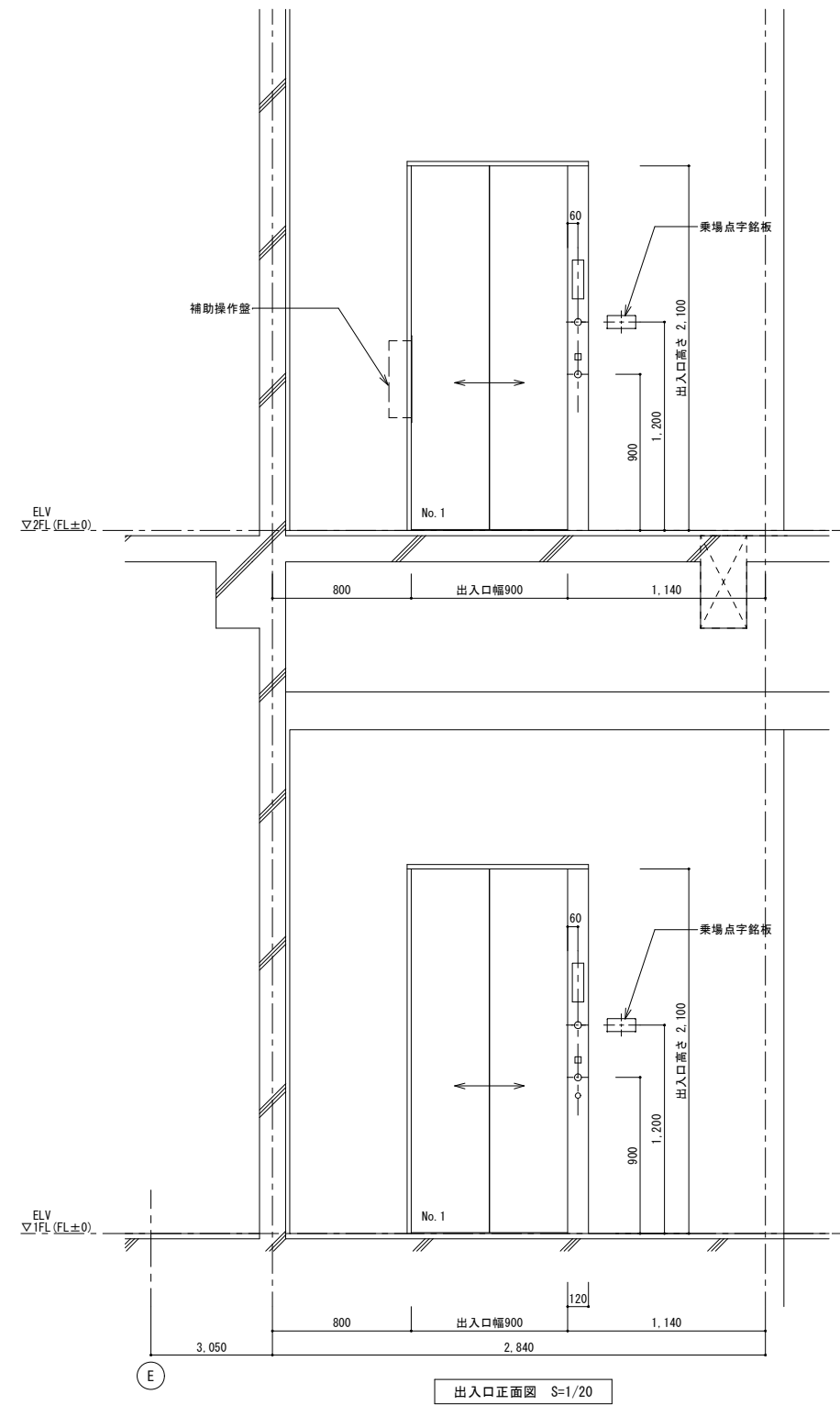
DWG No.

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

【庁舎棟】昇降機設備図(2)

SCALE A1: 1/20・30
A3: 1/40・60

078



鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
HBC10	中間ビーム	[-100x50x5x7.5

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】昇降機設備図(3)

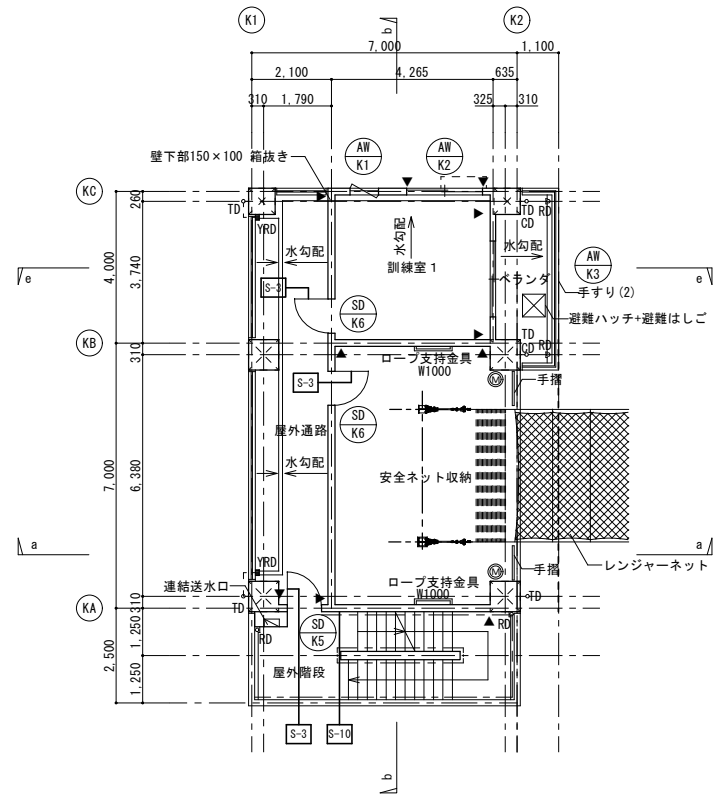
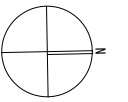
SCALE A1 : 1/20
 A3 : 1/40

DWG No.

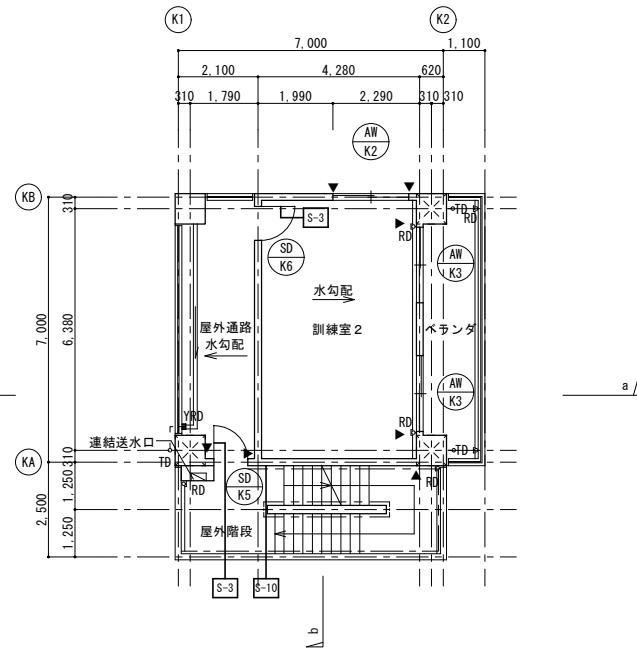
A

079

■ 外部仕上表				■ 内部仕上表												1 【VOC ○箇所】：化学物質の濃度測定の対象室及び測定箇所数を示す。																							
階	部位	箇所	仕上	部位	箇所	仕上	階	室名	居室制限	排煙設備	床仕上高		床		幅木		壁		天井		備考																		
											スラブ高	下地	仕上	下地	仕上	高さ	下地	仕上	下地	仕上		淵縁	天井高																
主 訓 練 塔	屋根	屋根(1)	塗膜防水(X-1)	屋外階段 (RC造)	壁	C(A)-a+着色撥水材	1 階	倉庫				±0	-	コンクリート直均し仕上	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天																	
		屋根(2)	カラーガルバリウム鋼板t=0.4一文字葺き		床	防水モルタル金コテ仕上						±0												-	無機系塗床(1) 耐熱レンガ	-	-	-	C(B)-b キャストプル耐火物 (SUSワイヤーメッシュ固定)	-	C(B)-b キャストプル耐火物 (SUSワイヤーメッシュ固定)	-	直天						
		屋根(3)	瓦葺き		手すり	塩ビ製						±0												-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天						
	外壁・庇		C(A)-a+着色撥水材	天井	RC(B)	±0	-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b EP塗装(黒)	-	スラブ表し C(B)-b EP塗装(黒)	-	直天																							
	バルコニー 屋外通路		塗膜防水(X-1)+防滑性ビニル床シート	犬走り		コンクリート直均し仕上	3 階	ブリッジ救助訓練スペース				±0	-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天																	
	手すり	手すり(1)	C(A)-a+着色撥水材	レンジャーネット 足場	床	高硬質ウレタン塗膜防水(防滑材入)						±0												-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b EP塗装(黒)	-	スラブ表し C(B)-b EP塗装(黒)	-	直天						
		手すり(2)	FB-6×50溶融亜鉛めっき																																				
	軒樋		カラーガルバリウム鋼板製113×68																																				
	たてとい		配管用鋼管80A																																				
副 訓 練 塔	屋根		塗膜防水(X-1)	屋外階段 (鉄骨造)	壁	FB-6×50 溶融亜鉛めっき仕上げ	1 階	倉庫				±0	-	コンクリート直均し仕上	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天																	
	外壁・庇		C(A)-a+着色撥水材		床	チェッカープレート 溶融亜鉛めっき仕上げ						±0												-	コンクリート直均し仕上	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天						
	手すり	手すり(1)	C(A)-a+着色撥水材		手すり	FB-6×50 溶融亜鉛めっき仕上げ						±0												-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天						
		手すり(2)	FB-6×50溶融亜鉛めっき	レンジャーネット 足場	床	高硬質ウレタン塗膜防水(防滑材入)	±0	-	無機系塗床(1)	-	-	-	C(B)-b	-	スラブ表し C(B)-b	-	直天																						
		たてとい		配管用鋼管80A																																			
公 用 車 庫	屋根		折板屋根：アルミ亜鉛合金めっき鋼板t=0.8(丸馳) H120@550				1 階	公用車庫				±0	-	無機系塗床(1)	-	-	-	外壁下地表し 見えがかり鉄部：SOP塗装	-	折板屋根表し 見えがかり鉄部：SOP塗装	-	直天																	
	外壁		窯業系サイディングt=16 出隅役物：塗装GLめっき鋼板(W型)																																				
	巾木		C(A)-a+撥水材塗布																																				
	たてとい		カラー塩ビ製100φ																																				
	軒樋		カラーガルバリウム鋼板製																																				

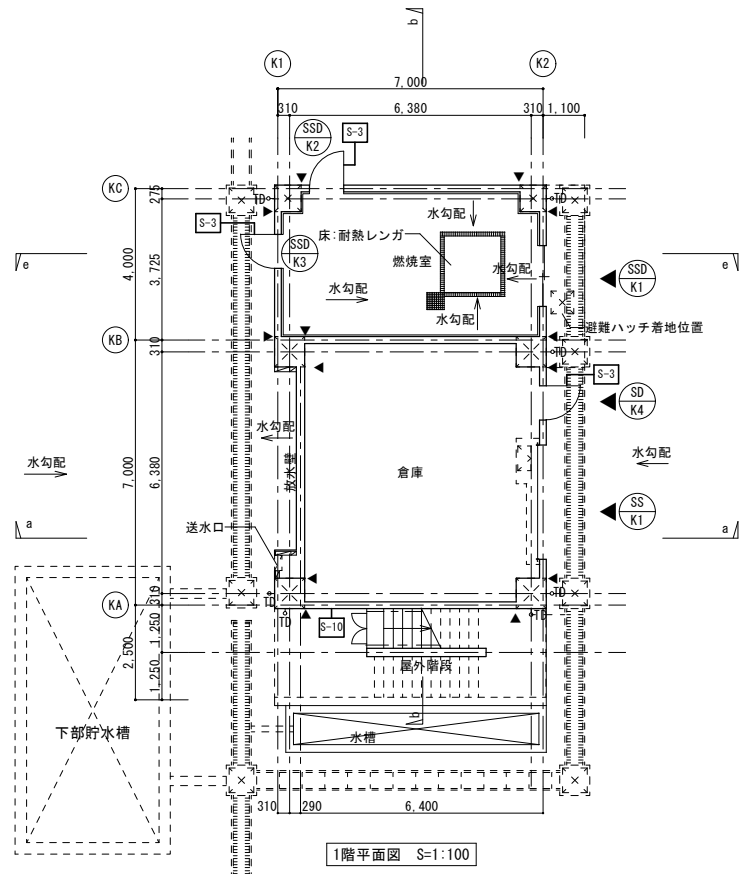


2階平面図 S=1:100

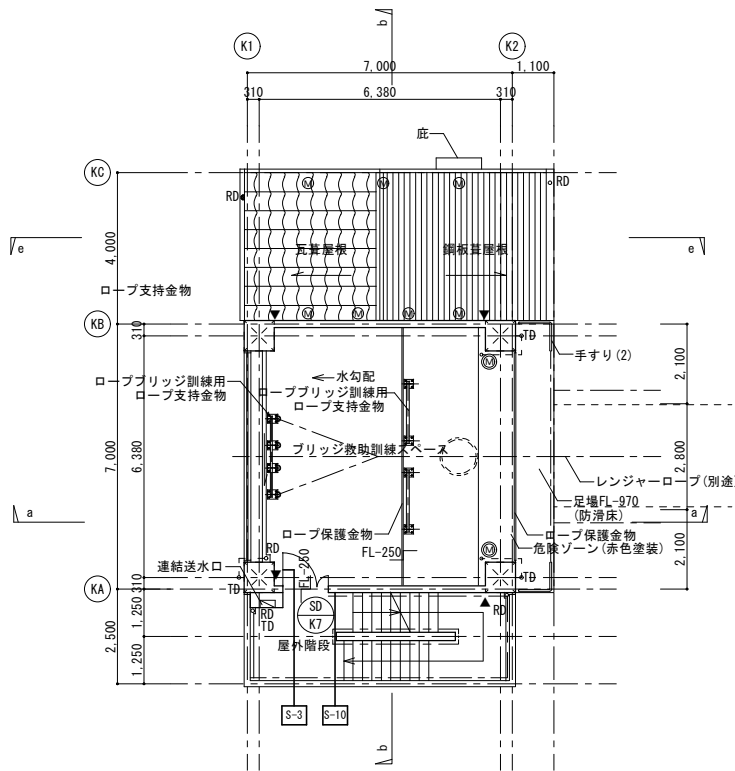


4階平面図 S=1:100

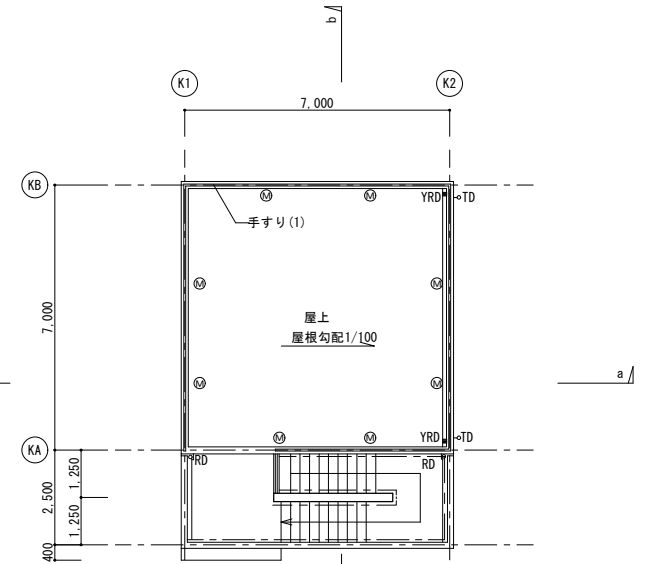
■凡例	
TD	配管用鋼管80A
CD	中継ドレイン 80A
RD	ルーフトレイン 80A
YRD	横引きルーフトレイン80A
▲	構造スリット
⊙	ロープ支持金物(丸環タイプ)
⊗	ロープ支持金物(丸環タイプ)(上下2ヶ所)



1階平面図 S=1:100



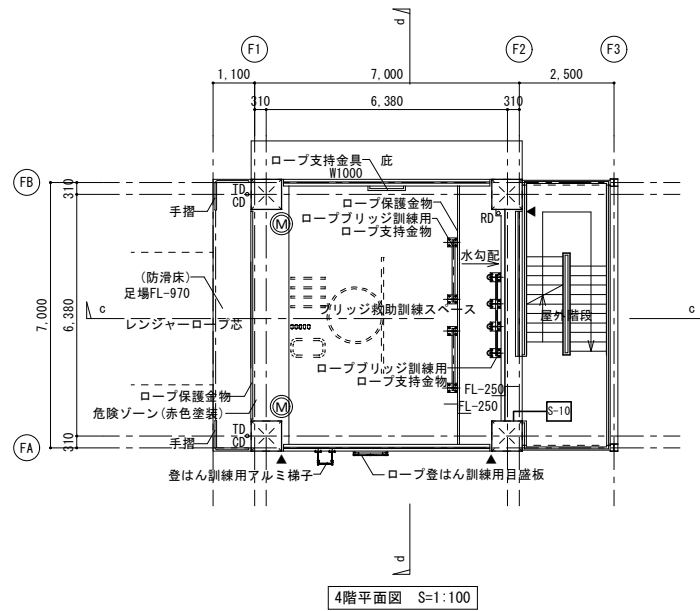
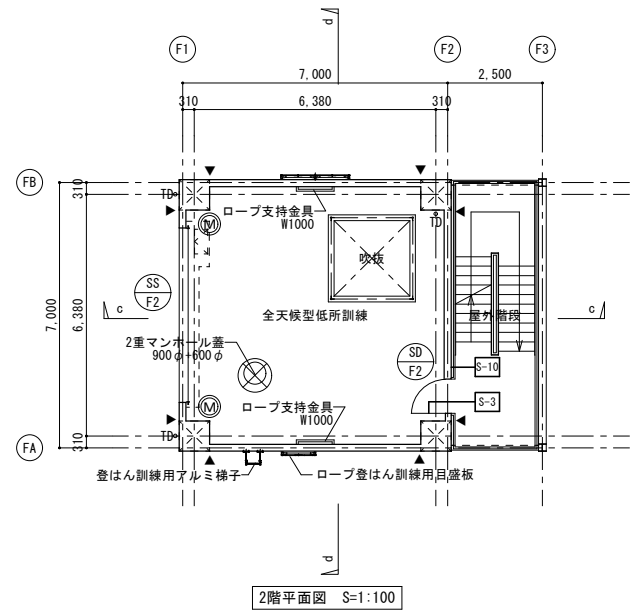
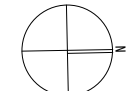
3階平面図 S=1:100



R階平面図 S=1:100

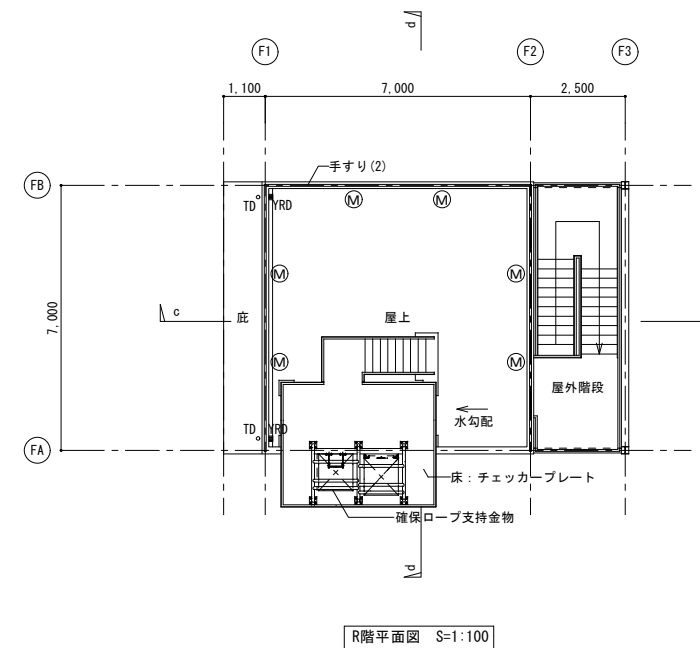
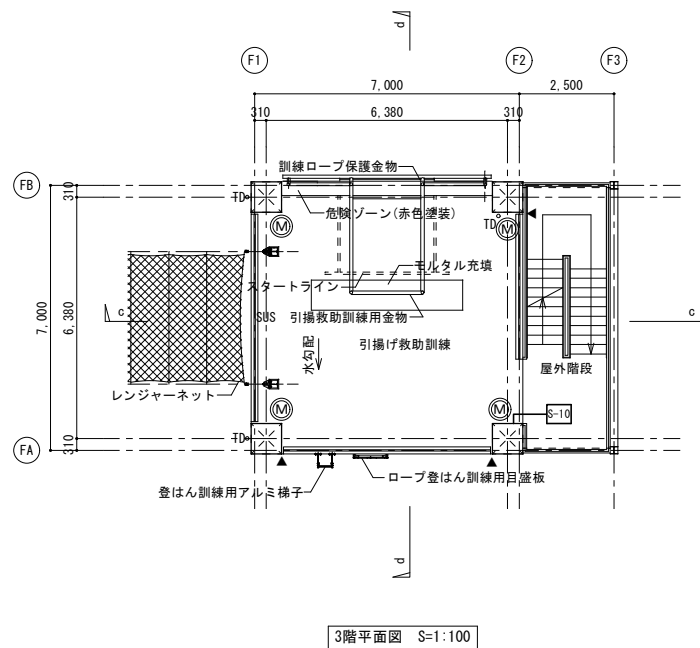
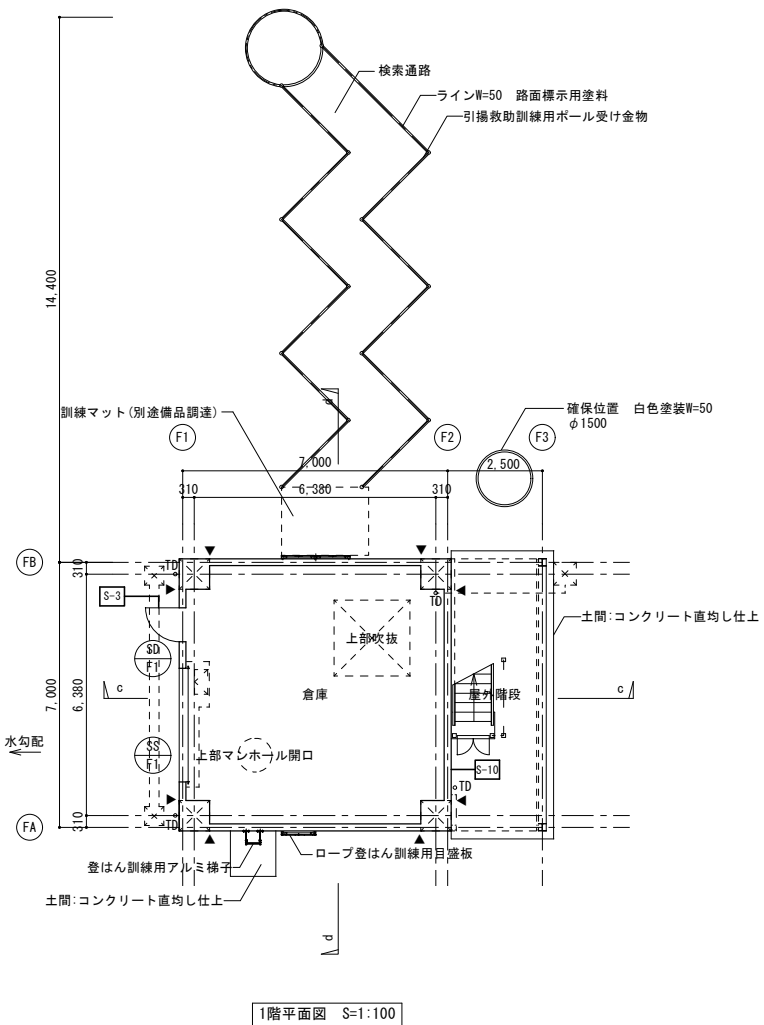
建築面積：85.60㎡ / 8 = 10.70㎡ ①
 屋外階段面積：7.000×2.500=17.5㎡ ②
 .. 屋外階段の手すり高さを最高高さとする

※ 訓練用金物の取付位置や高さは、現場にて消防職員と協議により決定する事。



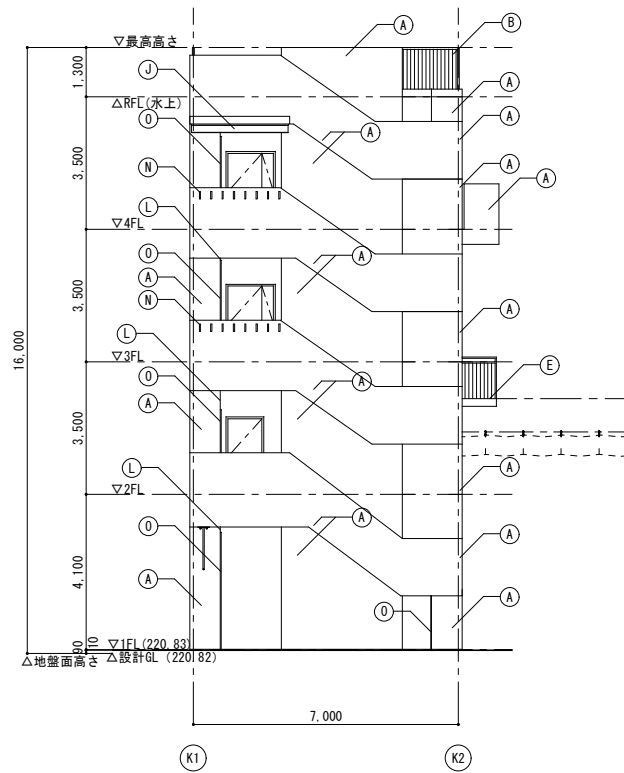
■凡例

TD	配管用鋼管80A
CD	中継ドレイン 80A
RD	ルーフドレイン 80A
YRD	横引きルーフドレイン80A
▲	構造スリット
⊙	ロープ支持金物(丸環タイプ)
⊗	ロープ支持金物(丸環タイプ)(上下2ヶ所)

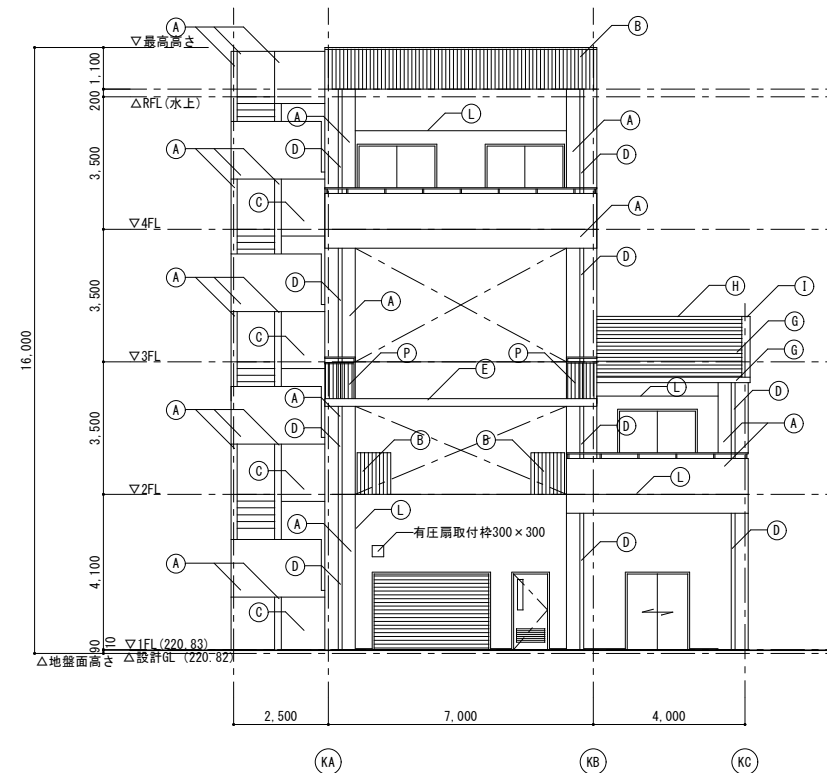


※ 訓練用金物の取付位置や高さは、現場にて消防職員と協議により決定する事。

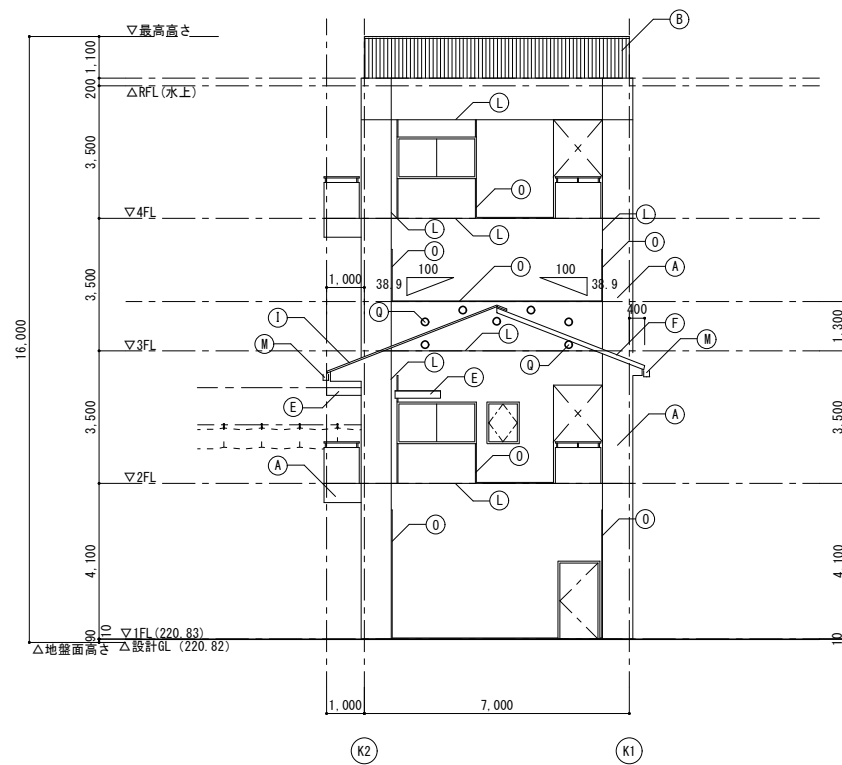
A	外壁:RC打放し(A種)+着色撥水材
B	手すり:FB-6×50 溶融亜鉛めっき仕上げ
C	階段天井:RC打放し(B種)素地
D	堅種:配管用鋼管80A
E	庇:RC打放し(A種)+着色撥水材
F	屋根:瓦葺
G	屋根:カラーガルバリウム鋼板t0.4-文字葺き
H	襖包:カラーガルバリウム鋼板
I	ケラバ包:カラーガルバリウム鋼板
J	ホース吊りウインチレール
L	打継目地:20×10シーリング(PU-2)
M	軒種:ガルバリウム鋼板製
N	ホース吊りフック
O	構造スリット 目地:20×15シーリング(PU-2)
P	手すり:SGP42.7φ 溶融亜鉛めっき仕上げ
Q	ロープ支持金物(円環タイプ)



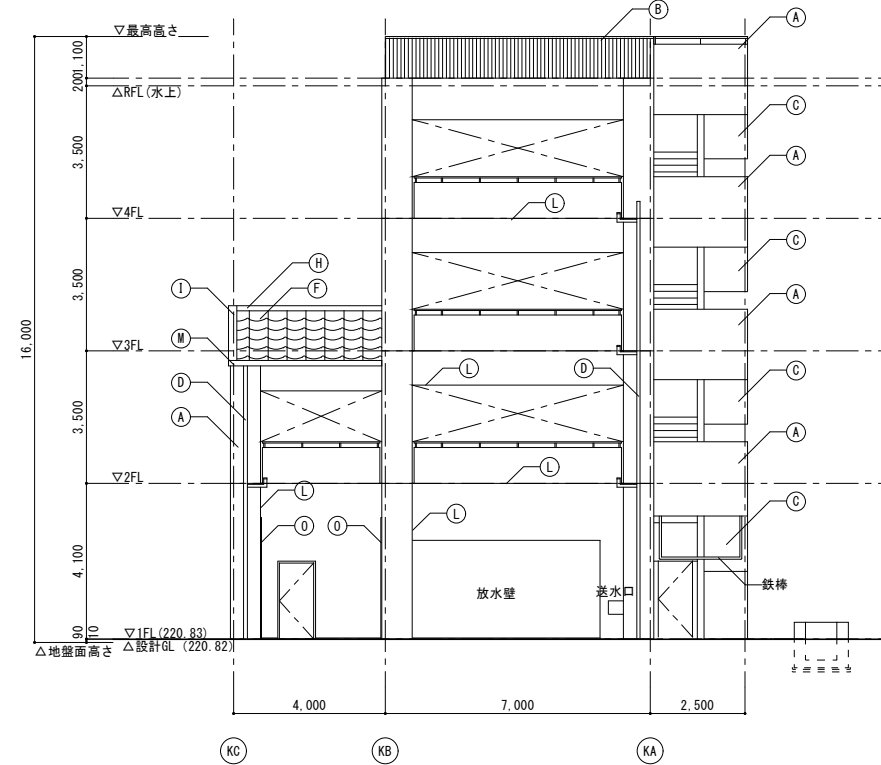
主訓練塔 東側立面図 S=1:100



主訓練塔 北側立面図 S=1:100



主訓練塔 西側立面図 S=1:100



主訓練塔 南側立面図 S=1:100

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【主訓練塔】立面図

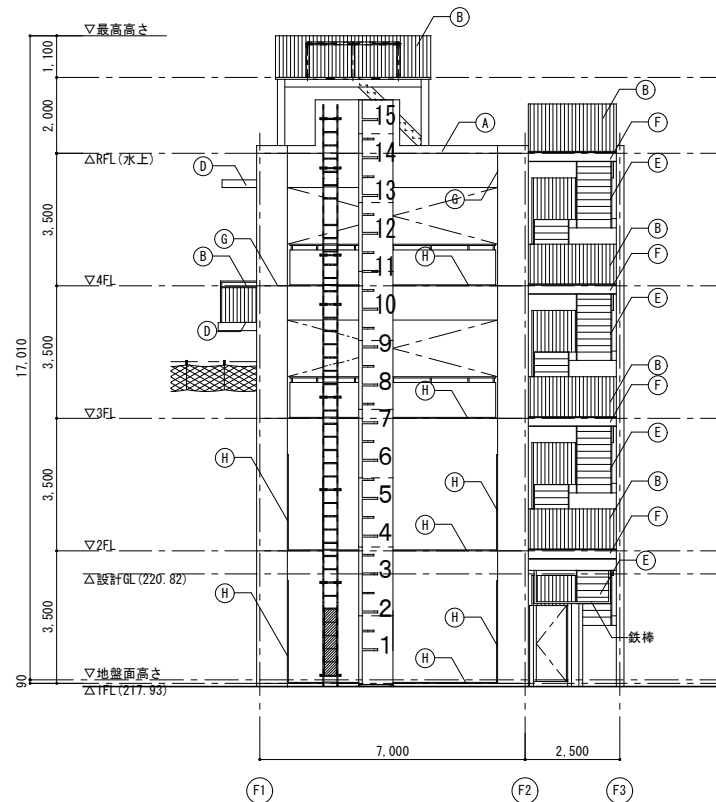
SCALE A1: 1/100
 A3: 1/200

DWG No.

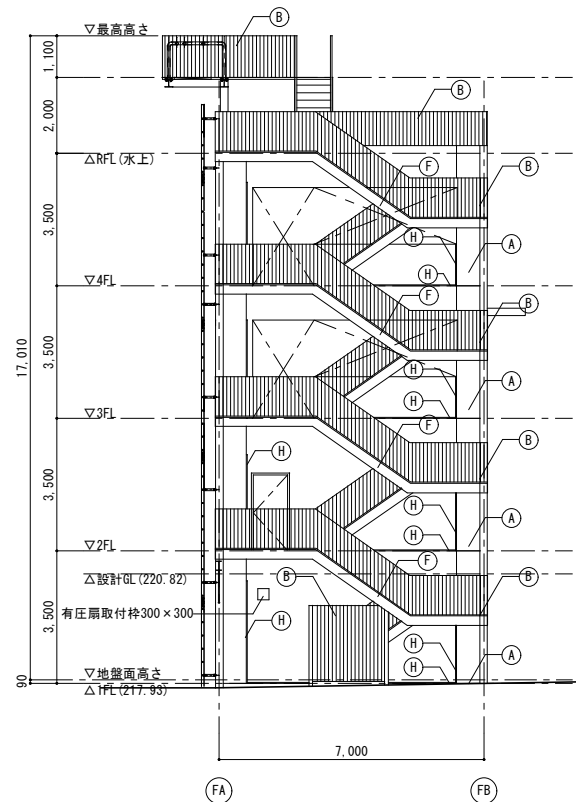
A

104

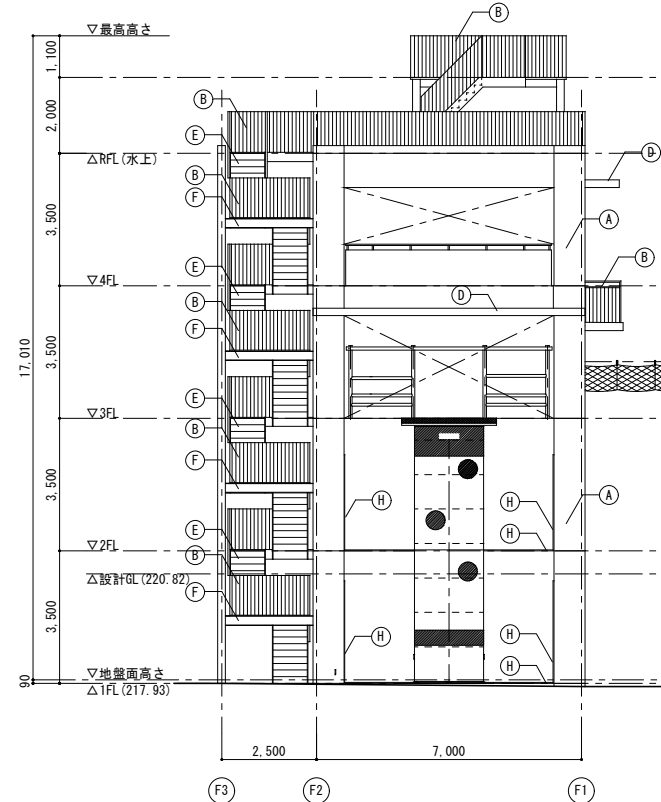
A	外壁:RC打放し(A種)+着色撥水材
B	手すり:FB-6×50 溶融垂鉛めっき仕上げ
C	縦樋:配管用鋼管80A
D	庇:RC打放し(A種)+着色撥水材
E	踏板・蹴込板:チェッカープレート
F	ササラ:溶融垂鉛めっき仕上げ
G	打継目地:20×10シーリング(PU-2)
H	構造スリット 目地:20×15シーリング(PU-2)



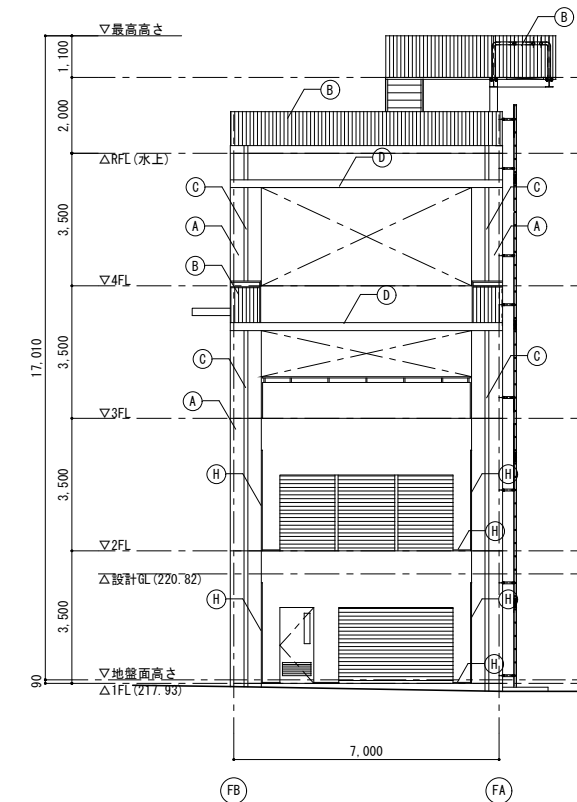
副訓練塔 東側立面図 S=1:100



副訓練塔 北側立面図 S=1:100



副訓練塔 西側立面図 S=1:100



副訓練塔 南側立面図 S=1:100

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

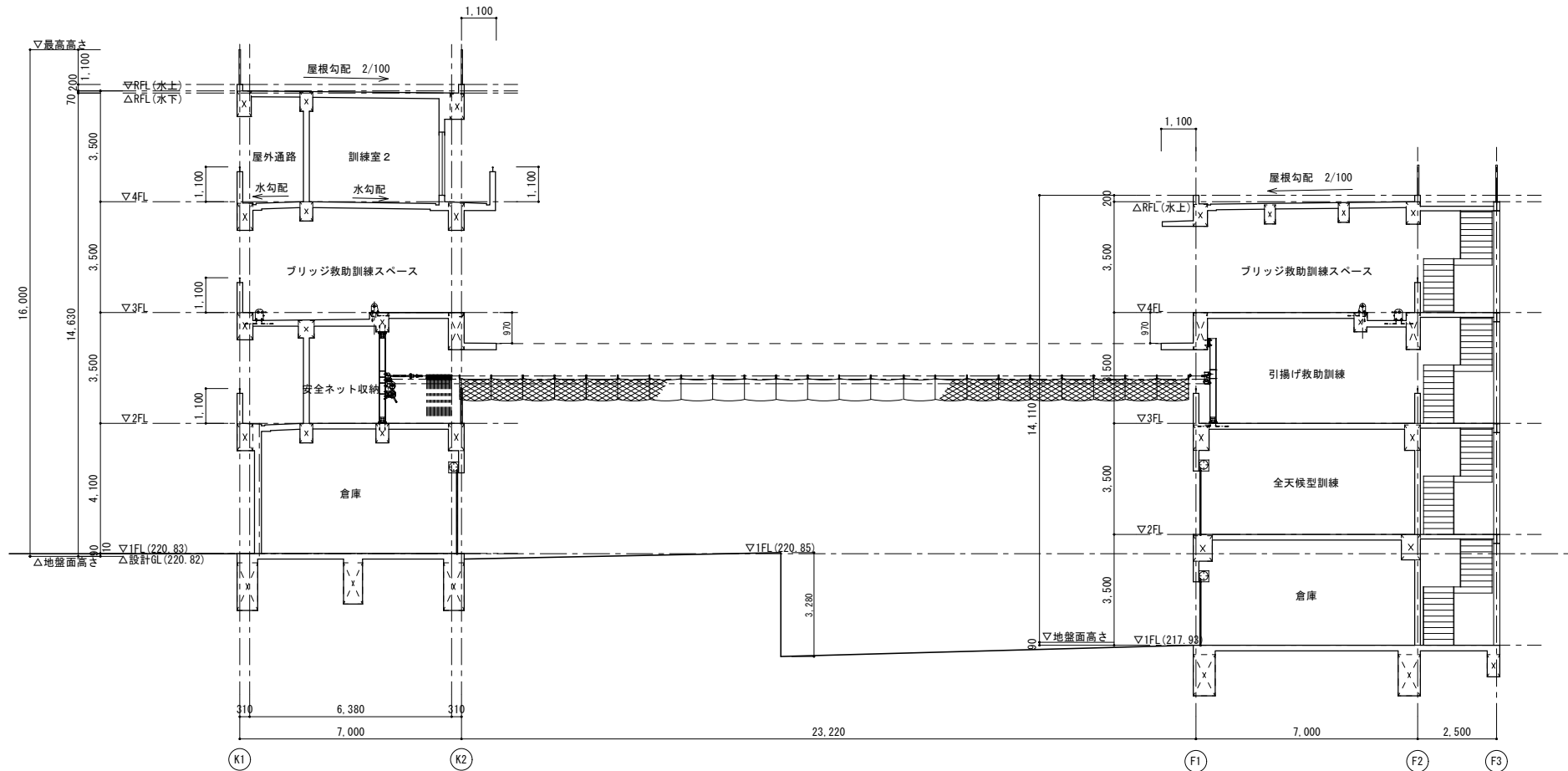
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【副訓練塔】立面図

SCALE A1: 1/100
 A3: 1/200

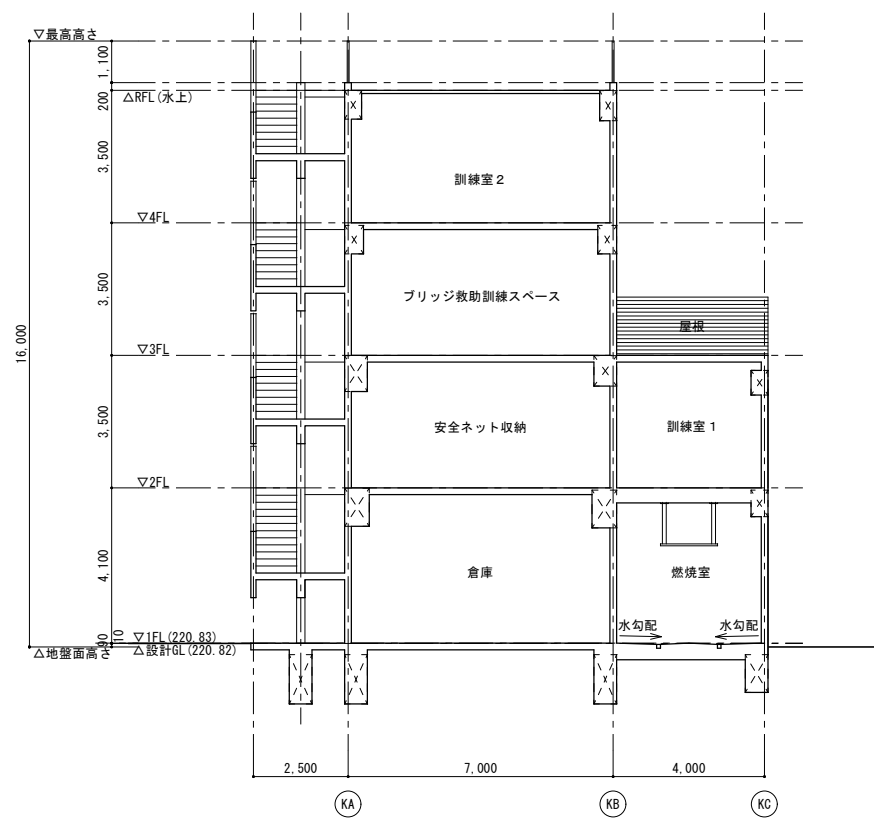
DWG No.

A
 105

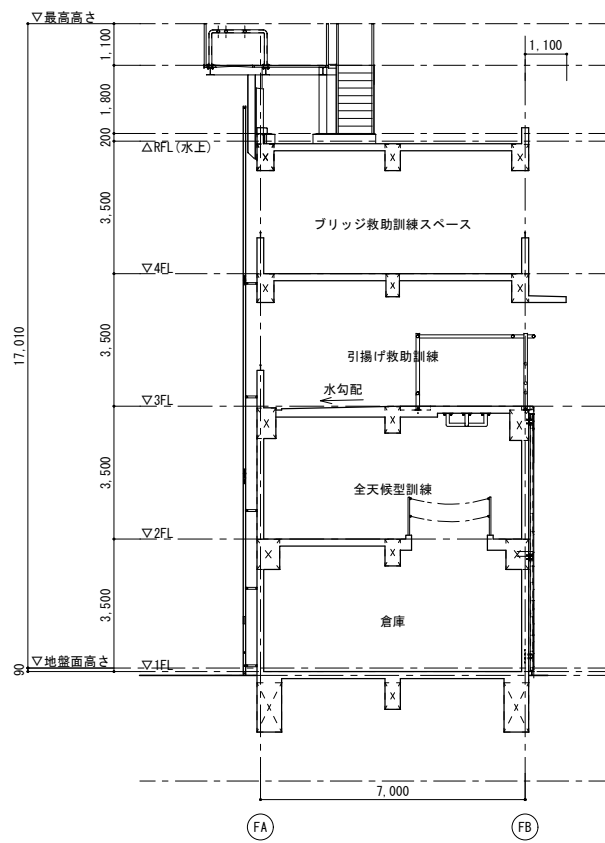


a断面図 S=1:100

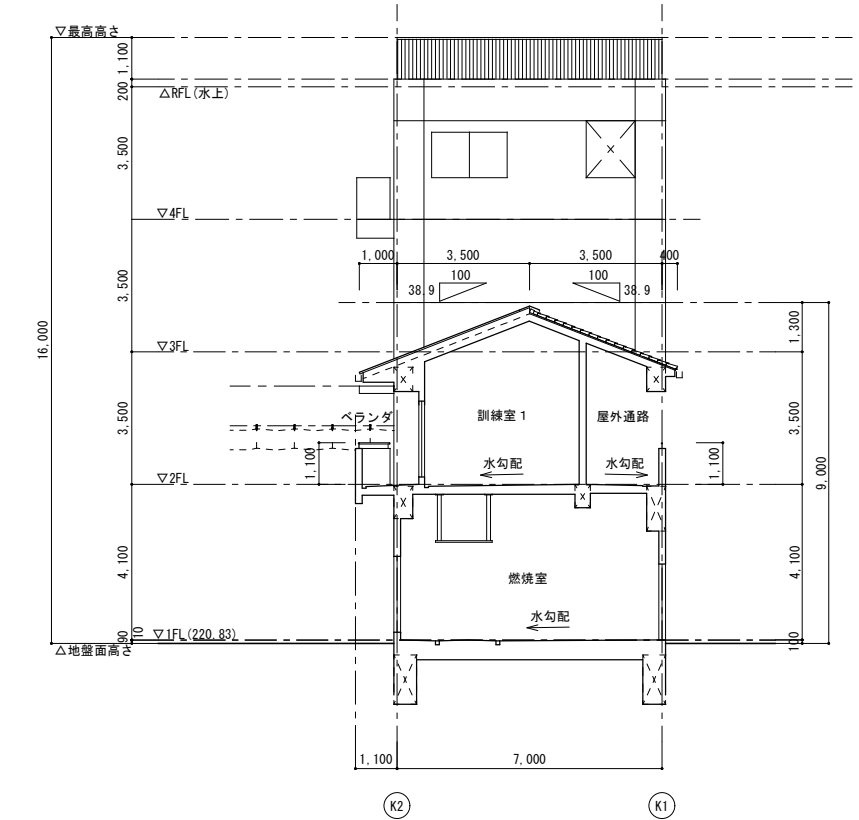
c断面図 S=1:100



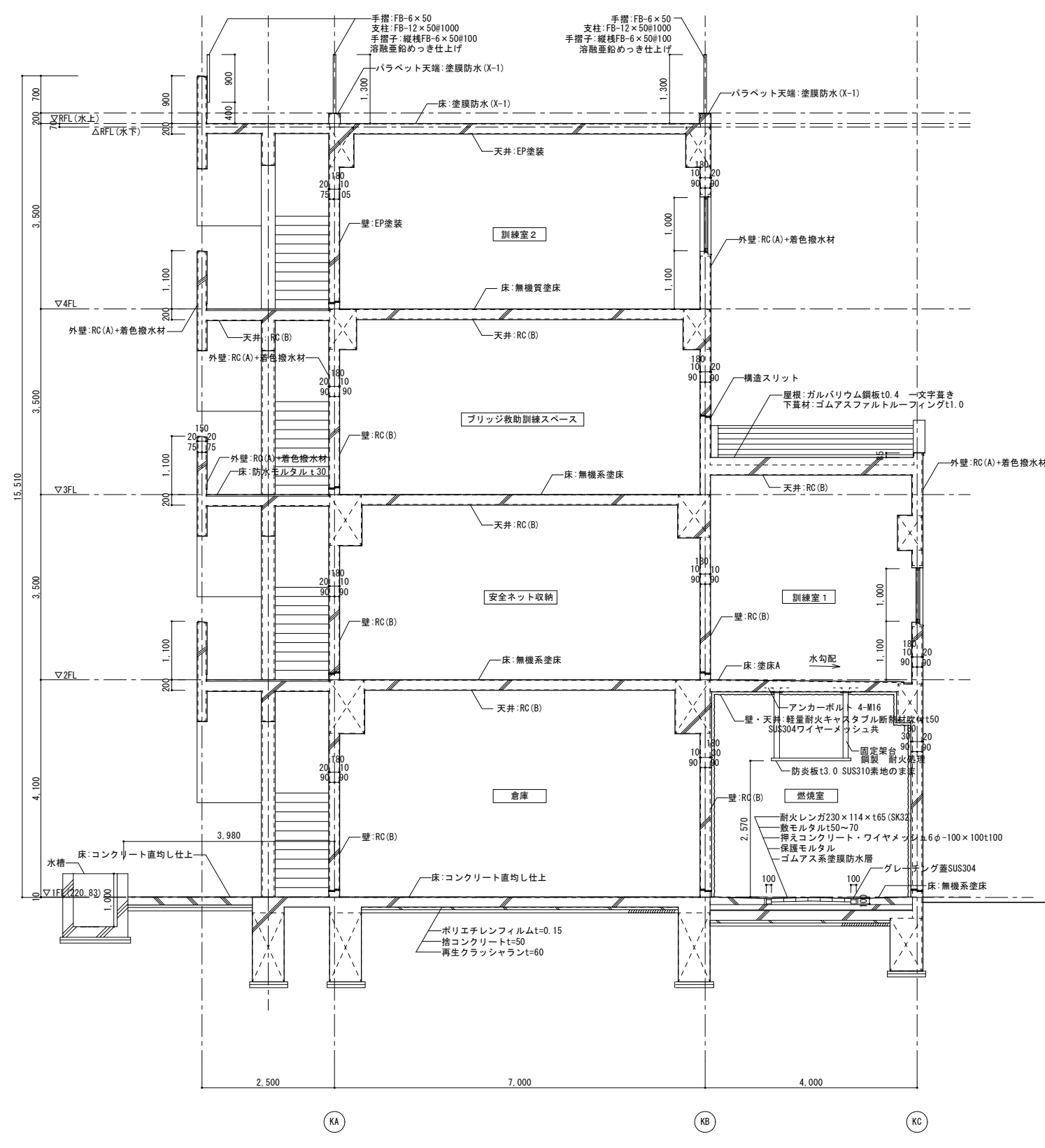
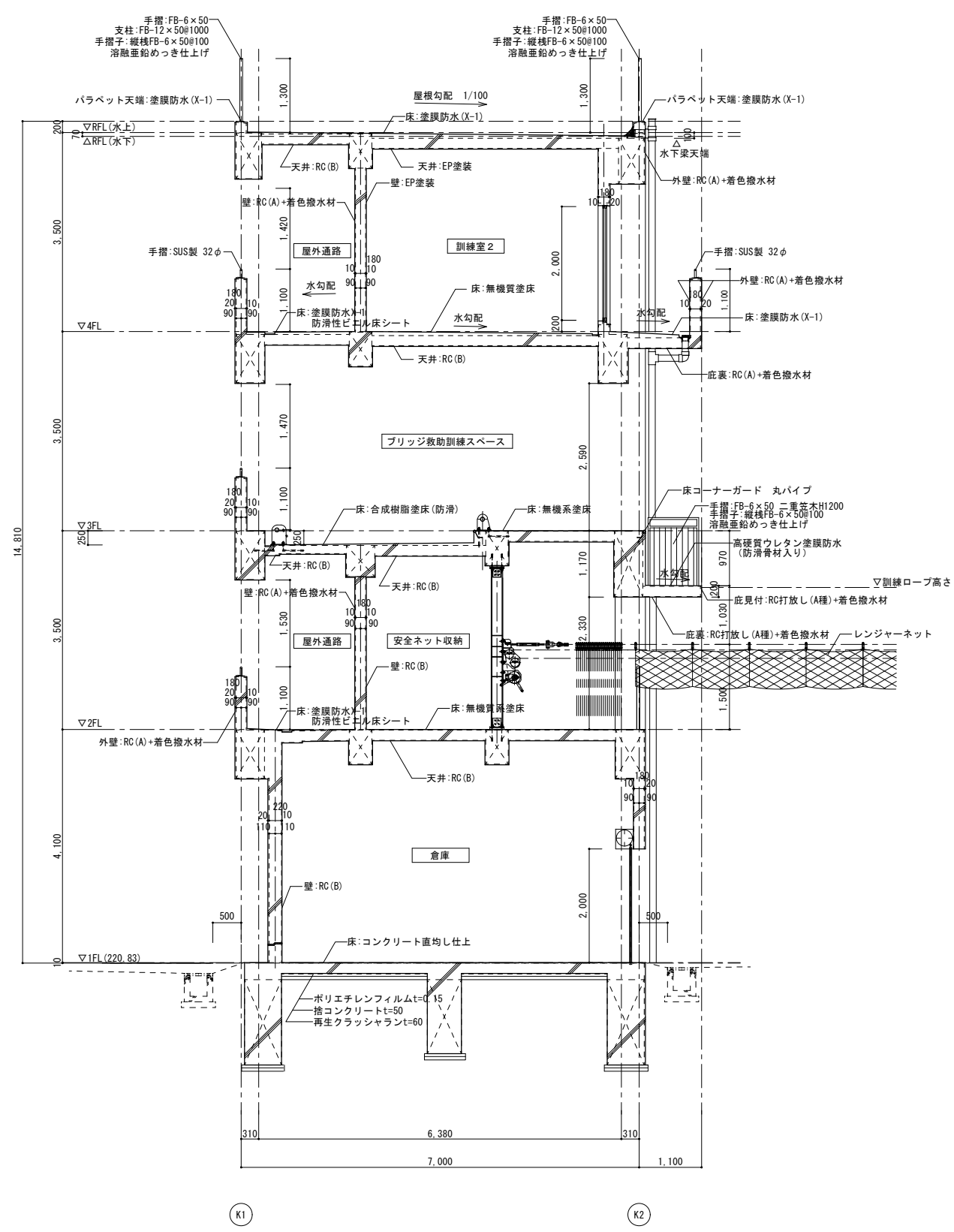
b断面図 S=1:100

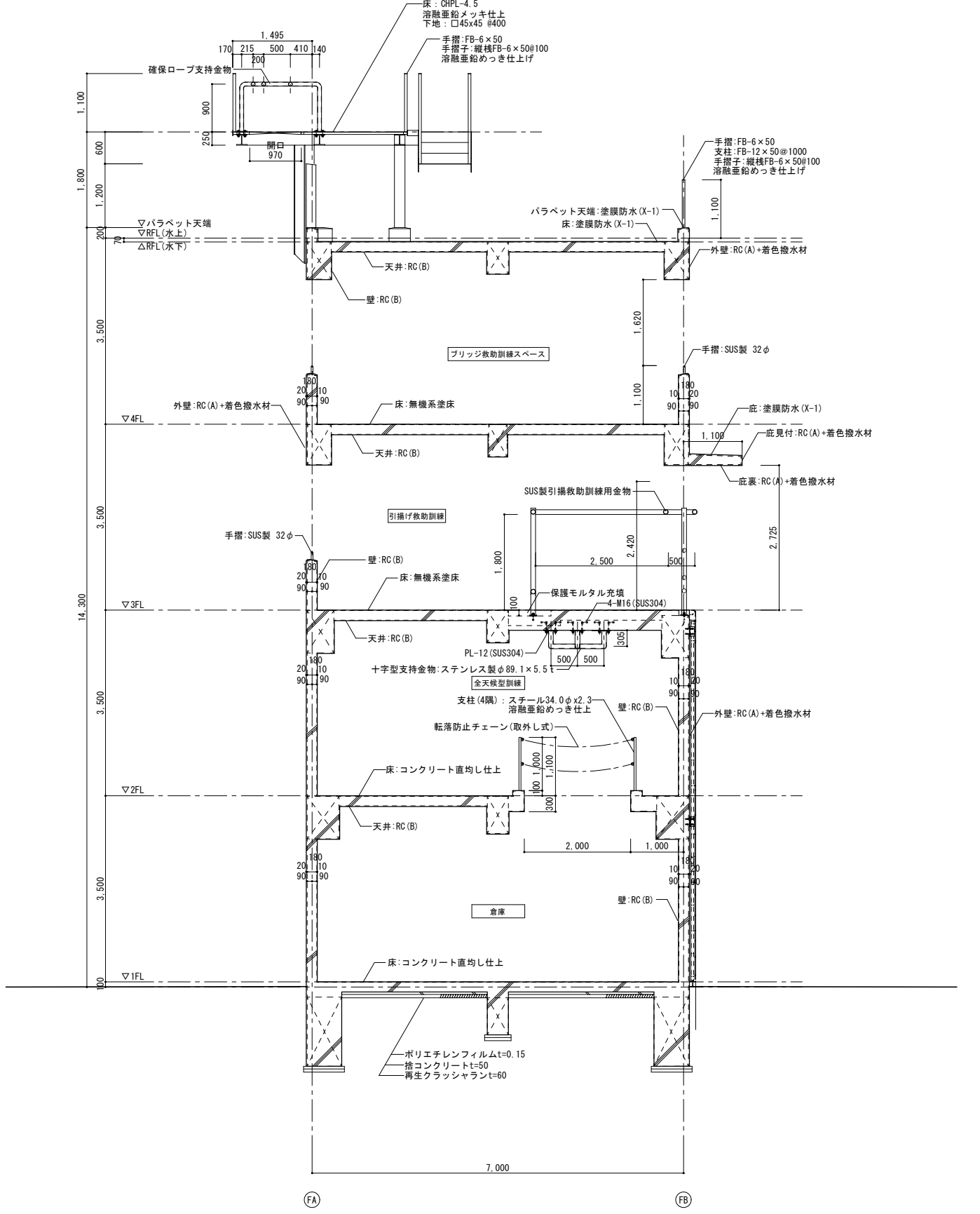
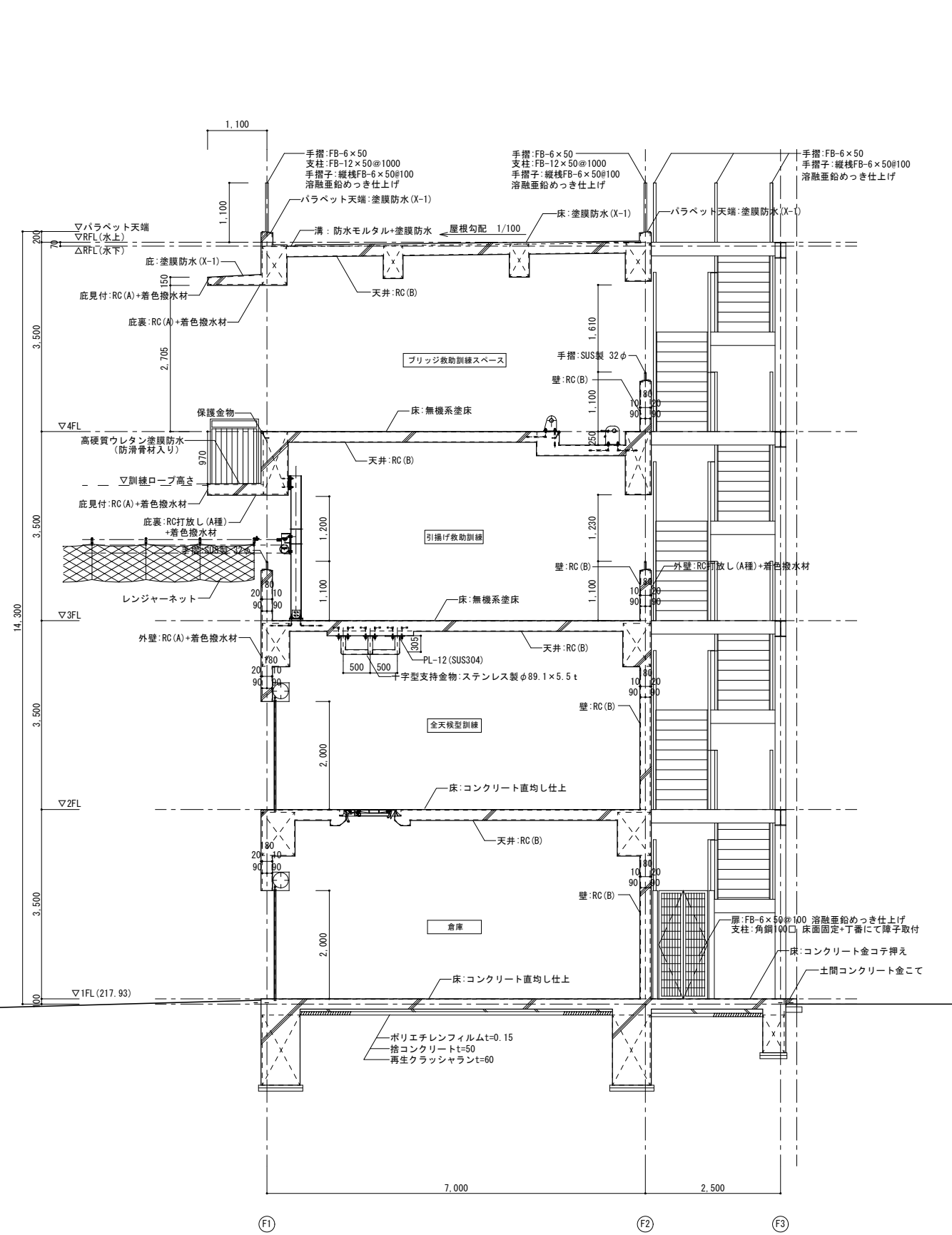


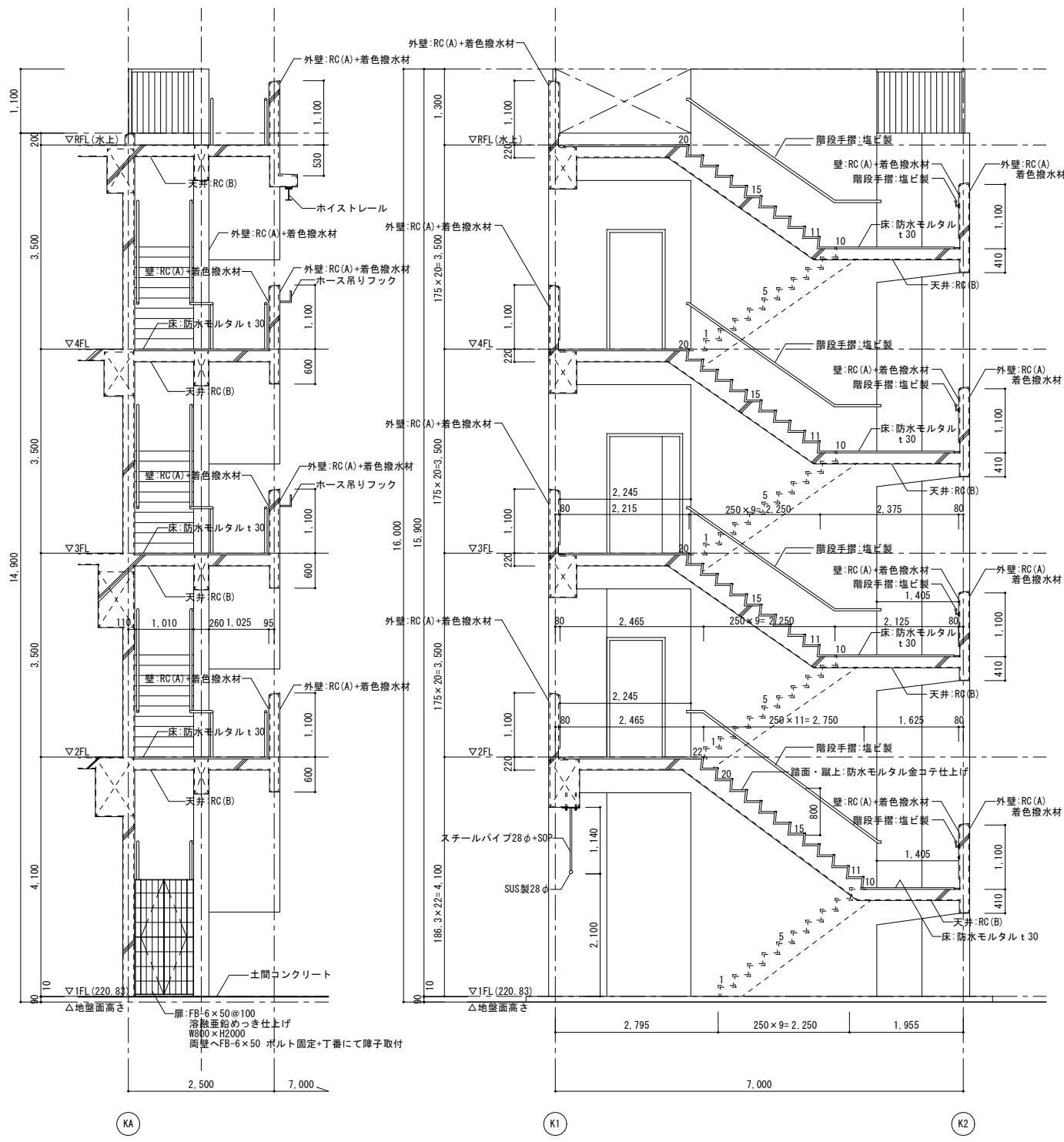
d断面図 S=1:100



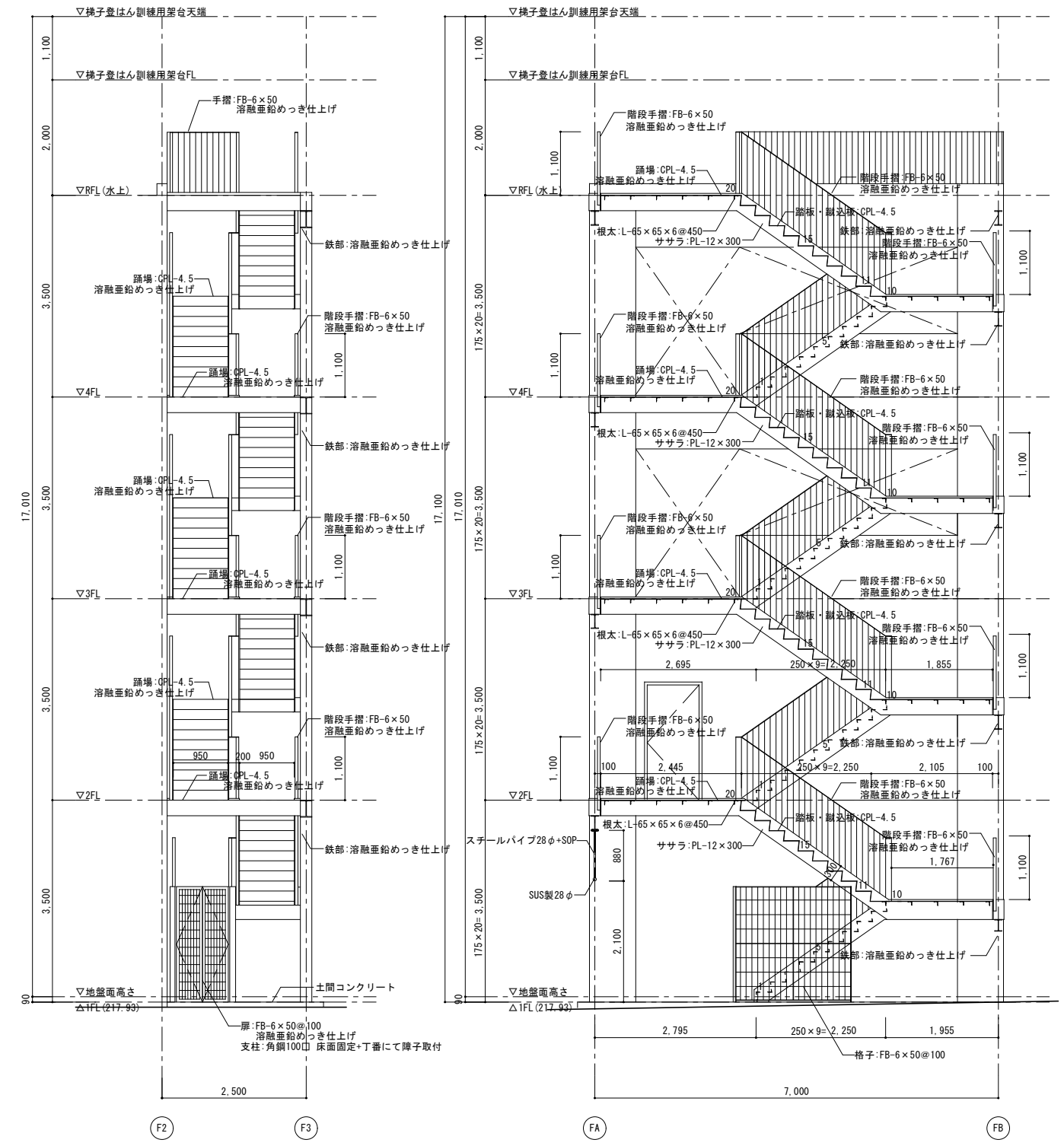
e断面図 S=1:100



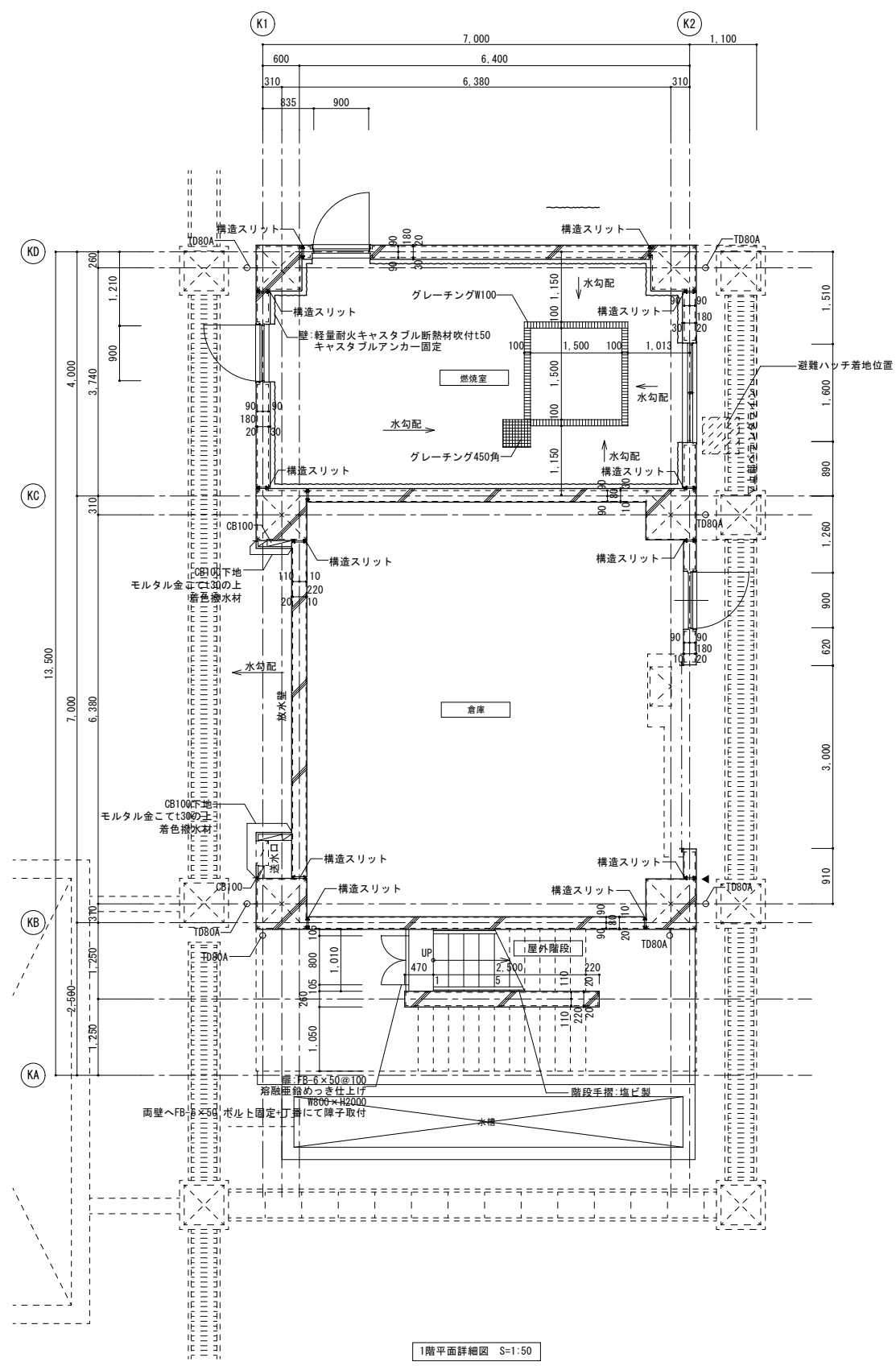
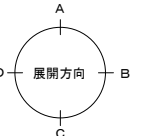




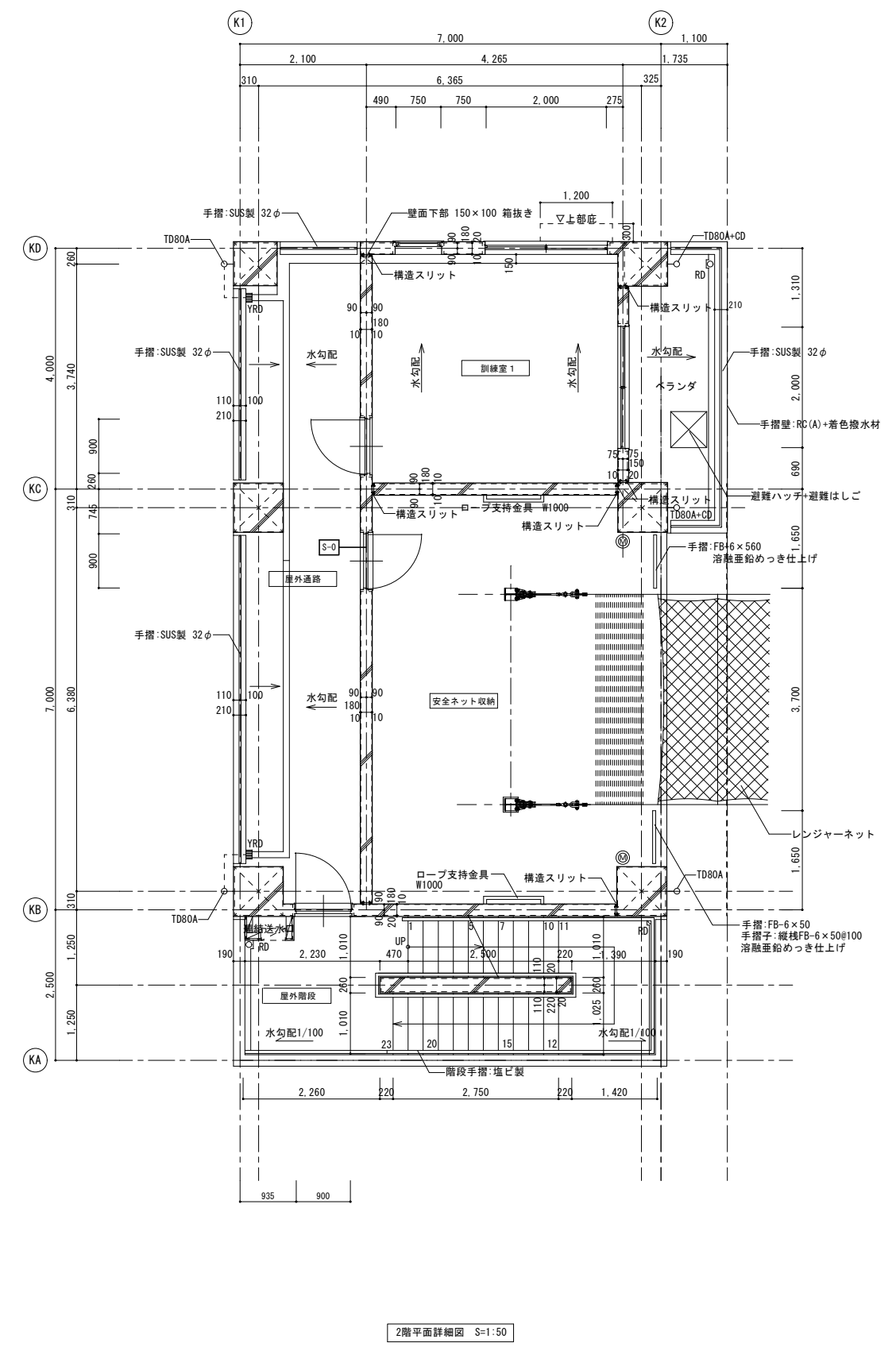
主訓練塔 階段詳細図1/50



副訓練塔 階段詳細図1/50



1階平面詳細図 S=1:50



2階平面詳細図 S=1:50

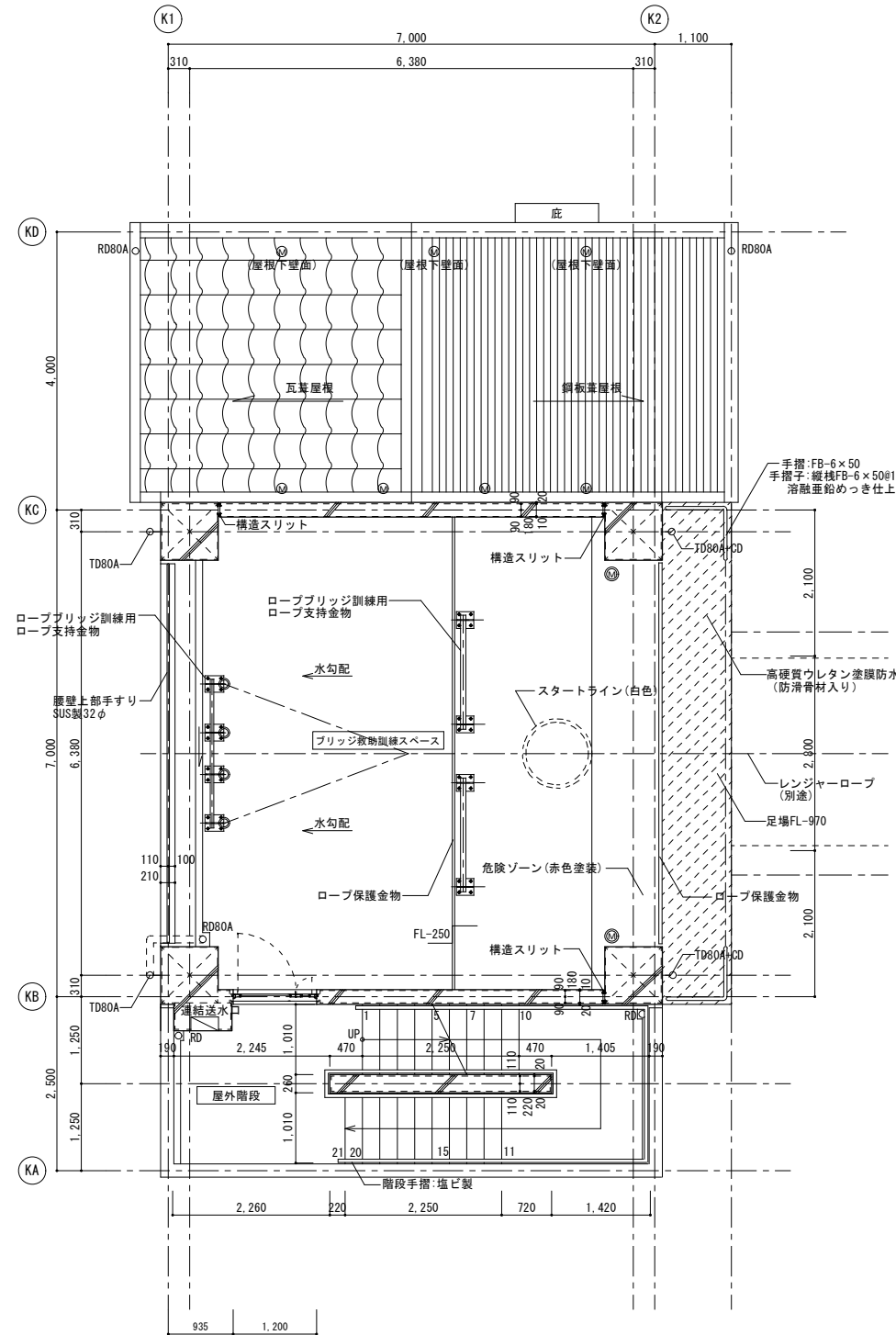
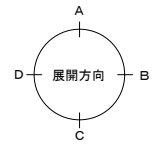
凡例	
S-***	サイン符号を示す

NOTE

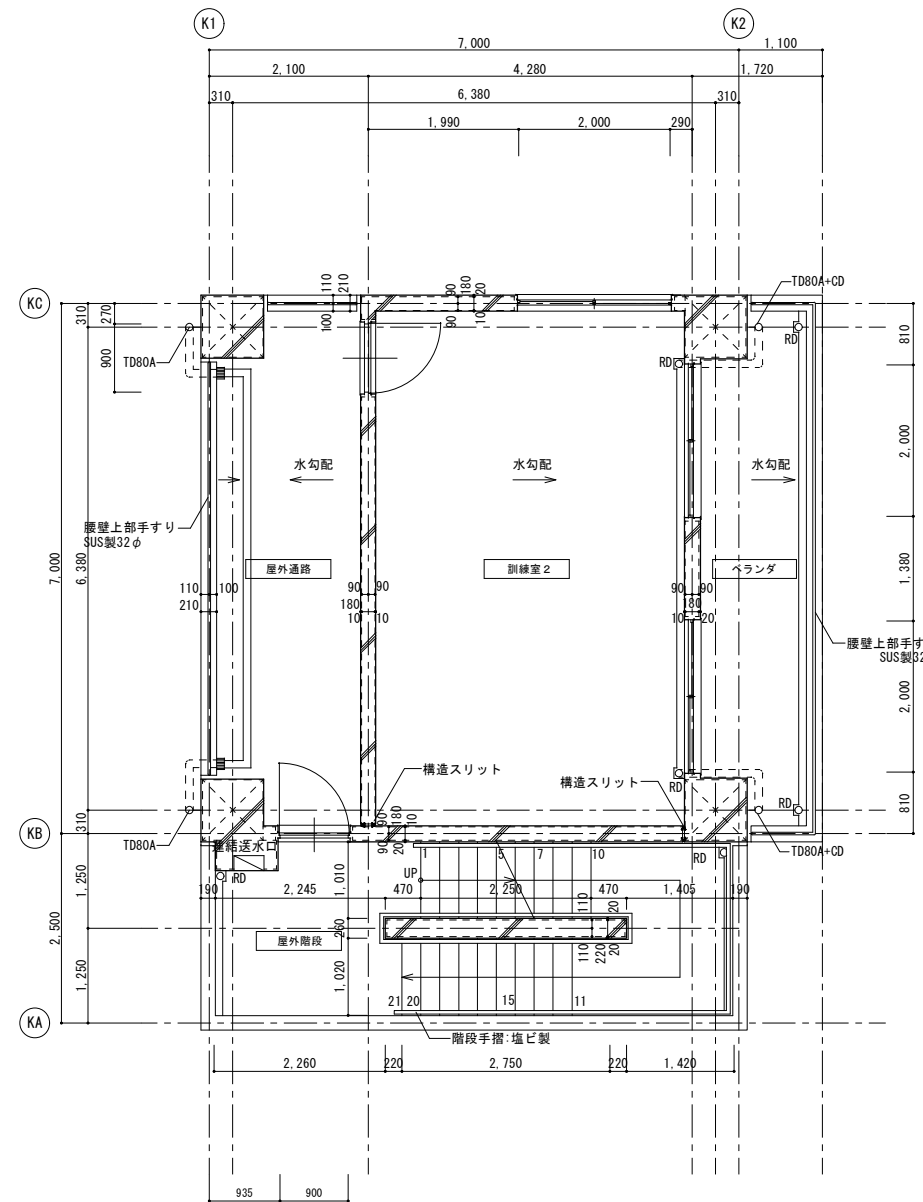
株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【主訓練塔】 平面詳細図(1)

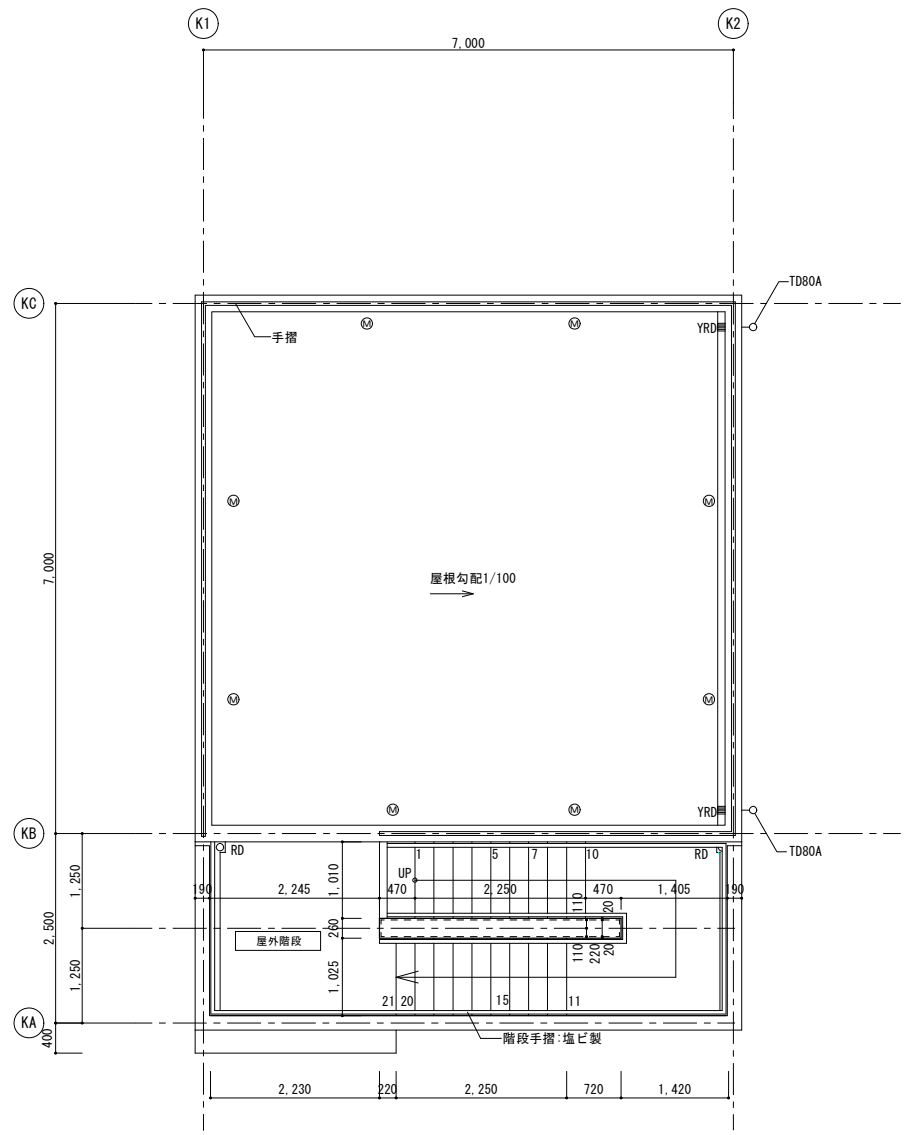
SCALE A1: 1/50
 A3: 1/100
 110



3階平面詳細図 S=1:50



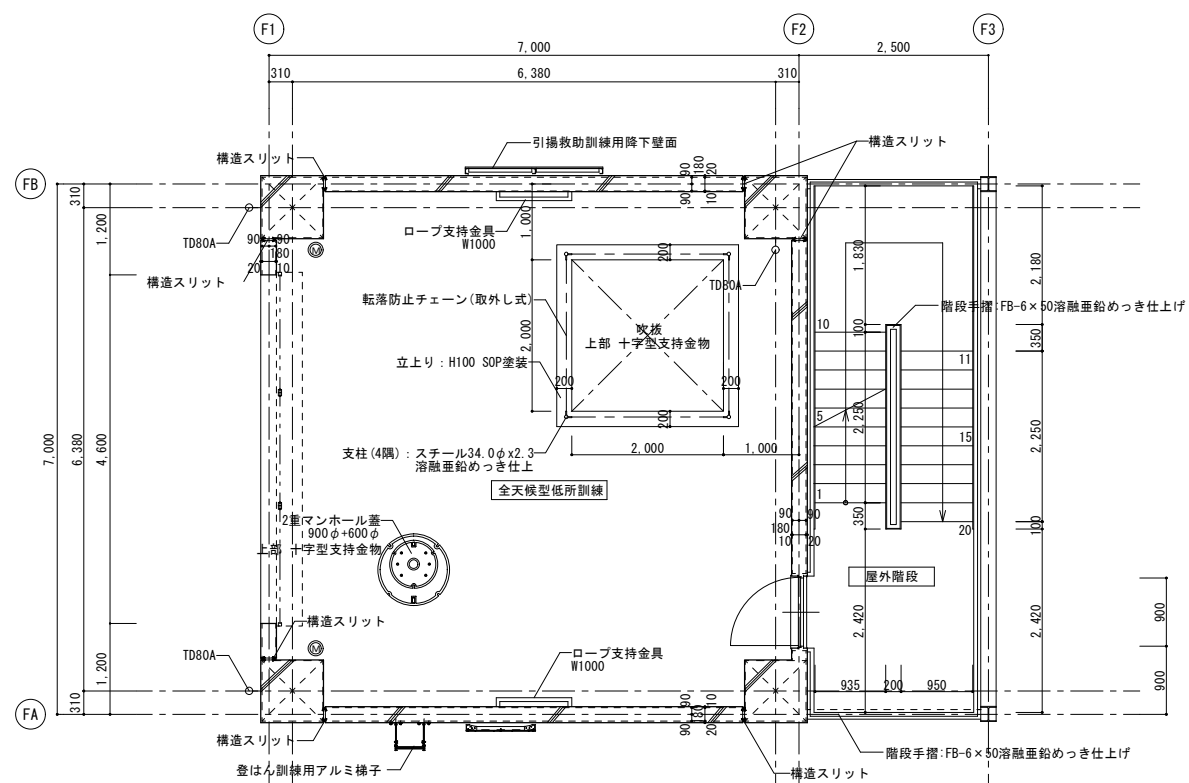
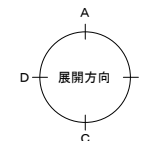
4階平面詳細図 S=1:50



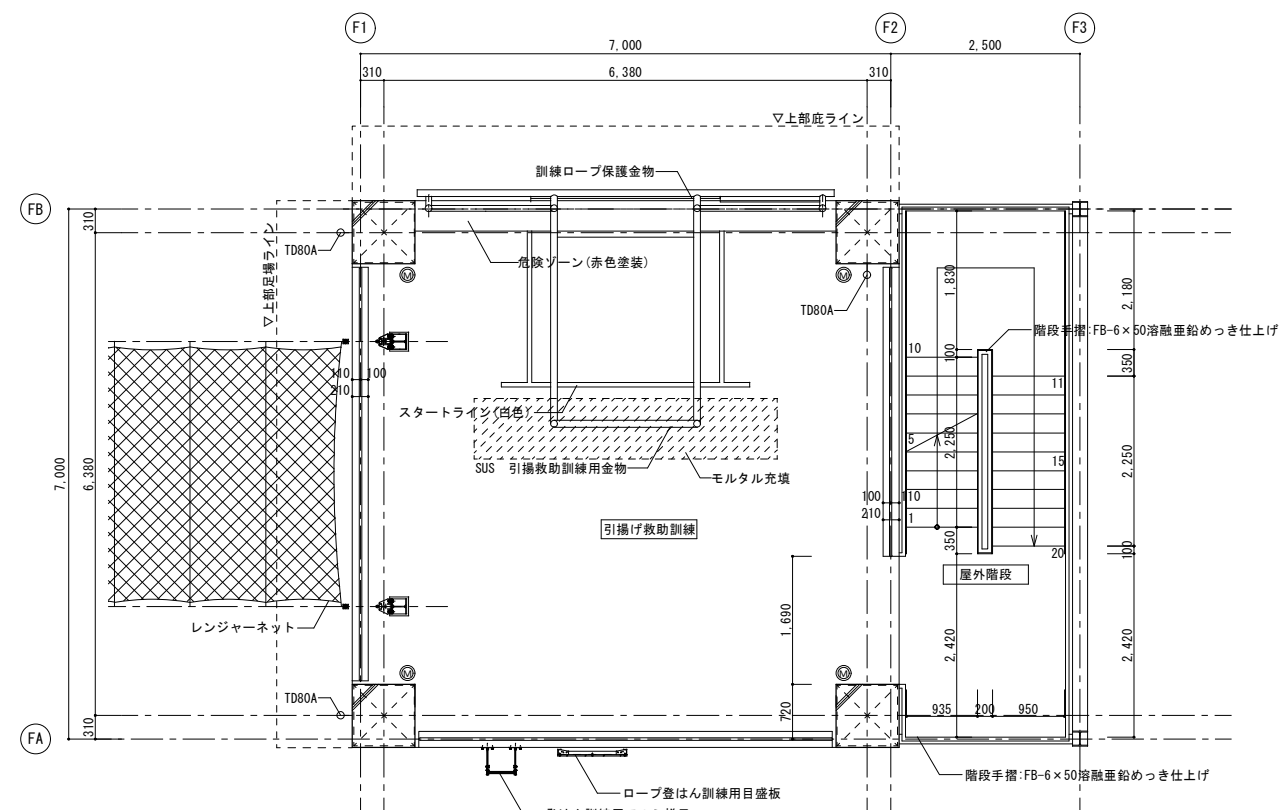
R階平面詳細図 S=1:50

■凡例

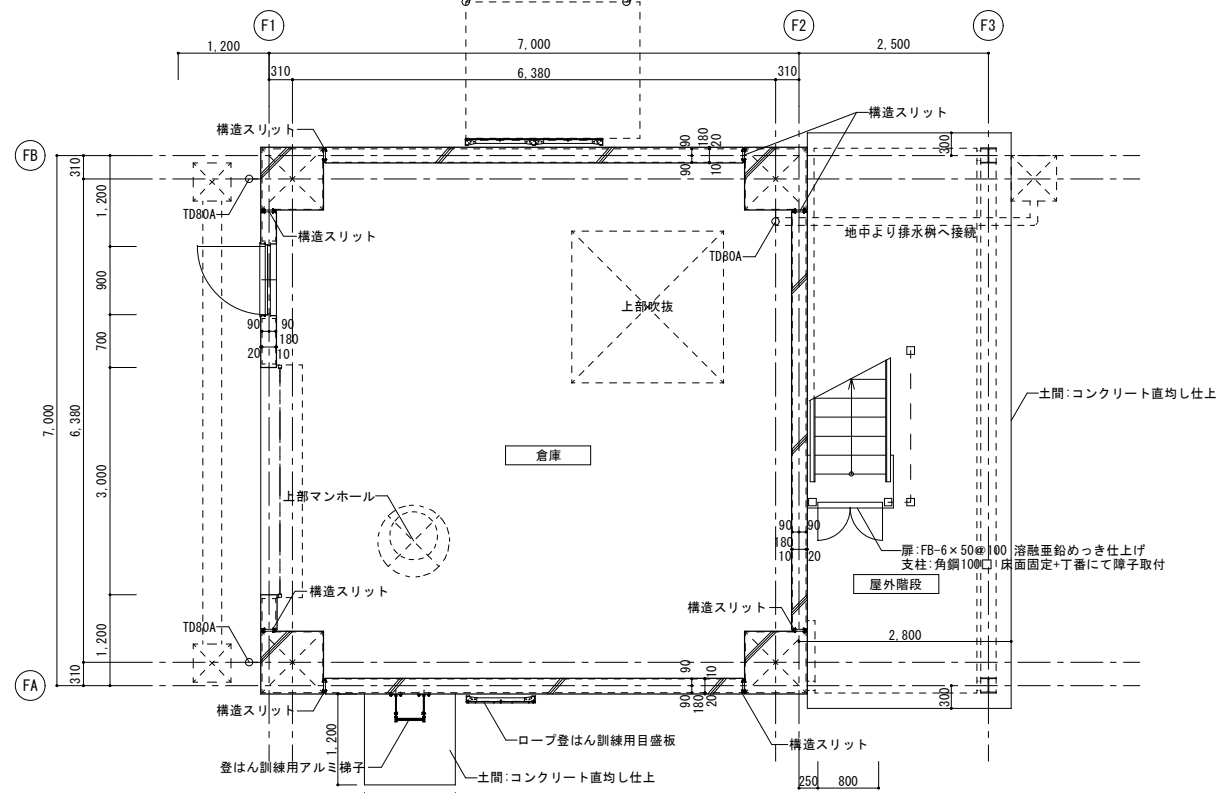
S-***	サイン符号を示す



2階平面詳細図 S=1:50

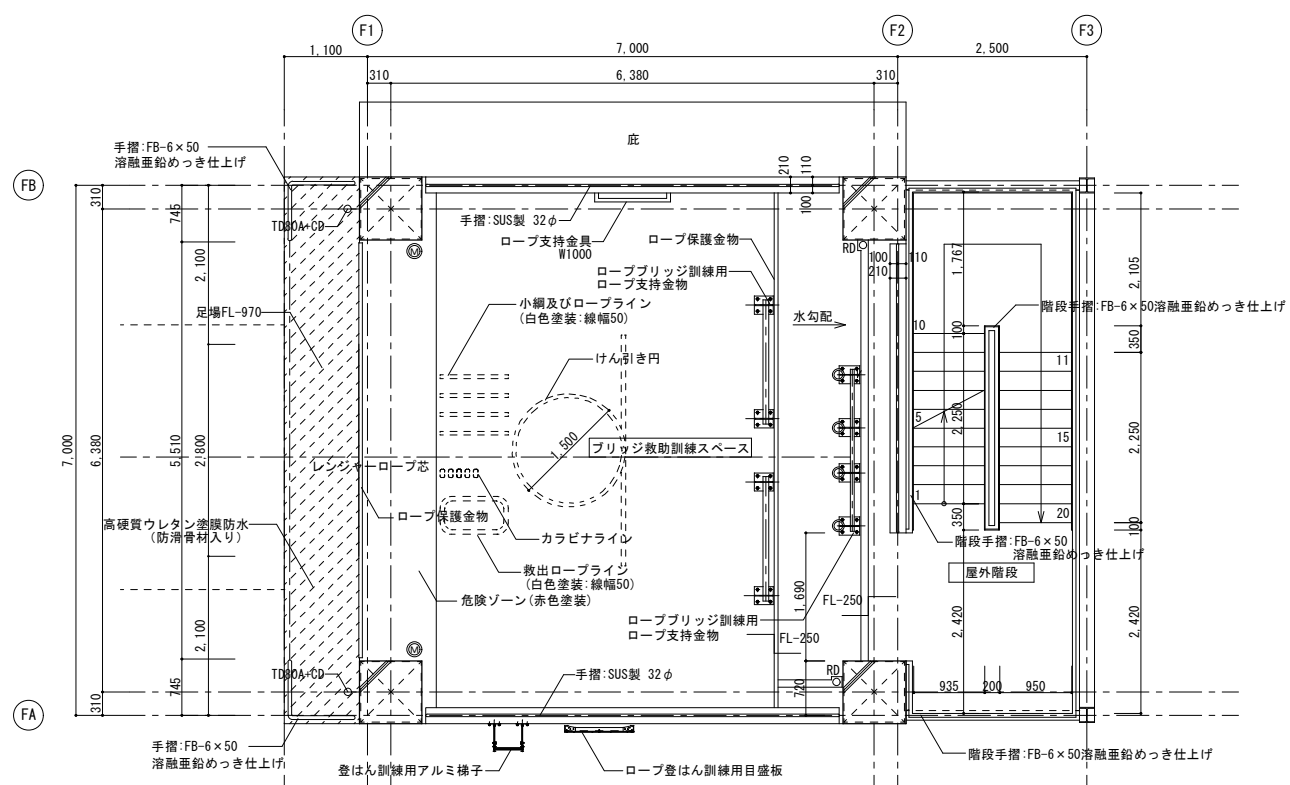
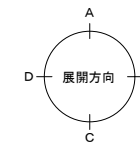


3階平面詳細図 S=1:50

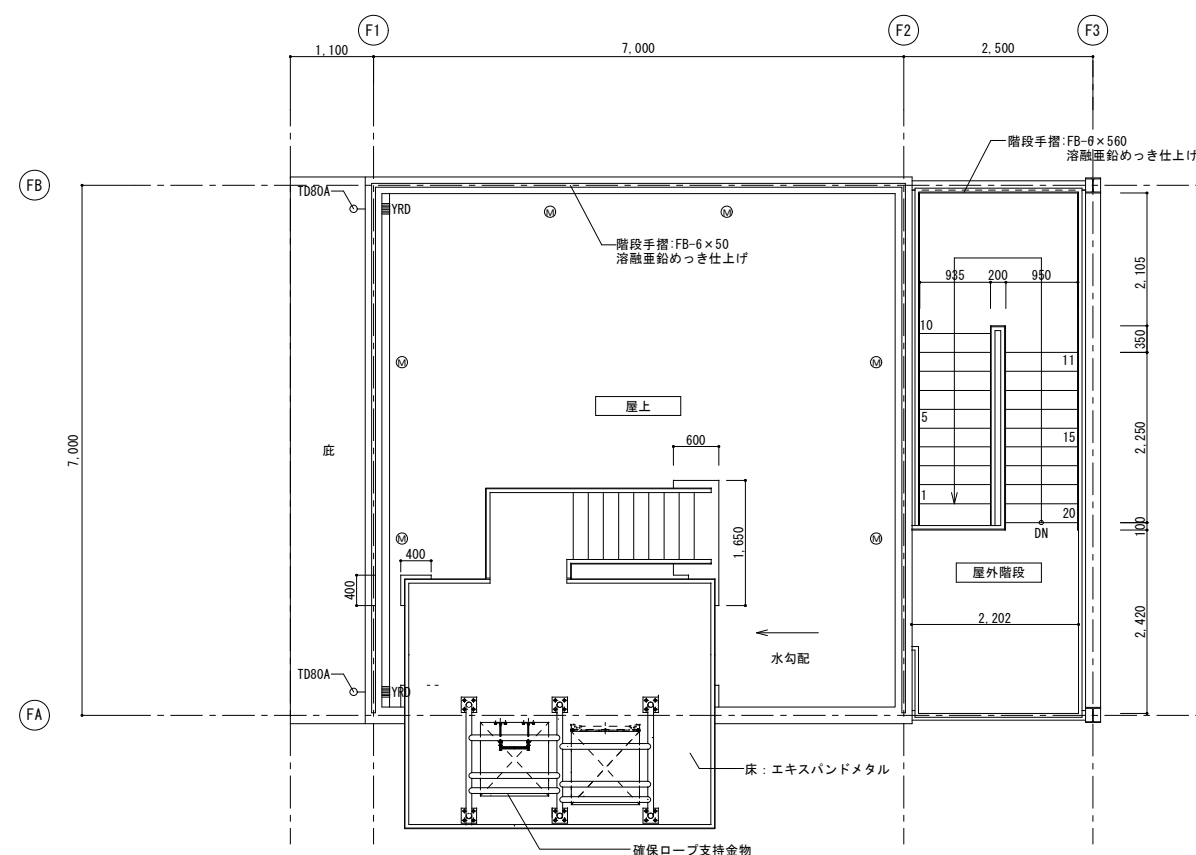


1階平面詳細図 S=1:50

凡例	
S-***	サイン符号を示す



4階平面詳細図 S=1:50

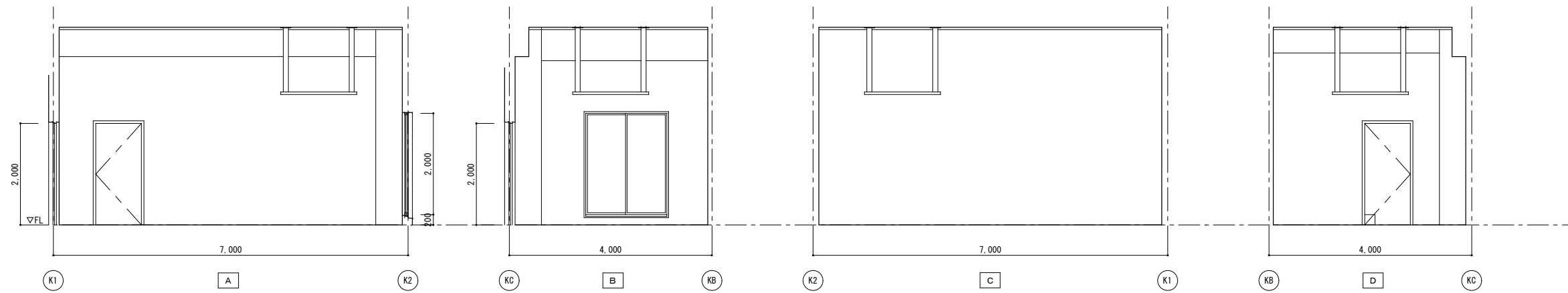


R階平面詳細図 S=1:50

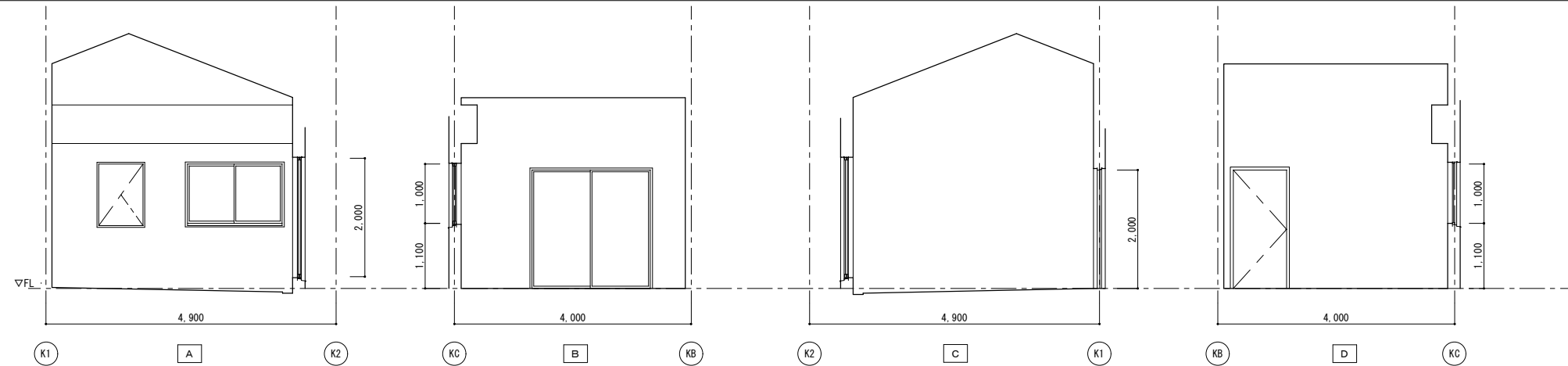
NOTE

凡例	
S-***	サイン符号を示す

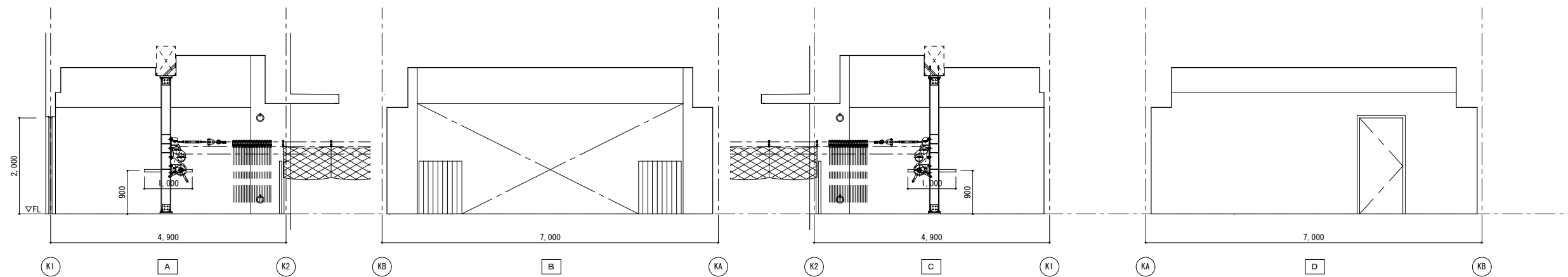
1F 燃焼室



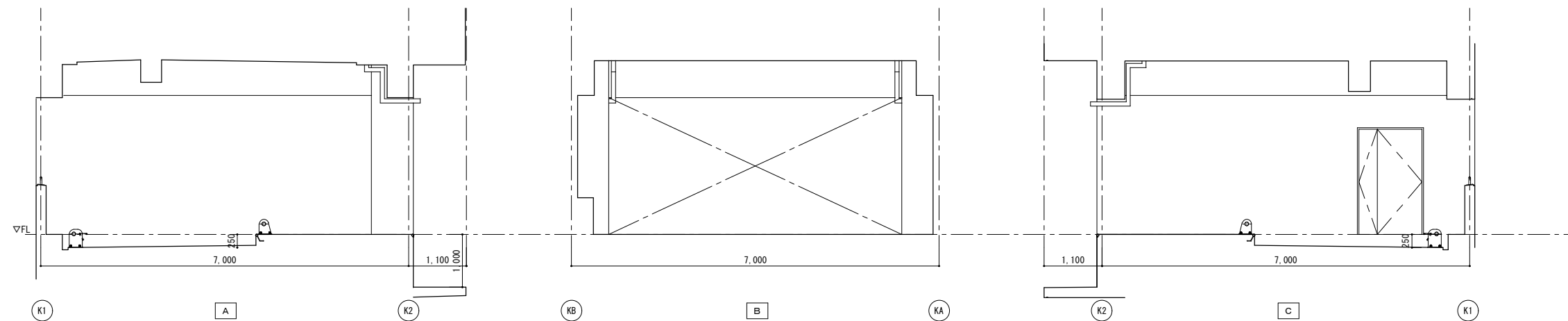
2F 訓練室1



2F 安全ネット取納

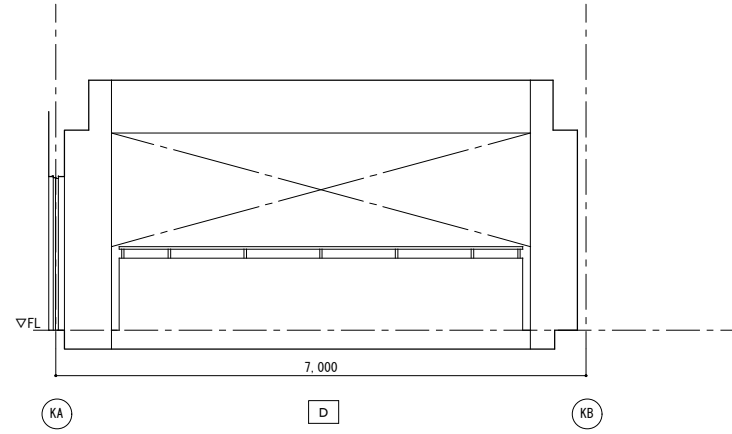


3F ブリッジ救助訓練スペース

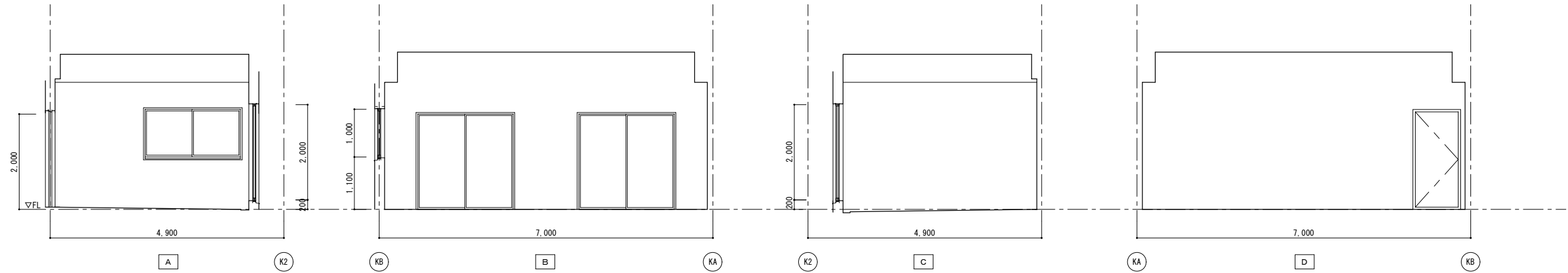


NOTE

3F ブリッジ救助訓練スペース



4F 訓練室2



NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士
第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【主訓練塔】 展開図(2)

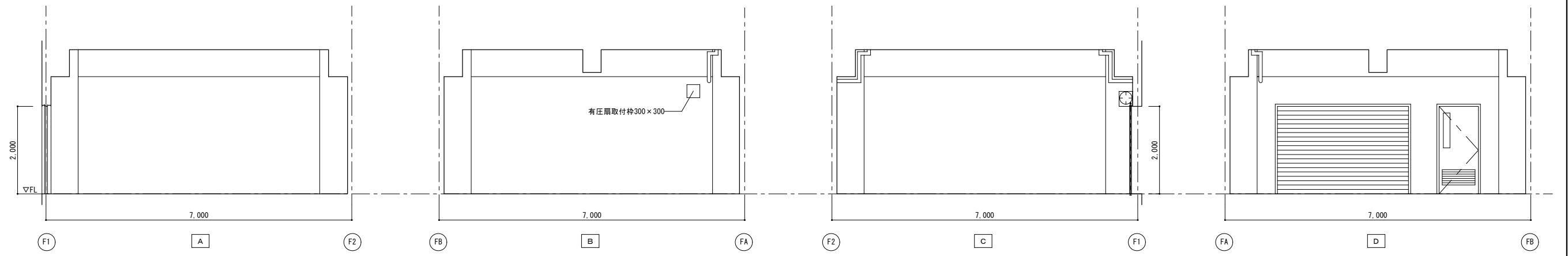
SCALE A1 : 1/50
A3 : 1/100

DWG No.

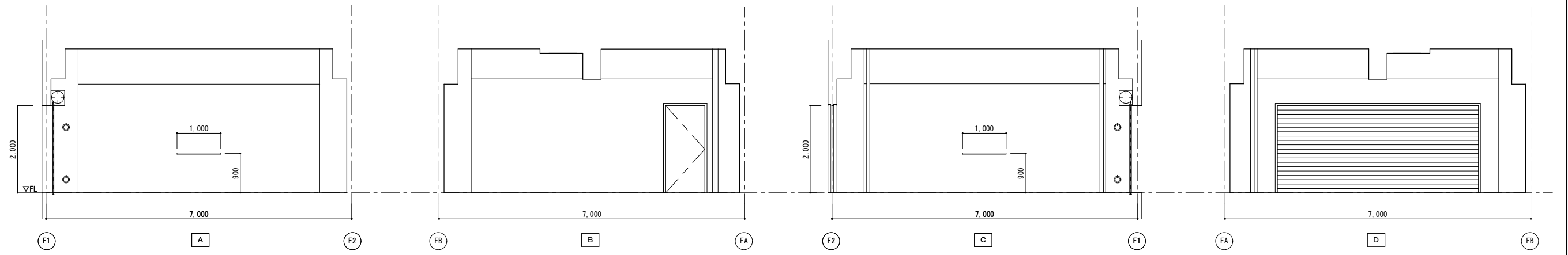
A

115

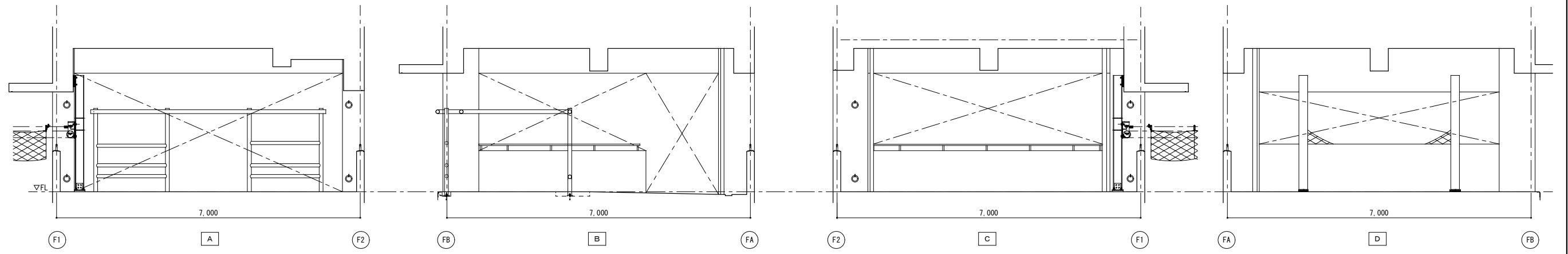
1F 倉庫



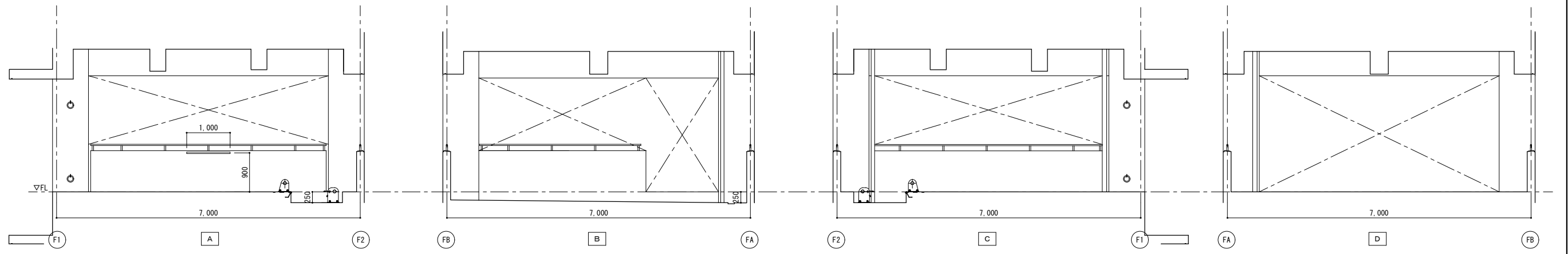
2F 全天候型低所訓練室



3F 引揚げ救助訓練スペース

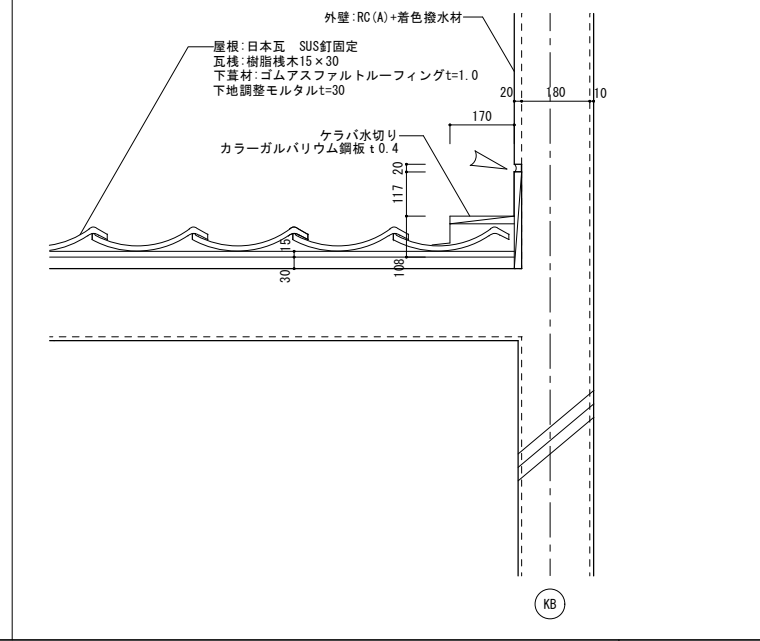
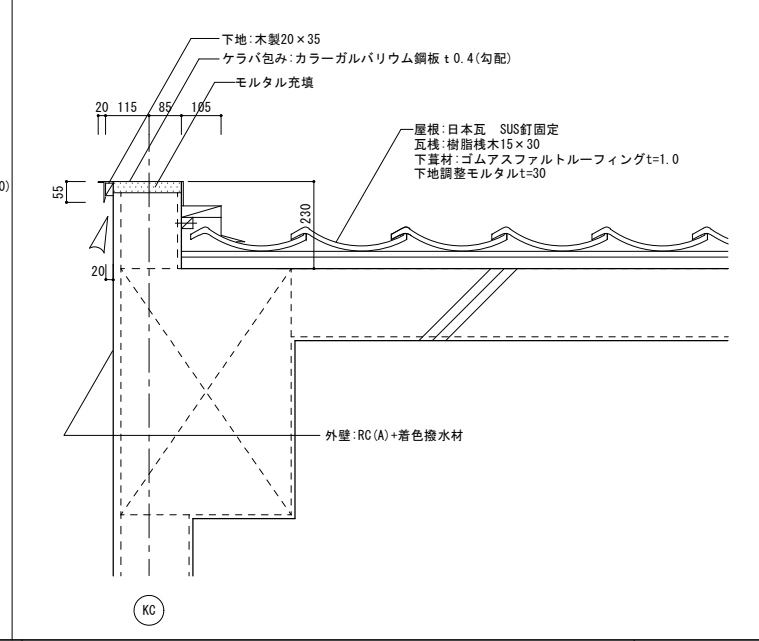
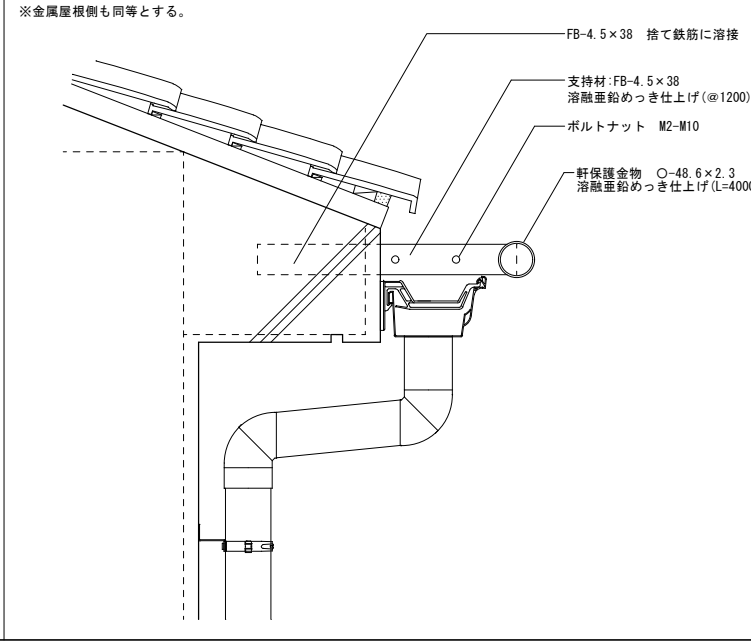
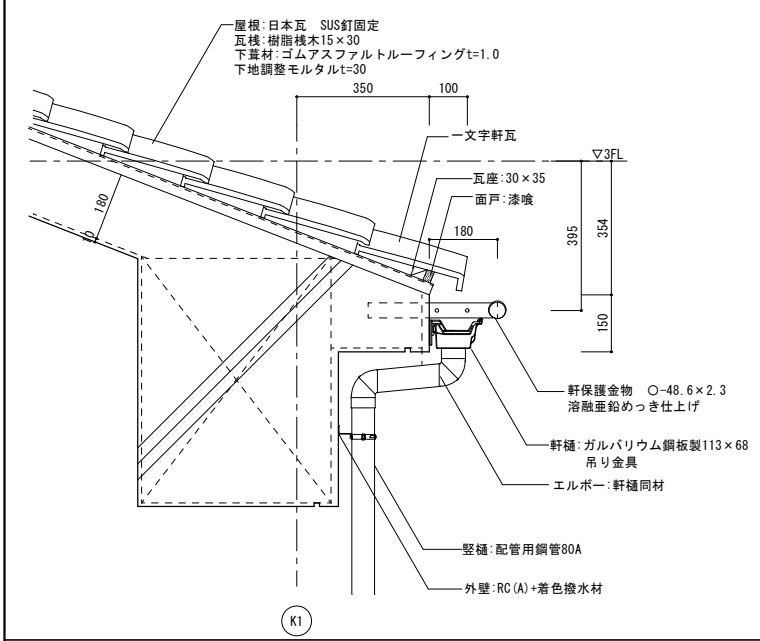
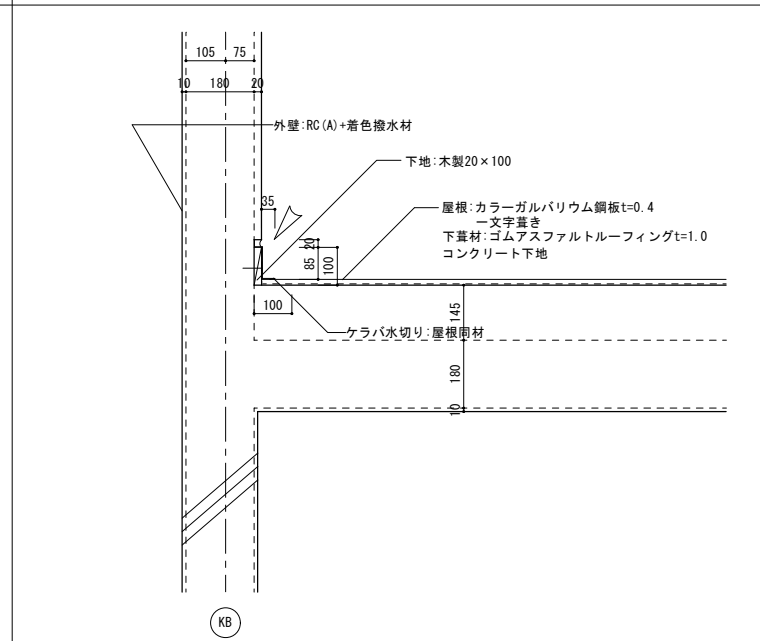
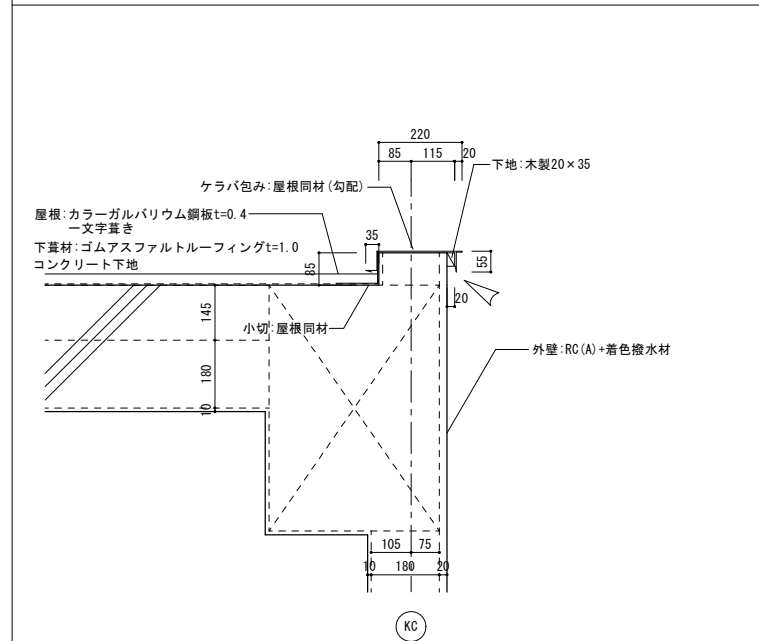
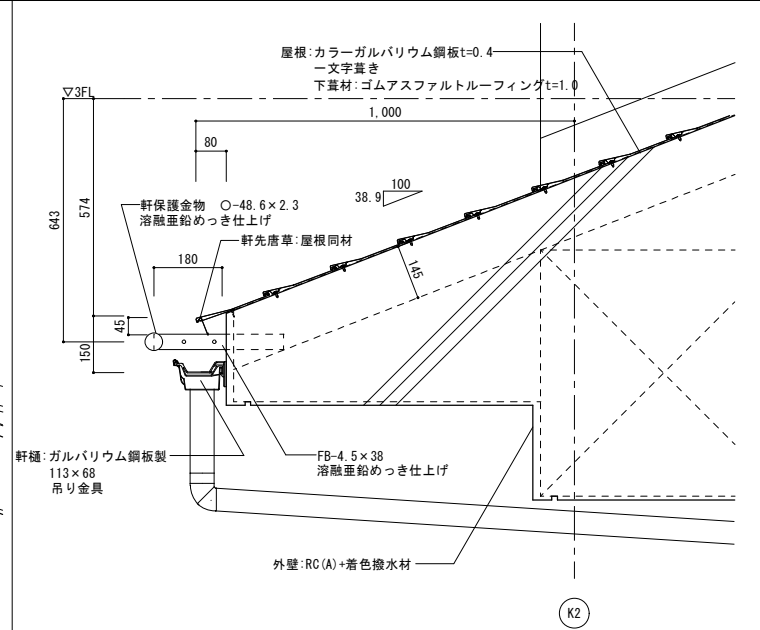
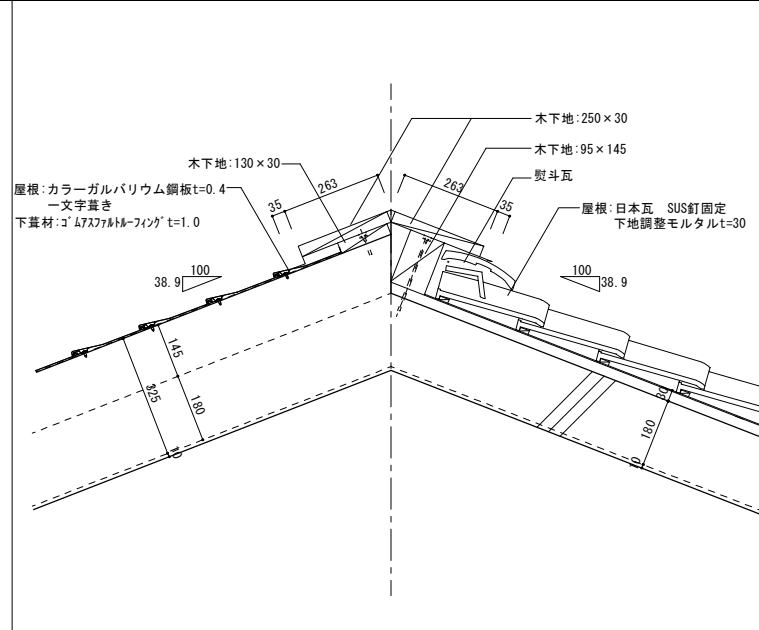
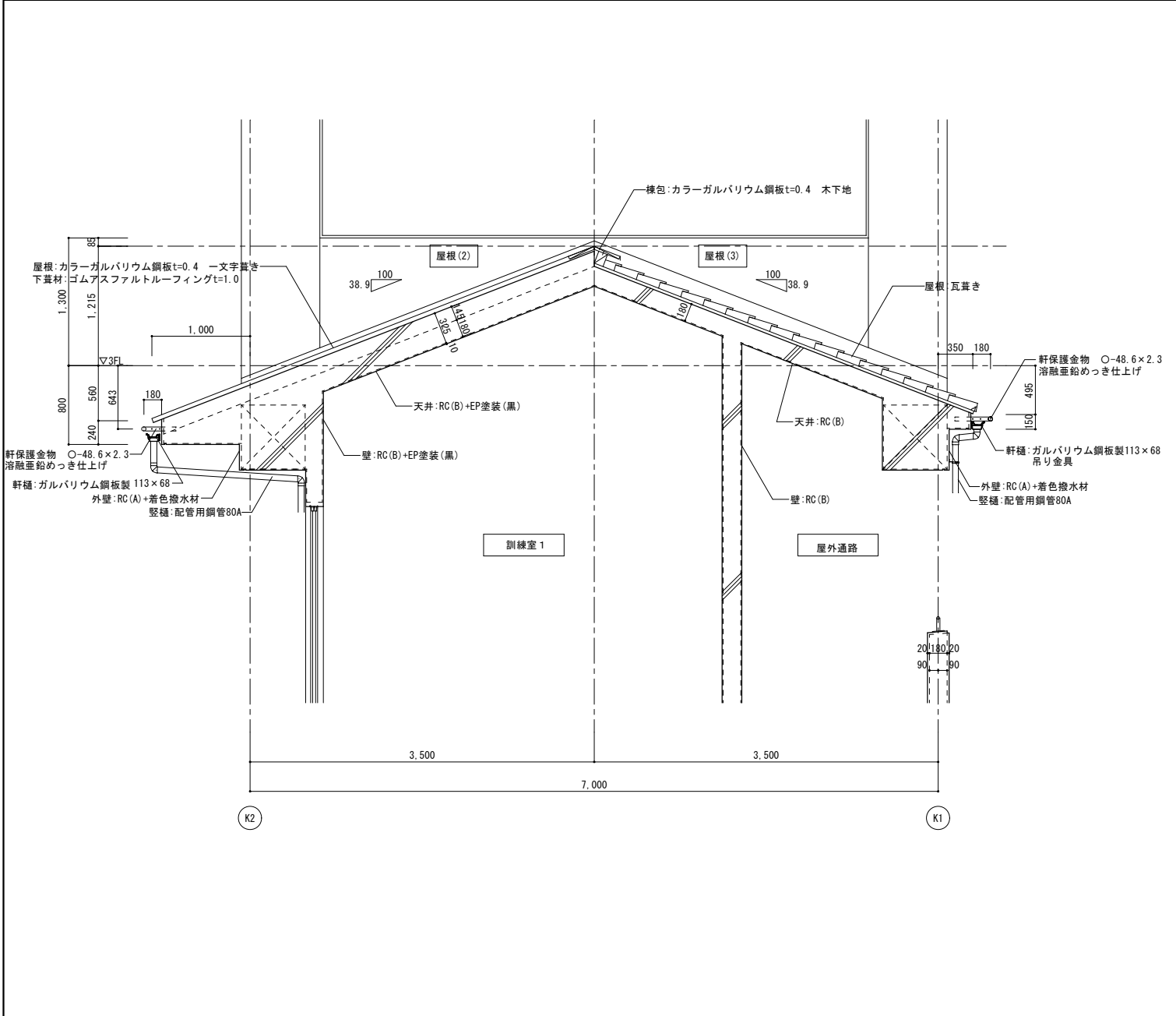


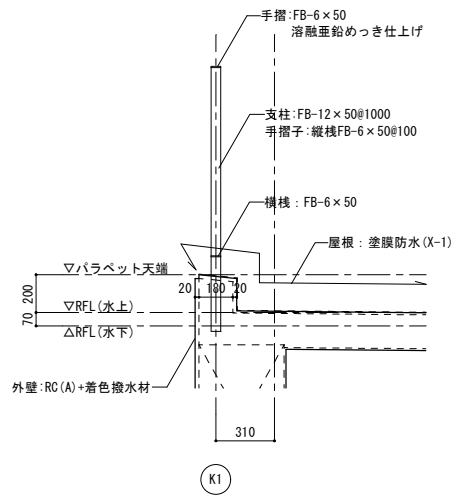
4F ブリッジ救助訓練スペース



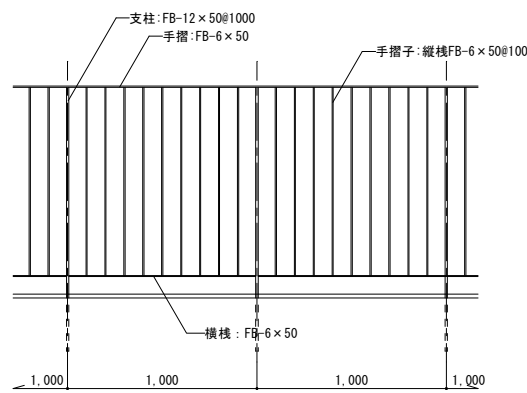
NOTE

符号・名称	縦にり窓	引違い窓	引違い窓						
取付場所	主訓練塔 訓練室1	主訓練塔 訓練室1・2	主訓練塔 訓練室1・2						
数量	1	2F:1 4F:1	2F:1 4F:2						
ガラス	ポリカーボネート板t5	ポリカーボネート板t5	ポリカーボネート板t6						
金物など	クレセント錠 付属金物一式	クレセント錠 付属金物一式	錠なし 付属金物一式						
符号・名称	引違い扉	片開き扉	片開き扉	片開き扉+小窓	片開き扉	片開き扉	親子開き扉		
取付場所	主訓練塔 燃焼室	主訓練塔 燃焼室	主訓練塔 燃焼室	主訓練塔 倉庫	主訓練塔 屋外通路	主訓練塔 安全ネット収納、訓練室1・2	主訓練塔 ブリッジ救助訓練スペース		
数量	1	1	1	1	2F:1 4F:1	2F:2 4F:1	1		
ガラス	サムターン錠、引棒、SUSレール、SUS戸車 付属金物一式	サムターン錠、DC、レバーハンドル、SUS-H(3箇所) 付属金物一式	錠なし、DC、レバーハンドル、SUS-H(3箇所) 付属金物一式	NFt6.8 DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り、サムターン錠 付属金物一式	DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り 付属金物一式	錠なし、DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り 付属金物一式	DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り、順位調整機 付属金物一式		
符号・名称	軽量バランスシャッター(手動・露出)								
取付場所	主訓練塔 倉庫								
数量	1								
ガラス									
金物など	スラット:スチール、座板・ガイドレール・まぐさ:SUS製 付属金物一式								
符号・名称	片開き扉+小窓	片開き扉		軽量バランスシャッター(手動・露出)	軽量バランスシャッター(手動・露出)				
取付場所	副訓練塔 倉庫	副訓練塔 全天候型低所訓練	副訓練塔 倉庫	副訓練塔 全天候型低所訓練					
数量	1	1	1	1					
ガラス	P8	NFt6.8							
金物など	DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り、サムターン錠 付属金物一式	DC、レバーハンドル、SUS-H、戸当り、 錠なし、付属金物一式		スラット:スチール、座板・ガイドレール・まぐさ:SUS製 付属金物一式	スラット:スチール、座板・ガイドレール・まぐさ:SUS製 付属金物一式				
符号・名称									

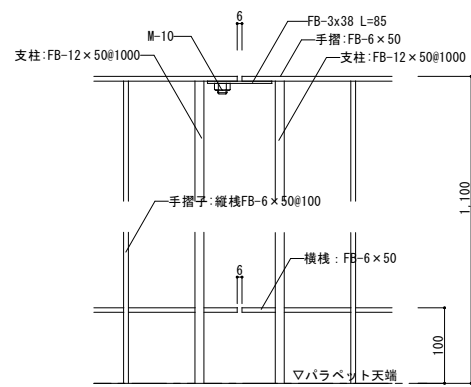




立上り部詳細図 S=1/20

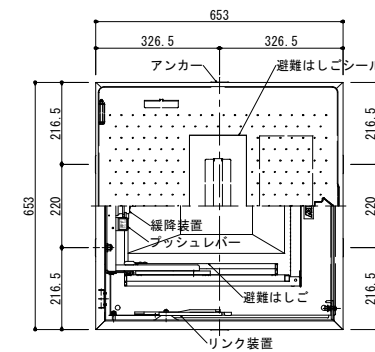


立面詳細図 S=1/20

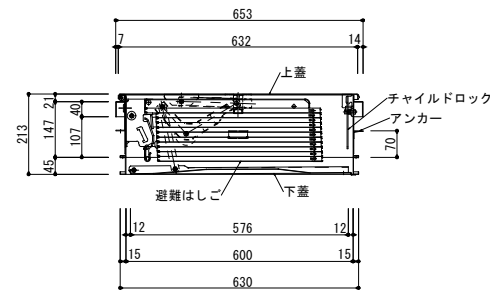


手摺ジョイント部詳細図 S=1:5

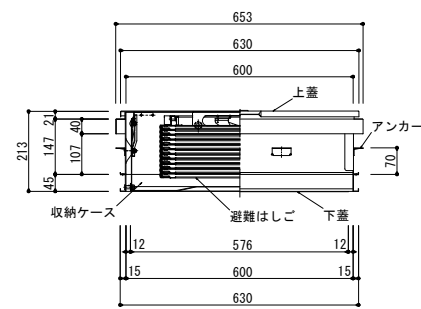
※鉄部は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする



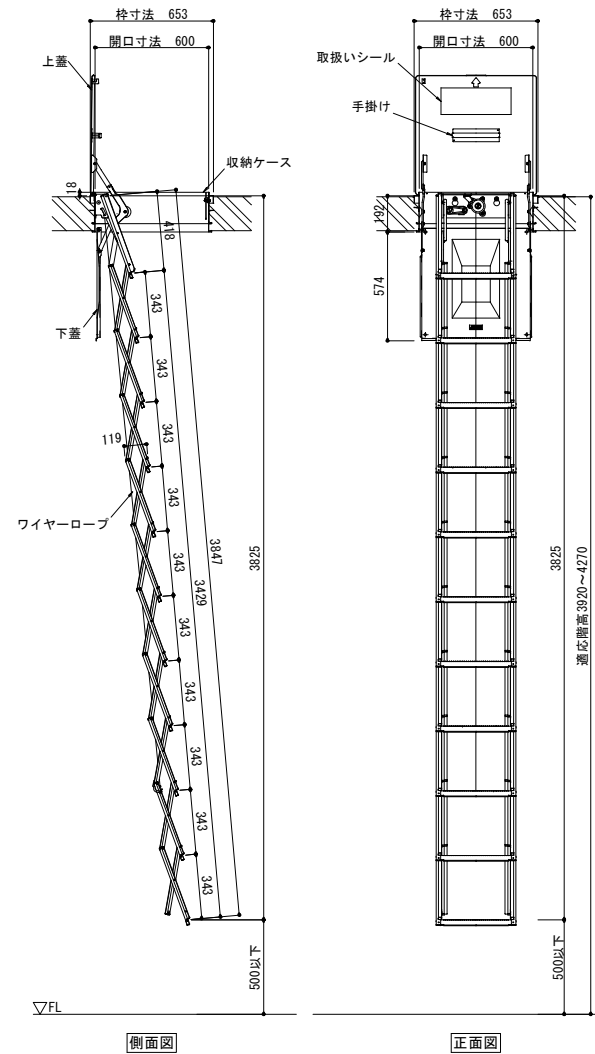
平面図



収納状態 S=1/10

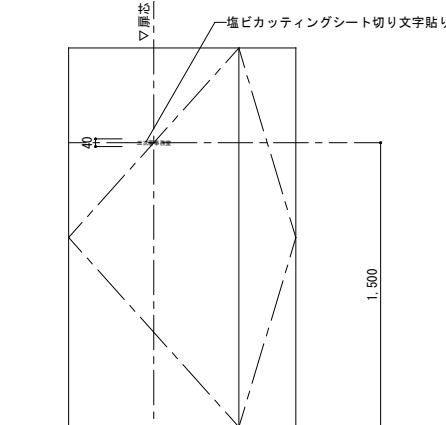


展開状態 S=1/20

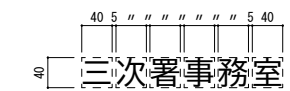


側面図

正面図



位置図 S=1/30



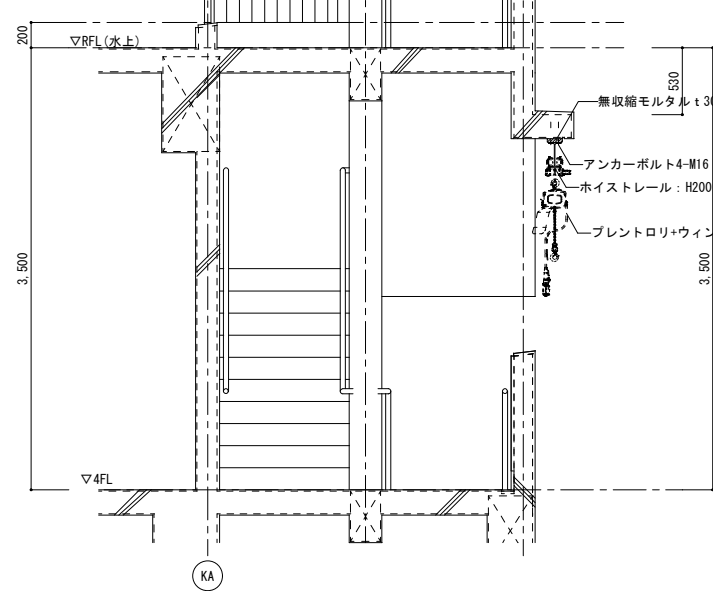
姿図 S=1/5

<表示内容>

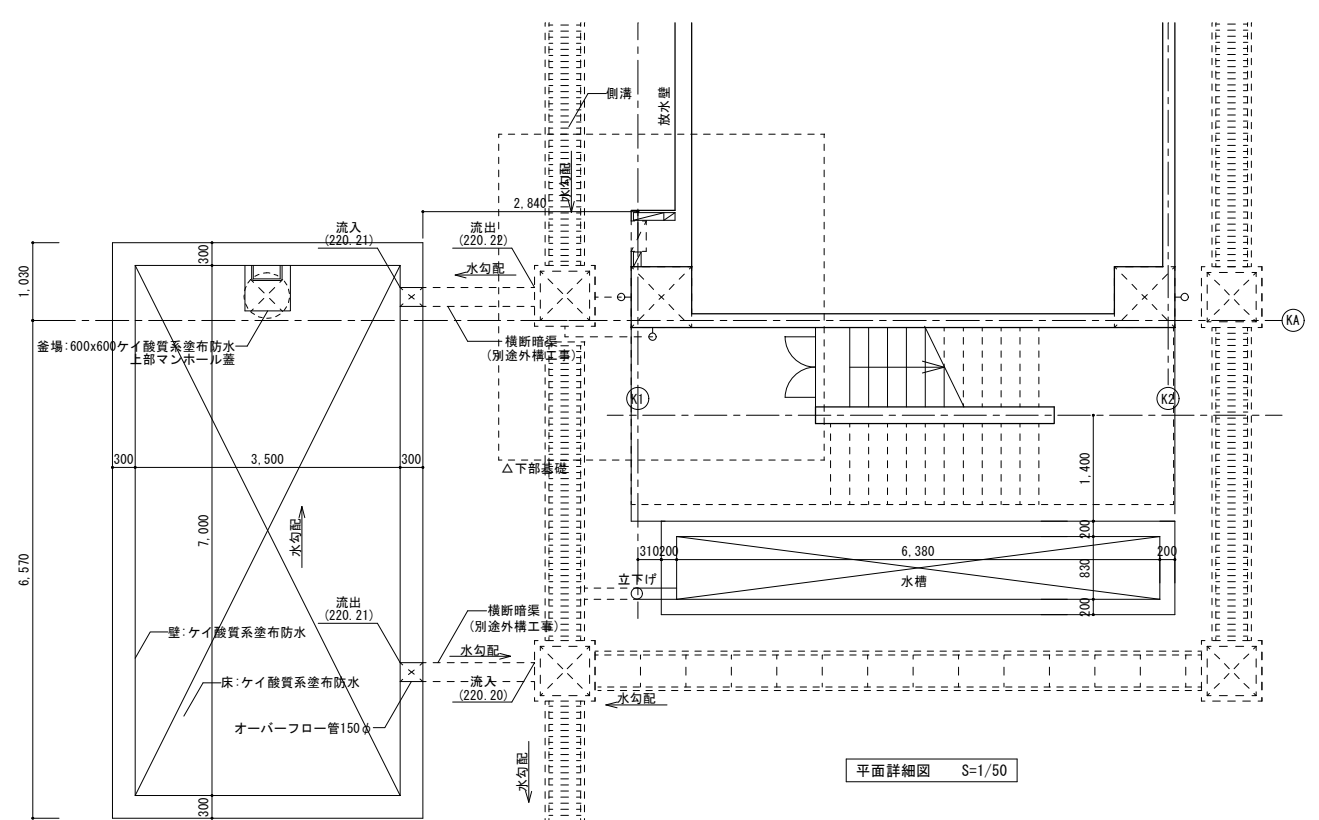
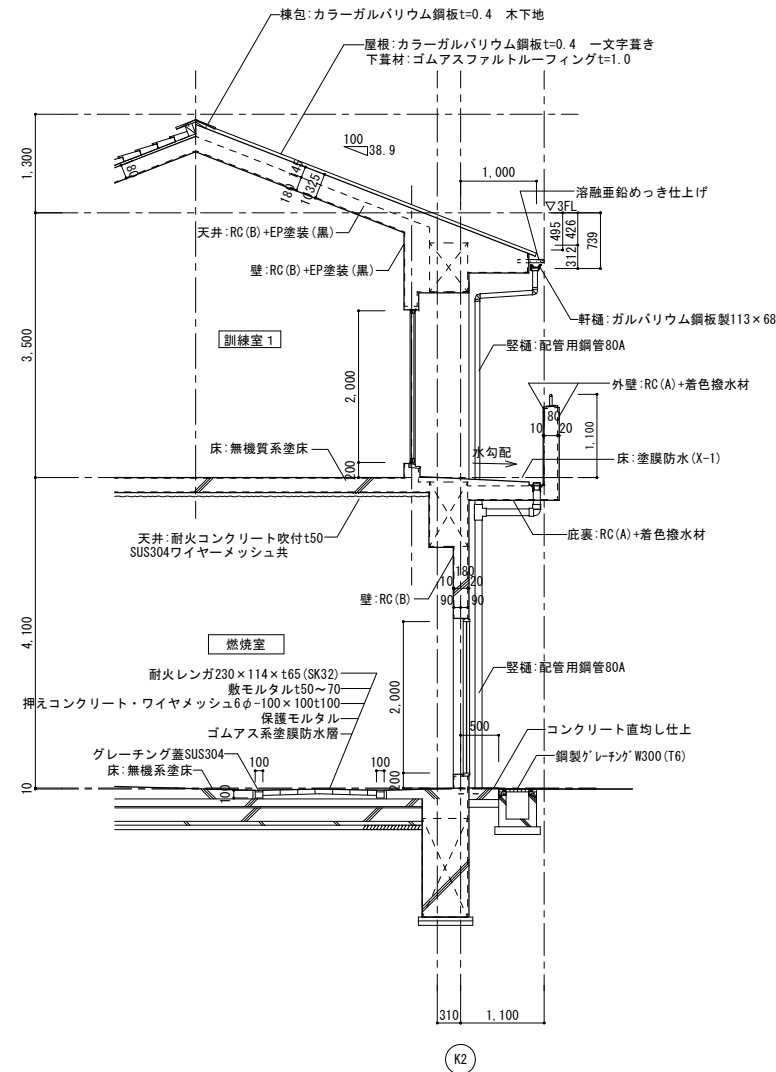
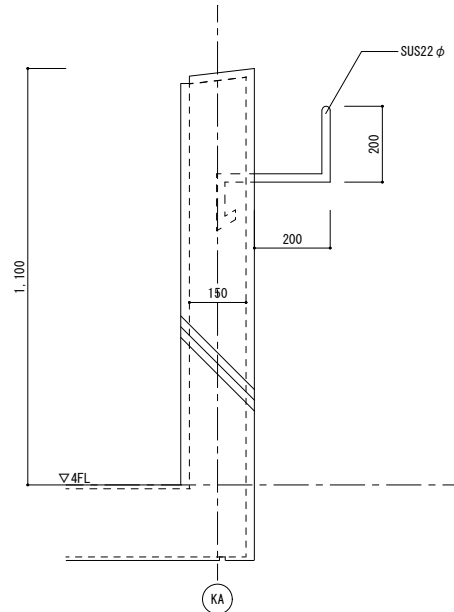
- 主訓練塔
 - 倉庫
 - 燃焼室 ×2
 - 訓練室 1
 - 訓練室 2
- 副訓練塔
 - 倉庫
 - 全天候型低所訓練室

・表示：塩ビカッティングシート切り文字張り
 ・書体：BIZ UDゴシック
 ※表示内容・取付位置は、現場にて消防職員と調整・確認すること。

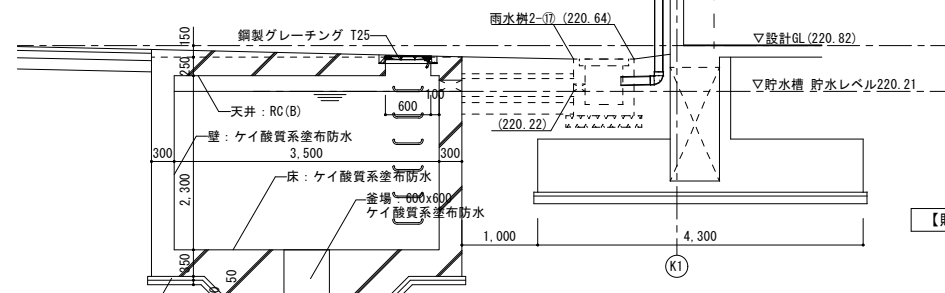
※鉄部:溶融亜鉛めっき仕上げ



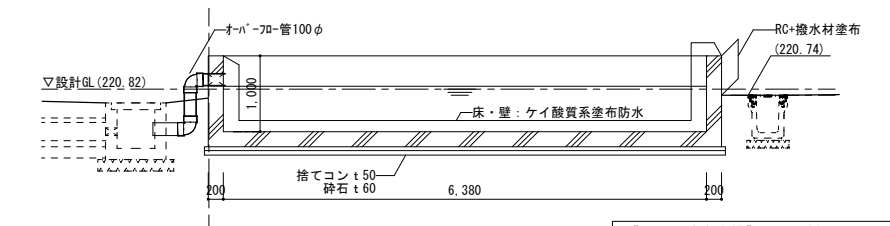
(既存品番)
 トロリ: 象印チェーンブロック(株)P-0.5
 チェーンブロック: 京セラ AW1M125B
 (揚程30m、最大吊揚荷重130kg)



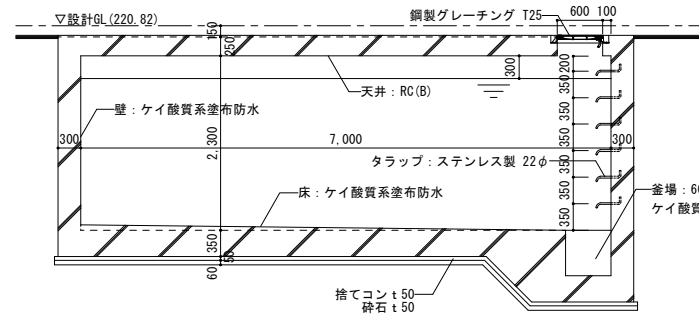
平面詳細図 S=1/50



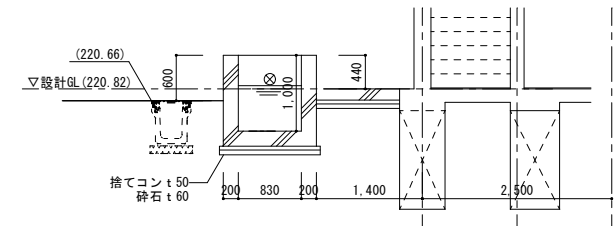
【貯水槽】断面詳細図 S=1/50



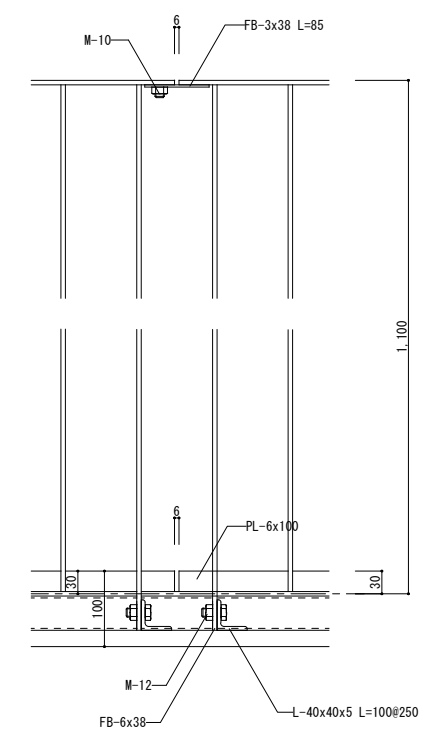
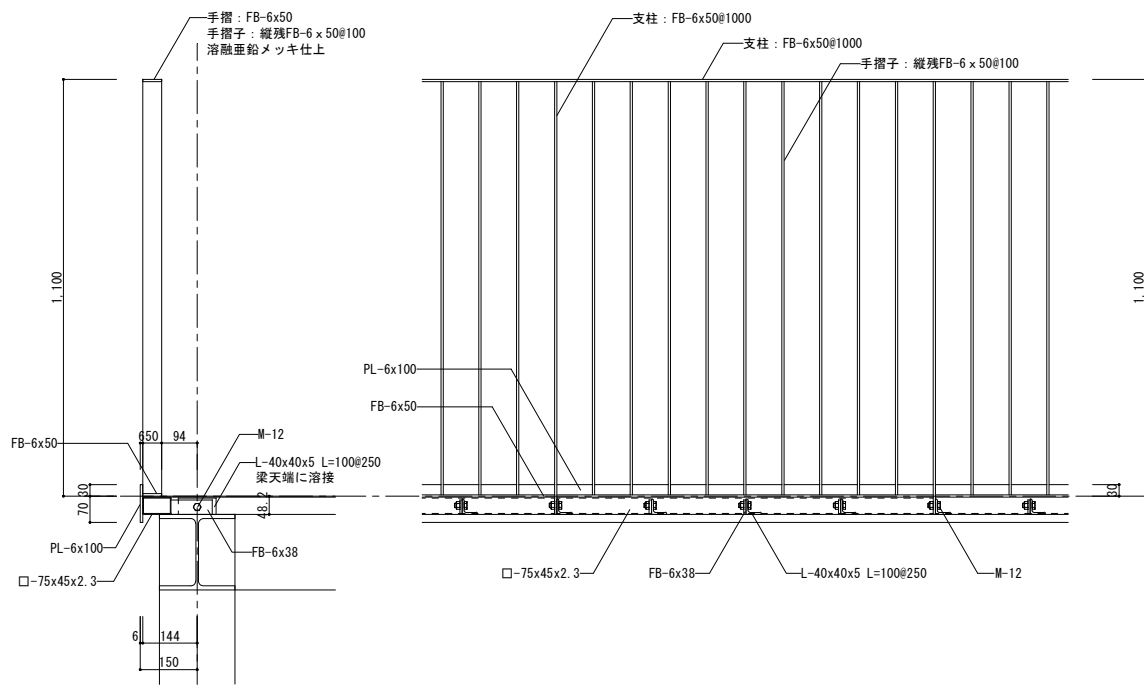
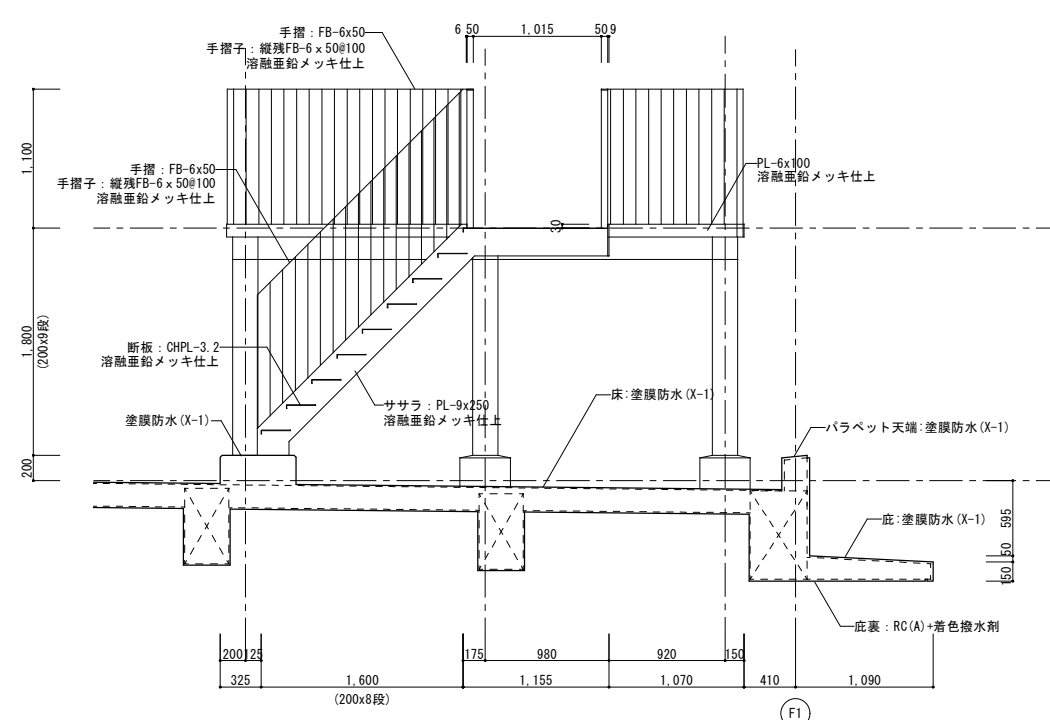
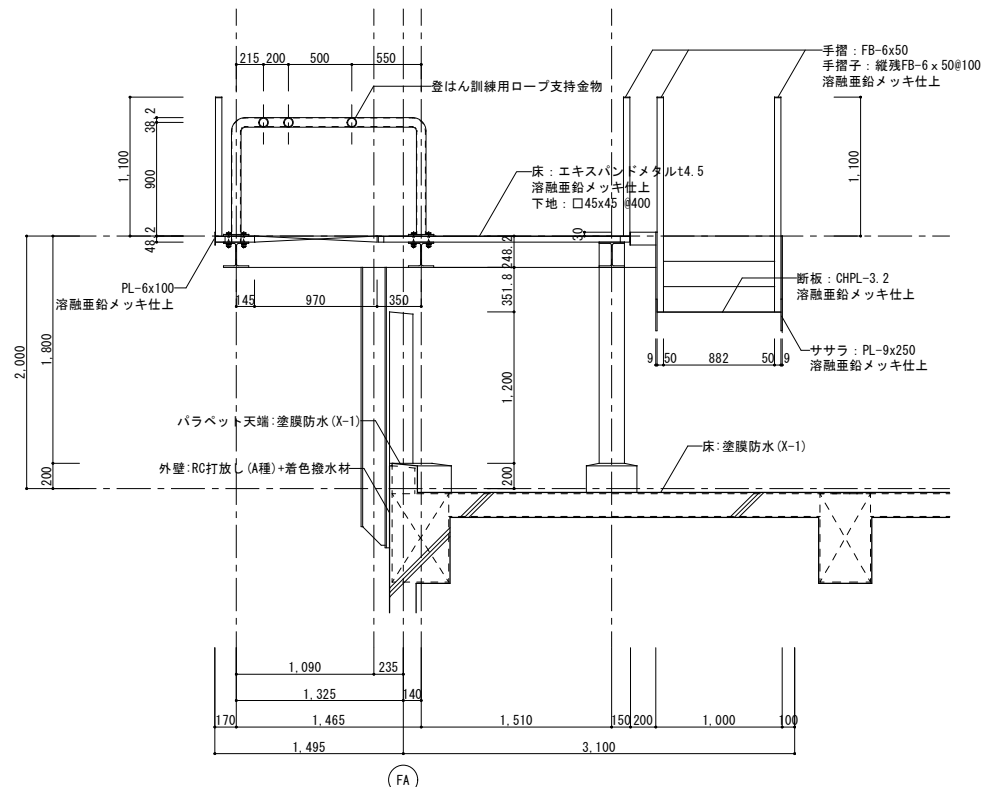
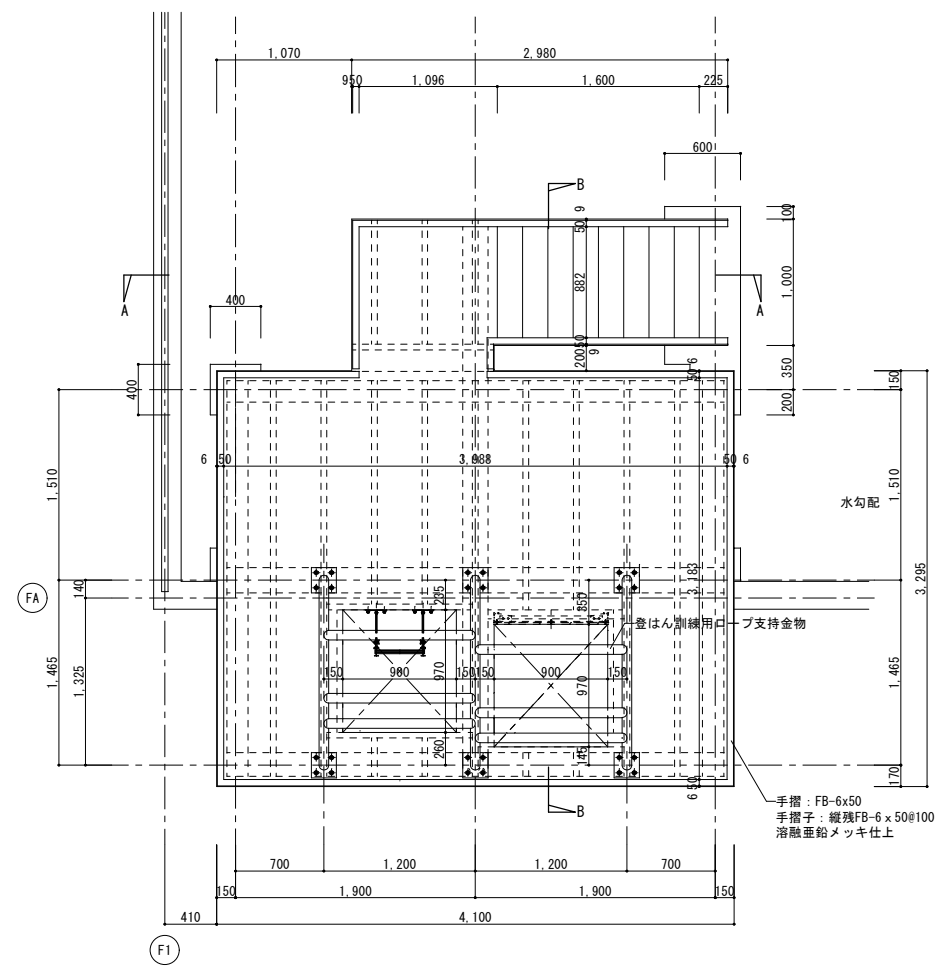
【ホース洗浄水槽】断面詳細図 S=1/50



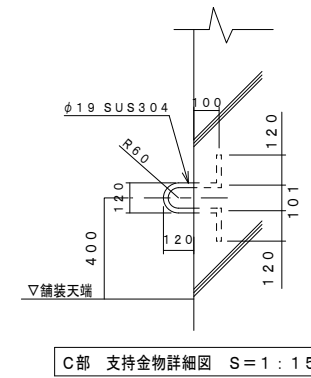
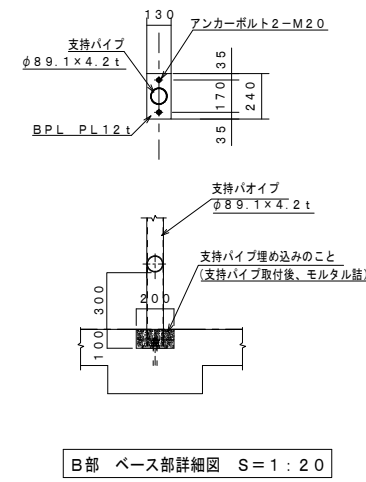
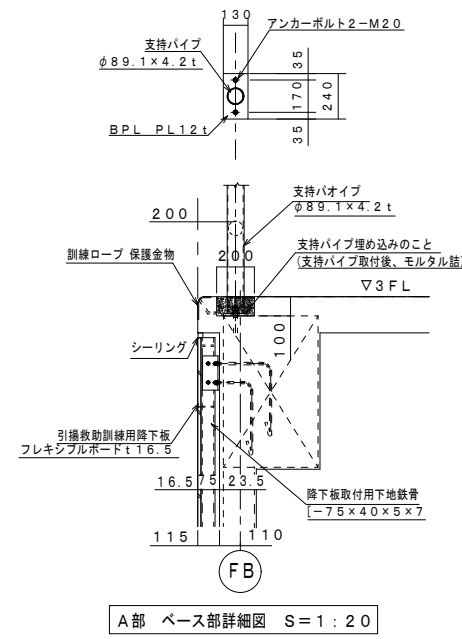
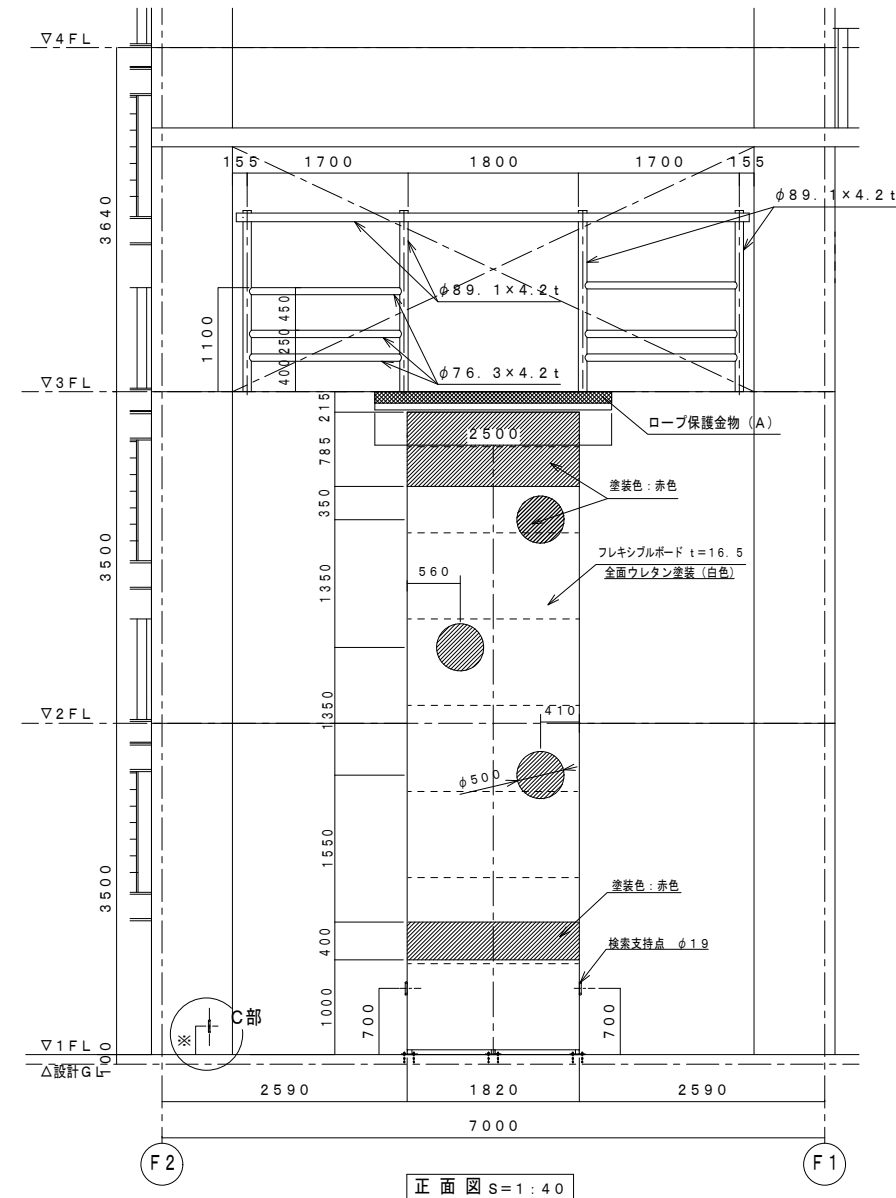
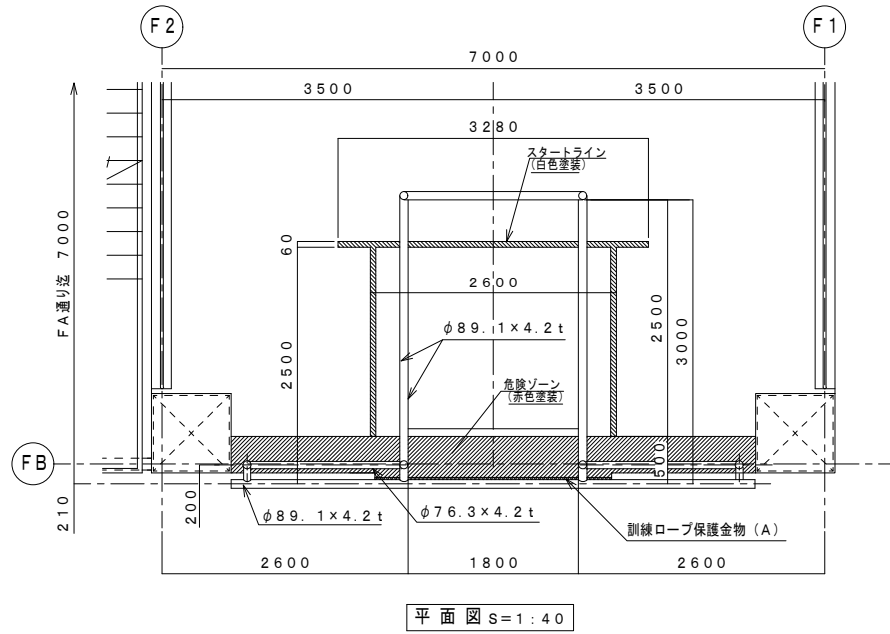
【貯水槽】断面詳細図 S=1/50



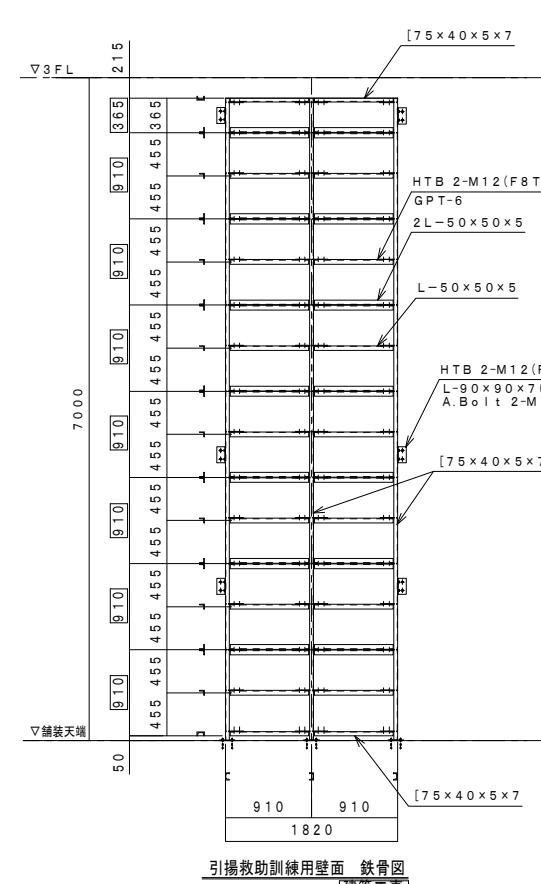
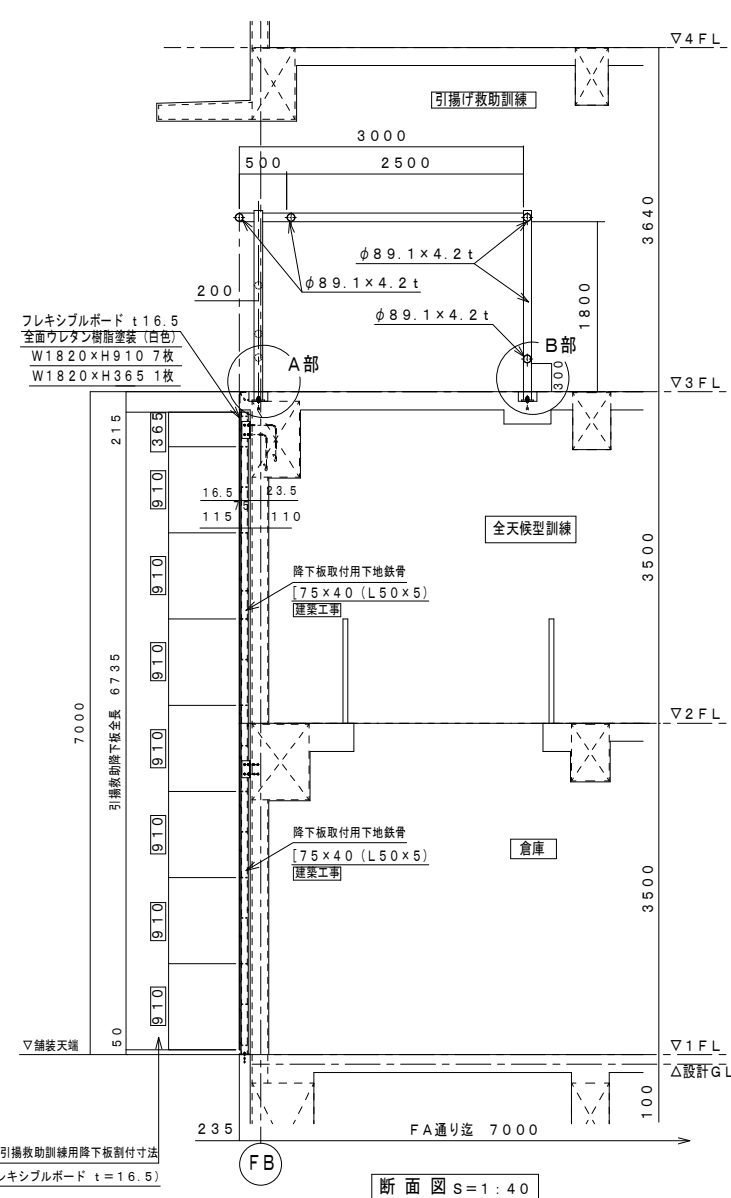
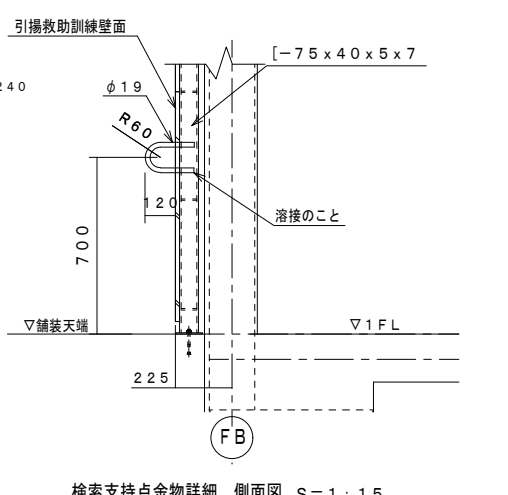
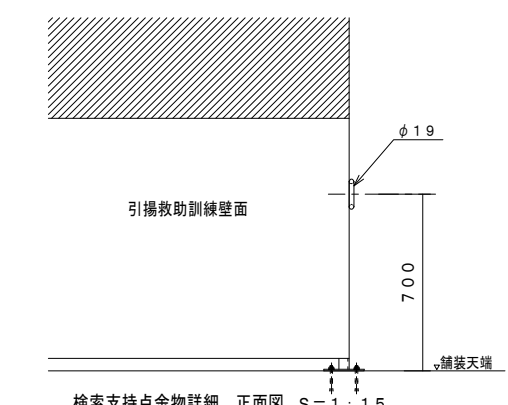
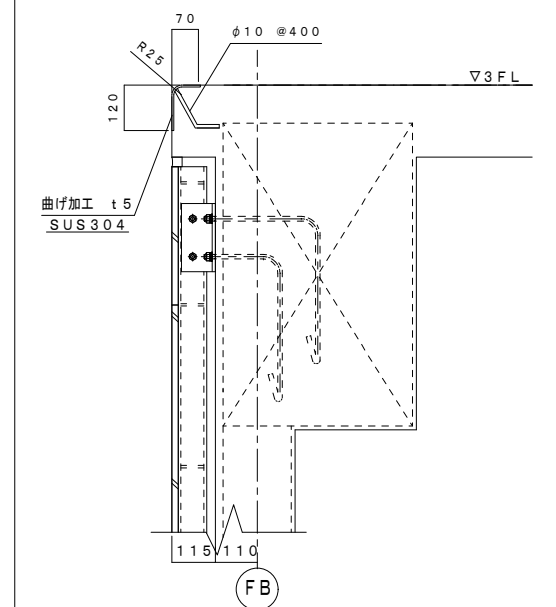
【ホース洗浄水槽】断面詳細図 S=1/50

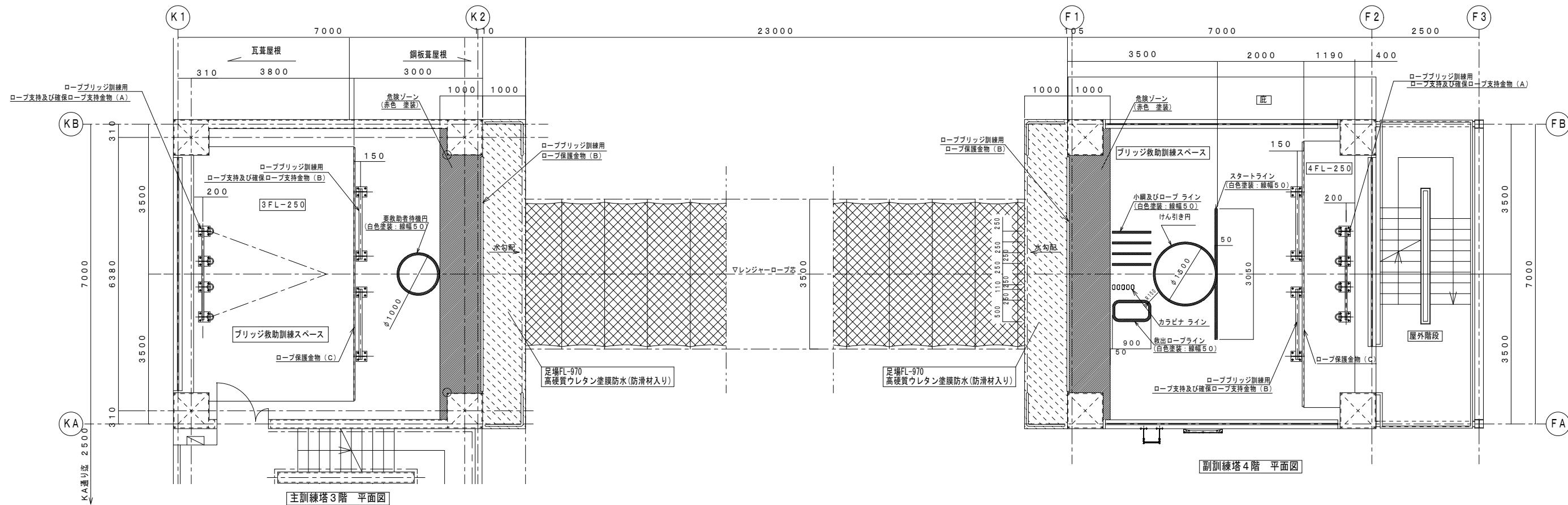


1. 設置ヶ所数: 副訓練塔 1ヶ所
※鉄部は溶融塗膜めっきとする。



1. 設置ヶ所数: 副訓練塔 (3階) L=2500 1ヶ所
※鉄部は溶融塗膜めっきとする。

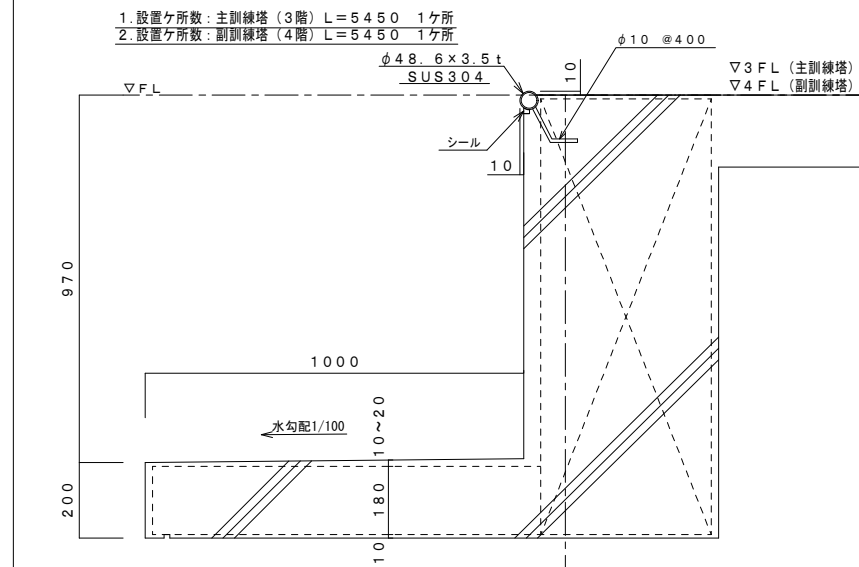
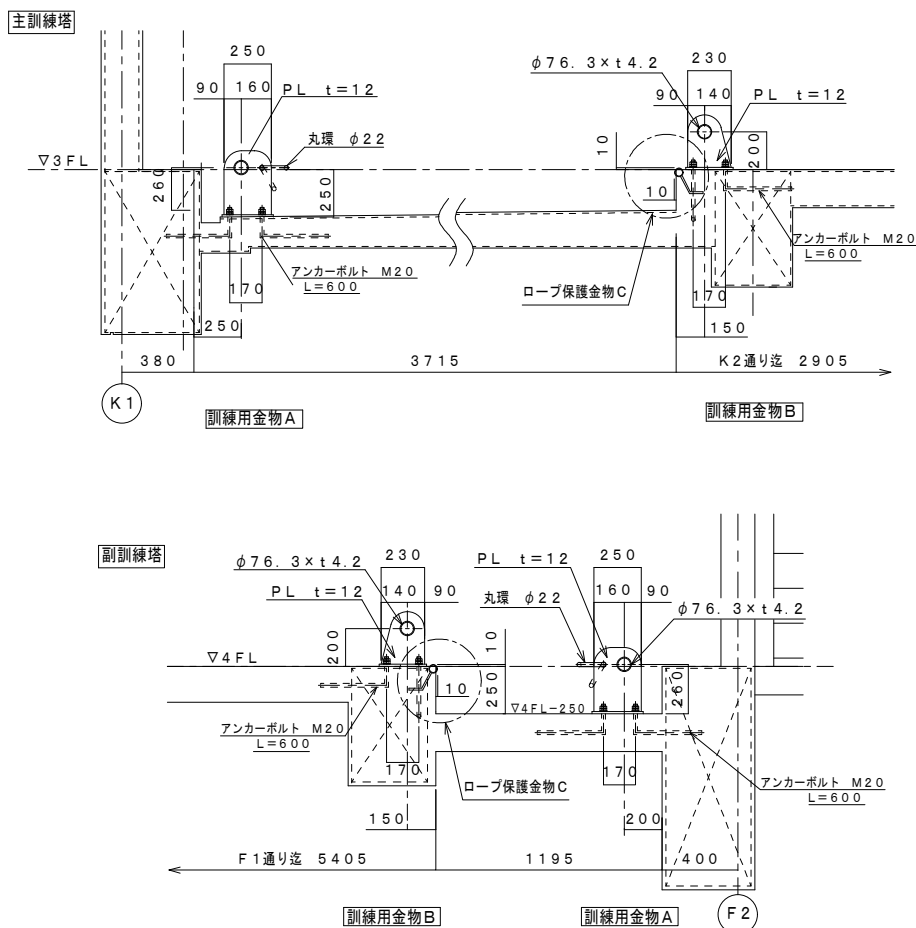
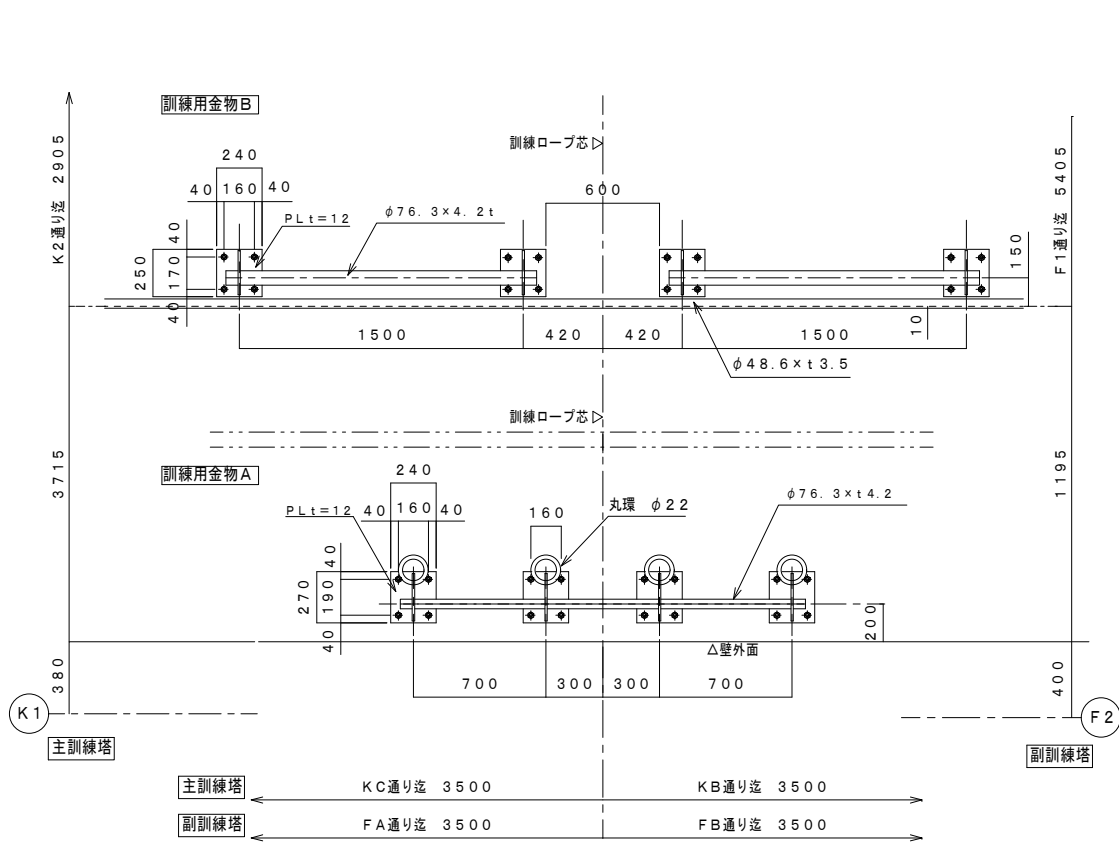




ロープブリッジ訓練用ロープ支持金物及び確保ロープ支持金物 (A)、(B) 詳細図

訓練ロープ保護金物 (B) 詳細図

※鉄部は溶融亜鉛めっきとする。



訓練ロープ保護金物 (C) 詳細図

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第34064号 佐藤 彰洋

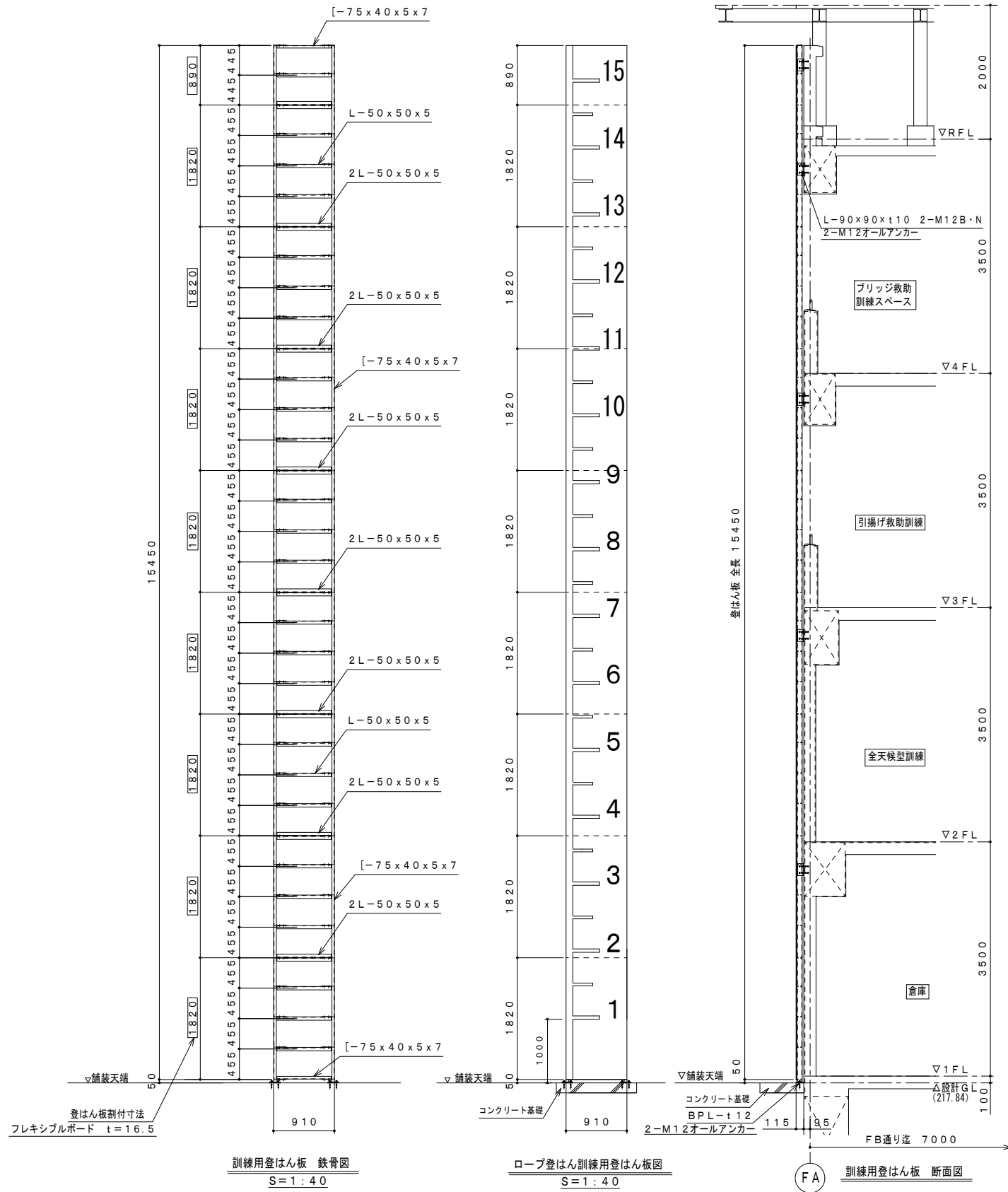
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【主訓練塔・副訓練塔】訓練器具詳細図(2)

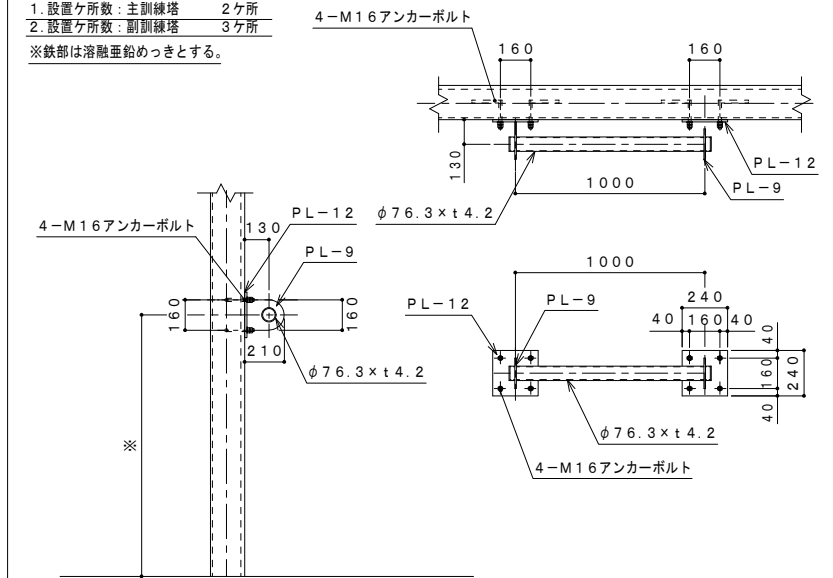
SCALE
 A1: 1/10・20・50
 A3: 1/20・40・100

DWG No.
 A
 123

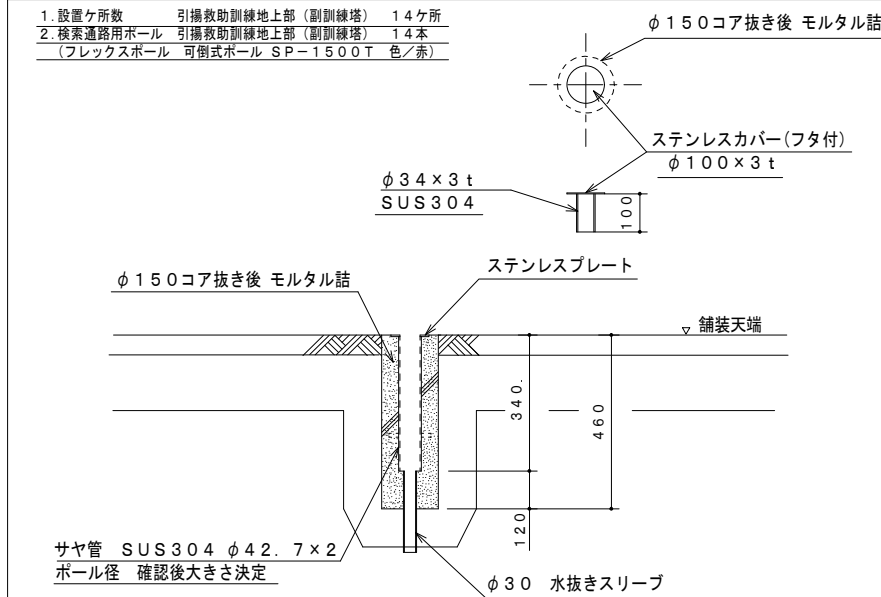
1. 設置ヶ所数：副訓練塔 1ヶ所
※鉄部は溶融亜鉛めっきとする。



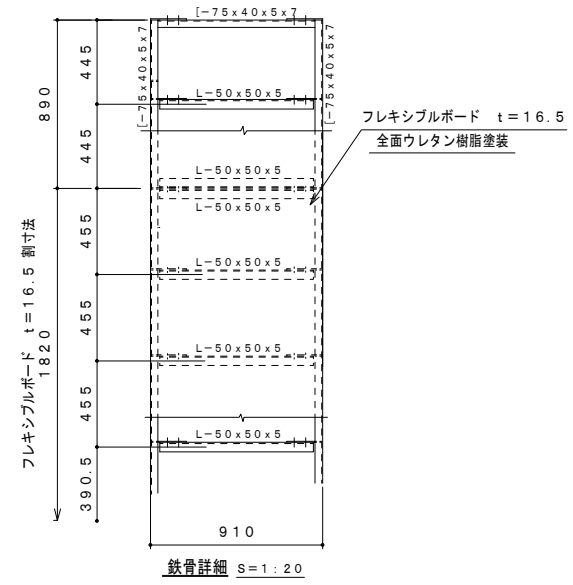
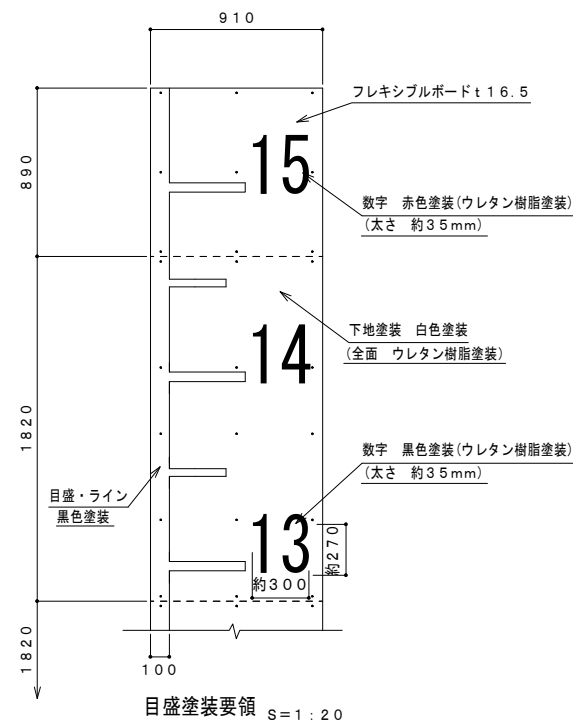
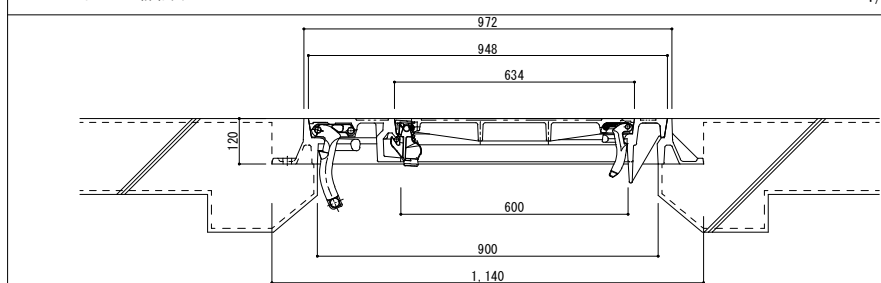
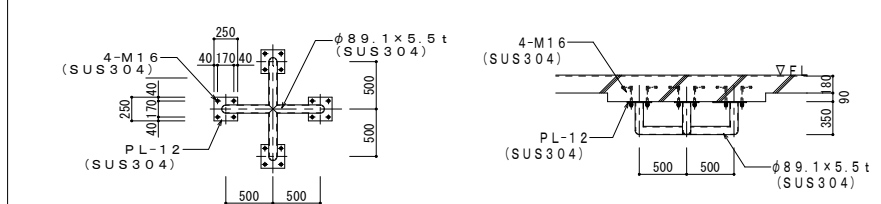
1. 設置ヶ所数：主訓練塔 2ヶ所
2. 設置ヶ所数：副訓練塔 3ヶ所
※鉄部は溶融亜鉛めっきとする。

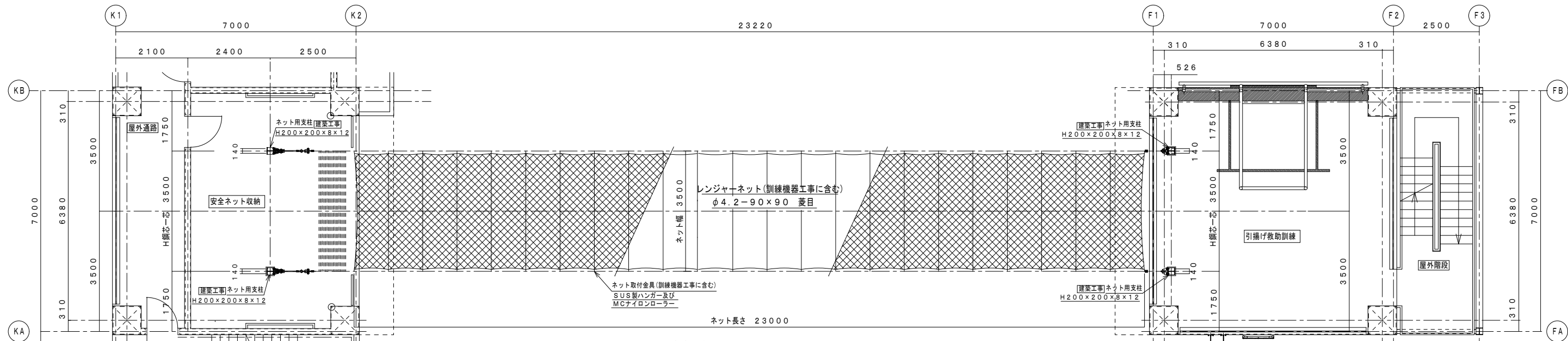


1. 設置ヶ所数 引揚救助訓練地上部 (副訓練塔) 14ヶ所
2. 検査通路用ポール 引揚救助訓練地上部 (副訓練塔) 14本
(フレックスポール 可倒式ポール SP-1500T 色/赤)

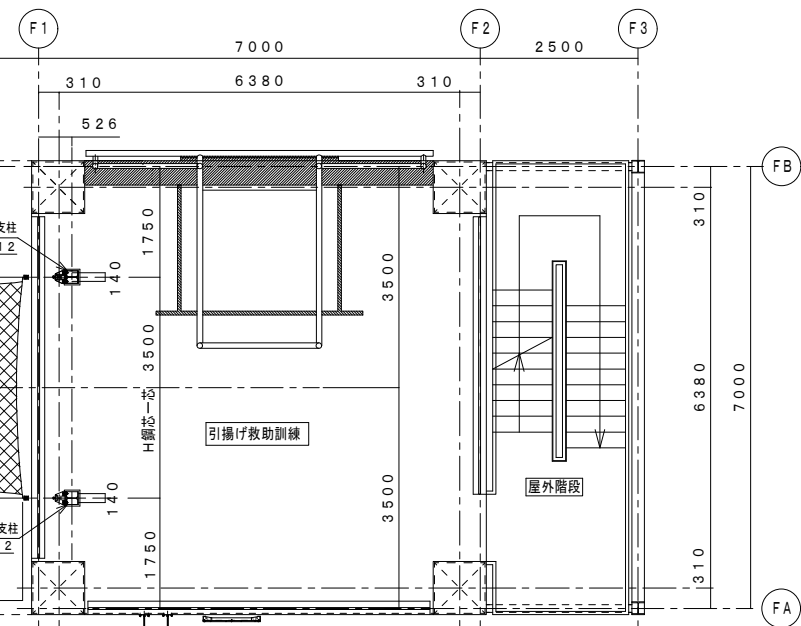


1. 設置ヶ所数 副訓練塔 2F天井 2か所
(耐荷重2,400kg)





主訓練塔2階平面図

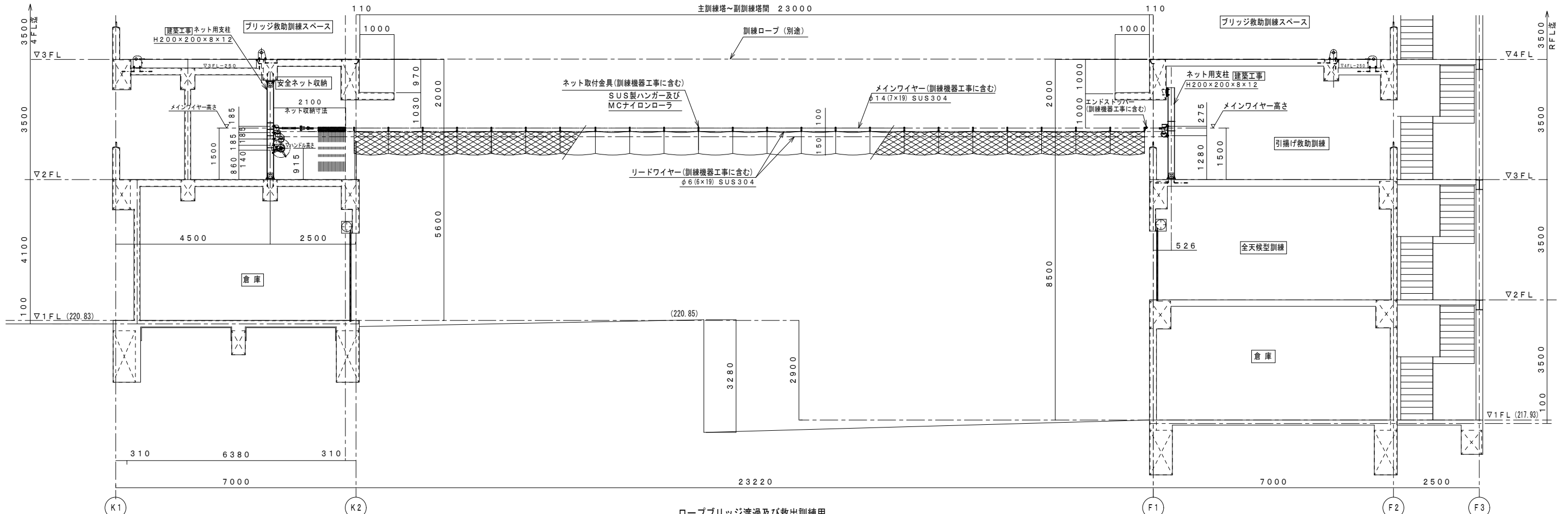


副訓練塔3階平面図

仕様概略

型式	RSN-H II型 (1基)	
メインワイヤー	φ14 (7×19) SUS304	
リードワイヤー	φ6 (6×19) SUS304	
ネット	幅×長さ	3500W×23000L
	材質	ナイロン
	網糸	φ4.2 黄色 (引張強さ 0.34t以上)
	網地	90×90 菱形無結節
	縁ロープ	φ12 ナイロン製 (引張強さ 2.95t)
ネット取付け金具	SUS製ハンガー及びナイロンローラ	
巻取方式	手動式	

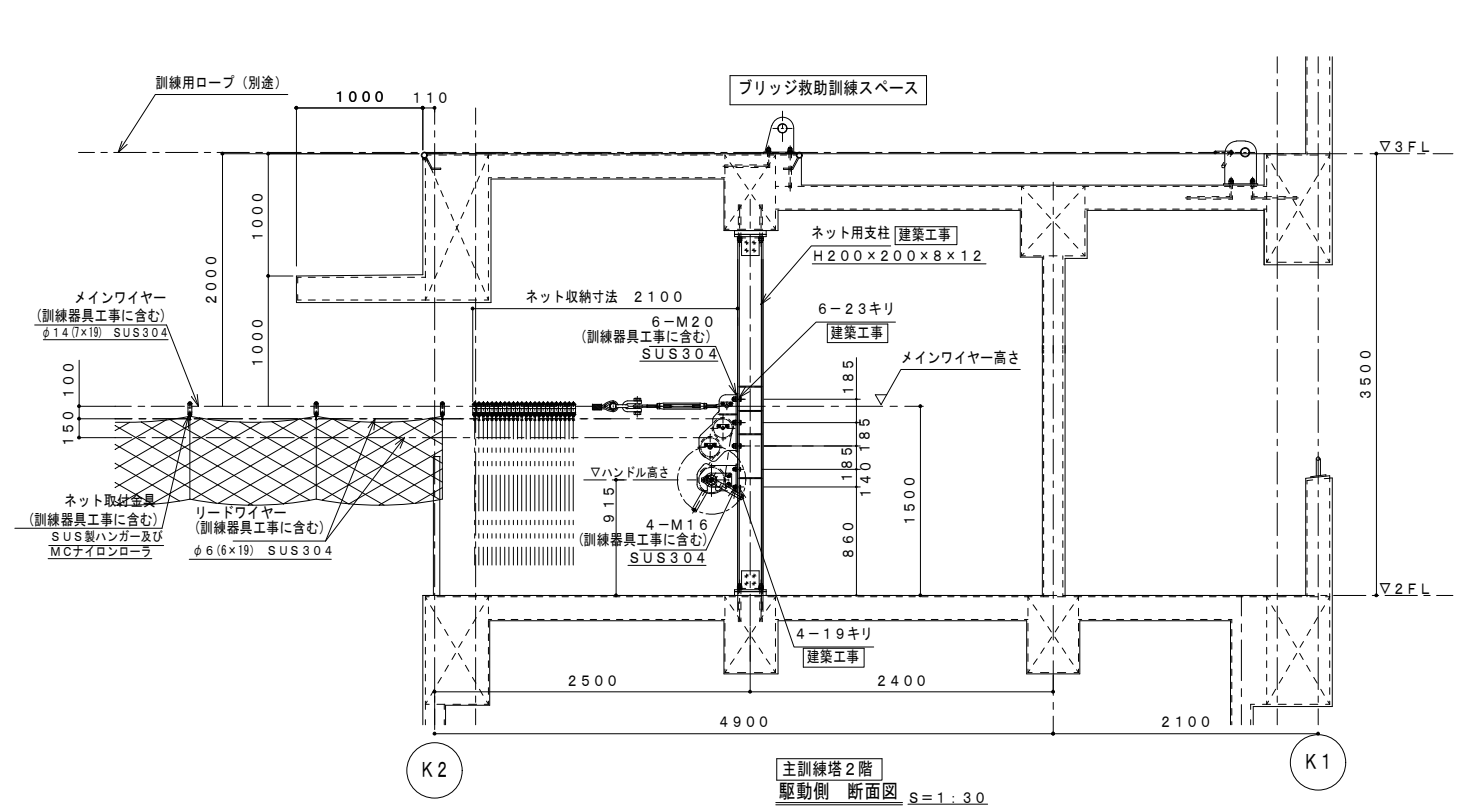
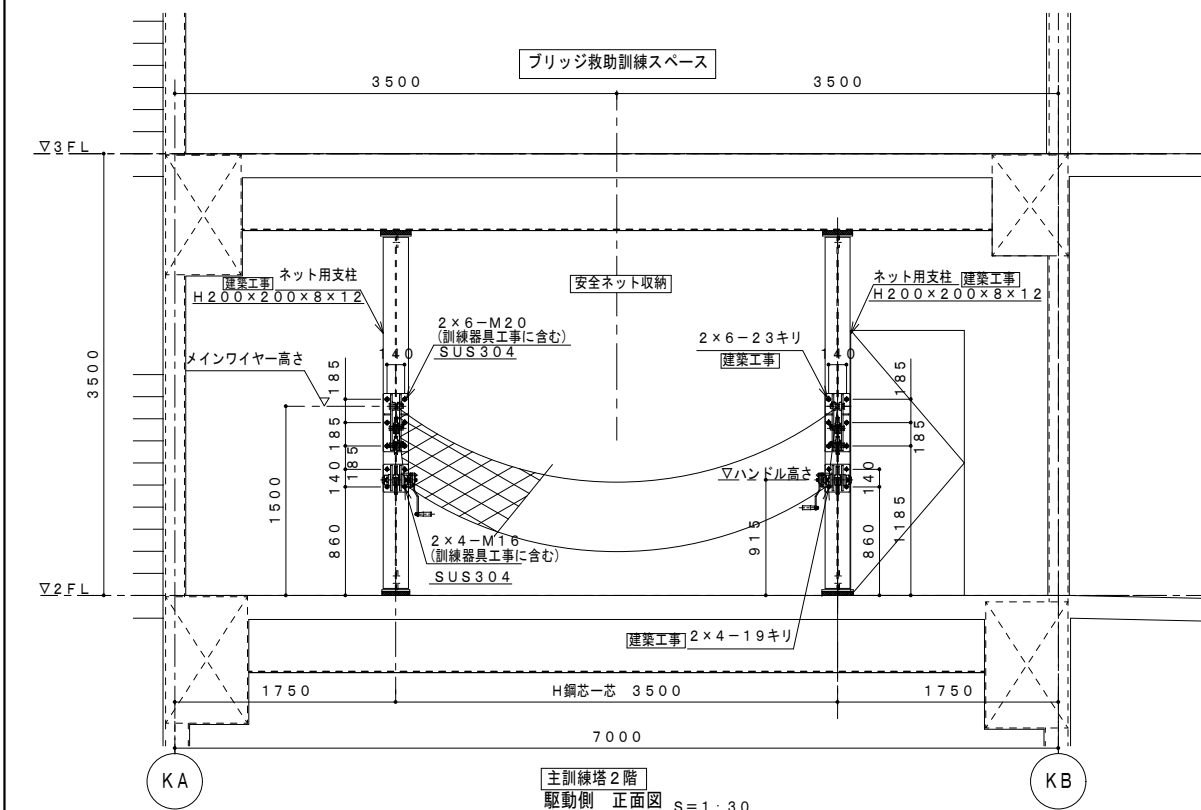
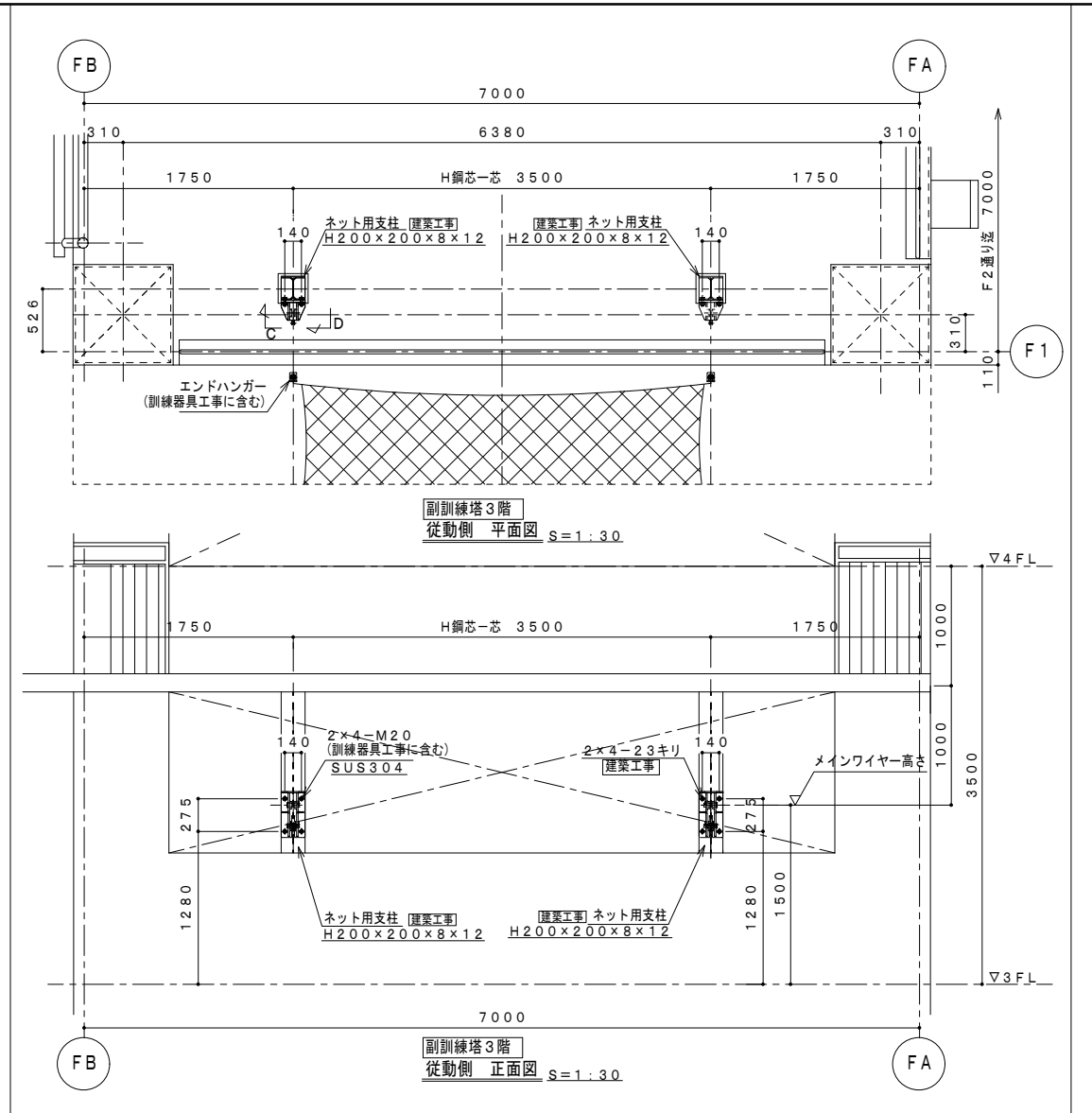
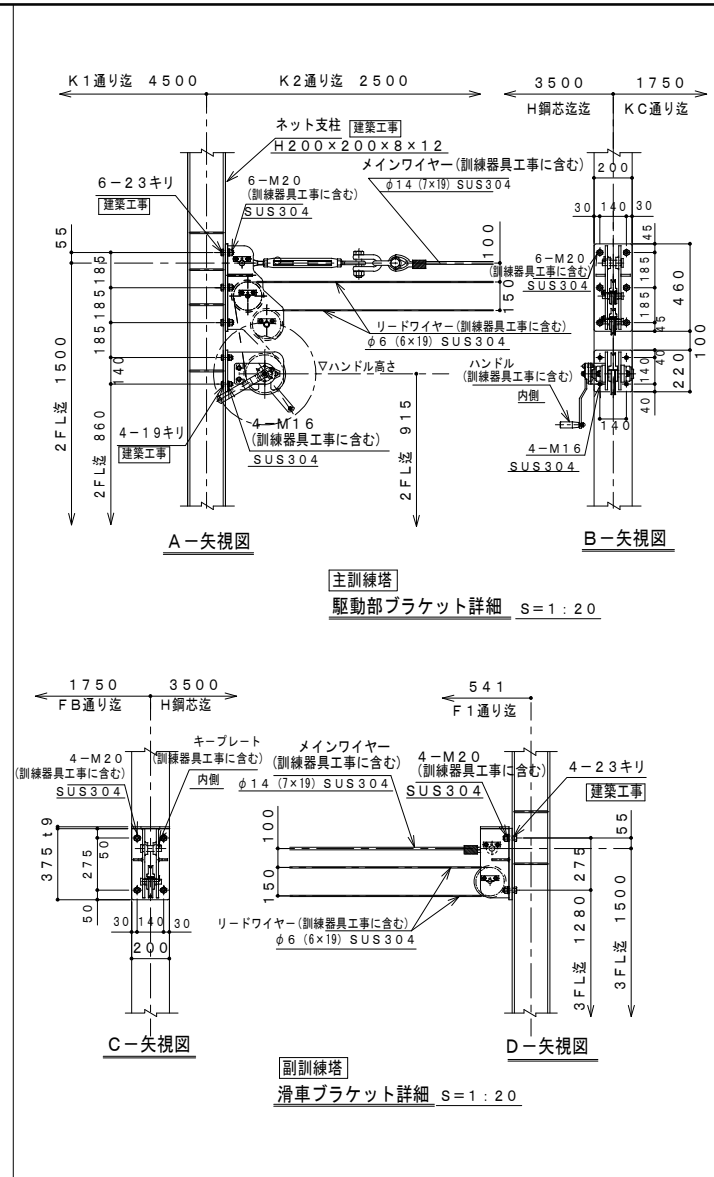
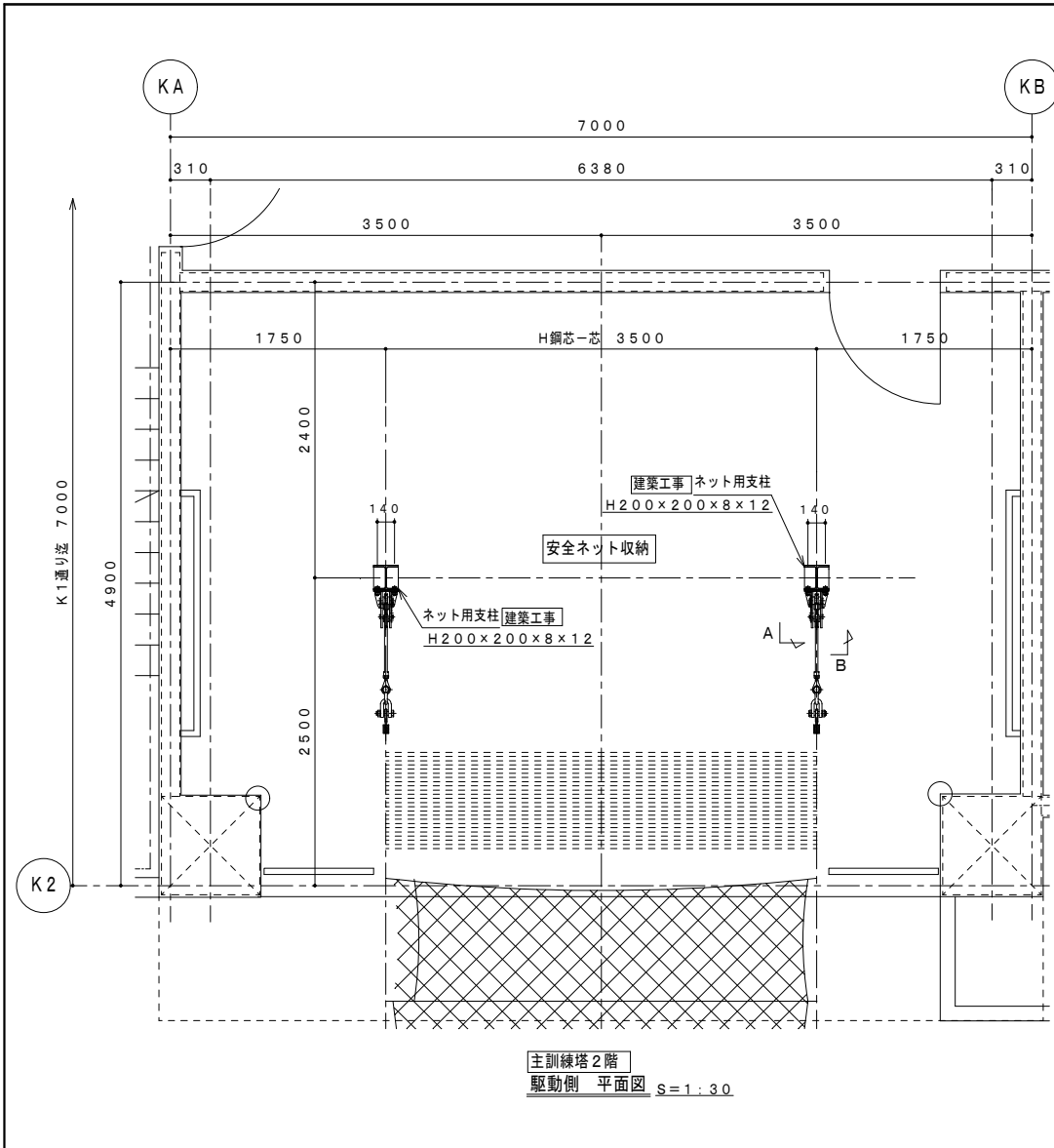
※ プラケット及び滑車等の鉄部は、パーカーライジング処理の上、ウレタン樹脂塗装

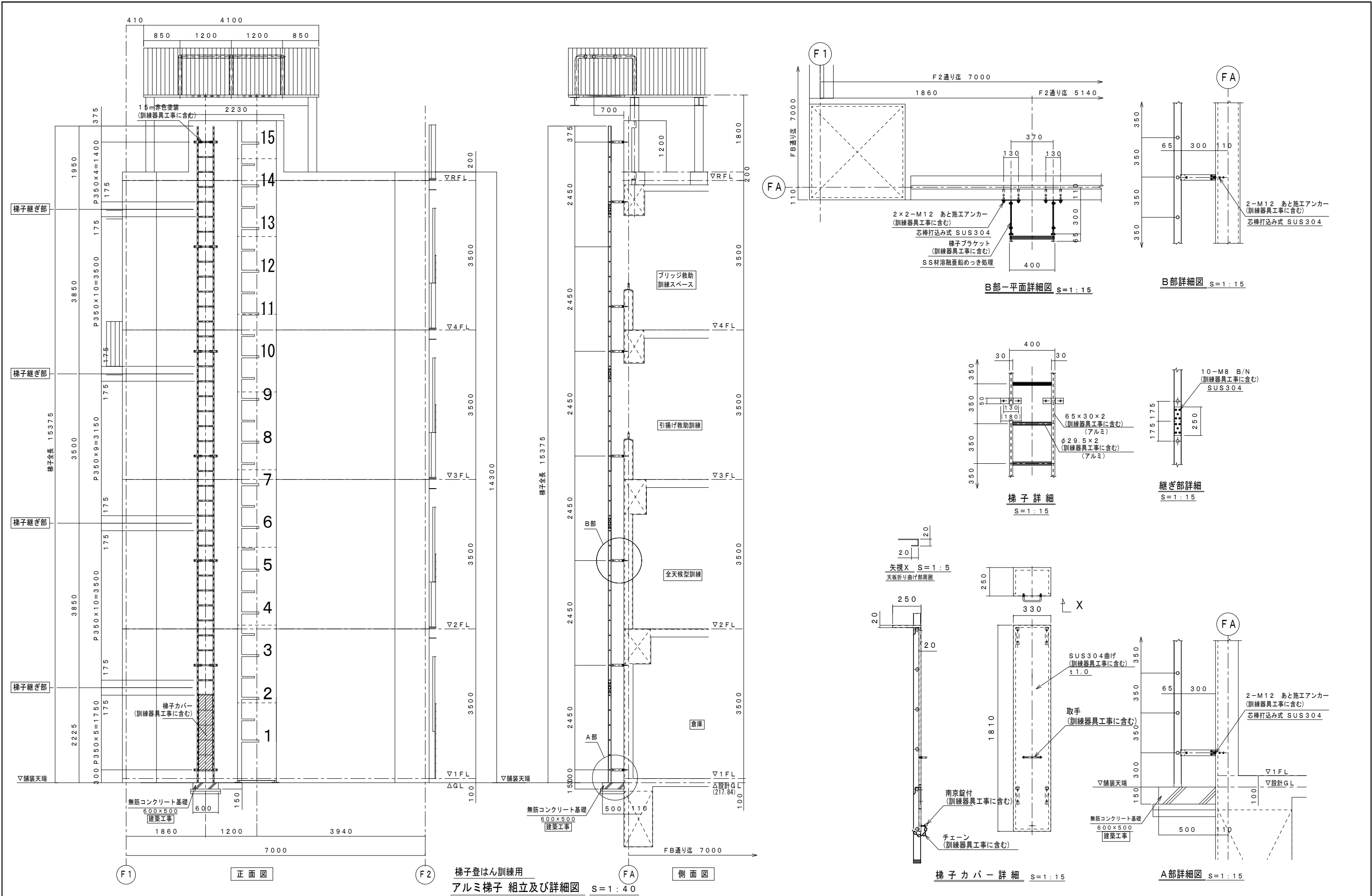


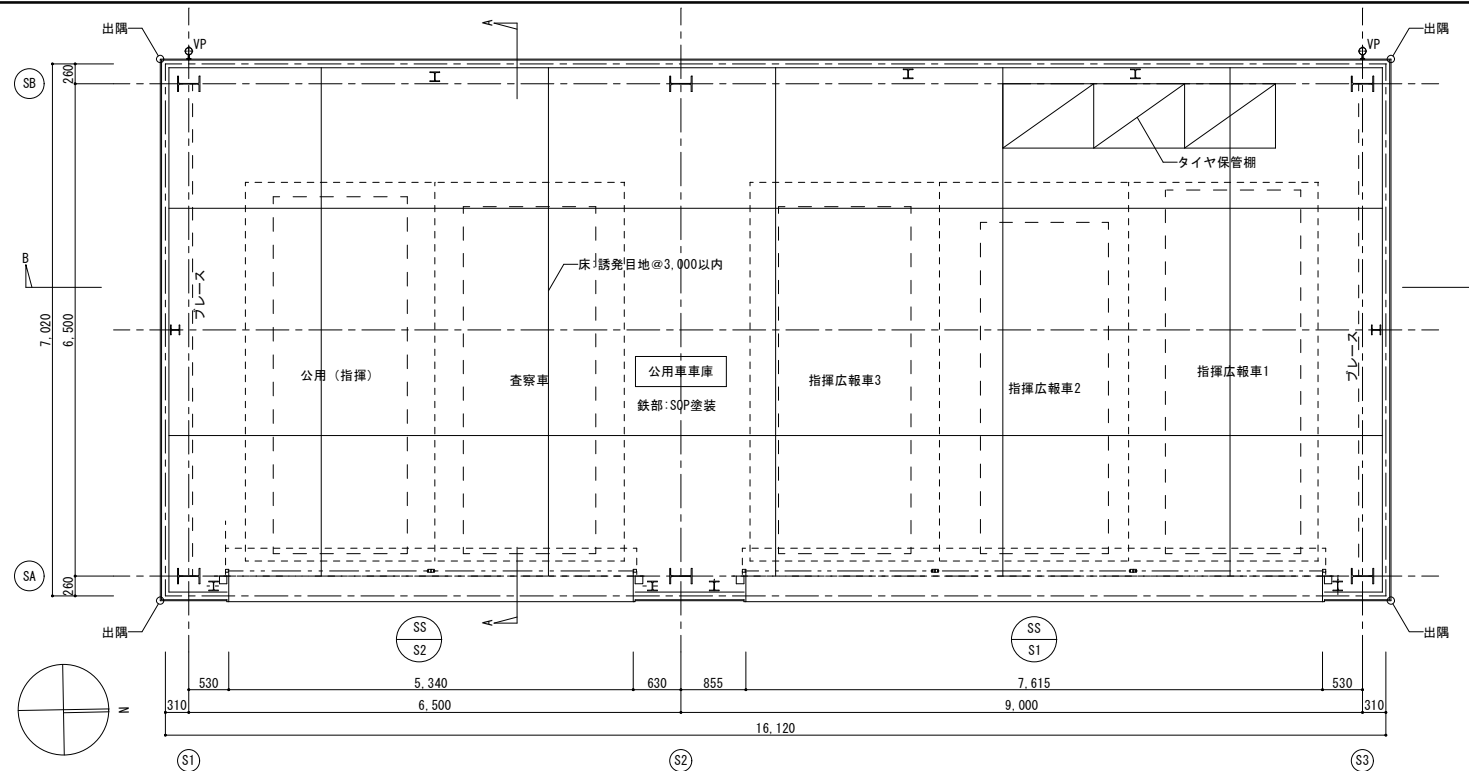
主訓練塔断面図

副訓練塔断面図

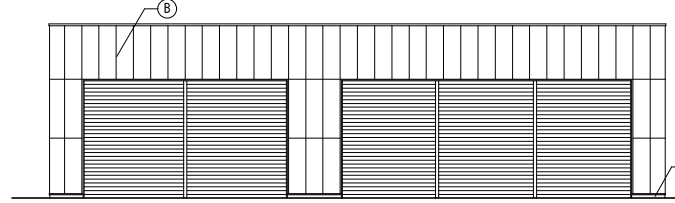
ローブリッジ渡過及び救出訓練用
レンジャーネット装置 (手動式) 配置図 S=1:60



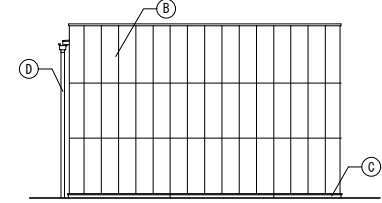




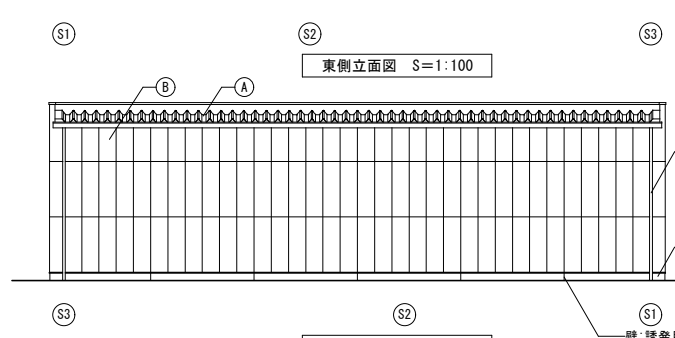
平面図 S=1:50



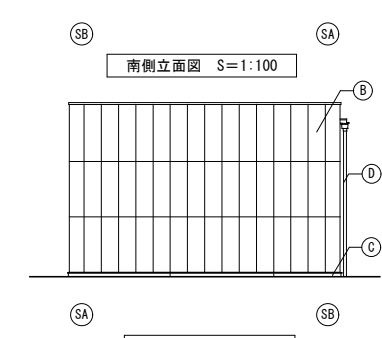
東側立面図 S=1:100



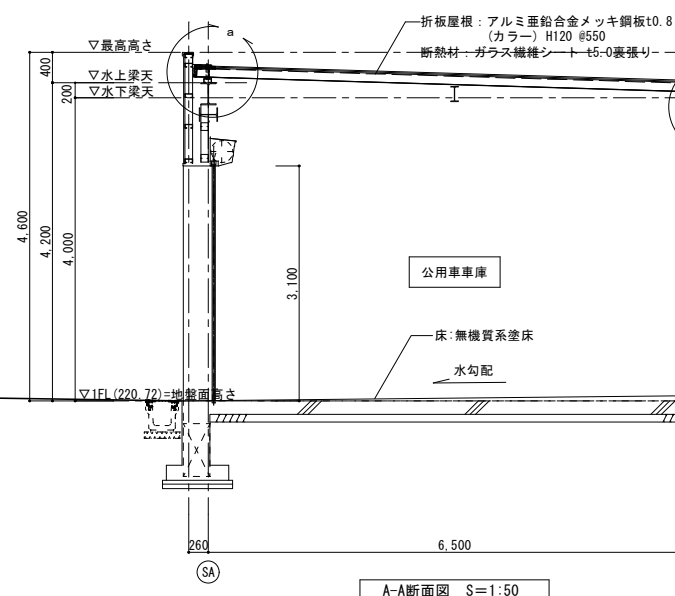
南側立面図 S=1:100



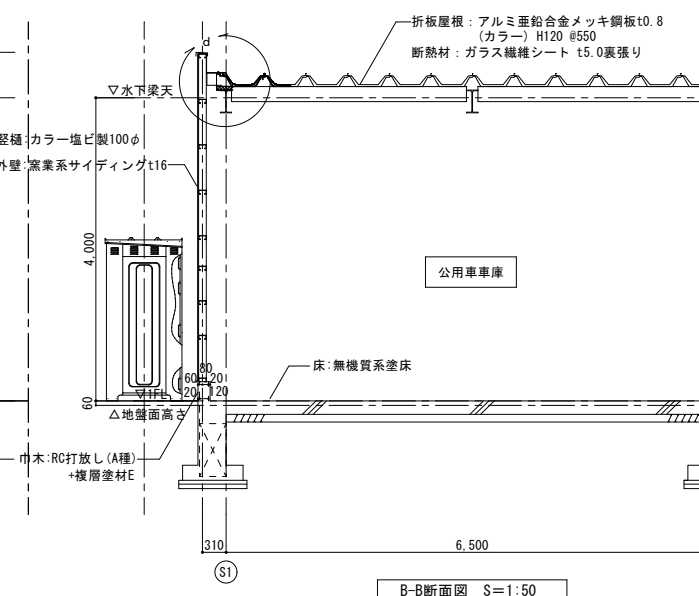
西側立面図 S=1:100



北側立面図 S=1:100

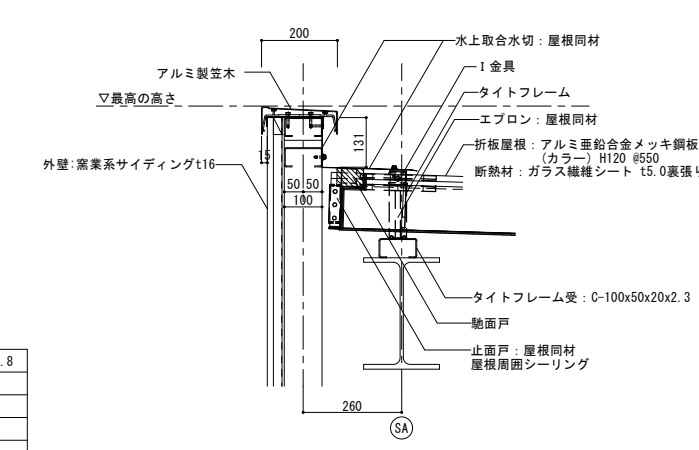


A-A断面図 S=1:50

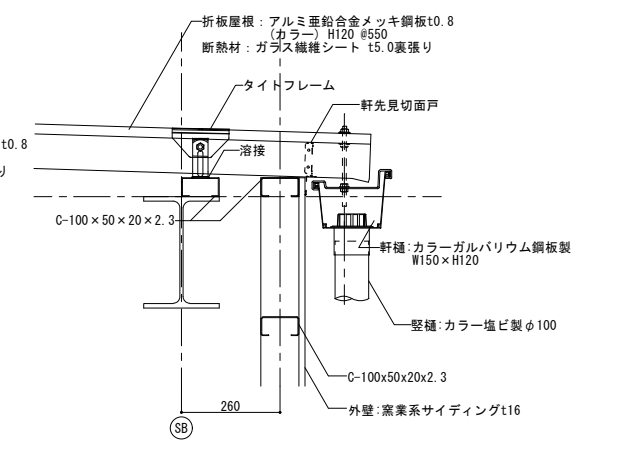


B-B断面図 S=1:50

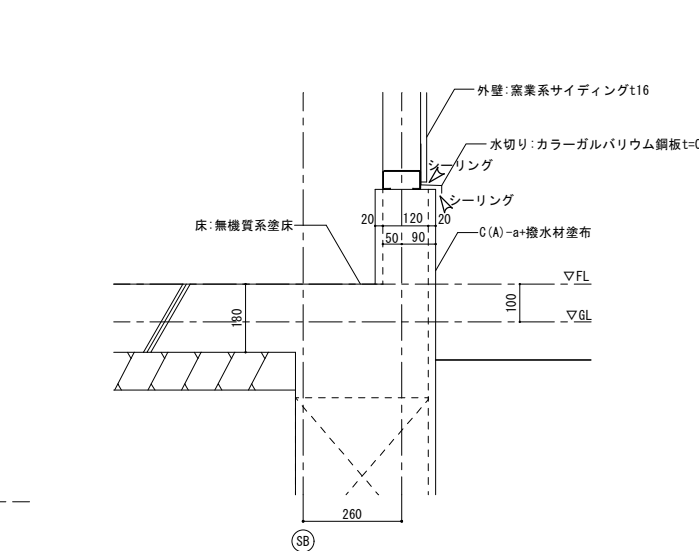
符号・名称	SS S1	軽量バランスシャッター(手動・露出)	SS S2	軽量バランスシャッター(手動・露出)
取付場所	公用車庫	1	公用車庫	1
数量	-	-	-	-
仕様	-	カラー鋼板	カラー鋼板	カラー鋼板
ガラス	-	-	-	-
金物など	スラット:スチール、座板・ガイドレール・まぐさ:SUS製 付属金物一式		スラット:スチール、座板・ガイドレール・まぐさ:SUS製 付属金物一式	



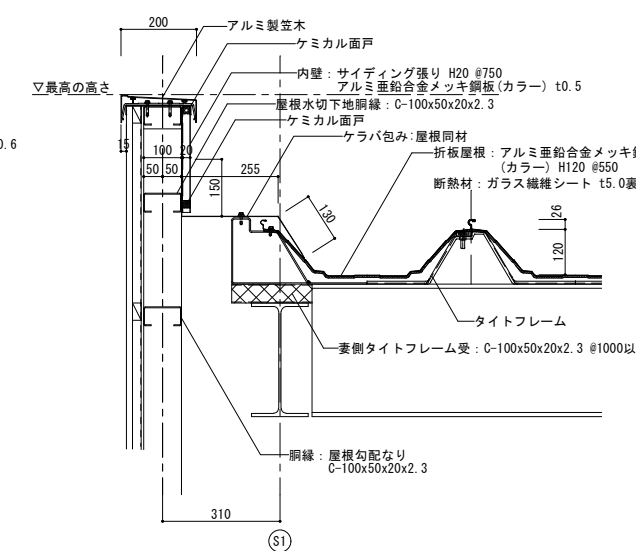
a部詳細図 S=1:10



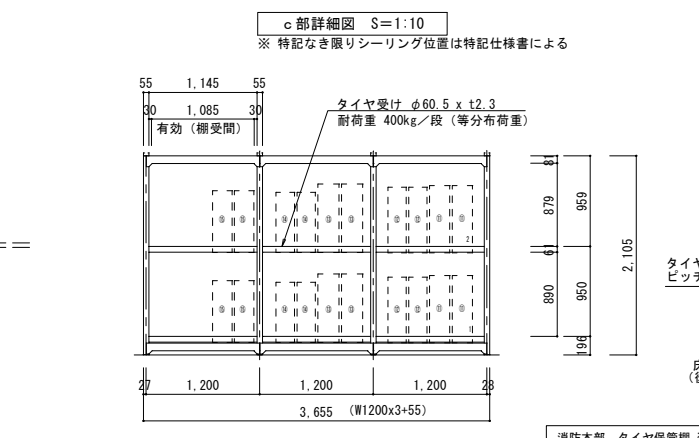
b部詳細図 S=1:10



c部詳細図 S=1:10



d部詳細図 S=1:10



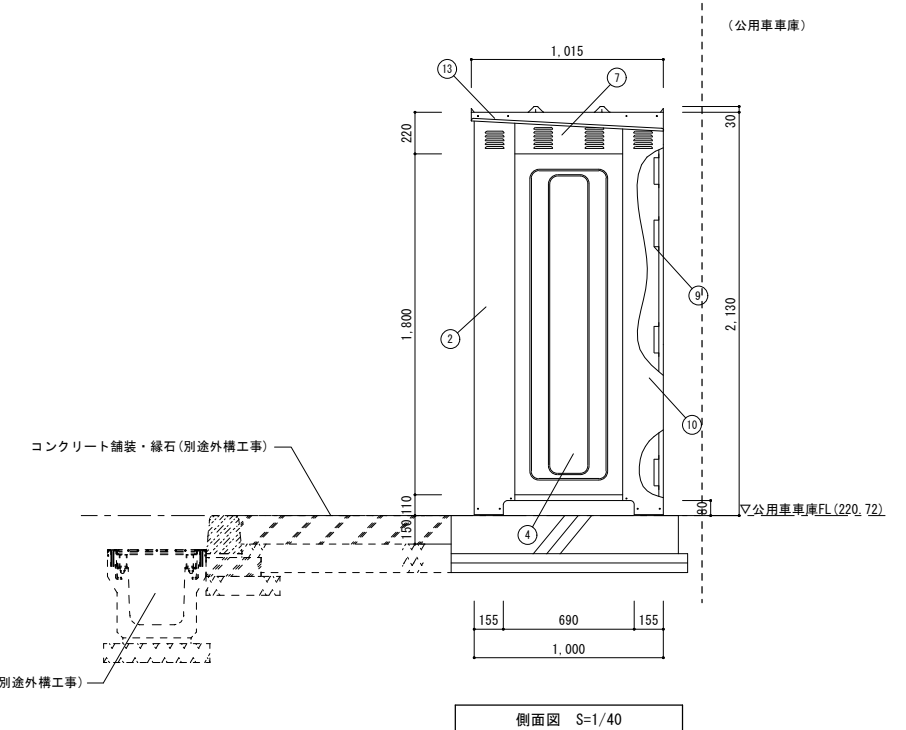
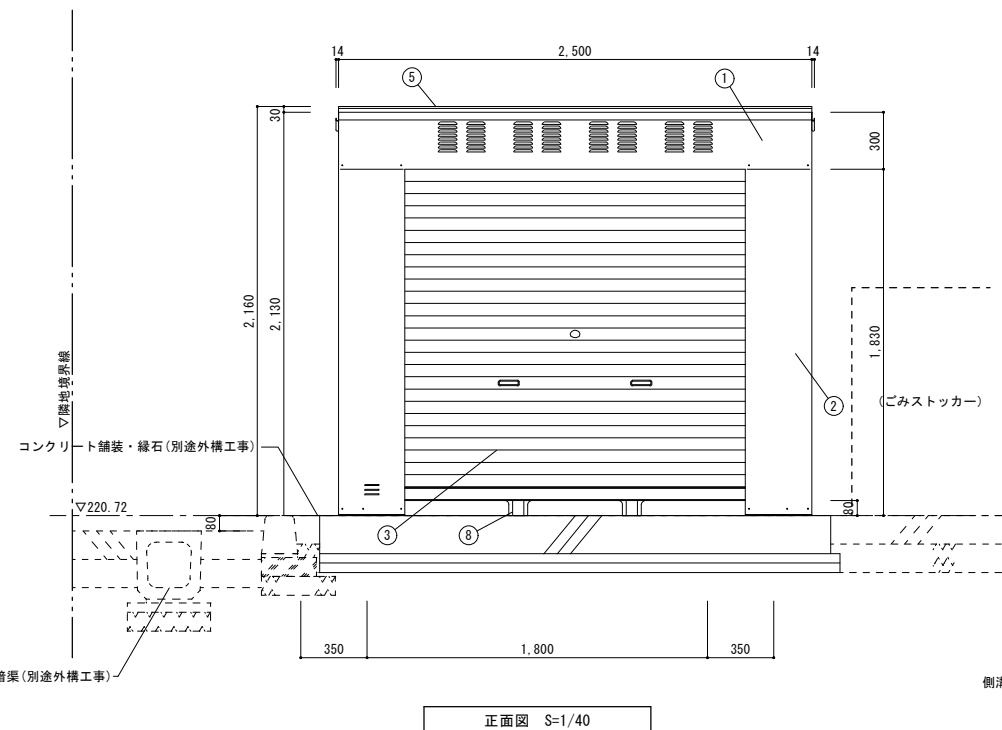
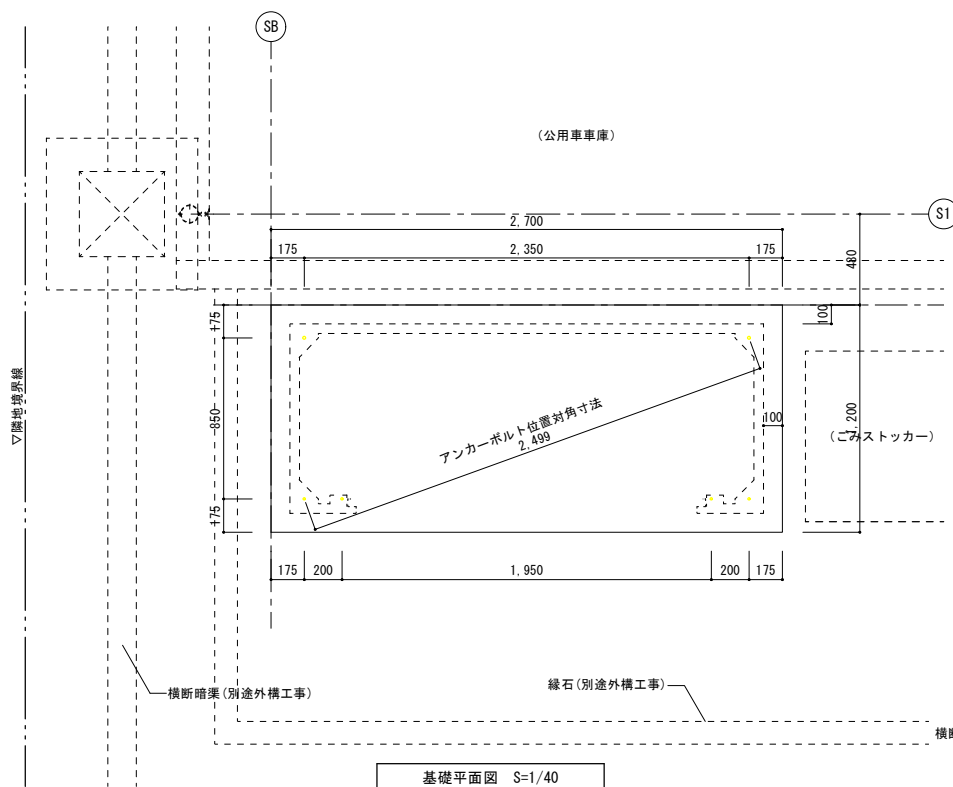
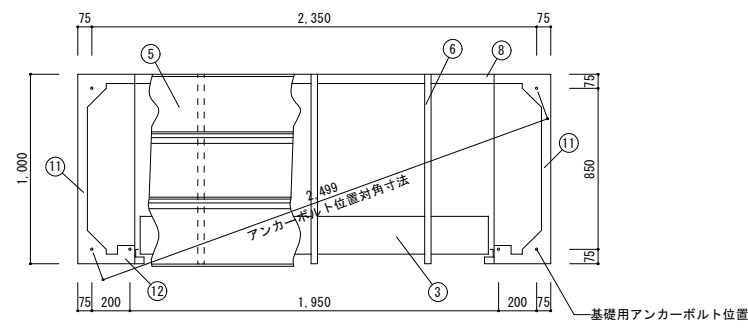
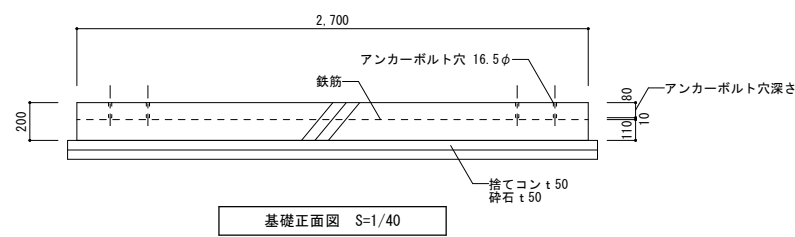
消防本部 タイヤ保管棚 立面図 S=1/40

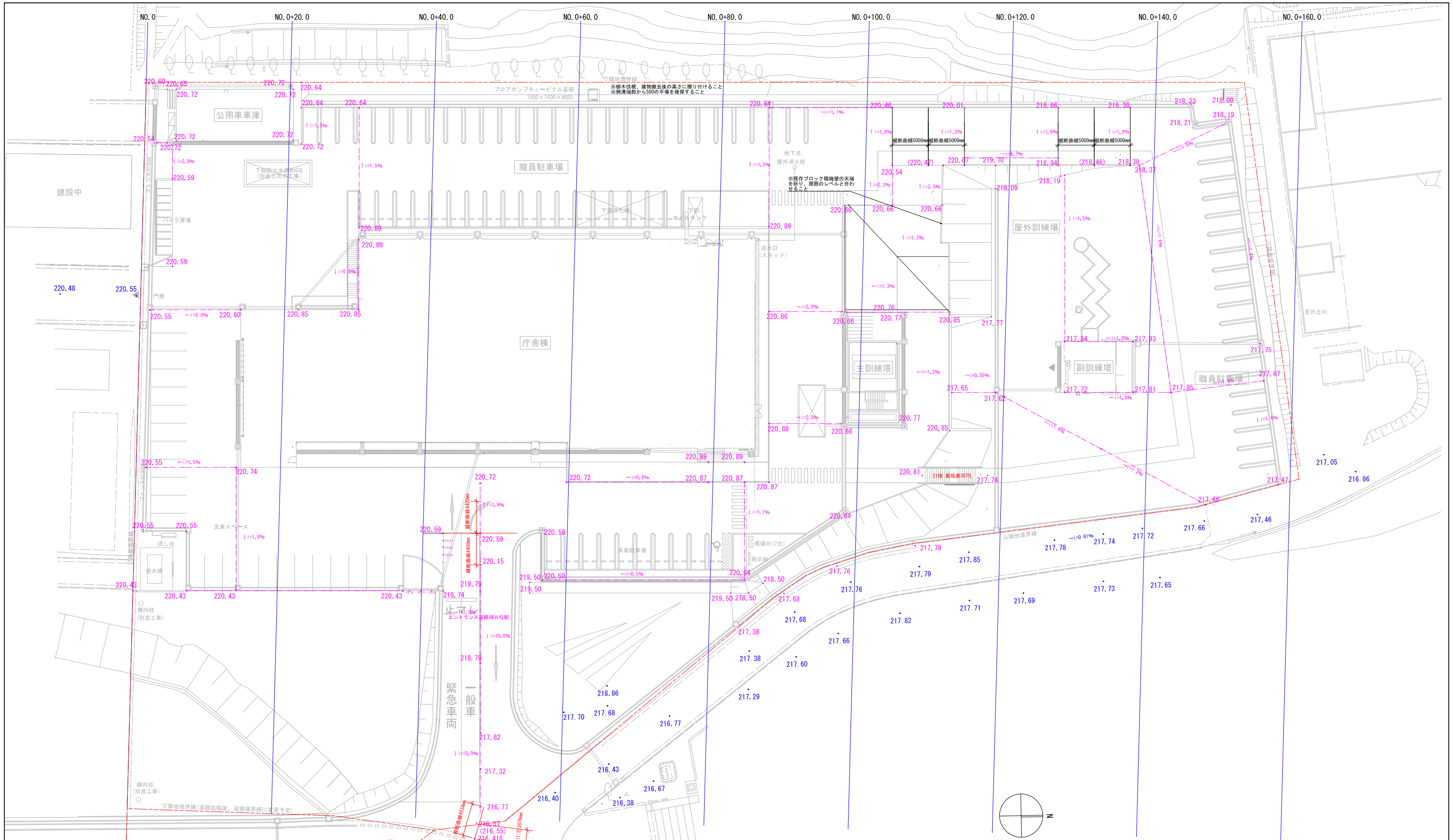
備考

附属品	: 側受
固定	: 床固定
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないボルトレスフレーム構造
棚板可動ピッチ	: 50mm
支柱	: 形状はC-55×50、複柱式とし、単式棚は2本柱
最大積載質量	: 1段あたり 400kg/段 (等分布荷重)
開口最大積載質量	: 単式1連あたり 2000kg/連
塗装色	: ホワイト系 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場
塗布材	: 棚には、消臭・抗菌・防カビ・抗ウイルスの効果を発揮する液体を塗布
参考メーカー	: 金剛 株式会社

番号	品名	個数	記	事
13	屋根受け雨樋	右1左1	高耐食めっき鋼板	
12	左右土台	右1左1	高耐食めっき鋼板	
11	左右土台	2	高耐食めっき鋼板	
10	後柱	右1左1	めっき鋼板	
9	横棧	4	めっき鋼板	
8	後土台	1	高耐食めっき鋼板	
7	側梁	2	めっき鋼板	
6	母屋	3	めっき鋼板	
5	屋根	前1中1後1	高耐食めっき鋼板	
4	側パネル	2	高耐食めっき鋼板	
3	シャッター	1	めっき鋼板 t0.4	
2	前柱	右1左1	めっき鋼板	
1	前梁	1	めっき鋼板	

株式会社ホクエイ BN-5000同等品
※多雪地域仕様



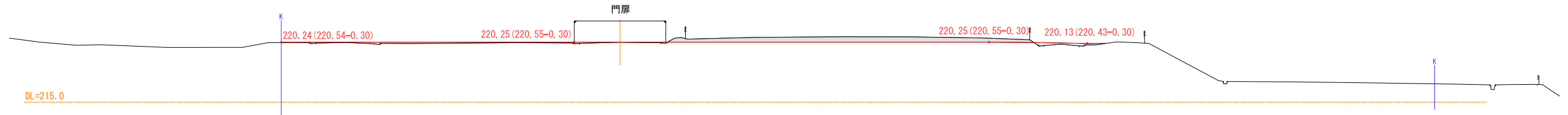


外構図 S=1:250 (A1)

※ピンク (〇〇.〇〇、i=〇〇.〇%) の数値はFH、表面勾配を表す
 ※青 (〇〇.〇〇、i=〇〇.〇%) の数値は現況のGL、表面勾配を表す

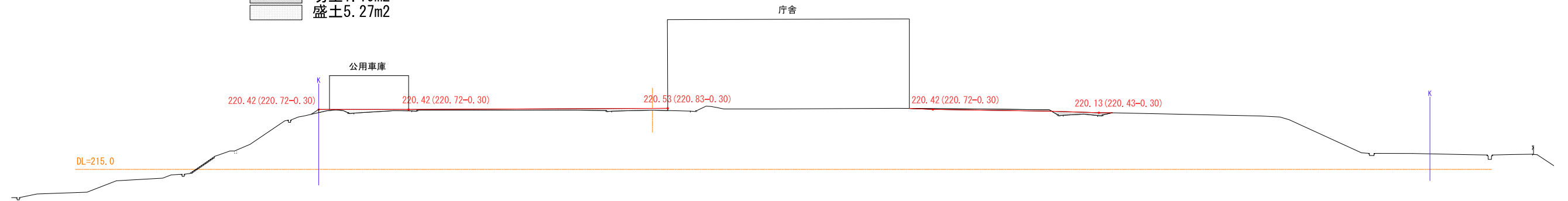
D=20.000
NO. 0

切土12.32m²
盛土3.25m²



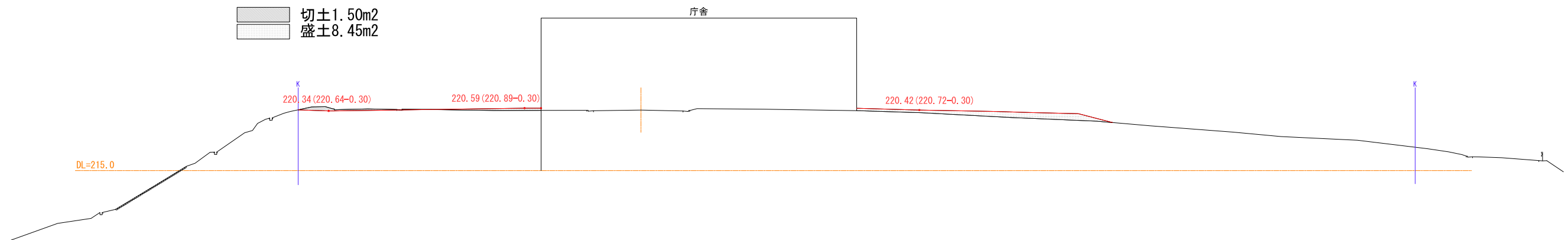
D=20.000
+20.0

切土1.19m²
盛土5.27m²



D=20.000
+40.0

切土1.50m²
盛土8.45m²



※既存建物撤去の際に現況30cmの高さで整地を行うものとし、土量を算出する
 ※新設する建築物の範囲の土量は見込まない
 ※大部分を占めるアスファルト舗装の厚み30cm (t50-100-150) を舗装控除として土量を算出する

NOTE

あい設計

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

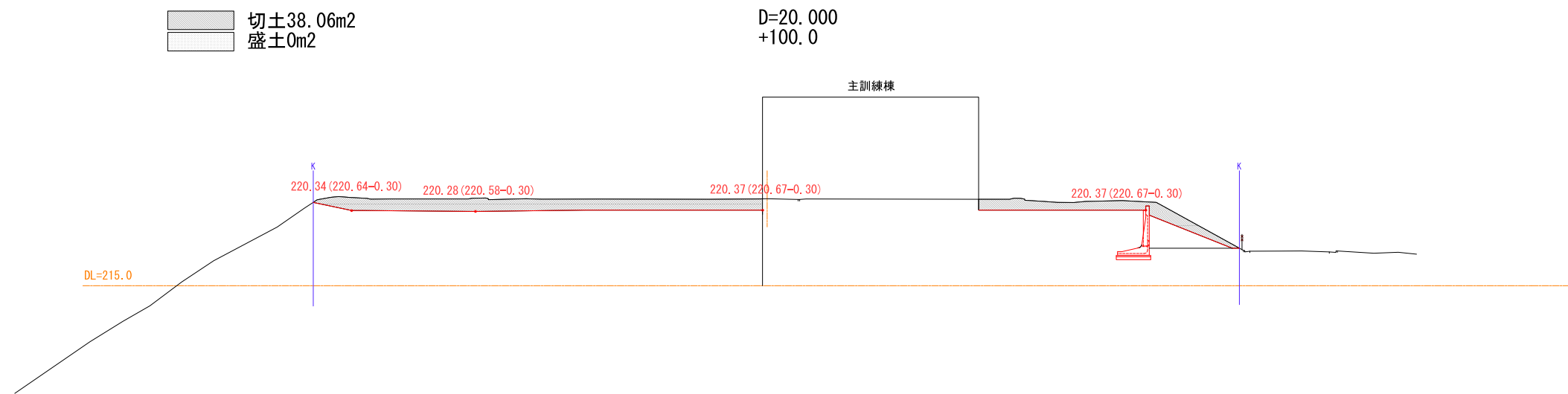
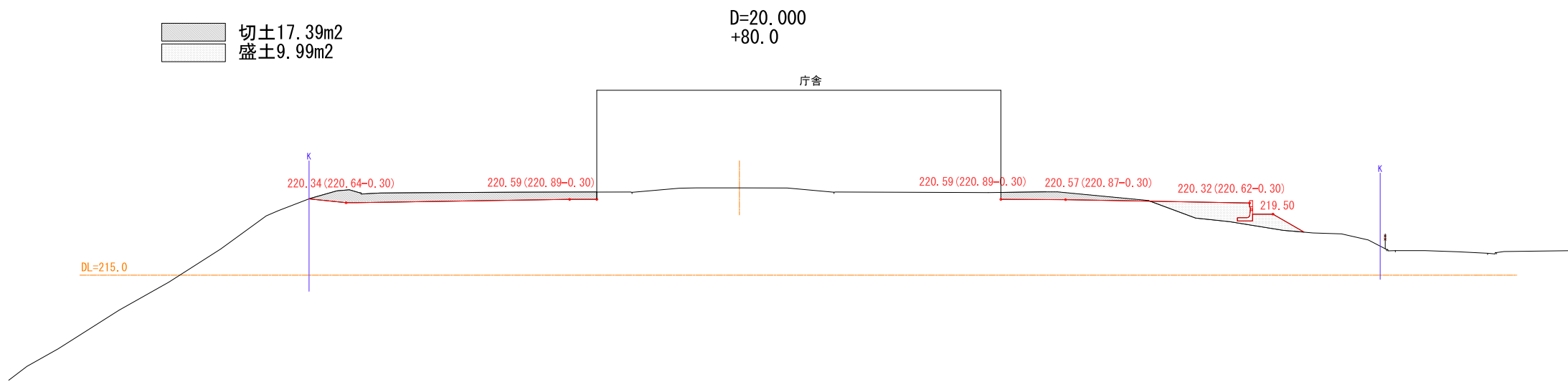
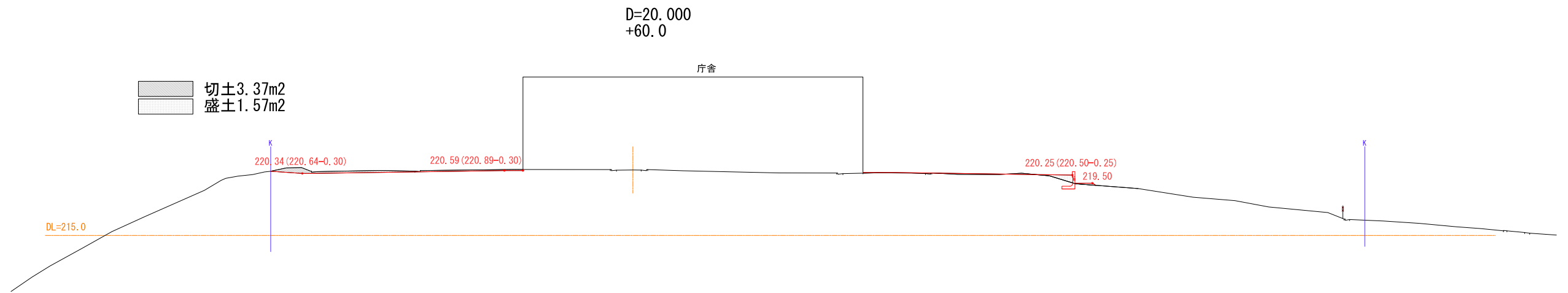
DWG. No

一級建築士
 第340646号 佐藤 彰洋

敷地横断面(1)

SCALE
 A1 : 1/200
 A3 : 1/400

A
 152



※既存建物撤去の際に現況30cmの高さで整地を行うものとし、土量を算出する
 ※新設する建築物の範囲の土量は見込まない
 ※大部分を占めるアスファルト舗装の厚み30cm (t50-100-150) を舗装控除として土量を算出する

NOTE

あい設計

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事 (建築)

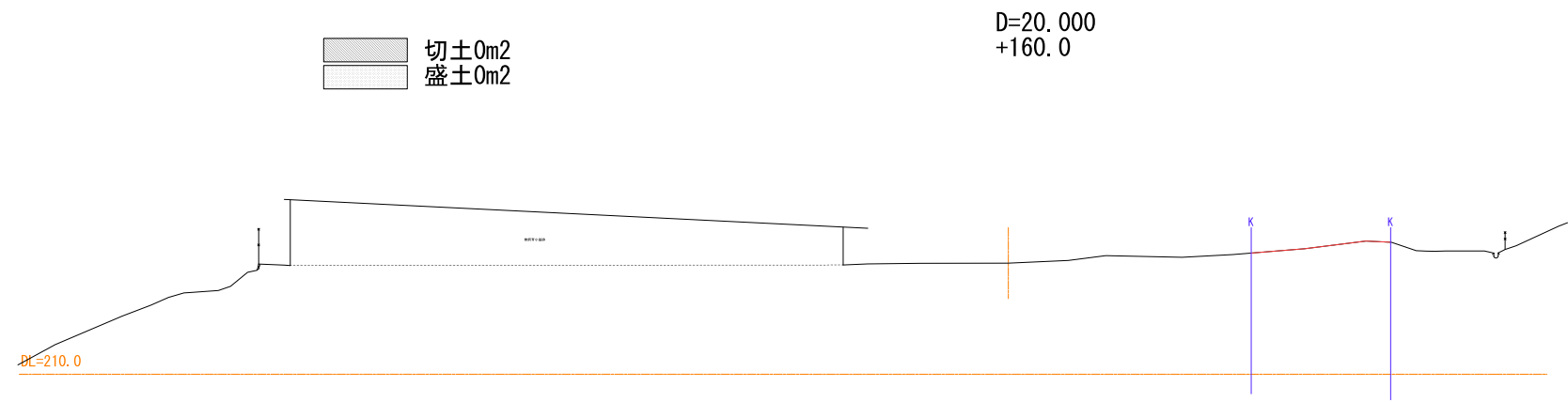
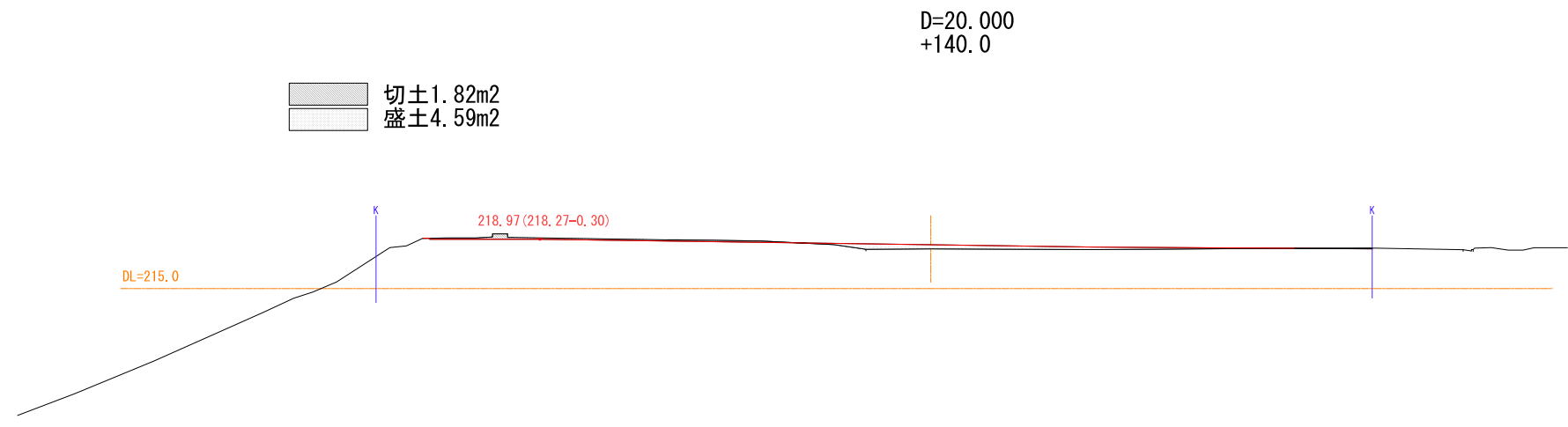
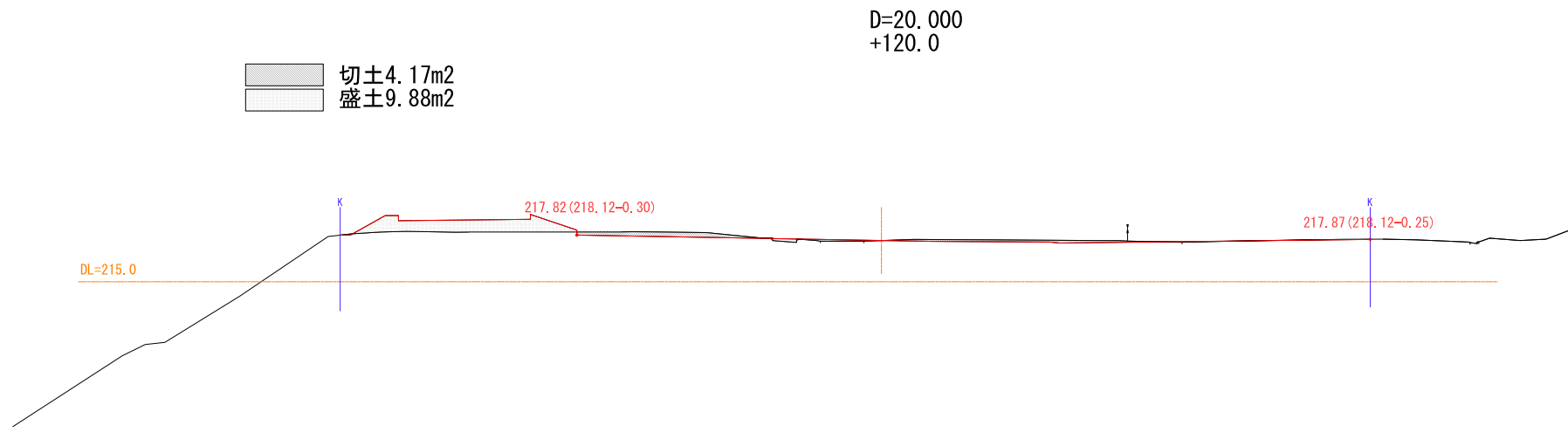
DWG. No

出 一級建築士
 第340646号 佐藤 彰洋

敷地横断面図 (2)

SCALE
 A1 : 1/200
 A3 : 1/400

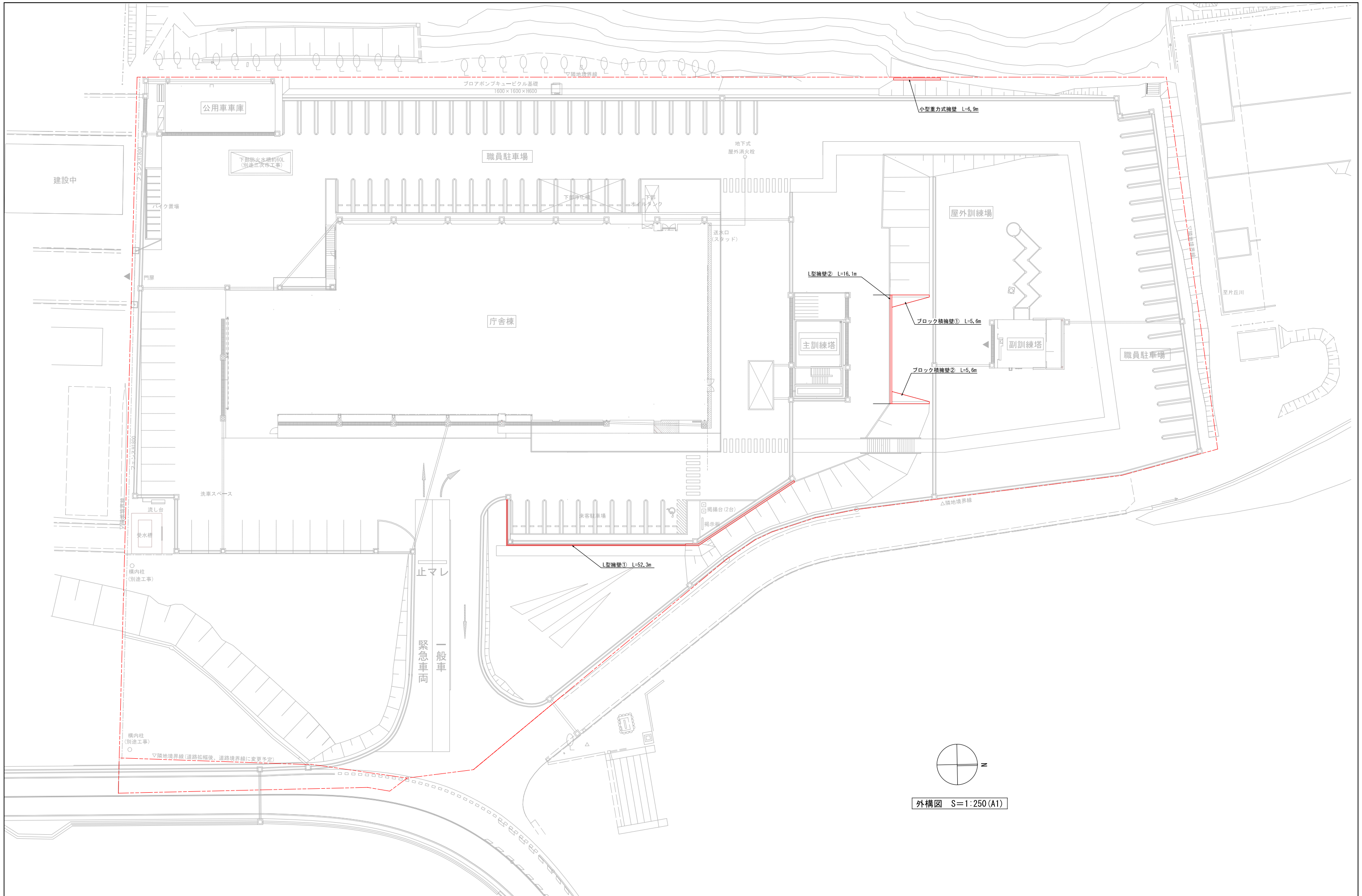
A
 153



※既存建物撤去の際に現況30cmの高さで整地を行うものとし、土量を算出する
 ※新設する建築物の範囲の土量は見込まない
 ※大部分を占めるアスファルト舗装の厚み30cm (t50-100-150) を舗装控除として土量を算出する

NOTE	

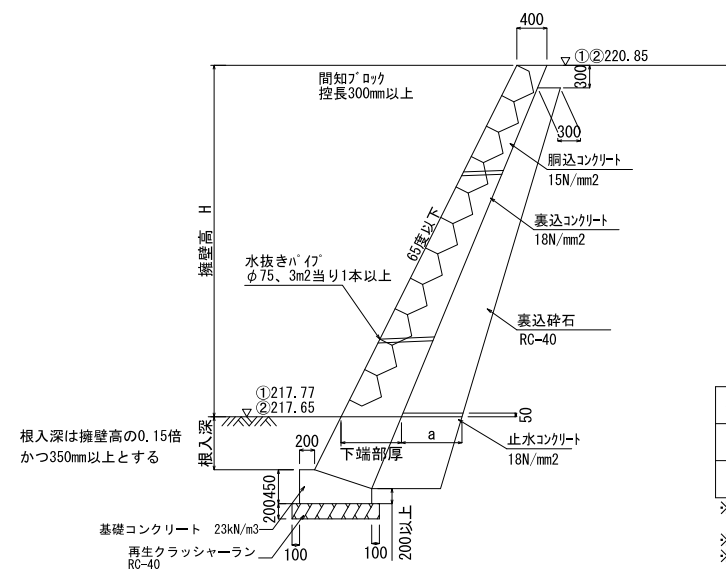
株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号 一級建築士 佐藤 彰洋 第340646号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築) 敷地横断面図(3)	SCALE	A
		A1 : 1/200 A3 : 1/400	154



NOTE

ブロック積擁壁①② 標準断面

A1 S=1/50
A3 S=1/100

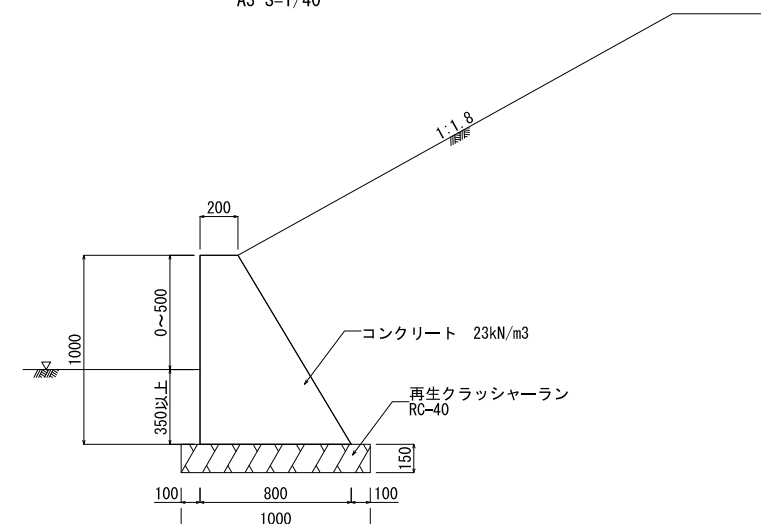


擁壁No	擁壁高H	根入深	下端部厚	a	切盛り
①	3.08m	500mm	450mm以上	700mm	盛土
②	3.20m	500mm	450mm以上	700mm	盛土

※根入深は擁壁高の0.15倍かつ350mm以上とする
aは擁壁高の0.2倍かつ600mm以上とする
※擁壁天端は法面勾配に合わせて合わせる
※盛土規制法の技術的基準（広島県）を参照のこと

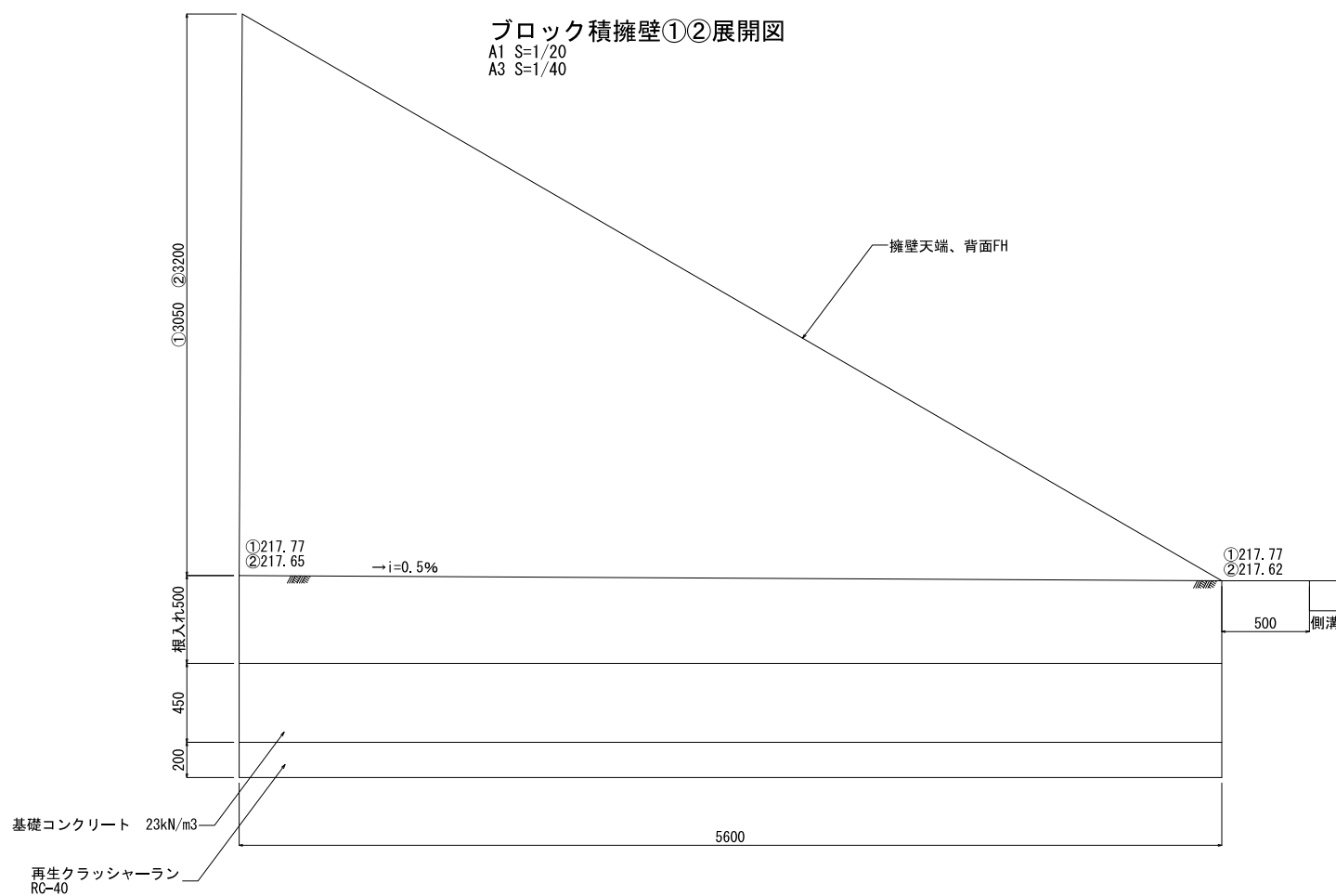
小型重力式擁壁(SGW19) 標準断面

A1 S=1/20
A3 S=1/40



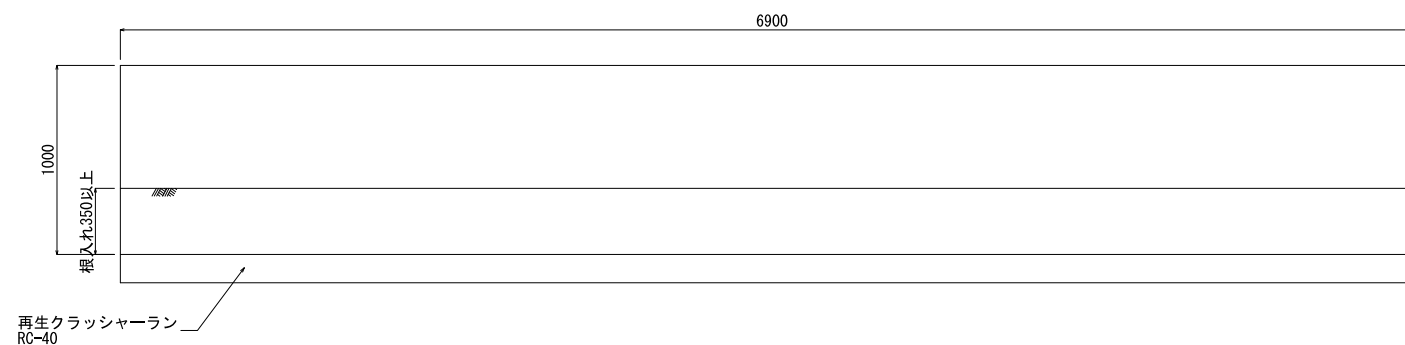
ブロック積擁壁①②展開図

A1 S=1/20
A3 S=1/40



小型重力式擁壁展開図

A1 S=1/20
A3 S=1/40



NOTE

あい設計

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事（建築）

DRG. No

一級建築士
第340646号 佐藤 彰洋

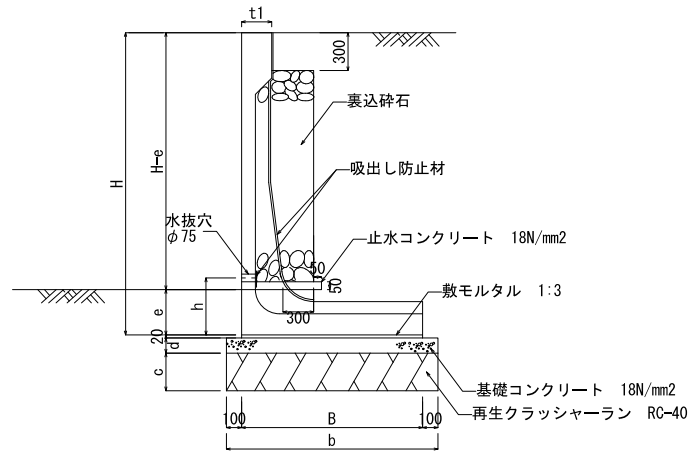
擁壁工詳細図(1)

SCALE
図示

A
156

L型擁壁標準断面図 (H1500, 2500)

A1 S=1/25
A3 S=1/50

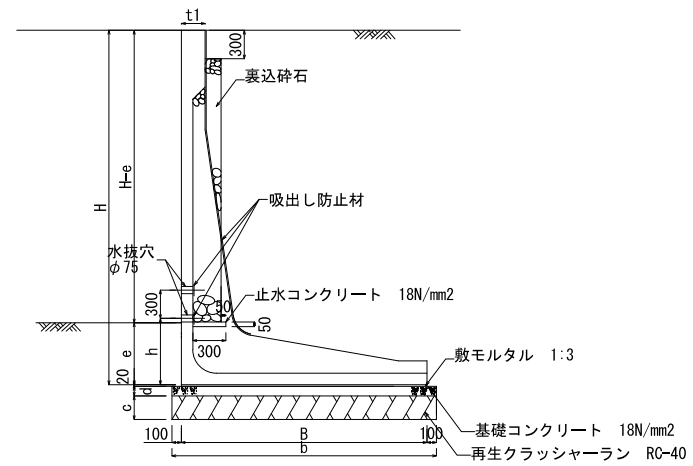


H	B	t1	b	c	d	e	h	参考重量 (kg)	参考底板反力 (kn/m2)
1500	1050	150	1250	200	50	0.15hかつ350以上	750	1590 (2200)	90 (80)
2500	1700	250	1900	250	100	0.15hかつ350以上	850	3410 (8841)	120 (120)

※上載荷重 $q=10.0\text{ kN/m}^2$ 背面土の内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ 裏込め土単位体積重量 $\gamma_s=18.0\text{ kN/m}^3$
 ※水抜き孔が現地地盤により隠れる場合、擁壁地上部3mに1箇所φ75mmの水抜き孔を別途儲けること、孔位置個数は協議にて決定すること
 ※参考質量()内の数値はコナ製品の参考質量とする
 ※参考地盤反力()内の数値はコナ製品の参考地盤反力とする

L型擁壁標準断面図 (H3500, 3750)

A1 S=1/40
A3 S=1/80

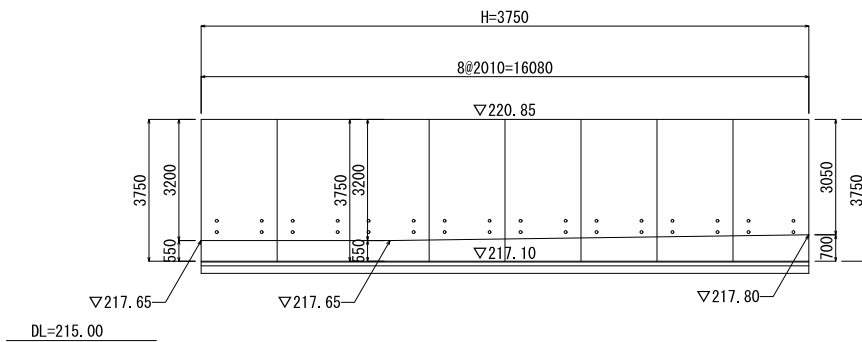


H	B	t1	b	c	d	e	h	参考重量 (kg)	参考底板反力 (kn/m2)
3500	2250	250	2450	200	100	0.15hかつ350以上	700	6170	160
3750	2500	250	2700	200	100	0.15hかつ350以上	790	7220	160

※上載荷重 $q=10.0\text{ kN/m}^2$ 背面土の内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ 裏込め土単位体積重量 $\gamma_s=18.0\text{ kN/m}^3$
 ※水抜き孔が現地地盤により隠れる場合、擁壁地上部3mに1箇所φ75mmの水抜き孔を別途儲けること、孔位置個数は協議にて決定すること
 ※参考質量()内の数値はコナ製品の参考質量とする
 ※参考地盤反力()内の数値はコナ製品の参考地盤反力とする

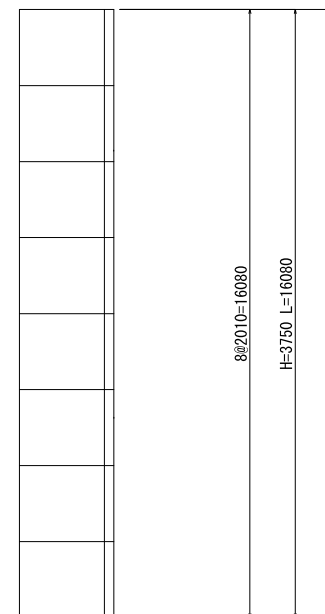
L型擁壁②割付展開図

A1 S=1/100
A3 S=1/200



L型擁壁②割付平面図

A1 S=1/100
A3 S=1/200



NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 佐藤 彰洋
 第340646号

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事 (建築)

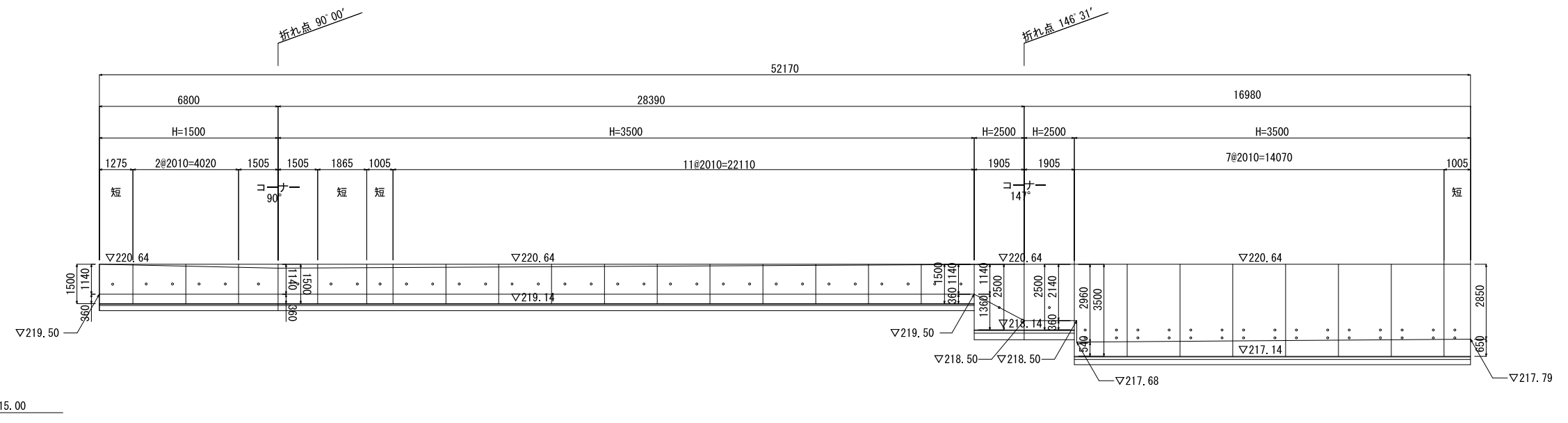
擁壁工詳細図 (2)

SCALE
 図示

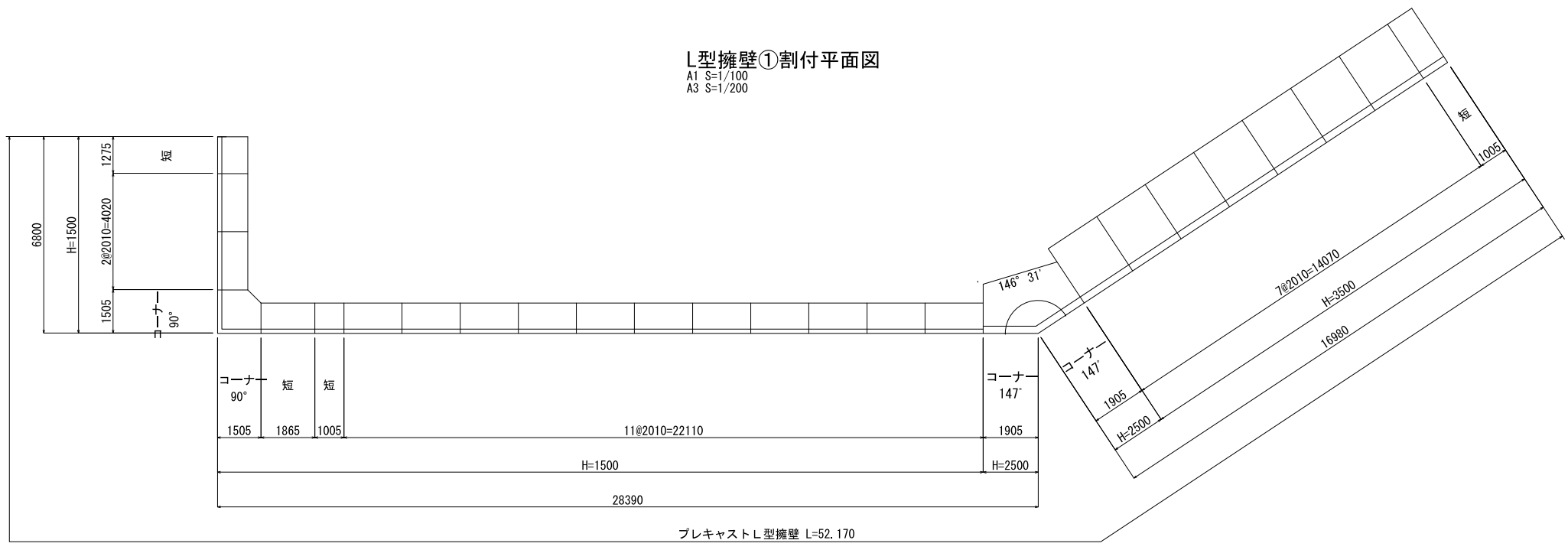
DRG. No

A
 157

L型擁壁①割付展開図
 A1 S=1/100
 A3 S=1/200



L型擁壁①割付平面図
 A1 S=1/100
 A3 S=1/200



NOTE

特記仕様書(構造関係)		適用範囲																																																																							
4 地業工事	① 支持地盤等	<p>○直接基礎 (長期許容地耐力q_{all}は、S-101、S-201、S-301、S401による) 支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む) ※構造図による</p> <p>○試験掘り(掘り底の状態の確認等) 位置は構造図による</p> <p>○地盤の平板載荷試験 (主訓練塔) 載荷試験の方法 ※地盤工学会基準 JGS 1521による ・構造図による 試験の位置、載荷荷重 ※構造図による</p>	(4.2.4)																																																																						
	2 杭共通事項	<p>支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む) ※構造図による</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※構造図による</p> <p>杭の支持層への根入れ深さ ※構造図による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・構造図による 杭の傾斜 ・1/100以内 ・構造図による</p>	(4.3.4、5) (4.4.4) (4.5.5、6)																																																																						
	3 既製コンクリート杭地業	<p>種類 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・外装鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490 ・ ()</p> <p>寸法、継手、性能等 (種別:種類、性能及び曲げ強度区分) <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭符号</th> <th>種類</th> <th>コンクリート強度(N/mm²)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>板厚(mm)</th> <th>杭長(mm)</th> <th>継手数</th> <th>わづ数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 ・構造図による</p> <p>工法 ・セメントミルク工法 (4.3.1) (4.3.4) 掘削深さ ※構造図による 根固め液及び杭周囲固定液の管理試験 ※標準仕様書4.3.4(6)(c)による ・構造図による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.3.1) (4.3.5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式で$\alpha=250$を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 $\alpha=()$、$\beta=()$、$\gamma=()$ 工法 ・プレローリング拡大根固め工法 ・中廻り拡大根固め工法 ・ () ・杭周囲固定液を使用する</p> <p>杭の継手の工法 (4.3.3) (4.3.6) ・アーク溶接継手 溶接材料 ※標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・構造図による ・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※評定等を受けた工法 ・杭頭を処理する 処理方法(切断ともなう補強方法含む) ※構造図による</p>	杭符号	種類	コンクリート強度(N/mm ²)	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	わづ数	長期設計支持力(kN/本)	備考	上杭										中杭										下杭										上杭										中杭										下杭										(4.3.1) (4.3.3) (4.3.4) (4.3.5) (4.3.6) (4.3.8)
	杭符号	種類	コンクリート強度(N/mm ²)	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	わづ数	長期設計支持力(kN/本)	備考																																																															
上杭																																																																									
中杭																																																																									
下杭																																																																									
上杭																																																																									
中杭																																																																									
下杭																																																																									
4 鋼杭地業	<p>鋼杭の材料 ・SKK400 ・SKK490 ・ ()</p> <p>寸法、継手等 (4.2.2) (4.4.3) (4.4.5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭符号</th> <th>種類</th> <th>杭径(mm)</th> <th>板厚(mm)</th> <th>杭長(mm)</th> <th>継手数</th> <th>わづ数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	杭符号	種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	わづ数	長期設計支持力(kN/本)	備考	上杭									中杭									下杭									上杭									中杭									下杭									(4.4.3) (4.4.5)								
杭符号	種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	わづ数	長期設計支持力(kN/本)	備考																																																																	
上杭																																																																									
中杭																																																																									
下杭																																																																									
上杭																																																																									
中杭																																																																									
下杭																																																																									
5 鉄筋工事	① 鉄筋	<p>鉄筋の種類等 (5.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎ SD295</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎ SD345</td> <td>※ D19~D25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎ SD390</td> <td>※ D29以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び名	備考	◎ SD295	※ D16以下		◎ SD345	※ D19~D25		◎ SD390	※ D29以上		(5.2.1)																																																										
	種類の記号	呼び名	備考																																																																						
	◎ SD295	※ D16以下																																																																							
	◎ SD345	※ D19~D25																																																																							
◎ SD390	※ D29以上																																																																								
② 溶接金網	<p>鉄線の形状等 (5.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目寸法、鉄線の径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 溶接金網</td> <td>WFP</td> <td>6φ-100x100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径(mm)	備考	※ 溶接金網	WFP	6φ-100x100		・ 鉄筋格子				(5.2.2)																																																											
種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径(mm)	備考																																																																						
※ 溶接金網	WFP	6φ-100x100																																																																							
・ 鉄筋格子																																																																									
③ 鉄筋の継手及び定着	<p>鉄筋の継手の方法等 (5.3.4) (5.5.2、3) (5.6.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手の方法</th> <th>呼び名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手</td> <td>※D19以上</td> </tr> <tr> <td>床、壁の鉄筋</td> <td>※ 重ね継手 ・</td> <td>※D16以下</td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋()</td> <td>・ 重ね継手 ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>継手位置 ※構造関係共通事項(配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、7.3、8.1 ・構造図による</p> <p>・柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ※構造図による</p> <p>耐力壁の重ね継手の長さ ※構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (3) ・構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1表3.1</p> <p>鉄筋の定着長さ ※構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(b) ・構造図による</p> <p>最小かぶり厚さ ※構造関係共通事項(配筋標準図) 表4.1</p> <p>・軽量コンクリートを適用する場合 適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm</p> <p>・耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けるおそれのある部分等) 適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm</p>	部位	継手の方法	呼び名	柱、梁の主筋	※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手	※D19以上	床、壁の鉄筋	※ 重ね継手 ・	※D16以下	その他の鉄筋()	・ 重ね継手 ・		(5.3.4) (5.3.4) (5.3.5) (5.3.7) (5.4.10) (5.5.3)																																																											
部位	継手の方法	呼び名																																																																							
柱、梁の主筋	※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手	※D19以上																																																																							
床、壁の鉄筋	※ 重ね継手 ・	※D16以下																																																																							
その他の鉄筋()	・ 重ね継手 ・																																																																								
④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網をきむ)	<p>各部配筋 (5.3.7)</p> <p>圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10)</p> <p>試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験 試験方法は標準仕様書 5.4.10(4)(b)①~⑥による</p>	(5.3.7) (5.4.10)																																																																							
7 機械式継手	<p>適用箇所 ※構造図による H12建設第1463号に適合する性能 ※A級 ・ () 種類 ・ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・ 継部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所数、最大200箇所程度とする。 ・ 試験の箇所数 1ロットに対して () 箇所 ・全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置 (5.5.5)</p>	(5.5.3) (5.5.5)																																																																							
6 コンクリート工事	① コンクリートの種類	<p>コンクリートの種類 (6.2.1) ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)</p>	(6.2.1)																																																																						
	② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	<p>※普通コンクリート (6.2.1~4) (6.3.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度(N/mm²)</th> <th>スランプ(cm)</th> <th>気乾単位容積質量(t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎24</td> <td>◎標準仕様書表6.2.2による</td> <td rowspan="3">2.3程度</td> <td>全般</td> </tr> <tr> <td>◎21</td> <td></td> <td>外構</td> </tr> <tr> <td>◎18</td> <td></td> <td>土間</td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による ・構造図による</p> <p>・軽量コンクリート (6.2.1~3) (6.3.2) (6.10.1、2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度(N/mm²)</th> <th>スランプ(cm)</th> <th>気乾単位容積質量(t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>※21</td> <td>・</td> <td>・1種 ・2種</td> <td>構造図による</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>構造図による</td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による ・構造図による</p>	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m ³)	適用箇所	◎24	◎標準仕様書表6.2.2による	2.3程度	全般	◎21		外構	◎18		土間	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m ³)	種類	適用箇所	・	※21	・	・1種 ・2種	構造図による	・	・	・	・	構造図による	(6.2.1) (6.2.1~4) (6.3.2) (6.3.2) (6.10.1、2)																																									
	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m ³)	適用箇所																																																																					
	◎24	◎標準仕様書表6.2.2による	2.3程度	全般																																																																					
◎21		外構																																																																							
◎18		土間																																																																							
設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m ³)	種類	適用箇所																																																																					
・	※21	・	・1種 ・2種	構造図による																																																																					
・	・	・	・	構造図による																																																																					
③ セメント	<p>種類 (6.3.1) ◎普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352 J/g 以下、かつ28日目で 402 J/g 以下のものとする ◎高炉セメントB種 適用箇所 ◎ 1FLより下部 ◎ 1FLより立上がる設備基礎、工作物基礎 ・フライアッシュセメントB種 適用箇所()</p>	(6.3.1)																																																																							
④ 骨材	<p>アルカリシカ反応性による区分 ※A ・ B</p>	(6.3.1)																																																																							
⑤ 混和材料	<p>◎混和剤 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による ・構造図による ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による ・構造図による</p>	(6.3.1) (6.3.1)																																																																							
6 寒中コンクリート	<p>適用期間 (6.11.1) ・構造図による 構造体強度補正值 (6.11.2) ・積算温度を基に定める場合 () ・標準仕様書6.11.2(3)(7)による ・構造図による</p>	(6.11.1) (6.11.2)																																																																							
7 暑中コンクリート	<p>構造体強度補正值 ※6N/mm² ・構造図による (6.12.2)</p>	(6.12.2)																																																																							
8 溶接継手	<p>適用箇所 ※構造図による H12建設第1463号に適合する性能 ※A級 ・ () 溶接継手の工法 ・図示による() ・鉄筋相互のあき ・標準仕様書5.3.5(4)による ・評定等の評価内容による ・図示による() 施工完了後の溶接部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波探傷試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った溶接箇所数、最大200箇所程度とする。 ・ 試験の箇所数 1ロットに対して () 箇所 ・全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置 (5.6.5)</p>	(5.6.5)																																																																							
9 床下防湿層	<p>材 料 (4.6.2) ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ○意匠図による</p> <p>範 囲 (4.6.5) ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く) ○意匠図による</p>	(4.6.2) (4.6.5)																																																																							
⑥ 地盤改良工法	<p>種類及び施工方法等 ※構造図による (S-009、S-010 参照)</p>																																																																								
⑦ 砂利地業	<p>材 料 (4.6.2) ※再生クラッシュラン ・切込砂利又は切込砕石</p> <p>砂利厚さ (4.6.3) ◎60mm ○(100) mm 主訓練塔、公用車庫庫 基礎下</p> <p>範囲 (4.6.4) ※基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下及び土に接するスラブ下 ・意匠図及び構造図による</p>	(4.6.2) (4.6.3) (4.6.4)																																																																							
⑧ 捨コンクリート地業	<p>範 囲 (4.6.4) ※基礎下、基礎梁下及び土に接するスラブ下 ・意匠図及び構造図による</p> <p>厚 さ (4.6.4) ※50mm ・ () mm</p> <p>設計基準強度 (4.6.4) ※18N/mm² ・ () N/mm²</p> <p>スランプ (4.6.4) ※15cm又は18cm ・ () cm</p>	(4.6.4) (4.6.4) (4.6.4) (4.6.4)																																																																							

6 コンクリート工事	8	マスコンクリート	<p>適用箇所 (6.13.1) ※構造図による</p> <p>セメントの種類 (6.13.2) ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント</p> <p>混和材料 (6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.13.2(2)(7)による ・構造図による</p> <p>・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.13.2(4)による ・構造図による</p> <p>スランプ (6.13.2) ※15cm ・ () cm</p> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.13.1による ・構造図による (6.13.2)</p>	7 鉄骨工事	① 鉄骨製作工場	<p>鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している 鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (M)グレード以上 ・監督職員の承諾する工場</p> <p>※配置する (7.1.4) ・配置しない</p>	⑩ 床構造用の デッキプレート	<p>材質、形状及び寸法 (7.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○デッキプレート 単独の構法</td> <td>構造図による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・デッキプレートと コンクリートとの合 成スラブとする構法</td> <td>構造図による</td> <td></td> </tr> </table> <p>開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む) (7.7.8) ※構造図による</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 ※構造図による</p> <p>耐火認定 ○あり 耐火時間 ※構造図による ・なし</p>	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	○デッキプレート 単独の構法	構造図による		・デッキプレートと コンクリートとの合 成スラブとする構法	構造図による		⑬ 耐火被覆	<p>種類、材料、工法等 (7.9.2~8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>○耐火材吹付け</td> <td>○乾式吹付けロックウール</td> <td>1時間</td> <td>ポンベ保管庫 乾燥室 天井上収納</td> </tr> <tr> <td>・耐火板張り</td> <td>・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>・高熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火塗料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	○耐火材吹付け	○乾式吹付けロックウール	1時間	ポンベ保管庫 乾燥室 天井上収納	・耐火板張り	・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール			・耐火材巻付け	・繊維混入けい酸カルシウム板			・ラス張りモルタル塗り	・高熱ロックウール			・耐火塗料	-		
	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																								
○デッキプレート 単独の構法	構造図による																																										
・デッキプレートと コンクリートとの合 成スラブとする構法	構造図による																																										
種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																																								
○耐火材吹付け	○乾式吹付けロックウール	1時間	ポンベ保管庫 乾燥室 天井上収納																																								
・耐火板張り	・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール																																										
・耐火材巻付け	・繊維混入けい酸カルシウム板																																										
・ラス張りモルタル塗り	・高熱ロックウール																																										
・耐火塗料	-																																										
⑨ 無筋コンクリート	<p>コンクリートの種類 (6.14.1) ※普通コンクリート ・ ()</p> <p>セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種</p> <p>設計基準強度 (6.14.1) ※18N/mm² ・ () N/mm²</p> <p>スランプ (6.14.1) ※15cm又は18cm ・ () cm</p> <p>適用箇所 (6.14.1) ※標準仕様書 6.14.1(4)(7)~(h)による ・構造図による</p>	④ 高力ボルト	<p>高力ボルトの種類 (7.2.2) ◎トルシア形高力ボルト 2種 (S10T) ◎JIS形高力ボルト 2種 (F10T) ・ ()</p> <p>ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による</p> <p>摩擦面の処理方法 (7.4.2) ※自然発錆 (黒皮等を除去した後自然放置して表面に赤さびが発生した状態) ・プラスト処理 (表面粗度50μmRz以上)</p> <p>・すべり試験の実施 (7.4.2) ※すべり係数試験 ・すべり耐力試験 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、 本試験で作成した対比試験片で行うこと。</p>	⑪ スタッド	<p>JIS B1198 (頭付きスタッド) (7.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>◎16</td> <td>100</td> <td>DS16受梁天端</td> </tr> <tr> <td>・19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	◎16	100	DS16受梁天端	・19			・22			⑫ 柱底均しモルタル	<p>※無収縮モルタル (7.2.9) 無収縮モルタルの材料、調合等 ※標準仕様書 7.2.9(2)(7)から(1)による ・構造図による</p> <p>・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル</p>	⑭ 軽量形鋼構造	<p>ボルトの接合部 (7.11.2) ※普通ボルト接合 ・構造図による</p>																						
呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																																									
◎16	100	DS16受梁天端																																									
・19																																											
・22																																											
10 流動化コンクリート	<p>適用箇所 (6.15.1) ※構造図による</p>	⑤ 溶融重合めっき 高力ボルト	<p>セットの種類 (7.3.2) ※1種 (F8T) 相当</p> <p>ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による</p> <p>摩擦面の処理方法等 (7.12.5) ・プラスト処理 (表面粗度50μmRz以上)</p> <p>○りん酸塩処理 ・構造図による</p> <p>・すべり試験の実施 (7.4.2) ※すべり係数試験 ・すべり耐力試験 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(7)又は(4)による摩擦面の確認は、 本試験で作成した対比試験片で行うこと。</p>	⑬ 製作精度	<p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による (7.3.3) 通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(2)による ・構造図による</p> <p>アンダーカットの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(3)による ・構造図による</p> <p>食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ○「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・構造図による</p>	14 溶接作業を行う 技能資格者の 技量付加試験	<p>試験の要領 (7.6.3) ※構造図による</p>	⑮ 溶接接合	<p>開先の形状 (7.6.4) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-2</p> <p>○鋼製エンドタブの切断部分 (7.6.7) 切断する箇所 ※構造図による 切断する範囲 ・構造図による ○鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mmを残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</p> <p>切断面の仕上げ ※標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による ・構造図による</p>	⑯ 入熱、バスの温度の 溶接条件	<p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 (7.6.7) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-4 ・構造図による</p>	⑰ 溶接部の試験	<p>適用箇所 (7.6.10) ※柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・構造図による</p>	⑱ 耐震スリット	<p>せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ◎合板 厚さ ※12mm ・ () mm ・メッシュ型枠 (使用部位 ※構造図による)</p> <p>◎床型枠用鋼製デッキプレート (施工範囲 ※構造図による) (6.8.2)</p> <p>・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 (6.8.2) ※構造図による</p> <p>・MCR工法用シートの使用 適用箇所 (6.8.2) ※構造図による 打増し厚さ ・20mm ・ () mm 打増し範囲 ※構造図による</p> <p>スリーブの材質・規格等 (6.8.2) ※構造図による</p>	⑮ コンクリートの 単位水量測定	<p>実施要領 ※構造関係共通事項 構-2 施工方法等計画書関連等 コンクリートの単位水量測定</p>	⑯ 耐震スリット	<p>○垂直スリット 幅 (35) mm タイプ ※完全 ・部分</p> <p>○水平スリット 幅 (25) mm タイプ ※完全 ・部分</p> <p>ずれ止めの差し筋 ※D10-400φ ・ () 仕様・目地等 ※意匠図による</p>	⑧ 普通ボルト	<p>ボルト及びナットの種類 (7.2.3) ※標準仕様書 表7.2.3 (JIS附属書品)又は次による</p> <p>ボルトの規格は、JIS B 1180とする。ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は金ねじ六角ボルトとし、 材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、 ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット -Cとし、材料は鋼とする。</p> <p>屋金 (7.2.3) ※JIS B 1256による ・構造図による</p> <p>ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による</p> <p>母屋又は副線の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8) ※ねじの呼び径+1.0mm ・構造図による</p>	⑮ 溶接接合	<p>開先の形状 (7.6.4) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-2</p> <p>○鋼製エンドタブの切断部分 (7.6.7) 切断する箇所 ※構造図による 切断する範囲 ・構造図による ○鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mmを残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</p> <p>切断面の仕上げ ※標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による ・構造図による</p>	⑰ 溶接部の試験	<p>スラップの形状 (7.6.7) ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-4</p>	⑱ 耐震スリット	<p>○垂直スリット 幅 (35) mm タイプ ※完全 ・部分</p> <p>○水平スリット 幅 (25) mm タイプ ※完全 ・部分</p> <p>ずれ止めの差し筋 ※D10-400φ ・ () 仕様・目地等 ※意匠図による</p>	⑧ ターンバックル	<p>種類 (7.2.6) 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・ () 建築用ターンバックル鋼 ※割弁式 ・ ()</p> <p>ねじの呼び (7.2.6) ※構造図による</p>	⑱ 錆止め塗装	<p>塗料の範囲 (7.8.2.4) ・耐火被覆材の接着する面の塗装 範囲 ※構造図による</p> <p>○耐火被覆材の接着する面以外の塗装 範囲 ※標準仕様書 7.8.2(1)(7)~(4)以外 ・構造図による</p> <p>塗料の種類 ○下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・ () ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類 ・ ()</p>	⑱ 錆止め塗装	<p>塗料の範囲 (7.8.2.4) ・耐火被覆材の接着する面の塗装 範囲 ※構造図による</p> <p>○耐火被覆材の接着する面以外の塗装 範囲 ※標準仕様書 7.8.2(1)(7)~(4)以外 ・構造図による</p> <p>塗料の種類 ○下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・ () ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類 ・ ()</p>										
NOTE											<p>構造設計者 一級建築士 第287803号 前田 隆志 構造設計一級建築士 第7297号</p>																																
株式会社 あい設計 株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号										備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)		DWG No	S																														
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋										特記仕様書(構造関係2)		SCALE A1: - A3: -	002																														

建物概要等		構造概要		備考	
1. 構造概要	構造種別	庁舎棟 主訓練塔 副訓練塔 公用車庫	(1)階~(2)階(RC.S)造 (1)階~(4)階(RC)造 (1)階~(4)階(RC.S)造 (1)階~(1)階(S)造	()階~()階()造 ()階~()階()造 ()階~()階()造 ()階~()階()造	備考
	架構形式	庁舎棟 主訓練塔 副訓練塔 公用車庫	X方向 (総ラーメン) 構造 Y方向 (総ラーメン) 構造 X方向 (総ラーメン) 構造 Y方向 (総ラーメン) 構造 X方向 (総ラーメン) 構造 Y方向 (総ラーメン) 構造 X方向 (総ラーメン) 構造 Y方向 (プレース) 構造		
	耐震構造方式	共通	○耐震構造 ・ 制振構造 ・ 免震構造(免震層の位置 ・ 基礎下免震 ・ 中間階免震()階) ○直接基礎 ○独立 ○連続 ・ べた ・ ()		適用箇所は図示による
	基礎方式	共通	・ 杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・ 既設コンクリート杭 ・ 鋼管杭 ・)		(S-103, S-203, S-303, S-402)
	耐震安全性の分類	庁舎棟 主訓練塔 副訓練塔 公用車庫	○I類(1.5) ・ II類(1.25) ・ III類(1.0) ・ I類(1.5) ・ II類(1.25) ○III類(1.0)		
	耐風に関する性能の分類	庁舎棟 主訓練塔 副訓練塔 公用車庫	○I類(1.3) ・ II類(1.15) ・ III類(1.0) ・ I類(1.3) ・ II類(1.15) ○III類(1.0)		
	2. 構造設計条件等	計算方法		X方向 Y方向	備考
		許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】		・	
		許容応力度等計算 【ルート2】		・	
		庁舎棟 保有水平耐力計算 【ルート3】		○	X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
	主・副訓練塔		○		
	公用車庫		○		
	境界耐力計算				
	その他の計算法 (許容応力度計算)		○	○	
	構造計算適合性判定機関 (株式会社 建築構造センター)				
	特別な検証法(時刻歴応答解析による)				
	大臣認定(認定番号)				
	指定性能評価機関 ()				
	評価 ・ 高層評価 ・ 免震評価 ・ その他 (評価番号)				
	外力等				
	設計用一次固有周期	庁舎棟 (0.164) 秒 主訓練塔 (0.294) 秒 副訓練塔 (0.282) 秒 公用車庫 (0.129) 秒			
	地震地域係数(Z)	Z = 1.0 ○0.9 ・ 0.8 ・ 0.7			
	地震の種類	第(2)種地震 T _C = 0.6 秒			
	標準せん断力係数	X方向 Y方向			
	一次設計	庁舎棟 C ₀ = (0.20以下) C ₀ = (0.20以下)			
	二次設計	主・副訓練塔 C ₀ = (1.00以下) C ₀ = (1.00以下)			
	一次設計	公用車庫 C ₀ = (0.20以下) C ₀ = (0.20以下)			
	二次設計	C ₀ = (-) C ₀ = (-)			
	風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 平均速度圧(q)			
		庁舎棟 (30) m/s (0.79) kN/m ²			
		主訓練塔 (30) m/s (0.97) kN/m ²			
		副訓練塔 (30) m/s (0.96) kN/m ²			
		公用車庫 (30) m/s (0.64) kN/m ²			
	風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 平均速度圧(q)			
		庁舎棟 (30) m/s (0.31) kN/m ²			
		主訓練塔 (30) m/s (0.40) kN/m ²			
		副訓練塔 (30) m/s (0.39) kN/m ²			
		公用車庫 (30) m/s (0.26) kN/m ²			
	積雪荷重	区域 ・ 多雪区域 ○多雪区域以外(特定緩勾配屋根・有○無)			
		設計垂直積雪量 (90) cm			
		単位積雪量 (20) N/m ² cm			
		垂直積雪量の低減 ・ 低減する ○低減しない			
3. 地盤調査資料	※当該地の既往調査報告書 ○構造図による (S-014~S-017 図による)				
4. 液状化対策	・ 有り (範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照) ○無し				

構造関係共通事項 (共通事項)																
1.1 適用範囲	(1) 構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。 (2) 構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。 (3) 建築構造図に特記無き事項は、公共建築工事標準仕様書(建築工事情) 令和4年度版による。															
1.2 用語の定義	(1) 構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。 (2) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。 (3) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。															
1.3 優先順位	設計図書等の図面のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。 1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項) 2. 構造関係共通事項(配筋標準図)、構造関係共通事項(鉄骨標準図)															
1.4 記号等	図面で使用される記号等は表1~表4を標準とする。															
表1 異形鉄筋の断面表示記号																
区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32							
建築		○	×	∅	●	○	◎	⊗	⊙							
表2 各階状図における記号																
記号	説明	記号	説明													
S※	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置													
◇	スラブ厚さ	⊕	試験鉄の位置													
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲													
D※	土間コンクリート	⊗	スラブ開口													
	コンクリートブロック壁(CB壁)	⊕	ポーリング位置													
▨	梁・スラブの上り下り及び範囲	(±)	FLからの上り下り													
EW○○	耐力壁															
EK○○	片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁															
EM○○	土圧を受け、かつ耐力壁															
表3 梁貫通孔記号																
区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		⊕	⊗	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
表4 スリーブ材質の凡例																
管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質強化ビニル管(薄肉管)	つば付き鋼管(黒管)												
記号(建築用)	SP(白管)	GA	VU	RS												
※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。																

構造関係共通事項 (共通事項)	
1. コンクリートの単位水量測定	(1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(f)による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合は、その運搬車のレイミックストコンクリート(以下「生コン」という。)を合格とし、そのまま打設する。 2) 測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、その運搬車の生コンを合格とし打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m ³ 以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m ³ 以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) により不合格となった生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4) 単位水量管理についての記録を配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等と写真により監督職員に提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該生コン生産者以外の機関とする。

構造関係共通事項 (配筋標準図)				
1.1 鉄筋の加工	鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。			
表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径				
折曲げ角度	折曲げ図(余長)	鉄筋の種類	SD295、SD345	SD390
		呼び名	D16以下	D19~D38
180°				
135°				
90°			3d以上	4d以上
135°及び90°(幅止め筋)				5d以上
1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。 2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。				
2.1 異形鉄筋の末端部	次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。 (1) 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部			
図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋(●印)				
(2) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む) (3) 杭基礎のベース筋 (4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋				
3.1 継手及び定着	(a) 鉄筋の重ね継手 (1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。 (2) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。			
表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ				
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L1 (フックなし)	L1h (フックあり)	
SD295	18	45d	35d	
	21	40d	30d	
	24, 27, 30, 33, 36	35d	25d	
SD345	18	50d	35d	
	21	45d	30d	
	24, 27, 30, 33, 36	40d	30d	
SD390	21	50d	35d	
	24, 27	45d	35d	
	30, 33, 36	40d	30d	
(注) 1. L1, L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ 2. フックありの場合のL1hは、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。				
図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ				

(3) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)又は表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。		
(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。 ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。		
表3.2 隣り合う継手の位置		
重ね継手の場合	フックありの場合	
フックなしの場合		
溶接継手	ガス圧接継手・溶接継手	
機械式継手	カッパー	
(b) 鉄筋の定着	(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。 (2) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の直線定着長さは、40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)とする。	
表3.3 鉄筋の定着の長さ		
(注) 1. L1, L1h: 2. 4. 5. 6. 表の値に5dを加えたものとする。		
表3.3 鉄筋の定着の長さ		
図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ		
(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。 (i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上 (ii) 余長は8d以上とする。 (iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL _a 及びL _b は表3.4に示す長さとする。 ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。		
図3.3 折曲げ定着の方法		
図3.3 折曲げ定着の方法		
構造設計者 一級建築士 第287803号 前田 隆志 構造設計一級建築士 第7297号		

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
 2. L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く。)
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたとする。

- (3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
 なお、 L_1 は表3.11に、 L_2 及び L_3 は表3.31による。

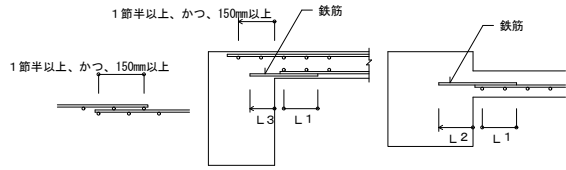


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

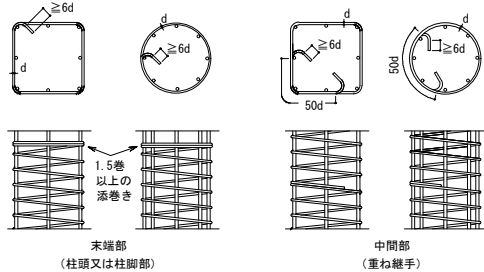


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
 ただし、柱及び梁の主筋に $D \geq 9$ 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種類	最小かぶり厚さ (mm)	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20
	柱、梁、耐力壁	30
	屋内	30
	屋外	30
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	40
煙突等高熱を受ける部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
		60

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
 また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
 2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ (仕上塗材、塗装等) のものを除く。
 3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
 4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
 (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 (2) 2.5mm
 (3) 隣り合う鉄筋の径の平均 (呼び名の数値) の1.5倍

NOTE

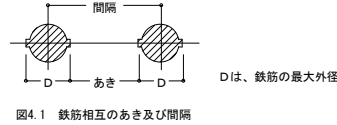


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

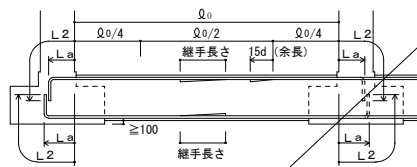
5.1 基礎梁

- (a) 一般事項
 (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。



図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

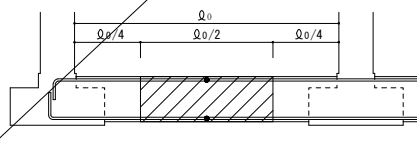
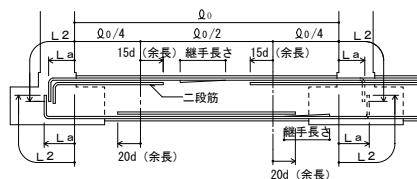


図5.2 主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
 ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

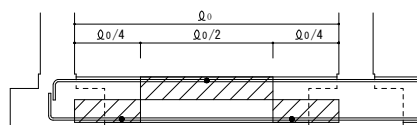
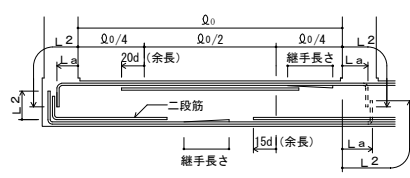


図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その2)

- (d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

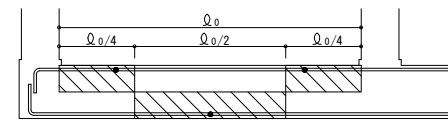


図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

5.2 基礎梁のあばら筋等

- (a) 一般事項
 (1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。
 (2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

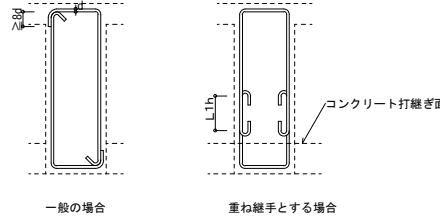


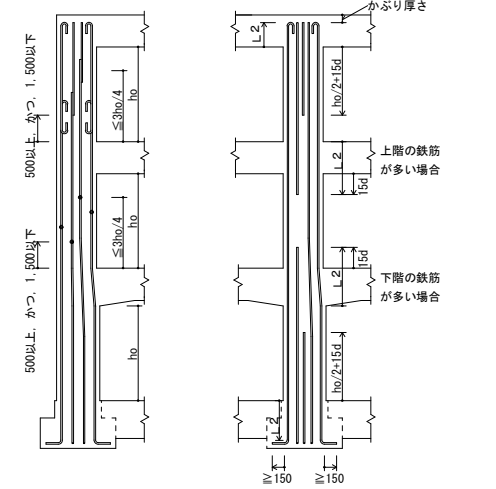
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

- (b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2(c)による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

- (c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

- (a) 一般事項
 (1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_o/4$ (h_o は柱の内法高さ) 以下とする。
 (2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
 ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。



- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2 [隣り合う継手の位置] による。
 3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (b) 柱打増し部
 (1) 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含めない。
 (2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

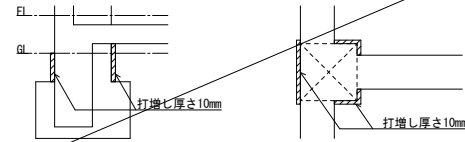


図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。
 (b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。
 (1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 (2) 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は1.0d以上とする。
 (3) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

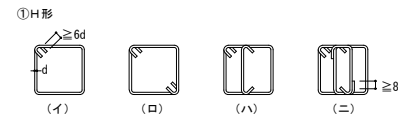


図6.3 帯筋組立の形

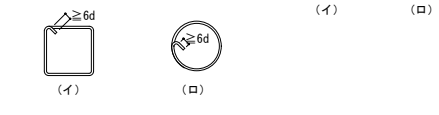
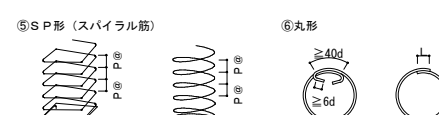
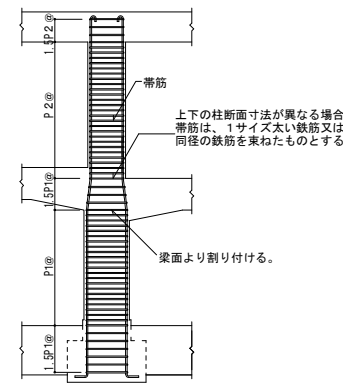


図6.3 帯筋組立の形

- (c) フック及び継手の位置は交互とする。

- (d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。



- (注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1 @または1.5P2 @とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
 2. 図中のP1 @、P2 @は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

- (a) 一般事項
 (1) 梁の上り下りには、 F_l を基準とした寸法値とする。
 (2) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は構造図による。
 (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さは、打増し部分を含めない。
 (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
 (1) 継手中心位置は、次による。
 上端筋: 中央 $Q_o/2$ 以内
 下端筋: 柱面より梁せいの $Q_o/4$ 以上とし、 $Q_o/4$ を加えた範囲以内
 (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
 (3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

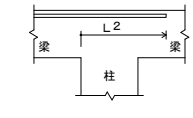


図7.1 梁主筋の梁内定着

- (4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
 なお、定着の方法は3.1(b)(2)による。
 上端筋: 曲げ降ろす
 下端筋 (一般): 原則、曲げ上げる。
 下端筋 (ハンチ付き): 原則、曲げ上げる。
 (5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。
 (6) 段違い梁は、図7.2による。

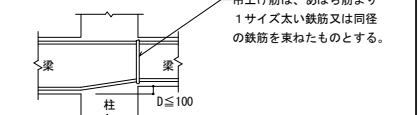
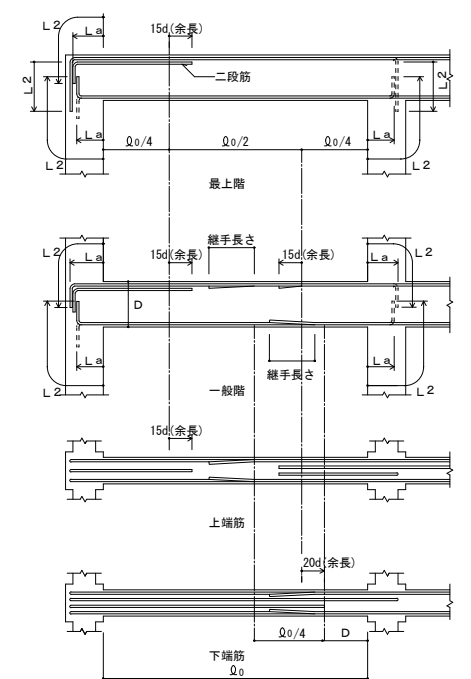


図7.2 段違い梁

- (c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

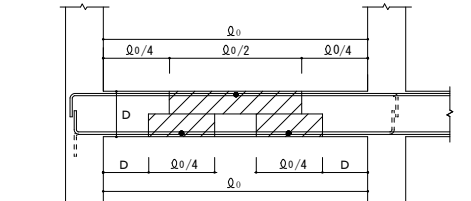
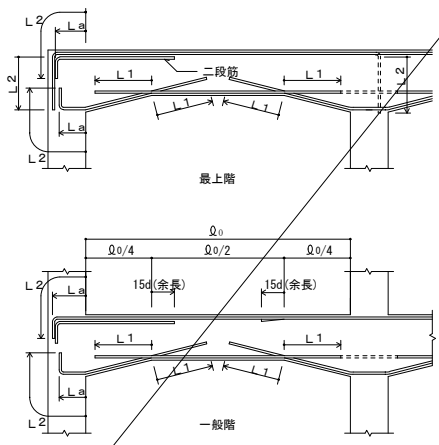


図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

構造設計者	前田 隆志
一級建築士 第 287803号	
構造設計一級建築士 第 7297号	

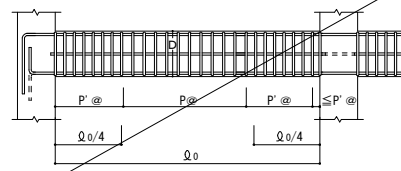
(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎を除く）には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。
 4. 破線は、柱内定着を示す。
 5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@、P'@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。

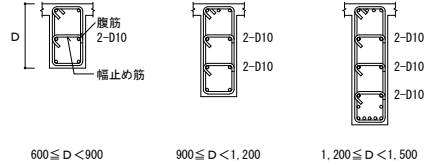
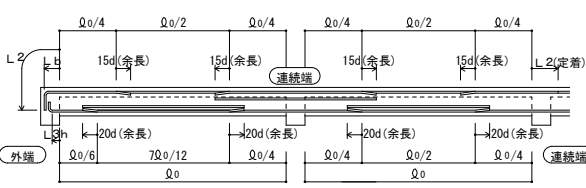


図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

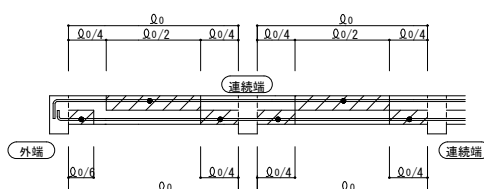
(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。



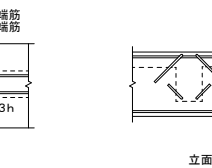
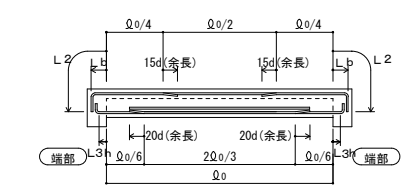
- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
 2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）



- : 継手の好ましい位置
 : ガス圧接を例で示す

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
 2. 印は、余長位置を示す。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(c) あばら筋は、7.2による。

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
 (2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さは、定着長さは構造図による。
 (3) 幅止め筋及び受け幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図7.5 (イ) とする。
 ただし、L形梁の場合は、(ロ) または (ハ)、T形梁の場合は (ロ) ~ (ニ) とすることができる。

(2) フックの位置

- i. (イ) の場合は交互とする。
 ii. (ロ) の場合はL形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
 iii. (ハ) の場合は床版の付く側を90° 折曲げとする。

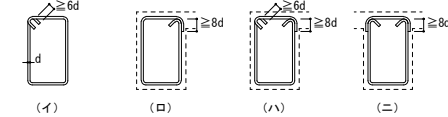
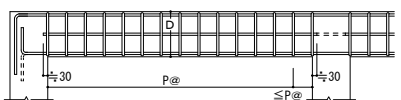


図7.5 あばら筋組立の形

(c) あばら筋の割付け

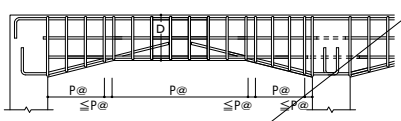
(1) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7.6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

(2) 間隔が一律でハンチのある場合は、図7.7による。



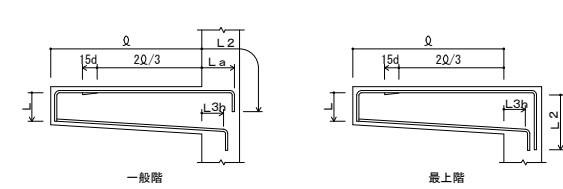
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

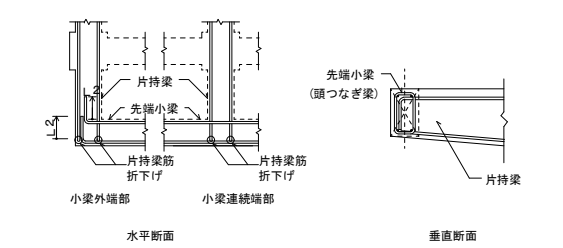
(1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、余長位置を示す。
 3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからふり厚さを除いた長さとする。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



- (注) 1. 図示のない事項は、(1)による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

(b) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

(a) 一般事項

- (1) 壁筋の重ね継手の長さはL1、定着の長さはL2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
 ただし、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）又は表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
 (2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。
 (3) 打増し部分に、壁、スラブ等が取り付けの場合の壁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

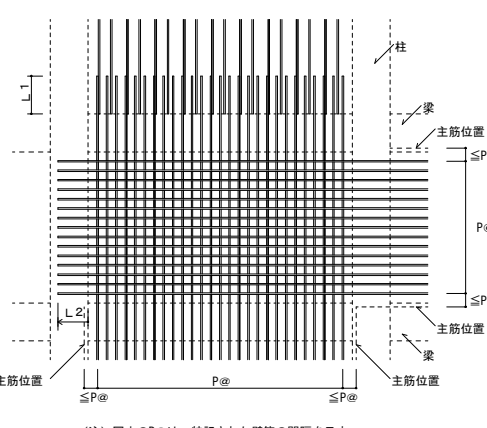


図8.1 壁の配筋

(b) 壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2 片持スラブ階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
	縦筋	横筋		
KW1	D13-200#ダブル	D10-200#ダブル	180	KA1 KA3
	D13-150#ダブル	D10-200#ダブル		
KW2	D13-150#ダブル	D10-200#ダブル	200	KA2 KA4
	D13-100#ダブル	D10-200#ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

(e) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

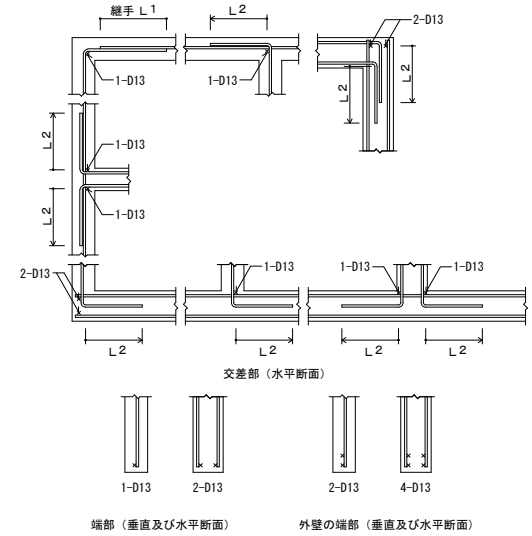


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

- (1) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
 なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

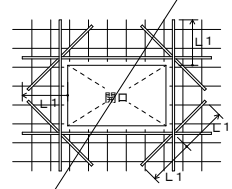


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上り下りりは、FLを基準とした寸法値とする。
 (2) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は構造図による。
 (3) 土間コンクリート補強筋(※)の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
 (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.11により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域		長辺方向 (配力筋) 全域	
	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10、D13-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上
S 3	同上	D10、D13-150#	S10	D10、D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S 5	同上	D10、D13-150#	S12	同上
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S 7	D10、D13-150#	D10、D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

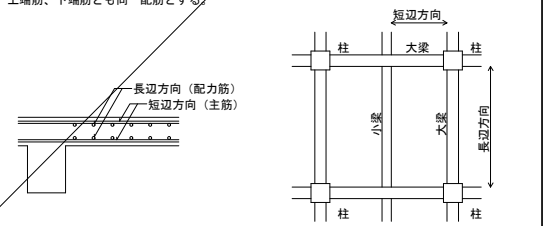


図9.1 スラブの配筋

- (5) 鉄筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 (6) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
 ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

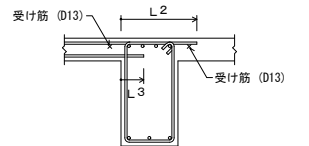


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）

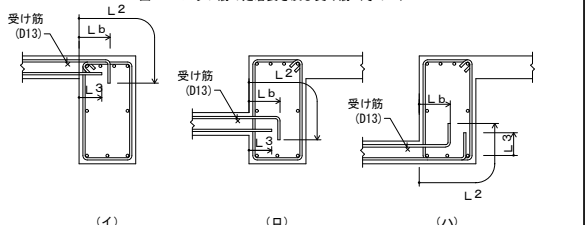


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

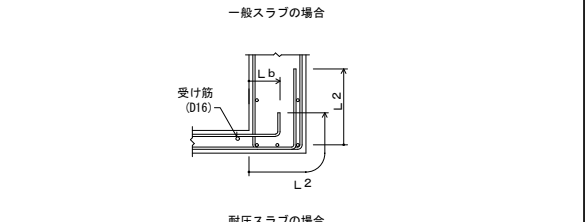


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

9.2 片持スラブ

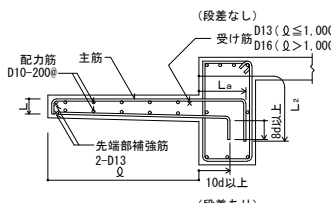
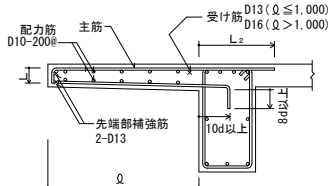
片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。ただし、構造図になければ、片持スラブは現場打ちコンクリート部材とする。

片持スラブの配筋は、次による。
 (1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.2 CS形配筋

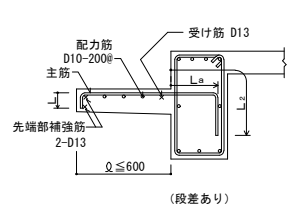
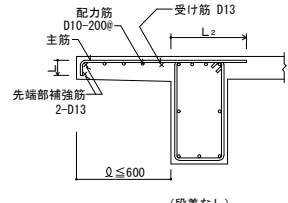
配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	D13-100#	D10-200#	CS5	D10-200#	D10-400#
	D13-200#	D10-400#		D10-400#	D10-400#
CS2	D13-150#	D10、D13-200#	CS6	D10、D13-200#	—
	D13-300#	D10-200#		D10-200#	—
CS3	D10、D13-150#	D10-200#	CS7	D10-200#	—
	D10、D13-300#	—		—	—
CS4	D10、D13-200#	—	構造設計者 一級建築士 第287803号 前田 隆志 構造設計一級建築士 第7297号		
	D10-200#	—			

NOTE



(注) 1. 先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS-1からCS-5)



(注) 1. 先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS-6及びCS-7)

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

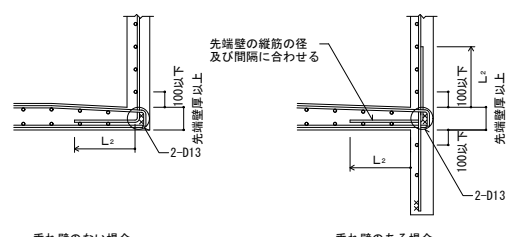
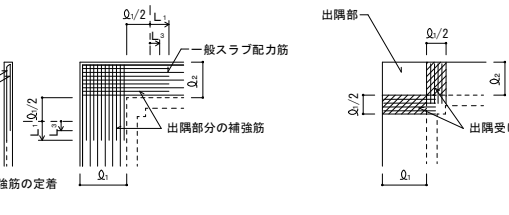


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部
(i) 出隅部の補強筋は構造図により、配筋方法は、図9.7による。
(ii) 出隅受け部分 (図9.7の斜線部分) の補強筋は構造図による。



(注) 1. $Q_1 \geq Q_2$ とする
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

図9.7 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、(i) (ii)による。
(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合には、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($Q = 2L_1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。

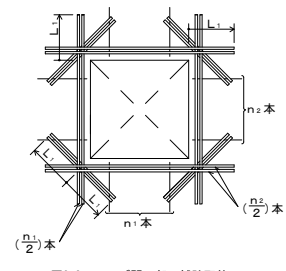


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

(ii) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

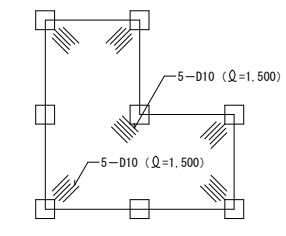


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

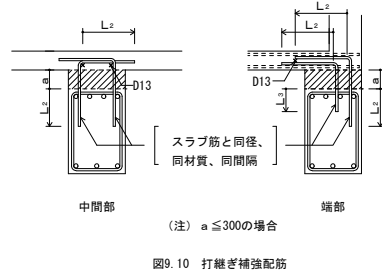


図9.10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

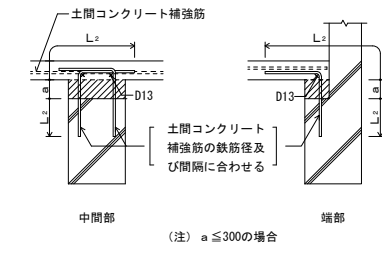


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

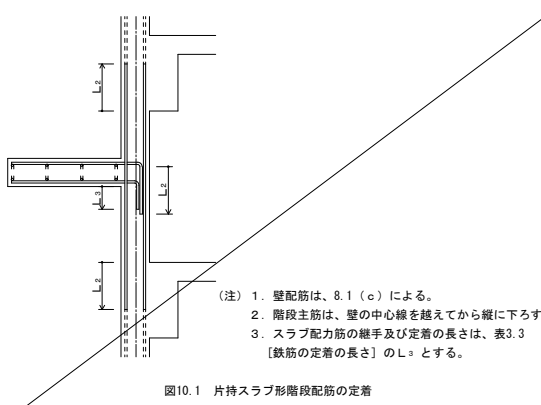


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 壁配筋は、8.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから緩に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3 [鉄筋の定着の長さ]のL₁とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の継手への接続方法は構造図による。二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

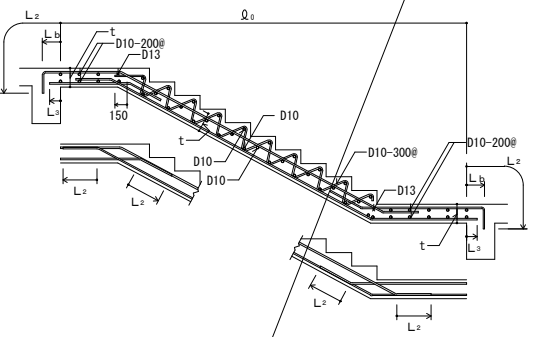


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

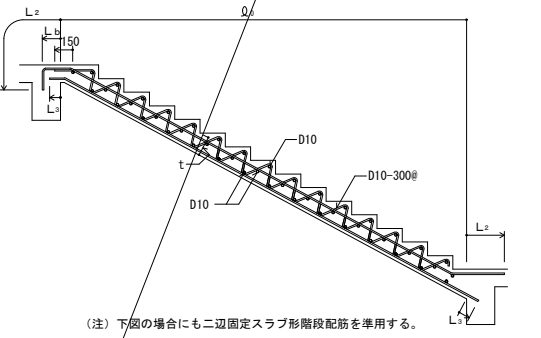


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

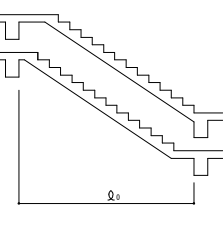


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11.1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には孔を設けてはならない。ただし、耐圧スラブ付きの基礎梁の梁中央部においては、梁上端よりD/3の範囲に孔を設けてはならない。
(4) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁を除く。
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4面以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

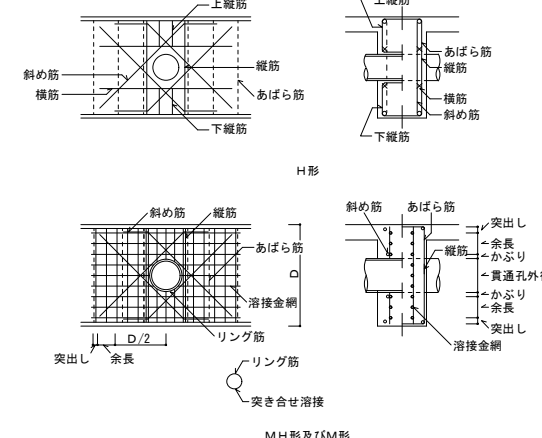


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

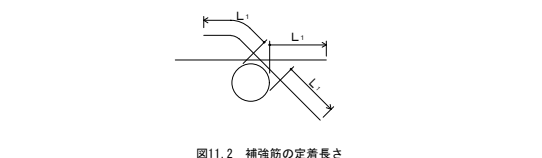


図11.2 補強筋の定着長さ

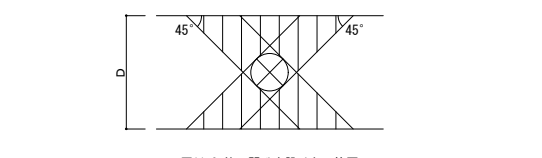


図11.3 孔の開けを設けない範囲

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1により、配筋種別は構造図による。(詳細は公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) の各部配筋 参考図7.2を参照)

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁は、次による。
(1) 控壁の配置は、構造図による。
(2) 配筋は、図11.4による。

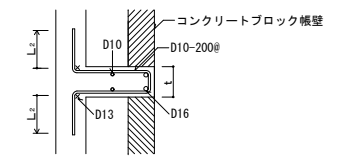


図11.4 控壁の配筋 (水平、垂直とも)

(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

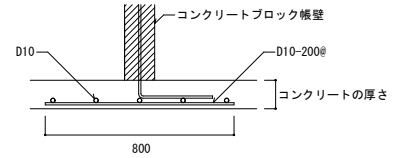


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラベット

パラベットの配筋は図11.6による。

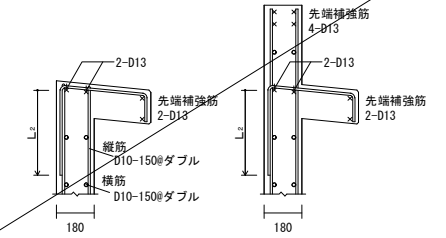


図11.6 パラベットの配筋

11.4 メッシュ型枠

(1) 使用箇所
使用部位は、基礎・地中梁及び関連する柱部分とする
(見えがかりで、仕上げのない部分及びビット部分は除く)
(2) 材料及び構造
・メッシュ材質 鋼板: JIS G3302、板厚0.5mm以上、めっき80kg/m²以上
・機用パイプ材質 JIS G8305、直径2.5mm以上、厚さ1.2mm以上
・締付材はボルト式又は番線式とし、付属材料は監督職員の承認を受ける
(3) 組立て
・組立て機用パイプの立て込み間隔は300mm以下とする
・組立ては製造所の施工要領書に従う
(4) 型枠の取り外し
機用パイプの存置期間は標準仕様書 6. 4により、型枠用メッシュは取り外さない
(5) 鉄筋の最小かぶり厚さ
表4. 1による
ただし、地中梁・柱は設計寸法に10mmを加える

令第129 3条の2の3の事項

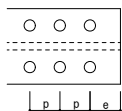
- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- 建築設備の支持構造部および緊結金物には、鎖止め等、防振のための有効な措置を講じること。
- 建築物に設ける屋上からの突出する水栓・煙突・その他これらに類するものは風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
・煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cmとした鉄筋コンクリート造とする。
- 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- エレベータの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- 給湯設備等は、風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対しての安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1389号第5に規定する構造方法とすること。
注: 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

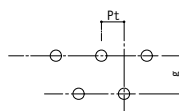
(a) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70



(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	M12、M16、M20、M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位mm)

A又はB	g ¹	g ²	最大軸径		B	g ¹	g ²	最大軸径		B	g ¹	g ²	最大軸径	
			B	g ¹				B	g ¹				B	g ¹
45	25	12	100	56	16	50	30	12						
50	28	16	125	75	16	65	35	20						
60	35	16	150	90	22	70	40	20						
65	35	20	175	105	22	75	40	22						
70	40	20	200	120	24	80	45	22						
75	40	22	250	150	24	90	50	24						
80	45	22	300	150	40 ^{※1}	100	55	24						
90	50	24	350	140	70	24								
100	55	24	400	140	90	24								
125	50	35	24											
130	50	40	24											
150	55	55	24											
175	60	70	24											
200	60	90	24											

※1 千鳥打ちとした場合

(d) ボルト記号

表1.4 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T、S10T)	○	φ	φ	φ	φ	米
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)	△		+	米	米	米

表1.5 普通ボルト径の記号

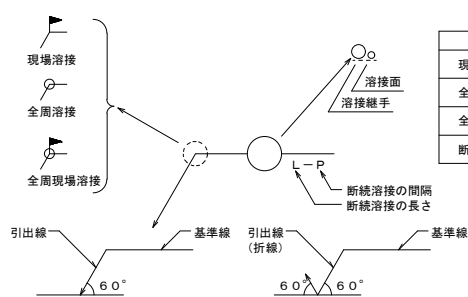
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	φ	φ	φ	φ	米

表1.6 溶接継手及び溶接面の分類別記号

溶接継手	分類		記号
	完全溶込み溶接	突合せ継手	
溶接継手	完全溶込み溶接	突合せ継手	B
	突合せ継手	T型継手	T
	突合せ継手	かど継手	L
	突合せ継手	溶接面	F
溶接面	隅肉溶接	溶接面	F
	部分溶込み溶接	溶接継手	P
	フラア溶接	溶接継手	FL
	片面溶接	溶接継手	1
	両面溶接	溶接継手	2

表1.7 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	○
全周溶接	□
全周現場溶接	□○
断続溶接の長さ及び間隔	L-P



※特記無き限り、完全溶込み溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図1.1 溶接記号の記載例

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手(B)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

T型継手(T)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

部材が直交しない場合の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
6 < t ≤ 40		6 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

かど継手(L)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

隅肉溶接(F)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	

隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接(P)の開先標準

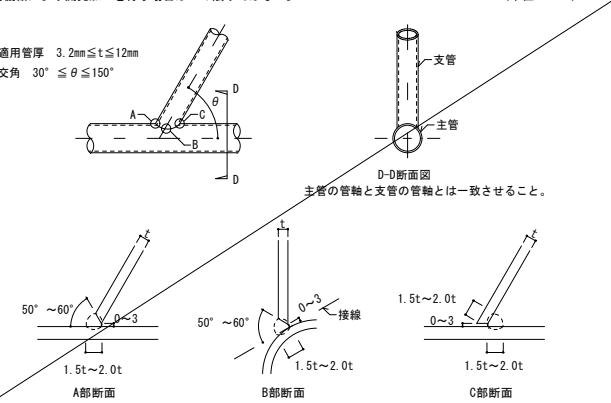
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40		16 ≤ t ≤ 40	

フラア溶接(FL)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼し形溶接)
t ≥ 3のとき S = t		t < 3のとき S = 3	
t ≥ 3のとき S = t		t < 3のとき S = 3	

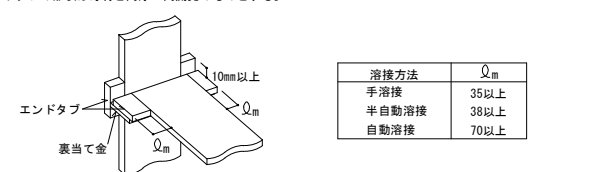
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。



1-4 鉄骨溶接施工

(a) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
(b) エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



(c) 裏当て金

(1) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。
(2) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

裏当て金の厚さ (単位:mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位:mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

構造設計者	
一級建築士	第 287803号
構造設計一級建築士	第 7297号

NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第454号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

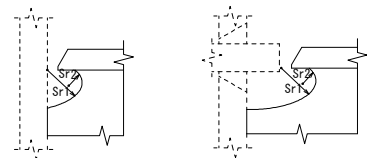
構造関係共通事項(5)

SCALE A1: -
A3: -

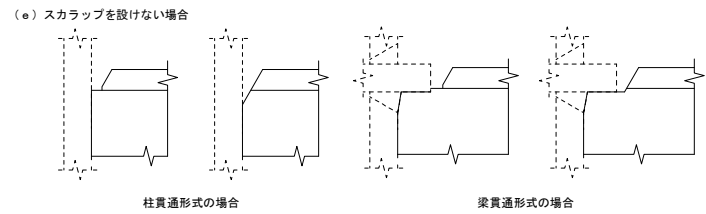
DWG No

007

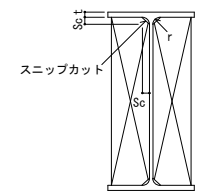
- (d) スカラップ
改良型スカラップ
(1) スカラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。
(2) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



- 従来型スカラップ
(1) スカラップ半径Srは35mmとする。



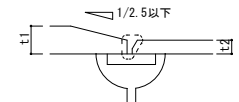
- (f) スニップカット
(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



- (2) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc = t + 2$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

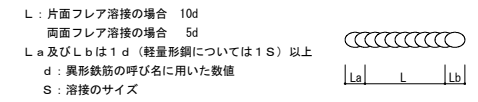
- (g) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合



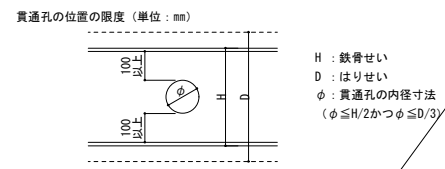
(h) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上ものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW11, 15 YGW18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490T-x-y-CA-U T490T-x-y-MA-U T550T-x-y-CA-U T550T-x-y-MA-U	30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上ものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCT 等	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上ものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW11, 15 YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490T-x-y-CA-U T490T-x-y-MA-U T550T-x-y-CA-U T550T-x-y-MA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上ものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCT 等	40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550T-x-y-CA-U T550T-x-y-MA-U	30以下	250以下
400N級STVR、BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW11, 15 YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490T-x-y-CA-U T490T-x-y-MA-U T550T-x-y-CA-U T550T-x-y-MA-U	40以下	350以下
490N級STVR、及びBCP	JIS Z 3312	YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550T-x-y-CA-U T550T-x-y-MA-U	30以下	250以下

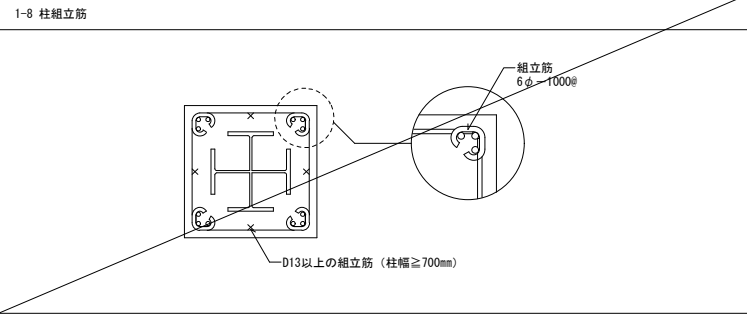
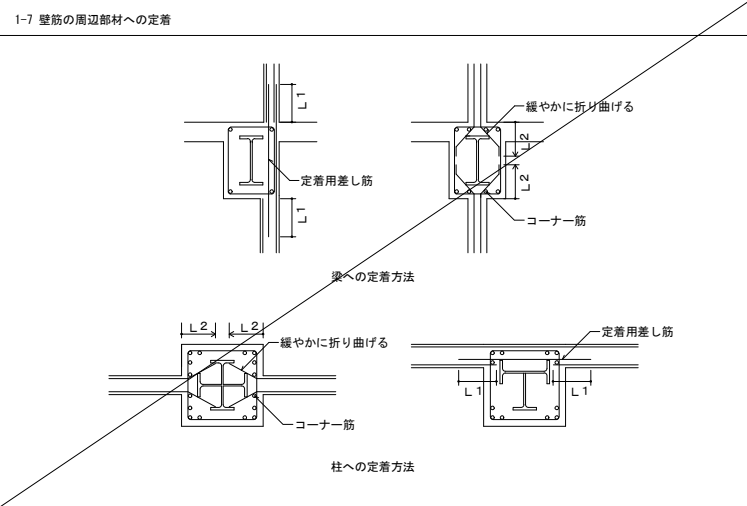
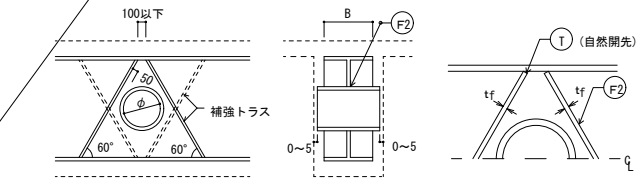
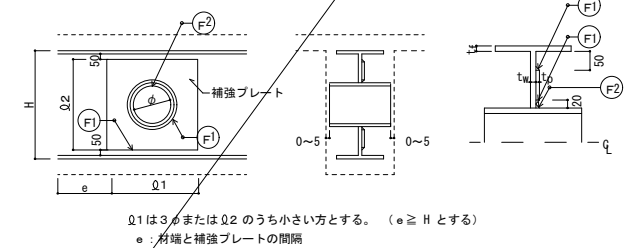
1-5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ
鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合の溶接長さ (L) は、ビードの始点 (La) とびクレーター (Lb) を除いた部分の長さとする。



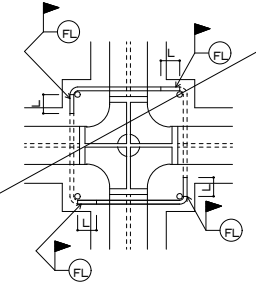
1-6 梁貫通孔補強
(a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。
(1) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(2) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。



(b) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
(1) 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。
補強プレート法
(1) 補強プレート厚が16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



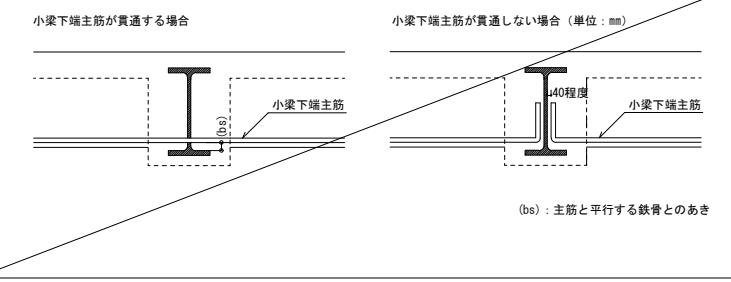
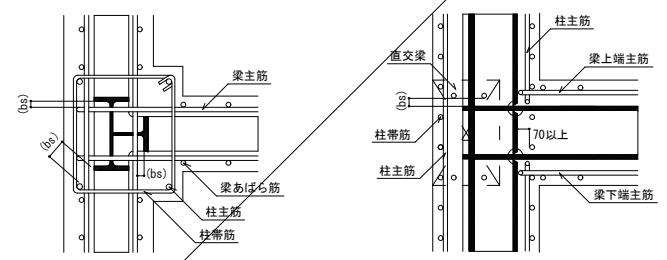
1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立
片面溶接の溶接長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。



1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



テノコラム地業特記仕様書【庁舎棟】 ※同等工法も可とする

1. 工事概要

本地業は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原位置土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(平成16年 4月)」(日本建築センター)による。

3. 特記事項

- コラムの径、掘削深度（設計コラム長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- コラムの設計基準強度は $F_c = \frac{1200}{\text{径}^2} \text{ kN/m}^2$ ($\frac{1.20}{\text{径}^2} \text{ N/mm}^2$) とする。
- 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- 本工事は、テノコラム工法（財団法人 先端建設技術センター先端建設技術・技術審査証明第2001号）とする。又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4. 施工計画

- 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員とする。
- 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 工事件名及び工事場所 | ⑦ 固化材配合条件 |
| ② コラム仕様（コラム径・掘削深度（設計コラム長+空掘長）
・本数・設計基準強度） | ⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑨ 品質検査 |
| ④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名
及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑩ 安全衛生対策 |
| ⑤ 施工手順 | ⑪ 地盤概要（土質柱状図） |
| ⑥ 施工機器 | ⑫ コラム伏図 |
| | ⑬ 技術審査証明書（写） |

5. 施工

- 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
 - 固化材液を吐出せずに、空掘部を所定の深度まで掘進する。
 - 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
 - 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の繰り返しを行う。
 - 先端部繰り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引き上げ攪拌混合する。
- 実施コラム長は、設計図書で示された支持地盤に着底する長さとする。
- 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

- 共回り現象を防止する機構を有し、固化材液と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する採取ヶ所数N、合格確率80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9~
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$Xf = \alpha \times F_c$ [α : 割り増し係数、 Xf : 配合強度]

- 室内配合試験
固化材液の配合（W/C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

8. 施工管理

- 施工の安定性を確保するため以下に示す項目について施工管理する。
 - 形状・寸法 : 鉛直性 _____ 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
コラム心 _____ 事前にコラム心にマークを設ける
掘削深度 _____ 深度計で計測し記録する
コラム径 _____ 攪拌装置の形状・寸法を記録する
 - 固化材 : 材料計量 _____ 水、固化材の重量
固化材液の密度 _____ マッドバランス（泥水比重計）等で計測する
固化材液の添加量 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する。
 - 攪拌混合度 : 攪拌混合回数 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する
 - 支持地盤 : 仕事量 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する。
(施工管理装置は、施工時に管理基準値を満たさない場合、警報等にて修正背負うを促す装備とする。)
- コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、合格とする。
- 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立会うものとする。

9. 品質検査

- 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
 - 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
 - 検査対象層は 風化泥岩、強風化流紋岩、_____ であり、設計対象層を 風化泥岩・強風化流紋岩 とする。
設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均強度を超えないこと。
超えている場合は、最も低い平均強度の層を設計対象層とする。
 - 調査ヶ所数
頭部コア調査100本に1ヶ所とする。
深度コア調査100本に1ヶ所とする。
- コア採取率による調査
深度コア調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でボーリングによりオールコアサンプリングを行い、コア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土層90%、砂質土層95%以上、かつ深さ1m毎に粘性土層85%、砂質土層90%以上であることを確認する。
- 合格の判定
 - 設計対象層についての採取ヶ所数をNとする。1採取ヶ所当り3個のコア供試体を採取し、その平均強度をその採取ヶ所の強度とする。
 - 一軸圧縮強度は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
 - 検査手法は検査手法A（品質のバラツキを想定する場合の検査手法）による。
 - 検査手法Aによる品質検査
合格の判定は検査対象層におけるNヶ所（採取ヶ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。
$$\bar{X}N \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$
$$\bar{X}N : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (N/mm2, kN/m2)$$
$$XL : 合格判定値 (N/mm2, kN/m2)$$
$$F_c : 設計基準強度 (N/mm2, kN/m2)$$
$$k_a : 合格判定係数$$
$$\sigma_d : 想定したコア強度の標準偏差 (N/mm2, kN/m2) であり、 $\sigma_d = V_d \cdot \sqrt{q_{ud}}$ (V_d : 変動係数、品質確認書により想定する q_{ud} : 想定した平均一軸圧縮強さ (N/mm2, kN/m2))$$

採取ヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3


10. 報告

- 工事了後、次の事項について施工報告書をまとめ、監督員に提出する。
- コラムの伏図及び番号
 - コラムの施工日
 - コラムの径及び実施コラム長
 - 掘削深度（実施コラム長+空掘長）
 - 攪拌混合回数又は掘削速度及び引き上げ速度
 - 仕事量又は掘削速度及び電流値（又はトルク値）
 - 固化材液の配合と固化材の使用量
 - コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いた採取率
 - 合格の判定結果

11. その他

施工にあたっては、セメント系固化材等を使用した改良土の六価クロム溶出試験を実施し、環境庁告示46号の土壌環境基準値（検液1Lにつき0.05mg）以下であるかを確認する。
試験方法は、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領(案)の一部変更について」による。

試験方法及び試験の個数：配合設計の段階で実施する環境庁告示46号溶出試験、1 検体

NOTE	 株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	DWG No S 009
	一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋	【庁舎棟】深層混合処理工法特記仕様書	SCALE A1 : - A3 : -

テノコラム地業特記仕様書【副訓練塔】 ※同等工法も可とする

1. 工事概要

本地業は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原位置土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を建造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(平成16年 4月)」(日本建築センター)による。

3. 特記事項

- コラムの径、掘削深度（設計コラム長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- コラムの設計基準強度は $F_c = \frac{1200}{\text{径}^2} \text{ kN/m}^2$ ($\frac{1.20}{\text{径}^2} \text{ N/mm}^2$) とする。
- 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- 本工事は、テノコラム工法（財団法人 先端建設技術センター先端建設技術・技術審査証明第2001号）とする。
又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4. 施工計画

- 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員とする。
- 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 工事件名及び工事場所 | ⑦ 固化材配合条件 |
| ② コラム仕様〔コラム径・掘削深度（設計コラム長+空掘長）
・本数・設計基準強度〕 | ⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑨ 品質検査 |
| ④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名
及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑩ 安全衛生対策 |
| ⑤ 施工手順 | ⑪ 地盤概要（土質柱状図） |
| ⑥ 施工機器 | ⑫ コラム伏図 |
| | ⑬ 技術審査証明書（写） |

5. 施工

- 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
 - 固化材液を吐出せずに、空掘部を所定の深度まで掘進する。
 - 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
 - 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の繰り返しを行う。
 - 先端部繰り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引き上げ攪拌混合する。
- 実施コラム長は、設計図書で示された支持地盤に着底する長さとする。
- 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

- 共回り現象を防止する機構を有し、固化材液と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- 配合強度

変動係数を25%と想定し、9項に規定する採取ヶ所数N、合格確率80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9~
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$Xf = \alpha \times F_c$ [α : 割り増し係数、 Xf : 配合強度]

- 室内配合試験

固化材液の配合（W/C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。
あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

8. 施工管理

- 施工の安定性を確保するため以下に示す項目について施工管理する。

- | | |
|---------|---|
| ① 形状・寸法 | : 鉛直性 _____ 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。 |
| | コラム心 _____ 事前にコラム心にマークを設ける |
| | 掘削深度 _____ 深度計で計測し記録する |
| | コラム径 _____ 攪拌装置の形状・寸法を記録する |
| ② 固化材 | : 材料計量 _____ 水、固化材の重量 |
| | 固化材液の密度 _____ マッドバランス（泥水比重計）等で計測する |
| | 固化材液の添加量 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する。 |
| ③ 攪拌混合度 | : 攪拌混合回数 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する |
| ④ 支持地盤 | : 仕事量 _____ スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する。 |
| | (施工管理装置は、施工時に管理基準値を満たさない場合、警報等にて修正背負うを促す装備とする。) |

- コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、合格とする。
- 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立合うものとする。

9. 品質検査

- 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数

- 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- 検査対象層は 粘土、強風化流紋岩、_____ であり、設計対象層を 粘土 とする。
設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均強度を超えないこと。
超えている場合は、最も低い平均強度の層を設計対象層とする。
- 調査ヶ所数
頭部コア調査100本に1ヶ所とする。
深度コア調査100本に1ヶ所とする。

- コア採取率による調査

深度コア調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でボーリングによりオールコアサンプリングを行い、コア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土層90%、砂質土層95%以上、かつ深さ1m毎に粘性土層85%、砂質土層90%以上であることを確認する。

- 可否の判定

- 設計対象層についての採取ヶ所数をNとする。1採取ヶ所当り3個のコア供試体を採取し、その平均強度をその採取ヶ所の強度とする。
- 一軸圧縮強度は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- 検査手法は検査手法A（品質のバラツキを想定する場合の検査手法）による。
- 検査手法Aによる品質検査
可否の判定は検査対象層におけるNヶ所（採取ヶ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$\bar{X}N \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

$\bar{X}N$: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (N/mm2, kN/m2)

XL : 合格判定値 (N/mm2, kN/m2)

Fc : 設計基準強度 (N/mm2, kN/m2)

ka : 合格判定係数

σ_d : 想定したコア強度の標準偏差 (N/mm2, kN/m2)であり、 $\sigma_d = V_d \cdot \sqrt{\bar{q}_{ud}}$ ($\sqrt{\bar{q}_{ud}}$: 想定した平均一軸圧縮強さ (N/mm2, kN/m2))

採取ヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の事項について施工報告書をまとめ、監督員に提出する。


- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| ① コラムの伏図及び番号 | ⑥ 仕事量又は掘進速度及び電流値（又はトルク値） |
| ② コラムの施工日 | ⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量 |
| ③ コラムの径及び実施コラム長 | ⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いた採取率 |
| ④ 掘削深度（実施コラム長+空掘長） | ⑨ 可否の判定結果 |
| ⑤ 攪拌混合回数又は掘進速度及び引き上げ速度 | |

11. その他

施工にあたっては、セメント系固化材等を使用した改良土の六価クロム溶出試験を実施し、環境庁告示46号の土壌環境基準値(検液1Lにつき0.05mg)以下であるかを確認する。

試験方法は、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領(案)の一部変更について」による。

試験方法及び試験の個数：配合設計の段階で実施する環境庁告示46号溶出試験、1 検体

NOTE	 株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	DWG No S 010
	一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋	【副訓練塔】深層混合処理工法特記仕様書	SCALE A1: - A3: -

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCF T造に適用)

2023/12

大臣認定
BCJ評定

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 関係図 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

規格	ベースプレート		アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
	エコタイプ	高強度柱適用タイプ					
JIS G3136 又は TMCP鋼	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)	
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B.C	TMCP385B.C	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート		アンカーボルト	ナット	座金	定着板
	エコタイプ	高強度柱適用タイプ				
JIS G3136 又は TMCP鋼	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分 (二重ナット時) 強度区分 (一重ナット時)	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566, 0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

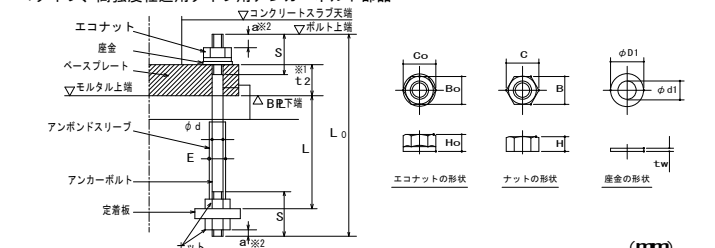
ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
※ センクシアが供給するものに限る

○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 1.8 \sim 3.6 N/mm^2$
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金		外径					
	軸径	長さ	全長	外径	高さ	対角距離	高さ	対角距離	厚さ	内径						
M24	24	3	105	10	400	550	29	22	46	53	6	25	56			
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	160	16	800	1000	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	190	19	1000	1200	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	220	22	1200	1400	56	45	75	85	40	75	85	9	50	92
M56	56	5.5	260	26	1400	1700	64	52	85	98	46	85	98	9	58	105
M64	64	6	300	30	1600	1900	72	60	95	110	50	95	110	12	66	115
M72	72	6.5	340	34	1800	2100	80	68	105	125	56	105	125	12	74	125

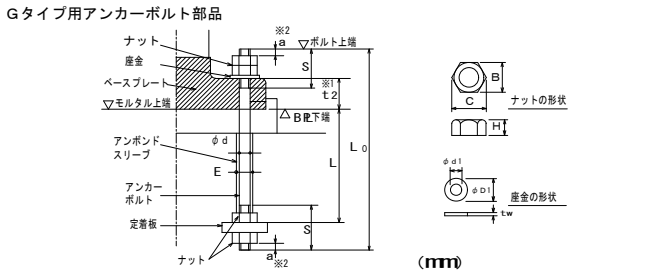
※1 t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びGHタイプの場合の寸法です。

注意

・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆり止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆり止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金									
	軸径	長さ	全長	外径	高さ	対角距離	高さ	対角距離								
M24	24	3	105	10	400	550	29	22	46	53	6	25	56			
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	160	16	800	1000	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	190	19	1000	1200	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	220	22	1200	1400	56	45	75	85	40	75	85	9	50	92
M56	56	5.5	260	26	1400	1700	64	52	85	98	46	85	98	9	58	105
M64	64	6	300	30	1600	1900	72	60	95	110	50	95	110	12	66	115
M72	72	6.5	340	34	1800	2100	80	68	105	125	56	105	125	12	74	125

注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆり止め処置が必要です。
・(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

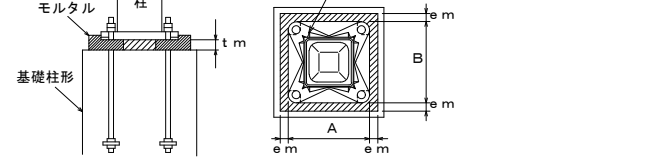
ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72	
エコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-	
高強度柱適用タイプ	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gタイプ孔径	-	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通)

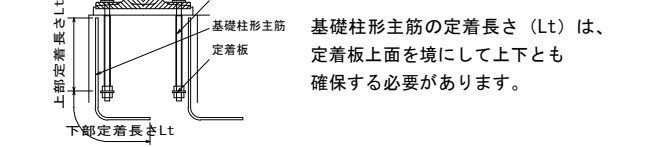
ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用		12本タイプ用						
	厚さ	内径	厚さ	内径	厚さ	内径					
M24	16	70	27	-	-	-					
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-	-	
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-	-	
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	-	-	-	-	380	145	76	16	375	145	76

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313にに従い選定する
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

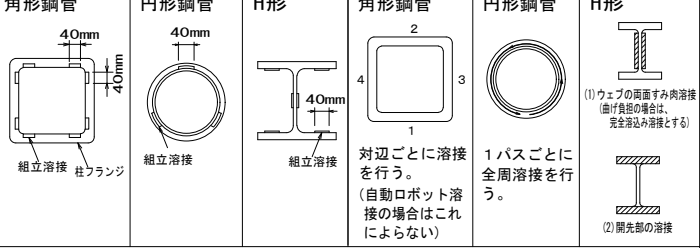
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

ベースプレート形状		開先形状	
角形鋼管柱用 (EB型式)	円形鋼管柱用 (EM型式)	角形鋼管柱用 (EB型式)	円形鋼管柱用 (EM型式)
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ

注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周囲に凹加工している面はベースプレート表面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

ベースプレート形状		開先形状	
角形鋼管柱用 (GB型式)	円形鋼管柱用 (GM型式)	角形鋼管柱用 (GB型式)	円形鋼管柱用 (GM型式)
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ

3. 柱立溶接



4. 本溶接の手順

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

5. 溶接施工一般

H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接
注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱によって曲がる場合があります。

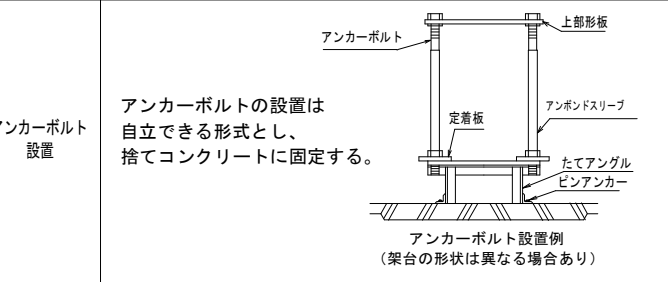
6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はかり取り再溶接する。

現場施工

(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置精度の目標値
基準高さよりの誤差eh
- 3mm ≤ eh ≤ 10mm
(形芯にて検査)

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート 中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。
後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
※ センクシアが供給するものに限る
注入方法はヘッド圧工法による。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差 ±0.10°)
11. モルタル注入枠取り外し	

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

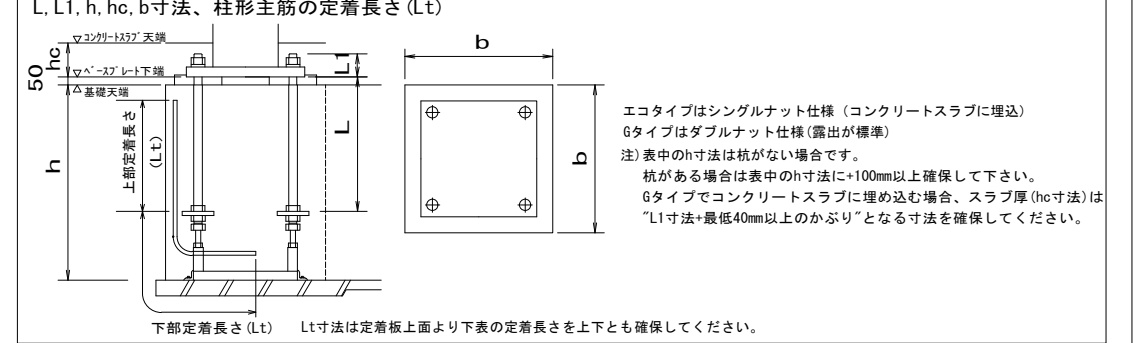
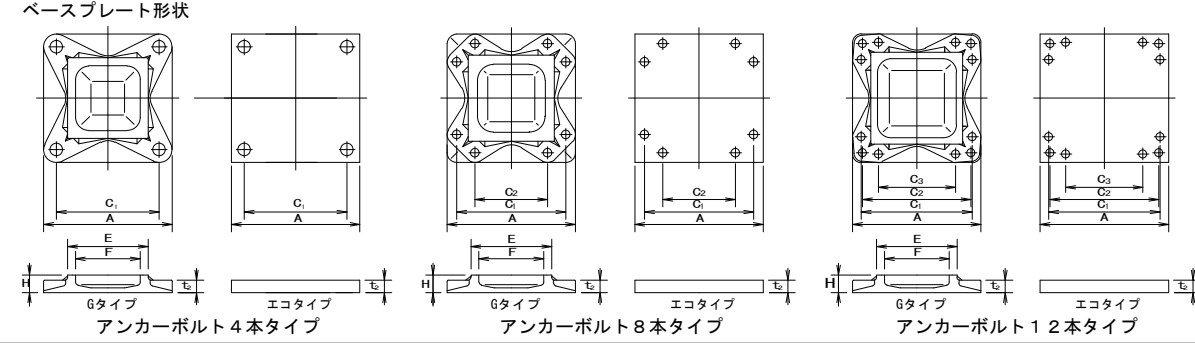
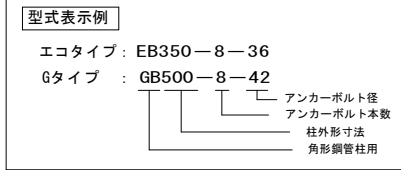
注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎずコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにたらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSL-0404.0180 (Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046 (アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S 5 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 J A S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

大臣認定 BCJ評定

2022/10



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□150~□550)

Table with columns for column size, height, and reinforcement details. Includes sub-tables for corner columns and middle columns.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご利用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。

セクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.senqcia.co.jp/
構造設計者 前田 隆志
構造設計一級建築士 第 7297号

※柱型はS-119図参照

ボーリング柱状図

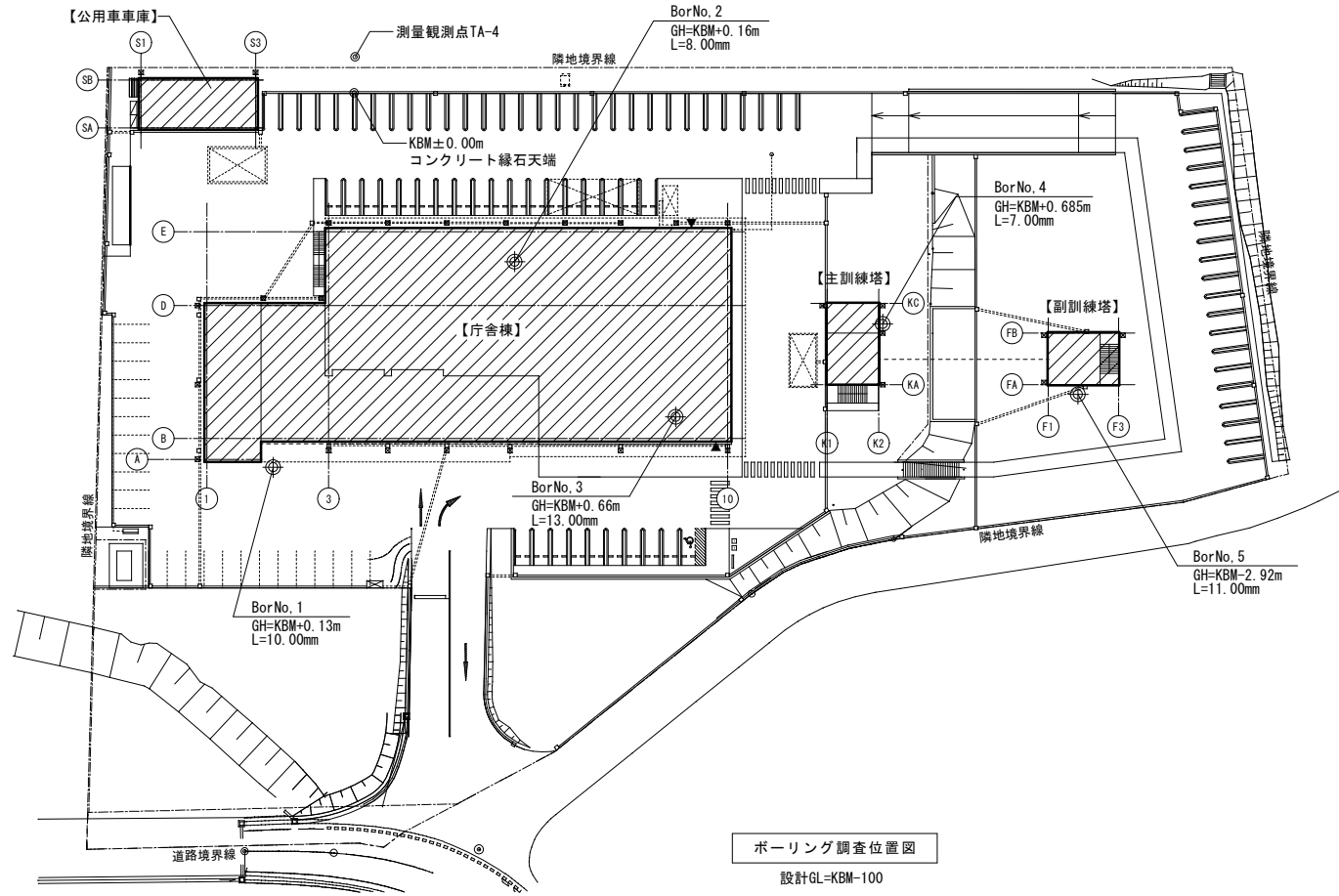
調査名 備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事基本・実施設計業
務地質調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 1	調査位置	広島県三次市十日市町168-1			北緯	34° 47' 39"						
発注機関	備北地区消防組合			調査期間	令和 6年 2月 2日 ~ 6年 2月 5日			東経	132° 51' 15"				
調査業者名	光和物産株式会社 電話 (084-923-5155)			主任技師	丸川 良			現場代理人	安田 健治				
孔口標高	KBM +0.13m	角	180° 上	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0°			試験機	東邦 D1-C型		
総掘進長	10.00m	度	0°	向		使用機種	エンジン			ハンマー落下用具	自動落下 (半自動落下型)		
							ポンプ			東邦 BG-3C			



- ボーリング調査位置図
設計GL=KBM-100
- 【庁舎棟】 : 平均地盤面=設計GL+50
 - 【主訓練塔】 : 平均地盤面=設計GL-90
 - 【副訓練塔】 : 平均地盤面=設計GL-2980
 - 【公用車庫】 : 平均地盤面=設計GL-100

標高 (m)	層厚 (m)	深 (m)	柱状区分	土質	色相	対密	相対稠度	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験			原位置試験	試験名	試験結果	深 (m)	試験番号	採取方法	室内試験	掘進月日	
										10cmの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値									
-0.62	0.75	0.75		粘土	暗褐色			表層5cmは粘土による軟弱し、以下は、未分解の腐植物を多く混じる粘土が主体。		1.15	4	4	5	13	30						
1.45	2.15	4.20		風化泥岩	黄褐色 / 暗褐色			新生代第三紀の風化泥岩。採取試料は固結粘土状を呈す。		2.15	4	5	5	14	30						
2.45	3.15	5.60		風化流紋岩	褐色 / 黄灰色			中生代白亜紀・流紋岩の風化岩。全体に亀裂頻度が高く、採取試料は細砕して粘土混じり砂礫状を呈す。		3.45	5	4	5	14	30						
3.45	4.15	8.80		流紋岩	青灰色			中生代白亜紀・流紋岩の中硬岩。採取コアはL=50~200mm長の短柱に採取。GL-7.00m以深で一段と岩硬度を増し、最大L=400mm長を採取。所々に節理面に沿ったクラックに粘土を挟む。		4.45	8	8	8	24	30						
4.45	5.00	6.00								貫入不能											
5.00	6.00	6.00								貫入不能											
6.00	7.00	7.00								貫入不能											
7.00	8.00	8.00								貫入不能											
8.00	9.00	9.00								貫入不能											
9.00	9.87	10.00								貫入不能											
10.00										貫入不能											

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23 (1) 第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事 (建築)

ボーリング柱状図 (1)

構造設計者	前田 隆志
一級建築士 第287803号	
構造設計一級建築士 第7297号	

SCALE A1: -
A3: -

014

ボーリング柱状図

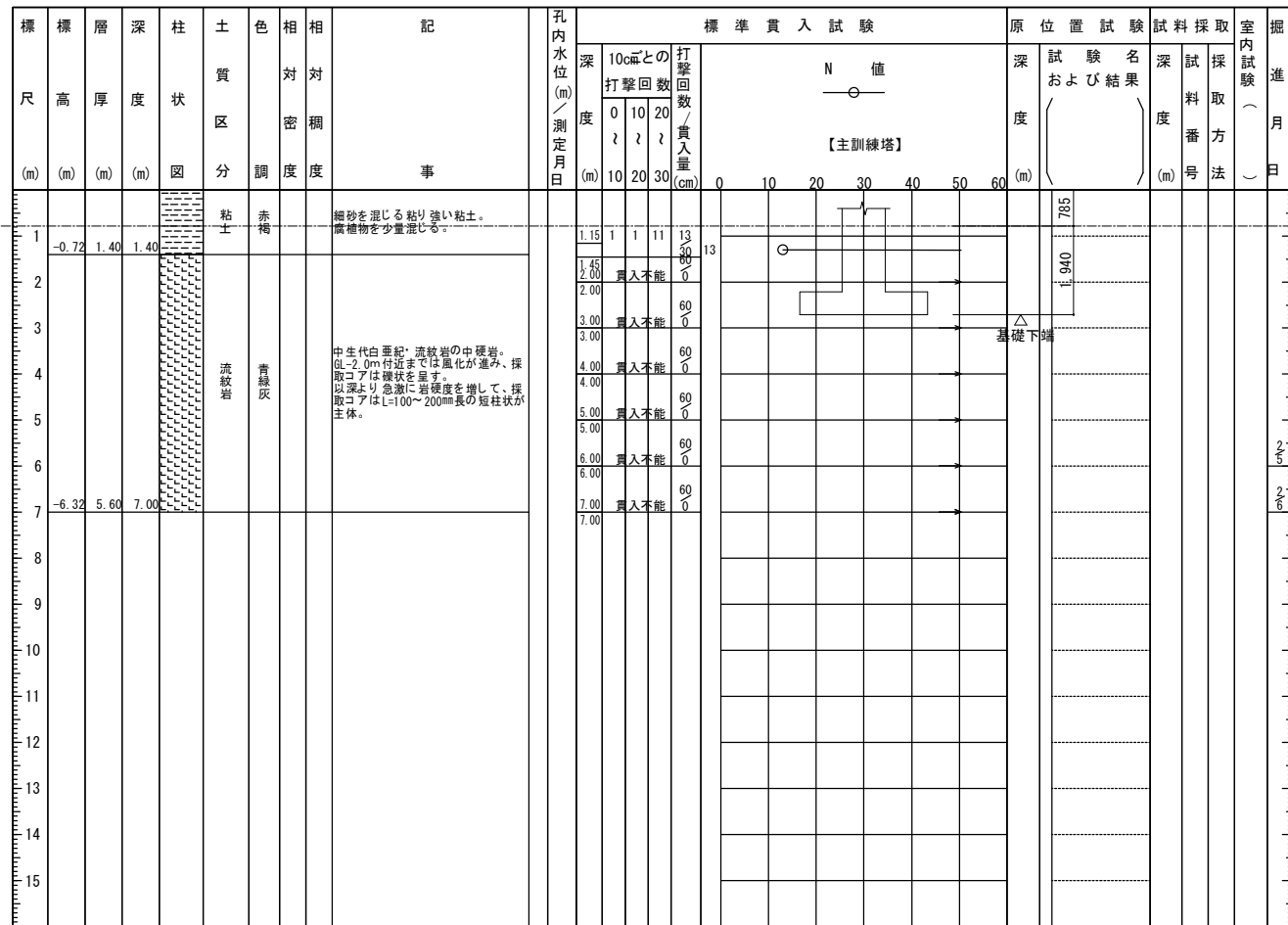
調査名 備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事基本・実施設計業務地質調査

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 4		調査位置	広島県三次市十日市町168-1			北緯	34° 47' 42"			
発注機関	備北地区消防組合			調査期間	令和 6年 2月 5日 ~ 6年 2月 6日			東経	132° 51' 14"		
調査業者名	光和物産株式会社 電話 (084-923-5155)		主任技師	丸川良		現場代理人	安田健治		コア鑑定者	佐藤和彦	
ボーリング責任者	山根義正		試験機	東邦 D1-C型		ハンマー落下用具	自動落下 (半自動落下型)		ポンプ	東邦 BG-3C	
孔口標高	+0.685m		角	180° 上 90° 下		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0°	
総掘進長	7.00m		度	鉛直 90°		使用機種	エンジン		ヤンマー NFD-13型		



ボーリング柱状図

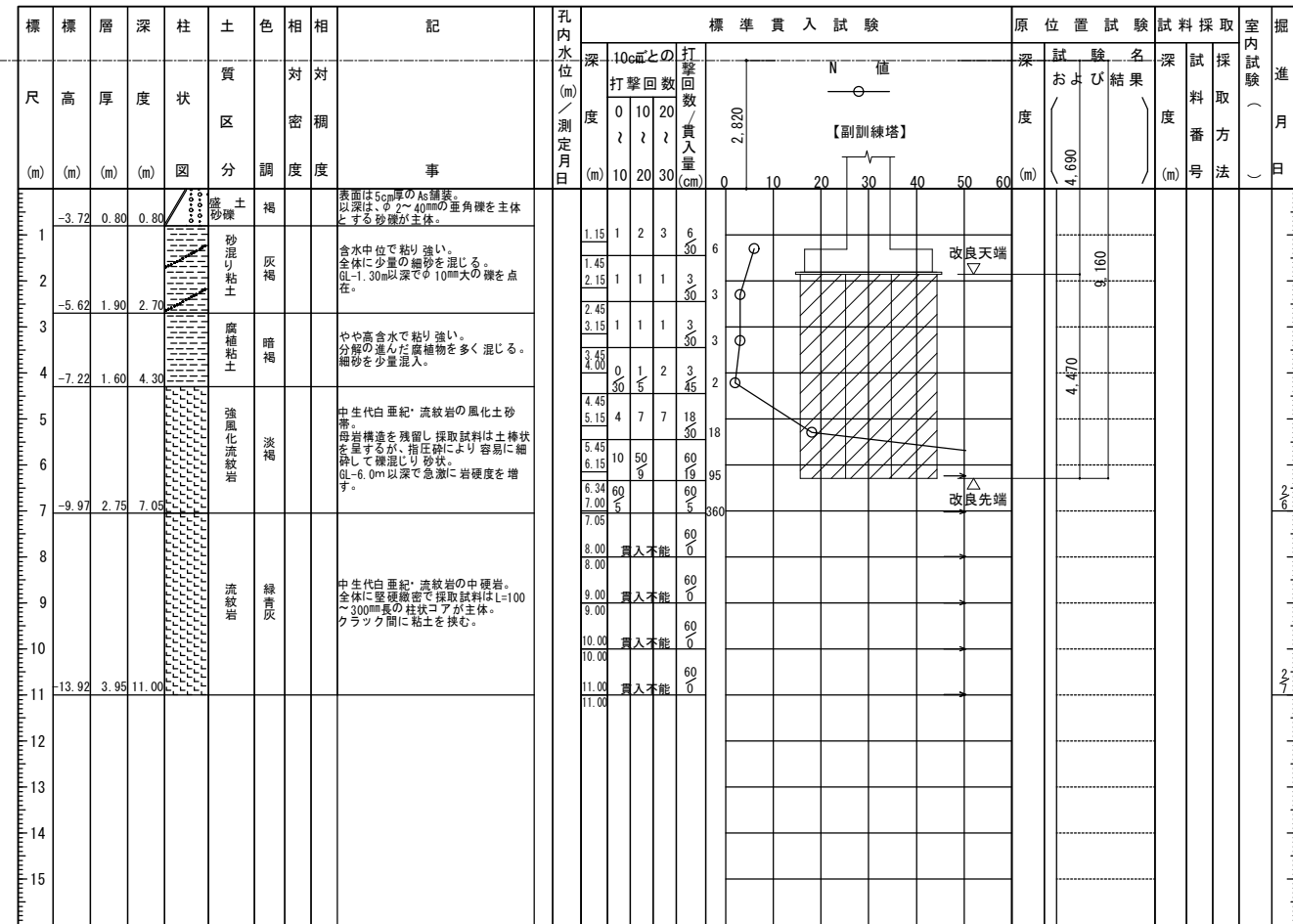
調査名 備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事基本・実施設計業務地質調査

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 5		調査位置	広島県三次市十日市町168-1			北緯	34° 47' 43"			
発注機関	備北地区消防組合			調査期間	令和 6年 2月 6日 ~ 6年 2月 7日			東経	132° 51' 14"		
調査業者名	光和物産株式会社 電話 (084-923-5155)		主任技師	丸川良		現場代理人	安田健治		コア鑑定者	佐藤和彦	
ボーリング責任者	山根義正		試験機	東邦 D1-C型		ハンマー落下用具	自動落下 (半自動落下型)		ポンプ	東邦 BG-3C	
孔口標高	-2.92m		角	180° 上 90° 下		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0°	
総掘進長	11.00m		度	鉛直 90°		使用機種	エンジン		ヤンマー NFD-13型		



構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

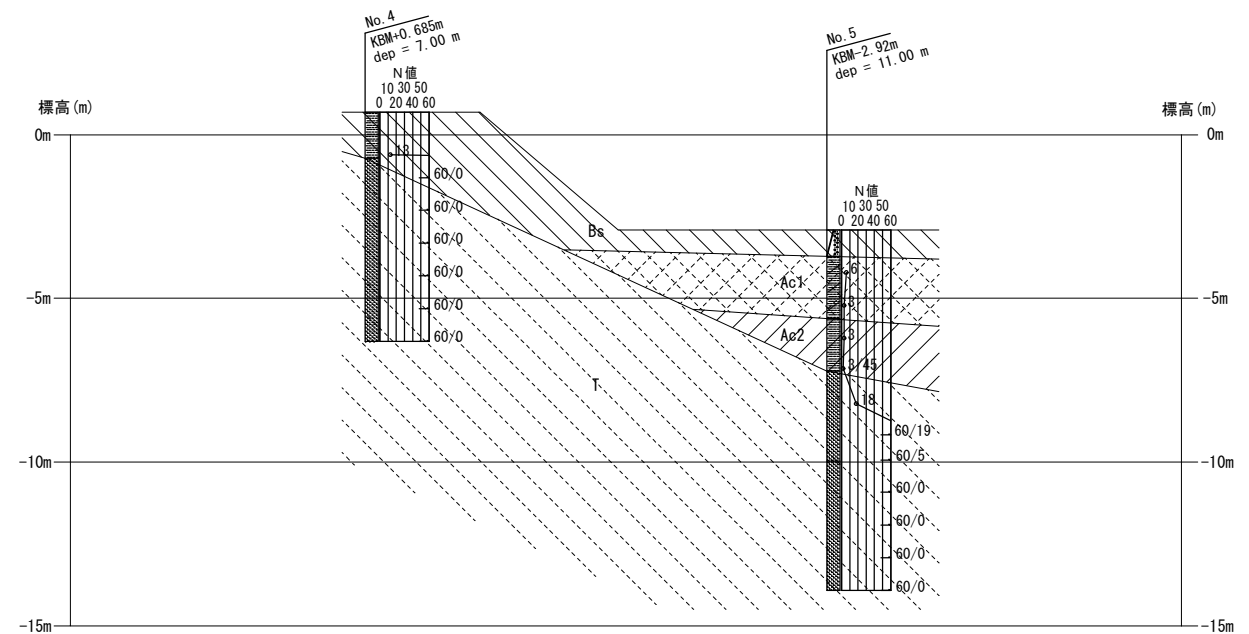
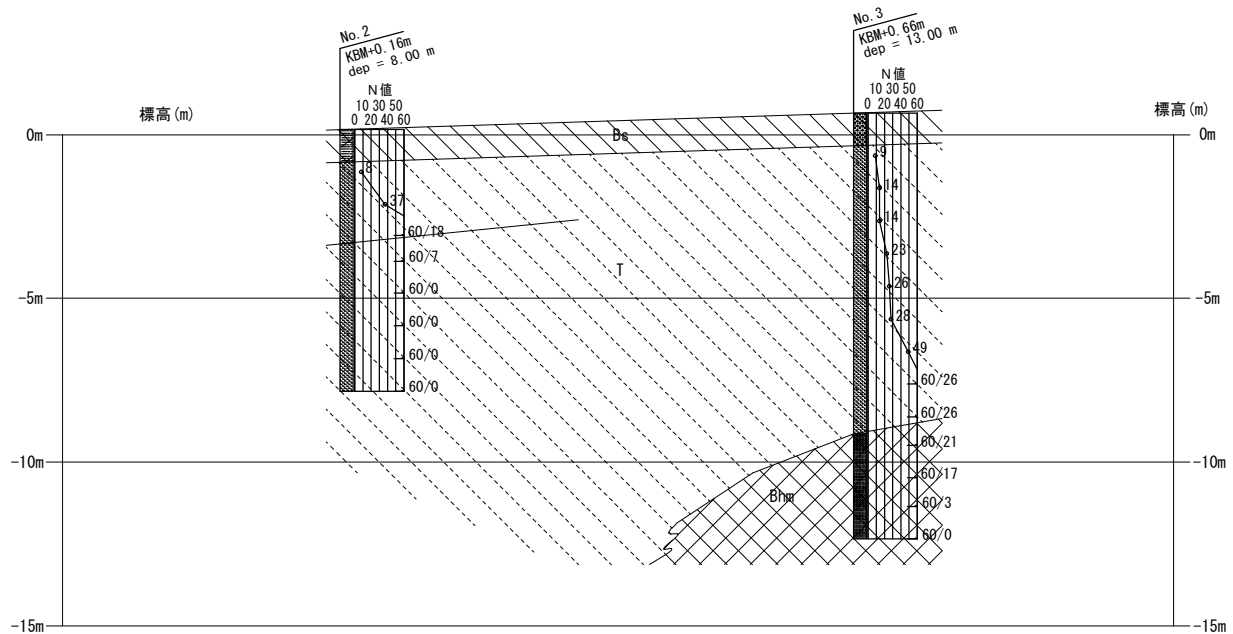
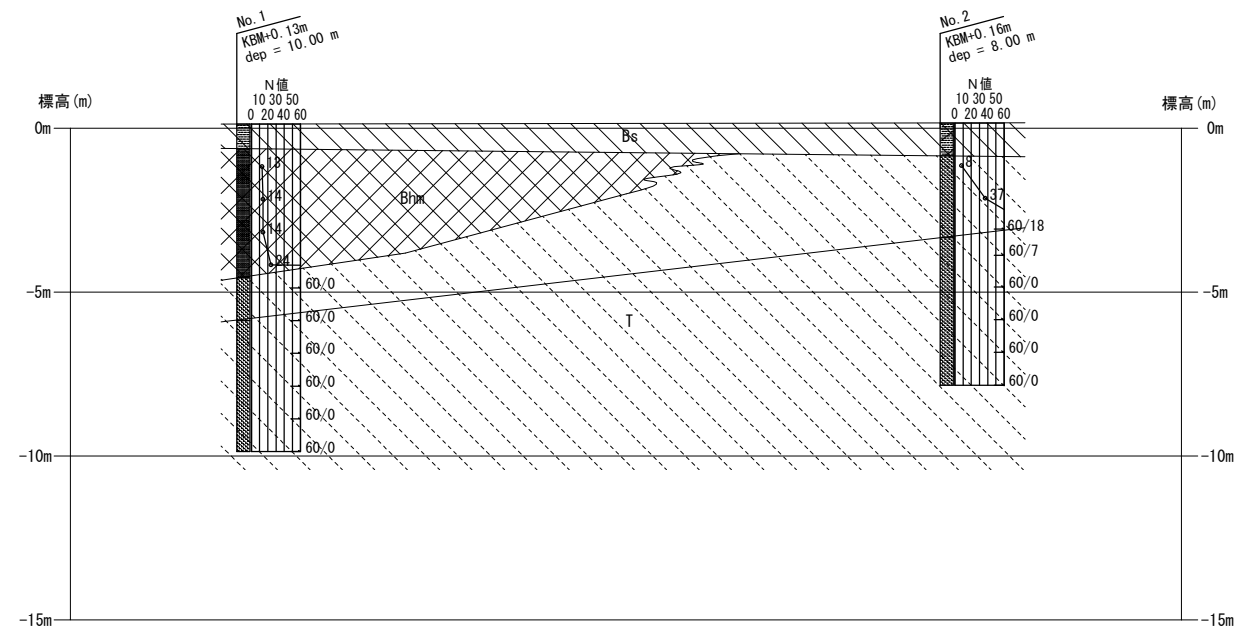
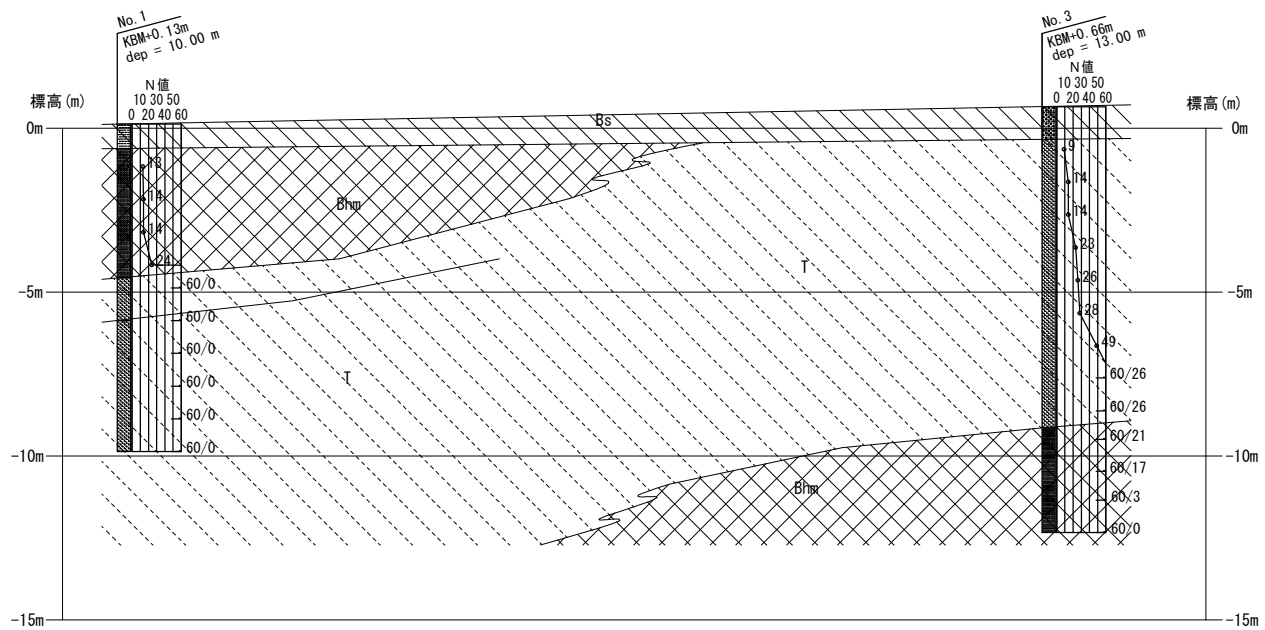
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

ボーリング柱状図 (3)

SCALE A1: -
A3: -

DWG No

016



凡例

地質時代	土質区分	記号	N値
新生代	現世	表土	Bs
	第四紀	第一粘性土	Ac1
		第二粘性土	Ac2
第三紀	中新世	泥岩	Bfm
中生代	白亜紀	流紋岩	T

構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号

NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

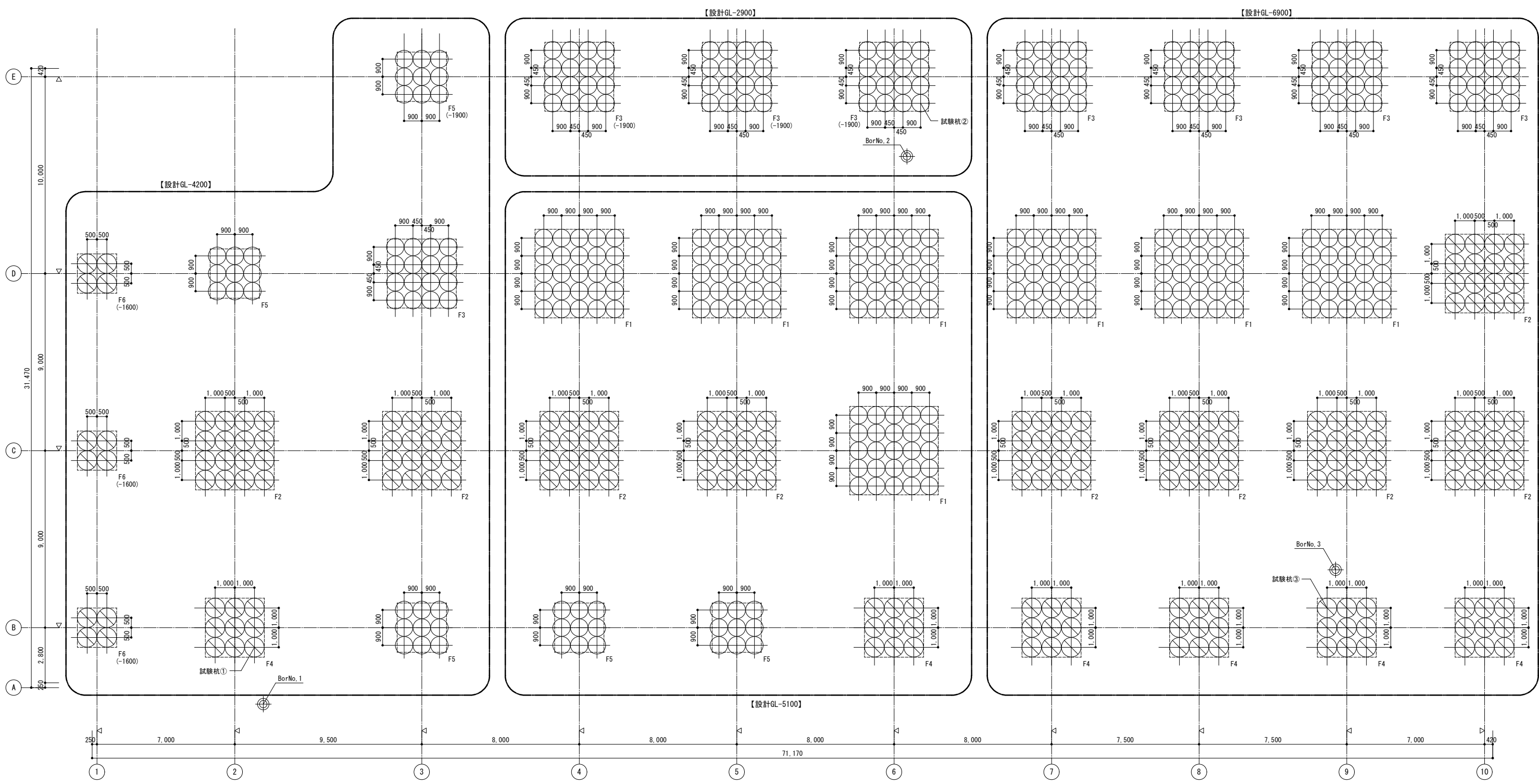
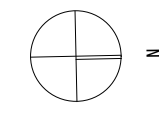
地層断面図

SCALE A1: -
A3: -

DWG. No.

S

017



地盤改良伏図 1/100

特記なき限り下記に依る

1. 設計GL=KBM-100
2. ボーリング位置を示す。
3. 基礎芯を示す。
4. 改良体天端レベルは設計GL-2200とする。
5. () 内数値は設計GLからの改良体天端レベルを示す。

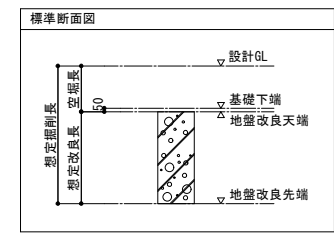
6. [] 内数値は設計GLからの改良体先端レベルを示す。
エリア分けは地盤調査結果からの推定である為、工事に先立ち、試験杭(3箇所)にて管理トルク値を確認の上、実状に応じた深度を改良体先端とすること。支持層が基礎下より1.0m以下の場合は、当該基礎下は全てラップコンクリートに置き換えること。
7. 支持層はN値60以上の流紋岩又は(強)風化流紋岩層とする。

地盤改良リスト

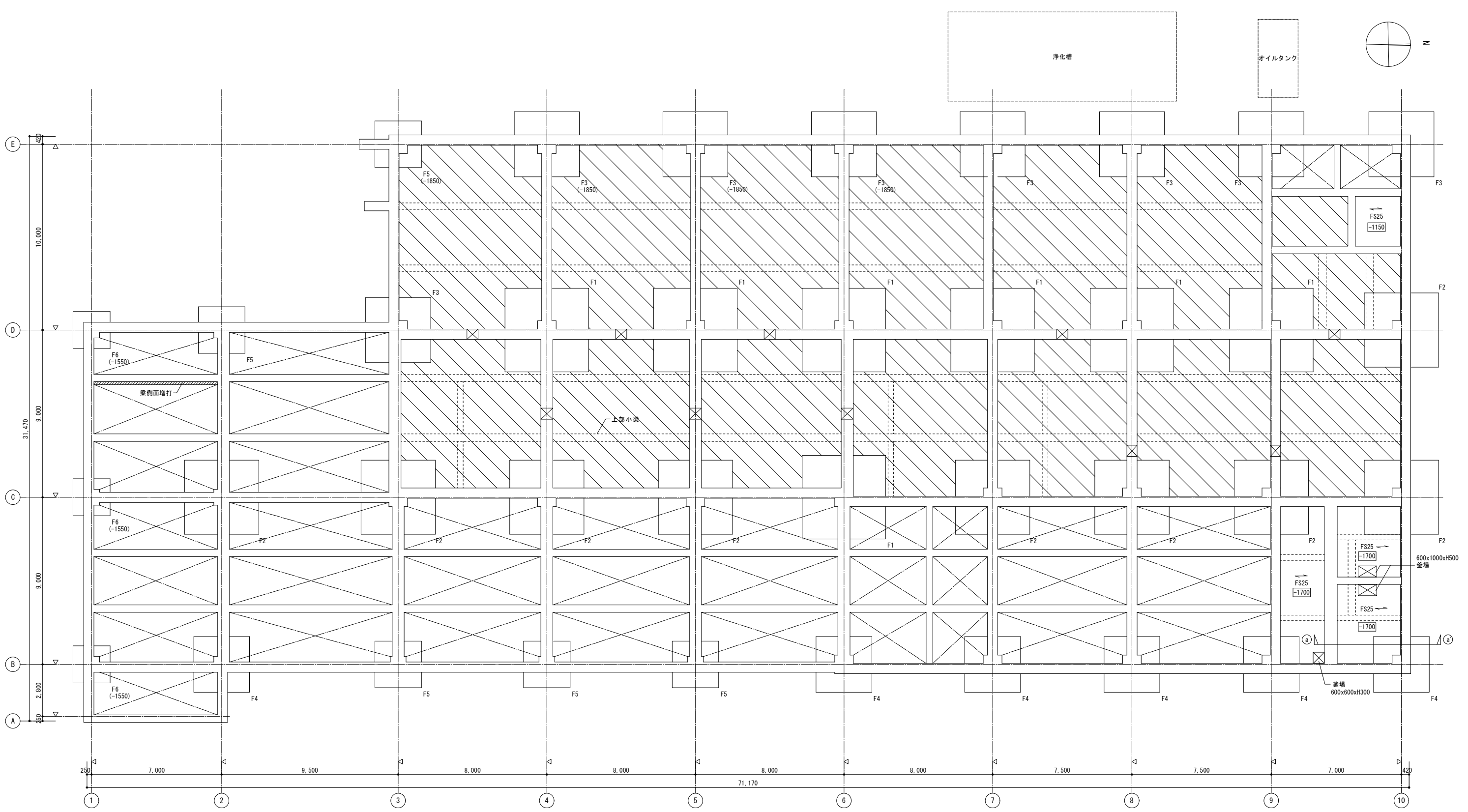
- ・設計基準強度 $F_c=1200\text{N/m}^2$
- ・長期許容地耐力 $q_a=300\text{N/m}^2$

記号	改良径	掘削長(設計GLより)		本数
		改良体天端レベル	改良体先端レベル	
	φ 900	図示	図示	348
	φ 1000	図示	図示	210

計 558 本

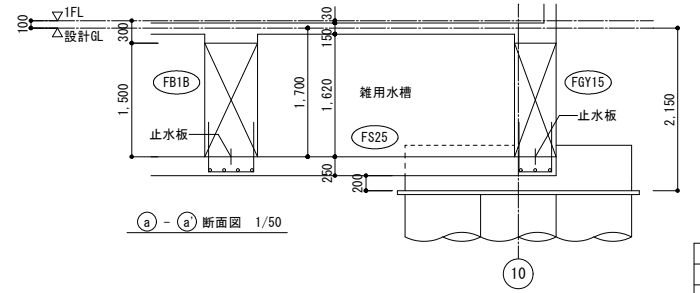


構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



基礎・ピット伏図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
1. 基礎下端レベルは設計GL-2150とする。
 2. ()内数値は設計GLからの基礎下端レベルを示す。
 3. ▽ 柱芯=基礎芯を示す。
 4. □内数値は設計GLからのスラブ天端レベルを示す。
 5. → スラブ主筋方向を示す。
 6. ▨ 範囲は砂利ピットを示す。
 7. ▩ 範囲は埋戻を示す。
 8. ⊠ 人通孔φ600を示す。

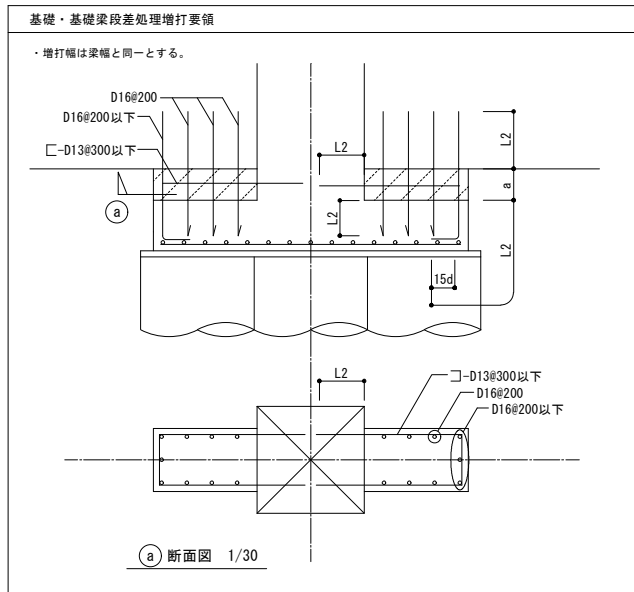
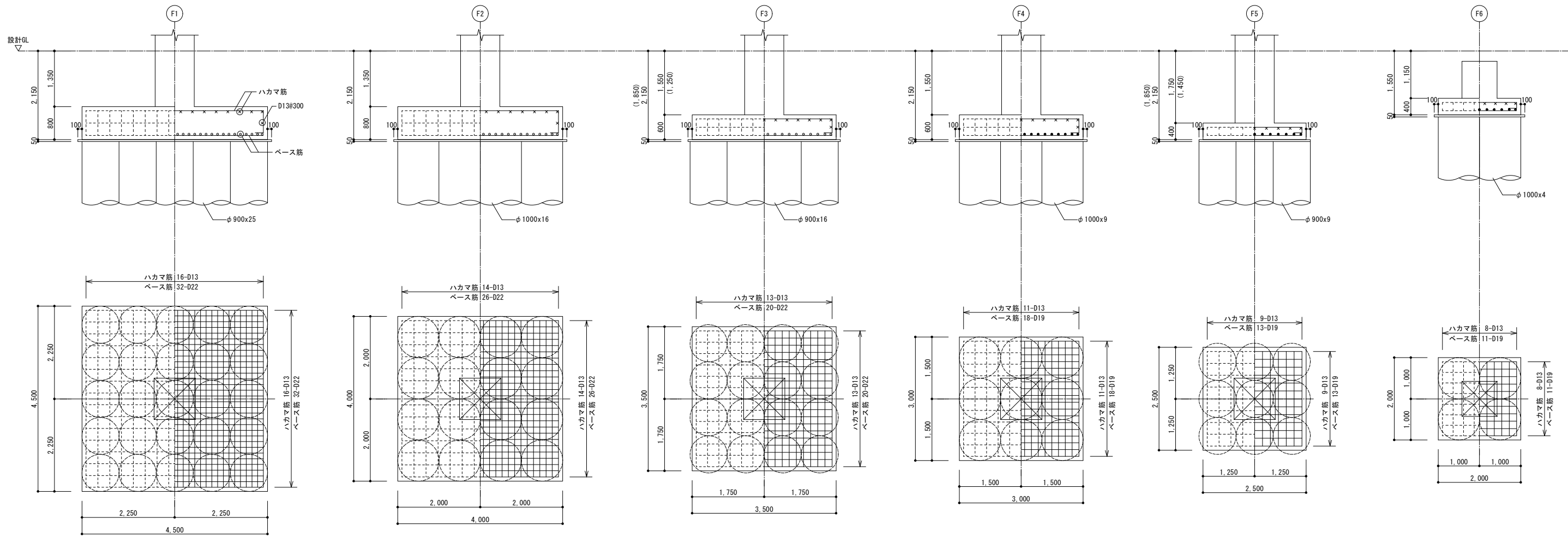


構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号

基礎リスト 1/50



- 特記なき限り下記に依る
1. 鉄筋材質 D16以下: SD295、D19~D22: SD345
 2. コンクリート設計基準強度 $F_c=24\text{N/mm}^2$
 3. 長期許容地耐力 $q_a=300\text{kN/m}^2$
 4. 基礎芯=柱芯とする



NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
一級建築士 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】基礎リスト

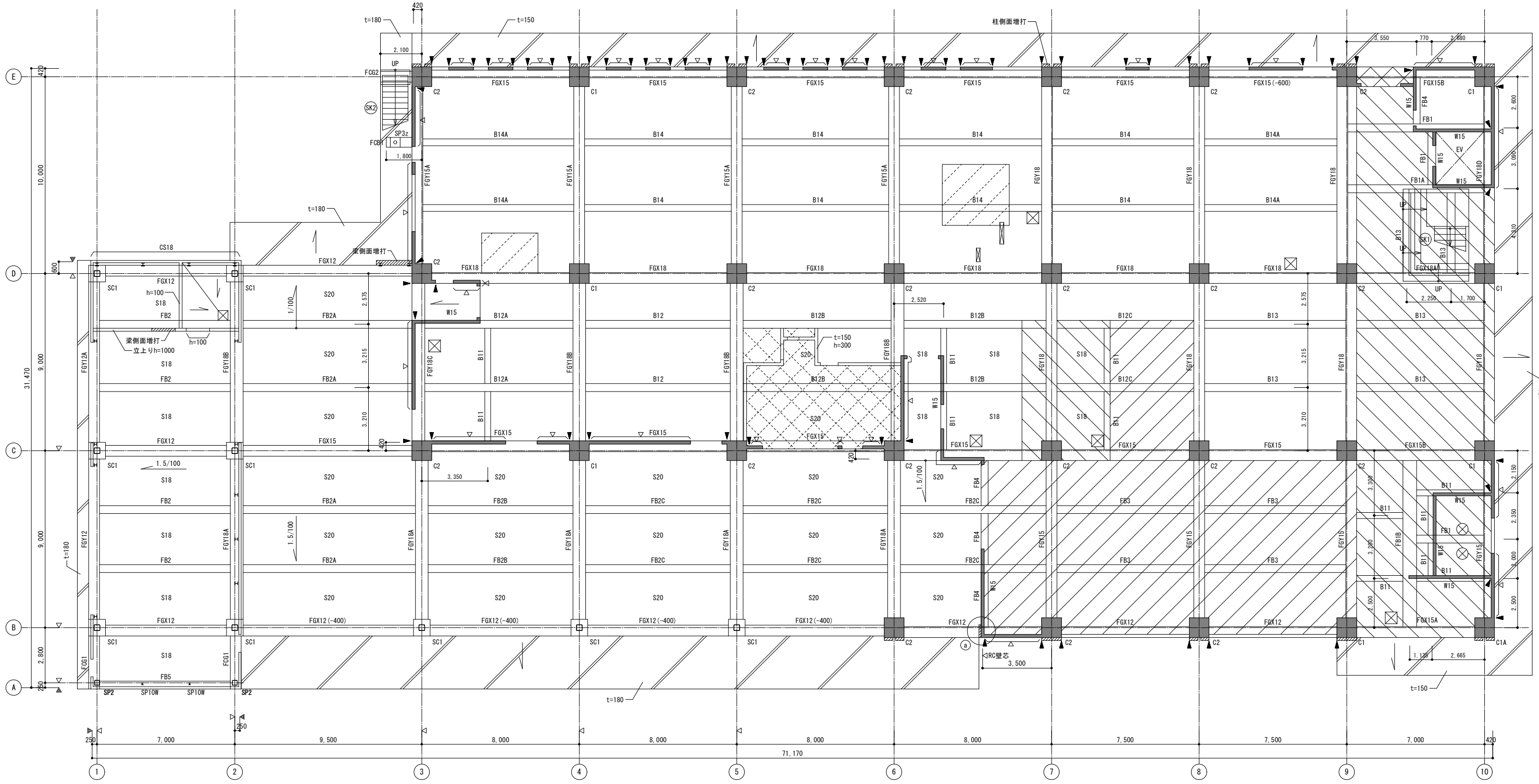
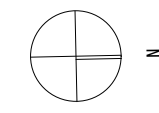
構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

SCALE
A1: 1/50
A3: 1/100

DWG No

S

103



1階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】

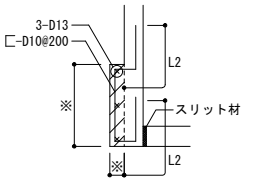
1. 間柱符号 : SP15W
2. ▽ 柱芯位置を示す。
3. ▽ 網線芯位置を示す。
4. RC立上りは t=120とする。

特記なき限り下記に依る 【RC範囲】

1. 1FL=設計GL+100
2. コンクリート壁はW16を示す。
3. 基礎梁および小梁天端レベルは1FL-300とする。
4. ()内数値は1FLからの基礎梁天端レベルを示す。
5. スラブ符号は S15 とし、主筋方向は ↓ とする。
6. → スラブ主筋方向を示す。

7. スラブ天端レベルは、1FL-10とする。
- FL-30
- FL-50
- FL-80
- FL-150
- FL-250
8. 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。

9. ▲ 鉛直スリット位置を示す。
 10. ▽ 水平スリット位置を示す。
 11. スリット位置は軸組図も確認すること。
 12. ← 水勾配を示す。
 13. ⊗ 床開口を示す。
 14. ⊞ 印は、土間コンクリート範囲を示す。
- 土間天端レベルは意匠図による。土間下：浅層地盤改良 (H=600)



④ 部配筋図 1/30
※寸法は意匠図参照

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】1階床梁伏図

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

SCALE A1: 1/100
A3: 1/200

特記なき限り下記による

- 鉄筋材質 D16以下：SD295 D19～D25：SD345 D29：SD390
- コンクリート設計基準強度 $f_c=24\text{N/mm}^2$
- 幅止筋は、D10@1000以内とする。

- カットオフ長は $L_0/4+15d$ とする。
- < >内数値はカットオフ長を示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは上記4.による。尚、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

基礎梁リスト 1/50

符号	FGX12			FGX15			FGX15A			FGX15B			FGX18			FGX18A			FGY12			FGY12A					
	位置	両端	中央	9端	中央	10端	9端	中央	10端	9端	中央	10端	9端	中央	10端	B端	中央	C端	C端	中央	D端						
▽1FL																											
BxD	550x1200			550x1500			550x1500			550x1500			550x1800			550x1800			550x1200			550x1200					
上端筋	5-D25			7-D25			7-D25			7-D25			7-D25			7-D25			8-D29			5-D29			6-D29		
下端筋	5-D25			7-D25			5-D25			8-D25			9-D25			5-D25			7-D25			5-D25			10-D25		
STP	(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200		
腹筋	4-D13			6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			4-D13			4-D13			4-D13		

符号	FGY15			FGY15A			FGY18			FGY18A			FGY18B			FGY18C			FGY18D					
	位置	B端	中央	C端	D端	中央	E端	両端	中央	B端	中央	C端	C端	中央	D端	C端	中央	D端	D端	中央	E端			
▽1FL																								
BxD	550x1500			550x1500			550x1800			650x1800			650x1800			650x1800			550x1800					
上端筋	7-D29			5-D29			7-D29			6-D29			6-D29			11-D29			6-D29			7-D29		
下端筋	6-D29			5-D29			9-D29			7-D29			7-D29			7-D29			6-D29			5-D29		
STP	(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200					
腹筋	6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			6-D13					

特記なき限り下記による

- 鉄筋材質 D16以下：SD295 D19～D25：SD345 D29：SD390
- 幅止筋は、D10@1000以内とする。

基礎小梁リスト 1/50

符号	FB1		FB1A		FB1B		FB2		FB2A		FB2B		FB2C		FB3		FB4		FB5		FCB1		FCG1		FCG2	
	位置	両端	中央	両端	中央	1端・中央	2端	両端	中央	3端	中央	4端	両端	中央	他端	中央・9端	全断面	全断面	全断面	元端	先端	全断面	元端	先端	全断面	
断面																										
BxD	400x1500		400x1500		700x1500		400x1000		400x1000		400x1000		400x1000		400x700		350x600		400x800		500x1000		550x1200		550x1500	
上端筋	4-D22		4-D22		7-D29		4-D22		7-D22		4-D22		6-D22		4-D22		6-D22		4-D22		4-D22		8-D29		5-D29	
下端筋	4-D22		4-D22		7-D29		4-D22		4-D22		4-D22		4-D22		4-D22		4-D22		3-D19		4-D22		5-D29		4-D25	
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(3) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D10 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	
腹筋	6-D13		6-D13		6-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		4-D13		6-D13	

<p>大梁主筋配置要領図</p> <p>※大梁主筋が重なる場合は、下表による</p> <table border="1"> <tr> <td>上端筋</td> <td>X方向大梁</td> <td>外側</td> </tr> <tr> <td>下端筋</td> <td>Y方向大梁</td> <td>内側</td> </tr> <tr> <td></td> <td>X方向大梁</td> <td>内側</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Y方向大梁</td> <td>外側</td> </tr> </table>	上端筋	X方向大梁	外側	下端筋	Y方向大梁	内側		X方向大梁	内側		Y方向大梁	外側	<p>大梁STP配筋要領図</p> <p>※1: 設計かぶり厚さ + 柱主筋外径 ※2: 設計かぶり厚さ</p>	<p>カットオフ筋要領図</p>	<p>柱脚配筋要領</p>	<p>副あばら筋要領</p> <p>②③は同時打込みのｽﾌﾟ付の場合に限る。 ・135°フックは180°フックでも可とする。 ・溶接継手は帯筋の項を参照のこと。</p>	<p>RC立上り配筋図 1/30</p> <p>※は意匠図参照</p>
上端筋	X方向大梁	外側															
下端筋	Y方向大梁	内側															
	X方向大梁	内側															
	Y方向大梁	外側															

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

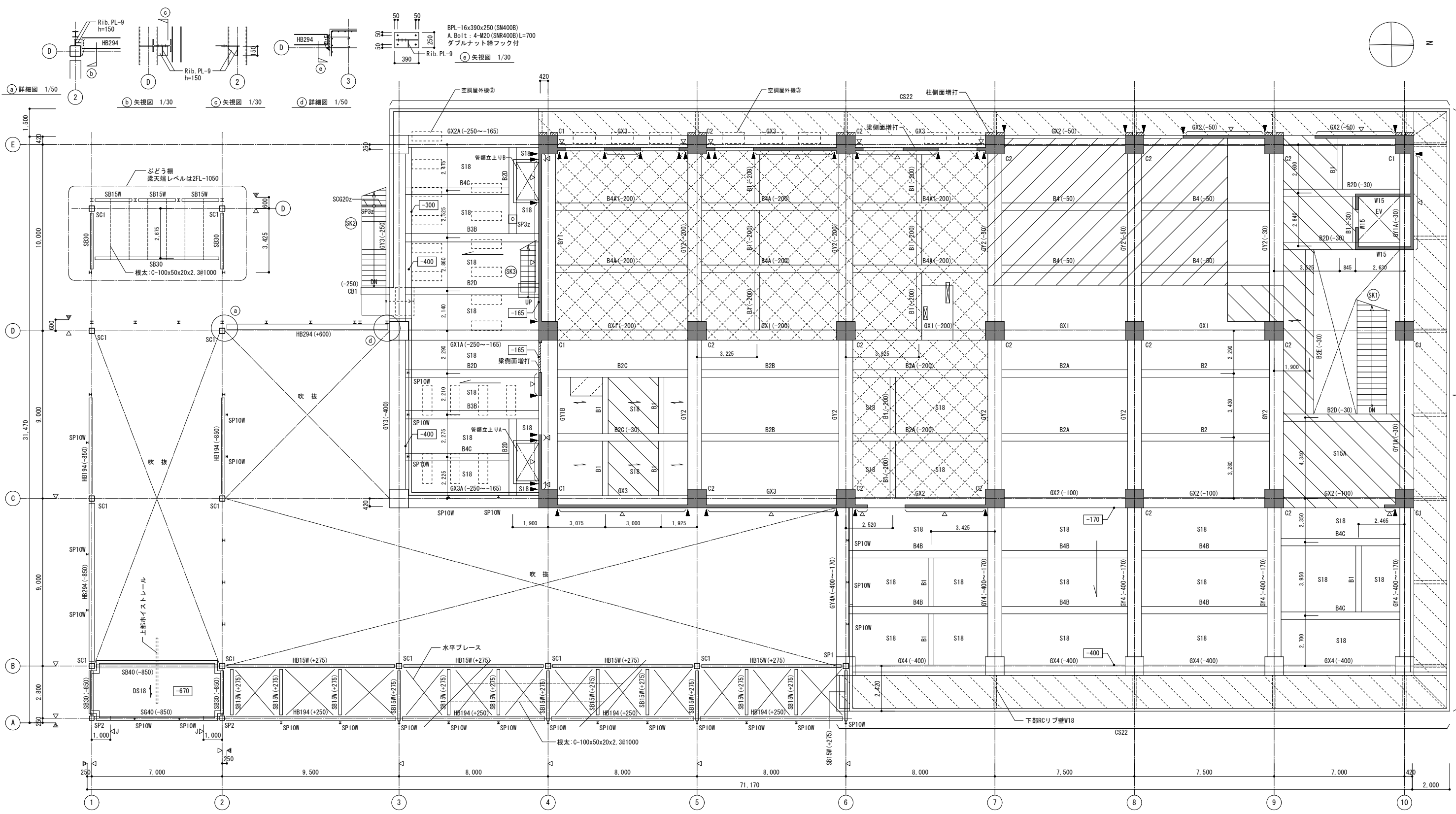
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

【庁舎棟】基礎梁リスト

SCALE A1: 1/50
A3: 1/100

105



2階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
1. 継手位置は、柱より1000とする。
 2. 梁天端レベルはFL±0とする。
 3. ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 4. 階段踊場受け梁レベルは、意匠図参照。
 5. z付符号は、浴洗面始めつき処理とする。
 6. 水平ブレースは、HW2 とする。
 7. 間柱符号: SP15W
 8. ▽ 柱芯位置を示す。
 9. ▽ 鋼線芯位置を示す。
 10. □内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
1. コンクリート壁はW16を示す。
 2. 大梁天端レベルはFL-10とする。
 3. ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 4. スラブ符号は S15 とし、主筋方向は ↗ とする。
 5. ↖ スラブ主筋方向を示す。
 6. 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 7. スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 8. □内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。
 9. ▲ 鉛直スリット位置を示す。
 10. ▽ 水平スリット位置を示す。
 11. スリット位置は軸組図も確認すること。
 12. ↖ 水勾配を示す。
 13. ⊠ 床開口を示す。

8. □内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。
9. ▲ 鉛直スリット位置を示す。
10. ▽ 水平スリット位置を示す。
11. スリット位置は軸組図も確認すること。
12. ↖ 水勾配を示す。
13. ⊠ 床開口を示す。

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

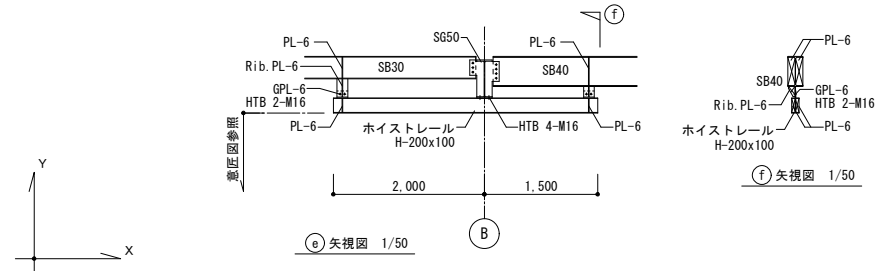
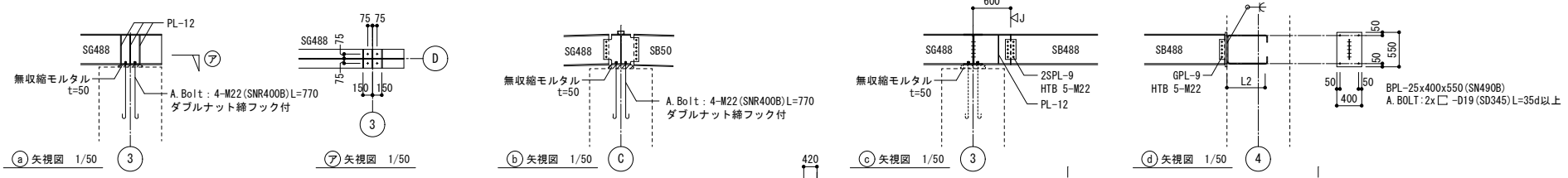
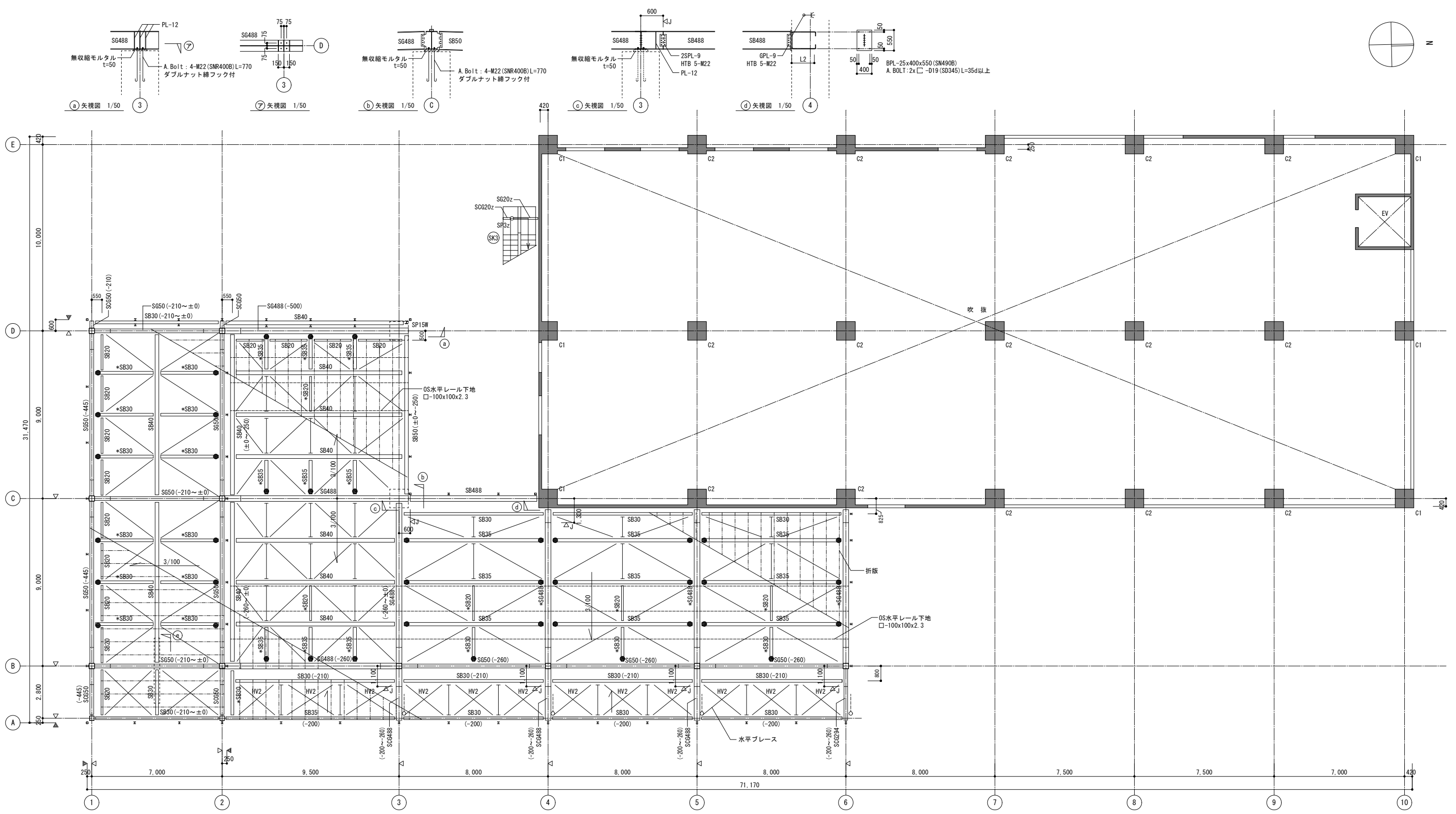
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

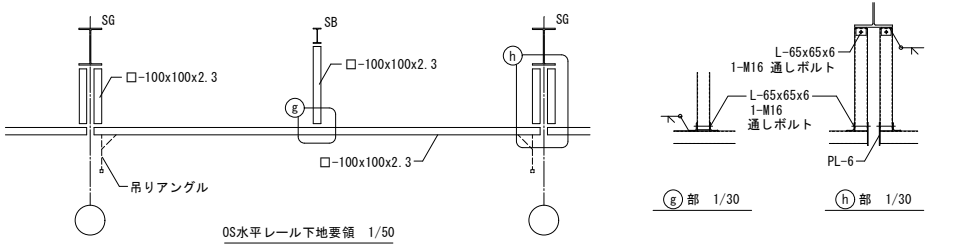
【庁舎棟】2階床梁伏図

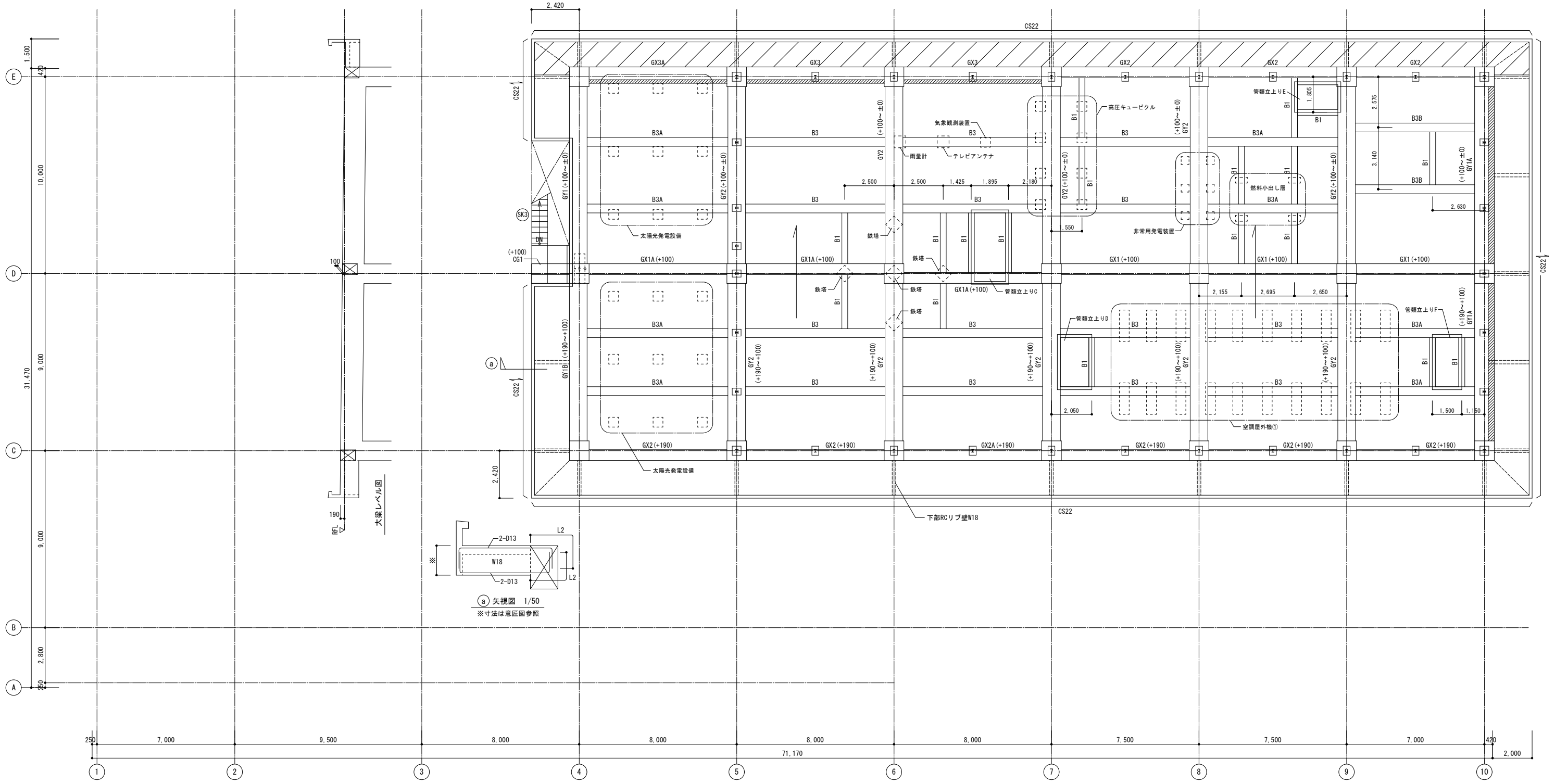
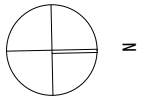
構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

SCALE A1: 1/100
A3: 1/200
106



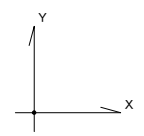
- 特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】
1. 水上鉄骨梁天端=2FL+2100
 2. ()内数値は水上鉄骨梁天端からの梁天端レベルを示す。
 3. *印付符号は勾配を示す。
 4. 継手位置は、柱芯より1000とする。
 5. 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 6. 折版を受ける小梁天端は、取付く端天端+50とする。
 7. z付符号は、溶融亜鉛めっき処理とする。
 8. 水平ブレースは、HV1とする。
 9. — 座屈止めT1を示す。
 10. — 水勾配を示す。
 11. ○--- 方柱V1の取付位置を示す。
 12. 階段踊場受け梁レベルは、意匠図参照。
 13. パラベット受材：SP10W
 14. ▽ 柱芯位置を示す。
 15. ▽ 鋼線芯位置を示す。
 16. ● 小梁接合部補強を示す。





屋根伏図 (2) 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る
- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 梁天端レベルはRFL±0とする。 | 5. スラブ天端レベルは水勾配による。 |
| 2. ()内数値はRFLからの梁天端レベルを示す。 | 6. 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。 |
| 3. スラブ天端=勾配小梁天端とする。 | 7. 水勾配を示す。 |
| 4. スラブ符号は S18A とし、主筋方向は ↓ とする。 | 8. 範囲は増打を示す。 |
| → スラブ主筋方向を示す。 | |



NOTE

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

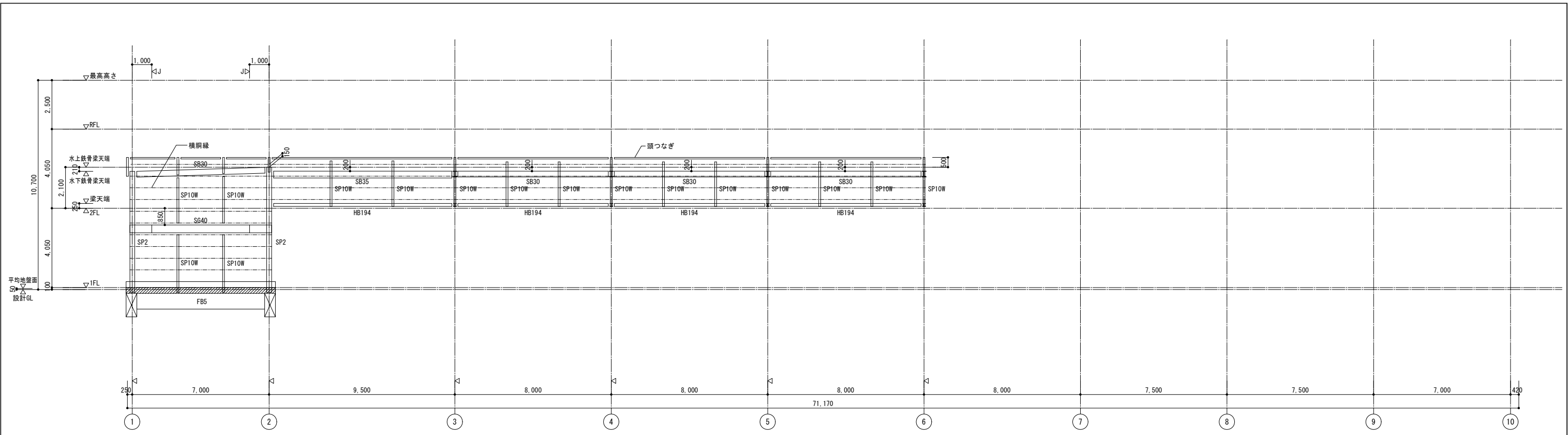
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】屋根伏図(2)

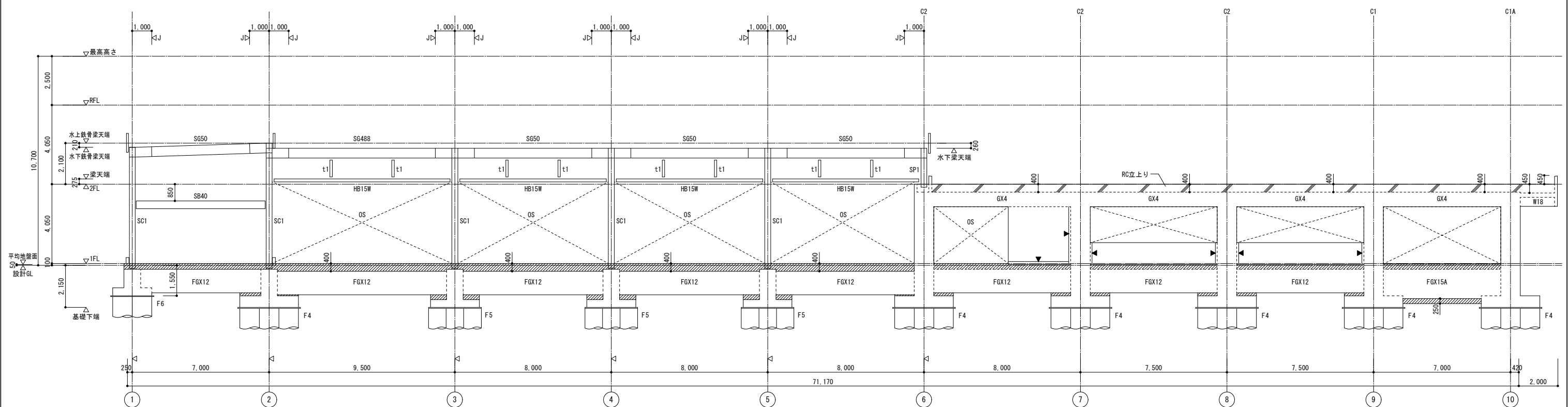
SCALE A1: 1/100
A3: 1/200

108

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



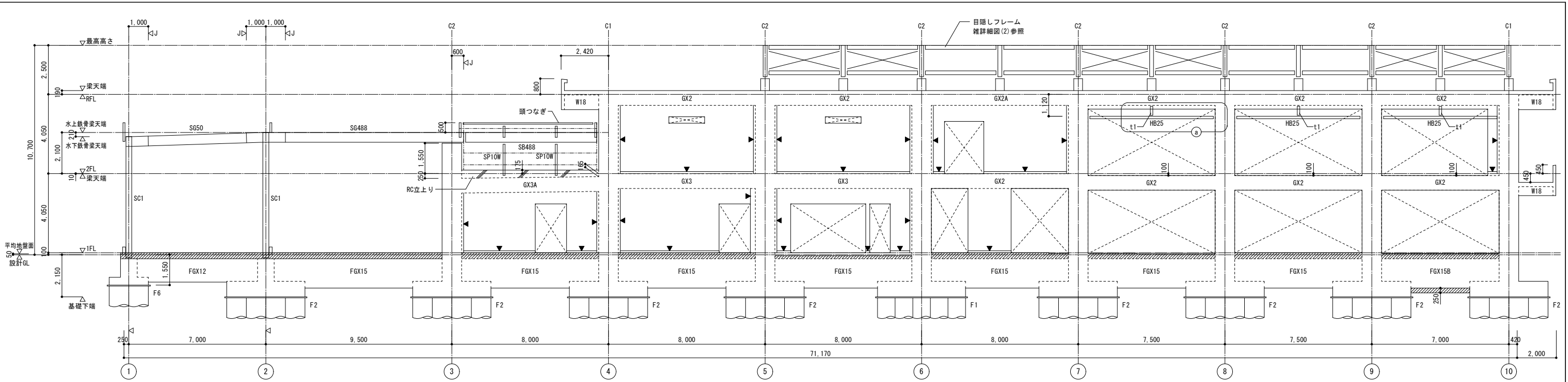
A通り軸組図 1/100



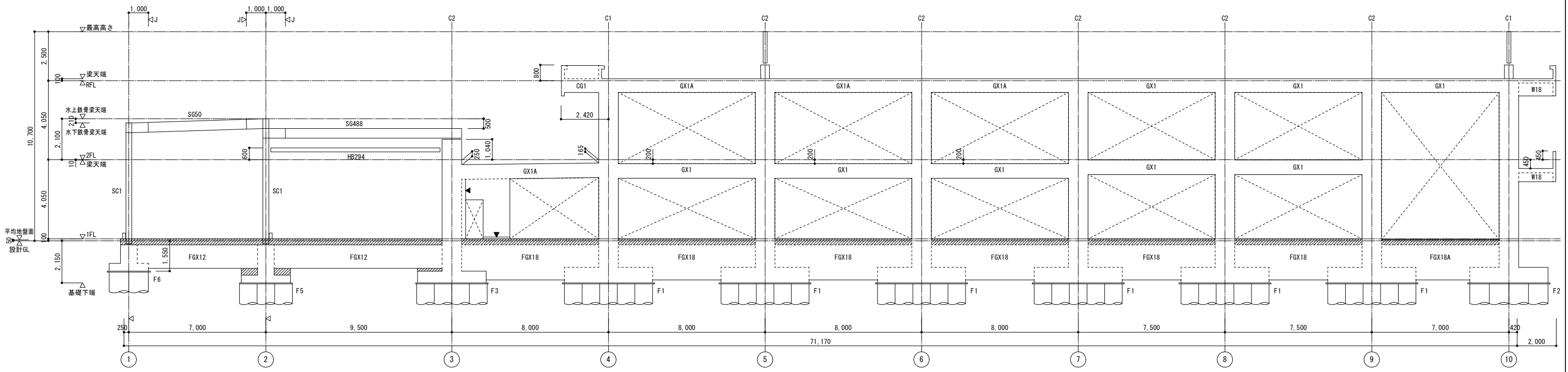
B通り軸組図 1/100

- | | |
|---|---|
| <p>特記なき限り下記に依る【RC範囲】</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。 壁符号はW16を示す。 ◀ 構造完全スリット位置を示す。 スリット位置は伏図も確認すること。 斜線範囲は増打を示す。 | <p>特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】</p> <ol style="list-style-type: none"> BPL下端は、1FL-250とする。 バラベツ受：SP10W 頭つなぎ：□-100x100x2.3 柱芯位置を示す。 横綱線：C-100x50x20x2.3#600 |
|---|---|

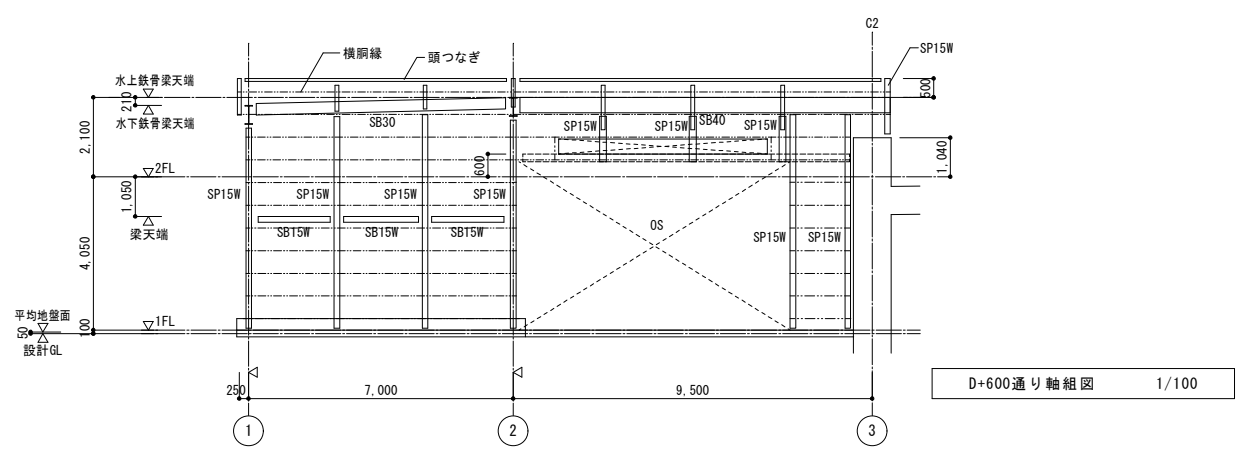
構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号



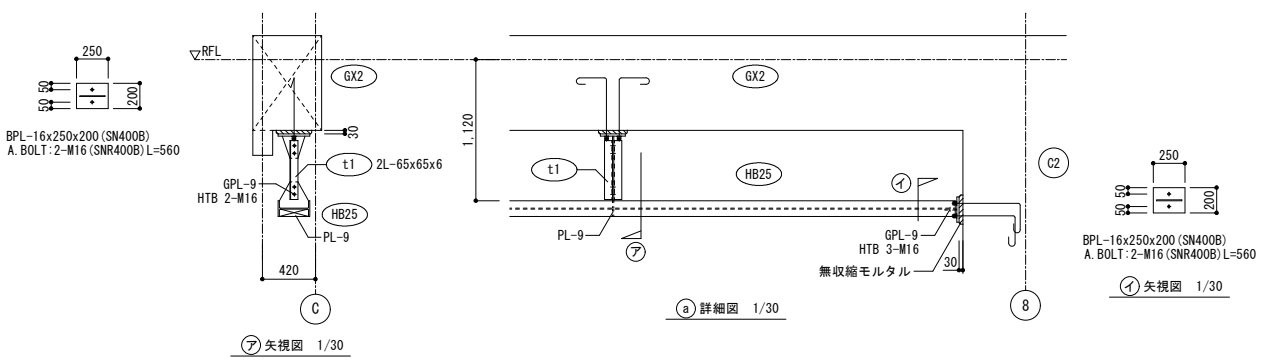
C通り軸組図 1/100



D通り軸組図 1/100

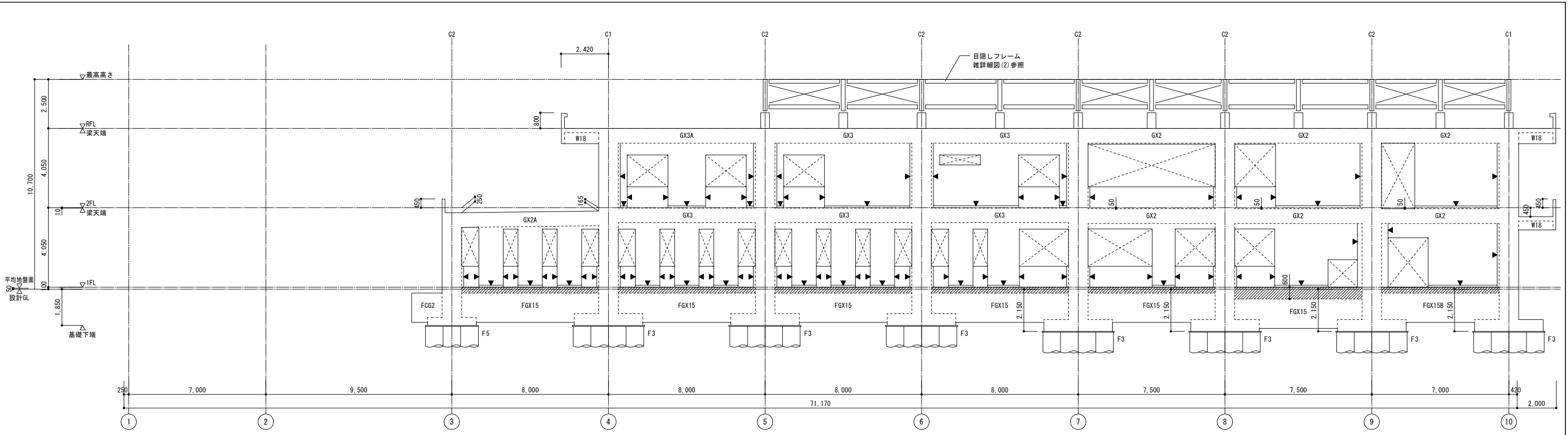


D+600通り軸組図 1/100

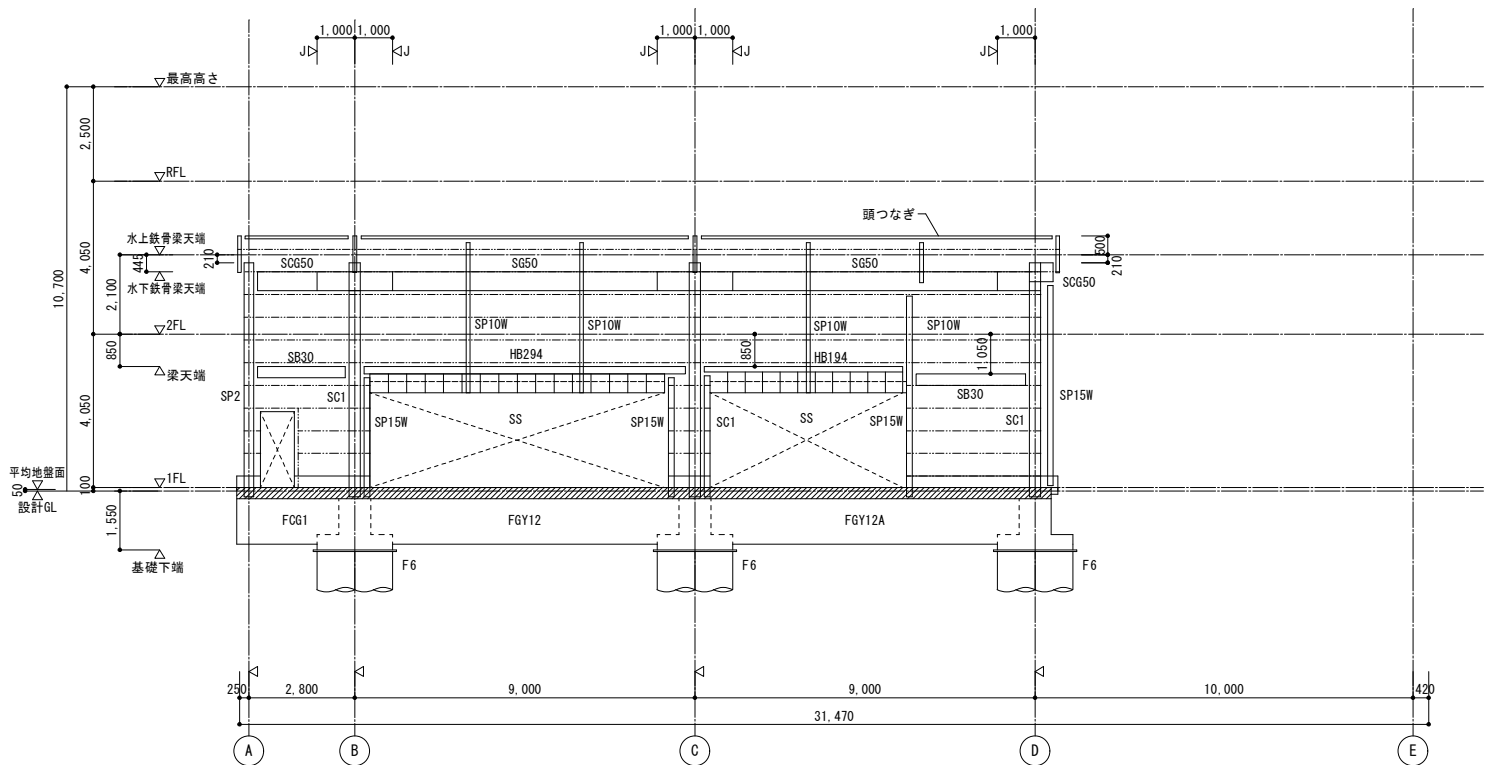


- 特記なき限り下記に依る【RC範囲】
1. 基礎梁天端レベルは、IFL-300とする。
 2. 壁符号はW16を示す。
 3. 構造完全スリット位置を示す。
 4. スリット位置は伏図も確認すること。
 5. 範囲は増打を示す。

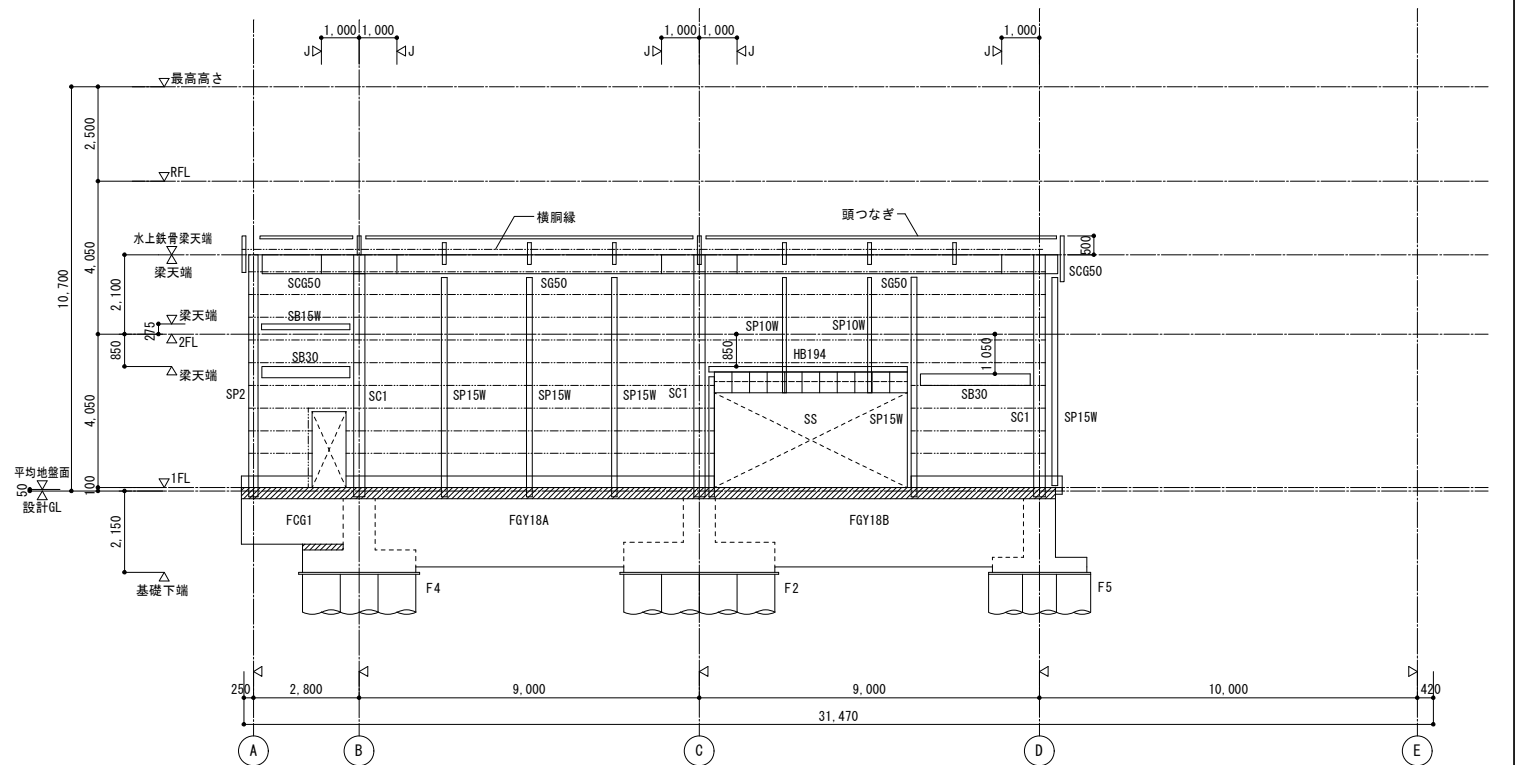
- 特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】
1. BPL下端は、IFL-250とする。
 2. パラベット受：SP10W
 3. 頭つなぎ：□-100x100x2.3
 4. 柱芯位置を示す。
 5. 横綱線：C-100x50x20x2.3#600



E通り軸組図 1/100



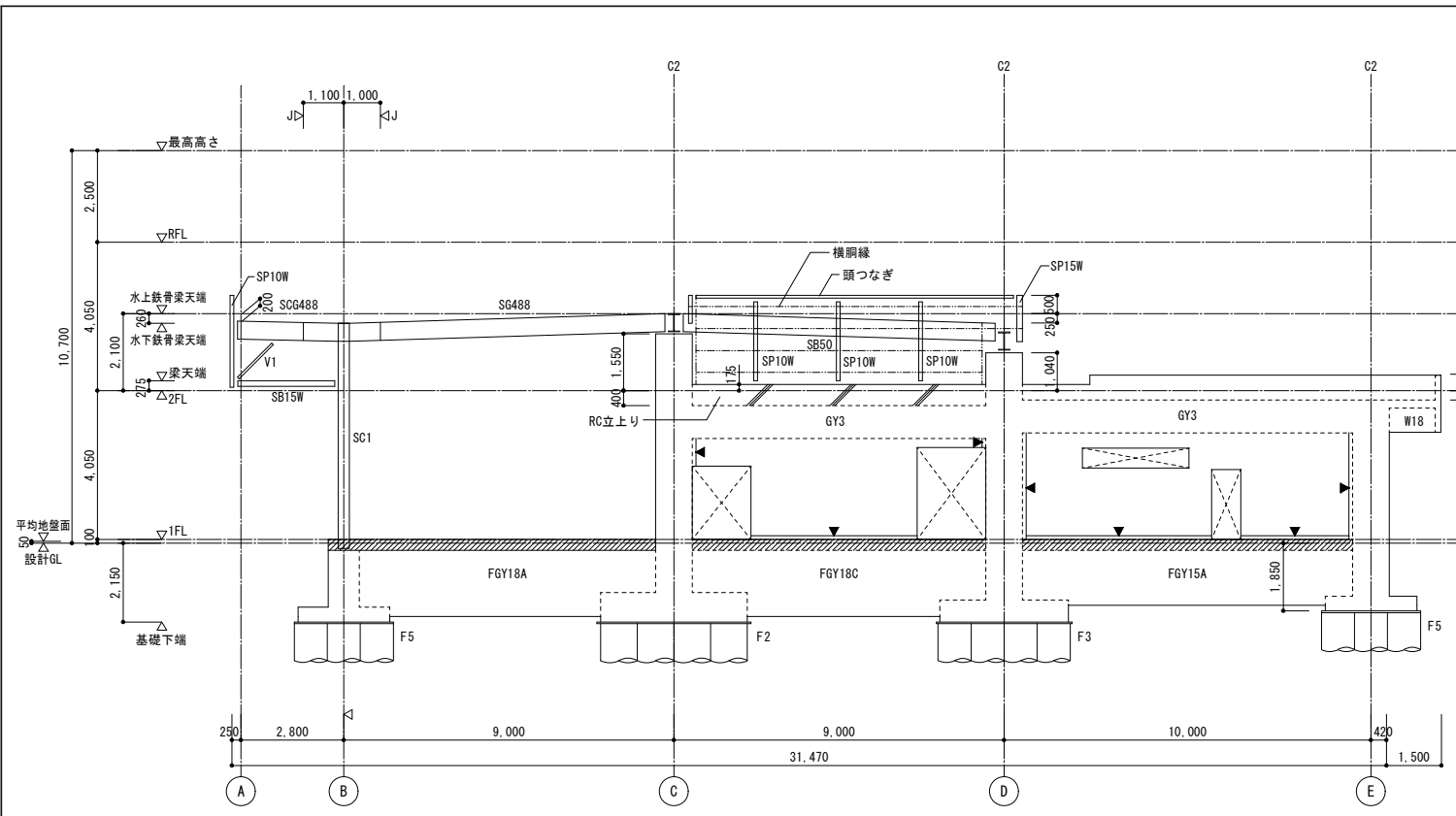
1通り軸組図 1/100



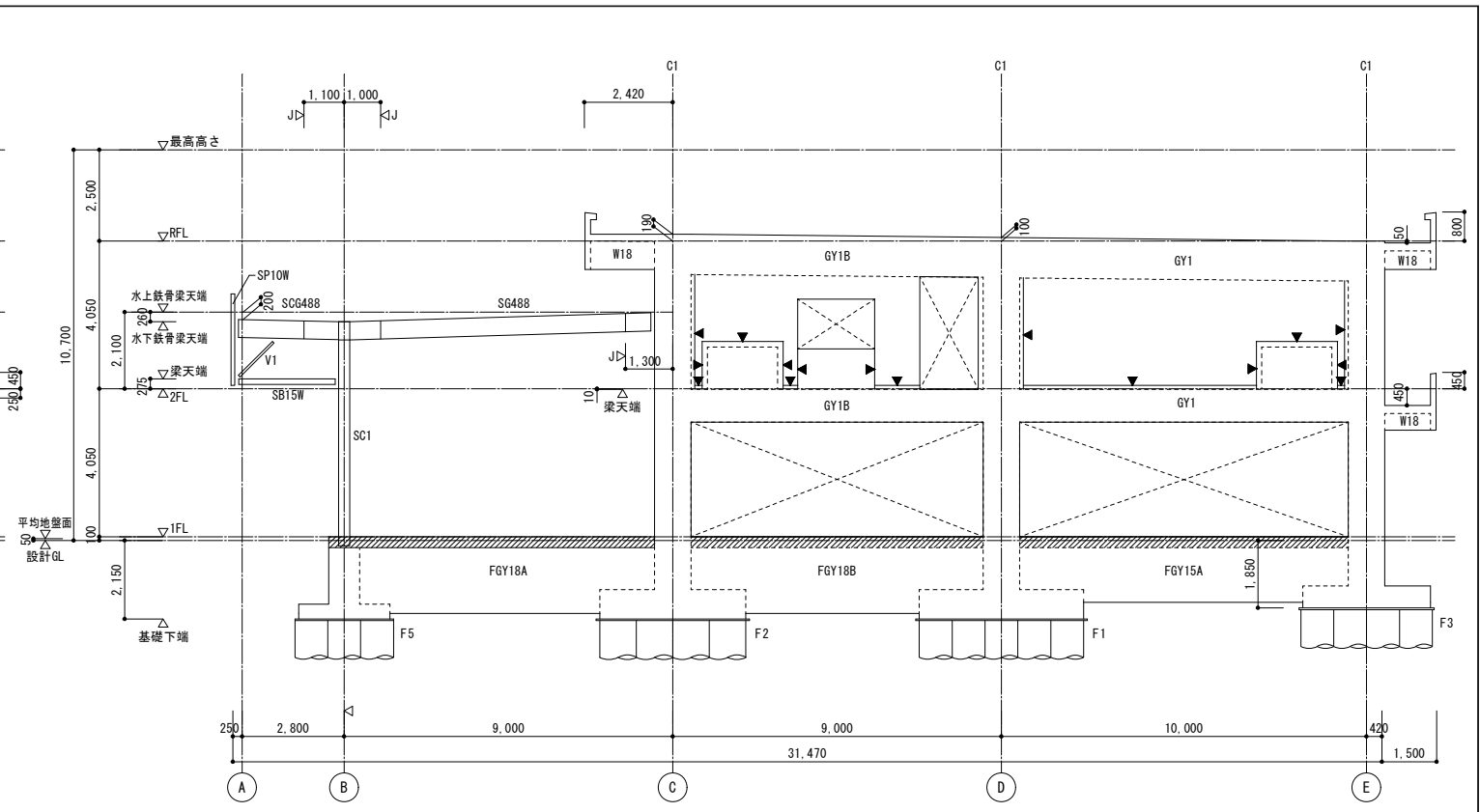
2通り軸組図 1/100

- 特記なき限り下記に依る【RC範囲】
- 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。
 - 壁符号はW16を示す。
 - ◀ 構造完全スリット位置を示す。
 - スリット位置は伏図も確認すること。
 - 斜線範囲は増打を示す。
- 特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】
- BPL下端は、1FL-250とする。
 - バラベト受：SP10W
頭つなぎ：□-100x100x2.3
 - ▽ 柱芯位置を示す。
 - 横綱線：C-100x50x20x2.3#600

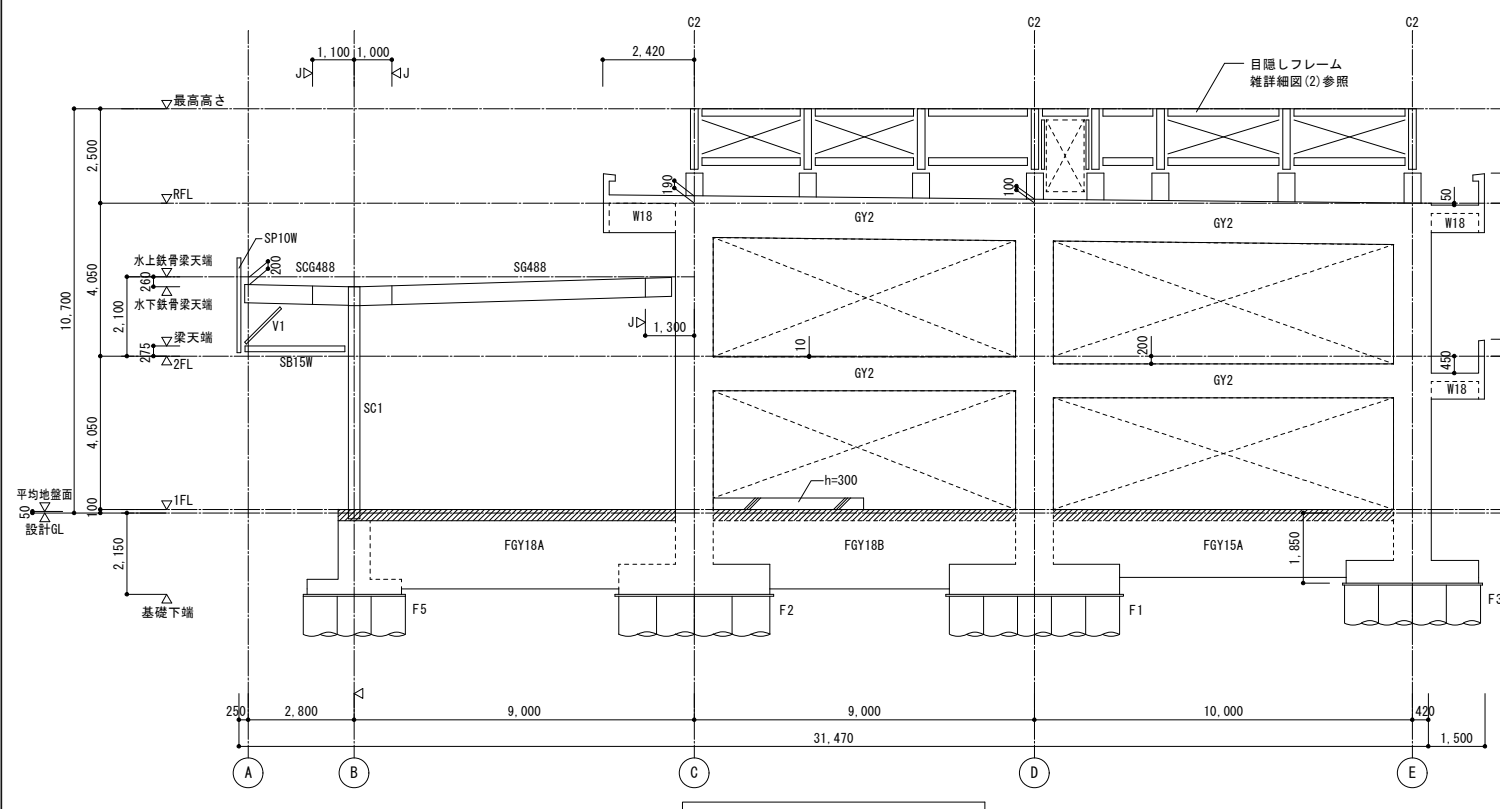
構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



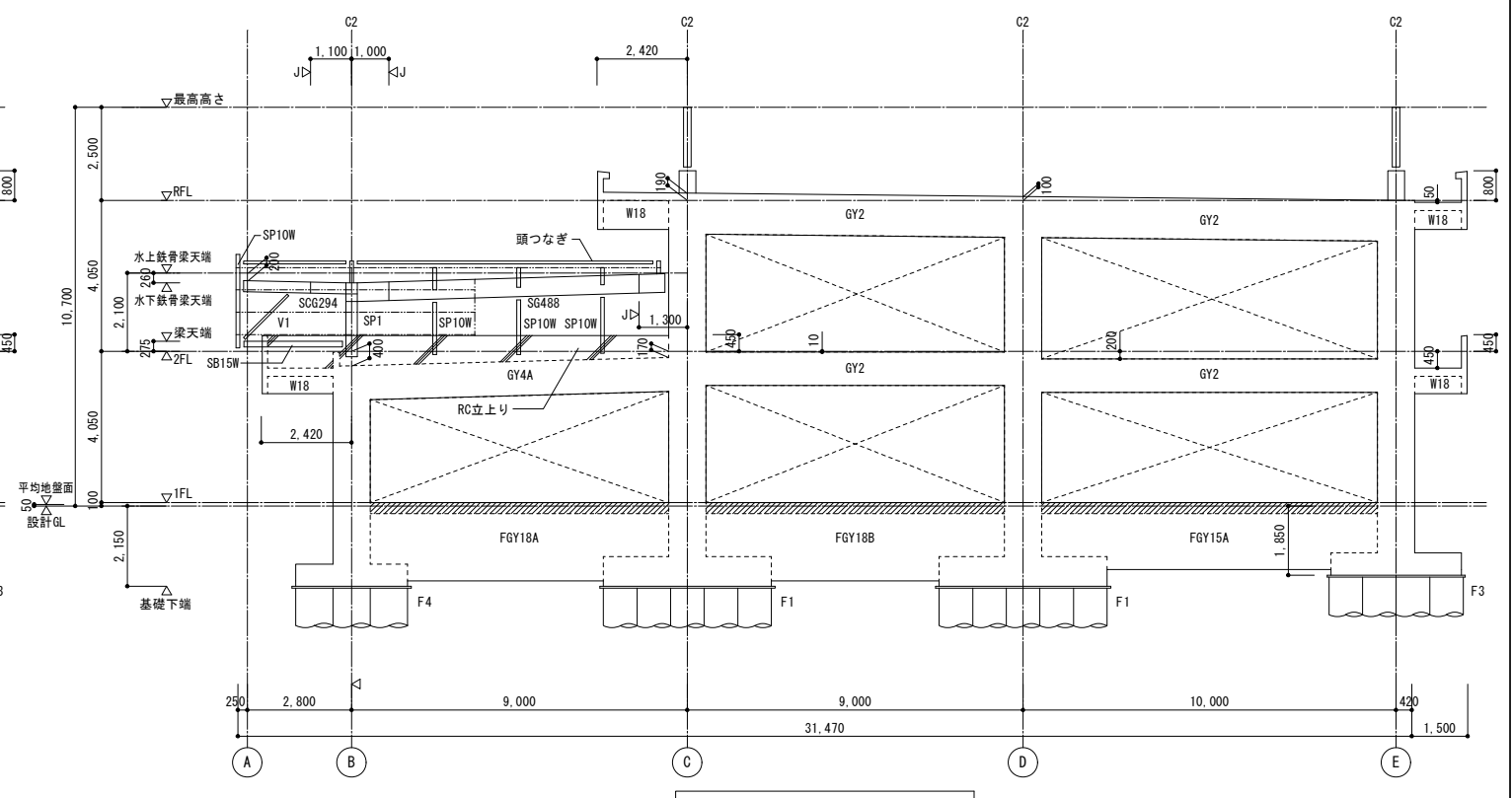
3通り軸組図 1/100



4通り軸組図 1/100



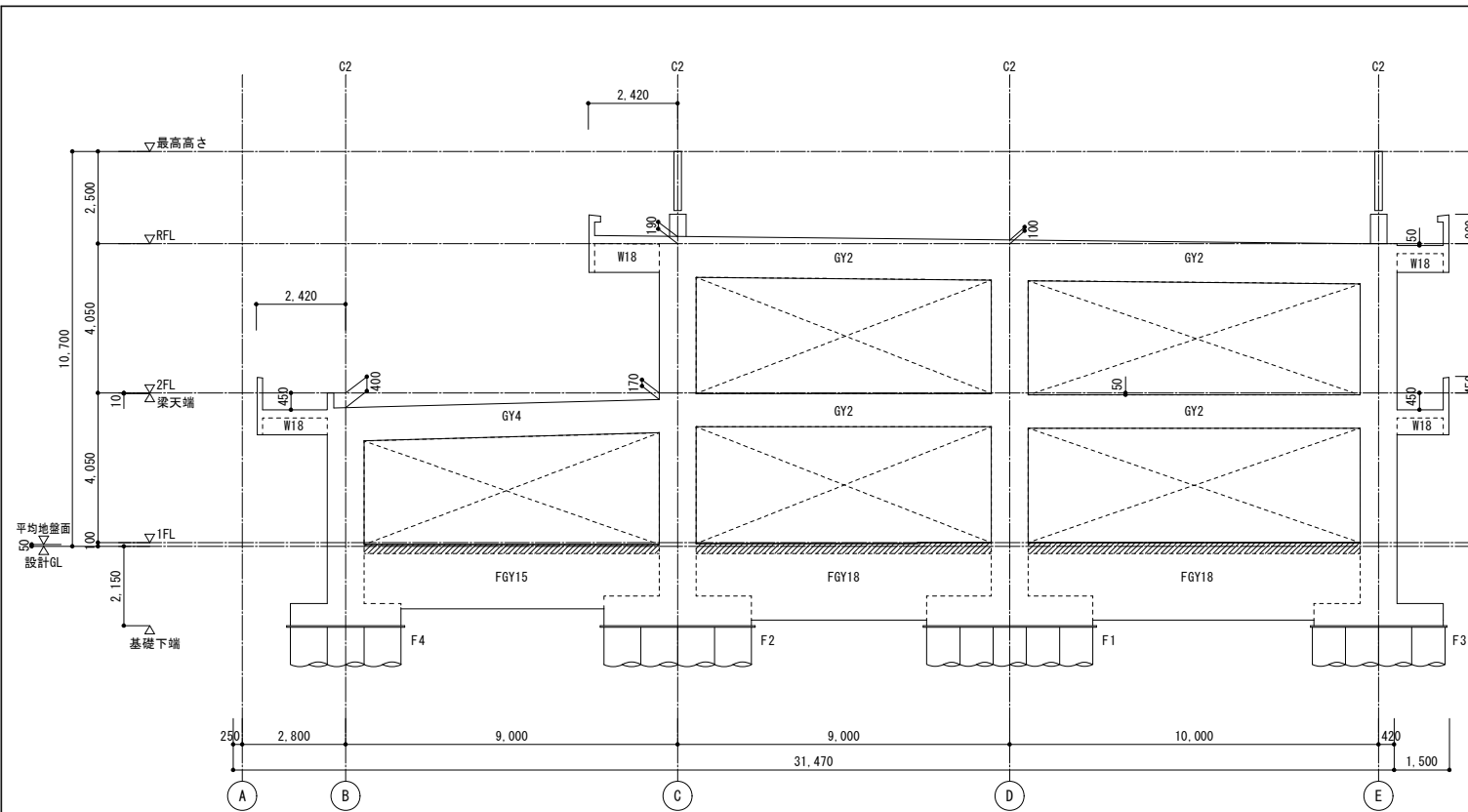
5通り軸組図 1/100



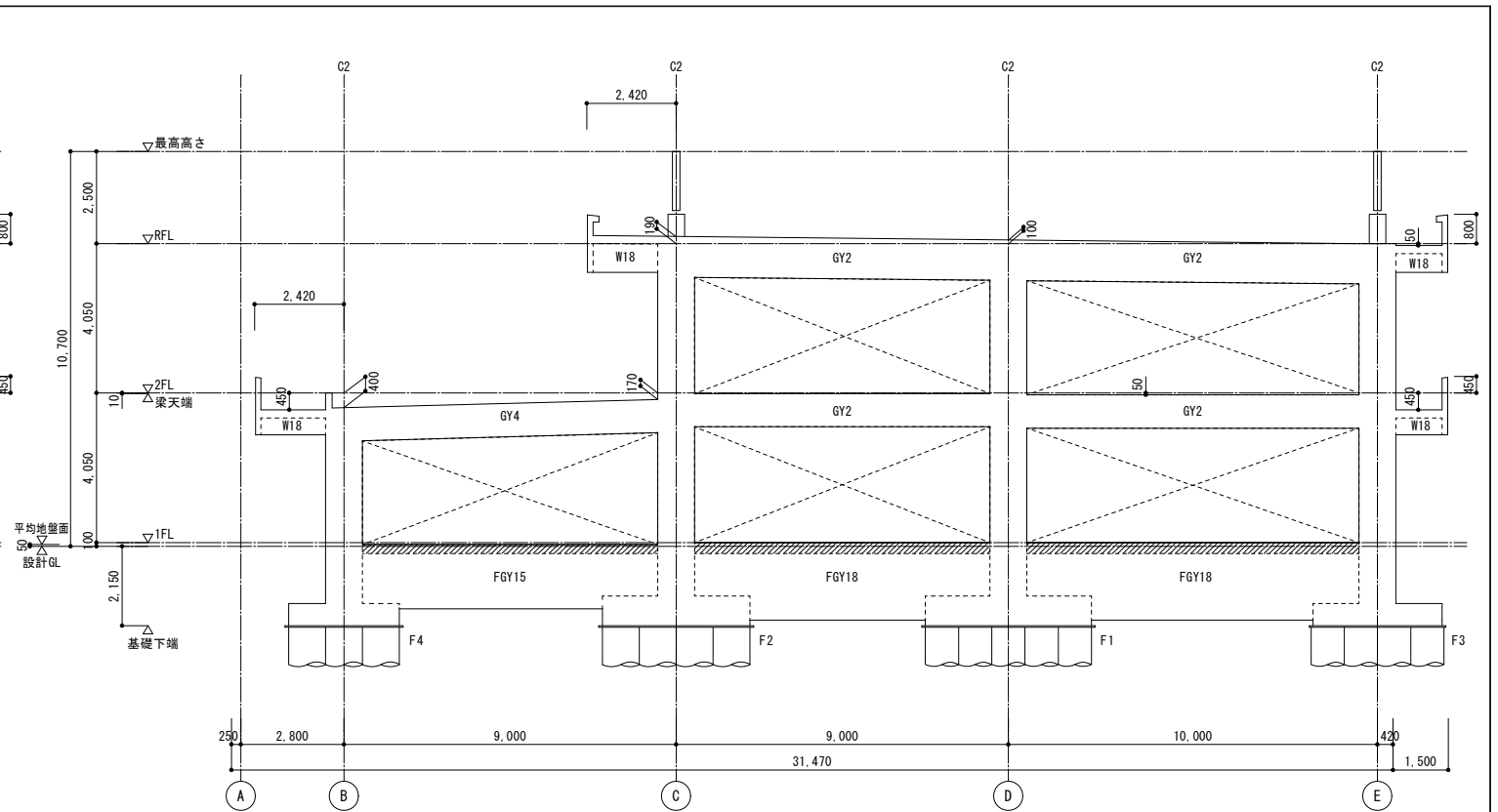
6通り軸組図 1/100

- 特記なき限り下記に依る【RC範囲】
1. 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。
 2. 壁符号はW16を示す。
 3. ◀ 構造完全スリット位置を示す。
 4. スリット位置は伏図も確認すること。
 5. 斜線範囲は増打を示す。
- 特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】
1. BPL下端は、1FL-250とする。
 2. パラベット受：SP10W
 3. 頭つなぎ：□-100x100x2.3
 4. 柱芯位置を示す。
 5. 横綱線：C-100x50x20x2.3#600

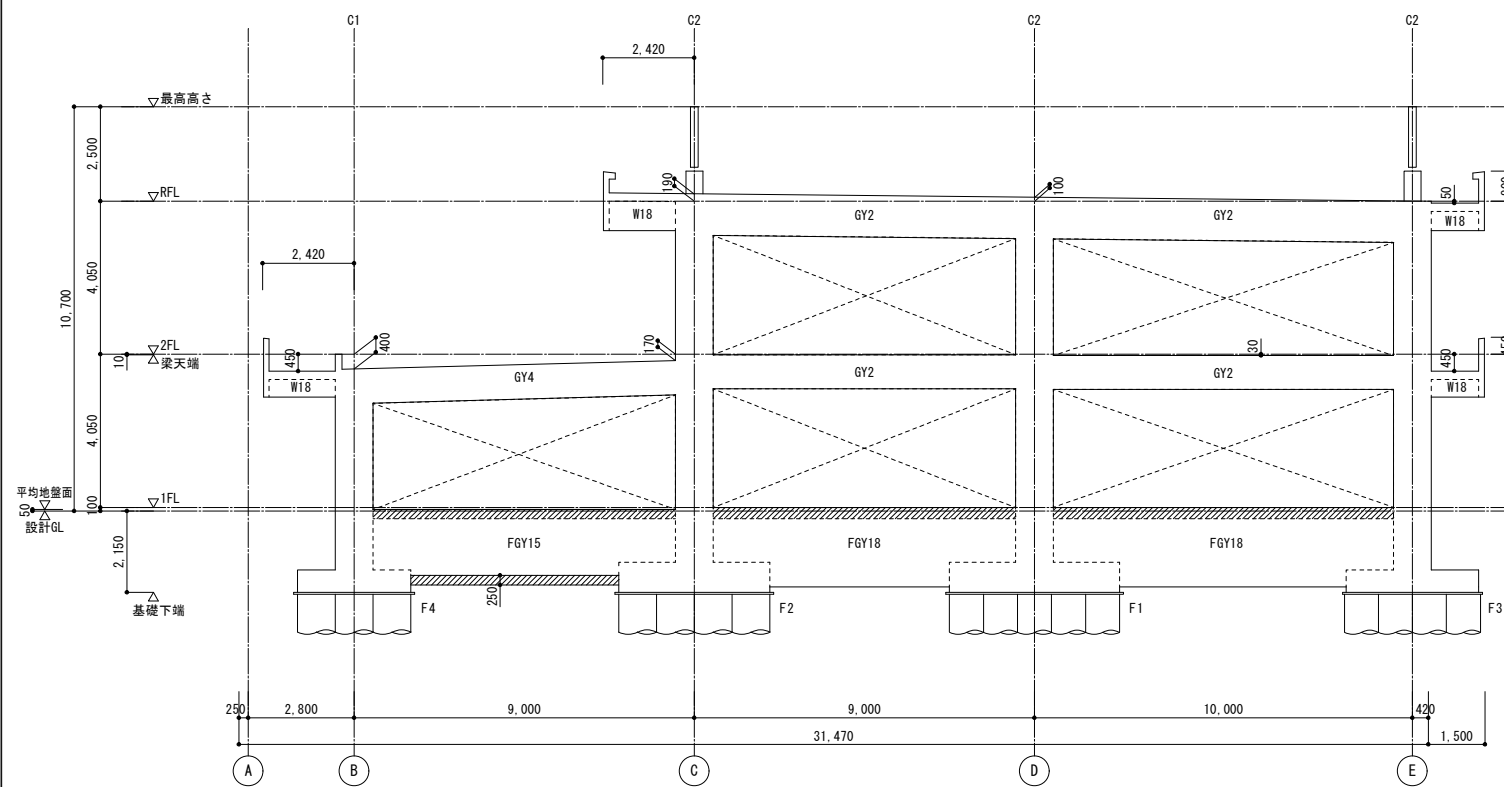
構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号



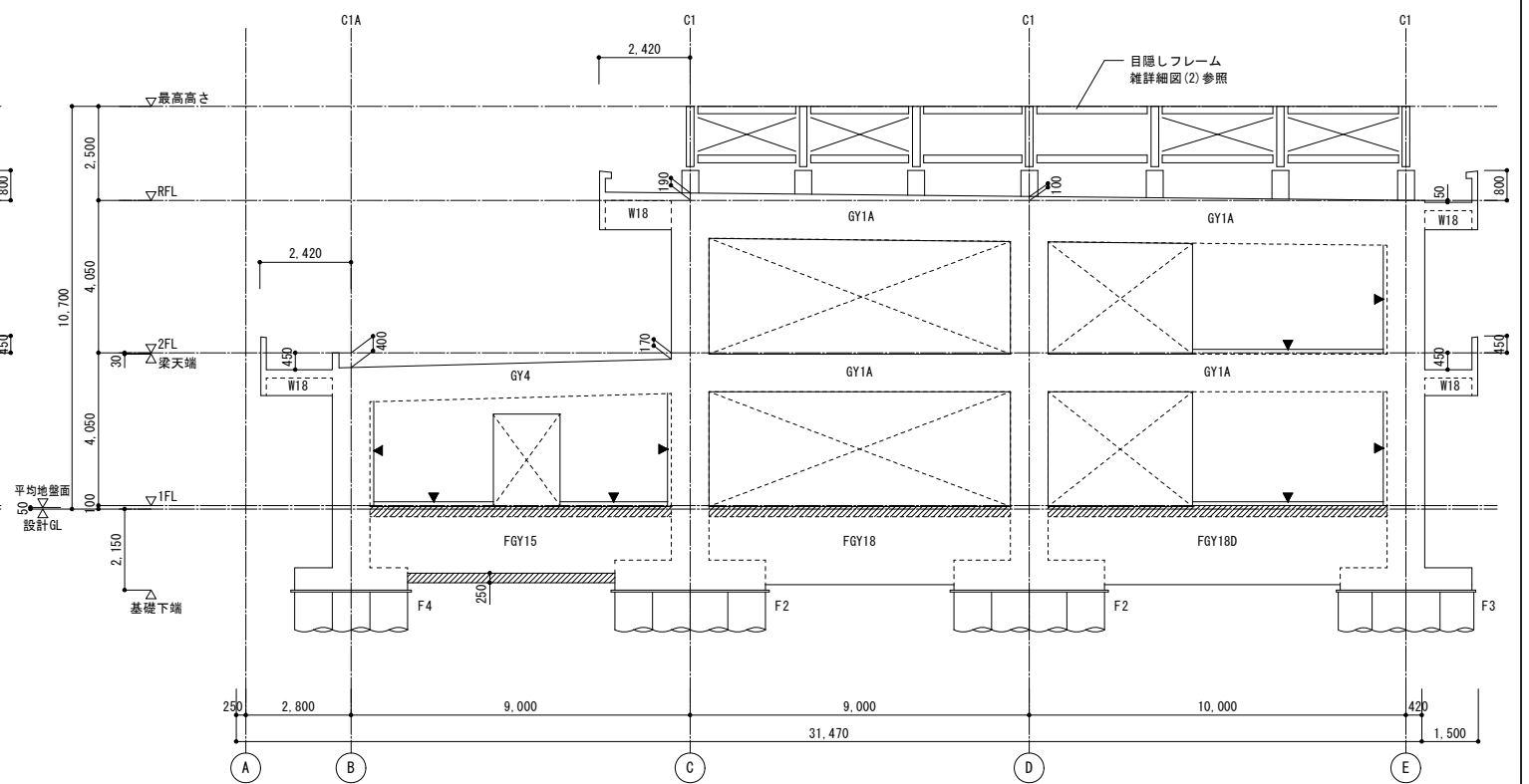
7通り軸組図 1/100



8通り軸組図 1/100



9通り軸組図 1/100



10通り軸組図 1/100

特記なき限り下記に依る【RC範囲】

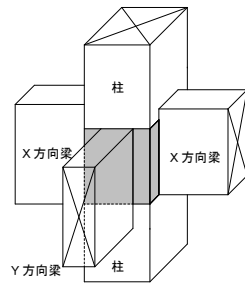
1. 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。
2. 壁符号はW16を示す。
3. ◀ 構造完全スリット位置を示す。
4. スリット位置は伏図も確認すること。
5. ▨ 範囲は増打を示す。



特記なき限り下記による
 1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D25: SD345
 2. コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$

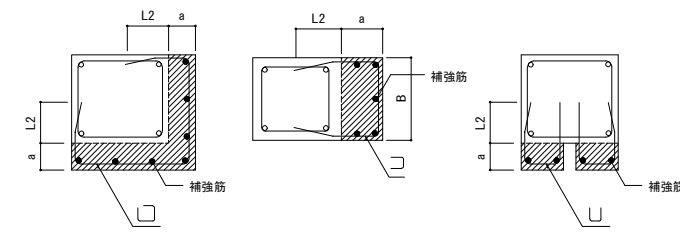
階	符号	C1	C1A	C2
2FL	仕口HOOP	(2-2)□-D13 # 80		(2-2)□-D13 # 80
	断面			
	BxD	1000x1000		1000x1000
	主筋	24-D25		20-D25
	HOOP	(2-2)□-D13 #100		(2-2)□-D13 #100
1FL	仕口HOOP	(2-2)□-D13 # 80	(2-2)□-D13 # 80	(2-2)□-D13 # 80
	断面			
	BxD	1000x1000	1000x1000	1000x1000
	主筋	24-D25	28-D25	20-D25
	HOOP	(2-4)□-D13 #100	(2-4)□-D13 #100	(2-3)□-D13 #100
仕口HOOP	(2-2)□-D13 # 80	(2-2)□-D13 # 80	(2-2)□-D13 # 80	

仕口部要領図



・「仕口部」とは、原則として各方向のRC躯体梁成により包絡される部分とする

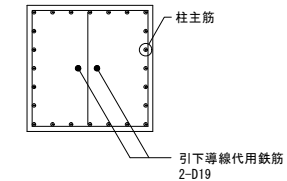
柱増打コンクリート補強筋要領図



・補強筋は、D16とし、#300以下とする。
 ・帯筋補強筋は、D10#200とする。
 ・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
 ・ $a < 70mm$ の場合、補強は不要とする。

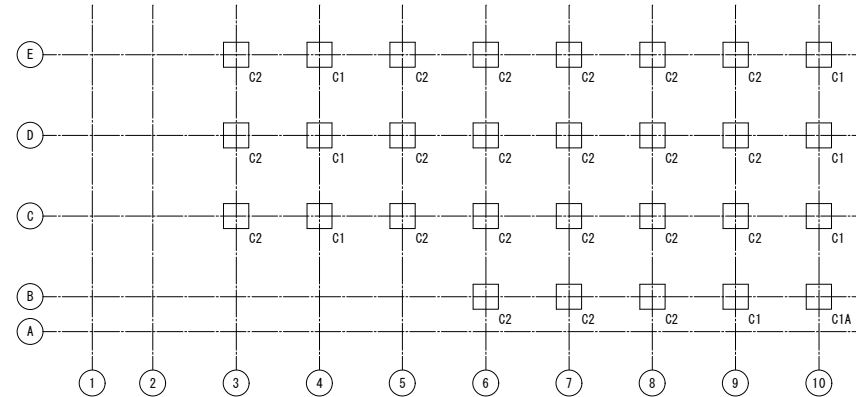
引下導線代用鉄筋筋要領

- ・避雷針等の引き込み線は柱主筋に溶接しないこと。
- ・最上階柱頭から最下層柱脚まで引き通すこと。
- ・継手を設ける場合は、圧接とする。
- ・位置は監理者と協議の上、決定のこと。

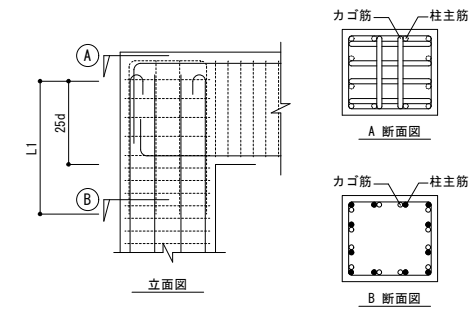


柱キープラン

柱芯=通り芯とする



柱頭部配筋要領



・柱頭主筋が、構造関係共通事項(2)「6.1柱(a)(2)」に示すL2定着が確保できない場合は、カゴ筋を柱主筋と同径・同本数とする。確保できる場合は、カゴ筋径をD13としてもよい。

NOTE

特記なき限り下記による

- 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D25: SD345 D29: SD390
- コンクリート設計基準強度 $f_c=24N/mm^2$
- 幅止筋は、D10@1,000以内とする。
- ※印の腹筋は、柱内にL2定着又は通し筋とする。
- カットオフ長は $L_o/4+15d$ とする。
- < >内数値はカットオフ長を示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは左記5.による。尚、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

大梁リスト (1) 1/30

階	符号	GX1	GX1A		GX2		GX2A		GX3		GX3A				
位置		全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	3端	中央	4端		
RFL	断面														
	BxD	550x700	550x700		550x750		550x750		650x750		650x750				
	上端筋	5-D25	7-D25	5-D25	7-D25	5-D25	9-D25	5-D25	12-D25	7-D25	7-D25	7-D25	12-D25		
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25		
	STP	(2) □-D13 #200	(3) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(3) □-D13 #200		(4) □-D13 #200		(4) □-D13 #200				
腹筋	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10					
2FL	位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	3端	中央	4端	両端	中央	3端	中央	4端
	断面														
	BxD	550x750		550x750		550x750		650x750		650x750		650x750			
	上端筋	6-D25	5-D25	6-D25	5-D25	7-D25	5-D25	7-D25	6-D25	8-D25	10-D25	7-D25	8-D25	7-D25	10-D25
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(3) □-D13 #200		(3) □-D13 #200		(4) □-D13 #200		(4) □-D13 #200				
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10				

階	符号	GX4	GY1			GY1A			GY1B			
位置			D端	中央	E端	C, E端	中央	D端	C端	中央	D端	
RFL	断面											
	BxD		700x1100			700x1200			700x1100			
	上端筋		10-D29	6-D29	6-D29	8-D29	6-D29	12-D29	6-D29	6-D29	10-D29	
	下端筋		6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	
	STP		(3) □-D13 #200			(4) □-D13 #200			(3) □-D13 #200			
腹筋		4-D10			4-D10			4-D10				
2FL	位置	両端	中央	D端	中央	E端	C, E端	中央	D端	C端	中央	D端
	断面											
	BxD	550x750		900x900			900x1100			850x900		
	上端筋	7-D25	5-D25	18-D29	9-D29	11-D29	12-D29	7-D29	12-D29	10-D29	8-D29	16-D29
	下端筋	5-D25	5-D25	9-D29	9-D29	9-D29	7-D29	9-D29	7-D29	8-D29	8-D29	8-D29
STP	(2) □-D13 #200		(7) □-D13 #200			(6) □-D13 #200			(7) □-D13 #200			
腹筋	2-D10		4-D10			6-D16※			4-D10			

大梁主筋配置要領図

※大梁主筋が重なる場合は、下表による

上端筋	X方向大梁	外側
下端筋	Y方向大梁	内側
上端筋	X方向大梁	内側
下端筋	Y方向大梁	外側

外側・内側 表記例

大梁STP配筋要領図

※1: 設計かぶり厚さ + 柱主筋外径
※2: 設計かぶり厚さ

カットオフ筋要領図

副あばら筋要領

- ②③は同時打込みのｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ付の場合に限る。
- 135°フックは180°フックでも可とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

NOTE

DWG No

特記なき限り下記による

- 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D25: SD345 D29: SD390
- コンクリート設計基準強度 $f_c=24N/mm^2$
- 幅止筋は、D10@1,000以内とする。
- カットオフ長は $L_o/4+15d$ とする。
- < >内数値はカットオフ長を示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは上記4.による。尚、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

大梁リスト (2) 1/30

階	符号	GY2			GY3			GY4			GY4A	
		位置	C, E端	中央	D端	C, E端	中央	D端	B端	中央	C端	全断面
RFL	断面				/			/			/	
	BxD	800x1100										
	上端筋	8-D29	8-D29	16-D29								
	下端筋	8-D29	8-D29	8-D29								
	STP	(4) \square -D13 @200										
腹筋	4-D10											
2FL	断面											
	BxD	750x900			850x900			750x900			650x900	
	上端筋	10-D29	7-D29	13-D29	14-D29	8-D29	8-D29	7-D29	7-D29	11-D29	6-D29	
	下端筋	7-D29	7-D29	7-D29	8-D29	8-D29	8-D29	7-D29	7-D29	7-D29	6-D29	
	STP	(5) \square -D13 @200			(4) \square -D13 @200			(5) \square -D13 @200			(3) \square -D13 @200	
	腹筋	4-D10			4-D10			4-D10			4-D10	

大梁主筋配置要領図	大梁STP配筋要領図	カットオフ筋要領図	副あばら筋要領												
<p>※大梁主筋が重なる場合は、下表による</p> <table border="1"> <tr> <td>上端筋</td> <td>X方向大梁</td> <td>外側</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Y方向大梁</td> <td>内側</td> </tr> <tr> <td>下端筋</td> <td>X方向大梁</td> <td>内側</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Y方向大梁</td> <td>外側</td> </tr> </table> <p>外側・内側 表記例</p>	上端筋	X方向大梁	外側		Y方向大梁	内側	下端筋	X方向大梁	内側		Y方向大梁	外側	<p>※1: 設計かぶり厚さ + 柱主筋外径 ※2: 設計かぶり厚さ</p>	<p>上端筋カットオフ長さ 下端筋カットオフ長さ 柱面 L_o (内法スパン) 柱面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ②③は同時打込みの157°付の場合に限る。 135°フックは180°フックでも可とする。 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。 <p>① ② ③ ④ ②: $\geq 8d$以上 ③: $\geq 8d$以上 ④: $b/3$かつ170以上</p>
上端筋	X方向大梁	外側													
	Y方向大梁	内側													
下端筋	X方向大梁	内側													
	Y方向大梁	外側													

NOTE

DWG No

小梁リスト 1/30

特記なき限り下記による
 1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D25: SD345
 2. 幅止筋は、D10#1,000以内とする。

符号	B1	B2	B2A		B2B		B2C			B2D		B2E
位置	全断面	全断面	6,8端・中央	7端	5端	中央・6端	4端	中央	5端	両端	中央	全断面
断面												
BxD	300x600	400x800	400x800		400x800		400x800			400x800		450x800
上端筋	3-D19	4-D22	4-D22	5-D22	8-D22	4-D22	4-D22	4-D22	8-D22	4-D22	4-D22	5-D22
下端筋	3-D19	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22	5-D22
STP	(2) □-D10 #200	(2) □-D13 #200	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10

符号	B3		B3A			B3B		B4	B4A		B4B	
位置	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	全断面	他端・中央	5,6端	他端・中央	7,8端
断面												
BxD	450x900		450x900			450x900		400x700	400x700		400x700	
上端筋	8-D22	5-D22	5-D22	5-D22	8-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22
下端筋	5-D22	5-D22	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	10-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	
腹筋	4-D10		4-D10			4-D10		2-D10	2-D10		2-D10	

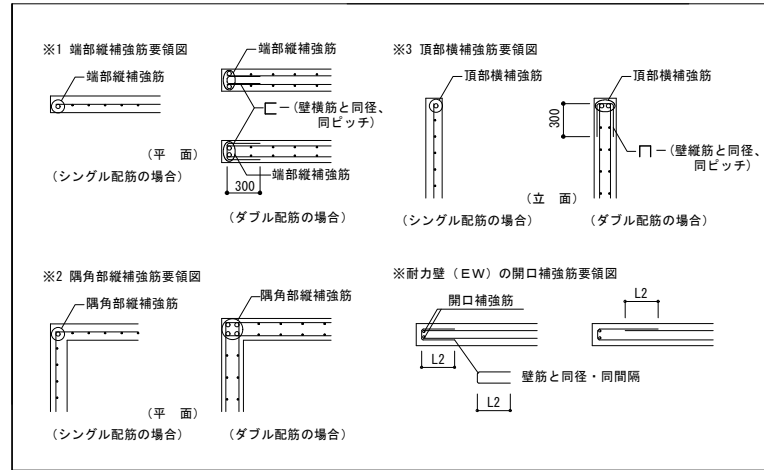
符号	B4C		B11	B12		B12A			B12B		
位置	両端	中央	全断面	両端	中央	3端	中央	4端	他端	中央	6端
断面											
BxD	400x700		300x600	400x900		400x900			400x900		
上端筋	4-D22	4-D22	3-D19	6-D22	4-D22	7-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	7-D22
下端筋	4-D22	6-D22	3-D19	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	4-D22
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D10 #200	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200			(2) □-D13 #200		
腹筋	2-D10		2-D10	4-D10		4-D10			4-D10		

符号	B12C		B13	B14		B14A			CG1		CB1
位置	7端	中央・8端	全断面	両端	中央	3,9端	中央	他端	元端	先端	全断面
断面											
BxD	400x900		400x800	350x700		350x700			550x700		400x800
上端筋	6-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	7-D25	5-D25	4-D22
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D25	5-D25	4-D22
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	(2) □-D10 #200		(2) □-D10 #200			(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200
腹筋	4-D10		2-D10	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10

壁リスト 1/30

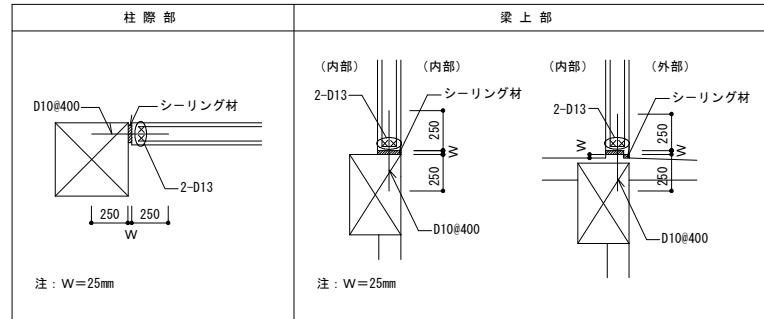
特記なき限り下記による
 1. D:ダブル S:シングル チ:チドリ
 2. 壁筋の配筋順序は規定しないが、柱・梁主筋との干渉を考慮し過大なかぶり等が生じないように配筋すること

符号	W15	W16
壁厚	150	160
鉛直断面		
縦筋	D10#200(チ)	D10#200(D)
横筋	D10#200(チ)	D10#200(D)
開口補強筋	縦 2-D13 横 2-D13 斜め 1-D13	縦 2-D13 横 2-D13 斜め 1-D13
端部縦補強筋※1	2-D13	2-D13
隅角部縦補強筋※2	4-D13	4-D13
幅止筋	D10#1000	D10#1000



構造スリット要領図

特記なき限り下記による
 ・延焼の恐れのある部分及び、区画が発生する部分の構造スリットは耐火認定品(60分)とする
 ・振れ止め筋は、防錆処理とする

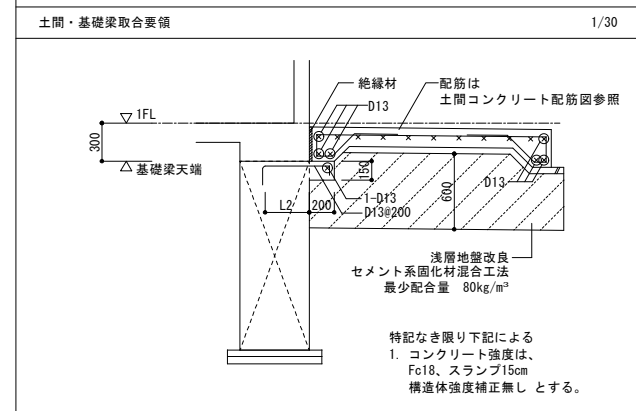
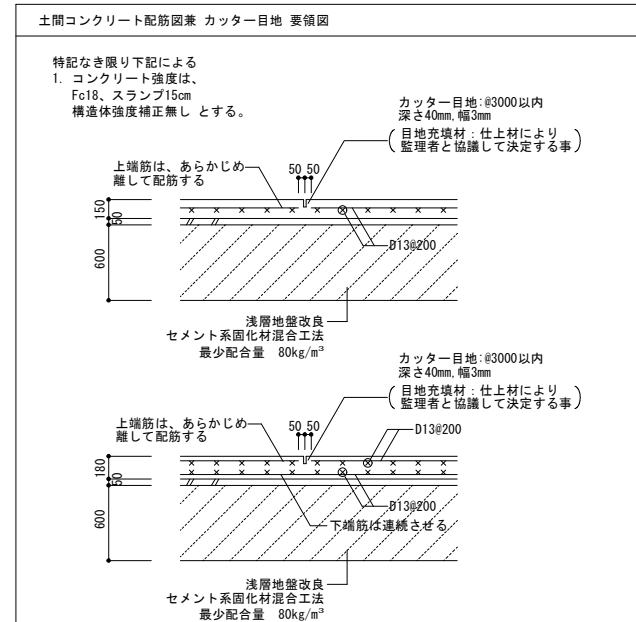
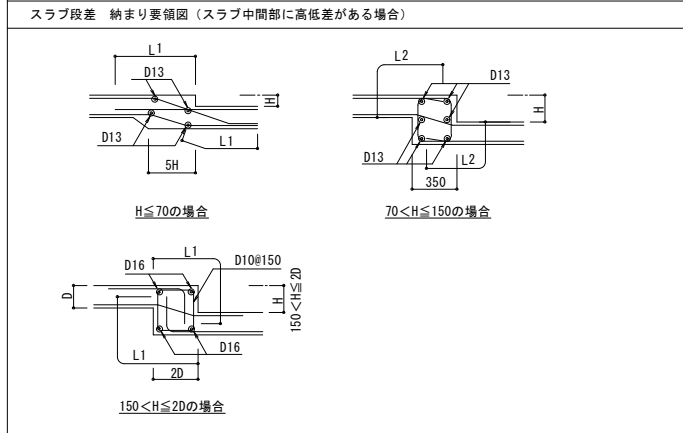
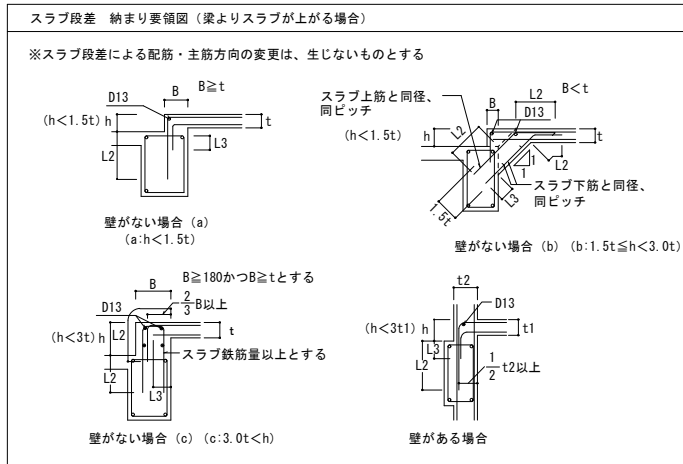
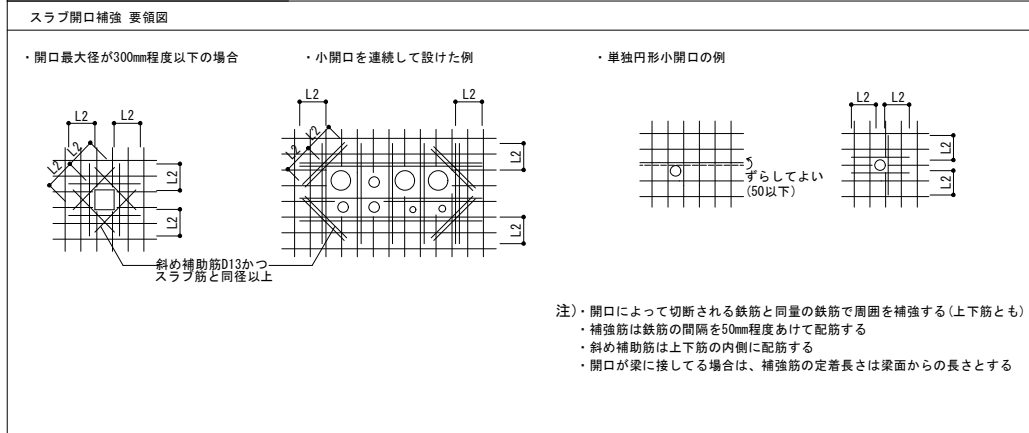
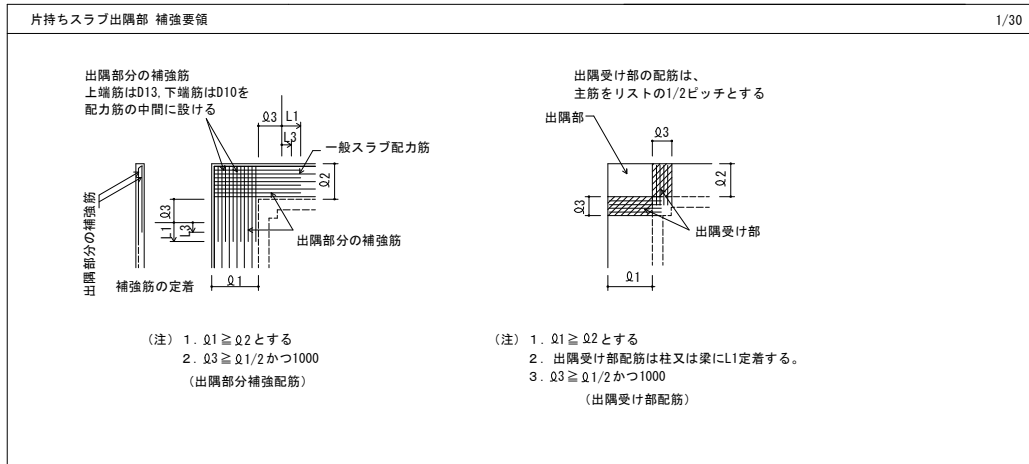


スラブリスト

特記なき限り下記による
1. 地業は、捨てコンクリート ⑦50、砕石 ⑦60とする

符号	厚さ 元端 先端	位置	短辺方向配筋	長辺方向配筋	備考
DS18	180	上	D13#200	D13#200	JF75 t=1.2 同等品 耐火1h
		下	D10#200	D10#200	
S15	150	上	D10, D13#200	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	
S15A	150	上	D10, D13#200	D10, D13#200	
		下	D10#200	D10#200	
S18	180	上	D13#200	D13#200	
		下	D10#200	D10#200	
S18A	180	上	D13#150	D13#150	
		下	D13#150	D10#150	
S20	200	上	D13#200	D13#200	
		下	D13#200	D13#200	

符号	厚さ 元端 先端	位置	短辺方向配筋	長辺方向配筋	備考
CS18	180	上	D13#200	D13#200	
		下	D10#200	D10#200	
CS22	220	上	D16#100	D13#200	
		下	D13#100	D10#200	
FS25	250	上	D13#200	D13#200	
		下	D13#200	D13#200	



NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 佐藤 彰洋
第340646号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】スラブリスト

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

SCALE A1: 1/30
A3: 1/60

DWG No
S
118

鉄骨柱・柱脚リスト 1/30

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質 角形鋼管: BCR295
 2. 通しダイヤフラム: SN490C 内ダイヤフラム: SN490B
 3. 通しダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の2サイズUP以上かつ6mmUP以上とする。
 4. 内ダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の1サイズUP以上とする。

符号	SC1
1階	□-300x300x12
ハイベースNE0	EB300-4-30
柱脚	
ベースプレート	S-011, S-012による
アンカーボルト	
柱型	
B x D	850x850
主筋	16-D12 (SD345)
HOOP	□-D13#100 (SD295)

間柱リスト 1/30

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質 角形鋼管: BCR295 円形鋼管: STK400 H形鋼: SN400A
 2. ベースプレート: SN400B, アンカーボルト: SNR400B
 3. HTBはS10T又はF10Tとする。
 4. z付符号は溶融亜鉛めっき処理とし、HTBはF8Tとする。

符号	SP1	SP2	SP3z
部材	□-300x300x12	□-250x250x12	○-165.2x4.5
接合部			
柱脚			
ベースプレート	BPL-16x500x500	BPL-16x450x450	BPL-12x310x310
アンカーボルト	4-M22 L=770 SNR490B ダブルナット締めフック付	4-M22 L=770 SNR490B ダブルナット締めフック付	4-M16 L=560 ダブルナット締めフック付
備考			

符号	SP15W	SP10W
部材	H-150x150x 7x 10	H-100x100x 6x 8
接合部	GPL-9 HTB 2-M16	GPL-6 HTB 2-M16
柱脚		
ベースプレート	BPL-12x250x200	BPL-9x250x150
アンカーボルト	4-M16 L=560 ダブルナット締めフック付	2-M16 L=560 ダブルナット締めフック付
備考		

鉄骨部材リスト

- 特記なき限り下記による
 1. HTBはF10T (S10T)とする。
 2. z付は溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。
 3. PLの材質は、母材材質同等以上とする。
 4. GPL形状は、「小梁ガセットプレート要領」による。
 5. 普通ボルトはSS400とする。

符号	部材	材質	TYPE	接合部			備考	
				HTB	nw	GPL		
SG20z	H-200x100x5.5x 8	SN400B	-	-	-	-		
SG40	H-400x200x 8x13	SN400B	A	-	-	-		
SG50	H-500x200x 10x16	SN400B	A	-	-	-		
SG488	H-488x300x 11x18	SN400B	B	-	-	-		
			C	M22	5	GPL-12		
SB15W	H-150x150x 7x 10	SS400	D	M16	2	GPL- 9		
SB20	H-200x100x5.5x 8	SS400	C	M16	2	GPL- 6		
SB30	H-300x150x6.5x 9	SS400	C	M20	3	GPL- 9	● 付接合部は、HTB 3x2-M20	
SB35	H-350x175x 7x11	SS400	C	M20	3	GPL- 9	● 付接合部は、HTB 3x2-M22	
SB40	H-400x200x 8x13	SS400	C	M20	4	GPL- 9		
SB50	H-500x200x 10x16	SS400	C	M20	6	GPL-12		
SB488	H-488x300x 11x18	SS400	C	M22	5	GPL-12		
SCG20z	H-200x100x5.5x 8	SN400B	A	-	-	-		
SCG50	H-500x200x 10x16	SN400B	A	-	-	-		
SCG294	H-294x200x 8x12	SN400B	A	-	-	-		
SCG488	H-488x300x 11x18	SN400B	B	-	-	-		
HB15W	H-150x150x 7x 10	SS400	D	M16	2	GPL- 9	横使い	
HB25	H-250x125x 6x 9	SS400	C	M16	3	GPL- 6	横使い	
HB194	H-194x150x 6x 9	SS400	C	M16	2	GPL- 9	横使い	
HB294	H-294x200x 8x12	SS400	C	M20	3	GPL- 9	横使い	
t1	2L-65x65x6	SS400	D	M16	2	GPL- 9	東材 縦りPL-9, 普通ボルト1-M16#600	
V1	2L-65x65x6	SS400	D	M16	3	GPL- 9	方杖 縦りPL-9, 普通ボルト1-M16#600	
T1	□-100x100x3.2	STKR400	C	M22	2	GPL- 9	座居止め 端部:CT-150x150x6.5x9 (SS400)	
HV1	L-65x65x6	SS400	D	M16	5	GPL- 9	水平ブレース	
HV2	1-M16	SS400	D	M16	1	GPL- 9	水平ブレース JIS型 ターンバックル筋交い	
横鋼線	C-100x50x20x2.3#600	SSC400	D	M12	2	GPL- 6	普通ボルト	
根太	C-100x50x20x2.3#1000	SSC400	D	M12	2	GPL- 6	天井地下 普通ボルト	
屋内鉄骨階段 SK1	ササラ桁 段板	PL-19x350 PL-4.5	SN400B SS400	C -	M20 -	3 -	GPL-16 -	柱脚: B. PL-19x110x370 (SN400B), A Bolt 3-M16 L=320 (SNR400B) フック付き モルタルt=45 ワイヤメッシュφ6-100x100 FB-9x44
屋外鉄骨階段 SK2 (めっき)	ササラ桁 段板 踊場 根太	PL-16x350 PL-4.5 PL-4.5 L-50x50x6 #450	SN400B SS400 SS400 SS400	C - - D	M20 - - M12	3 - - 2	GPL-12 - - 6	柱脚: B. PL-19x110x370 (SN400B), A Bolt 3-M16 L=320 (SNR400B) フック付き, F8T
屋外鉄骨階段 SK3 (めっき)	ササラ桁 段板 踊場 根太	PL-12x250 PL-4.5 PL-4.5 L-50x50x6 #450	SN400B SS400 SS400 SS400	C - - D	M20 - - M12	2 - - 2	GPL- 9 - - 6	F8T

<p>産屈止め取付要領</p>	<p>シャッター受材要領</p>	<p>小梁ガセットプレート要領</p>
<p>梁上頭付キスタッド要領</p> <p>適用箇所: コンクリートスラブが取付く梁全般</p>	<p>間柱下 増打要領</p> <p>※間柱が基礎梁幅内に納まらない場合は下記の要領による。</p>	<p>スラブ端部要領 (参考図) ※要領は施工者に検討を行ない、決定すること。</p> <p>スラブ端部の補足材 (鋼板を使用する場合)</p> <p>出寸法100以下の場合</p> <p>出寸法100~200以下の場合</p> <p>出寸法200~800の場合</p>

継手リスト

- 特記なき限り下記による
 1. HTBは、F10T (S10T)とする。(溶融亜鉛めっき部はF8T)
 2. 継手は、SCSS-H97に準拠する。
 3. PLの材質は、母材材質同等以上とする。
 4. 接合部の板厚の差が、1mmを超える場合はフィラープレートを挿入する。

部材	鋼材種	TYPE	HTB	FLANGE (SPL-tfxW1xL1)			WEB (SPL-twxB2xL2)			備考
				nf	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g3	SPL-(3)	
H-400x200x 8x13	SN400B	A	M20	6	SPL-12x200x410	2SPL- 9x 80x410	4	60	2SPL- 9x260x170	
H-500x200x 10x16	SN400B	A	M20	6	SPL-12x200x410	2SPL-12x 80x410	5	60	2SPL- 9x320x170	
H-294x200x 8x12	SN400B	B	M20	6	SPL- 9x200x410	2SPL- 9x 80x410	3	60	2SPL- 9x200x170	
H-488x300x 11x18	SN400B	B	M22	8	SPL-12x300x440	2SPL-12x110x440	5	60	2SPL-12x320x170	
H-200x100x5.5x 8	SN400B	A	M16	6	SPL-12x100x410	-	4	60	2SPL- 6x140x290	F8T

JOINT標準

B	g1	g2
125mm	75	
150mm	90	
175mm	105	
200mm	120	
250mm	150	
300mm	150	40
350mm	140	70
400mm	140	90

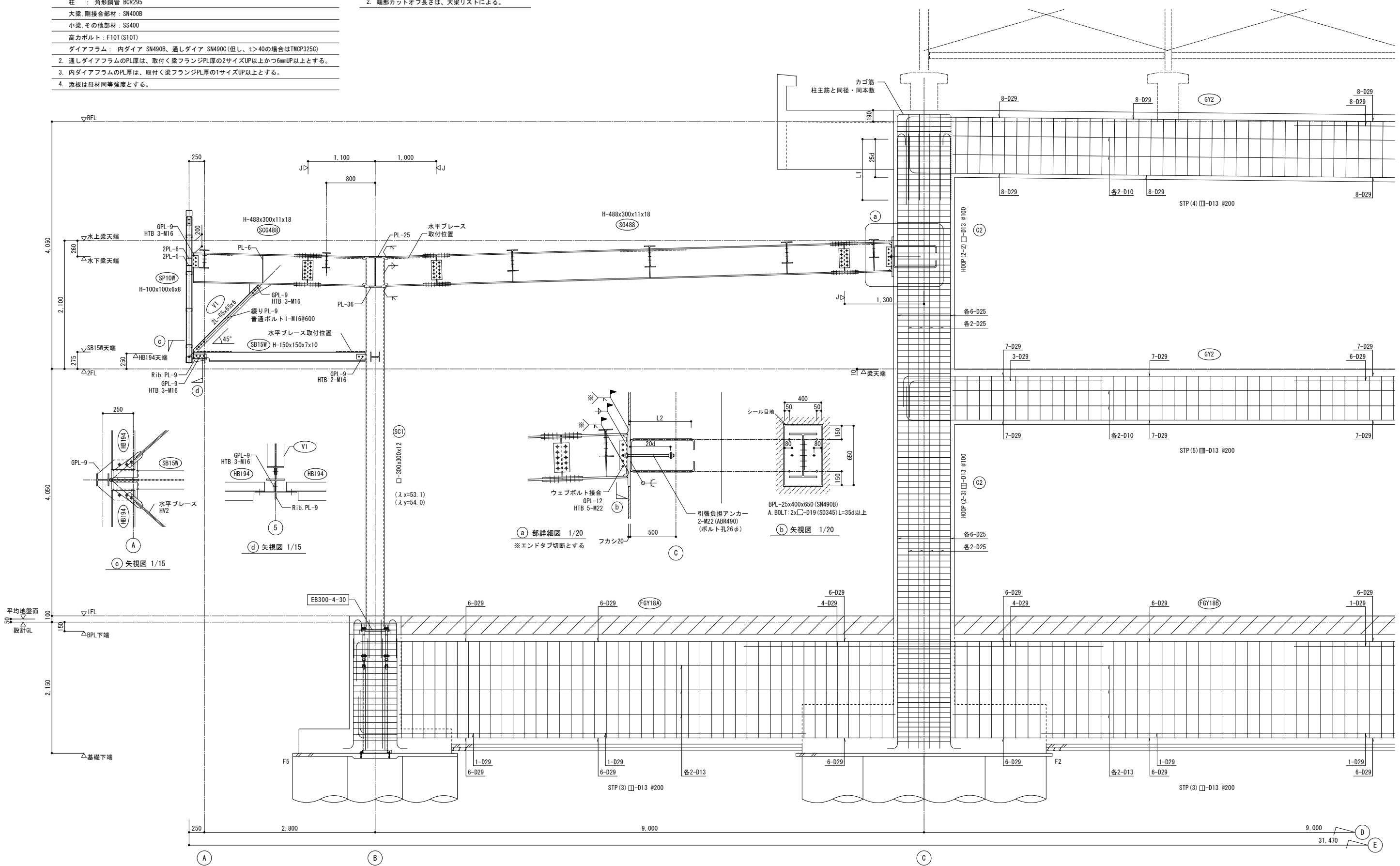
HTB	P1	P2	e
M16	60	45	40
M20	60	45	40
M22	60	45	45

特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】

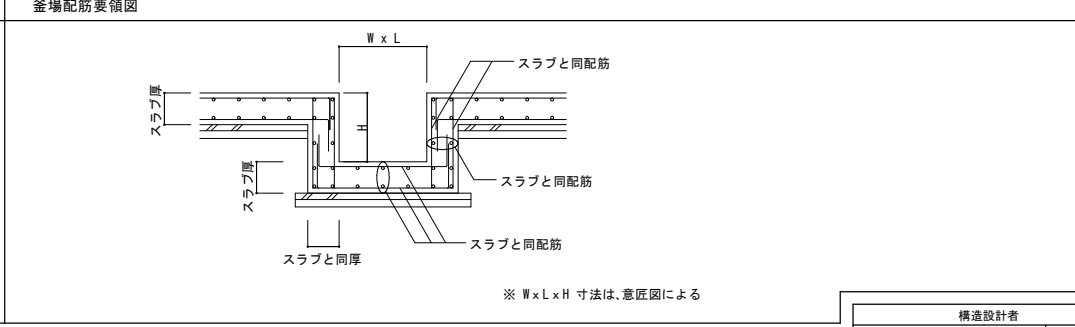
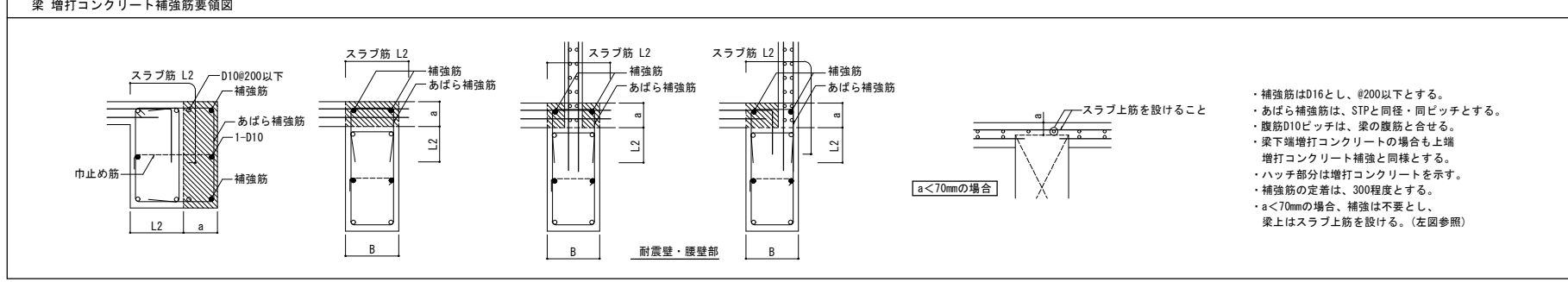
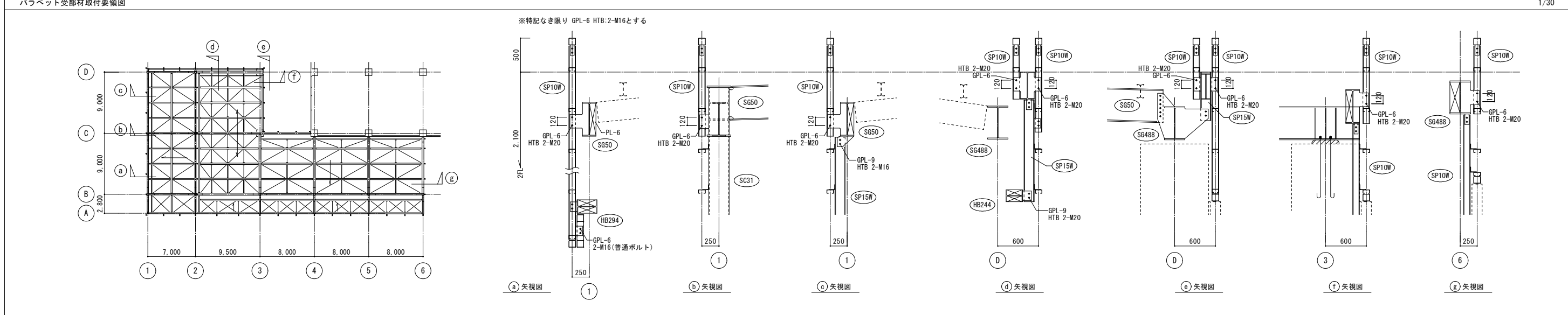
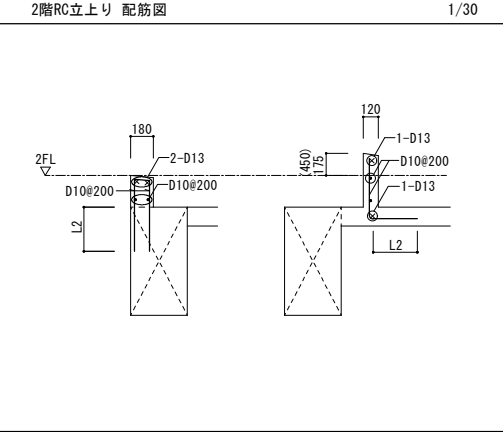
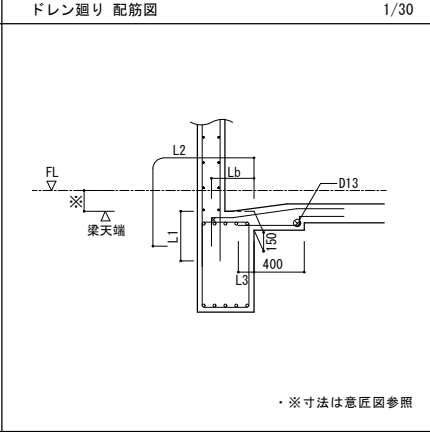
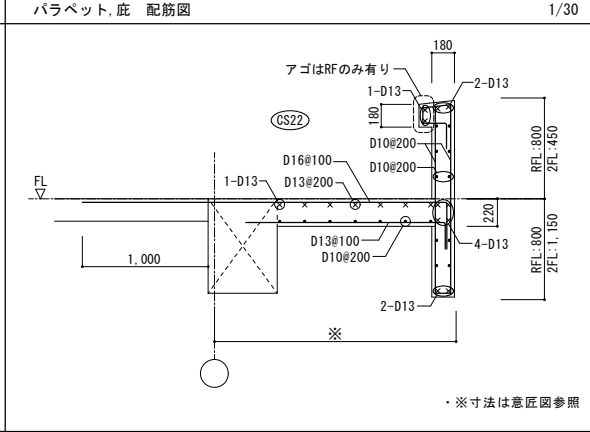
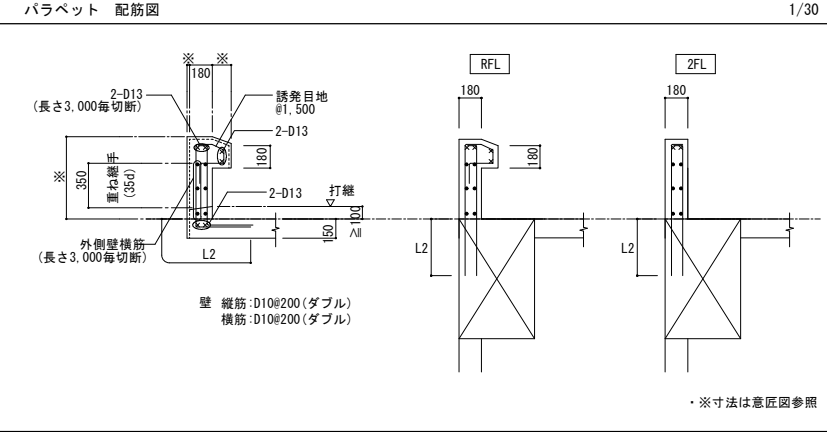
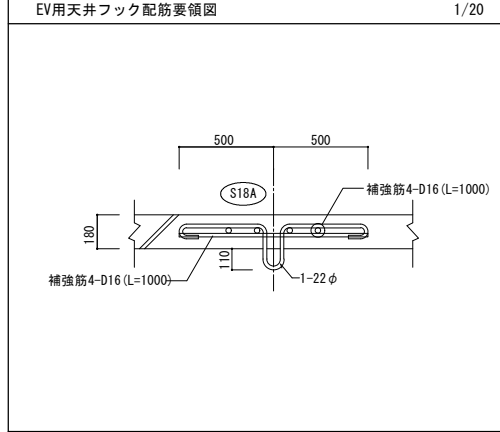
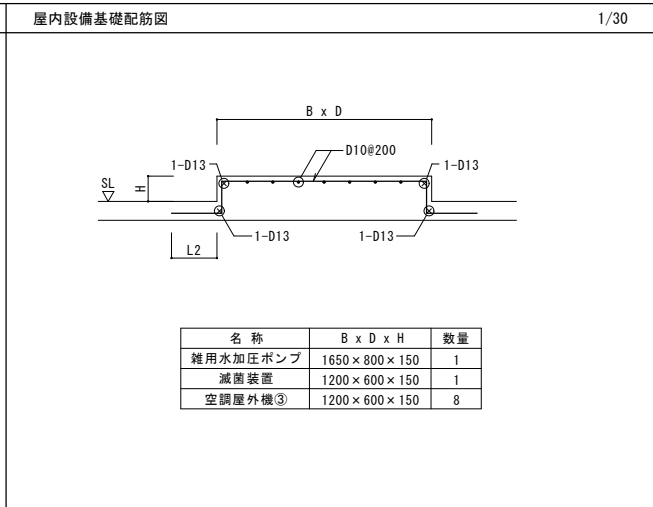
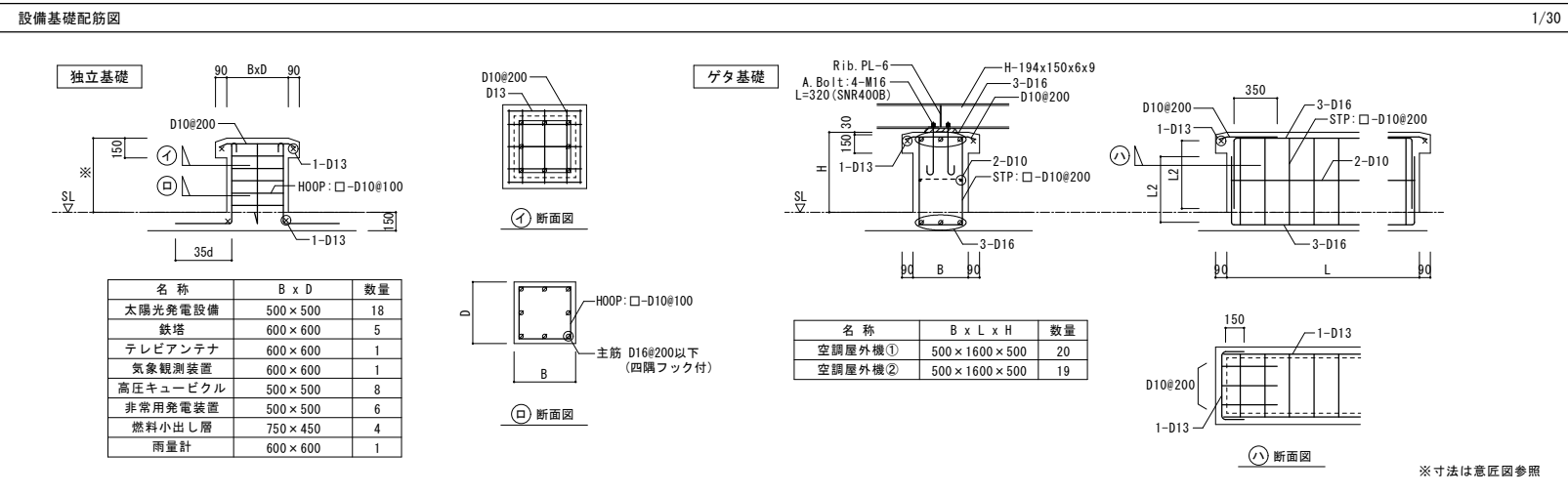
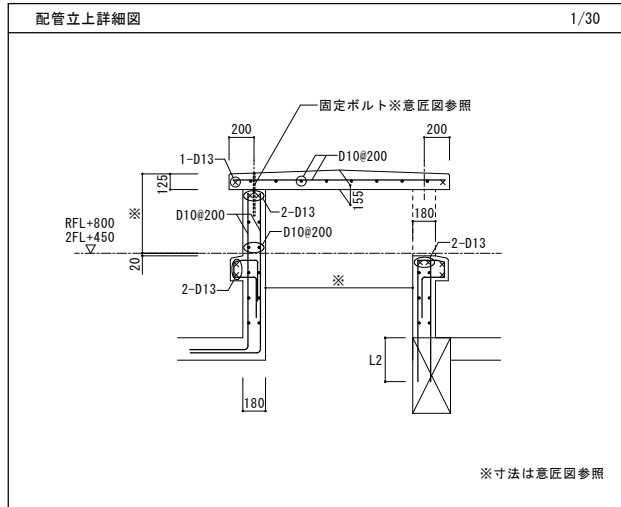
1. 使用材料
 - 柱 : 角形鋼管 BCR295
 - 大梁, 剛接合部材 : SN400B
 - 小梁, その他部材 : SS400
 - 高力ボルト : F10T (S10T)
 - ダイアフラム : 内ダイア SN490B, 通しダイア SN490C (但し, t>40の場合はTMC325C)
2. 通しダイアフラムのPL厚は, 取付く梁フランジPL厚の2サイズUP以上かつ6mmUP以上とする。
3. 内ダイアフラムのPL厚は, 取付く梁フランジPL厚の1サイズUP以上とする。
4. 添板は母材同等強度とする。

特記なき限り下記に依る 【RC範囲】

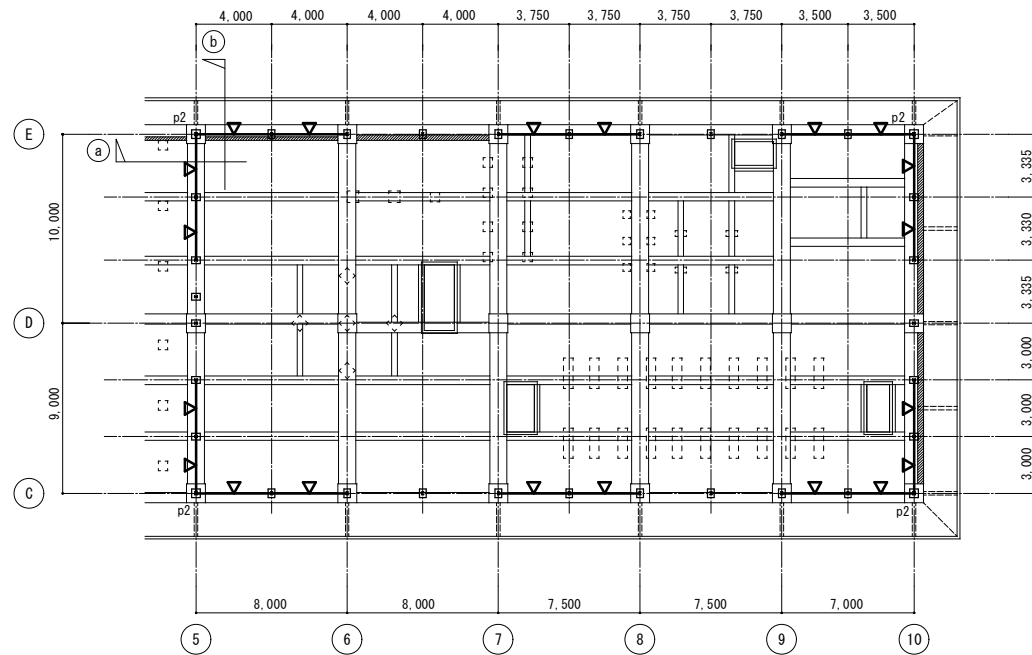
1. 仕口部フープは, 柱リストによる。
2. 端部カットオフ長さは, 大梁リストによる。



5通り架構詳細図 1/30



目隠しフレーム



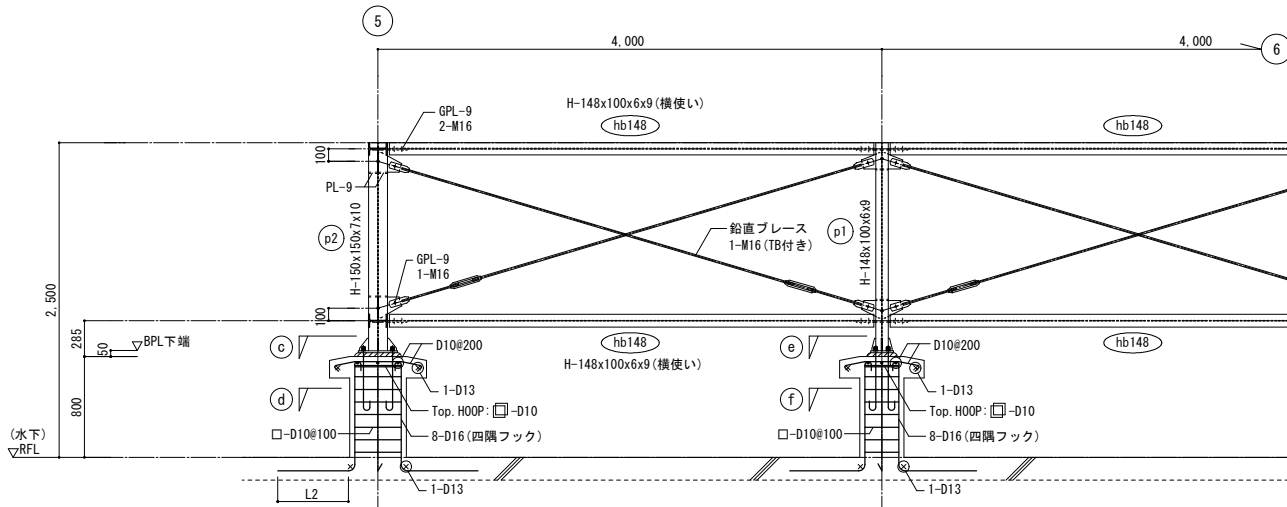
鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による
 1. 溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。
 2. PLの材質は、母材材質同等以上とする。

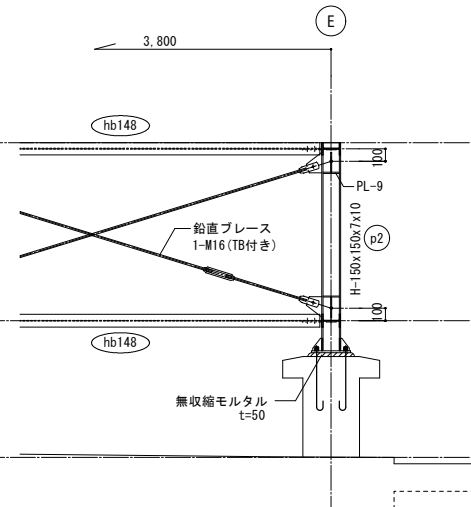
符号	部材	材質	TYPE	接合部			備考
				HTB	rw	GPL	
p1	H-148x100x6x9	SN400B	-	-	-	-	
p2	H-150x150x7x10	SN400B	-	-	-	-	
hb148	H-148x100x6x9	SS400	D	M16	2	GPL-9	横使い (ウェブに水抜き孔20φ@2000以下を設けること)
鉛直ブレース	1-M16	SS400	D	M16	1	GPL-9	水平ブレース JIS型 ターンバックル筋交い

特記なき限り下記による

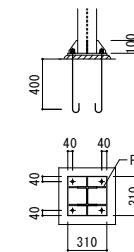
- 柱符号: p1
- 鉛直ブレース取付位置を示す。



(a) 矢視図 1/30

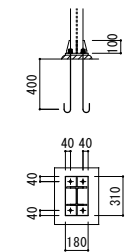


(b) 矢視図 1/30



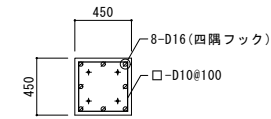
BPL-16x310x310 (SN490B)
 A. Bolt 4-M20 (SNR400B) L=400
 Rib. PL 9x100 (SN400B)

(c) 矢視図 1/30

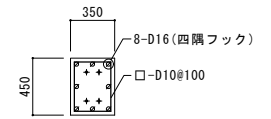


BPL-16x180x310 (SN490B)
 A. Bolt 4-M20 (SNR400B) L=400
 Rib. PL 9x100 (SN400B)

(e) 矢視図 1/30

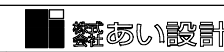


(d) 矢視図 1/30



(f) 矢視図 1/30

NOTE



株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】雑詳細図(2)

SCALE A1: 1/30
 A3: 1/60

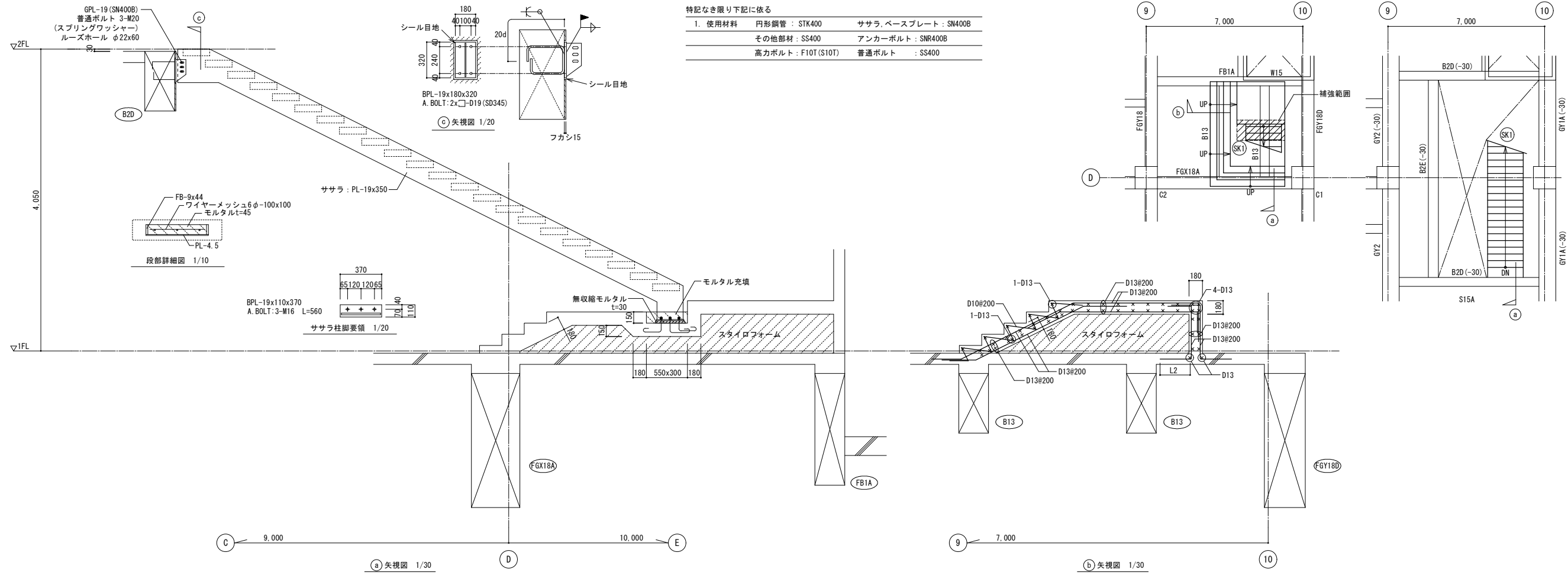
DWG No

S

122

構造設計者	前田 隆志
一級建築士 第287803号	
構造設計一級建築士 第7297号	

屋内階段詳細図 SK1



特記なき限り下記に依る

1. 使用材料	円形鋼管 : STK400	ササラ、ベースプレート : SN400B
	その他部材 : SS400	アンカーボルト : SNR400B
	高力ボルト : F10T(S10T)	普通ボルト : SS400

NOTE

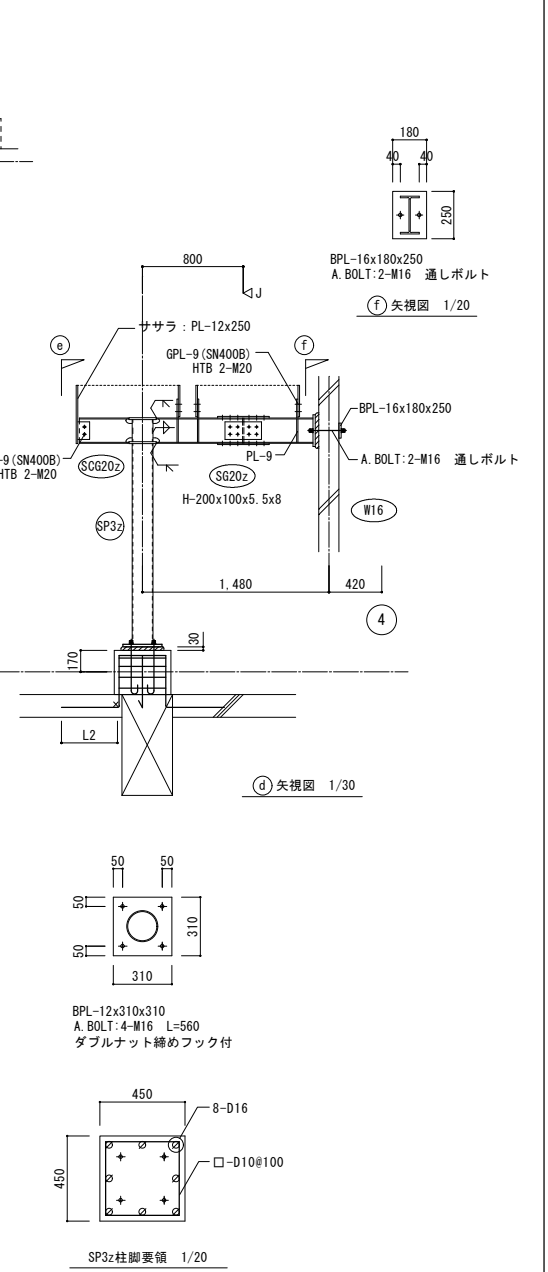
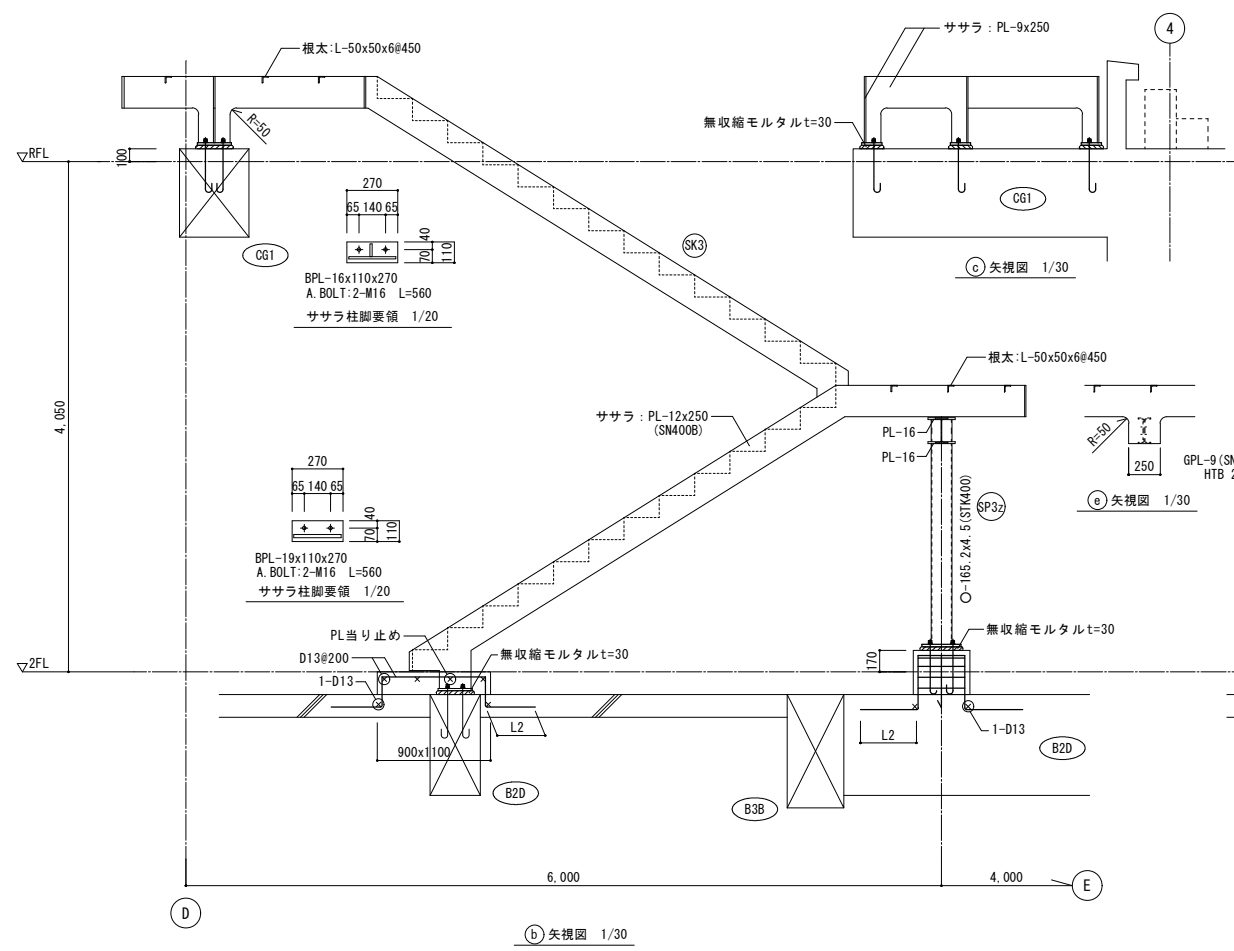
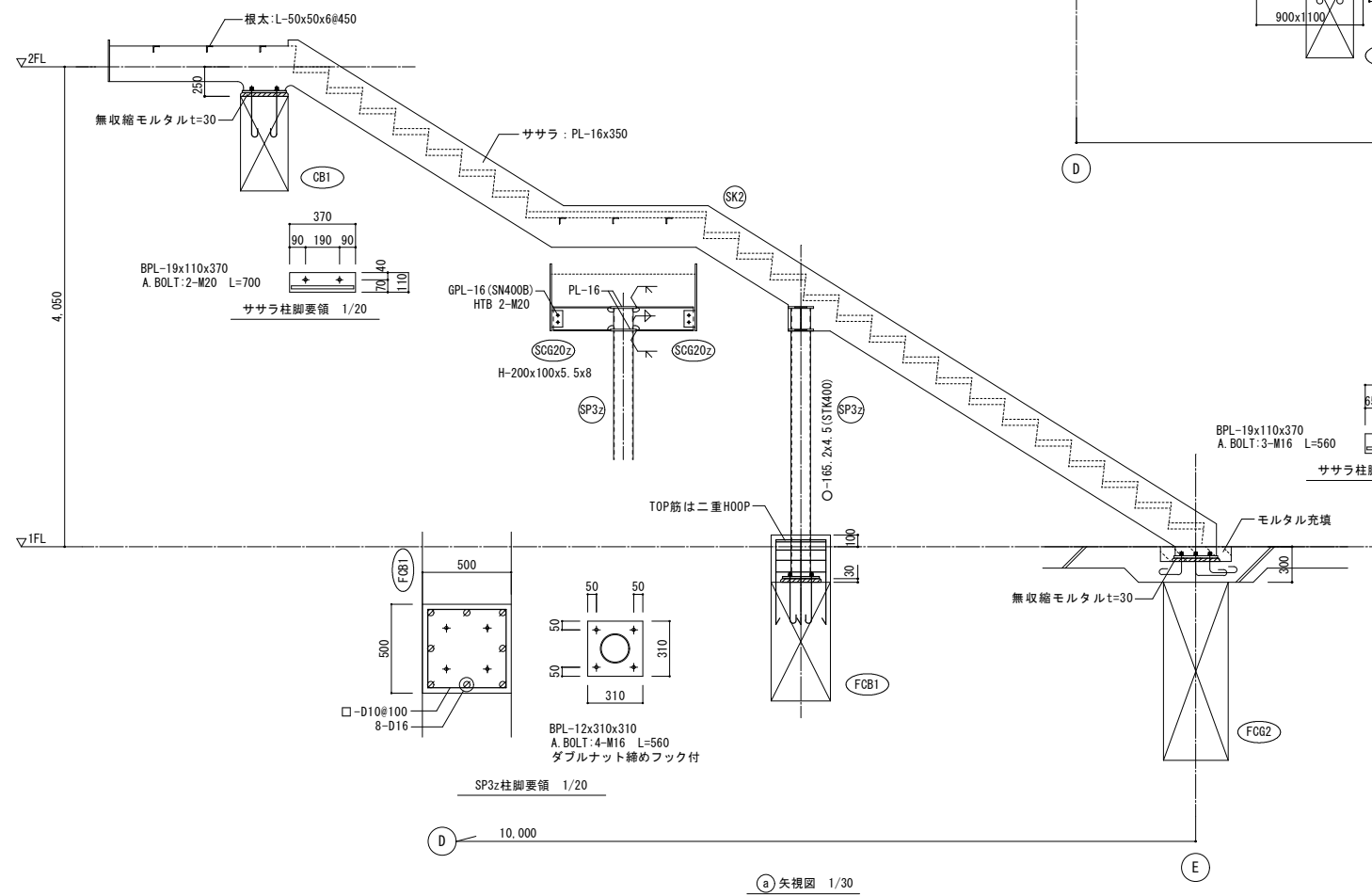
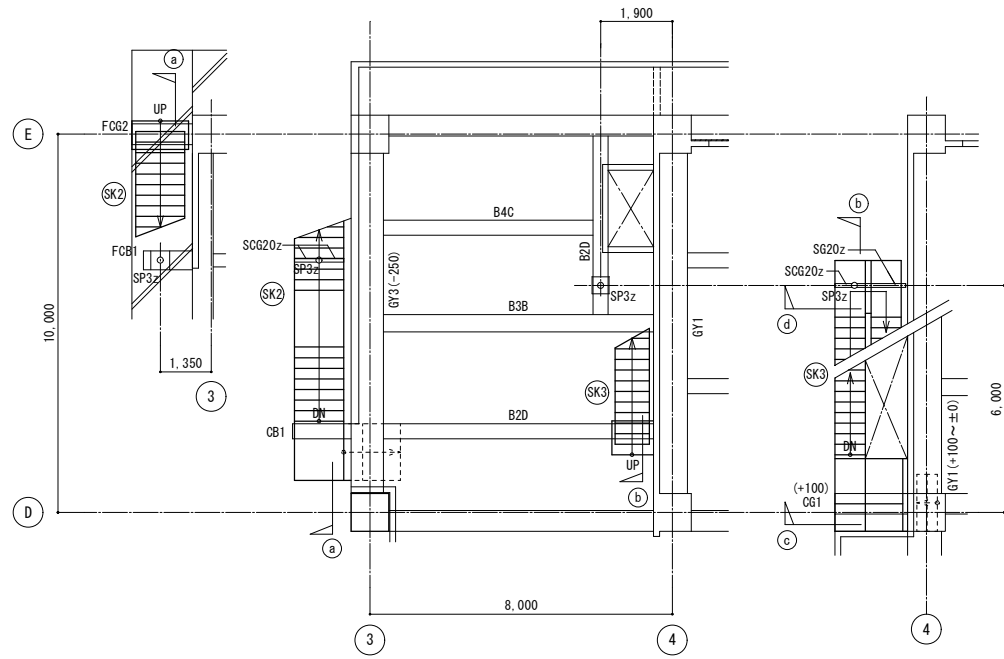
株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
 【庁舎棟】階段詳細図(1)

構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号

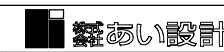
SCALE
 A1 : 1/30
 A3 : 1/60

DWG. No.
 S
 123



- 特記なき限り下記に依る
- | | | |
|---------|---------------|-----------------------|
| 1. 使用材料 | 円形鋼管 : STK400 | 大梁, 剛接合部材 : SN400B |
| | その他部材 : SS400 | ササラ, ベースプレート : SN400B |
| | 高力ボルト : F8T | アンカーボルト : SNR400B |
| 2. | 溶融亜鉛めっき仕様とする。 | |

NOTE



株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

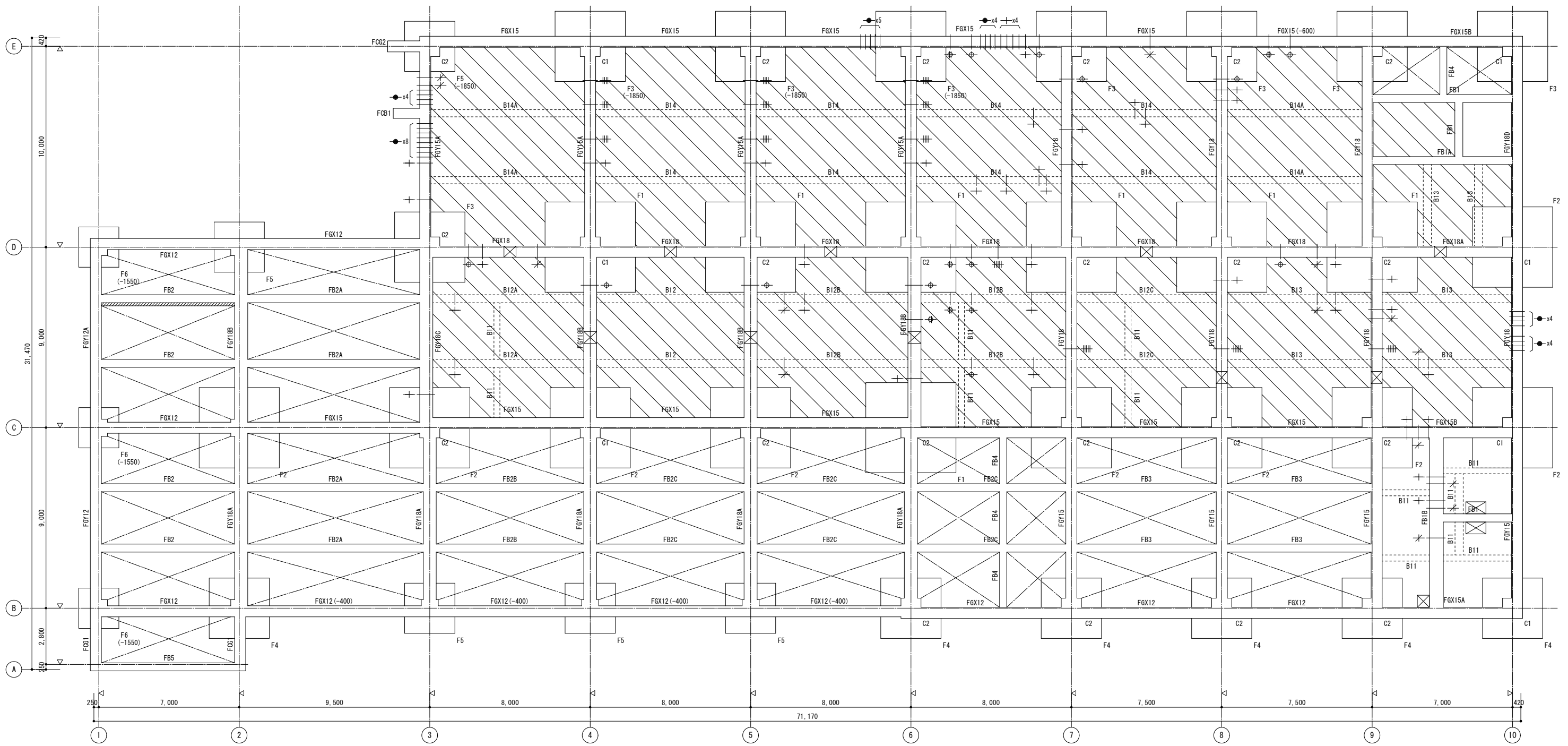
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】階段詳細図(2)

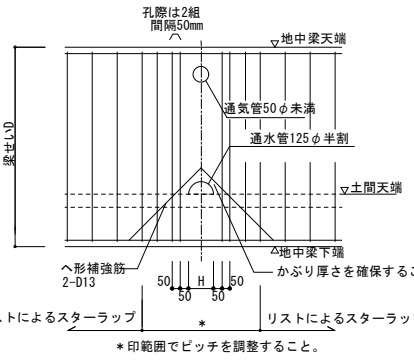
SCALE A1: 1/30
A3: 1/60

DWG No. S
124

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



1階梁貫通補強伏図 1/100



基礎梁の通気管および通水管位置

- 1) 通気管は孔径φを50mm未満とし、通水管は孔径φを125mmの半割りとする。
- 2) 無開口の時に配筋される組数と同組数以上になるように、孔の中心からスターラップのピッチを調整すること。
- 3) 通気管および通水管は上下で同位置に配置することができる。

特記なき限り下記に依る

1. スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管(WU)とする。
2. その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
3. 基礎梁天端レベルはIFL-300とする。
4. ()内数値はIFLからの基礎梁天端レベルを示す。
5. 斜線は砂利ピットを示す。
6. 網線は埋戻を示す。
7. 人通孔φ600を示す。
8. 補強形式は、構造関係共通事項(4) 11.1 梁貫通孔表11.1及び、下表による。
9. 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。

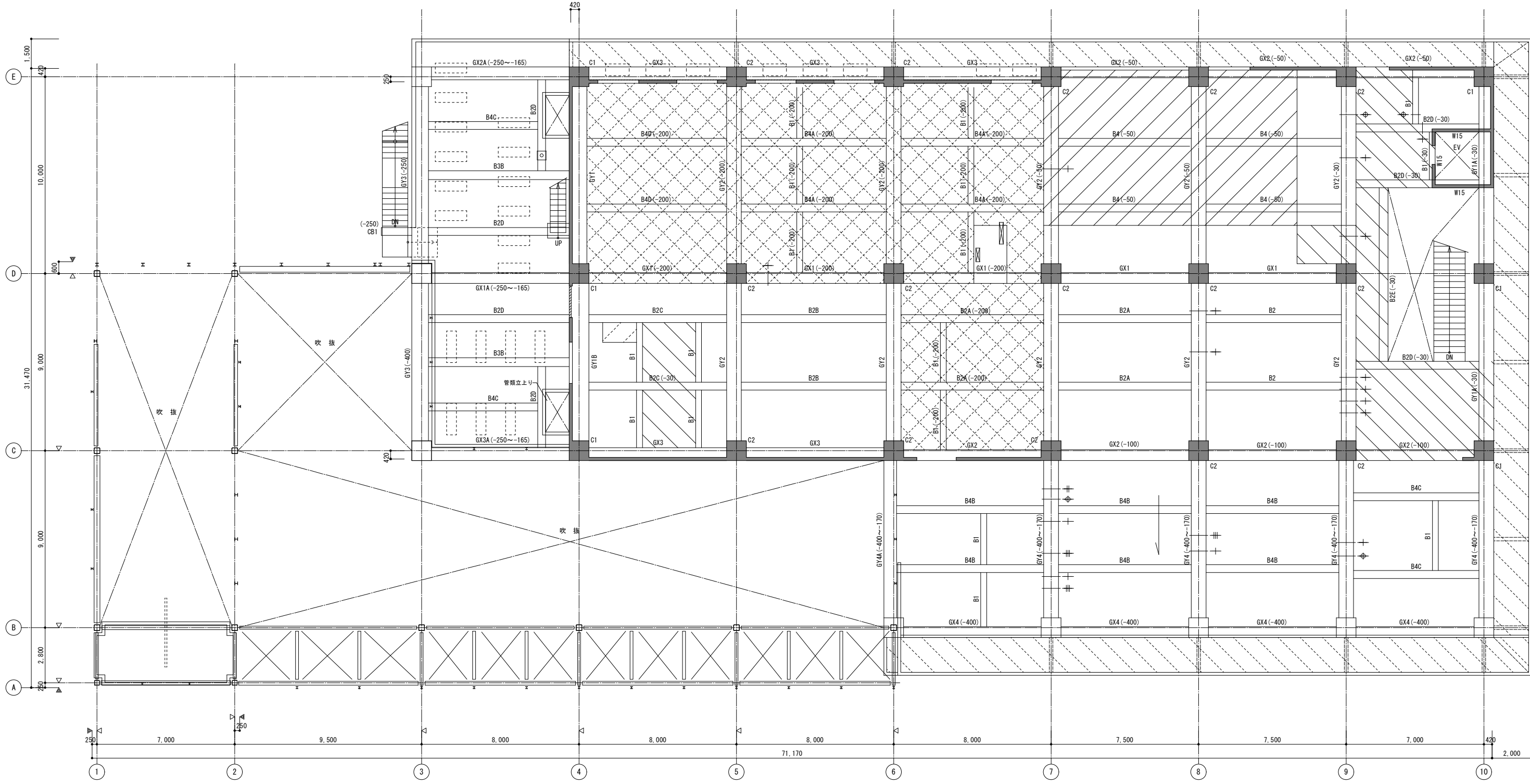
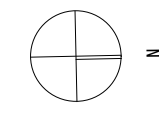
梁貫通補強形式

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H8	4-2-D25	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H9	4-2-D29	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H10	4-2-D32	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

梁貫通補強リスト【庁舎棟】

梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別	梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別	梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別	
FGX15	●	80φ	9	-	FGY15A	●	80φ	12	-	B12A	+	100φ	2	H3	
	+	100φ	5	H4		+	100φ	5	H5		B12B	+	100φ	3	H3
	✳	125φ	1	H4		✳	125φ	2	H5			✳	125φ	2	H3
	⊖	150φ	3	H4		⊖	400φ	9	H8			⊖	150φ	2	H3
⊖	250φ	2	H6	FGY18	●	80φ	8	-	B13	+	250φ	1	H4		
+	100φ	2	H4		+	100φ	7	H6		B14	+	100φ	2	H3	
✳	125φ	1	H4		✳	125φ	1	H6			✳	125φ	2	H2	
⊖	150φ	3	H5		⊖	150φ	2	H6			⊖	100φ	7	H3	
⊖	250φ	1	H6	FGY18B	⊖	500φ	3	H9	FB1B	+	100φ	2	H5		
⊖	500φ	1	H7		+	100φ	1	H6		✳	125φ	3	H6		
人通孔	600φ	4	H8		⊖	150φ	3	H6							
人通孔	600φ	1	H9		⊖	250φ	1	H7							
FGX18A	人通孔	600φ	1	H9	人通孔	600φ	2	H10							
					人通孔	600φ	3	H10							
					+	100φ	1	H6							

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

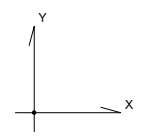


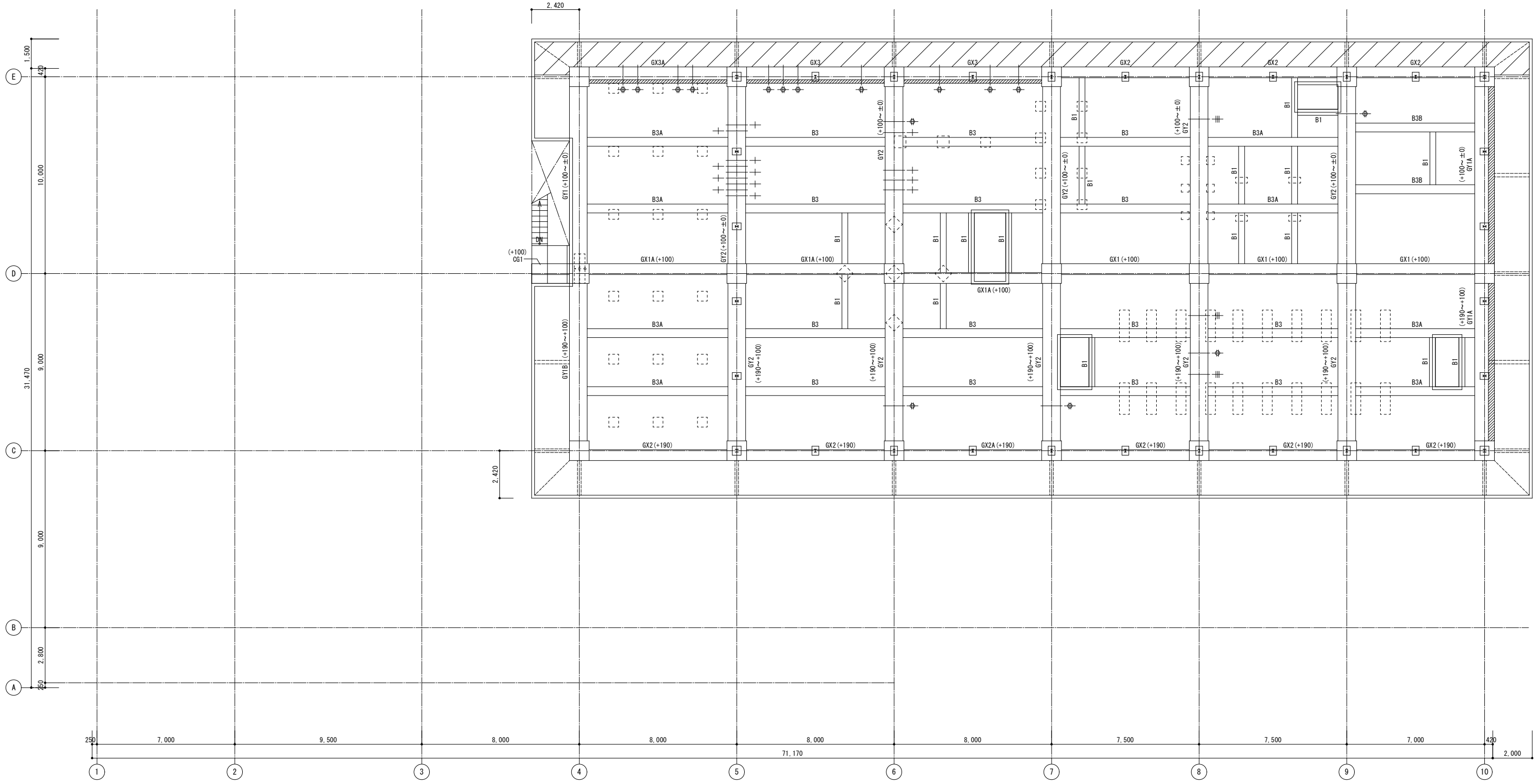
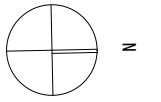
2階梁貫通補強伏図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
1. スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管(VU)とする。
 2. その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
 3. 大梁天端レベルはFL-10とする。
小梁天端=スラブ天端とする。
勾配梁の直行方向に取付く小梁は、水下身=小梁天端とする。
 4. ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 5. スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 6. 補強形式は、構造関係共通事項(4) 11.1 梁貫通孔 表11.1参照。
 7. 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。

梁貫通補強リスト【庁舎棟】

梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別
GX1	+	100φ	1	H3
GX2	+	100φ	9	H6
GY4	+	150φ	1	H6
	+	100φ	4	H6
	+	150φ	2	H6
	+	200φ	1	H6
	+	300φ	3	H7
B1	+	150φ	1	H4
B2D	+	100φ	1	H3



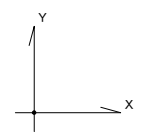


R階梁貫通補強伏図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
- スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管(VV)とする。
 - その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
 - ()内数値はRFLからの梁天端レベルを示す。
 - スラブ天端レベルは水勾配による。
 : FL-50
 - 補強形式は、構造関係共通事項(4) 11.1 梁貫通孔 表11.1参照。
 - 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。

梁貫通補強リスト【庁舎棟】

梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別
GX3	⊕	250φ	7	H7
GX3A	⊕	250φ	4	H7
GY2	+	100φ	13	H5
	⊕	250φ	5	H7
	≡	300φ	3	H7



NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

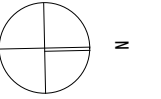
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【庁舎棟】スリーブ図(3)

SCALE A1: 1/100
A3: 1/200

構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号

DWG No. S
127



梁貫通補強リスト【主訓練塔】

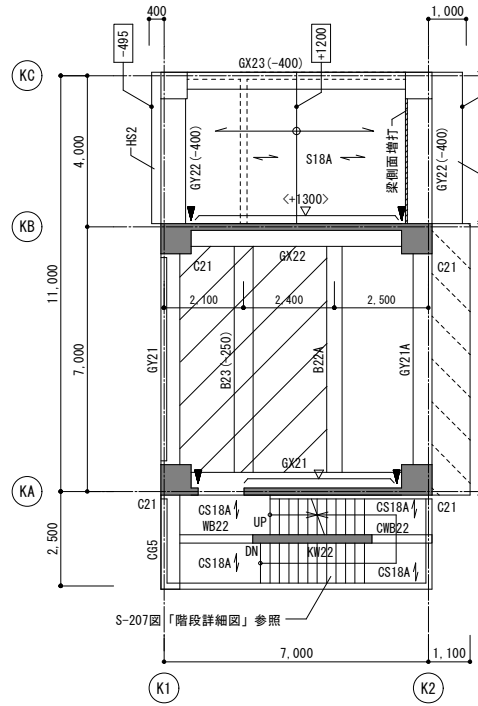
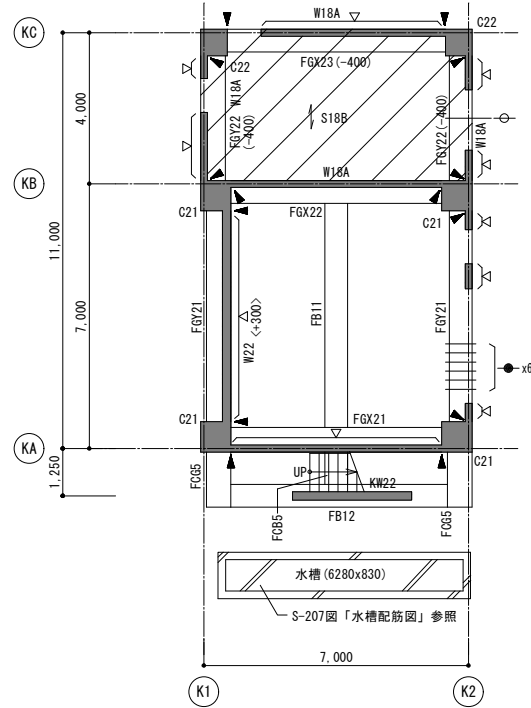
梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別
FGY21A	●	80φ	6	-
FGY22	⊕	150φ	1	H3

特記なき限り下記に依る

- 1FL=設計GL+10
- コンクリート壁はW18を示す。
- 基礎梁天端レベルは1FL-300とする。
- ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ符号はS18とし、主筋方向は→とする。
- ↑ スラブ主筋方向を示す。
- スラブ天端レベルは、FL-10とする。
- 斜線：FL-200
- 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
- 鉛直スリット位置を示す。
- 水平スリット位置を示す。
- < >内数値は、1FLからのスリットレベルを示す。
- スリット位置は軸組図も確認すること。
- 水勾配を示す。
- 印は、土間コンクリート範囲を示す。
- 天端レベルは意匠図による。
- スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管(VU)とする。
- その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
- 補強形式は、構造関係共通事項(4) 11.1 梁貫通孔表11.1参照。
- 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。

1階床梁伏図 1/100

(見下げ図)

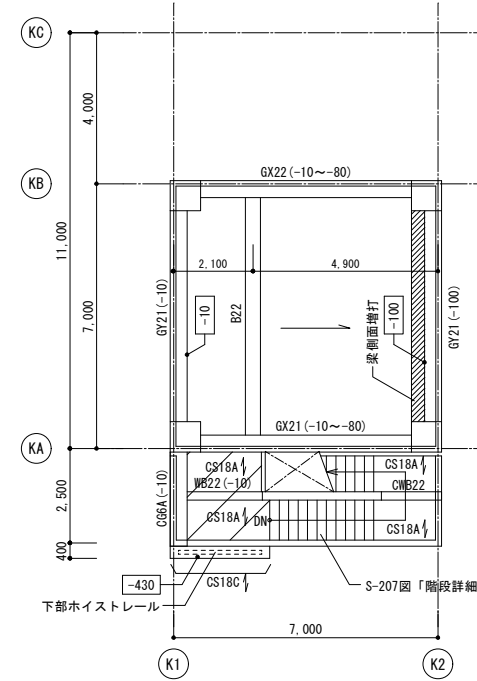


特記なき限り下記に依る

1. コンクリート壁はW18を示す。
- 梁天端レベルはFL-10とする。
- ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ符号はS18とし、主筋方向は→とする。
- ↑ スラブ主筋方向を示す。
- スラブ天端レベルは、FL-10とする。
- 斜線：FL-250
- 斜線：FL-980
- 内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。
- 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
- 鉛直スリット位置を示す。
- 水平スリット位置を示す。
- < >内数値は、FLからのスリットレベルを示す。
- スリット位置は軸組図も確認すること。

3階床梁伏図 1/100

(見下げ図)

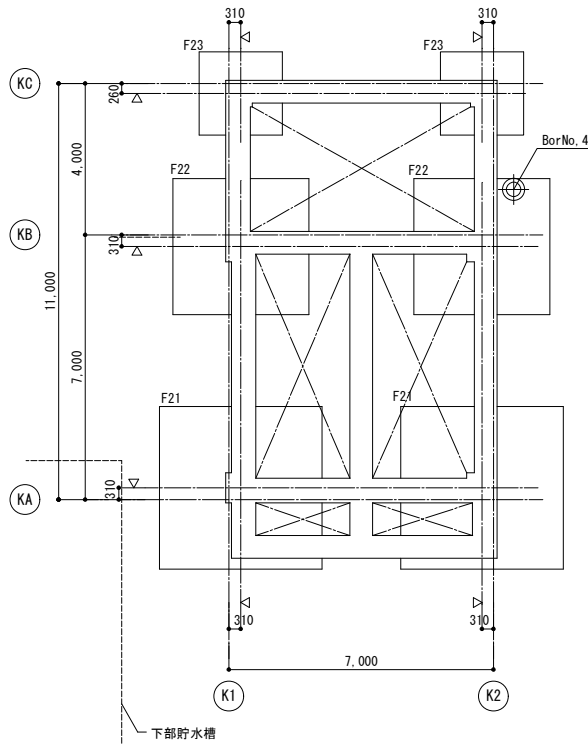


特記なき限り下記に依る

- ()内数値はRFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天端=小梁天端とする。
- スラブ符号はS18とし、主筋方向は→とする。
- ↑ スラブ主筋方向を示す。
- スラブ天端レベルは水勾配による。(躯体勾配)
- スラブ天端レベルはFL-10
- 内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。
- 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
- 水勾配を示す。

屋根伏図 1/100

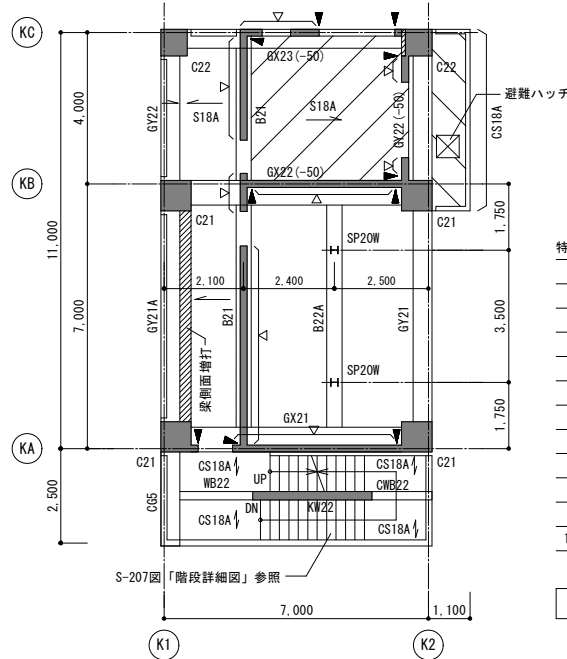
(見下げ図)



特記なき限り下記に依る

- 設計GL=KBM-100
- 基礎下端レベルは設計GL-1940とする。
- ボーリング位置を示す。
- 柱芯=基礎芯を示す。
- 範囲=埋戻しを示す。
- 必要長期許容地耐力 qa=200kN/m²
- 平板載荷試験を実施する(1箇所)位置は監理者と協議の上、決定すること。
- 各基礎位置で試験掘りを行い、N値25以上の流紋岩又は強風化流紋岩層を支持層とすること。

基礎伏図 1/100

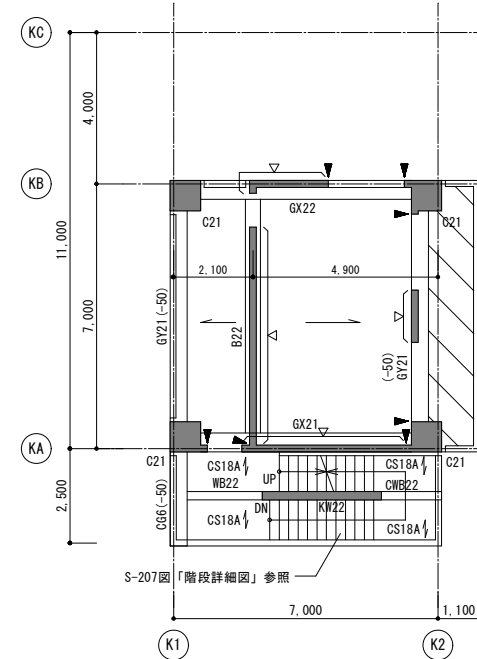


特記なき限り下記に依る

1. コンクリート壁はW18を示す。
- 梁天端レベルはFL-10とする。
- ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ符号はS18とし、主筋方向は→とする。
- ↑ スラブ主筋方向を示す。
- スラブ天端レベルは、FL-10とする。
- 斜線：FL-50
- 斜線：FL-100
- 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
- 鉛直スリット位置を示す。
- 水平スリット位置を示す。
- スリット位置は軸組図も確認すること。

2階床梁伏図 1/100

(見下げ図)



特記なき限り下記に依る

1. コンクリート壁はW18を示す。
- 梁天端レベルはFL-10とする。
- ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ符号はS18とし、主筋方向は→とする。
- ↑ スラブ主筋方向を示す。
- スラブ天端レベルは、FL-10とする。
- 斜線：FL-100
- 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
- 鉛直スリット位置を示す。
- 水平スリット位置を示す。
- スリット位置は軸組図も確認すること。

4階床梁伏図 1/100

(見下げ図)

NOTE

株式会社 あい設計

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第454号

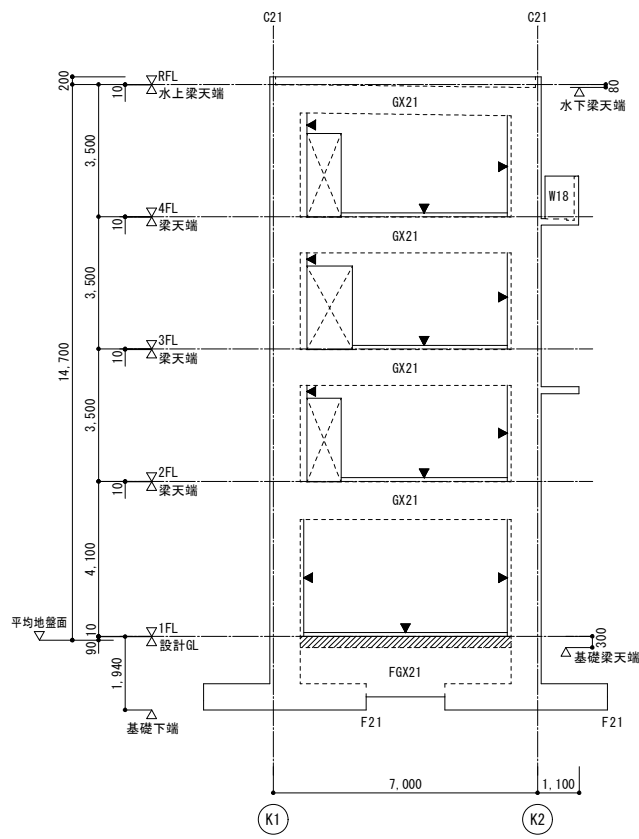
備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【主訓練塔】伏図

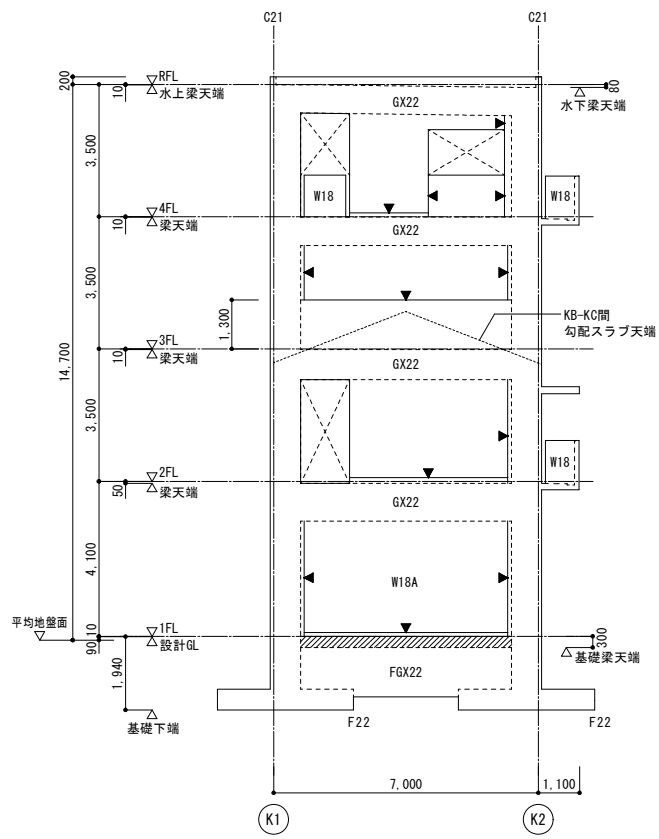
構造設計者	前田 隆志
一級建築士 第287803号	
構造設計一級建築士 第7297号	

SCALE A1: 1/100 A3: 1/200

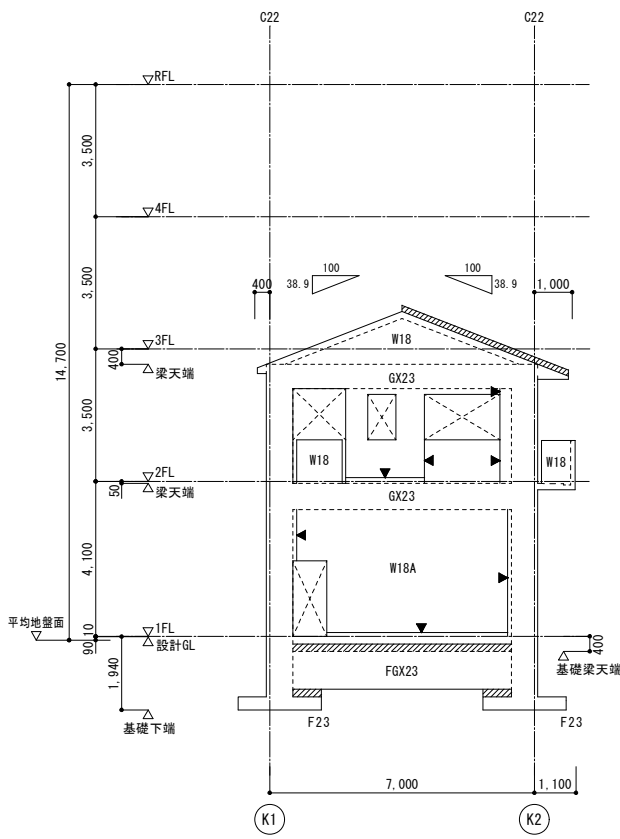
201



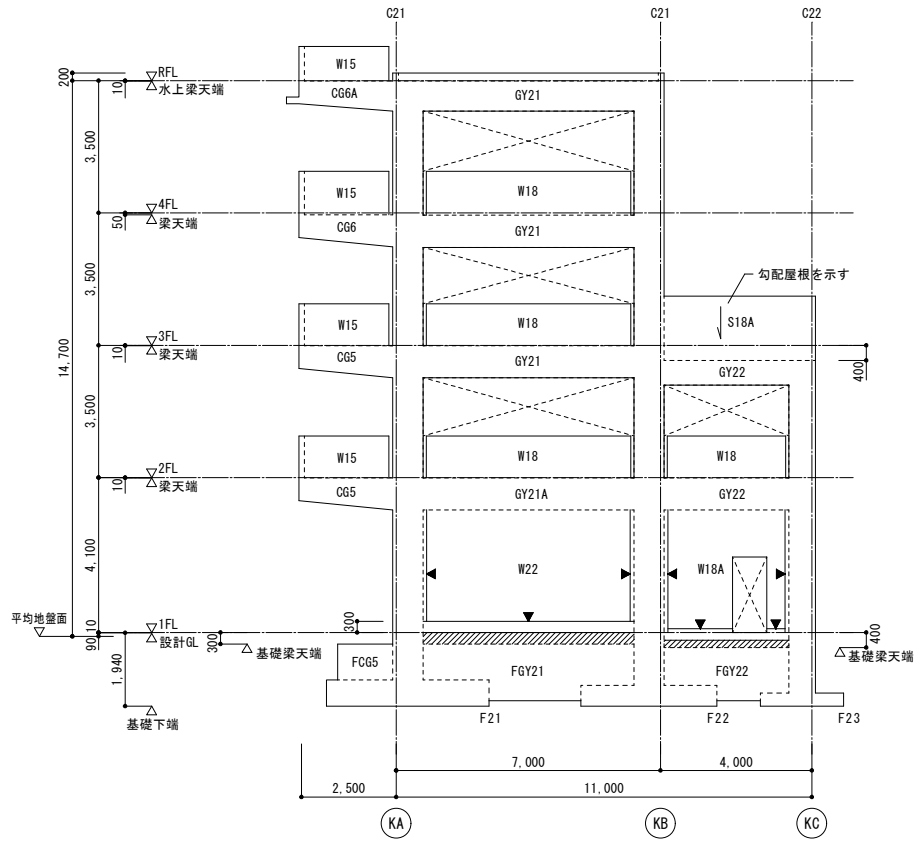
KA通り軸組図 1/100



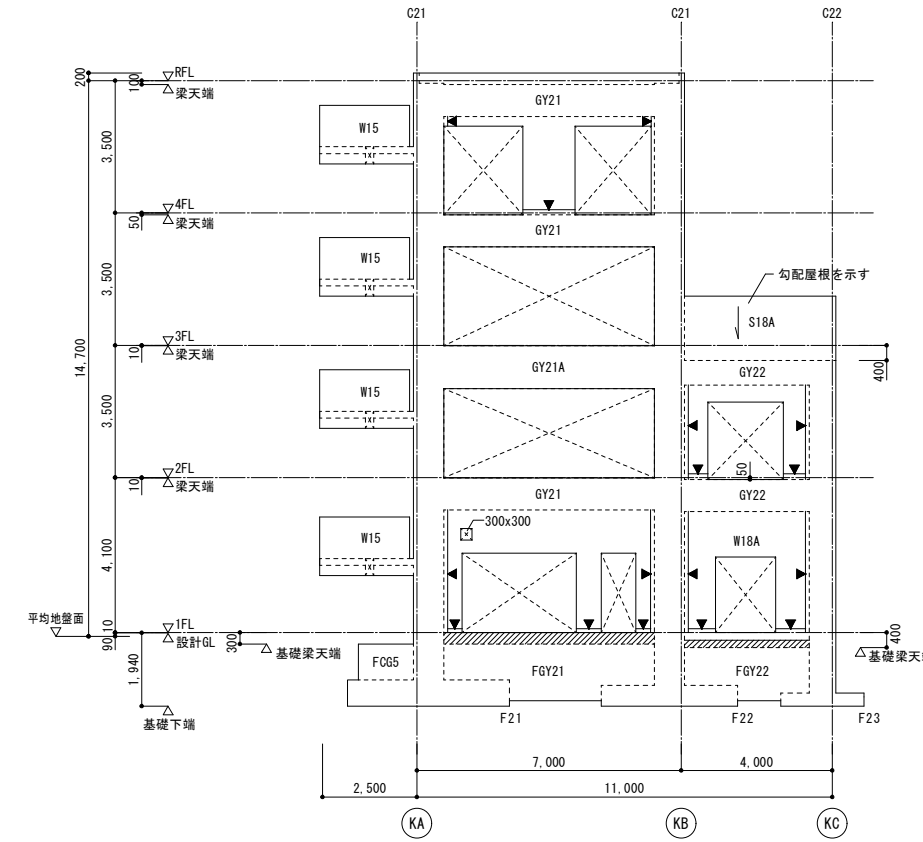
KB通り軸組図 1/100



KC通り軸組図 1/100

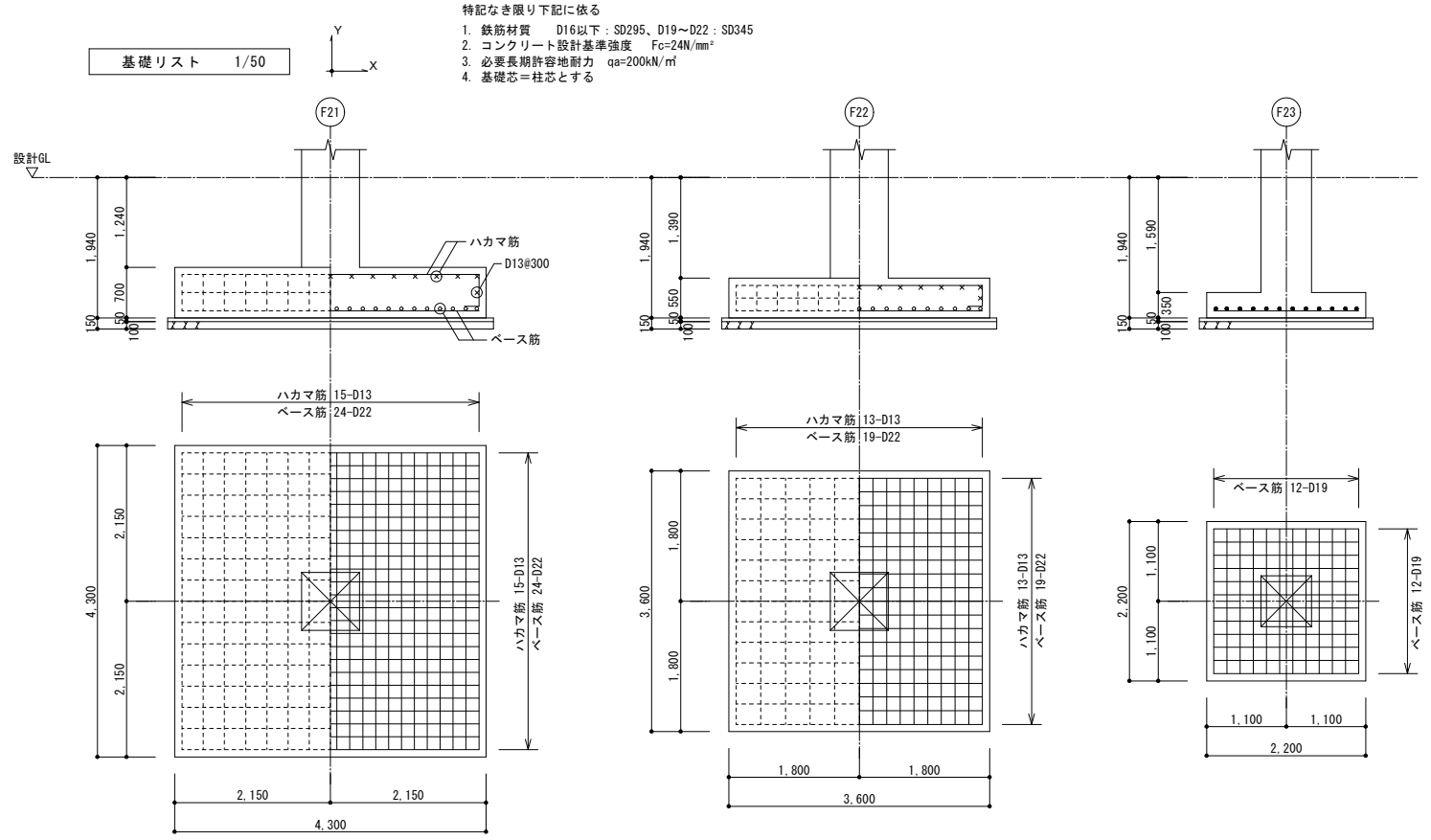


K1通り軸組図 1/100



K2通り軸組図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
1. 壁符号はW18を示す。
 2. 構造完全スリット位置を示す。
 3. スリット位置は伏図も確認すること。
 4. 斜線範囲は増打を示す。



基礎梁リスト 1/50

特記なき限り下記に依る

- 鉄筋材質 D16以下: SD295, D19~D22: SD345
- コンクリート設計基準強度 $F_c=24\text{N/mm}^2$
- 幅止筋は、D10@1000以内とする。
- カットオフ長は $L_o/4+15d$ とする。
- < >内数値はカットオフ長さを示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは上記4.による。向、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

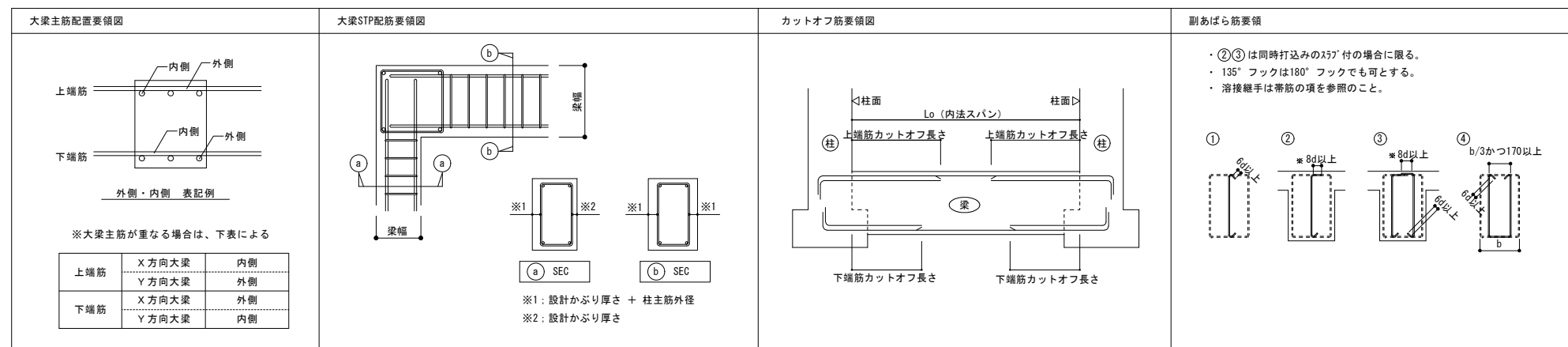
符号	FGX21		FGX22		FGX23	FGY21			FGY22		
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	KA端	中央	KB端	KB端	中央	KC端
断面											
BxD	650x1300		600x1300		600x1000	650x1500			600x1400		
上端筋	11-D22	7-D22	11-D22	6-D22	6-D22	13-D22	13-D22	7-D22	6-D22	10-D22	10-D22
下端筋	14-D22	14-D22	7-D22	6-D22	6-D22	7-D22	7-D22	7-D22	6-D22	6-D22	6-D22
STP	(2) □-D13 #150		(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	(3) □-D13 #200			(2) □-D13 #200		
腹筋	4-D13		4-D13		2-D13	6-D13			4-D13		

基礎小梁リスト 1/50

特記なき限り下記に依る

- 鉄筋材質 D16以下: SD295, D19~D22: SD345
- 幅止筋は、D10@1000以内とする。

符号	FB11		FB12	FCB5		FCG5		
位置	KA端	中央	KB端	全断面	先端	元端	先端	元端
断面								
BxD	600x1300		600x1300	600x1300	600x1300		650x1500	
上端筋	10-D22	6-D22	6-D22	7-D22	6-D22	12-D22	7-D22	13-D22
下端筋	6-D22	6-D22	6-D22	12-D22	6-D22	6-D22	7-D22	7-D22
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	(2) □-D13 #200	(2) □-D13 #200		(3) □-D13 #200	
腹筋	4-D13		4-D13	4-D13	4-D13		6-D13	

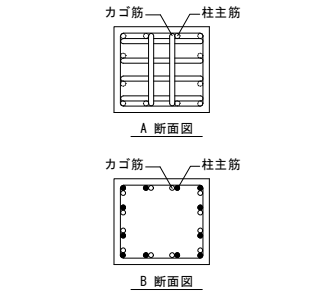
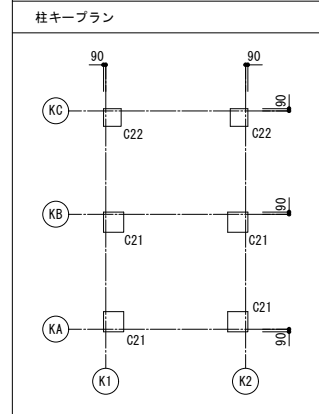
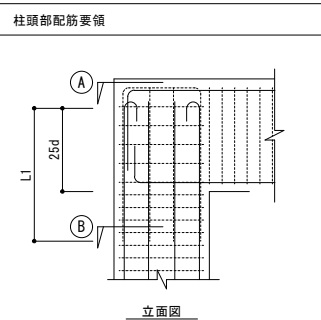
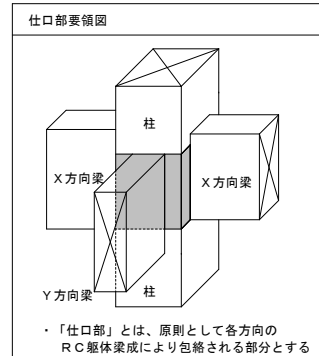


柱リスト 1/30



特記なき限り下記による
 1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D22: SD345
 2. コンクリート設計基準強度 Fc=24N/mm²

階	符号	C21	C22
4FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 #100	
	断面		
	BxD	800x800	
	主筋	20-D22	
3FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 #100	
	断面		
	BxD	800x800	
	主筋	20-D22	
2FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 #100	(2-2) □-D13 #100
	断面		
	BxD	800x800	700x700
	主筋	20-D22	16-D22
1FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 #100	(2-2) □-D13 #100
	断面		
	BxD	800x800	700x700
	主筋	24-D22	16-D22



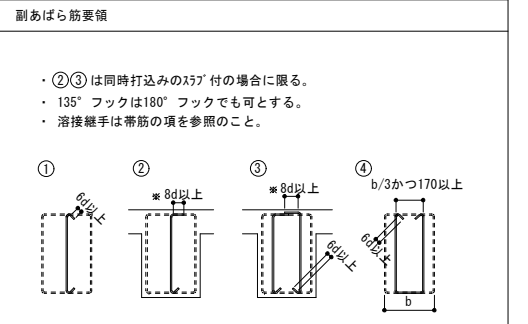
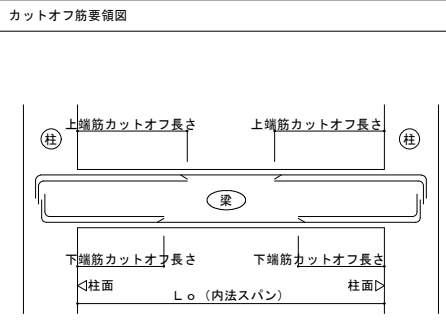
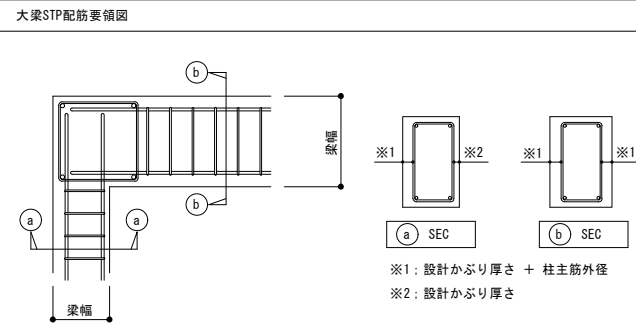
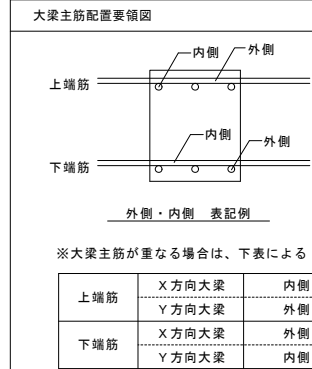
柱頭主筋が、構造関係共通事項(2)「6.1柱(a)(2)」に示すL2が確保できない場合は、カゴ筋を柱主筋と同径・同本数とする。確保できる場合は、カゴ筋径をD13としてもよい。

大梁リスト 1/30

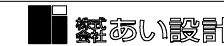
特記なき限り下記による

1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D22: SD345
 2. コンクリート設計基準強度 Fc=24N/mm²
 3. 幅止筋は、D10#1,000以内とする。
 4. カットオフ長は L_o/4+15d とする。
 5. < >内数値はカットオフ長を示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは左記4.による。尚、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

階	符号	GX21	GX22	GX23	GY21	GY21A	GY22
RFL	位置	両端 中央	両端 中央		KA端 中央 KB端		
	断面						
	BxD	450x750	450x750		450x800		
	上端筋	6-D22 4-D22	6-D22 4-D22		7-D22 4-D22		
4FL	位置	両端 中央	両端 中央		KA端 中央 KB端		
	断面						
	BxD	500x950	500x750		450x850		
	上端筋	9-D22 5-D22	9-D22 5-D22		7-D22 4-D22		
3FL	位置	両端 中央	両端 中央	両端 中央	KA端 中央 KB端	両端 中央	全断面
	断面						
	BxD	600x950	600x800	450x650	500x850	500x1150	650x650
	上端筋	11-D22 6-D22	11-D22 6-D22	5-D22 4-D22	7-D22 5-D22	6-D22 5-D22	7-D22
2FL	位置	両端 中央	両端 中央	両端 中央	KA端 中央 KB端	KA端 中央 KB端	両端 中央
	断面						
	BxD	650x1000	650x1000	500x700	500x850	500x850	500x850
	上端筋	13-D22 7-D22	13-D22 7-D22	8-D22 5-D22	6-D22 5-D22	9-D22 5-D22	7-D22 5-D22



NOTE



株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

DWG No

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

【主訓練塔】柱リスト、大梁リスト

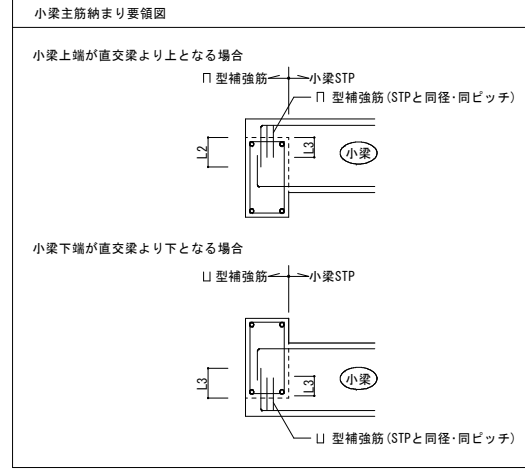
SCALE A1: 1/30 A3: 1/60

204

構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号

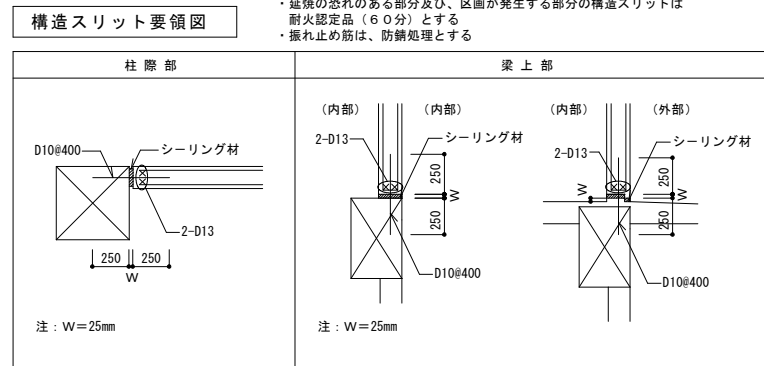
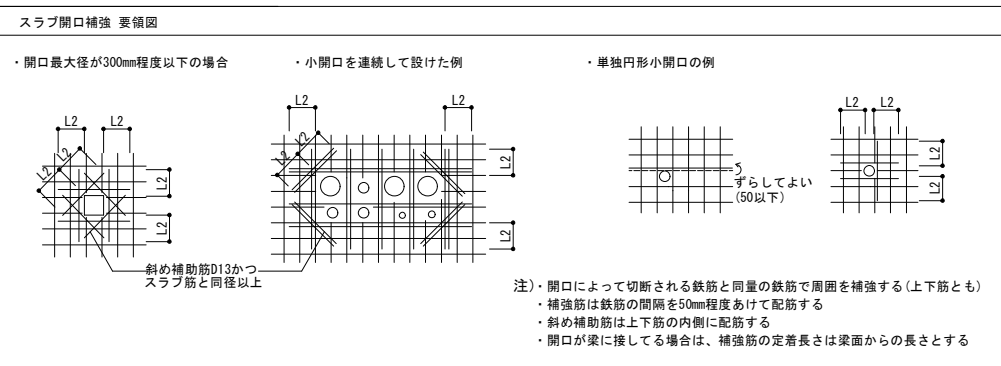
小梁リスト 1/30
 特記なき限り下記による
 1. 鉄筋材質 D16以下:SD295 D19~D22:SD345
 2. 幅止筋は、D10@1,000以内とする。

符号	B21		B22		B22A		B23		CG5		CG6		CG6A		WB22	CWB22	
	他端・中央	KB端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	元端	先端	元端	先端	元端	先端	全断面	元端	先端
断面																	
BxD	400x600		400x600		400x600		500x550		500x850	500x600	450x850	450x600	450x800	450x600	220x600	220x650	220x450
上端筋	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	5-D19	5-D19	9-D22	5-D22	7-D22	4-D22	7-D22	4-D22	2-D19	4-D19	2-D19
下端筋	4-D19	4-D19	4-D19	8-D19	4-D19	6-D19	5-D19	7-D19	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	2-D19	2-D19	2-D19
STP	(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D13 @200		(2) □-D10 @200	(2) □-D10 @200	(2) □-D10 @200
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		-		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	-



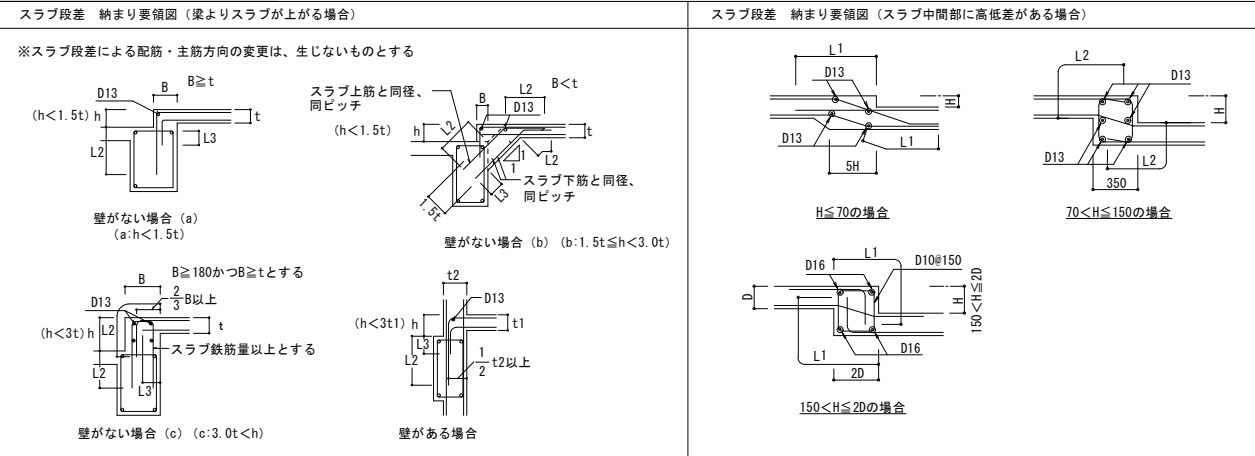
壁リスト 1/30
 特記なき限り下記による
 1. D:ダブル S:シングル チ:チドリ
 2. 壁筋の配筋順序は規定しないが、柱・梁主筋との干渉を考慮し、過大なかぶり等が生じないように配筋すること

符号	W15	W18	W18A	W22	KW22
壁厚	150	180	180	220	220
鉛直断面					
縦筋	D10@200(チ)	D13@200(D)	D13@100(D)	D13@200(D)	D13@200(D)
横筋	D10@200(チ)	D13@200(D)	D13@100(D)	D13@200(D)	D13@200(D)
開口補強筋	縦	2-D13	2-D13	2-D13	---
	横	2-D13	2-D13	2-D13	---
端部縦補強筋※1	縦	1-D13	1-D13	1-D13	---
	横	---	---	---	---
隅角部縦補強筋※2	4-D13	4-D13	4-D13	---	---
幅止筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000



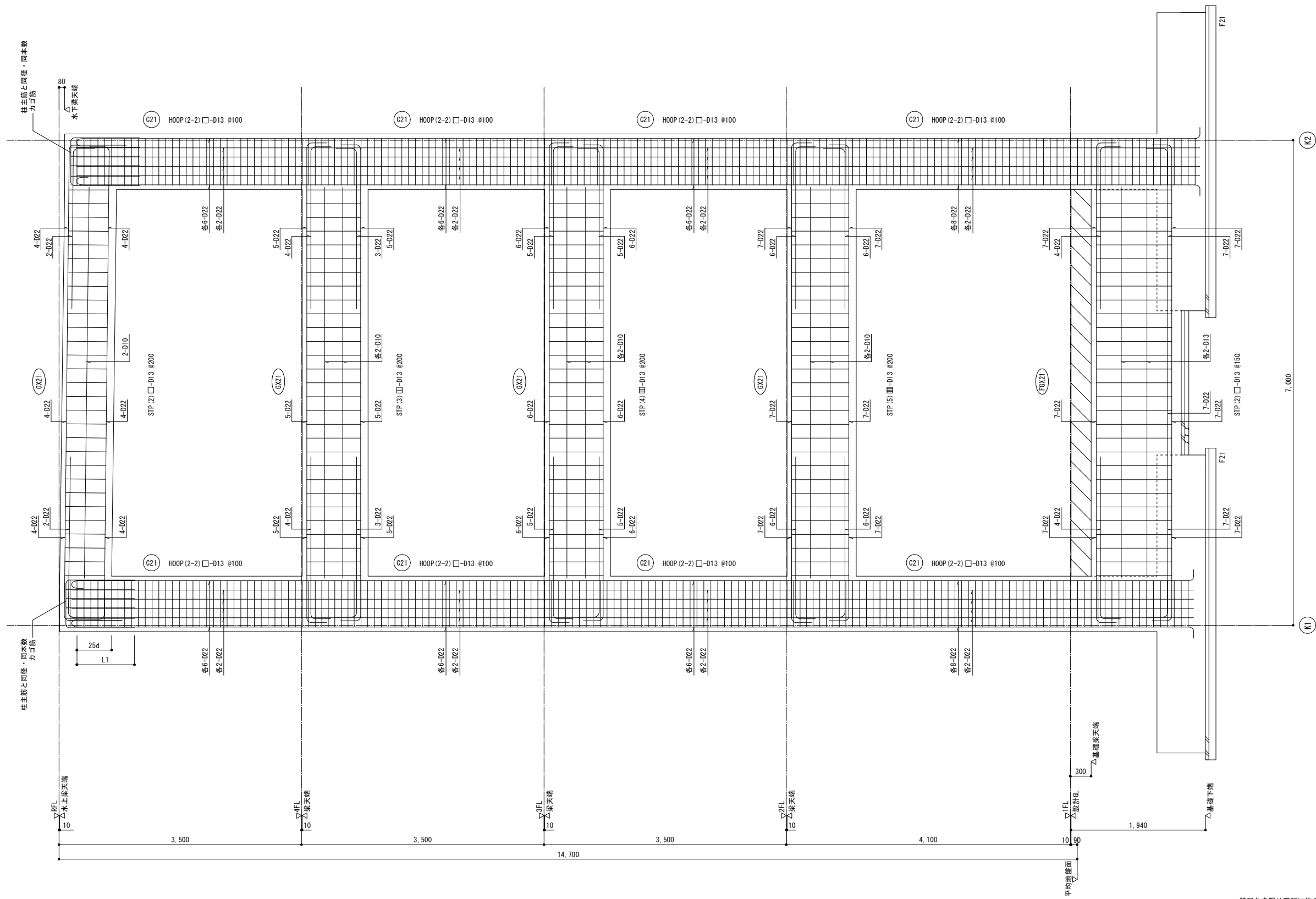
スラブリスト
 特記なき限り下記による
 1. 地床は、捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60とする

符号	厚さ	位置	短辺方向配筋		長辺方向配筋		備考
			元端	先端	短辺	長辺	
S18	180	上	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
		下	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
S18A	180	上	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	
		下	D13@150	D10@150	D13@150	D10@150	
S18B	180	上	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	
		下	D10@150	D10@150	D10@150	D10@150	
CS18A	180	上	D13@100	D10@200	D13@100	D10@200	
		下	D10@100	D10@200	D10@100	D10@200	
CS18C	180	上	D13@200	D10@200	D13@200	D10@200	
		下	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	



鉄骨間柱リスト 1/30
 特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質 H形鋼:SN400A
 2. ベースプレート: SN400B, アンカーボルト: SNR400B
 3. 鋼材は溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。

符号	SP20W
部材	H-200x200x8x12
接合部	GPL-9 HTB 2-M20
柱脚	
ベースプレート	BPL-12x250x250
アンカーボルト	2-M20 L=700 ダブルナット締めフック付
備考	レンジャーネット用支柱



- 特記なき限り下記に依る
- 仕口部フープは、柱リストによる。
 - 端部カットオフ長さは、大梁リストによる。

構造設計者	前田 隆志
一級建築士 第 287803 号	
構造設計一級建築士 第 7297 号	

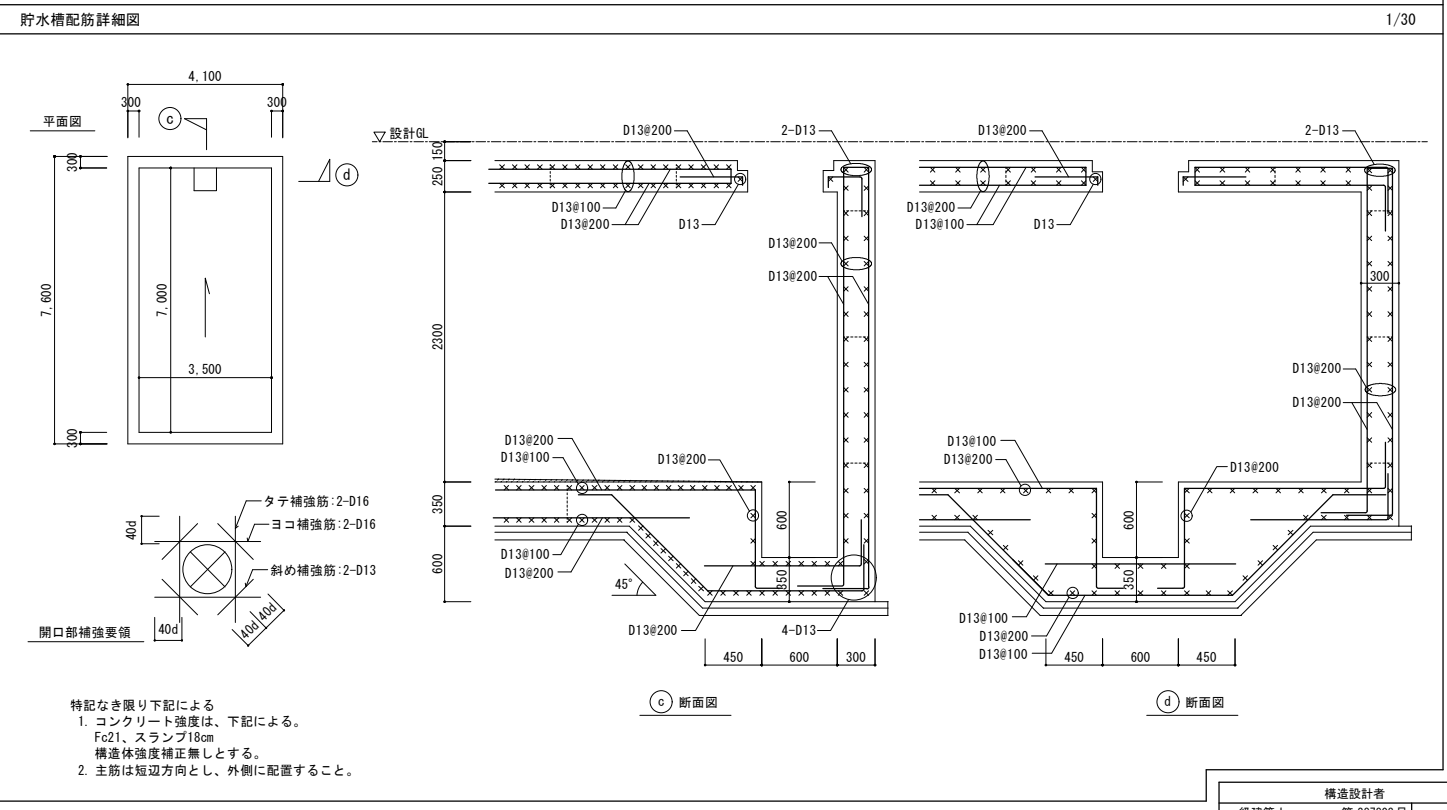
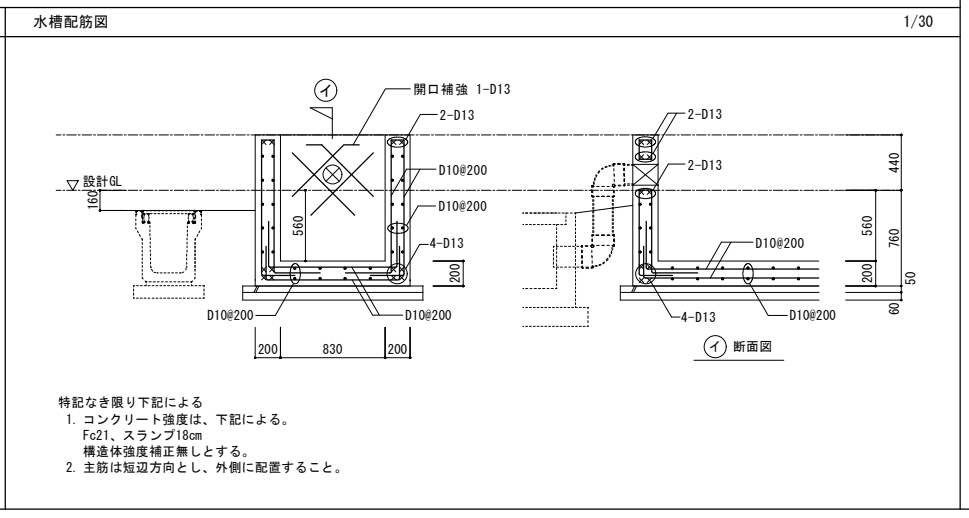
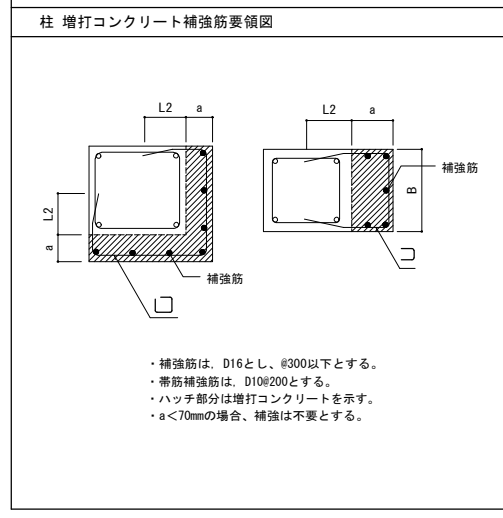
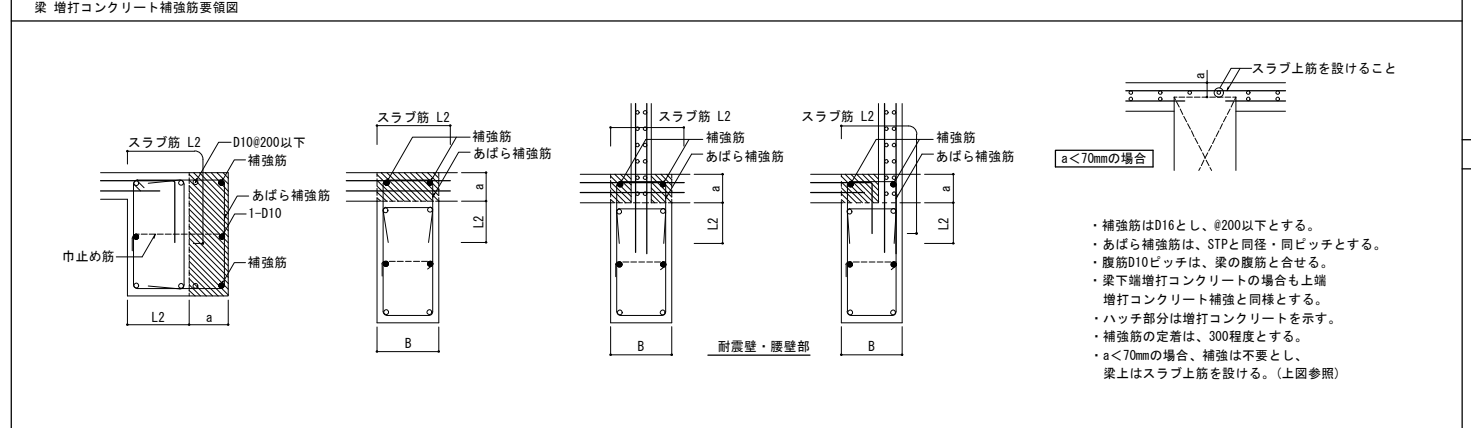
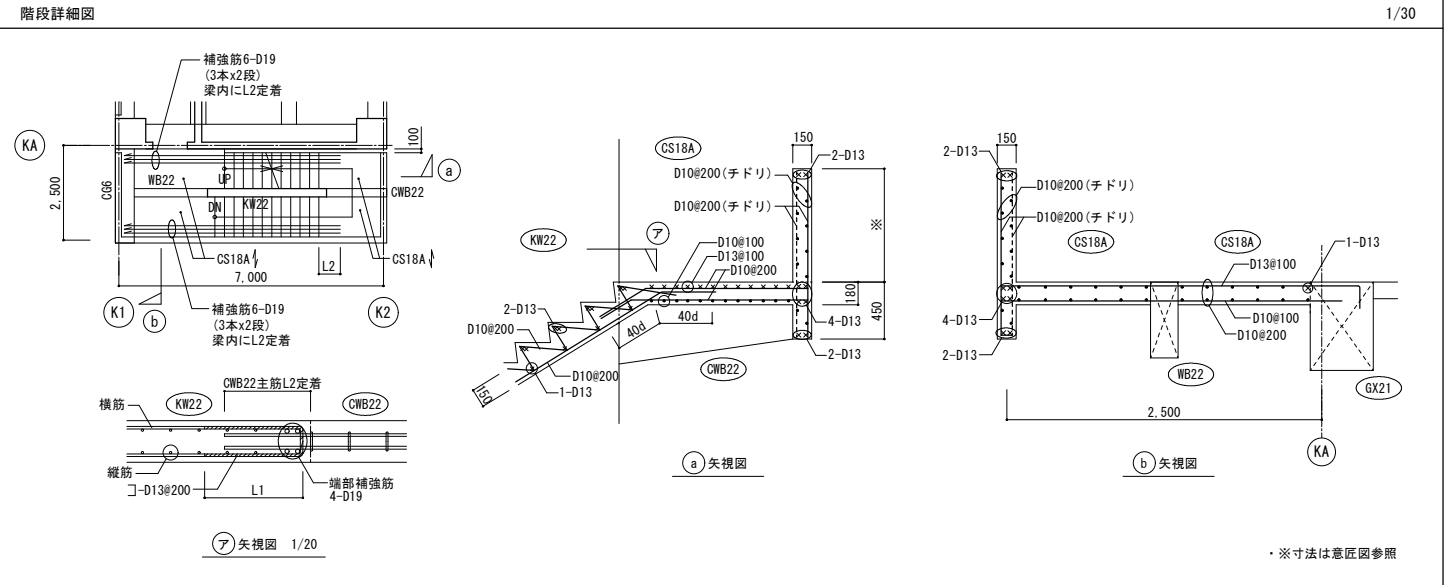
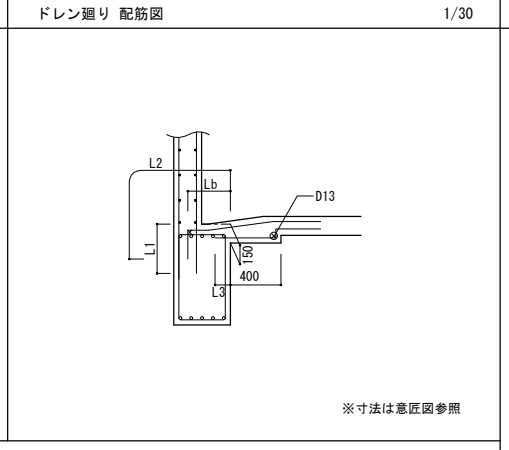
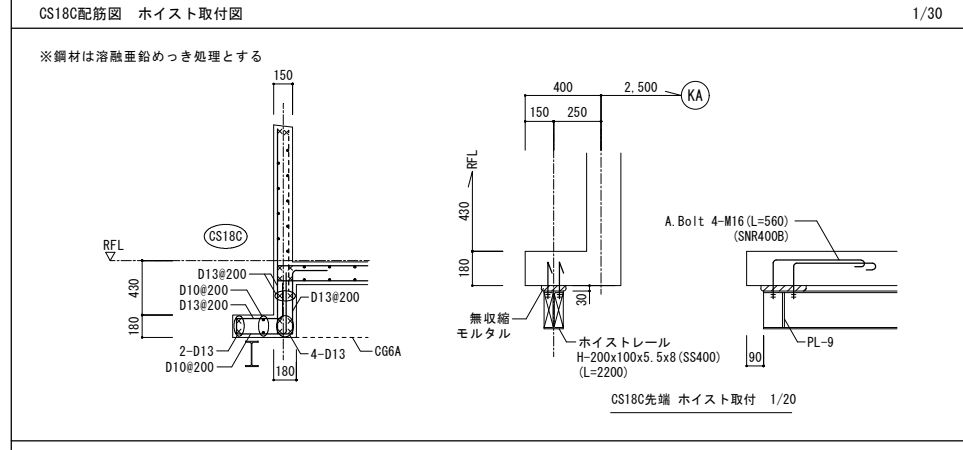
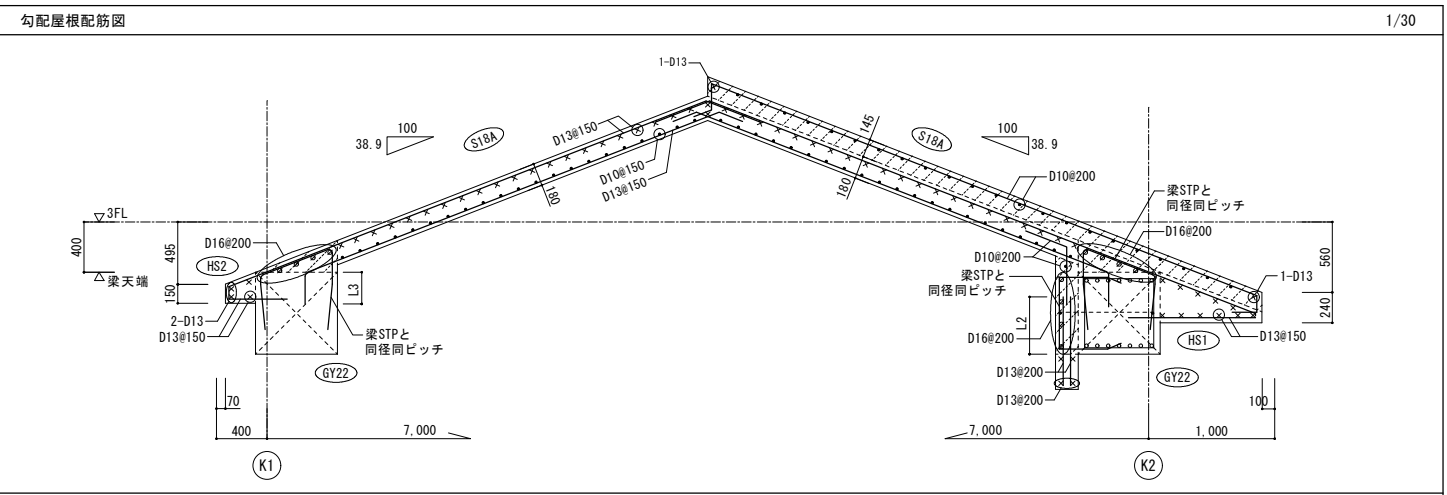
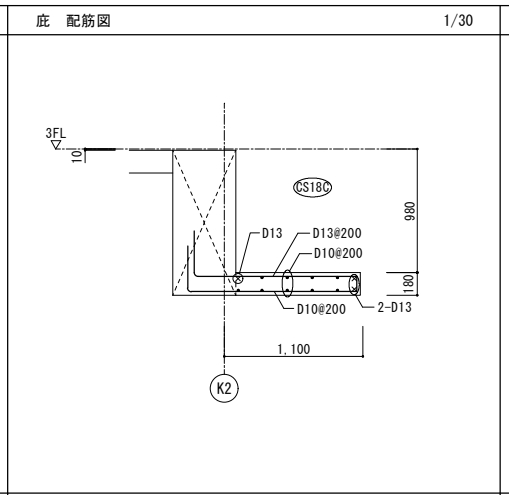
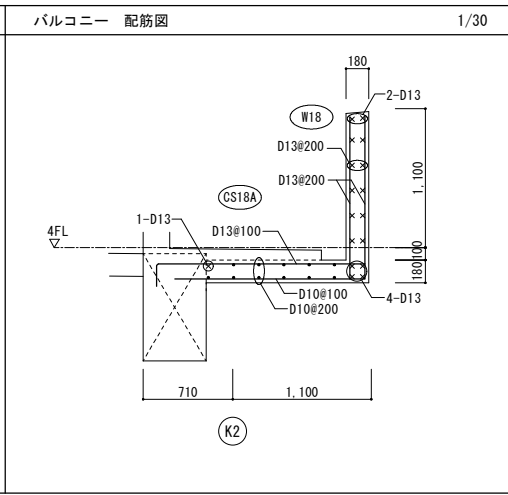
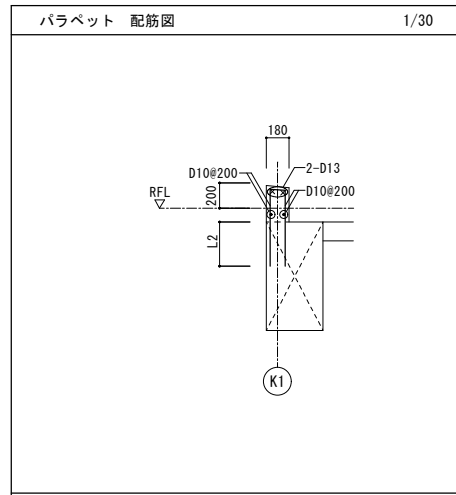
NOTE	
一級建築士 第340646号	佐藤 彰洋

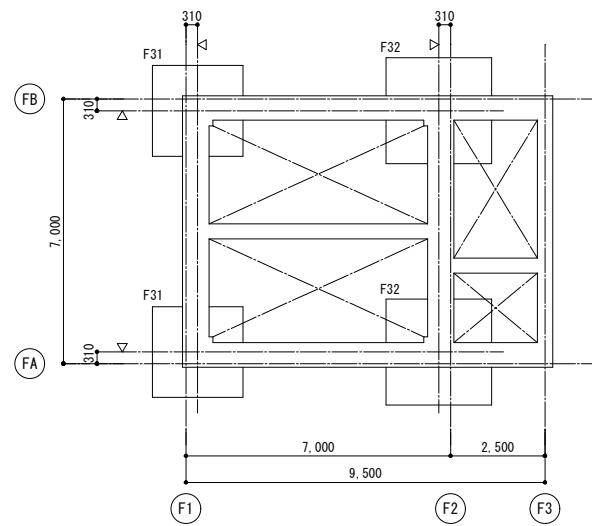
株式会社 あい設計	一級建築士事務所 広島県知事登録 23 (1) 第4544号
一級建築士 第340646号	佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)
【主訓練塔】架構詳細図

DWG No	S
SCALE	A1 : 1/30 A3 : 1/60
206	

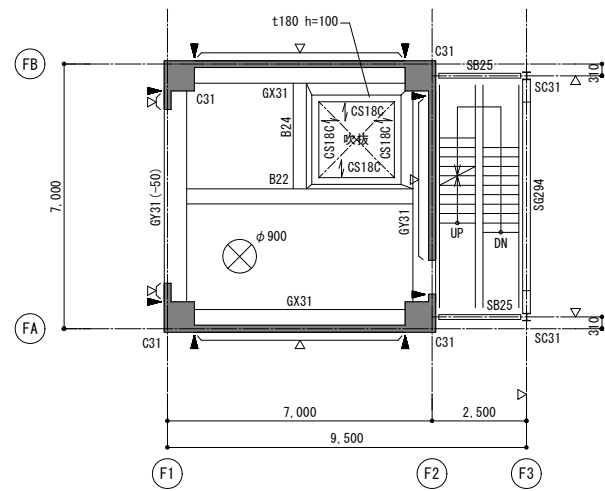
KA通り梁構詳細図 1/30





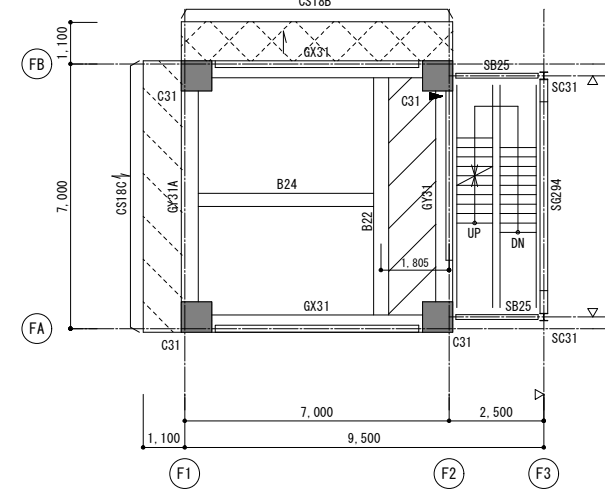
基礎伏図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
- 基礎下端レベルは設計GL-4640とする。
 - 柱芯=基礎芯を示す。
 - 範囲は埋戻を示す。



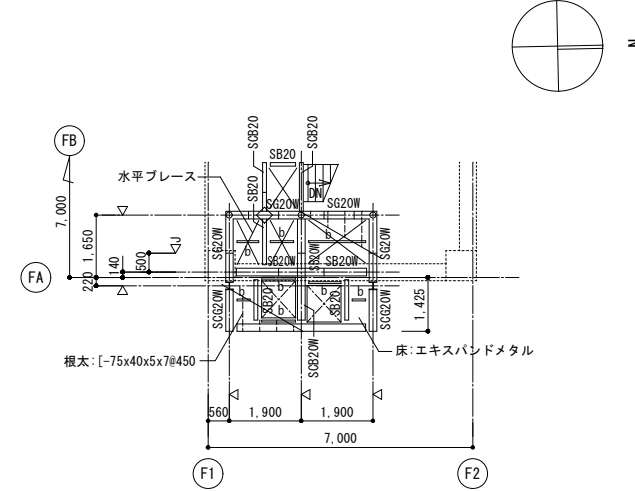
2階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
- コンクリート壁はW18を示す。
 - 梁天端レベルはFL-10とする。
 - ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 - スラブ符号は S18 とし、主筋方向は \swarrow とする。
 - スラブ主筋方向を示す。
 - スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 - 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 - 鉛直スリット位置を示す。
 - 水平スリット位置を示す。
 - スリット位置は軸組図も確認すること。
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 継手位置は、柱芯より700とする。
 - 梁レベルは、軸組図及び意匠図参照。
 - 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 柱芯位置を示す。



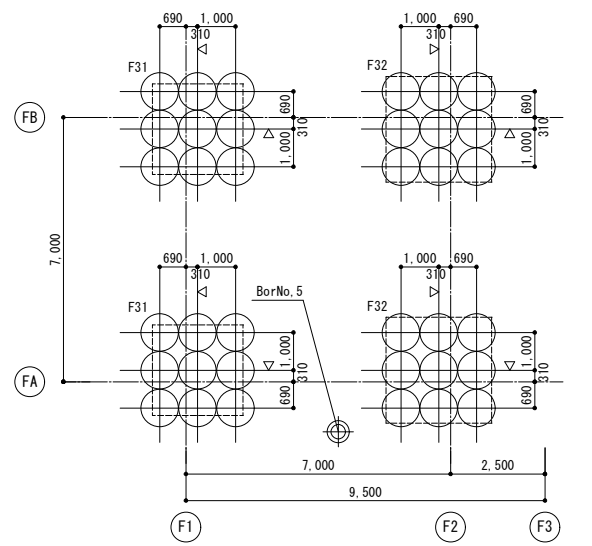
4階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
- コンクリート壁はW18を示す。
 - 梁天端レベルはFL-10とする。
 - スラブ符号は S18 とし、主筋方向は \swarrow とする。
 - スラブ主筋方向を示す。
 - スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 - 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 - 鉛直スリット位置を示す。
 - 水平スリット位置を示す。
 - スリット位置は軸組図も確認すること。
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 継手位置は、柱芯より700とする。
 - 梁レベルは、軸組図及び意匠図参照。
 - 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 柱芯位置を示す。



RFL+1950伏図 1/100 (見下げ図)

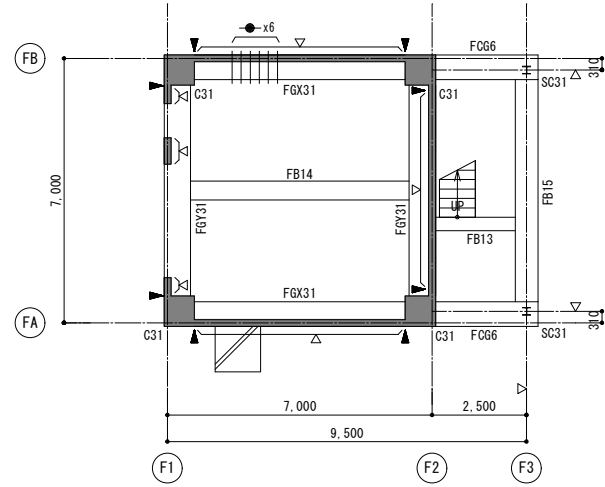
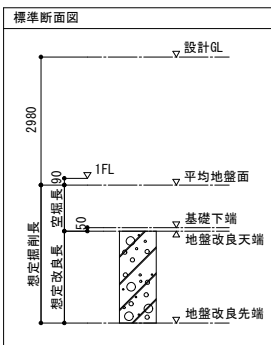
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 継手位置は、柱芯より600とする。
 - 梁天端レベルは、RFL+1950とする。
 - 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 剛接合を示す。取付く梁芯より600とする。



地盤改良伏図 1/100

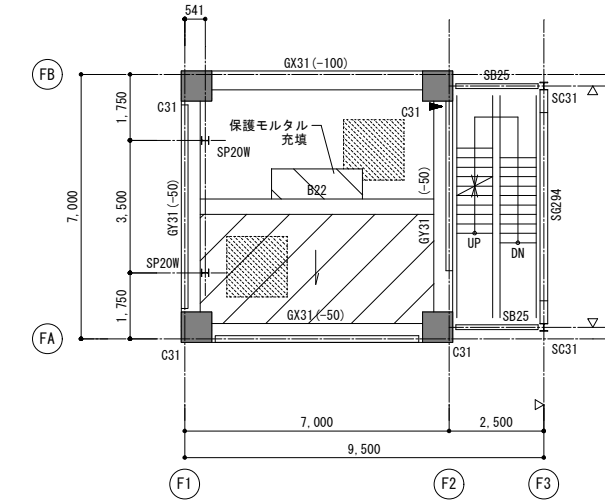
- 特記なき限り下記に依る
- 設計GL=KBM-100
 - ボーリング位置を示す。
 - 基礎芯を示す。
 - 改良体天端レベルは設計GL-4690とする。
 - 改良体先端レベルは設計GL-9160とする。
 - 支持層はN値50以上の流紋岩又は(強)風化流紋岩層とする。

記号	改良径	掘削長 (設計GLより)	本数
○	φ1000	図示	36



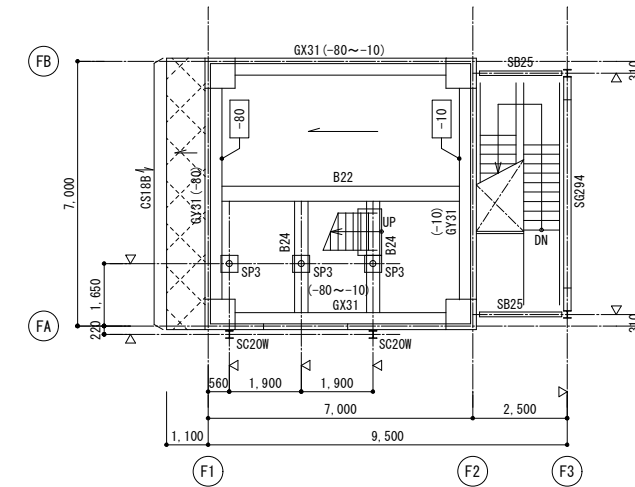
1階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
- 1FL=設計GL-2980
 - コンクリート壁はW18を示す。
 - 基礎梁天端レベルは1FL-300とする。
 - スラブ符号は S18 とし、主筋方向は \swarrow とする。
 - スラブ主筋方向を示す。
 - スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 - 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 - 鉛直スリット位置を示す。
 - 水平スリット位置を示す。
 - スリット位置は軸組図も確認すること。
 - 水勾配を示す。
 - 床開口を示す。
 - 印は、土間コンクリート範囲を示す。
 - スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管 (VU) とする。
 - その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 柱芯位置を示す。
- 梁貫通補強リスト【副訓練塔】
- | 梁符号 | 記号 | 貫通孔径 | 個数 | 配筋種別 |
|-------|----|------|----|------|
| FGX31 | ● | 80φ | 6 | - |
- 補強形式は、構造関係共通事項 (4) 11.1 梁貫通孔 表11.1参照。
- 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。



3階床梁伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
- コンクリート壁はW18を示す。
 - 梁天端レベルはFL-10とする。
 - ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 - スラブ符号は S18 とし、主筋方向は \swarrow とする。
 - スラブ天端レベルは、FL-10とする。
 - 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 - 鉛直スリット位置を示す。
 - 水平スリット位置を示す。
 - スリット位置は軸組図も確認すること。
 - スラブ下端打囲範囲を示す。
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 継手位置は、柱芯より700とする。
 - 梁レベルは、軸組図及び意匠図参照。
 - 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 柱芯位置を示す。



屋根伏図 1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る 【RC範囲】
- ()内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
 - スラブ天端=小梁天端とする。
 - スラブ符号は S18 とし、主筋方向は \swarrow とする。
 - スラブ主筋方向を示す。
 - スラブ天端レベルは水勾配による。(躯体勾配)
 - スラブ天端レベル \swarrow : FL-600 (水上)
 - 内数値はFLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 - 水勾配を示す。
- 特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】
- 継手位置は、柱芯より700とする。
 - 梁レベルは、軸組図及び意匠図参照。
 - 鋼材は、溶融垂れめつき処理とする。
 - 柱芯位置を示す。

NOTE

株式会社 あい設計

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23 (1) 第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事 (建築)

FIG No

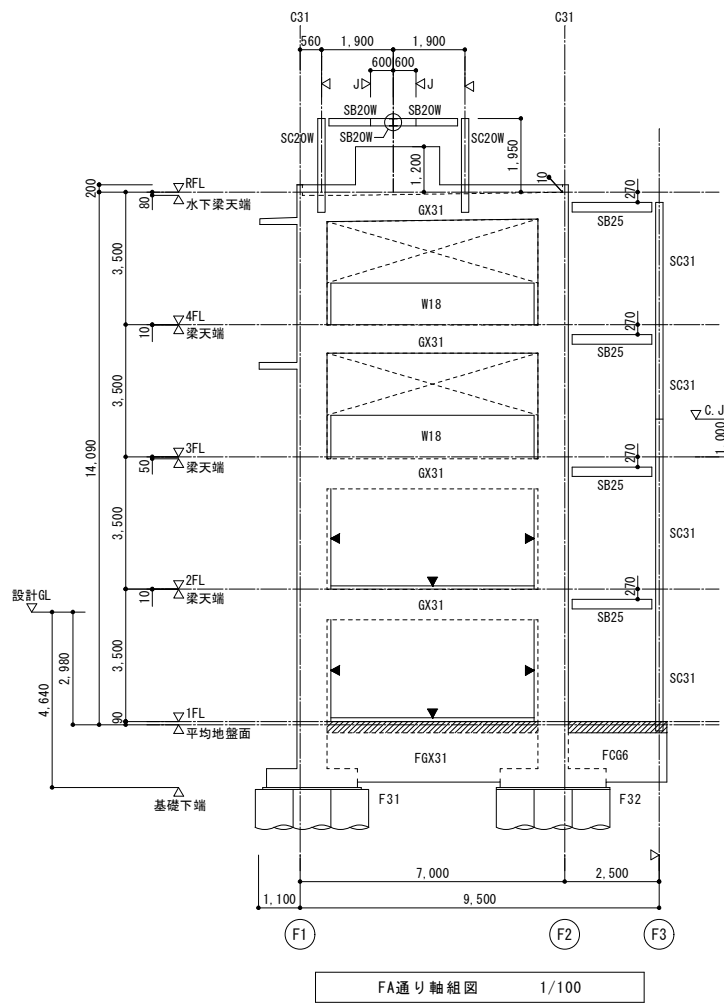
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

【副訓練塔】伏図

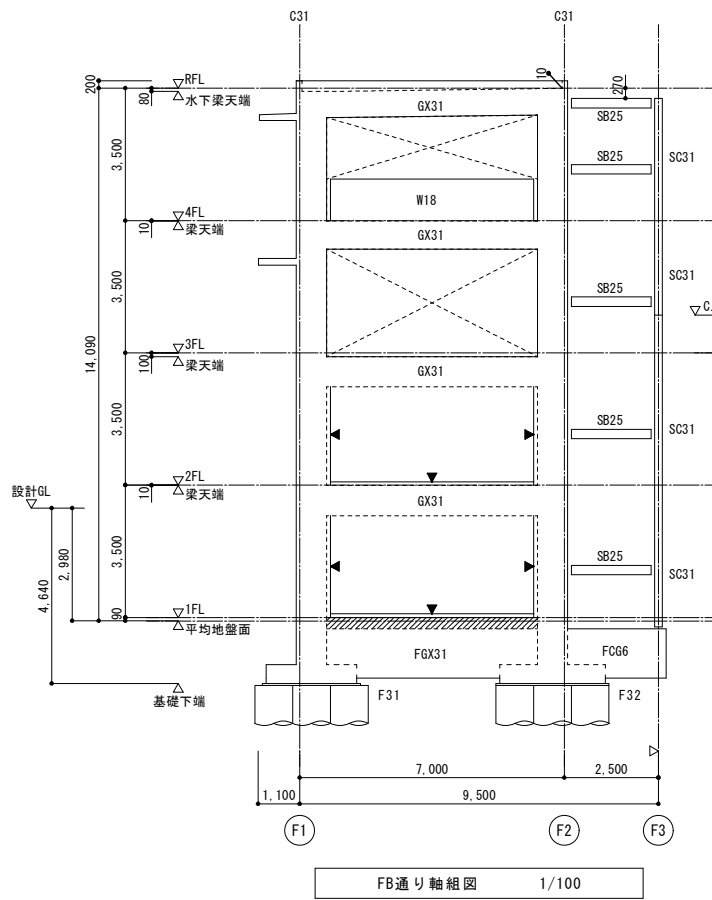
SCALE A1: 1/100
A3: 1/200

301

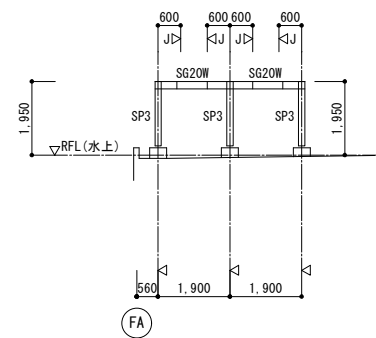
構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



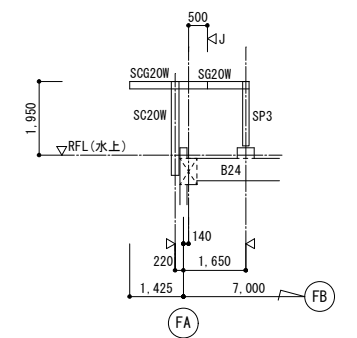
FA通り軸組図 1/100



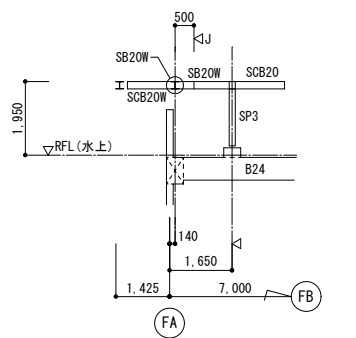
FB通り軸組図 1/100



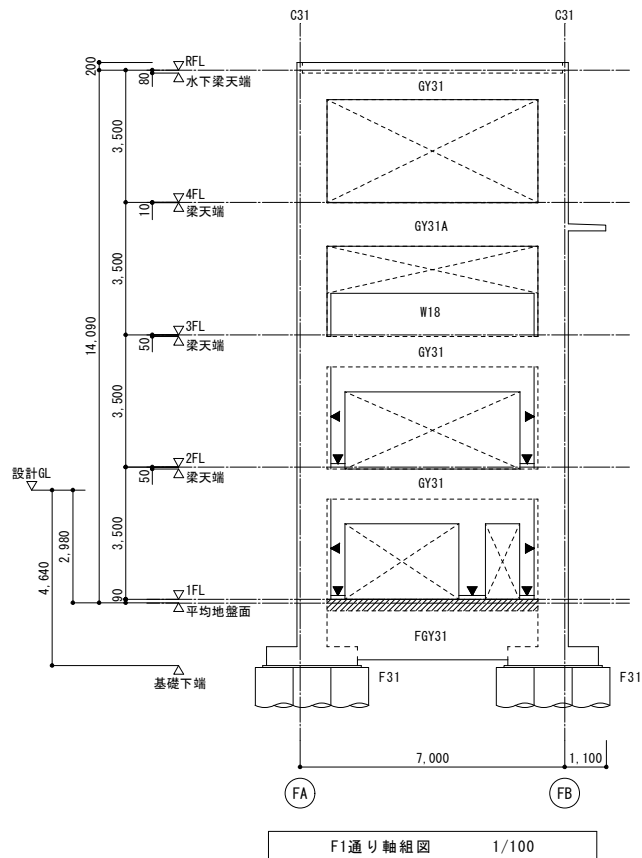
FA+1650通り軸組図 1/100



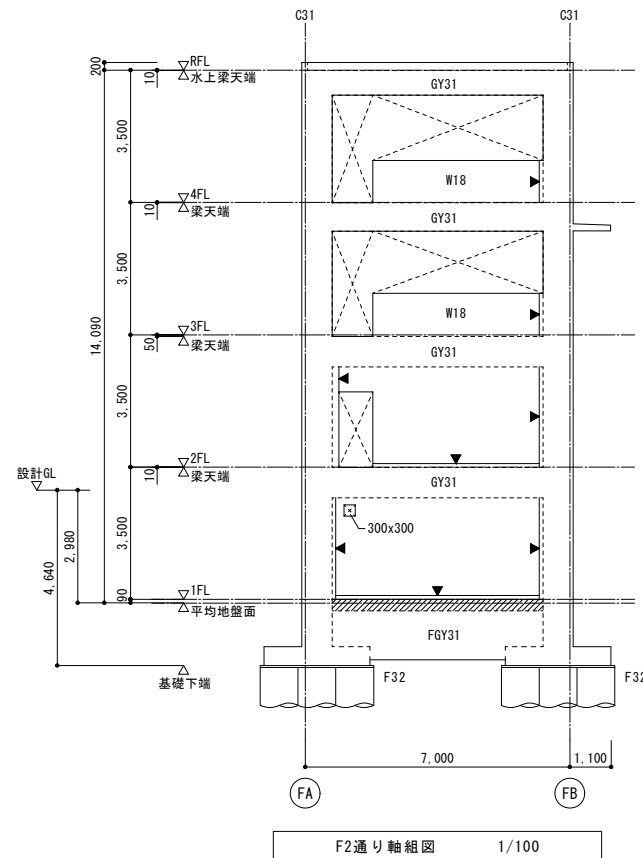
F1+560通り軸組図 1/100



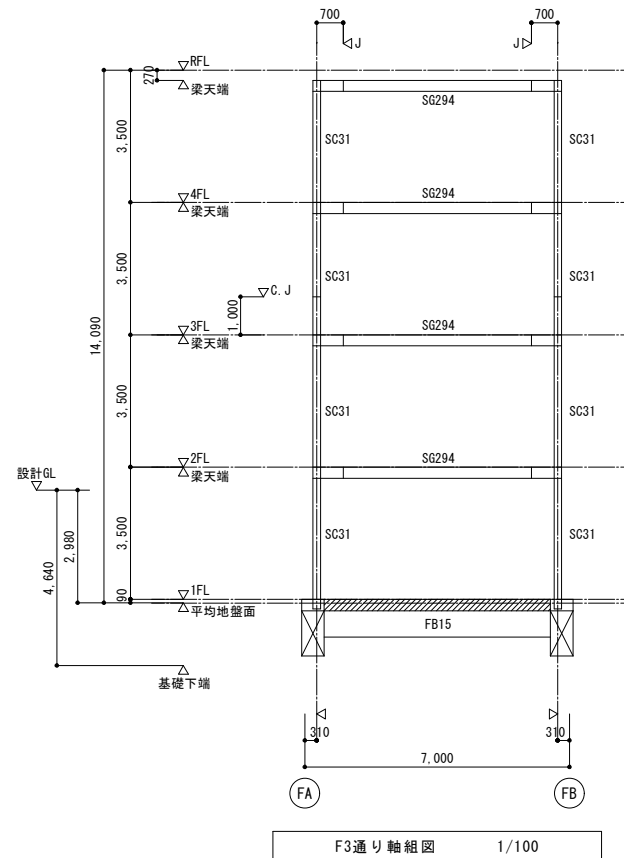
F1+2,460通り軸組図 1/100



F1通り軸組図 1/100



F2通り軸組図 1/100



F3通り軸組図 1/100

- 特記なき限り下記に依る【RC範囲】
- 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。
 - 壁符号はW18を示す。
 - 構造完全スリット位置を示す。
 - スリット位置は伏図も確認すること。
 - 範囲は増打を示す。
- 特記なき限り下記に依る【鉄骨範囲】
- BPL下端は、1FL-250とする。
 - 踊場梁レベルは、意匠図参照。
 - 柱芯位置を示す。

NOTE

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

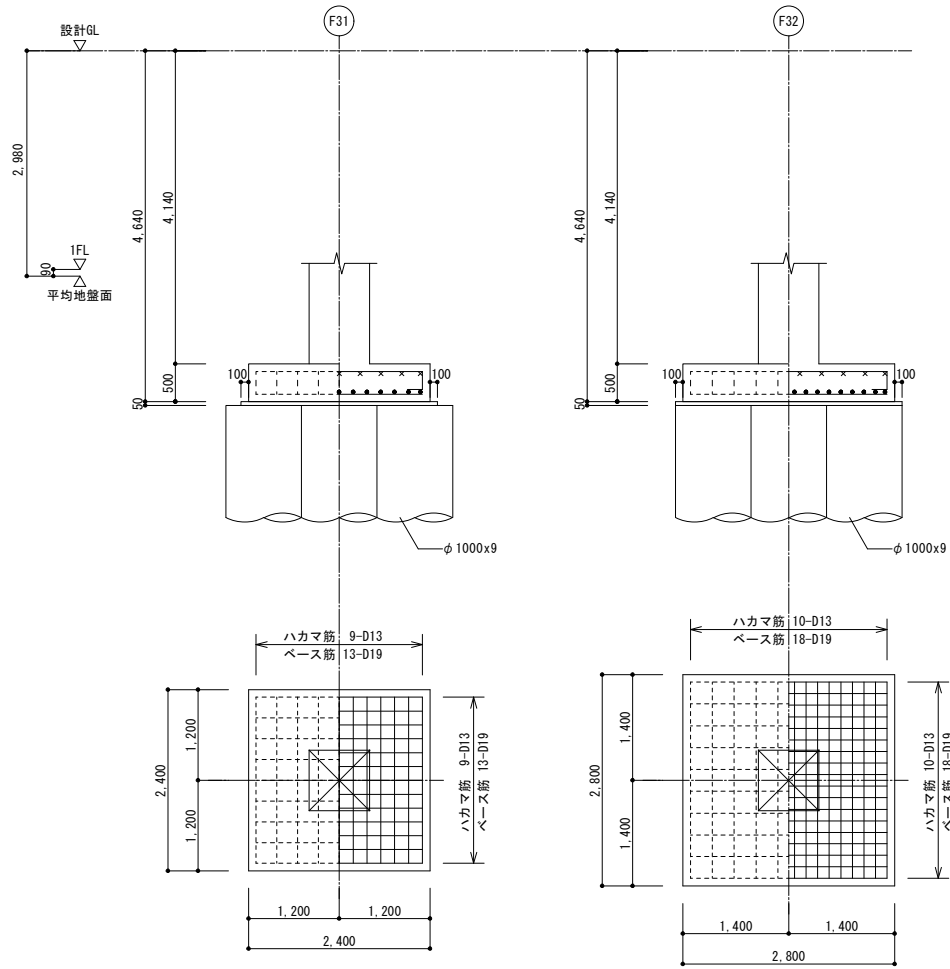
【副訓練塔】軸組図

SCALE A1: 1/100
A3: 1/200

構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号

DWG No. S
302

- 特記なき限り下記に依る
- 鉄筋材質 D16以下: SD295, D19~D22: SD345
 - コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$
 - 長期許容地耐力 $q_a=300kN/m^2$
 - 基礎芯一柱芯とする

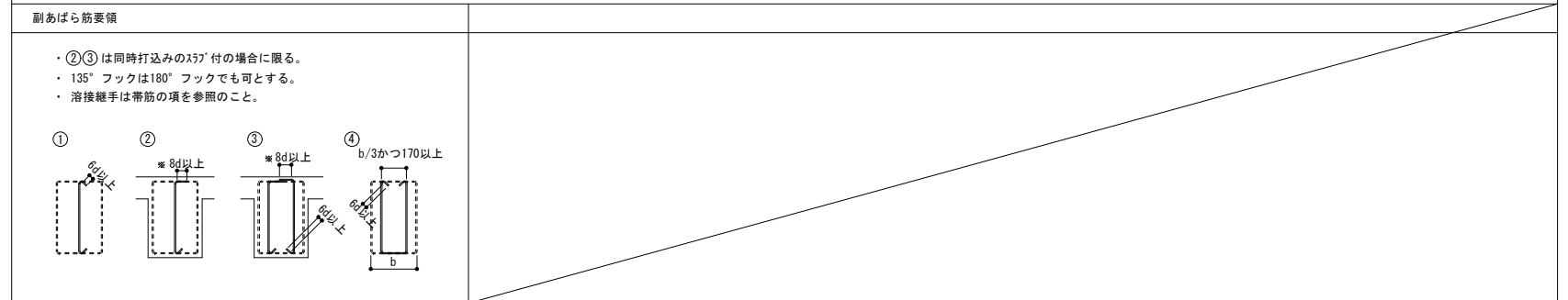
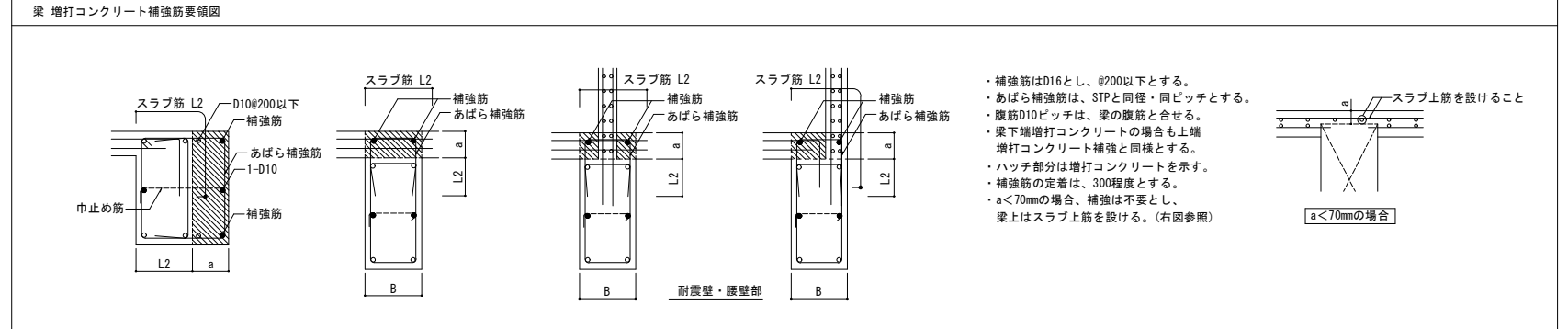
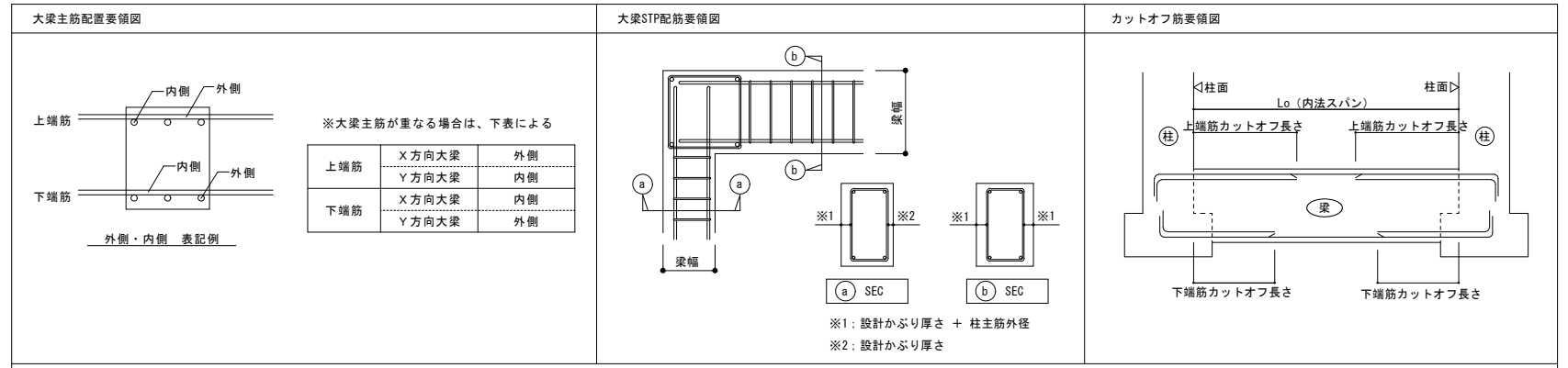


- 特記なき限り下記による
- 鉄筋材質 D16以下: SD295, D19~D22: SD345
 - コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$
 - 幅止筋は、D10@1000以内とする。
 - カットオフ長は $L_o/4+15d$ とする。
 - < >内数値はカットオフ長を示す。上端筋は上段、下端筋は下段に記載する。記載のないものは上記4.による。尚、中央部で端部配筋が重なる場合は通し筋とする。

符号	FGX31			FGY31	
	F1端	中央	F2端	両端	中央
位置					
断面					
BxD	650x1300			700x1300	
上端筋	10-D22	6-D22	12-D22	11-D22	6-D22
下端筋	8-D22	6-D22	6-D22	10-D22	6-D22
STP	(3) □-D13 #200			(3) □-D13 #200	
腹筋	4-D13			4-D13	

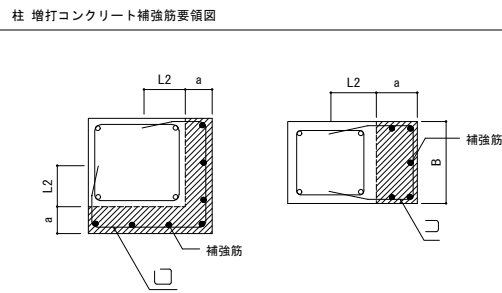
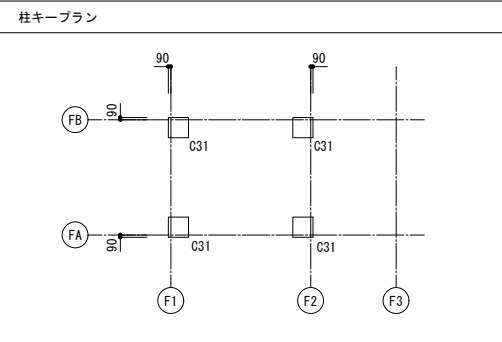
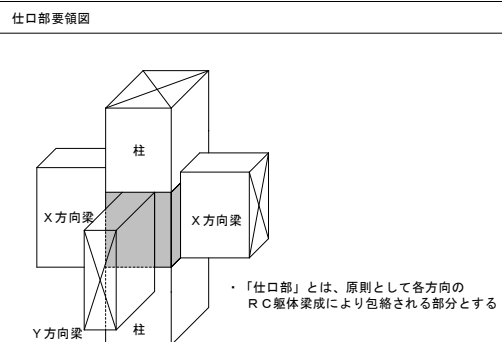
- 特記なき限り下記による
- 鉄筋材質 D16以下: SD295, D19~D22: SD345
 - 幅止筋は、D10@1000以内とする。

符号	FB13	FB14		FB15	FCG6	
	全断面	両端	中央	全断面	元端	先端
位置						
断面						
BxD	350x600	500x800		600x700	650x1300	
上端筋	3-D19	5-D19	5-D19	5-D19	12-D22	6-D22
下端筋	3-D19	5-D19	9-D19	7-D19	6-D22	6-D22
STP	(2) □-D10 #200	(2) □-D13 #200		(2) □-D13 #200	(2) □-D13 #200	
腹筋	2-D13	2-D13		2-D13	4-D13	

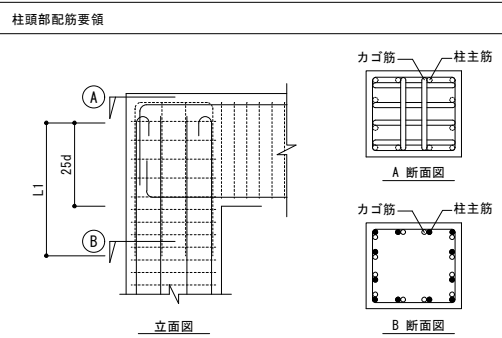


特記なき限り下記による
1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D22: SD345
2. コンクリート設計基準強度 $F_c=24\text{N/mm}^2$

階	符号	C31
4FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 @100
	断面	
	BxD	800x800
	主筋	20-D22
	HOOP	(2-2) □-D13 @100
3FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 @100
	断面	
	BxD	800x800
	主筋	20-D22
	HOOP	(2-2) □-D13 @100
2FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 @100
	断面	
	BxD	800x800
	主筋	20-D22
	HOOP	(2-2) □-D13 @100
1FL	仕口HOOP	(2-2) □-D13 @100
	断面	
	BxD	800x800
	主筋	20-D22
	仕口HOOP	(2-2) □-D13 @100



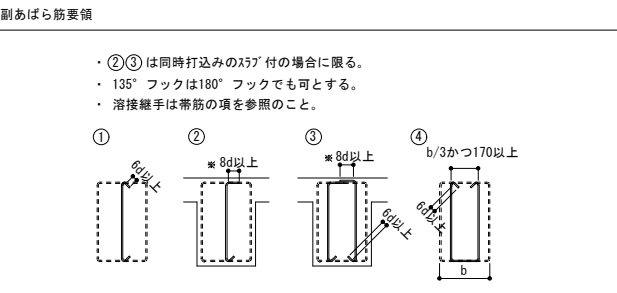
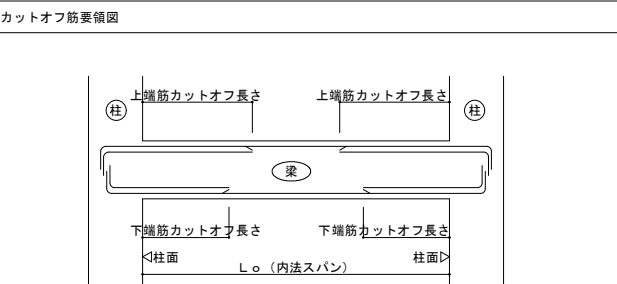
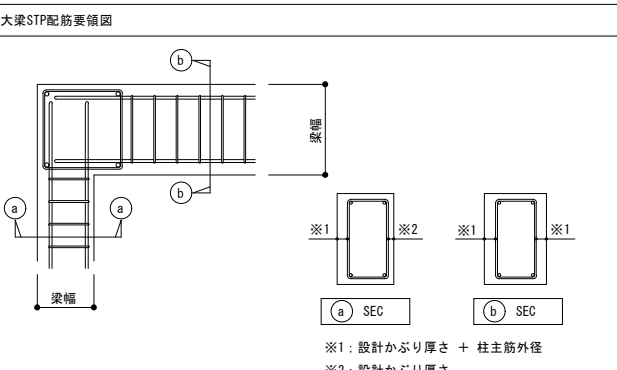
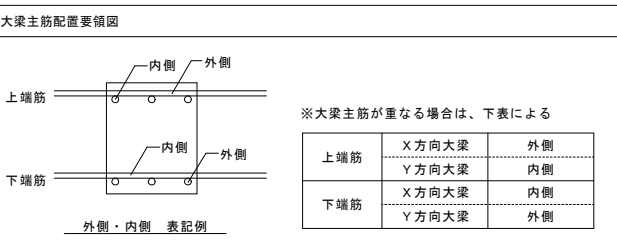
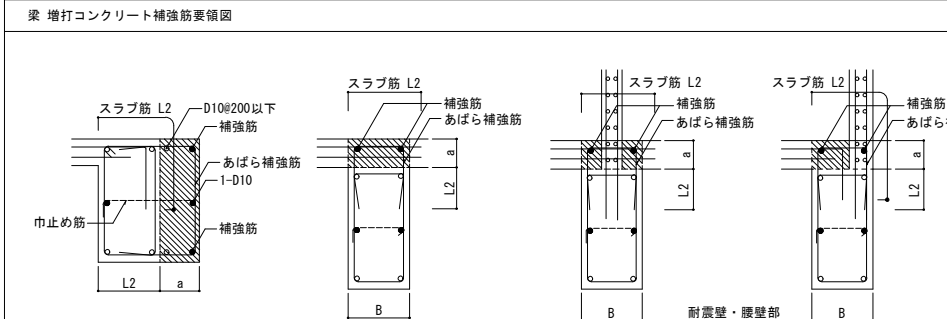
- ・補強筋は、D16とし、@300以下とする。
- ・帯筋補強筋は、D10@200とする。
- ・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ・ $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は不要とする。



- ・柱頭主筋が、構造関係共通事項(2)「6.1柱(a)(2)」に示すL2定着が確保できない場合は、カゴ筋を柱主筋と同径・同本数とする。確保できる場合は、カゴ筋径をD13としてもよい。

特記なき限り下記による
1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19~D22: SD345
2. コンクリート設計基準強度 $F_c=24\text{N/mm}^2$
3. 幅止筋は、D10@1,000以内とする。
4. カットオフ長は、 $L_o/4+15d$ とする。

階	符号	GX31	GY31	GY31A
RFL	位置	両端	中央	両端
	断面			
	BxD	450x700	450x700	
	上端筋	5-D22	4-D22	5-D22
	下端筋	4-D22	4-D22	4-D22
4FL	位置	両端	中央	両端
	断面			
	BxD	450x750	450x750	450x1150
	上端筋	7-D22	4-D22	6-D22
	下端筋	4-D22	4-D22	4-D22
3FL	位置	両端	中央	両端
	断面			
	BxD	500x800	500x800	
	上端筋	9-D22	5-D22	8-D22
	下端筋	7-D22	5-D22	5-D22
2FL	位置	両端	中央	両端
	断面			
	BxD	600x800	600x800	
	上端筋	10-D22	6-D22	11-D22
	下端筋	8-D22	6-D22	7-D22



- ・補強筋はD16とし、@200以下とする。
- ・あばら補強筋は、STPと同径・同ピッチとする。
- ・腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- ・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ・補強筋の定着は、300程度とする。
- ・ $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は不要とし、梁上はスラブ上筋を設ける。(右図参照)

NOTE

小梁リスト 1/30

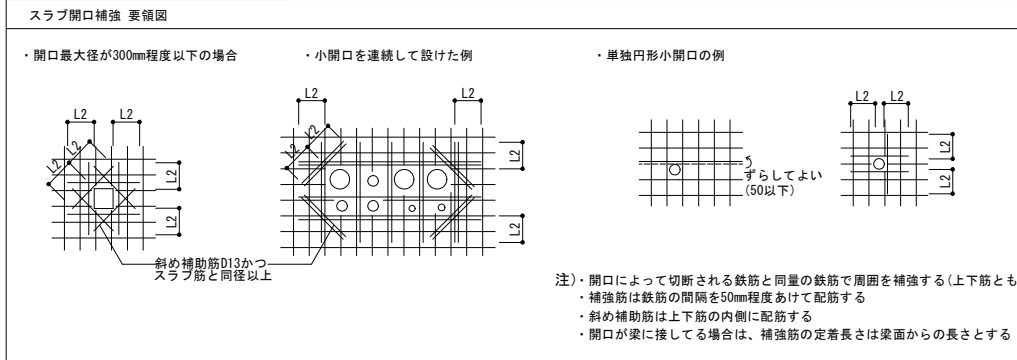
特記なき限り下記による
 1. 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19: SD345
 2. 幅止筋は、D10#1,000以内とする。

符号	B22		B24
位置	両端	中央	全断面
断面			
BxD	400x700		350x600
上端筋	4-D19	4-D19	3-D19
下端筋	4-D19	8-D19	4-D19
STP	(2) □-D13 #200		(2) □-D10 #200
腹筋	2-D10		2-D10

壁リスト 1/30

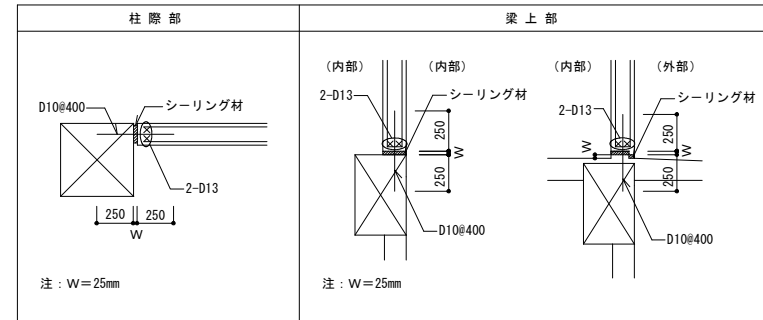
特記なき限り下記による
 1. D:ダブル S:シングル 子:チドリ
 2. 壁筋の配筋順序は規定しないが、柱・梁主筋との干渉を考慮し、適大なかぶり等が生じないように配慮すること

符号	W15	W18
壁厚	150	180
鉛直断面		
縦筋	D10#200(子)	D13#200(D)
横筋	D10#200(子)	D13#200(D)
開口補強筋	縦	2-D13
	横	2-D13
斜め	1-D13	
端部縦補強筋※1	2-D13	
隅角部縦補強筋※2	4-D13	
幅止筋	D10#1000	D10#1000



構造スリット要領図

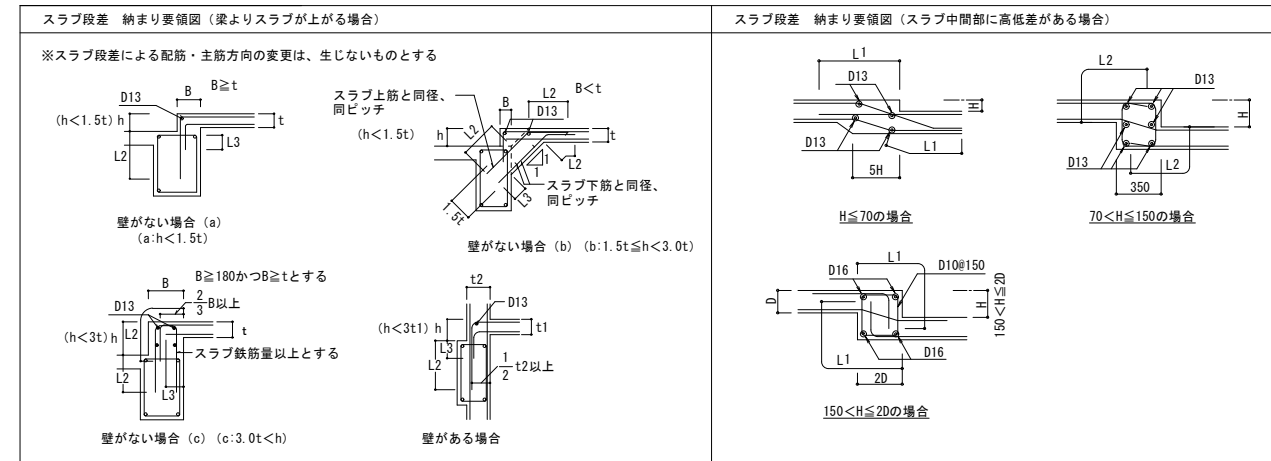
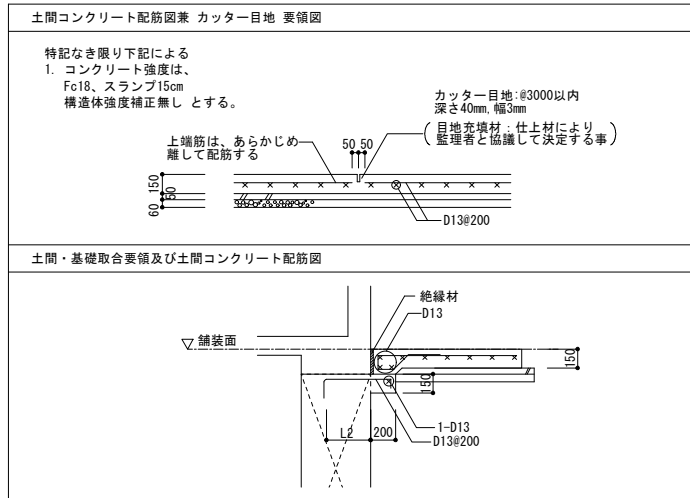
特記なき限り下記による
 ・延焼の恐れのある部分及び、区画が発生する部分の構造スリットは耐火認定品(60分)とする
 ・振れ止め筋は、防錆処理とする



スラブリスト

特記なき限り下記による
 1. 地盤は、捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60とする

符号	厚さ	位置	短辺方向配筋		長辺方向配筋		備考
			元端	先端			
S18	180	上	D13#200	D13#200	D13#200	D13#200	
		下	D10#200	D10#200	D10#200	D10#200	
CS18B	180-150	上	D13#200	D10#200	D10#200	D10#200	
		下	D13#200	D10#200	D10#200	D10#200	
CS18C	180	上	D13#200	D10#200	D10#200	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	D10#200	D10#200	



NOTE

株式会社 あい設計
 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号
 一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

株式会社 前田 隆志
 一級建築士 第287803号
 構造設計一級建築士 第7297号

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【副訓練塔】小梁リスト、壁リスト、スラブリスト

SCALE A1: 1/30
 A3: 1/60

DWG No. S
 305

特記なき限り下記による

1. 鉄骨材質 H形鋼：SN400B
2. 通しダイヤフラム：SN490C 内ダイヤフラム：SN490B
3. 通しダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の2サイズUP以上かつ6mmUP以上とする。
4. 内ダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の1サイズUP以上とする。

鉄骨柱・柱脚リスト 1/30

符号	SC31	SC20W
1~4階	H-200x200x8x12	H-200x200x8x12
柱脚		別図参照
ベースプレート	BPL-16x300x250 (SN400B)	BPL-25x180x250 (SN400B)
アンカーボルト	2-M20 (SNR400B) L=700 ダブルナット締めフック付	2x□-D19 (SD345)

特記なき限り下記による

1. 鉄骨材質 H形鋼：SS400
2. ベースプレート：SN400B、アンカーボルト：SNR400B
3. 鋼材は溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。

間柱リスト 1/30

符号	SP20W	SP3
部材	H-200x200x8x12	O-165. 2x4. 5 (STK400)
接合部	GPL-9 HTB 2-M20	-
柱脚		
ベースプレート	BPL-12x250x250	BPL-12x310x310
アンカーボルト	2-M20 L=700 ダブルナット締めフック付	4-M16 L=560 ダブルナット締めフック付
備考	レンジャーネット用支柱	

特記なき限り下記による

1. 鋼材は溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。
2. PLの材質は、母材材質同等以上とする。
3. GPL形状は、「小梁ガセットプレート要領」による。
4. 普通ボルトはSS400とする。

鉄骨部材リスト

符号	部材	材質	TYPE	接合部			備考	
				HTB	nw	GPL		
SG294	H-294x200x 8x12	SN400B	-	-	-	-		
SG20W	H-200x200x 8x12	SN400B	A	-	-	-		
SB20	H-200x100x5.5x 8	SS400	C	M16	2	GPL- 6		
SB25	H-250x125x 6x 9	SS400	C	M16	3	GPL- 6		
SB20W	H-200x200x 8x12	SS400	C	M16	2	GPL- 9		
SCB20	H-200x100x5.5x 8	SN400B	A	-	-	-		
SCG20W	H-200x200x 8x12	SN400B	A	-	-	-		
SCB20W	H-200x200x 8x12	SN400B	A	-	-	-		
b	[-100x50x5x7.5	SS400	D	M16	2	GPL- 6		
水平ブレース	1-M20	SS400	D	M20	1	GPL- 9	水平ブレース JIS型 ターンバックル筋交い	
根太	[-75x40x5x7 #450	SS400	D	M16	2	GPL- 6		
屋外鉄骨階段 (めっき)	ササラ折	PL-12x300	SN400B	C	M20	3	GPL-12	柱脚：B.PL-19x110x320 (SN400B)、A. Bolt 3-M16 L=320 (SNR400B) フック付き、F8T
	段板	PL-4.5	SS400	-	-	-	-	
	踊場	PL-4.5	SS400	-	-	-	-	
	根太	L-50x50x6 #450	SS400	D	M12	2	GPL- 6	
屋上架台鉄骨階段 (めっき)	ササラ折	PL- 9x250	SN400B	C	M20	2	GPL- 9	柱脚：B.PL-19x110x270 (SN400B)、A. Bolt 2-M16 L=320 (SNR400B) フック付き、F8T
	段板	PL-4.5	SS400	-	-	-	-	
	踊場	PL-4.5	SS400	-	-	-	-	
	根太	L-50x50x6 #450	SS400	D	M12	2	GPL- 6	

特記なき限り下記による

1. 鋼材は溶融亜鉛めっき仕様とし、HTBはF8Tとする。
2. 継手は、SCSS-H97に準拠する。
3. PLの材質は、母材材質同等以上とする。
4. 接合部の板厚の差が、1mmを超える場合はフィラープレートを挿入する。

継手リスト

部材	鋼材種	TYPE	HTB	FLANGE (SPL-tfxW1xL1)			WEB (SPL-tw2xL2)			備考
				nf	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g3	SPL-(3)	
H-200x100x5.5x 8	SN400B	A	M16	6	SPL-12x100x410	-	4	60	2SPL- 6x140x290	
H-294x200x 8x12	SN400B	A	M20	6	SPL- 9x200x410	2SPL- 9x 80x410	3	60	2SPL- 9x200x170	
H-200x200x 8x12	SN400B	A	M20	6	SPL- 9x200x410	2SPL- 9x 80x410	4	60	2SPL- 6x140x350	

JOINT標準

TYPE-A	TYPE-B	TYPE-C	TYPE-D	TYPE-E	ボルトピッチ (各TYPE共通)																											
						<table border="1"> <tr> <th>B</th> <th>g1</th> <th>g2</th> </tr> <tr> <td>125mm</td> <td>75</td> <td></td> </tr> <tr> <td>150mm</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td>175mm</td> <td>105</td> <td></td> </tr> <tr> <td>200mm</td> <td>120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>250mm</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>300mm</td> <td>150</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>350mm</td> <td>140</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>400mm</td> <td>140</td> <td>90</td> </tr> </table>	B	g1	g2	125mm	75		150mm	90		175mm	105		200mm	120		250mm	150		300mm	150	40	350mm	140	70	400mm	140
B	g1	g2																														
125mm	75																															
150mm	90																															
175mm	105																															
200mm	120																															
250mm	150																															
300mm	150	40																														
350mm	140	70																														
400mm	140	90																														
					<table border="1"> <tr> <th>HTB</th> <th>P1</th> <th>P2</th> <th>e</th> </tr> <tr> <td>M16</td> <td>60</td> <td>45</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>M20</td> <td>60</td> <td>45</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>M22</td> <td>60</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </table>	HTB	P1	P2	e	M16	60	45	40	M20	60	45	40	M22	60	45	45											
HTB	P1	P2	e																													
M16	60	45	40																													
M20	60	45	40																													
M22	60	45	45																													

小梁ガセットプレート要領

・h≧350の場合	・350>h≧200の場合	・200<hの場合

NOTE

構造設計者	
一級建築士 第287803号	前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号	

株式会社 あい設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号

一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)

【副訓練塔】鉄骨部材リスト

SCALE A1 : 1/30
A3 : 1/60

DWG No

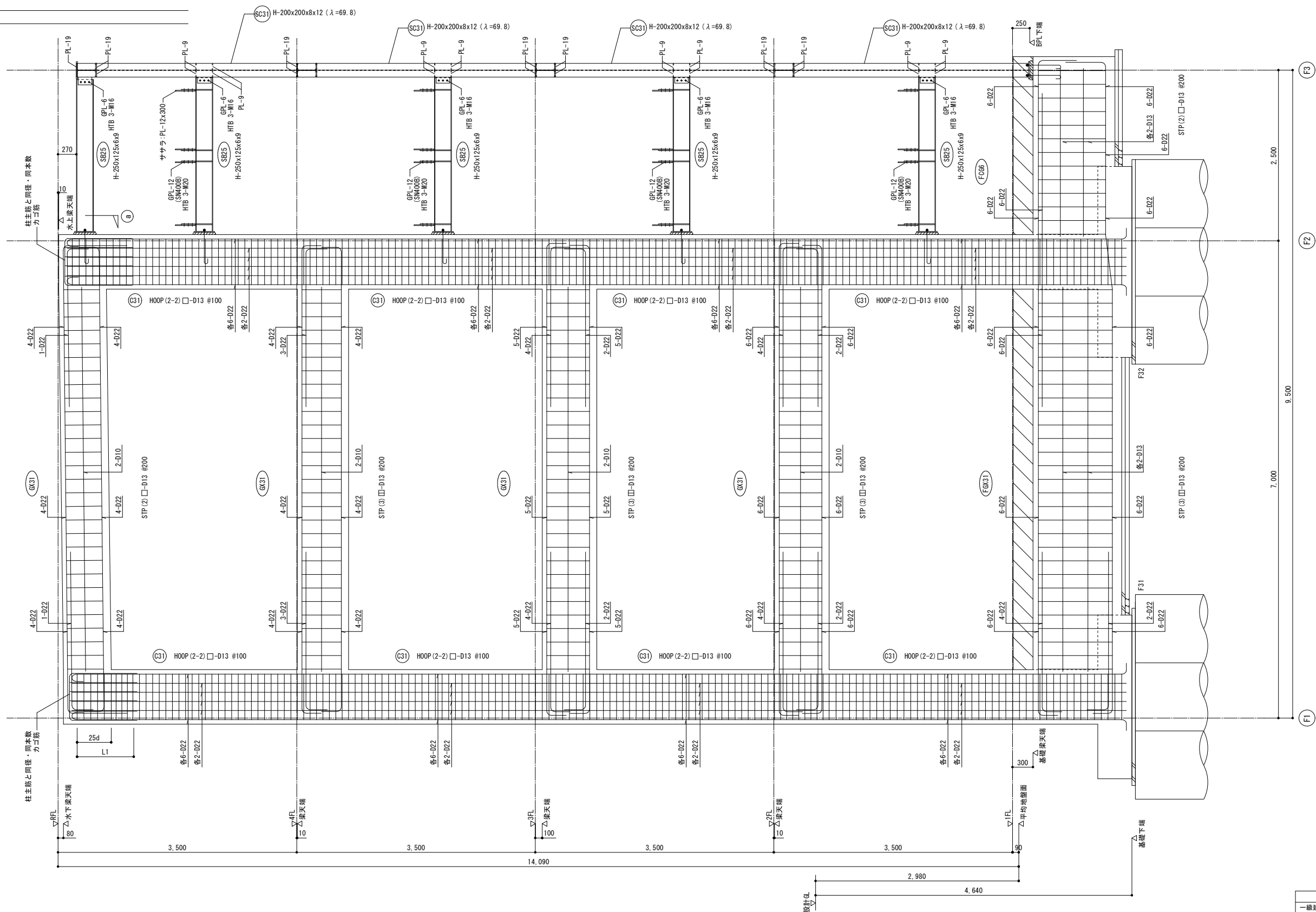
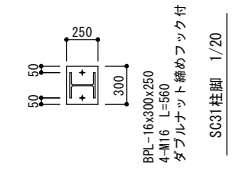
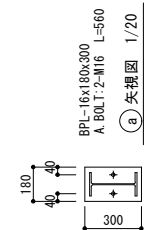
S
306

特記なき限り下記に依る 【鉄骨範囲】

1. 使用材料
柱 : H形鋼 SN400B
ササラ、ベースプレート : SN400B
小梁、その他部材 : SS400
アンカーボルト : SNR400B
高力ボルト : F8T
ダイアフラム : 内ダイア SN490B、通しダイア SN490C(但し、 $t > 40$ の場合はTMC325C)
通しダイアフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の2サイズUP以上かつ6mmUP以上とする。
内ダイアフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の1サイズUP以上とする。
添板は母材同等強度とする。
踊場梁レベルは、意匠図参照。

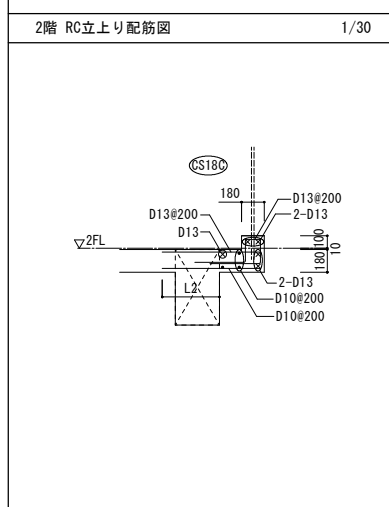
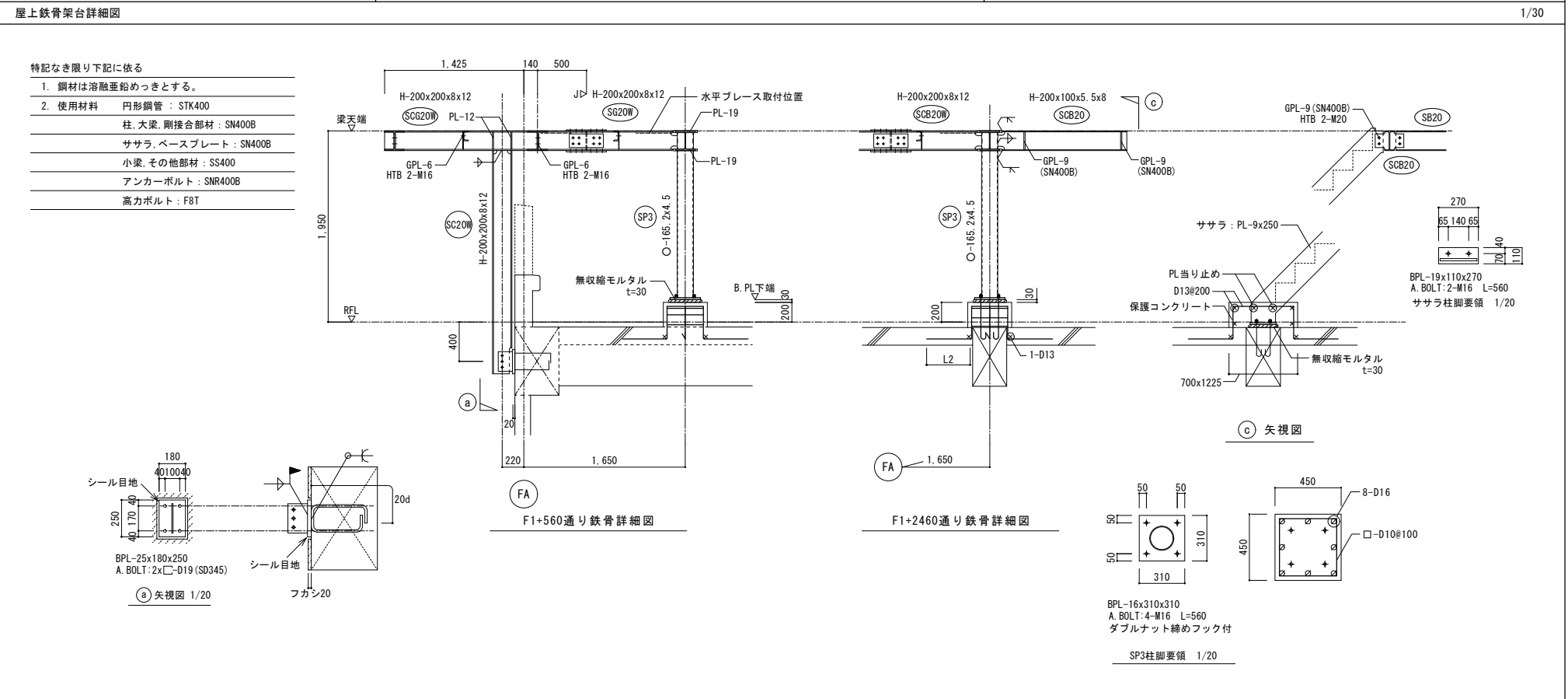
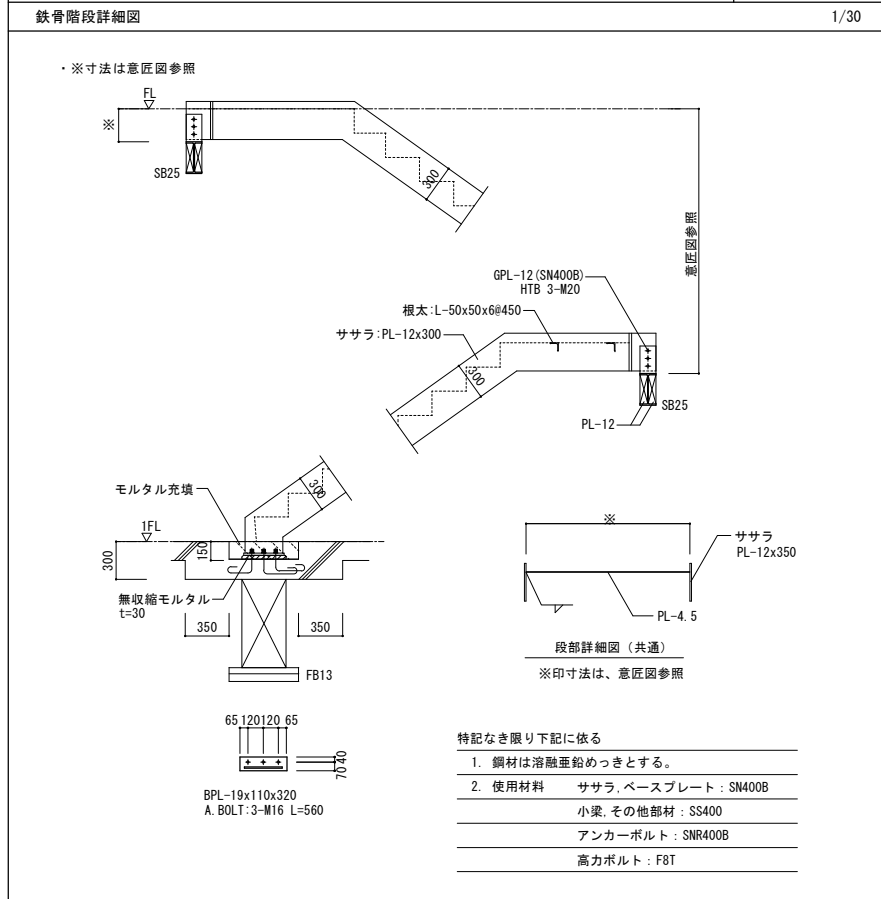
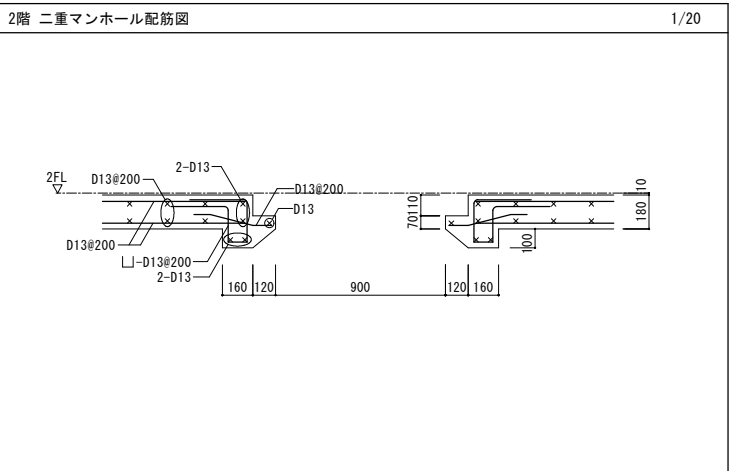
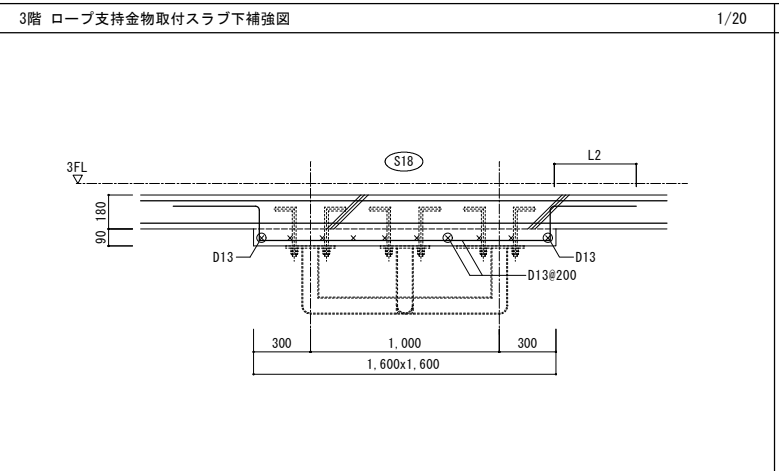
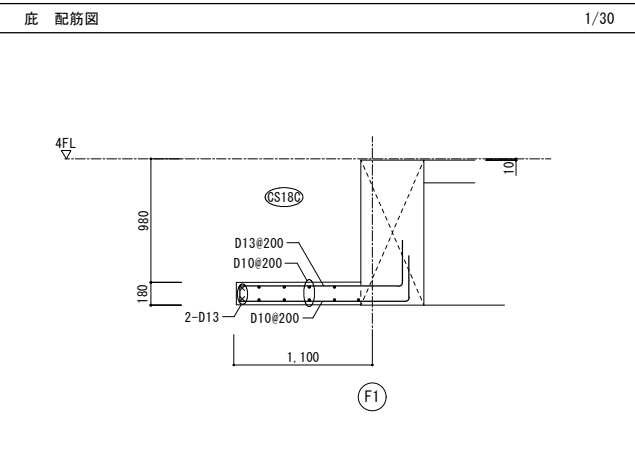
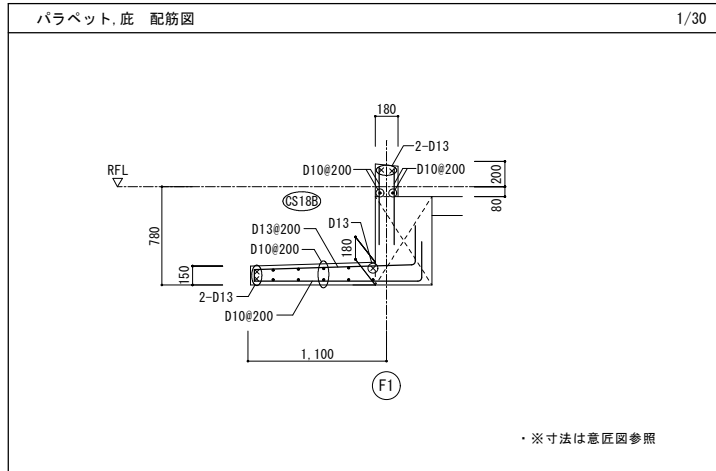
特記なき限り下記に依る 【RC範囲】

1. 仕口部フープは、柱リストによる。
2. 端部カットオフ長さは、大梁リストによる。

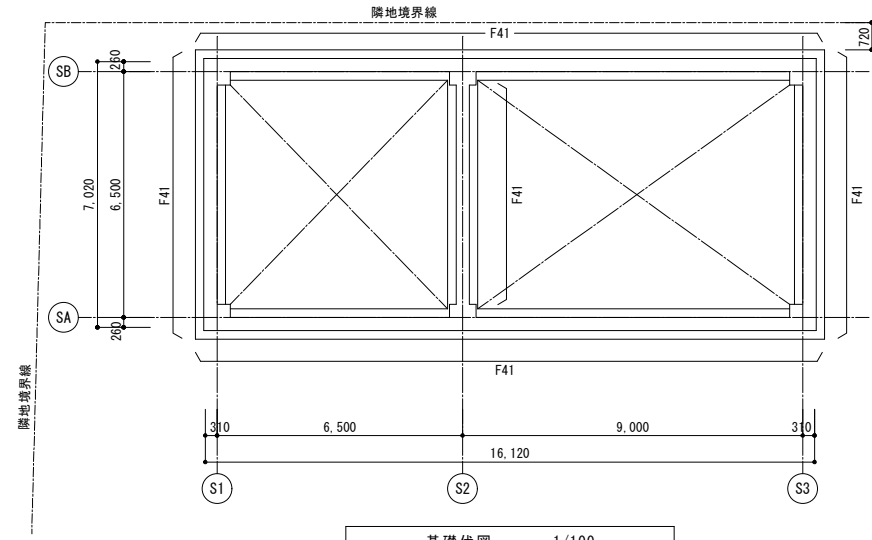
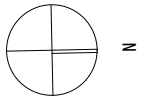


NOTE

	株式会社 あい設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第4544号	備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事(建築)	構造設計者 一級建築士 第287803号 前田 隆志 構造設計一級建築士 第7297号
	一級建築士 第340646号 佐藤 彰洋		
SCALE A1 : 1/30 A3 : 1/60		DWG No. S 307	

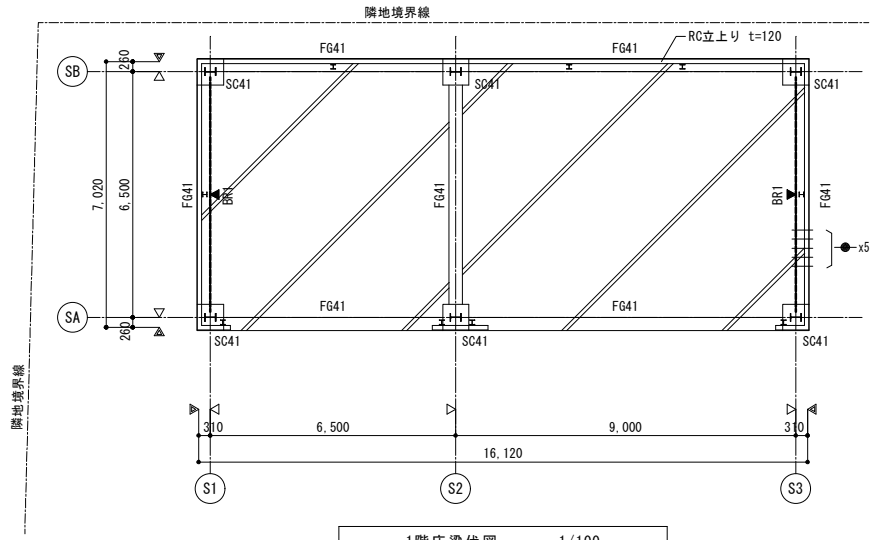


構造設計者
一級建築士 第287803号 前田 隆志
構造設計一級建築士 第7297号



基礎伏図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
1. 設計GL=KBW-100
 2. 基礎下端レベルは設計GL-1150とする。
 3. 範囲は埋戻を示す。
 4. 布基礎下は、原地盤転圧とする。
 5. 必要長期許容地耐力 $q_a=50kN/m^2$



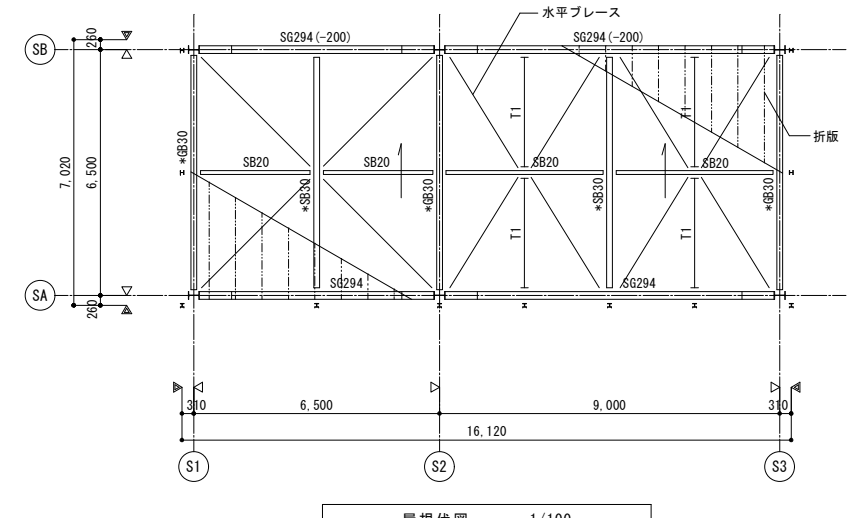
1階床梁伏図 1/100

(見下げ図)

- 特記なき限り下記に依る
1. 1FL=設計GL-100
 2. 基礎梁天端レベルは1FL-300とする。
 3. BPL下端は、1FL-250とする。
 4. 間柱符号: SP12W
 5. 鉛直ブレースBR1を示す。
 6. 柱芯位置を示す。
 7. 鋼線芯位置を示す。
 8. 印は、土間コンクリート範囲を示す。
 9. 土間天端レベルは1FL±0とする。
 10. スリーブの材質は、硬質塩化ビニル管(VU)とする。
 11. その他のスリーブの材質は、各工事図面による。
 12. 補強形式は、構造関係共通事項(4) 11.1 梁貫通孔表11.1参照。
 13. 既製品を使用する場合は、監理者に計算書を提出し承諾を得た場合に限り使用できるものとする。

梁貫通補強リスト【公用車庫】

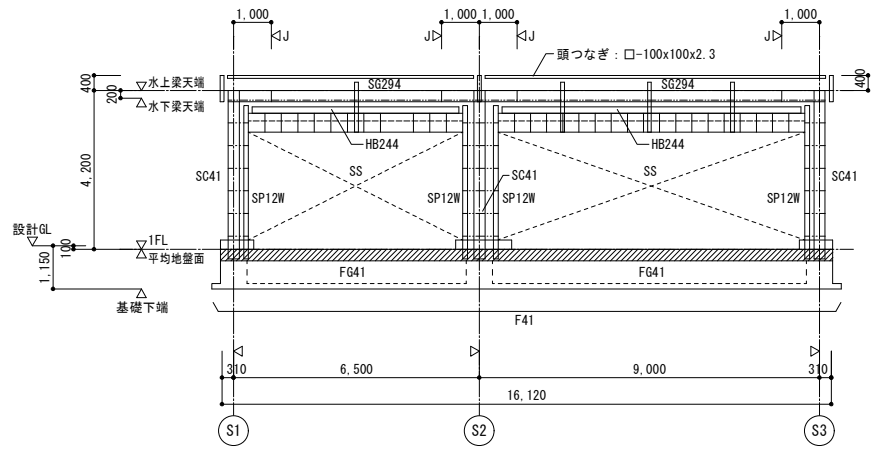
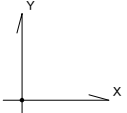
梁符号	記号	貫通孔径	個数	配筋種別
FG41		80φ	5	-



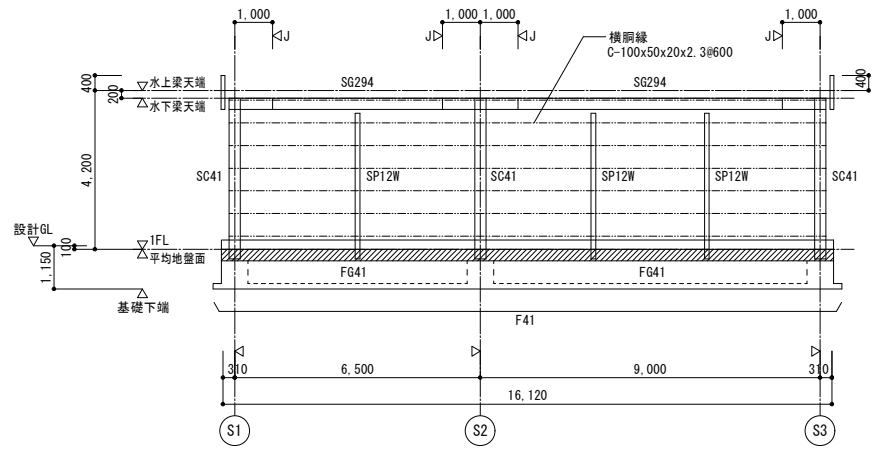
屋根伏図 1/100

(見下げ図)

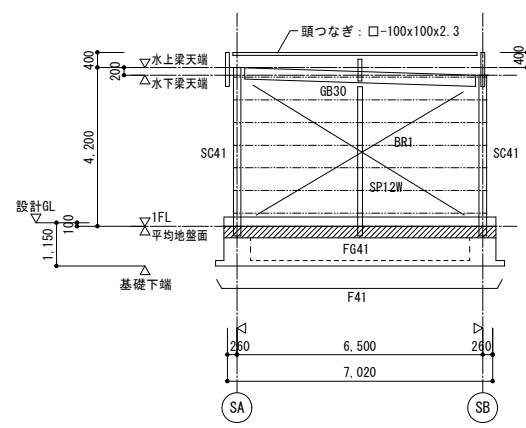
- 特記なき限り下記に依る
1. 水上梁天端レベルは1FL+4200とする。
 2. ()内数値は水上梁天端からの梁天端レベルを示す。
 3. *印付符号は勾配梁を示す。
 4. 継手位置は、柱芯より1000とする。
 5. 小梁位置に寸法記載がない場合は等分割とする。
 6. SB20天端は、取付く勾配梁天端+50とする。
 7. 水平ブレースは、HV2とする。
 8. 座屈止めT1を示す。
 9. 柱芯位置を示す。
 10. 鋼線芯位置を示す。
 11. 水勾配を示す。
 12. パラベット受材: SP10W



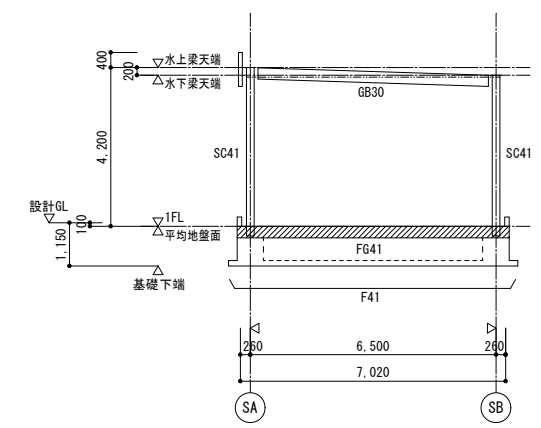
SA通り軸組図 1/100



SB通り軸組図 1/100



S1, S3通り軸組図 1/100

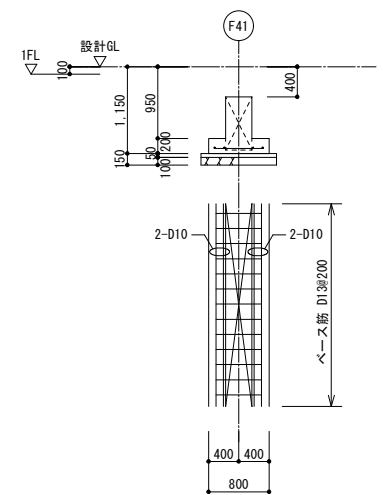


S2通り軸組図 1/100

- 特記なき限り下記に依る
1. 基礎梁天端レベルは、1FL-300とする。
 2. BPL下端は、1FL-250とする。
 3. パラベット受: SP10W
 4. 柱芯位置を示す。
 5. 範囲は増打を示す。

基礎リスト 1/50

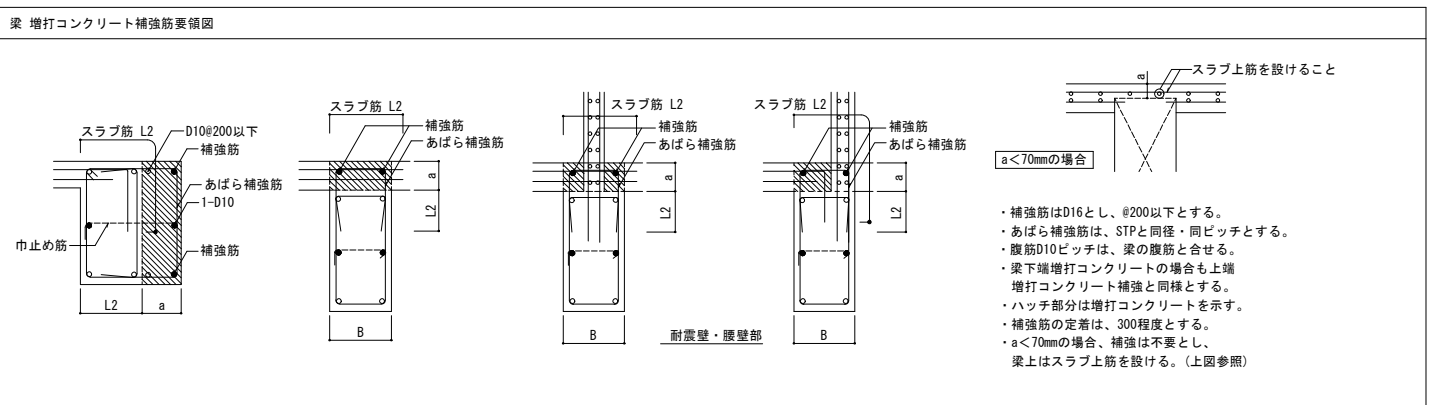
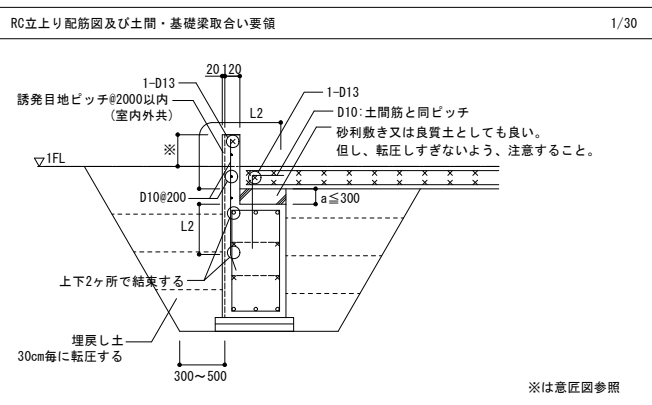
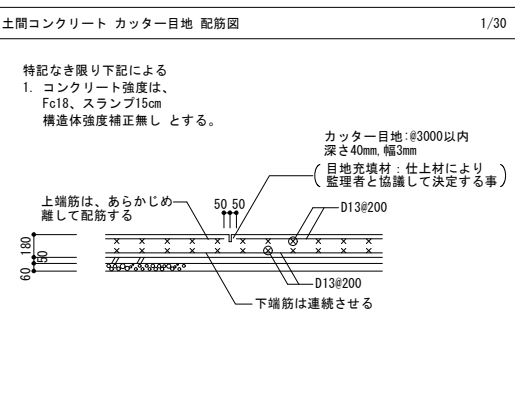
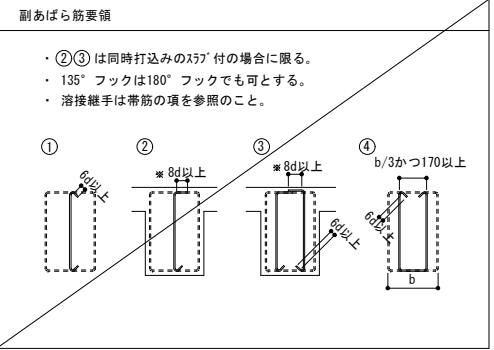
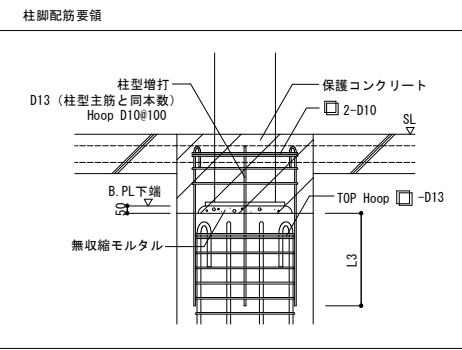
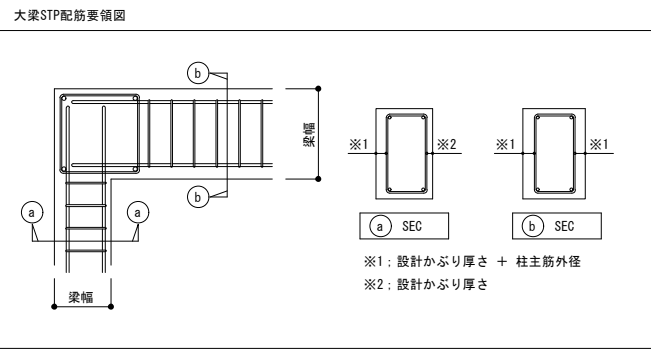
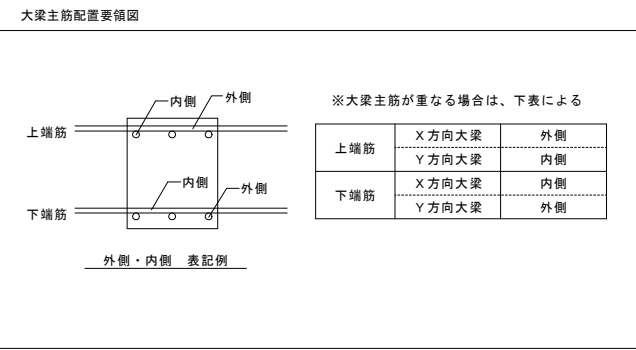
- 特記なき限り下記に依る
- 鉄筋材質 D16以下: SD295
 - コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$
 - 必要長期許容地耐力 $q_a=50kN/m^2$



基礎梁リスト 1/50

- 特記なき限り下記に依る
- 鉄筋材質 D16以下: SD295 D19: SD345
 - コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$
 - 幅止筋は、D10@1000以内とする。

符号	F41
位置	全断面
断面	
BxD	350x700
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
STP	(2) □-D13 @200
腹筋	2-D13



鉄骨柱・柱脚リスト 1/30

- 特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質 H形鋼: SN400B
 2. 通しダイヤフラム: SN490C 内ダイヤフラム: SN490B
 3. 通しダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の2サイズUP以上かつ6mmUP以上とする。
 4. 内ダイヤフラムのPL厚は、取付く梁フランジPL厚の1サイズUP以上とする。

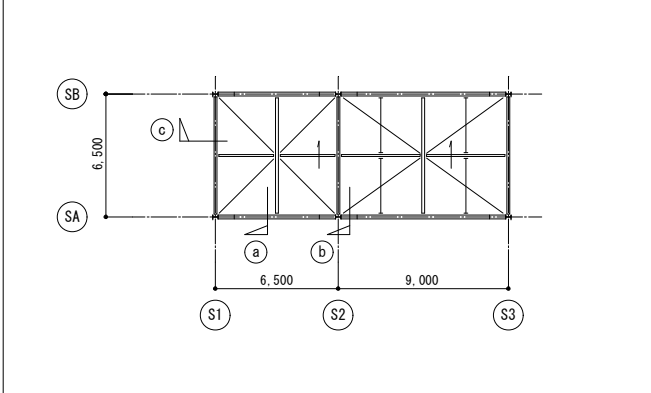
符号	SC41
1階	H-294x200x8x12
柱脚	
ベースプレート	BPL-25x350x250 (SN490C)
アンカーボルト	4-M20 (ABR400) L=400
リブプレート	PL-12 h=200
定着板	12x60x60
柱型	
B x D	700x700
主筋	12-D22 (SD345)
HOOP	□-D13#100 (SD295)

間柱リスト 1/30

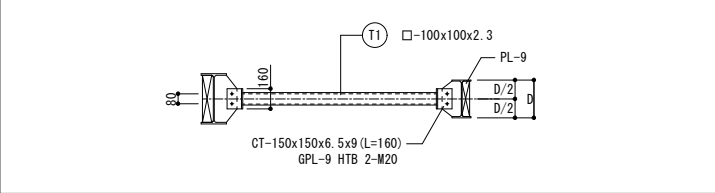
- 特記なき限り下記による
 1. 鉄骨材質 H形鋼: SS400
 2. ベースプレート: SN400B, アンカーボルト: SNR400B
 3. HTBはS10T又はF10Tとする。

符号	SP12W	SP10W
部材	H-125x125x6.5x9	H-100x100x6x8
接合部	GPL-9 HTB 2-M16	GPL-6 HTB 2-M16
柱脚		I
ベースプレート	BPL-12x250x150	-
アンカーボルト	2-M16 L=560 ダブルナット締めフック付	-
備考		

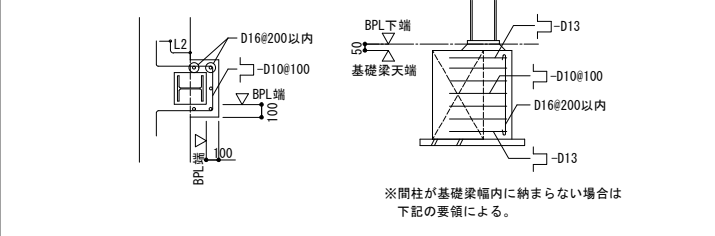
バラベツ受部材取付要領図



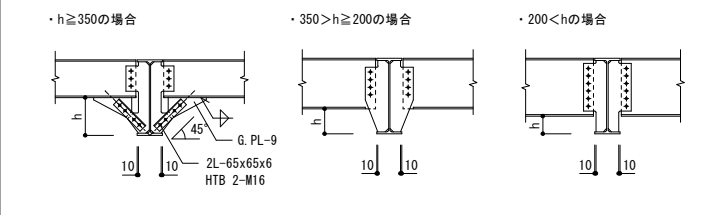
座屈止め取付要領



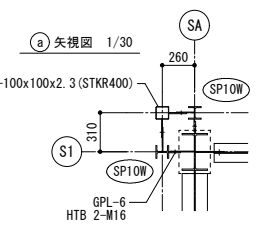
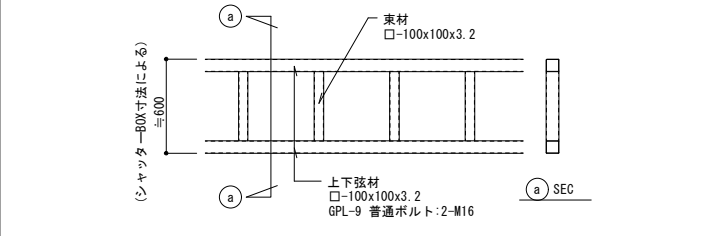
間柱下増打要領



小梁ガセットプレート要領



シャッター受材要領



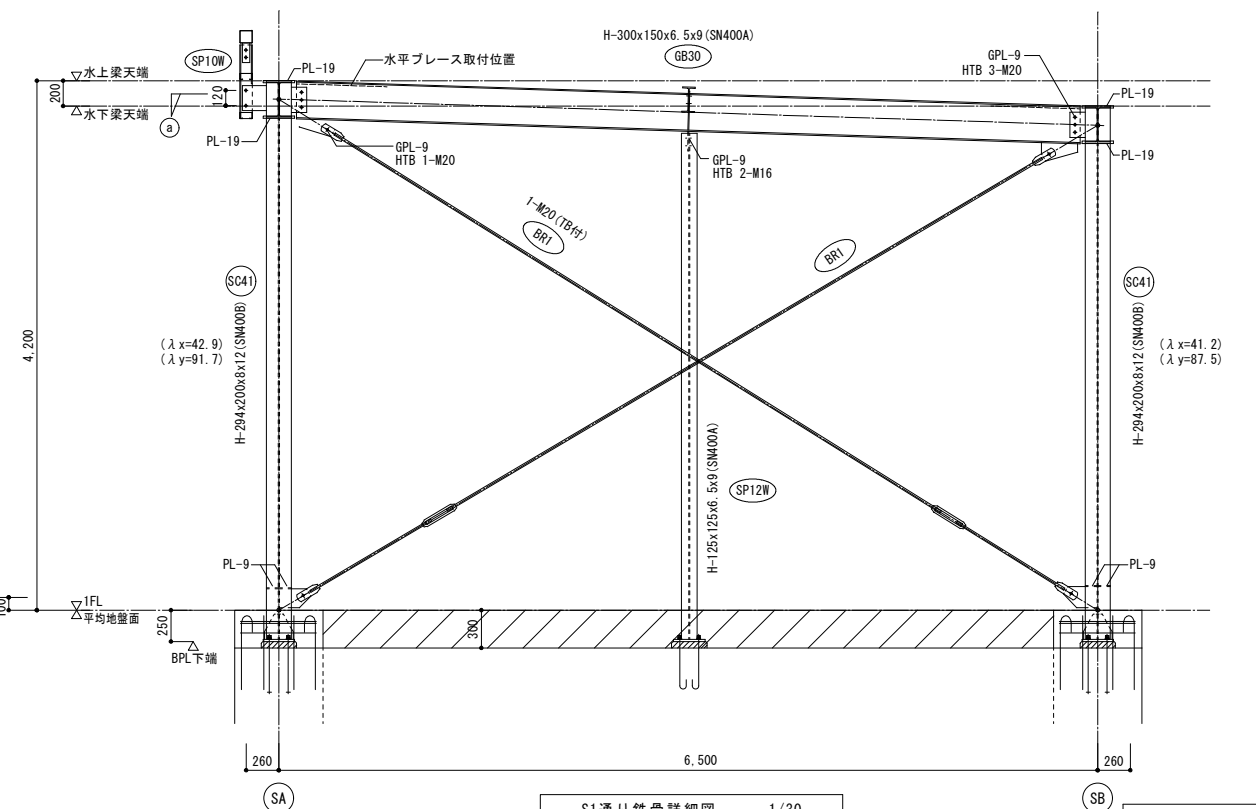
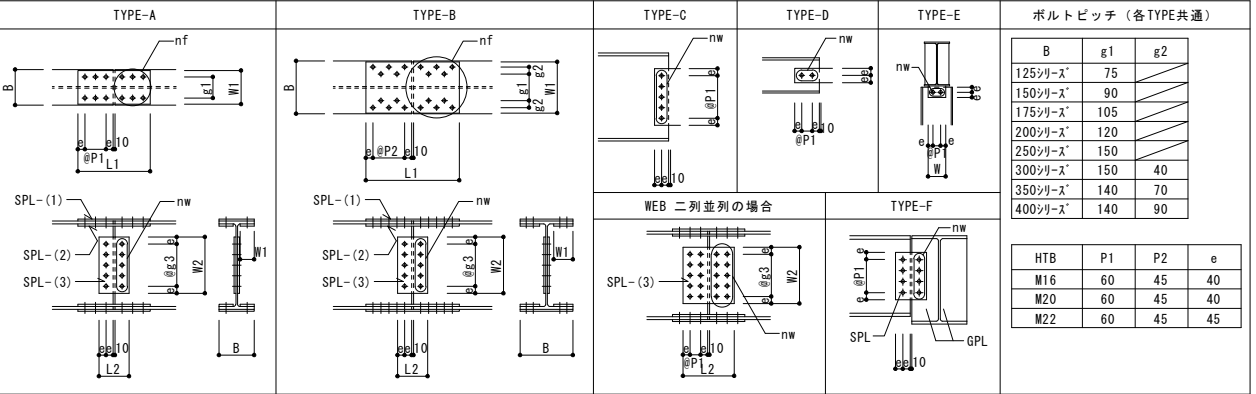
鉄骨部材リスト

符号	部材	材質	TYPE	接合部			備考
				HTB	nw	GPL	
SG294	H-294x200x 8x12	SN400B	A	-	-	-	
GB30	H-300x150x6.5x9	SN400A	C	M20	3	GPL-9	
SB20	H-200x100x5.5x8	SS400	C	M16	2	GPL-6	P1=70
SB30	H-300x150x6.5x9	SS400	C	M20	3	GPL-9	
HB244	H-244x175x 7x 11	SS400	C	M20	3	GPL-9	横使い
BR1	1-M20	SS400	D	M20	1	GPL-9	鉛直ブレース JIS型 ターンバックル筋交い
HV2	1-M16	SS400	D	M16	1	GPL-9	水平ブレース JIS型 ターンバックル筋交い
T1	□-100x100x2.3	STKR400	C	M20	2	GPL-9	座屈止め 端部:CT-150x150x6.5x9 (SS400)
横筋線	C-100x50x20x2.3#600	SSC400	D	M12	2	GPL-6	普通ボルト

継手リスト

部材	鋼材種	TYPE	HTB	FLANGE (SPL-tfxW1xL1)			WEB (SPL-twxW2xL2)			備考
				nf	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g3	SPL-(3)	
H-294x200x 8x12	SN400B	B	M20	6	SPL- 9x200x410	2SPL- 9x 80x410	3	60	2SPL- 9x200x170	

JOINT標準



S1通り鉄骨詳細図 1/30

構造設計者
 一級建築士 第287803号 前田 隆志
 構造設計一級建築士 第7297号